

仙台市文化財調査報告書第 342 集

# 仙 台 城 跡

—— 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ ——

2009年3月

仙台市教育委員会



仙台市文化財調査報告書第 342 集

# 仙 台 城 跡

—— 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ ——

2009年3月

仙台市教育委員会





調査区全景（東から）



文久2年(1862)仙台城下絵図(⇒は調査区付近)

財団法人斎藤報恩会所蔵



I区 III層上面 全景写真（北東から）



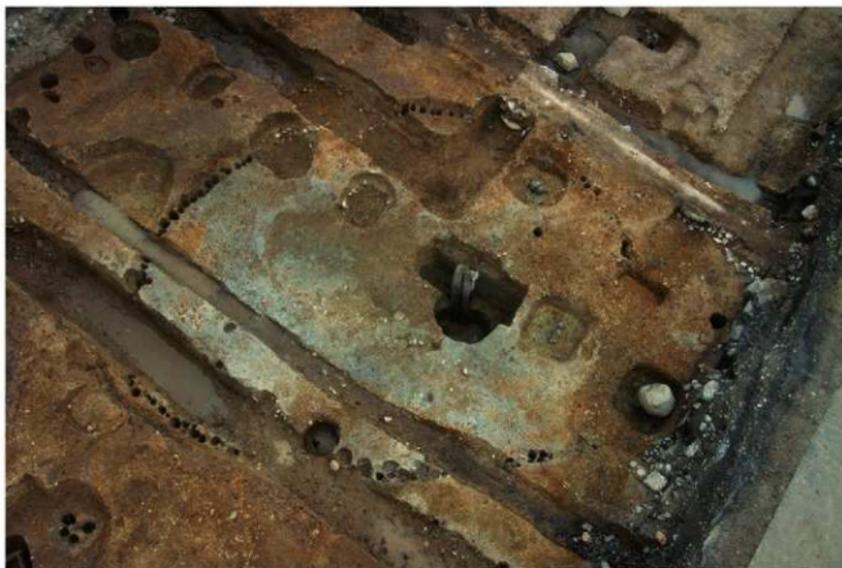
II区 IV層上面 全景写真（東から）



Ⅲ区 Ⅳ層上面 全景写真  
(南から)



Ⅲ区全景  
(南西から)



1号池 (南西から)



4号池 (北から)



I 区出土遺物



II 区出土遺物



Ⅲ区出土遺物



SN1 祭祀遺構出土土師質土器



## 序 文

仙台市の文化財保護行政につきまして、日ごろから多大なご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

さて、本市では、地下鉄東西線事業を進め、地下鉄南北線やＪＲ、バスと連携して公共交通ネットワークを形成することにより、さらに暮らしやすく環境にやさしい新しい都市づくりを目指しております。

この計画路線内には、仙台北城跡や関連する遺跡があり、また、未発見の遺跡も予測されることから、仙台市教育委員会では、施工主体者である仙台市交通局との協議を重ね、平成16年度より確認・試掘調査を行ってまいりました。このうち仙台北城跡（亀岡トンネル開削部）は仙台北城二の丸跡の北方に位置し、近世絵図によると伊達家家臣の屋敷地に相当します。平成16年度から翌年度にかけて実施した確認調査および試掘調査から、多くの近世遺構が発見されることが予想され、平成18年度には約1年にわたる本格的な発掘調査を行いました。調査の結果、仙台北城をとりまく武家屋敷の様相を示す貴重な資料が多数得られております。本報告書は、この平成18年度の本発掘調査の成果をまとめたものです。

先人の残した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ次の世代に継承していくことは、現代に生きる私たちの大きな責務であると考えております。また文化財の保護につきましては、地域の皆様の深いご理解とご協力が必要となります。その意味でも、今回の調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、多くの方々に活用されれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行に際しまして、ご協力くださいました皆様に深く感謝申し上げます次第です。

平成21年3月

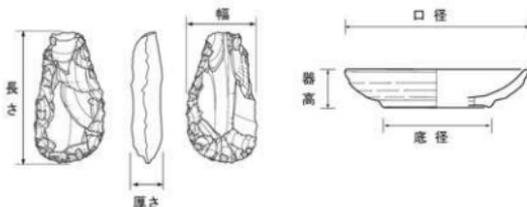
仙台市教育委員会  
教育長 荒井 崇

## 例言

1. 本書は高速鉄道東西線建設事業の建設に伴い実施された、仙台城跡（亀岡トンネル開削部）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、国際航業株式会社（現 国際文化財株式会社）が仙台市教育委員会の委託を受け、仙台市教育委員会の指導のもとに行った。
3. 本書の作成・編集・執筆は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 原河英二・志賀雄一・大久保弥生の指導のもとに、国際文化財株式会社 土橋尚起・関美男・福井流星が担当した。
4. 本調査の実施及び報告書の作成に際し、次の諸氏・機関よりご指導、ご教示、さまざまなご協力を賜った。記して謝意を表す次第である。（敬称略、順不同）  
藤沢敦・高木暢亮・柴田恵子（東北大学埋蔵文化財調査研究センター） 大山幹成（東北大学植物園）  
松本秀明（東北学院大学） 鈴木啓（福島県考古学会） 入間田宣夫（東北芸術工科大学）  
齊藤鋭雄（宮城県農業短期大学名誉教授） 北垣聰一郎（石川県金沢城調査研究所） 深澤百合子（東北大学）  
関根達人（弘前大学） 齋藤弘明（仙台市科学館） 東北大学 仙台市戦災復興記念館 仙台市交通局  
仙台市建設局 仙台市博物館
5. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。
6. 報告書掲載陶磁器の年代等の確認は佐藤洋（仙台市教育委員会主査）が行ない、木製品の図化に関しては荒井格（仙台市教育委員会主査）・大久保弥生（仙台市教育委員会主事）が指導した。

## 凡例

1. 本書の土色は、新版標準土色帖（農林水産省農林水産技術会議事務局 1998 年版）に準拠している。
2. 本書中の第 1 図は国土地理院発行の 5 万分の 1 地形図「仙台」と 1 万分の 1 地形図「青葉山」「仙台駅」を合成した。
3. 図中の座標値は日本測地系座標を使用した。
4. 本文図版等で使用した方位は真北を基準としている。
5. 標高値は、海拔高度（T.P）を示している。
6. 遺構図は 1/40 縮尺を基本とした。その他については各図のスケールを参照されたい。
7. 基本層の表記は、表土層からローマ数字を用い、遺構堆積土についてはアラビア数字で表記した。
8. 遺構図において、（トーン）は礎、（トーン）は木質部を示している。
9. 遺構・遺物の登録・整理及び報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。  
SA：柱列跡、SD：溝跡、SE：井戸跡、SK：土坑、SN：祭祀遺構、P：ピット、SX：性格不明遺構  
A：縄文土器、F：丸瓦・軒丸瓦、G：平瓦・軒平瓦、H：その他の瓦、I：陶器・瓦質土器・土質土器  
J：磁器、K：石器・石製品、N：金属製品、O：自然遺物、P：土製品、X：その他の遺物  
なお、池、石垣、道路状遺構、土手状遺構、橋状遺構等には略号は用いていない。
10. 遺物実測図は原則として縮尺 1/3 としたが、瓦は 1/4、古銭は原寸で表示した。また、木製品は適宜縮尺を調整している。
11. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線、推定線は破線で、軸葉部の境は一点鎖線で表した。中心線が一点鎖線の場合は、展開し図上復元したものである。
12. 遺物観察表で陶磁器類の成形技法は、大部分がロクロ形成であるために、他の技法を記載した。法量の記載で（）付きの数字は残存値を示している。



# 本文目次

第1章 調査概要	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査要項	1
第3節 調査概要	3
第2章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査方法	9
第4章 調査区基本層序	11
第5章 検出遺構と遺物	20
第1節 I区	20
1 VI層上面	20
(1) 土坑	20
1) SK55 土坑	20
2) SK61 土坑	24
(2) その他の遺構	25
1) SX23 性格不明遺構	25
2 V層上面	26
(1) 柱列跡	26
1) SA3 柱列跡	26
2) SA4 柱列跡	28
3) SA6 柱列跡	29
(2) 溝跡	31
1) SD45 溝跡	31
2) SD51 溝跡	31
(3) 井戸跡	33
1) SE6 井戸跡	33
(4) 土坑	36
1) SK34 土坑	36
(5) その他の遺構	36
1) SX11・12・13・16・18・21 性格不明遺構	36
3 IV層上面	37
(1) 溝跡	37
1) SD43 溝跡	37
(2) 土坑	39
1) SK36 土坑	39
4 III層上面	40
(1) 溝跡	40
1) SD29 溝跡	40
(2) その他の遺構	43
1) I号道路状遺構	43
2) I号土手状遺構	44
5 II層上面	45
(1) 溝跡	45

1) SD28 溝跡	45
(2) その他の遺構	47
1) 1号木樋	47
2) 2号石垣	50
3) 1号埋喪	51
4) SX17 性格不明遺構	53
5) 建物(病馬廐)跡	54
6 遺構外出土遺物	55
(1) IV層出土遺物	55
(2) III層出土遺物	60
(3) I層・II層・掘乱出土遺物	71
第2節 II区	73
1 IV層上面	73
(1) 溝跡	73
1) SD27 溝跡	73
(2) 土坑	74
1) SK4 土坑	74
2) SK5 土坑	75
(3) その他の遺構	76
1) 1・2号竹樋	76
2) 1号柵状遺構	82
2 III層上面	84
(1) 柱列跡	84
1) SA1 柱列跡	84
(2) 溝跡	88
1) SD7 溝跡	88
2) SD18 溝跡	90
3) SD19 溝跡	91
4) SD33 溝跡	93
(3) 土坑	94
1) SK2 土坑	94
2) SK3 土坑	94
(4) その他の遺構	95
1) SX2 性格不明遺構	95
2) SX9 性格不明遺構	96
3) 1号飛び石	97
3 II層上面	98
(1) その他の遺構	98
1) 1号石垣	98
4 遺構外出土遺物	100
(1) IV層出土遺物	100
(2) II層出土遺物	101
(3) I層・掘乱出土遺物	101
第3節 III区	104
1 V層上面	104
(1) 柱列跡	104
1) SA13 柱列跡	104
2) SA14 柱列跡	104
3) SA15 柱列跡	104
4) SA16 柱列跡	110
5) SA27 柱列跡	110
6) SA17 柱列跡	113
7) SA18 柱列跡	113
(2) 溝跡	115
1) SD24 溝跡・SX14 性格不明遺構	115
2) SD34 溝跡	120
3) SD39 溝跡	120
4) SD40 溝跡	122
5) SD41 溝跡	123
6) SD49 溝跡	123
7) SD54 溝跡	125
8) SD55 溝跡	131
9) SD56 溝跡	133
10) SD63 溝跡	133
11) SD64 溝跡	135
12) SD65 溝跡	135
13) SD66 溝跡	137

(3) 土坑	.....138				
1) SK12 土坑	.....138	2) SK13 土坑	.....139	3) SK14 土坑	.....139
4) SK18 土坑	.....140	5) SK20 土坑	.....140	6) SK26 土坑	.....140
7) SK42 土坑	.....141	8) SK49 土坑	.....142	9) SK50 土坑	.....142
10) SK56 土坑	.....142	11) SK57 土坑	.....142	12) SK58 土坑	.....143
13) SK60 土坑	.....144	14) SK62 土坑	.....144	15) SK64 土坑	.....146
(4) その他の遺構	.....147				
1) SX10 性格不明遺構	.....147	2) SX15 性格不明遺構	.....148	3) SN1 祭祀遺構	.....149
2 IV層上面	.....160				
(1) 柱列跡	.....160				
1) SA2 柱列跡	.....160	2) SA5 柱列跡	.....163	3) SA7 柱列跡	.....164
4) SA11 柱列跡	.....166	5) SA12 柱列跡	.....167	6) SA19 柱列跡	.....168
7) SA20 柱列跡	.....168	8) SA21 柱列跡	.....171	9) SA22 柱列跡	.....172
10) SA23 柱列跡	.....172	11) SA24 柱列跡	.....174	12) SA25 柱列跡	.....175
13) SA26 柱列跡	.....177				
(2) 溝跡	.....178				
1) SD 5 溝跡	.....178	2) SD6 溝跡	.....179	3) SD9 溝跡	.....179
4) SD12 溝跡	.....181	5) SD15 溝跡	.....182	6) SD22 溝跡	.....182
7) SD23 溝跡	.....183	8) SD31 溝跡	.....186	9) SD32 溝跡	.....186
10) SD38 溝跡	.....189	11) SD47 溝跡	.....190	12) SD61 溝跡	.....190
(3) 井戸跡	.....191				
1) SE1 井戸跡	.....191	2) SE5 井戸跡	.....194		
(4) 土坑	.....195				
1) SK1 土坑	.....195	2) SK6 土坑	.....195	3) SK7 土坑	.....196
4) SK8 土坑	.....196	5) SK9 土坑	.....197	6) SK10 土坑	.....197
7) SK16 土坑	.....198	8) SK17 土坑	.....198	9) SK19 土坑	.....199
10) SK25 土坑	.....200	11) SK27 土坑	.....201	12) SK28 土坑	.....201
13) SK31 土坑	.....202	14) SK32 土坑	.....203	15) SK37 土坑	.....203
16) SK47 土坑	.....204	17) SK59 土坑	.....204	18) SK69 土坑	.....205
19) SK70 土坑	.....205	20) SK71 土坑	.....205	21) SK72 土坑	.....206
22) SK73 土坑	.....206	23) SK74 土坑	.....207	24) SK78 土坑	.....207
25) SK81 土坑	.....208	26) SK82 土坑	.....208	27) SK84 土坑	.....209
(5) その他の遺構	.....209				
1) SX8 性格不明遺構	.....209	2) SX20 性格不明遺構	.....210	3) 5号池	.....210
3 III層上面	.....215				
(1) 柱列跡	.....215				
1) SA8 柱列跡	.....215				
(2) 溝跡	.....216				
1) SD3 溝跡	.....216	2) SD4 溝跡	.....220	3) SD10 溝跡	.....222
4) SD14 溝跡	.....223	5) SD30 溝跡	.....223		
(3) 井戸跡	.....225				
1) SE2 井戸跡	.....225	2) SE3 井戸跡	.....225	3) SE4 井戸跡	.....226

(4) 土坑 .....	227	2) SK44 土坑 .....	228	3) SK63 土坑 .....	228
1) SK33 土坑 .....	227	4) SK68 土坑・P2 .....	230		
(5) その他の遺構 .....	231				
1) SX3 性格不明遺構 .....	231	2) SX6 性格不明遺構 .....	233	3) 4号木樋 .....	234
4) 2号耕状遺構 .....	236	5) 1号池 .....	237	6) 2号池 .....	241
7) 4号池・2号木樋 .....	244	8) 6号池・3号木樋 .....	250		
4 縄文時代の調査 .....	252				
1) SK89 土坑 .....	253	2) SX30 性格不明遺構 .....	253		
5 遺構外出土遺物 .....	255				
(1) V層出土遺物 .....	255	(2) IV層出土遺物 .....	256	(3) III層出土遺物 .....	257
(4) I層・II層・攪乱出土遺物 .....	259				
第6章 自然科学分析 .....	263				
第1節 樹種調査 .....	263				
第2節 放射性炭素年代測定調査 .....	267				
第3節 寄生虫卵分析 .....	273				
第4節 植物珪酸体分析 .....	274				
第5節 石材鑑定 .....	282				
第7章 出土遺物と検出遺構について .....	284				
第1節 出土遺物について .....	284				
(1) 出土した陶磁器について .....	284	(2) 瓦 .....	290		
(3) 金属製品 .....	291	(4) 木製品 .....	291	(5) 出土遺物のまとめ .....	293
第2節 検出遺構について .....	294				
(1) I区 .....	294	(2) II区 .....	294	(3) III区 .....	295
(4) 区画施設について .....	296	(5) 検出遺構のまとめ .....	301		
第8章 まとめ .....	302				
参考文献 .....	303				

## 挿 図 目 次

第1図 調査区位置図 .....	2	第16図 I区 VI層上面遺構配置図 .....	20
第2図 河岸段丘分布図 .....	4	第17図 SK55土坑 平面図・断面図 .....	21
第3図 絵図・地図における調査区周辺 .....	6	第18図 SK55土坑 出土遺物 .....	21
第4図 絵図・地図における調査区周辺 .....	7	第19図 SK55土坑 出土遺物 .....	22
第5図 周辺遺跡分布図 .....	8	第20図 SK55土坑 出土遺物 .....	23
第6図 調査区設定図 .....	9	第21図 SK55土坑 出土遺物 .....	24
第7図 グリッド設定図 .....	10	第22図 SK61土坑 平面図・断面図 .....	24
第8図 各調査区柱状図および対応関係図 .....	12	第23図 SX23性格不明遺構 平面図・断面図 .....	25
第9図 土層断面図作成位置図 .....	12	第24図 I区 V層上面遺構配置図 .....	26
第10図 I区 壁断面図 .....	14	第25図 SA3柱列跡 平面図・断面図 .....	27
第11図 II区 北壁断面図 .....	15	第26図 SA4柱列跡 平面図・断面図 .....	28
第12図 II区 南壁断面図 .....	16	第27図 SA6柱列跡 平面図・断面図 .....	30
第13図 III区 北壁断面図 .....	17	第28図 SD45溝跡 平面図・断面図 .....	31
第14図 III区 南壁断面図 .....	18	第29図 SD51溝跡 平面図・断面図 .....	32
第15図 III区 東壁断面図 .....	19	第30図 SD51溝跡 出土遺物 .....	33

第 31 图	SE6 井戸跡	平面图·断面图	34	第 87 图	SA1 柱列跡	出土遺物	87
第 32 图	SE6 井戸跡	出土遺物	35	第 88 图	SD7 溝跡	平面图·断面图	89
第 33 图	SK34 土坑	平面图·断面图	36	第 89 图	SD7 溝跡	出土遺物	90
第 34 图	I 区 IV 層上面遺構配置図		37	第 90 图	SD18 溝跡	出土遺物	90
第 35 图	SD43 溝跡	平面图·断面图	38	第 91 图	SD18 溝跡	平面图·断面图	91
第 36 图	SD43 溝跡	出土遺物	38	第 92 图	SD19 溝跡	平面图·断面图	92
第 37 图	SK36 土坑	平面图·断面图	39	第 93 图	SD19 溝跡	出土遺物	92
第 38 图	I 区 III 層上面遺構配置図		40	第 94 图	SD33 溝跡	平面图·断面图	93
第 39 图	SD29 溝跡・1 号道路状遺構・1 号土手状遺構	平面图·断面图	41	第 95 图	SD33 溝跡	出土遺物	93
第 40 图	SD29 溝跡	出土遺物	42	第 96 图	SK2 土坑	平面图·断面图	94
第 41 图	1 号道路状遺構	出土遺物	43	第 97 图	SK3 土坑	平面图·断面图	94
第 42 图	1 号土手状遺構	出土遺物	44	第 98 图	SX2 性格不明遺構	平面图·断面图	95
第 43 图	I 区 II 層上面遺構配置図		45	第 99 图	SX2 性格不明遺構	出土遺物	95
第 44 图	SD28 溝跡	平面图·断面图	46	第 100 图	SX9 性格不明遺構	平面图·断面图	96
第 45 图	1 号木樋	平面图·断面图	47	第 101 图	SX9 性格不明遺構	出土遺物	96
第 46 图	1 号木樋	出土遺物	48	第 102 图	1 号飛石	平面图·断面图	97
第 47 图	1 号木樋	出土遺物	49	第 103 图	1 号石垣	出土遺物	98
第 48 图	2 号石垣	平面图·断面图	50	第 104 图	1 号石垣	平面图·断面图	99
第 49 图	2 号石垣	出土遺物	51	第 105 图	II 区 IV 層	出土遺物	100
第 50 图	1 号埋裏	平面图·断面图	52	第 106 图	II 区 II 層	出土遺物	101
第 51 图	1 号埋裏	出土遺物	52	第 107 图	II 区 I 層	出土遺物	102
第 52 图	SX17 性格不明遺構	平面图·断面图	53	第 108 图	II 区 I 層	出土遺物	103
第 53 图	建物(病馬廄)跡	平面图	54	第 109 图	III 区 V 層上面遺構配置図		105・106
第 54 图	I 区 IV 層	出土遺物	55	第 110 图	SA13 柱列跡	平面图·断面图	107
第 55 图	I 区 IV 層	出土遺物	56	第 111 图	SA14 柱列跡	平面图·断面图	108
第 56 图	I 区 IV 層	出土遺物	57	第 112 图	SA15 柱列跡	平面图·断面图	109
第 57 图	I 区 IV 層	出土遺物	58	第 113 图	SA16・27 柱列跡	平面图·断面图	111
第 58 图	I 区 IV 層	出土遺物	59	第 114 图	SA16 柱列跡	出土遺物	112
第 59 图	I 区 III 層	出土遺物	60	第 115 图	SA17・18 柱列跡	平面图·断面图	114
第 60 图	I 区 III 層	出土遺物	61	第 116 图	SD24 溝跡	出土遺物	115
第 61 图	I 区 III 層	出土遺物	62	第 117 图	SD24 溝跡・SX14 性格不明遺構	平面图	116
第 62 图	I 区 III 層	出土遺物	63	第 118 图	SD24 溝跡・SX14 性格不明遺構	断面图	117
第 63 图	I 区 III 層	出土遺物	64	第 119 图	SX14 性格不明遺構	出土遺物	118
第 64 图	I 区 III 層	出土遺物	65	第 120 图	SX14 性格不明遺構	出土遺物	119
第 65 图	I 区 III 層	出土遺物	66	第 121 图	SD34 溝跡	平面图·断面图	120
第 66 图	I 区 III 層	出土遺物	67	第 122 图	SD39 溝跡	平面图·断面图	121
第 67 图	I 区 III 層	出土遺物	68	第 123 图	SD40 溝跡	平面图·断面图	122
第 68 图	I 区 III 層	出土遺物	69	第 124 图	SD41 溝跡	平面图·断面图	123
第 69 图	I 区 III 層	出土遺物	70	第 125 图	SD49 溝跡	平面图·断面图	124
第 70 图	I 区 I 層・II 層・攪乱	出土遺物	71	第 126 图	SD49 溝跡	出土遺物	124
第 71 图	I 区攪乱	出土遺物	72	第 127 图	SD54 溝跡	平面图·断面图	125
第 72 图	II 区 IV 層上面遺構配置図		73	第 128 图	SD54 溝跡	出土遺物	126
第 73 图	SD27 溝跡	平面图·断面图	74	第 129 图	SD54 溝跡	出土遺物	127
第 74 图	SK4 土坑	平面图·断面图	74	第 130 图	SD54 溝跡	出土遺物	128
第 75 图	SK4 土坑	出土遺物	75	第 131 图	SD54 溝跡	出土遺物	129
第 76 图	SK5 土坑	平面图·断面图	75	第 132 图	SD54 溝跡	出土遺物	130
第 77 图	1・2 号竹樋	平面图	78	第 133 图	SD54 溝跡	出土遺物	131
第 78 图	1・2 号竹樋	断面图	79	第 134 图	SD55 溝跡	出土遺物	131
第 79 图	1 号竹樋	出土遺物	80	第 135 图	SD55 溝跡	平面图·断面图	132
第 80 图	2 号竹樋	出土遺物	81	第 136 图	SD56 溝跡	平面图·断面图	133
第 81 图	1 号桥状遺構	平面图·断面图	82	第 137 图	SD63 溝跡	平面图·断面图	134
第 82 图	1 号桥状遺構	出土遺物	83	第 138 图	SD64 溝跡	平面图·断面图	135
第 83 图	II 区 III 層上面遺構配置図		84	第 139 图	SD65 溝跡	平面图·断面图	136
第 84 图	SA1 柱列跡	平面图	85	第 140 图	SD65 溝跡	出土遺物	136
第 85 图	SA1 柱列跡	断面图	86	第 141 图	SD66 溝跡	平面图	137
第 86 图	SA1 柱列跡	断面图	87	第 142 图	SD66 溝跡	断面图	138

第143图	SK12土坑	平面图·断面图	138	第199图	SD32溝跡	出土遺物	189
第144图	SK13土坑	平面图·断面图	139	第200图	SD38溝跡	平面图·断面图	189
第145图	SK14土坑	平面图·断面图	139	第201图	SD47溝跡	平面图·断面图	190
第146图	SK14土坑	出土遺物	139	第202图	SD61溝跡	平面图·断面图	191
第147图	SK18土坑	平面图·断面图	140	第203图	SE1井戶跡	平面图·断面图	192
第148图	SK20土坑	平面图·断面图	140	第204图	SE1井戶跡	出土遺物	193
第149图	SK26土坑	平面图·断面图	141	第205图	SE5井戶跡	平面图·断面图	194
第150图	SK42土坑	平面图·断面图	141	第206图	SE5井戶跡	出土遺物	194
第151图	SK49土坑	平面图·断面图	142	第207图	SK1土坑	平面图·断面图	195
第152图	SK50土坑	平面图·断面图	142	第208图	SK6土坑	平面图·断面图	195
第153图	SK56·57土坑	平面图·断面图	143	第209图	SK7土坑	平面图·断面图	196
第154图	SK58土坑	平面图·断面图	143	第210图	SK8土坑	平面图·断面图	196
第155图	SK60土坑	平面图·断面图	144	第211图	SK9土坑	平面图·断面图	197
第156图	SK62土坑	平面图·断面图	144	第212图	SK10土坑	平面图·断面图	197
第157图	SK62土坑	出土遺物	145	第213图	SK16土坑	平面图·断面图	198
第158图	SK64土坑	平面图·断面图	146	第214图	SK17土坑	平面图·断面图	198
第159图	SK64土坑	出土遺物	146	第215图	SK19土坑	平面图·断面图	199
第160图	SX10性格不明遺構	平面图·断面图	147	第216图	SK19土坑	出土遺物	200
第161图	SX10性格不明遺構	出土遺物	147	第217图	SK25土坑	平面图·断面图	200
第162图	SX15性格不明遺構	平面图·断面图	148	第218图	SK27土坑	平面图·断面图	201
第163图	SN1祭祀遺構	平面图·断面图	149	第219图	SK28土坑	平面图·断面图	202
第164图	SN1祭祀遺構	出土遺物	150	第220图	SK31土坑	平面图·断面图	202
第165图	SN1祭祀遺構	出土遺物	151	第221图	SK32土坑	平面图·断面图	203
第166图	SN1祭祀遺構	出土遺物	152	第222图	SK37土坑	平面图·断面图	203
第167图	SN1祭祀遺構	出土遺物	153	第223图	SK47土坑	平面图·断面图	204
第168图	SN1祭祀遺構	出土遺物	154	第224图	SK47土坑	出土遺物	204
第169图	SN1祭祀遺構	出土遺物	155	第225图	SK59土坑	平面图·断面图	204
第170图	SN1祭祀遺構	出土遺物	156	第226图	SK69土坑	平面图·断面图	205
第171图	SN1祭祀遺構	出土遺物	157	第227图	SK70土坑	平面图·断面图	205
第172图	SN1祭祀遺構	出土遺物	158	第228图	SK71土坑	平面图·断面图	205
第173图	SN1祭祀遺構	出土遺物	159	第229图	SK72土坑	平面图·断面图	206
第174图	SA2柱列跡	平面图·断面图	160	第230图	SK73土坑	平面图·断面图	206
第175图	Ⅲ区Ⅳ層上面遺構配置图		161·162	第231图	SK74土坑	平面图·断面图	207
第176图	SA5柱列跡	平面图·断面图	163·164	第232图	SK78土坑	平面图·断面图	207
第177图	SA7柱列跡	平面图·断面图	165	第233图	SK78土坑	出土遺物	207
第178图	SA11柱列跡	平面图·断面图	166	第234图	SK81土坑	平面图·断面图	208
第179图	SA12柱列跡	平面图·断面图	167·168	第235图	SK82土坑	平面图·断面图	208
第180图	SA19·20柱列跡	平面图·断面图	169·170	第236图	SK84土坑	平面图·断面图	209
第181图	SA21柱列跡	平面图·断面图	171	第237图	SX8性格不明遺構	平面图·断面图	209
第182图	SA22柱列跡	平面图·断面图	172	第238图	SX20性格不明遺構	平面图·断面图	210
第183图	SA23柱列跡	平面图·断面图	173	第239图	5号池	平面图·断面图	211
第184图	SA24柱列跡	平面图·断面图	174	第240图	5号池	出土遺物	212
第185图	SA25柱列跡	平面图	175	第241图	5号池	出土遺物	213
第186图	SA25柱列跡	断面图	176	第242图	5号池	出土遺物	214
第187图	SA26柱列跡	平面图·断面图	177	第243图	SA8柱列跡	平面图·断面图	215
第188图	SD5溝跡	平面图·断面图	178	第244图	SA8柱列跡	出土遺物	216
第189图	SD6溝跡	平面图·断面图	179	第245图	SD3溝跡	出土遺物	216
第190图	SD9溝跡	平面图·断面图	180	第246图	Ⅲ区Ⅲ層上面遺構配置图		217·218
第191图	SD12溝跡	平面图·断面图	181	第247图	SD3溝跡	平面图·断面图	219
第192图	SD12溝跡	出土遺物	182	第248图	SD4溝跡	出土遺物	220
第193图	SD15溝跡	平面图·断面图	183	第249图	SD4溝跡	平面图·断面图	221
第194图	SD22溝跡	平面图·断面图	184	第250图	SD10溝跡	平面图·断面图	222
第195图	SD23溝跡	平面图·断面图	185	第251图	SD14溝跡	出土遺物	223
第196图	SD23溝跡	出土遺物	186	第252图	SD30溝跡	平面图·断面图	223
第197图	SD31溝跡	平面图·断面图	187	第253图	SD14溝跡	平面图·断面图	224
第198图	SD32溝跡	平面图·断面图	188	第254图	SE2井戶跡	平面图·断面图	225

第255図	SE3井戸跡	出土遺物	225
第256図	SE3井戸跡	平面図・断面図	226
第257図	SE4井戸跡	平面図・断面図	227
第258図	SK33土坑	平面図・断面図	227
第259図	SK44土坑	平面図・断面図	228
第260図	SK44土坑	出土遺物	228
第261図	SK63土坑	平面図・断面図	229
第262図	SK63土坑	出土遺物	229
第263図	SK68土坑・P2	平面図・断面図	230
第264図	SK68土坑・P2	出土遺物	231
第265図	SX3性格不明遺構	出土遺物	231
第266図	SX3性格不明遺構	平面図・断面図	232
第267図	SX6性格不明遺構	平面図・断面図	233
第268図	SX6性格不明遺構	出土遺物	233
第269図	4号木樋	出土遺物	234
第270図	4号木樋	平面図・断面図	235
第271図	2号栞状遺構	平面図・断面図	236
第272図	2号栞状遺構	出土遺物	237
第273図	1号池	平面図・断面図	237・238
第274図	1号池	出土遺物	238
第275図	1号池	出土遺物	239
第276図	1号池	出土遺物	240
第277図	2号池	平面図	241
第278図	2号池	断面図	242
第279図	2号池	出土遺物	243
第280図	2号池	出土遺物	244
第281図	4号池・2号木樋	平面図・断面図	245
第282図	4号池	出土遺物	246
第283図	4号池	出土遺物	247
第284図	4号池	出土遺物	248
第285図	2号木樋	出土遺物	249
第286図	6号池・3号木樋	出土遺物	250
第287図	6号池・3号木樋	平面図・断面図	251
第288図	トレンチ設定図		252
第289図	SK89土坑	平面図・断面図	253
第290図	SX30性格不明遺構	平面図・断面図	253
第291図	トレンチ出土の縄文土器		254

第292図	Ⅲ区V層	出土遺物	255
第293図	Ⅲ区IV層	出土遺物	256
第294図	Ⅲ区Ⅲ層	出土遺物	257
第295図	Ⅲ区Ⅲ層	出土遺物	258
第296図	Ⅲ区I層・Ⅱ層	出土遺物	259
第297図	Ⅲ区I層・Ⅱ層	攪乱 出土遺物	260
第298図	Ⅲ区I層・Ⅱ層	攪乱 出土遺物	261
第299図	Ⅲ区I層	攪乱 出土遺物	262
第300図	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)	出土木製品の顕微鏡写真	265
第301図	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)	出土木製品の顕微鏡写真	266
第302図	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)	における植物埋蔵体分析結果	279
第303図	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)	における植物埋蔵体分析結果	280
第304図	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)	の植物埋蔵体(プラント・オパール)	281
第305図	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)	出土石材	283
第306図	各区出土陶磁器数量		284
第307図	I区	年代別産地組成	285
第308図	I区	層一産地別出土陶磁器	285
第309図	外底部漆書		286
第310図	Ⅱ区	年代別産地組成	286
第311図	Ⅱ区	層一産地別出土陶磁器	286
第312図	Ⅲ区	年代別産地組成	287
第313図	Ⅲ区	層一産地別出土陶磁器	288
第314図		機能別出土数量	289
第315図		食器具産地別割合	289
第316図		軒丸瓦	290
第317図		軒平瓦	290
第318図		桃瓦	291
第319図		舟形木製品	292
第320図		漆付着状況	294
第321図	I区	近代地層と遺構配置	294
第322図	Ⅲ区	池と溝の変遷	296
第323図		17世紀の区画	297
第324図		18世紀の区画	297
第325図	Ⅲ区	IV層の区画変遷	298
第326図		19世紀の区画	299
第327図	各区・層別の遺構方位		300

## 表目次

第1表	遺跡地名表	8
第2表	調査区基本土層注記表	13
第3表	樹種一覧	264
第4表	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)出土木製品の炭素14年代測定結果	268
第5表	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)における寄生虫分析結果	274
第6表	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)における植物埋蔵体分析結果	278
第7表	Ⅲ区V層遺構方位	296
第8表	Ⅲ区IV層遺構方位	297
第9表	I～Ⅲ区 主要遺構方位	298

## 写真図版目次

図版1	I区壁面(1)	305
図版2	I区壁面(2)・Ⅱ区壁面(1)	306
図版3	Ⅱ区壁面(2)	307
図版4	Ⅱ区壁面(3)	308
図版5	Ⅱ区壁面(4)・Ⅲ区壁面(1)	309
図版6	Ⅲ区壁面(2)	310
図版7	Ⅲ区壁面(3)	311
図版8	Ⅲ区壁面(4)	312
図版9	Ⅲ区壁面(5)	313
図版10	Ⅲ区壁面(6)	314
図版11	Ⅲ区壁面(7)	315
図版12	Ⅲ区壁面(8)	316
図版13	I区VI層	317
図版14	I区V層(1)	318

图版 15	I 区 V 层 (2)	319	图版 72	Ⅲ区Ⅲ层 (1)	376
图版 16	I 区 V 层 (3)	320	图版 73	Ⅲ区Ⅲ层 (2)	377
图版 17	I 区 V 层 (4)	321	图版 74	Ⅲ区Ⅲ层 (3)	378
图版 18	I 区 V 层 (5) · IV 层	322	图版 75	Ⅲ区Ⅲ层 (4)	379
图版 19	I 区Ⅲ层	323	图版 76	Ⅲ区Ⅲ层 (5)	380
图版 20	I 区Ⅱ层 (1)	324	图版 77	Ⅲ区Ⅲ层 (6)	381
图版 21	I 区Ⅱ层 (2)	325	图版 78	Ⅲ区Ⅲ层 (7)	382
图版 22	Ⅱ区 IV 层 (1)	326	图版 79	Ⅲ区Ⅲ层 (8)	383
图版 23	Ⅱ区 IV 层 (2)	327	图版 80	Ⅲ区Ⅲ层 (9)	384
图版 24	Ⅱ区 IV 层 (3)	328	图版 81	Ⅲ区Ⅲ层 (10)	385
图版 25	Ⅱ区 IV 层 (4) · Ⅲ层 (1)	329	图版 82	Ⅲ区Ⅲ层 (11)	386
图版 26	Ⅱ区Ⅲ层 (2)	330	图版 83	Ⅲ区Ⅲ层 (12)	387
图版 27	Ⅱ区Ⅲ层 (3)	331	图版 84	Ⅲ区Ⅲ层 (13) · Ⅲ区 VI 层	388
图版 28	Ⅱ区Ⅲ层 (4)	332	图版 85	I 区出土文物	389
图版 29	Ⅱ区Ⅲ层 (5) · II 层	333	图版 86	I 区出土文物	390
图版 30	Ⅲ区 V 层 (1)	334	图版 87	I 区出土文物	391
图版 31	Ⅲ区 V 层 (2)	335	图版 88	I 区出土文物	392
图版 32	Ⅲ区 V 层 (3)	336	图版 89	I 区出土文物	393
图版 33	Ⅲ区 V 层 (4)	337	图版 90	I 区出土文物	394
图版 34	Ⅲ区 V 层 (5)	338	图版 91	I 区出土文物	395
图版 35	Ⅲ区 V 层 (6)	339	图版 92	I 区出土文物	396
图版 36	Ⅲ区 V 层 (7)	340	图版 93	I 区出土文物	397
图版 37	Ⅲ区 V 层 (8)	341	图版 94	I 区出土文物	398
图版 38	Ⅲ区 V 层 (9)	342	图版 95	I 区出土文物	399
图版 39	Ⅲ区 V 层 (10)	343	图版 96	I 区出土文物	400
图版 40	Ⅲ区 V 层 (11)	344	图版 97	I 区出土文物	401
图版 41	Ⅲ区 V 层 (12)	345	图版 98	I 区出土文物	402
图版 42	Ⅲ区 V 层 (13)	346	图版 99	I 区出土文物	403
图版 43	Ⅲ区 V 层 (14)	347	图版 100	I 区出土文物	404
图版 44	Ⅲ区 IV 层 (1)	348	图版 101	Ⅱ区出土文物	405
图版 45	Ⅲ区 IV 层 (2)	349	图版 102	Ⅱ区出土文物	406
图版 46	Ⅲ区 IV 层 (3)	350	图版 103	Ⅱ区出土文物	407
图版 47	Ⅲ区 IV 层 (4)	351	图版 104	Ⅱ区出土文物	408
图版 48	Ⅲ区 IV 层 (5)	352	图版 105	Ⅱ区出土文物	409
图版 49	Ⅲ区 IV 层 (6)	353	图版 106	Ⅱ区 · Ⅲ区出土文物	410
图版 50	Ⅲ区 IV 层 (7)	354	图版 107	Ⅲ区出土文物	411
图版 51	Ⅲ区 IV 层 (8)	355	图版 108	Ⅲ区出土文物	412
图版 52	Ⅲ区 IV 层 (9)	356	图版 109	Ⅲ区出土文物	413
图版 53	Ⅲ区 IV 层 (10)	357	图版 110	Ⅲ区出土文物	414
图版 54	Ⅲ区 IV 层 (11)	358	图版 111	Ⅲ区出土文物	415
图版 55	Ⅲ区 IV 层 (12)	359	图版 112	Ⅲ区出土文物	416
图版 56	Ⅲ区 IV 层 (13)	360	图版 113	Ⅲ区出土文物	417
图版 57	Ⅲ区 IV 层 (14)	361	图版 114	Ⅲ区出土文物	418
图版 58	Ⅲ区 IV 层 (15)	362	图版 115	Ⅲ区出土文物	419
图版 59	Ⅲ区 IV 层 (16)	363	图版 116	Ⅲ区出土文物	420
图版 60	Ⅲ区 IV 层 (17)	364	图版 117	Ⅲ区出土文物	421
图版 61	Ⅲ区 IV 层 (18)	365	图版 118	Ⅲ区出土文物	422
图版 62	Ⅲ区 IV 层 (19)	366	图版 119	Ⅲ区出土文物	423
图版 63	Ⅲ区 IV 层 (20)	367	图版 120	Ⅲ区出土文物	424
图版 64	Ⅲ区 IV 层 (21)	368	图版 121	Ⅲ区出土文物	425
图版 65	Ⅲ区 IV 层 (22)	369	图版 122	Ⅲ区出土文物	426
图版 66	Ⅲ区 IV 层 (23)	370	图版 123	Ⅲ区出土文物	427
图版 67	Ⅲ区 IV 层 (24)	371	图版 124	Ⅲ区出土文物	428
图版 68	Ⅲ区 IV 层 (25)	372	图版 125	Ⅲ区出土文物	429
图版 69	Ⅲ区 IV 层 (26)	373	图版 126	Ⅲ区出土文物	430
图版 70	Ⅲ区 IV 层 (27)	374	图版 127	Ⅲ区出土文物	431
图版 71	Ⅲ区 IV 层 (28)	375			

## 第1章 調査概要

### 第1節 調査に至る経緯

平成11年5月、仙台市教育委員会と当時事業主管局であった仙台市都市整備局との間で、高速鉄道東西線建設事業に伴う遺跡の取り扱いについての第1回目の協議が持たれた。その後、事業主管局は仙台市交通局に移され、平成15年度より仙台市教育委員会との本格的な協議が開始された。

高速鉄道東西線事業計画予定路線内における、周知の遺跡及び遺跡外の状況把握のため確認調査及び試掘調査をまず実施し、その結果を踏まえ本調査を実施する箇所を決定し、これを基に発掘調査を順次、事業計画に沿いながら進めていくことが両者間で確認された。

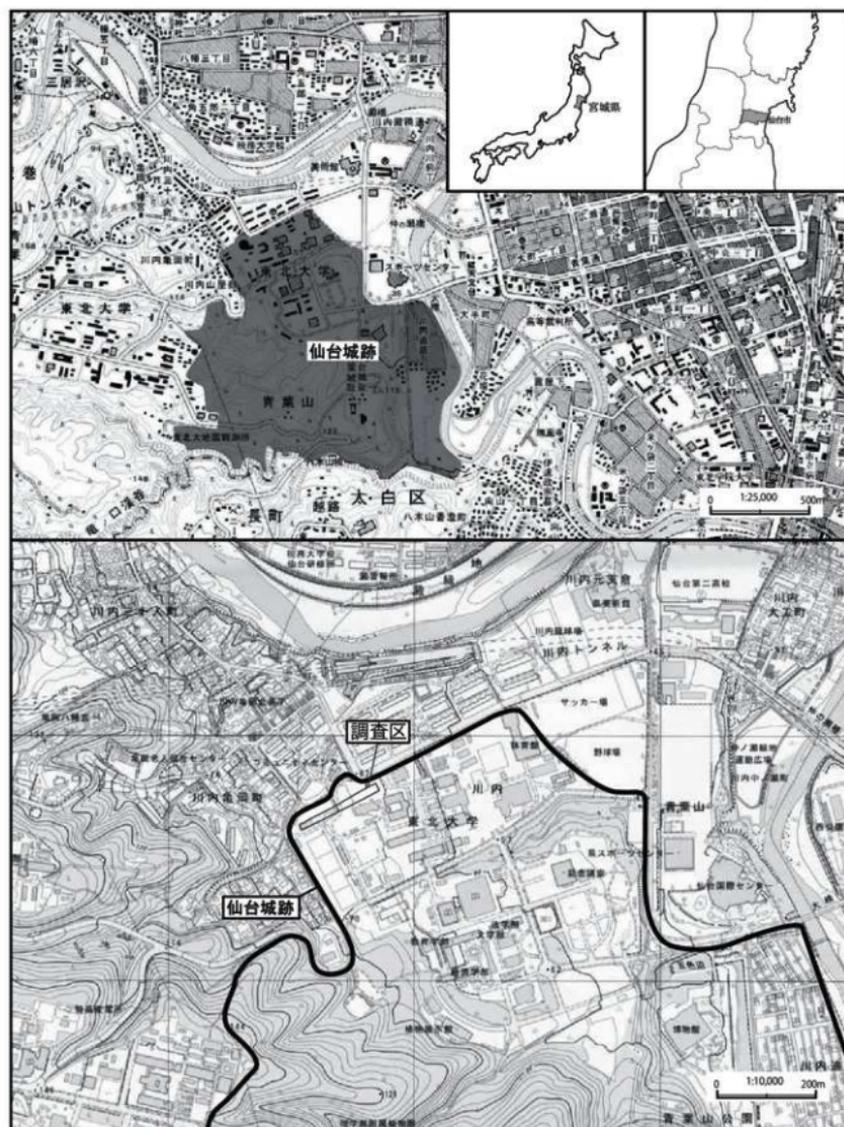
以上の協議事項に基づき、平成16年度より確認調査及び試掘調査を開始した。平成16年度の対象地域は、高速鉄道東西線予定路線西部の川内地区、青葉山地区、西公園地区で、18箇所の調査区、総面積448㎡の調査を実施した。このうち、亀岡トンネル開削部（この対象地域の確認・試掘調査での便宜的区割りのC区）は、平成16年8月18日から9月3日までの間、5箇所（120㎡）の試掘調査が行われ、その翌年の平成17年7月25日から8月30日の間に1箇所（24㎡）の試掘調査が実施された。その結果、近世を主とする遺構・遺物の存在が確認された（註1）。これを受け、仙台市教育委員会と仙台市交通局との協議の末、平成18年度に本調査を実施する運びとなり、平成18年6月5日より本調査を開始した。

### 第2節 調査要項

遺跡名	：仙台城跡（亀岡トンネル開削部）
所在地	：仙台市青葉区川内41・43番地
調査主体	：仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）
調査担当	：調査係主査 佐藤甲二 ：調査係主査 原河英二 ：調査係文化財教諭 在川宏志
調査機関	：国際航業株式会社（現 国際文化財株式会社）
	主任調査員 竹内俊之
	調査員 園村維敏・関美男・秋本雅彦・土橋尚起
	調査補助員 福井流星・長林大・野神伸・小林孝彰
	計測員 佐々木亨・諸熊和彦
	計測補助員 佐藤和巳・植松満彦・押野久雄・石垣忠彦
調査面積	：2000㎡
調査期間	：平成18年6月5日～平成19年3月1日

註1：仙台市文化財調査報告書第289集 『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1) 概要報告書』 仙台市教育委員会 2005

註2：仙台市文化財調査報告書第302集 『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2) 概要報告書』 仙台市教育委員会 2006



第1図 調査区位置図

### 第3節 調査概要

#### (1) 現地調査

調査は平成16年および17年に行われた試掘調査(註1)を受け、平成18年6月5日から平成19年3月1日までの期間に実施した。調査実働日数は162日で、調査面積は2000㎡である。

6月にⅡ区、Ⅲ区から着手し、試掘調査の資料を基に基本層を確認しつつ表土層を重機により除去した。第二師団建物による擾乱を除去している段階で、Ⅱ区西側およびⅢ区西側は大部分が削平を受けていることが確認された。一方でⅡ区東側とⅢ区中央から東側では近世の整地層が比較的良好に残っていた。Ⅱ区では利水関係の施設が検出され、Ⅲ区では近世の池、溝、柱列等が確認された。また、Ⅲ区東側では指標テフラである十和田A火山灰を含む層が確認され、その下層から縄文土器片も少量ながら出土したため縄文時代を対象とした下層トレンチ調査を平成19年2月に実施した。

Ⅰ区の調査は東北大学のクラブハウス撤去工事が終了した10月以降に着手することになった。Ⅱ区Ⅲ区と同様に試掘調査の資料を基に基本層を確認しつつ表土層を重機により除去した。重機掘削の過程で、良好な整地面(Ⅲ層)を確認したため、以下は人力による掘り下げを行った。Ⅰ区では近世の柱列やその区画性を踏襲したと思われる近代初頭の道路状遺構、土手状遺構等が検出された。

Ⅱ区⇒Ⅰ区⇒Ⅲ区西側と、調査の終了した区から順次埋め戻しを行い、平成19年2月26日にⅢ区東側の土層サンプル採取、壁面土層記録を行い全調査過程を終了し、3月1日に現場撤収を完了した。

#### (2) 整理作業

遺物量はコンテナ(内法54.5cm×33.6cm×15cm)255箱である。近世～近現代の陶磁器、瓦、瓦質土器が主で、少量ながら縄文土器も含まれる。その他に近世～近代の木桶・枡等の大型木製品を20m四方のブルー一杯分取り上げている。遺物は洗浄を行い、終了したものは十分な乾燥の後に、接合関係を確認し注記、接合を行った。注記は、遺跡名(仙台城(カメオカ)1)、遺物番号(1111)、区名(Ⅰ区)、出土地点・層位(Ⅲ層)、取り上げ番号の記述を基本とした。なお、基本層出土の遺物については出土グリッドを記入している。接合にはパラロイドB72を使用した。脆弱な土器はバインダーを用いての強化を行った後、同様の作業を行った。これらの作業後、時期の判別可能な破片など主要な遺物は選別し遺物の登録を行った。登録した資料は、プライトン、モビニール、エレホンなどを用いて欠損部の充填、復元を行い、写真撮影および遺物実測図に耐えうようにした。遺物写真は1000万画素級のデジタル一眼レフを用いて撮影した。陶器、磁器は、見込み、高台内文様、高台の形態の撮影を行った。撮影した遺物の点数は個別写真で700カットにおよんだ。

遺構平面図は現地で計測したデータを福井コンピューティング社製のブルートレンド上で編集して、DXFデータ形式で保存した。DXFデータを「Illustrator」形式に変換した後に、変換で生じる線種の不具合などを修正した上で、編集を行った。手実測、写真計測による土層断面図は、それぞれ「Illustrator」でトレース図化した。

遺物実測図にはオルソイメージャー(正射投影写真撮影機)で撮影したデジタル写真を用い実測図を作成した。また、アドビシステムズ社製のアプリケーション「Photoshop」を用いてデジタル正射投影写真から、文様を抽出した。トレース作業には同社のアプリケーション「Illustrator」を用いたデジタルトレースを実施し、同時に「Photoshop」で抽出した文様を貼り込む作業を行った。レイアウト作業は同社のアプリケーション「InDesign」を用いた。

註1： 仙台市文化財調査報告書第289集 「仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告書」 仙台市教育委員会 2005  
 仙台市文化財調査報告書第302集 「仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2)概要報告書」 仙台市教育委員会 2006

## 第2章 位置と環境

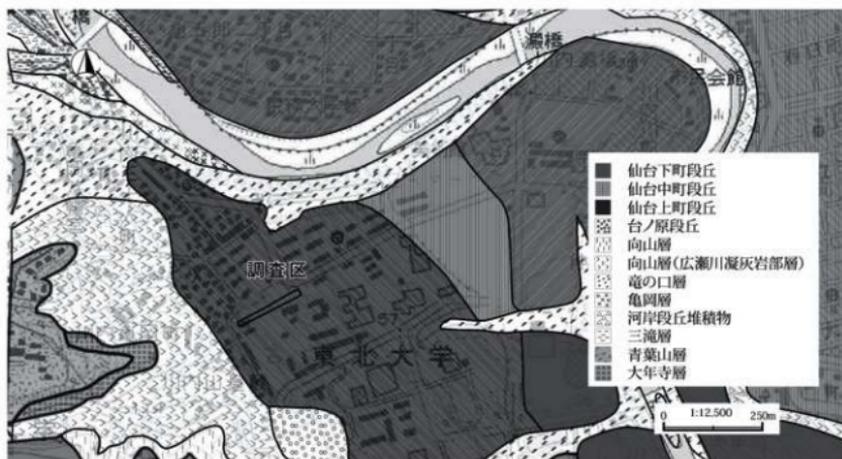
## 第1節 地理的環境

仙台城跡（亀岡トンネル開削部）は仙台市青葉区川内に所在する。本調査区は広瀬川の蛇行と浸食によって形成された、青葉山から北東に張り出す緩く傾斜した仙台上町段丘面上に位置し、仙台城二の丸跡（東北大学川内キャンパス）の北西部にあたる。北側は約300mで広瀬川に至る。

標高はもっとも西側のⅠ区が約70m、東側のⅢ区では約65mを測る傾斜地に位置している。調査区及びその東側には5箇所の石垣が構築されており、東に行くにしたがって標高が低くなっていく。西側から1つ目の石垣は調査区内に位置しており、Ⅱ区1号石垣として調査を行った。2つ目の石垣は、本調査区の東側に接しており、平成19年度「川内駅部」の調査の際、3つ目の石垣（川内駅部東端部・東北大学マルチメディア棟北西に位置する）とともに調査が行われた。4つ目の石垣は東北大学構内と東北大学グラウンドを分ける、高さ10m強ある大規模なもので、この石垣は仙台上町段丘と仙台中町段丘の段丘崖部に構築されている。この箇所での仙台中町段丘の標高は約48mを測る。

仙台市の河岸段丘は上位より青葉山段丘・仙台北ノ原段丘・仙台上町段丘・仙台中町段丘・仙台下町段丘の順で5面に区分される（註1）。段丘面の形成時期は、関東平野の成立過程と対比して考察されており、台の原段丘：下末吉期（13～12万年前）、仙台上町段丘：武蔵野期（10万～5万年前）、仙台中町段丘：立川期（3万年前）、仙台下町段丘は有楽町期に比定され、数千年前程度と考えられる（註2）。

調査区東側では10世紀前半に堆積した十和田a火山灰層と、その前後に黒褐色粘質土層が見られ、一時期は湿地化していたことが窺われる。また、調査区の西には青葉山に連なる開口部があり、この谷からの開析土が土石流となって調査区内に一部堆積していることが確認された。



第2図 河岸段丘分布図（註3）

註1：松本秀明「仙台空の写真集 一社の部いまむかし」仙台市観光局 2001

註3：1:50000地形図 仙台および建設省国土地理院発行の5万分の1地形図を使用

註2：中川久夫他「仙台付近の第四系および地形(1)」第四紀研究 1,1960

## 第2節 歴史的環境

本調査区は「仙台城跡」として登録されており、当該遺跡の北辺部にあたる。本調査区は仙台城本丸から北約800m、二の丸から北約450mに位置している。周囲には縄文時代の包含地である青葉山B遺跡、青葉山E遺跡（第5図-22・23）等が所在しており、南東方向には中世の板碑群（第5図-7～9）や茂ヶ崎城跡（第5図-11）が分布している。また、さらに南東方向の丘陵麓付近には愛宕山横穴墓群（第5図-15・16）、大年寺山横穴墓群（第5図-17）が所在する地域である。

仙台城は慶長5年（1600）、伊達政宗により築城が開始された山城である。本丸の北面に置かれた二の丸は二代藩主伊達忠宗により、寛永15年（1638）に着工、翌年に完成しており、本調査区は二の丸の北側に配置された家臣団の居住地にあっている。二の丸は東西310メートル、南北200メートルの規模を測る。江戸時代を通して藩政の中心であり、数度の地震や火災で建物等が損壊するが、その都度修築された。調査区周辺の近世遺跡としては東方約500mに川内B遺跡、約600mに川内A遺跡、同じく約1kmに桜ヶ岡公園遺跡があり（第5図-2・3・4）、本遺跡と同様の武家屋敷地である。また、南西約1.4kmに伊達家初代藩主政宗、二代忠宗、三代綱宗の墓所である経ヶ峯伊達家廟（第5図-5）などがあり、四代綱村以降の歴代藩主の墓所がある大年寺は南東約3kmに位置している（第5図-6）。

仙台城関連の絵図資料等から、本調査区周辺のおおよその変遷を追ってみる（註1）。正保2・3年（1645・1646）の「奥州仙台城絵図」（第3図-1）では、本調査区は侍屋敷と記されている。17世紀中葉には、すでに武家屋敷が造営されていたことが分かる。寛文4年（1664）の「仙台城下絵図」（第3図-2）及び延宝・天和年間（1673～1683）の「仙台城下絵図」（第3図-3）では、永沼作左衛門の名前が見られ、その北側には成田作太夫が居している。元禄4・5年（1691・1692）の「仙台城下五疊掛絵図」（第3図-4）では遠山帯刀（着座・奉行）、享保9年（1724）の「仙台城下絵図」では伊達肥前殿（伊達村興。一門。宮床伊達家二代当主）、宝暦・明和年間（1751～1772）の「仙台城下絵図」（第3図-5）では伊達出羽殿（伊達村嘉。一門。宮床伊達家四代当主）と大町将監（一族・奉行）の屋敷境付近に相当し、天明6年～寛政元年（1786～1789）の「仙台城下絵図」（第3図-6）においては泉田大隅（一家・奉行）と伊達六郎殿（伊達村烈。一門。宮床伊達氏当主）の屋敷境付近にあっている。安政3年～6年（1856～1859）の「安政補正改革仙府絵図」（第4図-1）では、亀岡御殿の名称がみとめられる。亀岡御殿については弘化4年（1847）の「樂山公治家記録」に記載が見られ、この年に榮心院（12代藩主伊達齊邦の正室徽子）が亀岡邸に移居しており、その後、文久2年（1862）には同治家記録から延寿院（13代藩主伊達慶邦の生母）が居していることがわかる。

明治初年に至り15代藩主伊達慶邦が亀岡御殿に一時滞在し（「蘆森泰通日記」）、その後明治3年（1870）の「入生田康欣日記」に慶邦の養女徳子が居していたことが記載されている。この頃の仙台城は明治2年（1869）に勤政庁となり、明治4年（1871）廃藩置県後、仙台城の管轄が明治政府の兵部省に移管されている。

明治8年（1875）の「宮城郡仙臺町地引圖」（第4図-2）では亀岡御殿の位置に鎮病院の記載が見られるが、建て直しが行われたかは不明で、この時期まで亀岡御殿の建物が継続して使用されていた可能性もある。明治13年（1880）には勸業試験場用地となっていたことが「宮城縣仙臺區全圖」（第4図-3）から窺える。その後、明治15年（1882）の「櫻臺區及近傍村落之圖」（第4図-4）では陸軍省用地となり、明治21年（1888）には陸軍第二師団が置かれることになる。この頃、川内地区で大規模な用地改修が行われたとみられ、明治26年（1893）の「仙台市測量全圖」（第4図-5）（当地は輻重兵第二大隊用地となっている）に見られる亀岡通など、ほぼ現在と同じ通り筋となっている。

戦後はGHQが駐留した。昭和32年（1957）に返還され、東北大学川内キャンパスとなり現在に至っている。

註1：高倉淳ほか編「仙台・地蔵で見える仙台 第一巻」：今野印刷株式会社、1994  
高倉淳ほか編「仙台・地蔵で見える仙台 第二巻」：今野印刷株式会社、2005

## 第2節 歴史的環境



1. 正保2・3年(1645・1646)「奥州仙台城絵図」 斎藤報恩会所蔵



2. 寛文4年(1664)「仙台下絵図」 宮城県図書館所蔵



3. 延宝・天和年間(1673～1684)「仙台下絵図」 仙台市歴史民俗資料館所蔵



4. 元禄4・5年(1691・1692)「仙台下五層掛絵図」 斎藤報恩会所蔵



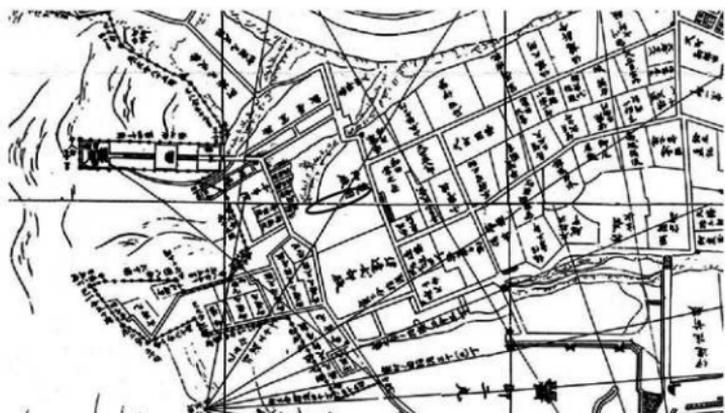
5. 宝暦・明和年間(1751～1772)「仙台下絵図」 斎藤報恩会所蔵



6. 天明6年～寛政元年(1786～1789)「仙台下絵図」 仙台市博物館所蔵

### 第3図 絵図・地図における調査区周辺 (○が調査区付近) (註1)

註1：高倉淳ほか編「絵図・地図で見る仙台 第一編」今野印刷株式会社、1994  
高倉淳ほか編「絵図・地図で見る仙台 第二編」今野印刷株式会社、2005



1. 安政3～6年(1856～1859)「安政補正改革仙府絵圖」



2. 明治8年(1875)「宮城郡仙臺町地引圖」 宮城県公文書館所蔵



3. 明治13年(1880)「宮城縣仙臺區全圖」 仙台市歴史民俗資料館所蔵



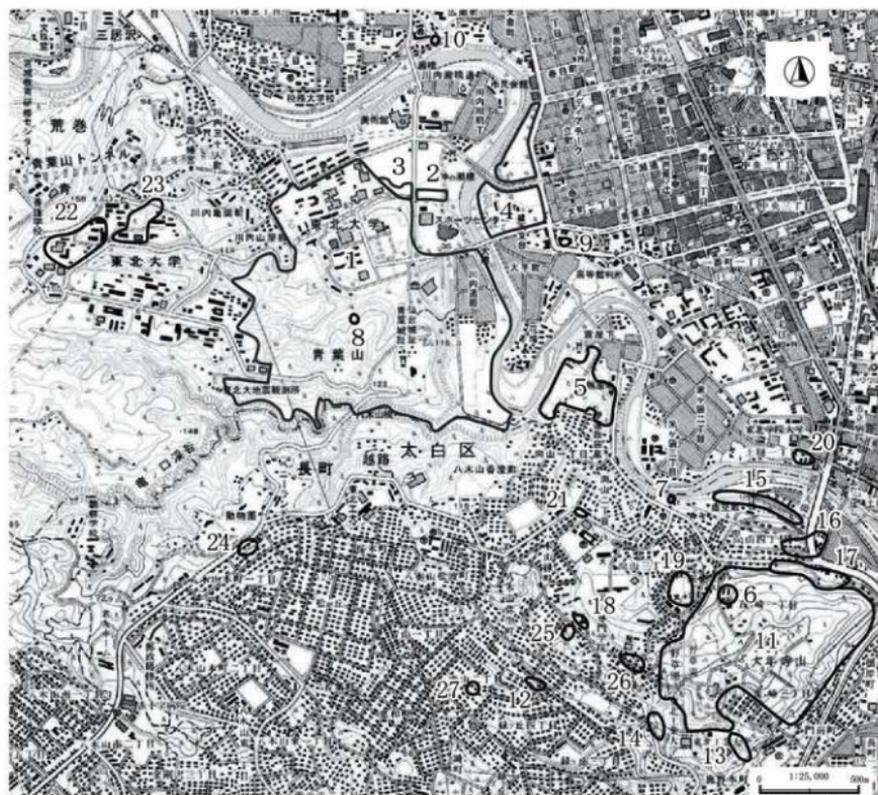
4. 明治15年(1882)「櫻葉區及近傍村落之圖」 仙台市博物館所蔵



5. 明治26年(1893)「仙台市測量全圖」 仙台市歴史民俗資料館所蔵

第4図 絵図・地図における調査区周辺(○が調査区付近) (註1)

註1：高倉淳ほか編「図説・地図で見る仙台 第一編」今野印刷株式会社、1994  
高倉淳ほか編「図説・地図で見る仙台 第二編」今野印刷株式会社、2005



第5図 周辺遺跡分布図

番号	遺跡名称	時代	所在地	性格	番号	遺跡名称	時代	所在地	性格
1	仙台城跡	中世・近世	青葉区川内・荒巻	城跡跡	16	愛宕山横穴墓群B・C地点	古墳末・奈良	太白区向山4丁目他	横穴墓
2	川内A遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山2丁目	武家屋敷・散布地	17	大年寺山横穴墓群	古墳後期	太白区向山4丁目	横穴墓
3	川内B遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山	武家屋敷・散布地	18	八木山跡町遺跡	縄文・奈良・平安	太白区八木山跡町	散布地
4	桜ヶ岡公園遺跡	縄文・近世	青葉区桜ヶ岡公園	武家屋敷・散布地	19	萩ヶ丘遺跡	縄文早・奈良	太白区萩ヶ丘	散布地
5	萩ヶ岡伊達家墓所	近世	青葉区墓塚下	墓所	20	土樋遺跡	縄文	青葉区土樋1丁目	散布地
6	大年寺跡	近世	太白区茂ヶ崎1丁目	墓所	21	向山高貴遺跡	縄文中期	太白区八木山跡町	散布地
7	長掛寺板碑	中世	青葉区向山2丁目	板碑	22	青葉山正遺跡	縄文早・中・晩・弥生・平安	青葉区荒巻字青葉	包蔵地
8	川内古碑群	中世	青葉区川内・荒巻	板碑	23	青葉山曲遺跡	縄文早・中・弥生・古代	青葉区荒巻字青葉	包蔵地
9	片平稲作大神宮の板碑	中世	青葉区片平1丁目	板碑	24	松ヶ丘遺跡	縄文	太白区八木山本町1丁目	散布地
10	藤不動尊文十右衛門板碑	中世	青葉区立廻町	板碑	25	二ツ沢遺跡	縄文	太白区八木山弥生町	散布地
11	茂ヶ崎城跡	中世	太白区茂ヶ崎1丁目他	城跡跡	26	萩ヶ丘遺跡	縄文	太白区萩ヶ丘・長瀬	散布地
12	青山二丁目遺跡	奈良・平安	太白区青山2丁目	散布地	27	青山二丁目遺跡	旧石器・縄文	太白区青山2丁目	散布地
13	茂ヶ崎横穴墓群	古墳末・奈良	太白区二ツ沢	横穴墓群					
14	二ツ沢横穴墓群	古墳	太白区二ツ沢	横穴墓群					
15	愛宕山横穴墓群A地点	古墳末	太白区向山4丁目他	横穴墓					

第1表 遺跡地名表

## 第3章 調査方法

### (1) 調査方法

調査方法は東北大学のアスファルト・盛土層（Ⅰ層）および部分的に第二師団整地層（Ⅱ層）を残しながら重機により表土除去を行い、以下は人力により調査を実施した。調査区を、現地表面で確認できる段差を基準にⅠ～Ⅲ区に分け、西側の最も高い地区をⅠ区、中央をⅡ区、東側の最も低い地区をⅢ区とし、調査を行った。

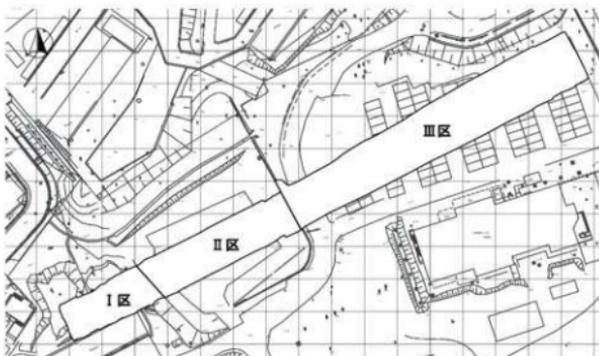
計測作業は日本測地系座標に基づいて既知点を利用し、また使用容易な箇所に基準点を新設し、グリッドを設置した。遺構平面図、遺構断面図はトータルステーションとデジタル写真および手実測を併用して図化を行った。写真撮影に使用した機器は、35mm版およびデジタルカメラ（500万画素以上）を併用した。調査前、遺構検出状況、土層断面、完掘、調査区全景等をカラーポジ、モノクロの2種類で撮影した。また、デジタルカメラでは同様の調査写真のカットを撮影した他、作業状況なども撮影し、調査日誌に添付するなどして、日々変化する遺跡の状況を記録した。その他、調査区全景撮影においては、調査期間中に20mの高所作業車を使用し、撮影を行った。出土遺物は出土年月日順に番号を付け、遺構別、グリッド別、層位別に取り上げ、登録を行った。出土遺物のうち、報告書掲載資料及び観察資料に関しては、新たに遺物登録番号を付記した。遺物の実測に関しては、手実測と正射投影のデジタル画像を併用して実測図の作成を行った。

### (2) 調査区グリッドの設定

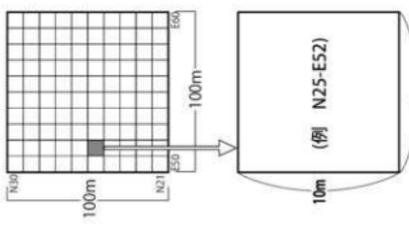
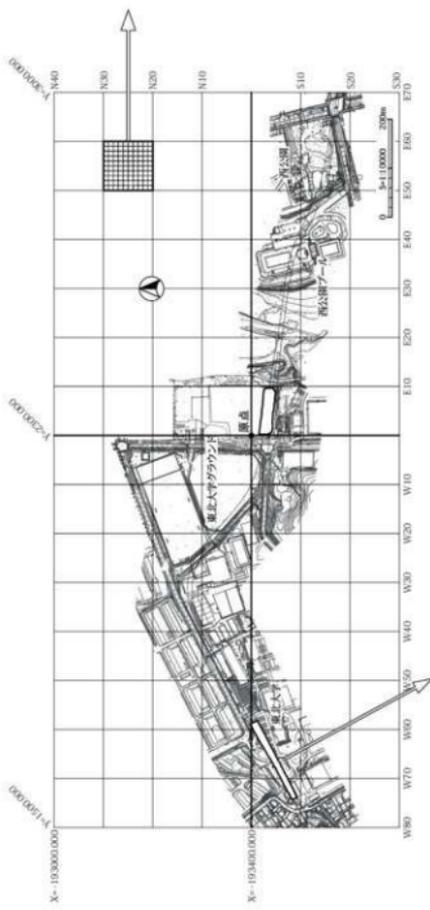
高速鉄道東西線予定路線内に係わる川内地区、青葉山地区、西公園地区の全域を網羅するグリッドを設定した。川内A遺跡（平成17年度本調査実施）の北西部に原点（日本測地系・X=-193400m、Y=2300m）を求め、グリッドの単位は10m×10mとした。グリッドの名称は原点から、Y軸は北方向をN、南方向をSとし、X軸は東方向をE、西方向はWとし、原点からの方向と距離によりN1-E1グリッド（北へ0m～10m、東へ0m～10m）、S2-W2グリッド（南へ10m～20m、西へ10m～20m）等とし、表記した。

### (3) 遺構名称について

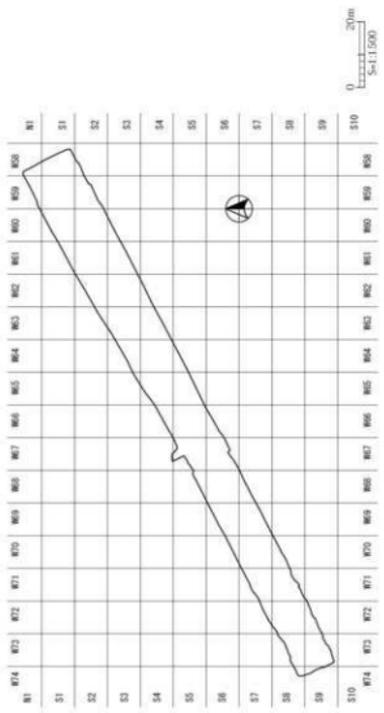
遺構番号は遺構の種類毎に、検出順に通し番号を付した。遺構の種類を表す略号は凡例に示した通りである。略号を設定していない遺構として、池、石垣、道路状遺構、土手状遺構、柵状遺構等は漢字表記を行った。また、ピット、土坑、溝の一部は報告書整理の段階で並ぶものを抽出し、柱列と認定できたものについては現場段階の遺構番号を変更・再登録を行った。



第6図 調査区設定図（1：1500）



調査用グリッドは日本測地系に基づき図中の●を原点とし、10m×10mに設定した。



第7図 グリッド設定図

## 第4章 調査区基本層序

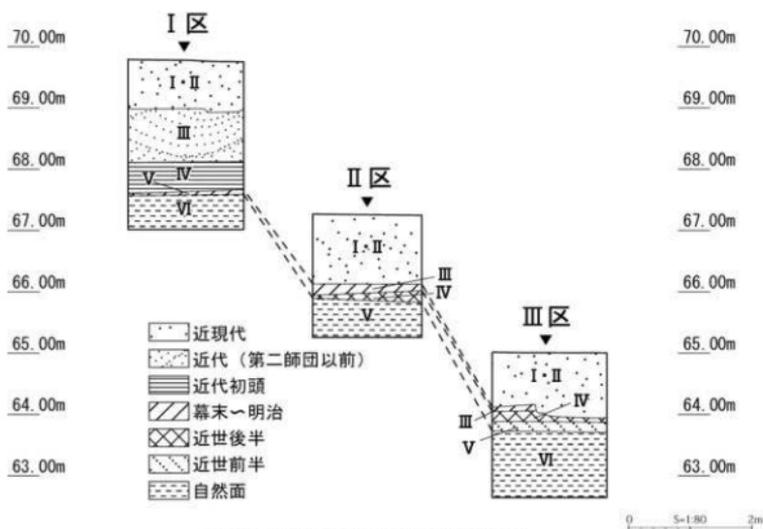
調査区の基本層序は、各調査区において堆積状況が異なることからⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区で個別に層名をつけている。以下、それぞれの基本層序について述べ、それぞれの対応関係については第8図に示した。

Ⅰ区の基本層は大別6層、細別36層が確認されている。Ⅰ層は東北大学造成の盛土・整地層、Ⅱ層は陸軍第二師団による盛土・整地層である。Ⅰ層、Ⅱ層はⅡ区、Ⅲ区においても同様の土層が確認されている。Ⅰ区の調査においては、埋喪が検出されたため(1号埋喪)、部分的にⅡ層上面から調査を行った。Ⅱ層はさらに3層に細別される。Ⅲ層以下は近世以前～近代初頭の土層である。Ⅲ層は砂質シルトを主体とし、シルト質砂、粗砂、礫を多量に含む層で、さらに18層に細分される。調査区の南西側から、北東方向に向かって大規模な盛土がなされたと考えられる。層厚は最大で1.3mを測る。出土遺物、検出遺構などから近代初頭～第二師団設置前の年代が考えられる。Ⅳ層は砂質シルトを主体とした土層からなり、一部シルト質の強い土層を含む。さらに6層に細分される。層厚は40～50cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近代初頭の年代が考えられる盛土・整地層である。Ⅴ層は褐色～暗褐色のシルト層からなる。さらに3層に細分される。層厚は10～30cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近世末頃の年代が考えられる盛土・整地層である。Ⅵ層は自然堆積層で、下部では仙台上町段丘の段丘礫層が確認された。

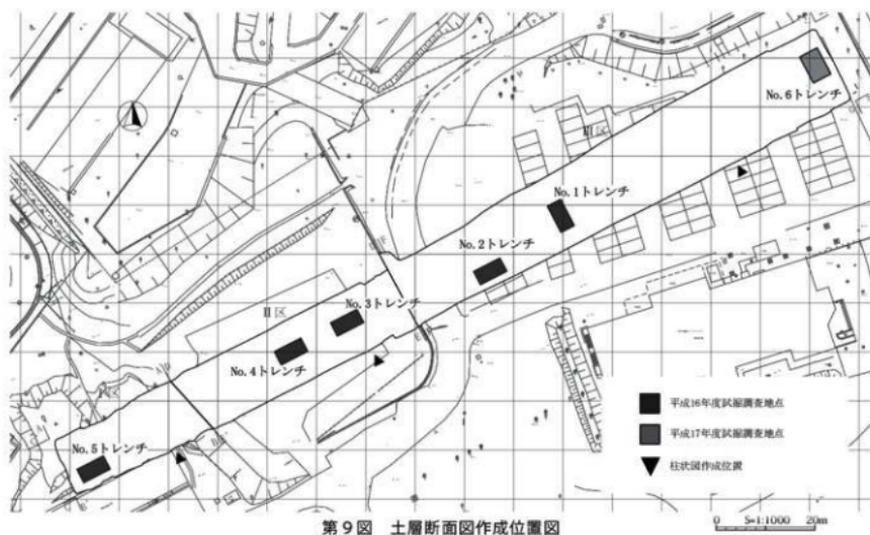
Ⅱ区の基本層は大別5層、細別8層が確認されている。Ⅰ層、Ⅱ層についてはⅠ区と同様の近現代の盛土層である。Ⅲ層以下は近世以前～近代初頭の土層である。Ⅲ層は褐色灰色シルト層からなり、層厚は8～20cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近代初頭の年代が考えられる盛土・整地層である。Ⅳ層は褐色シルト層からなり、さらに2層に細分される。層厚は10～25cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近世後半の年代が考えられる盛土・整地層である。Ⅴ層は自然堆積層で、Ⅰ区と同様に下部では仙台上町段丘の段丘礫層が確認された。

Ⅲ区の基本層は大別6層、細別16層が確認されている。Ⅰ層、Ⅱ層についてはⅠ区と同様に近現代の盛土層である。Ⅲ層以下は近世以前～近代初頭の土層である。Ⅲ層は黄灰色のシルト質砂からなる薄層で、層厚は6～10cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近世末～近代初頭の年代が考えられる整地層である。Ⅳ層は砂質シルトを主体とした土層からなり、さらに3層に細別される。層厚は20～60cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近世後半の年代が考えられる盛土・整地層である。Ⅴ層はシルト～砂質シルトからなり、さらに3層に細別される。層厚は15～30cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近世前半の年代が考えられる盛土・整地層である。Ⅳ層とⅤ層は、調査区の東側に顕著にみられ、西側では大部分が攪乱され残っていない。Ⅵ層は自然堆積層で、さらに7層に細別される。Ⅵc層には10世紀前半に降下した十和田a火山灰が含まれていた。Ⅲ区の東側ではⅢ層、Ⅳ層、Ⅴ層の残りが比較的良好であり、指標テフラの検出および縄文土器の出土が認められた。

各調査区において確認された基本層序の対応関係は、Ⅰ区Ⅴ層⇔Ⅱ区Ⅲ層⇔Ⅲ区Ⅲ層、Ⅱ区Ⅳ層⇔Ⅲ区Ⅳ層、Ⅰ区Ⅵ層⇔Ⅱ区Ⅴ層⇔Ⅲ区Ⅵ層となっている(第7図)。



第8図 各調査区柱状図および対応関係図



第9図 土層断面図作成位置図

## I 区壁面土層注記

層名	色調	土質	粘性	しまり	取人物・備考
I	10YR2/2	黒褐色	シルト質砂	なし	互層多量、黄褐色土粒少量、暗褐色シルトとの混合土
II a	10YR6/8	明黄褐色	砂質シルト	あり	黄褐色土粒・径5～10cm以下の礫多量
II b	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
II c	2.5Y6/1	黄灰色	砂質シルト	なし	灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
II d	10YR4/1	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり 灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
III a	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 浅黄褐色砂質シルトブロック、5cm以下礫少量
III b	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 3cm程度の礫少量
III c	10YR4/1	褐色灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり 10～20cmの礫少量
III d	5Y7/4	浅黄色	シルト質砂	なし	ややあり 粗砂多量、10cm程度の礫微量
III e	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	ややあり 粗砂・褐灰色砂質シルト多量、5cm程度の礫微量
III f	10YR6/1	褐灰色	シルト質砂	なし	ややあり 粗砂多量、5～10cmの礫少量
III g	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり 粗砂・1～3cmの礫多量
III h	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 3cm程度の礫少量
III i	2.5Y7/3	浅黄色	砂質シルト	あり	あり 3～5cmの礫少量
III j	10YR4/1	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり 灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
III k	2.5Y8/2	灰白色	砂質シルト	あり	ややあり 炭化物粒・10cm程度の礫微量
III l	2.5Y6/1	黄灰色	砂質シルト	なし	なし 灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
III m	10YR4/1	褐色灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり 10～20cmの礫少量
III n	10Y5/1	褐灰色	砂質シルト	あり	あり 炭化物粒・10cm程度の礫微量
III o	2.5Y6/1	黄灰色	砂質シルト	なし	なし 灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
III p	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	あり	ややあり 炭化物粒多量、10cm程度の礫微量
III q	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり 灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
III r	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	ややあり 粗砂・褐灰色砂質シルト多量、5cm程度の礫微量
IV a	10YR6/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり 炭化物粒・3cm程度の礫微量
IV b	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり 径10cm以下の礫多量
IV c	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり 径10cm以下の礫多量
IV d	10YR5/1	褐灰色	シルト	ややあり	あり 径3cm以下の礫少量
IV e	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	あり 径10cm以下の礫多量
IV f	7.5YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり 径10cm以下の礫多量
V a	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり 砂粒多量
V b	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり 径10cm以下の礫多量
V c	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	ややあり	あり 径10cm以下の礫多量
VI a	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり 自然堆積層 1～3cm程度の礫微量
VI b	10YR7/3	砂質シルト	砂質シルト	ややあり	ややあり 自然堆積層 1～3cmの礫
VI c	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂礫	なし	ややあり 自然堆積層(段丘礫層) 粗砂と1～3cm程度の礫からなる

## II 区壁面土層注記

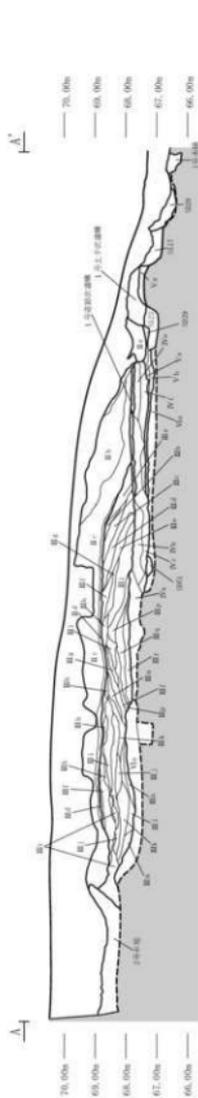
層名	色調	土質	粘性	しまり	取人物・備考
I	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	なし 互層多量、黄褐色土粒少量、暗褐色シルトとの混合土
II	10YR5/6	黄褐色	シルト	あり	あり 黄褐色土粒・径5～10cm以下の礫多量
III	10YR5/1	褐灰色	シルト	なし	あり 径3cm以下の礫少量
IV a	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり 砂や砂多量
IV b	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり 径10cm以下の礫多量
V a	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	なし 自然堆積層 径10cm以下の礫少量
V b	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり 自然堆積層
V c	10YR5/1	褐灰色	砂礫	なし	なし 自然堆積層(段丘礫層)

## III 区壁面土層注記

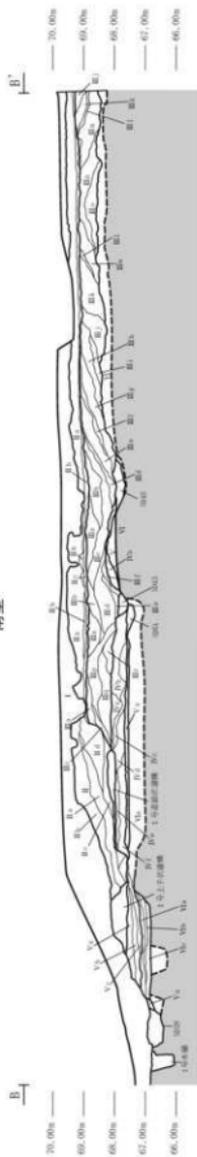
層名	色調	土質	粘性	しまり	取人物・備考
I	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	なし 互層多量、黄褐色土粒少量、暗褐色シルトとの混合土
II	10YR5/6	黄褐色	シルト	あり	あり 黄褐色土粒・径5～10cm以下の礫多量
III	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質砂	なし	あり 砂粒、1～2cmの礫少量
IV a	2.5Y5/2	暗黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 粗砂多量、5cm程度の礫微量
IV b	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり 粗砂、5cm程度の礫多量
IV c	7.5YR4/4	褐色	シルト	あり	あり 5～10cmの礫
V a	10YR2/2	黒褐色	シルト	あり	あり 白色砂粒
V b	10YR5/1	褐灰色	シルト	ややあり	ややあり 炭化物粒微量
V c	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり 3～10cmの礫少量
VI a	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり 自然堆積層 白色砂粒
VI b	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	ややあり 自然堆積層 砂粒多量
VI c	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり 自然堆積層 十和田火山灰を含む
VI d	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	あり	あり 自然堆積層 砂粒・1～2cmの礫少量
VI e	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり 自然堆積層 砂粒・3～8cmの礫少量
VI f	10YR4/1	褐灰色	シルト質粘土	あり	あり 自然堆積層 段丘礫層上のローム層
VI g	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂礫	なし	ややあり 自然堆積層(段丘礫層) 粗砂と1～3cm程度の礫からなる

第2表 調査区基本土層注記表

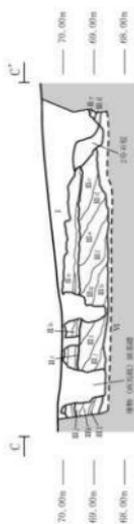
### 北壁



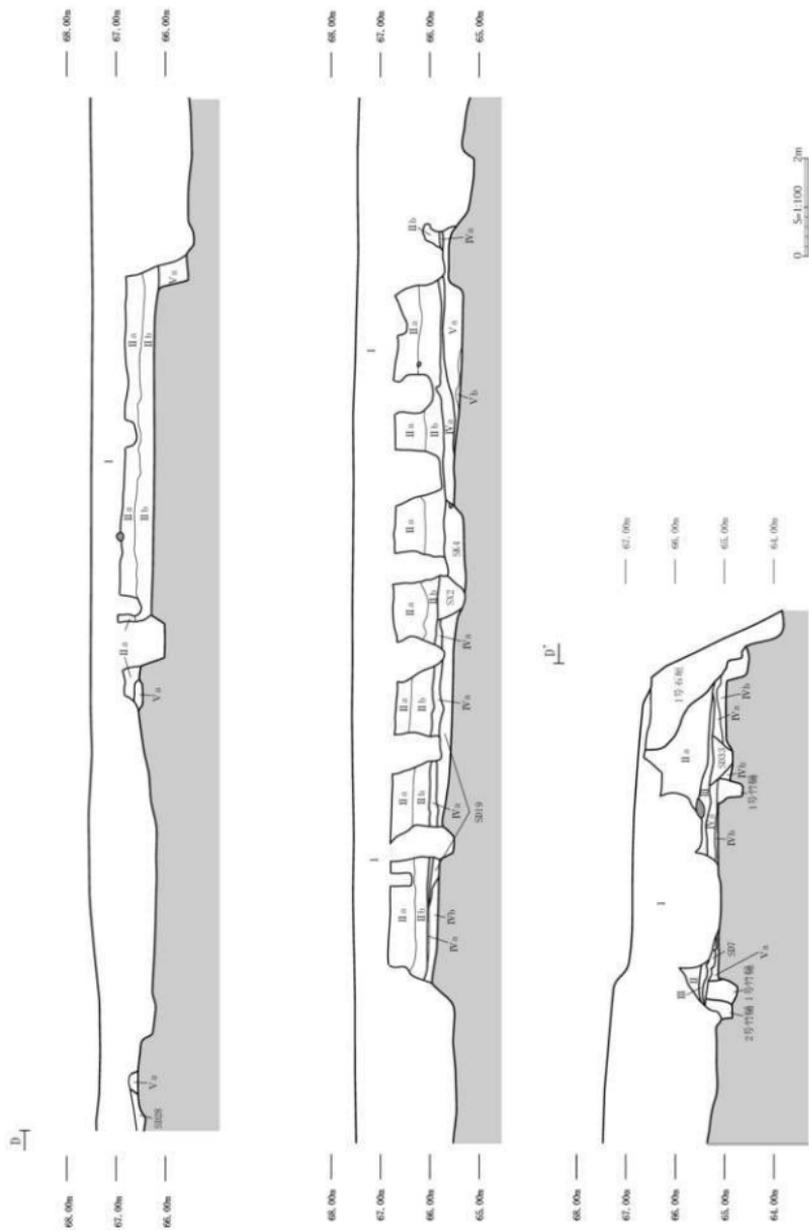
### 南壁



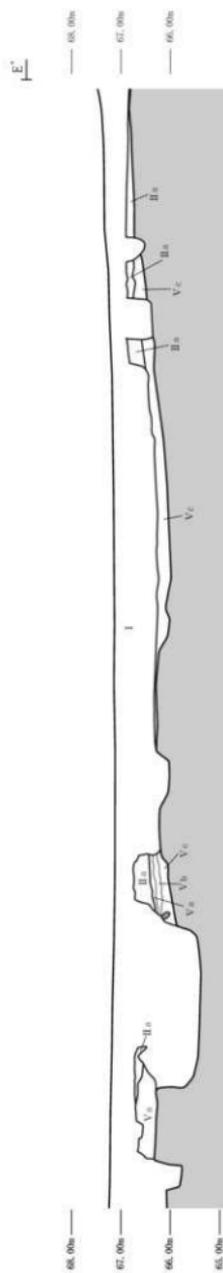
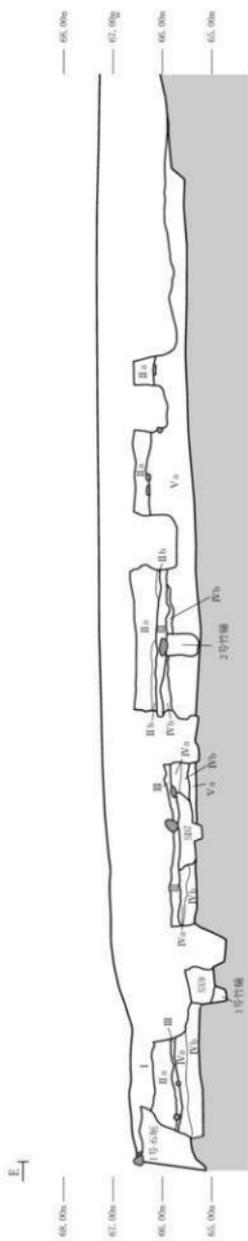
### 西壁



第10图 I区 壁剖面图

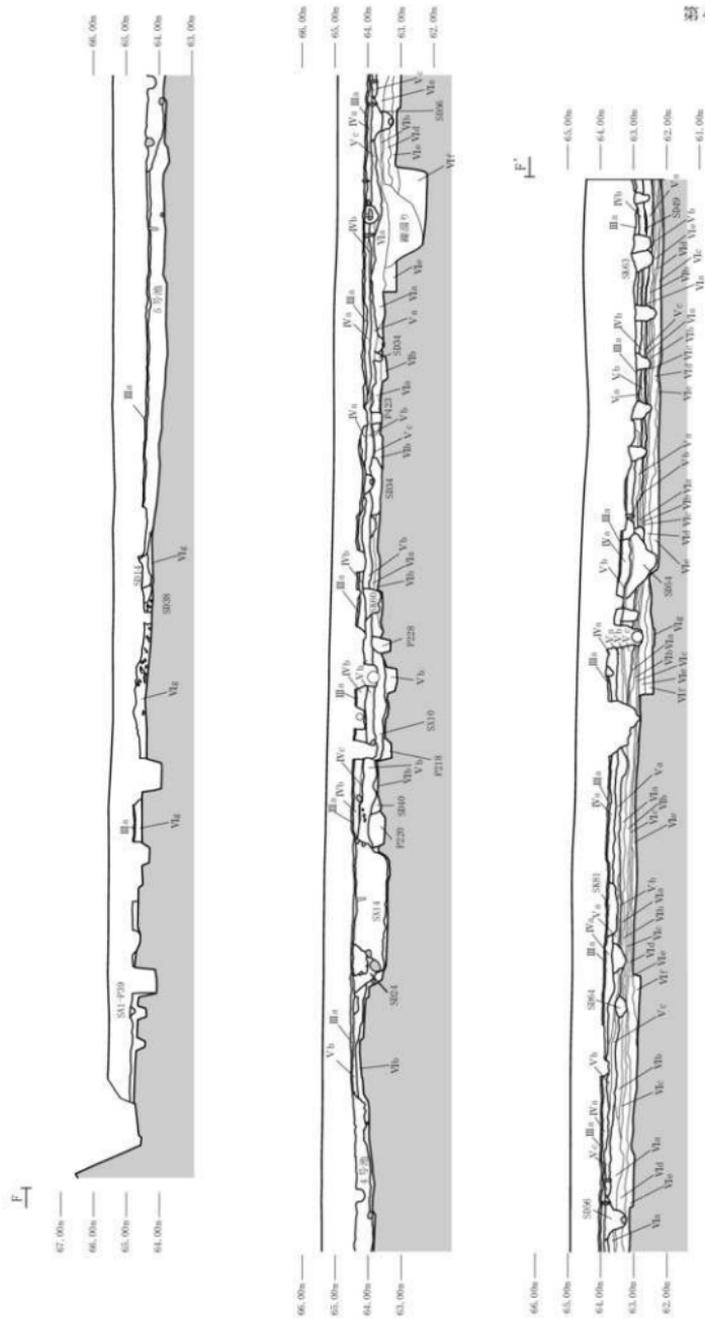


第11図 II区 北壁断面図

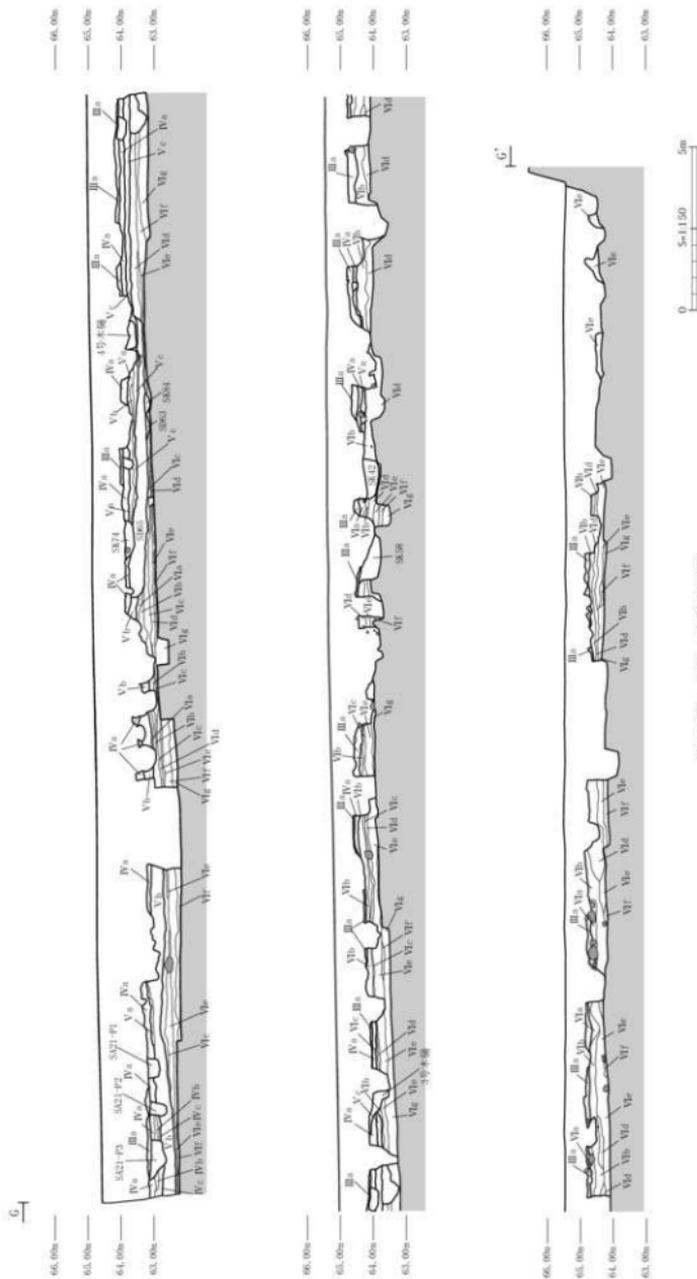


0 5:1 100 2m

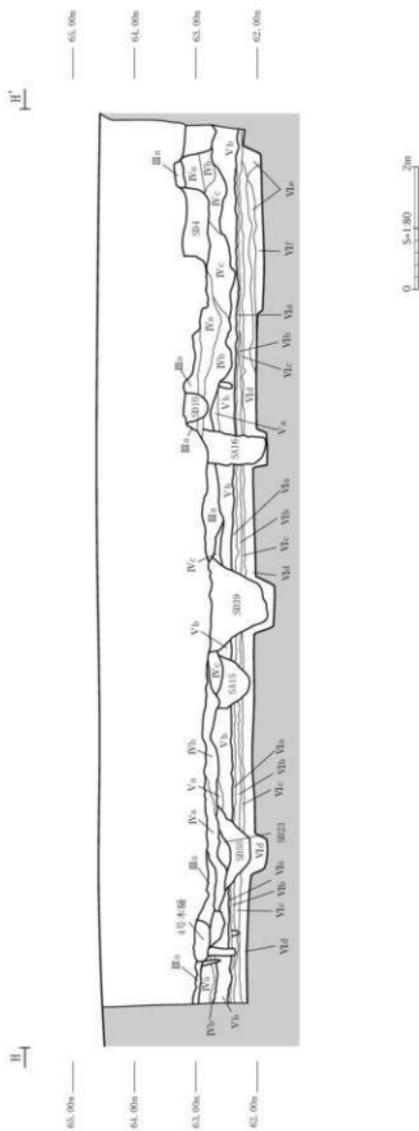
第12图 II区 南壁断面图



第13图 III区 北壁断面图



第14图 川区 南壁断面图



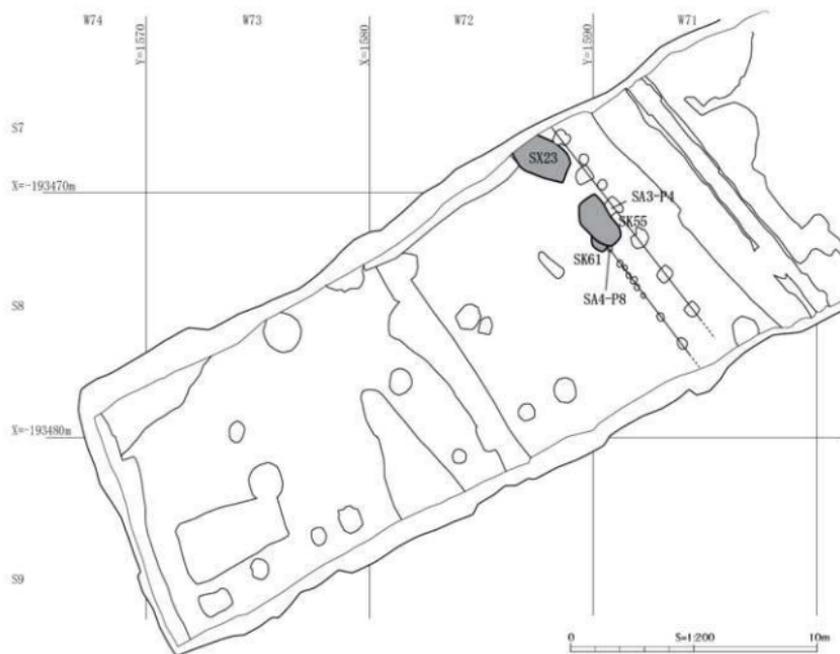
第15图 III区 東壁断面図

## 第5章 検出遺構と遺物

### 第1節 Ⅰ区

#### 1 VI層上面

VI層上面で検出された遺構は、土坑2基、その他の遺構1基の計3基である。



第16図 Ⅰ区 VI層上面遺構配置図

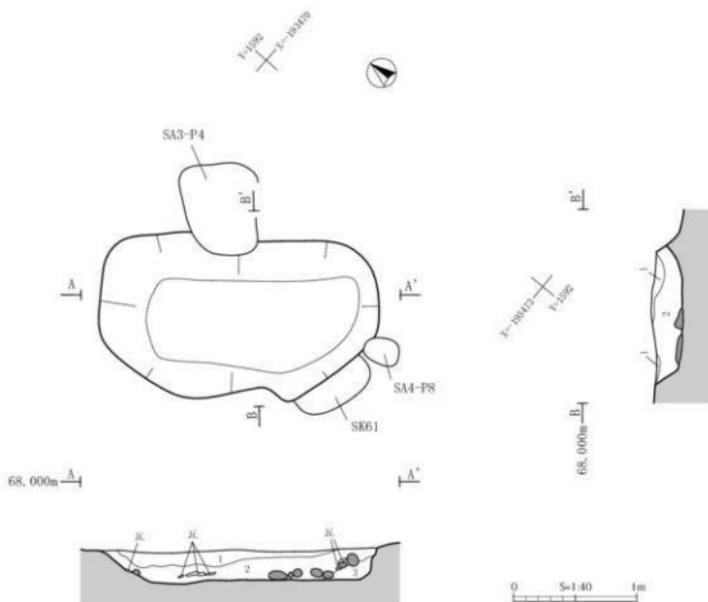
#### (1) 土坑

##### 1) SK55土坑 (第17～21図、図版13-1～4)

S8-W71・S8-W72グリッドに位置する。SK61を切り、SA4-P8、SA3-P4によって壊される。

確認された規模は長軸2.3m、短軸1.35m、深さ24cmを測る。平面形は不整隅丸方形で、断面形は皿状を呈する。堆積土は黄褐色土、褐色土からなり、瓦・礫を多く含み人為的に埋め戻されたと考えられる。

遺物は陶磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦、金属製品、漆漉し布が出土している。第18図-1は堤産の鉄軸乗燭で、19世紀前半の年代が考えられる。第18図-2は肥前産の染付碗で、内面には赤色顔料を含む漆が付着しており、漆を塗る際にパレットとして使用したものと思われ、18世紀代の年代が考えられる。第21図-1～12は漆漉し布で、1・2は赤漆を漉したもので、3～12は漆液の不純物を取り除くために使用したものと考えられる。



SK55 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR6/8	明黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	径 3cm 以下の褐色シルトブロックを斑状に少量
2	10YR4/1	褐色灰色	シルト	ややあり	ややあり	こぶし大以上の礫・径 5mm 以下の炭化物微量、瓦多量
3	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	ややあり	黄褐色シルト粒多量、褐色シルト粒少量

第17図 SK55 土坑 平面図・断面図

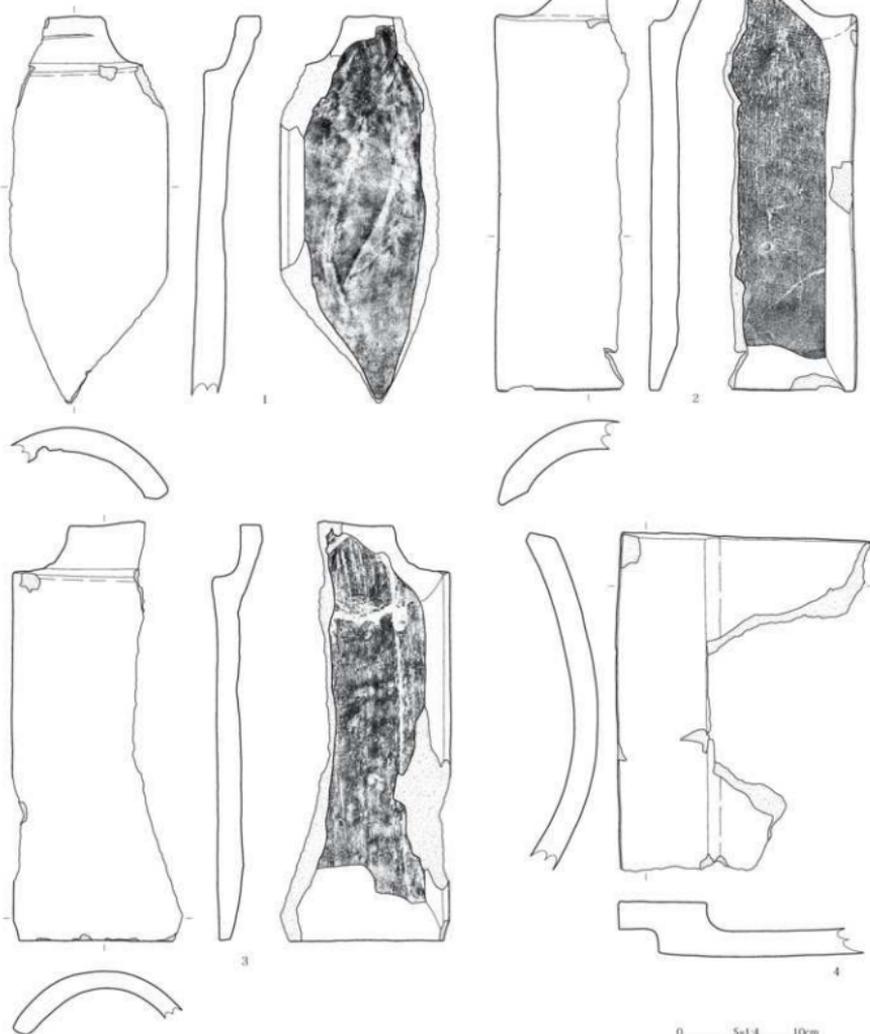


SK55 土坑 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
18-1	85-1	S8-W71・72	陶器	茶碗	L縁・底部	織密	鉄軸	5.1	3.4	1.5	埴	19世紀前半		I-47
		SK55 2層												
18-2	85-2	S8-W71・72	磁器	碗	L縁・底部	織密	染付草花文	10.4	3.8	5.8	肥前	18世紀	内面に赤漆付着	J-28
		SK55 2層												

第18図 SK55 土坑 出土遺物

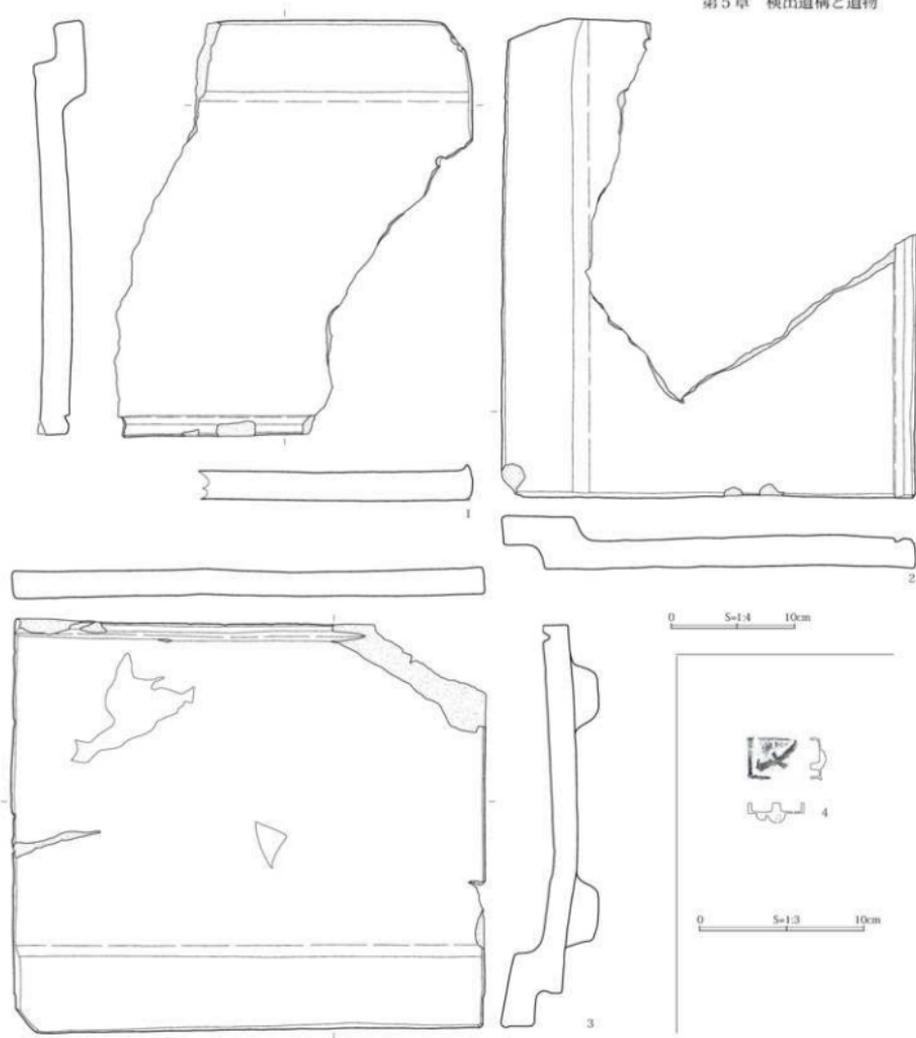
第1節 1区



SK55 土坑 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	フリット 番号・部位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
19-1	85-3	S8-W71・72	丸瓦	31.6	12.8	2.2		F-1
		SK55 2割						
19-2	85-4	S8-W71・72	丸瓦	33.8	10.8	2.2		F-2
		SK55 2割						
19-3	85-5	S8-W71・72	丸瓦	34.4	33.8	2		F-3
		SK55 2割						
19-4	85-6	S8-W71・72	楕瓦	27.6	20.4	2		H-3
		SK55 2割						

第19図 SK55 土坑 出土遺物



SK55 土坑 出土遺物観察表 (瓦)

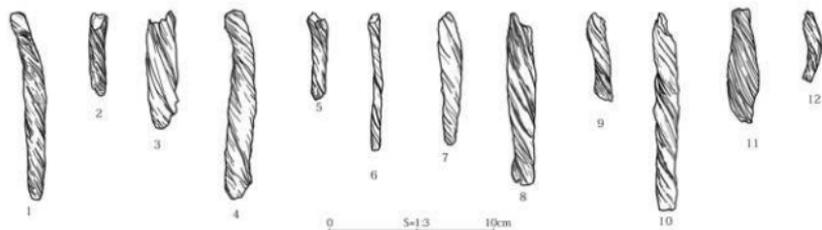
図版番号	写真図版番号	フリット 遺構・層位	種類	法量 [cm]			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
20-1	85-7	SR-W71・72	板御瓦	33.8	22.6	2.4	溝あり	H-17
20-2	85-8	SK55 2層 SR-W71・72	板御瓦	39.2	33.6	2.6	溝あり	H-18
20-3	86-1	SK55 2層 SR-W71・72	板御瓦	33.8	38.6	2.2	溝あり	H-19

SK55 土坑 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	フリット 遺構・層位	種別	部位	法量 [cm:g]			備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ		
20-4	86-2	SR-W71・72 SK55 2層	飾り金具		(2.55)	(2.7)	0.3	16.01	N-1

第20図 SK55 土坑 出土遺物

第1節 Ⅰ区



SK55 土坑 出土遺物観察表(布)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)		備 考	登録番号
				長さ	幅		
21-1	86-3	S8-W71・72 SK55 2層	織し布	11.4	1.5	赤色顔料付着	R-2
21-2	86-4	S8-W71・72 SK55 2層	織し布	5.3	1.1	赤色顔料付着	R-7
21-3	86-5	S8-W71・72 SK55 2層	織し布	7.2	1.9		R-1
21-4	86-6	S8-W71・72 SK55 2層	織し布	11.6	1.8		R-3
21-5	86-7	S8-W71・72 SK55 2層	織し布	4.8	1		R-4
21-6	86-8	S8-W71・72 SK55 2層	織し布	8.7	0.6		R-5
21-7	86-9	S8-W71・72 SK55 2層	織し布	8.3	1.5		R-6
21-8	86-10	S8-W71・72 SK55 2層	織し布	10.7	1.8		R-8
21-9	86-11	S8-W71・72 SK55 2層	織し布	5.5	1.2		R-9
21-10	86-12	S8-W71・72 SK55 2層	織し布	12.3	1.9		R-10
21-11	86-13	S8-W71・72 SK55 2層	織し布	7	1.9		R-11
21-12	86-14	S8-W71・72 SK55 2層	織し布	4.4	0.9		R-12

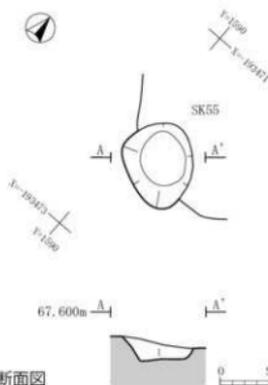
第21図 SK55 土坑 出土遺物

2) SK61 土坑 (第22図、図版13-5～6)

S8-W71・S8-W72グリッドに位置する。北側の上部をSK55によって壊される。

確認された規模は長軸70cm、短軸56cm、深さ20cmを測る。平面形は不整楕円形が推定され、断面形は開いたU字形を呈するものと思われる。堆積土は褐灰色砂質シルトの単層で、礫少量、酸化鉄を多量に含む人為的埋め戻し土と考えられる。

遺物は出土していない。



SK61 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	肌	色				
1	10YR5/1	褐色	砂質シルト	なし	あり	径5cm以下の礫少量、酸化鉄多量

第22図 SK61 土坑 平面図・断面図

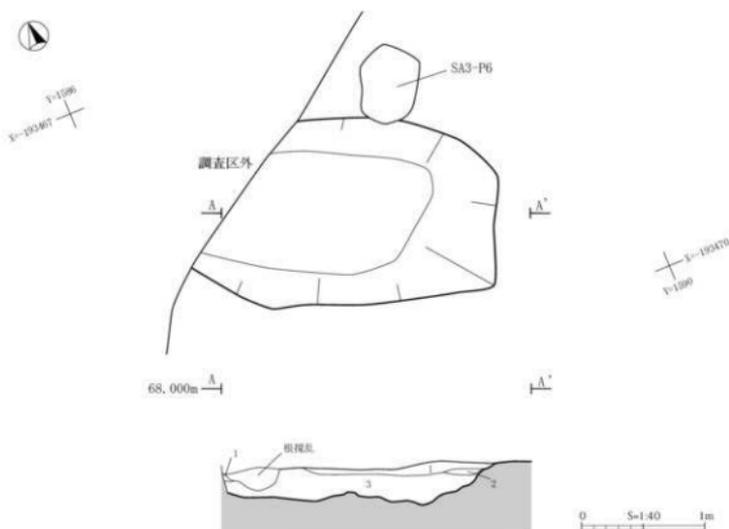
## (2) その他の遺構

## 1) SX23 性格不明遺構 (第23図、図版13-7～8)

S7-W72 グリッドに位置する。北側をSA3-P6に切れ、西側は調査区外へ延びる。

確認された規模は長軸2.2m、短軸1.5m、深さ40cmを測る。平面形は不整隅丸方形が推定され、断面形は底面に凹凸のある皿状を呈する。堆積土は黒褐色、灰褐色、褐灰色の砂質シルトからなり、断面の観察から自然堆積したものと考えられる。

遺物は肥前産の陶磁器、丸瓦、平瓦が少量出土しているが細片のため図化し得なかった。



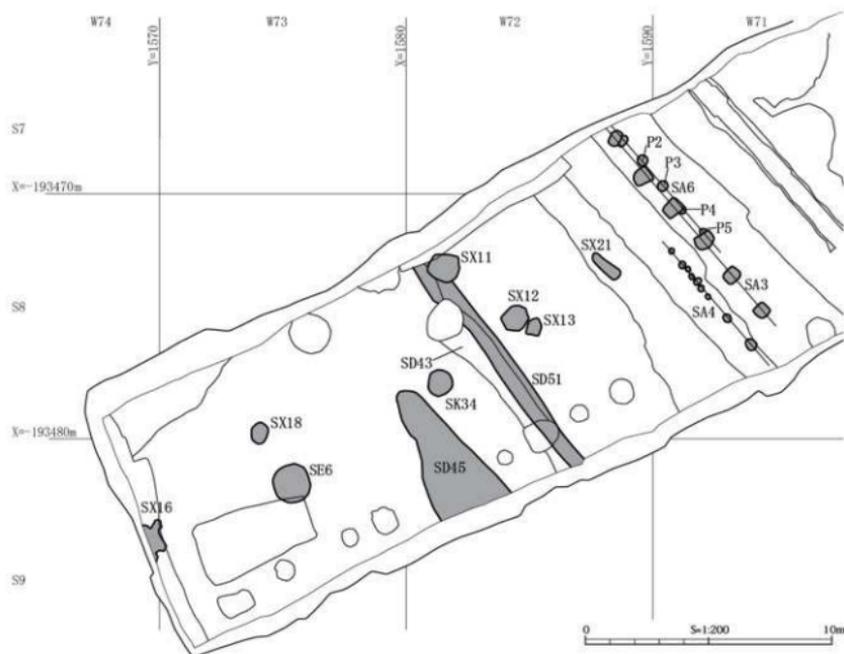
SX23 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	7.5YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径5mmの明褐色土粒少量、径5mm以下褐色ロームブロック少量
2	7.5YR4/3	灰褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径5mm以下の明褐色土粒微量
3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径5mm以下の明褐色土粒と炭化物を微量

第23図 SX23 性格不明遺構 平面図・断面図

## 2 V層上面

V層上面で検出された遺構は柱列跡3条、溝跡2条、井戸跡1基、土坑1基、その他の遺構6基である。IV層上面で確認されている土手状遺構の直下に柱列が検出された。また、炭化物の集中する箇所が調査区全体に分布していることが確認された。



第24図 Ⅰ区 V層上面遺構配置図

### (1) 柱列跡

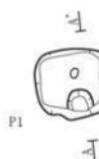
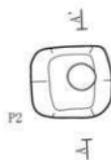
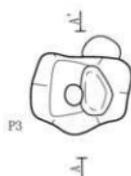
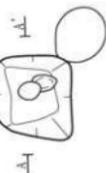
#### 1) SA3 柱列跡 (第25図、図版14-1～7・15-6)

S7-W71・S7-W72・S8-W71グリッドに位置する。南北方向に直線的に並ぶ6基の柱穴からなる。

確認された長さは9.35m、柱間寸法は南端から1.84m(6尺1寸)・1.74m(5尺7寸)・1.80m(5尺9寸)・1.88m(6尺2寸)・1.72m(5尺7寸)を測る。主軸方向はN-41°-Eを示す。南側は途切れるが、北側は調査区外へ延びる可能性がある。P3～P6はSA6と重複してこれを切る。径10～18cmの柱痕がすべてに見られ、P3・P4・P5・P6では8～40cmの川原石が根固め石として使用される。またP4では38cmの細長い川原石が礎板石として置かれている。掘り方の規模は平面が短軸30～55cm、長軸50～80cm、深さ8～40cmを測る。平面形はP2・P6が隅丸方形を、P1・P3・P4・P5が不整隅丸方形を呈する。断面形は開いたU字形が多く、皿状や方形を呈するものもある。

堆積土は1～5層の褐色シルト、黒褐色砂、灰黄褐色シルトを主体としており、砂粒、明褐色土ブロックを含む。遺物は瓦片、陶器片、金属製品等が出土しているが細片のため図化し得なかった。

X=103607  
Y=11288



X=103607  
Y=11288

68.000m A-A' P6 A-A'



68.000m A-A' P5 A-A'



68.000m A-A' P4 A-A'



68.000m A-A' P3 A-A'



68.000m A-A' P2 A-A'



68.000m A-A' P1 A-A'



0 S=1:40 1m

SA3 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		輪	色				
P1	1	7.5YR4/6	褐色	シルト	なし	なし	径5mm未満の炭化物微量
	2	7.5YR4/6	褐色	砂質シルト	なし	なし	明褐色ブロック、径5mmの暗褐色ブロック入る
	3	7.5YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒、赤褐色粒、1mm以下の炭化物少量
	2	7.5YR4/3	褐色	砂質シルト	なし	あり	砂粒、赤褐色粒、粘性のある下層のブロック少量
	4	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径15mm未満の礫はいる 砂粒、酸化鉄を含み、2層に似た土がブロック状に入る
P3	5	10YR4/6	褐色	砂質シルト	なし	ややあり	砂粒、明褐色ブロック、酸化鉄多量
	1	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	なし	径5mmの礫 砂粒多量
	2	10YR4/6	褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒、赤褐色粒多量、植物遺体少量
	3	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	なし	なし	砂粒、酸化鉄多量
P4	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	砂粒、酸化鉄、炭化物微量
	2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	砂粒、酸化鉄、炭化物微量
	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂	なし	なし	所々に隙間有り
P5	2	10YR6/6	明黄褐色	砂	なし	ややあり	明褐色ブロック少量
	3	10YR4/4	黒褐色	砂	なし	なし	赤褐色粒少量
	4	10YR4/5	黒褐色	砂	なし	ややあり	径5mm明褐色ブロック、炭化物粒少量
	5	10YR4/6	褐色	砂	なし	ややあり	明褐色ブロック、酸化鉄
	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	なし	底面より径10mmの礫 砂粒、シルト多量 鉄釘出土
P6	2	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	なし	白色粒、赤褐色粒多量
	3	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	灰白色粘質土ブロック、径1cmの黄褐色ブロック、砂粒、酸化鉄多量

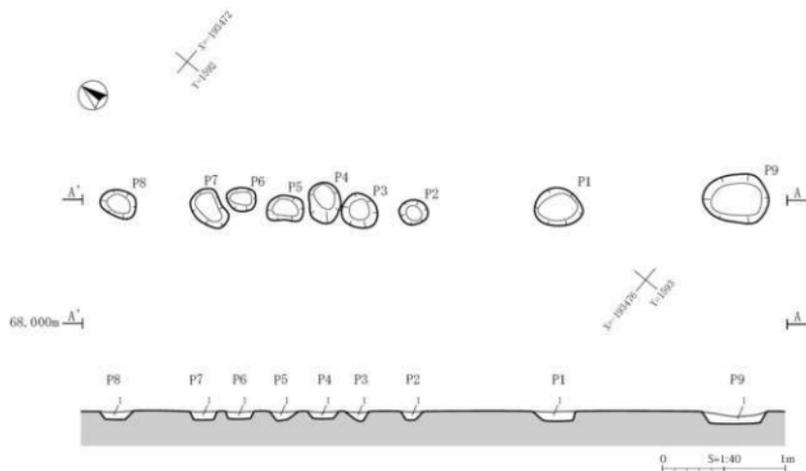
第25図 SA3 柱列跡 平面図・断面図

## 2) SA4 柱列跡 (第26図、図版15~6)

S8-W71 グリッドに位置する。南北方向に並び、間隔がまばらな9基の小穴からなる。Ⅲ層上面で確認されたSD29の底面で検出され、SA3、SA6と近い方向性を持つため、Ⅴ層上面の遺構と想定される。

確認された長さは5m、柱間寸法は南端から1.44m(4尺8寸)・1.16m(3尺8寸)・0.45m(1尺5寸)・0.28m(9寸)・0.32m(1尺1寸)・0.34m(1尺1寸)・0.30m(1尺)・0.72m(2尺4寸)と不揃いである。主軸方向はN-39°-Wを示す。北側は途切れ、南側は調査区外へ延びる可能性がある。P4とP8からは18cmの割り石が検出されるが、いずれも柱痕は見られず、柱穴と断定できる根拠は少ないが、ほぼ直線的に並ぶことから柱列として登録した。掘り方の規模は平面が短軸20cm程度、長軸40~50cm、深さ5~8cmを測る。平面形は不整形円形を呈する。断面形はいずれも浅い皿状を呈する。堆積土は灰褐色シルト~砂質シルトからなり、礫を微量含む。

遺物は出土していない。



SA4 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		地	上				
P1	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	ややあり	あり	径5cm以下の繊維量 径2cm以下の60白色土粒少量
P2	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径10cm以下の繊維量
P3	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径10cm以下の繊維量
P4	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径10cm以下の繊維量
P5	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径10cm以下の繊維量
P6	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径10cm以下の繊維量
P7	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径10cm以下の繊維量
P8	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径10cm以下の繊維量
P9	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径10cm以下の繊維量

第26図 SA4 柱列跡 平面図・断面図

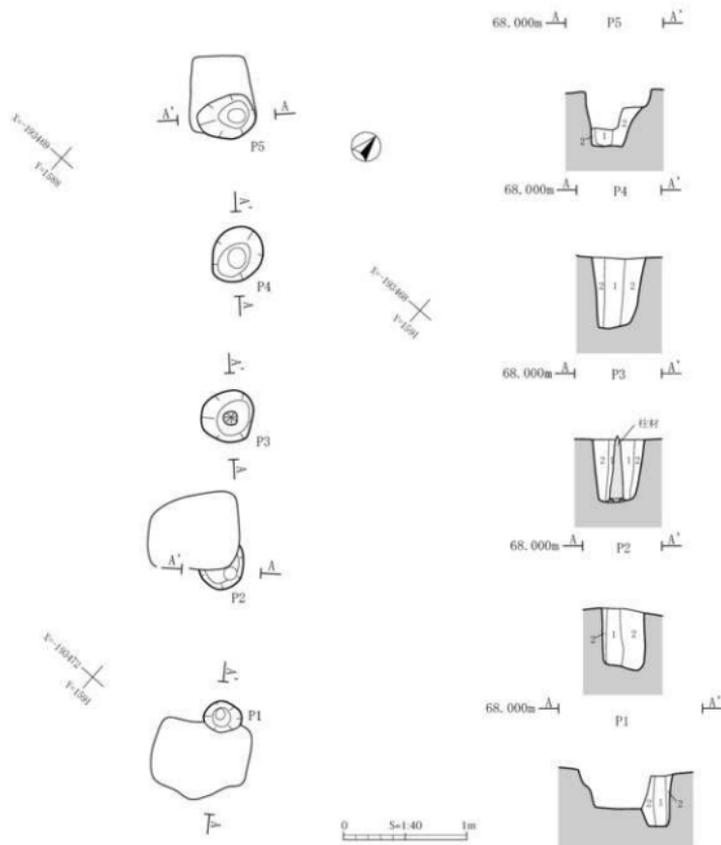
## 3) SA6 柱列跡 (第27図、図版15-6～16-4)

S7-W71・S7-W72・S8-W7 1グリッドに位置する。南北方向に直線的に並ぶ5基の柱穴からなる。

確認された長さは4.9m、柱間寸法は南端から1.14m(3尺8寸)・1.28m(4尺2寸)・1.30m(4尺3寸)・1.16m(3尺8寸)を測る。主軸方向はN-41°-Wを示す。南側は途切れるが、北側は調査区外へ延びる可能性がある。P1・P2・P4・P5はSA3と重複してこれに切られる。P3には底面近くを7角に面取りした柱材が遺存し、幅10～11cm、長さ51cmを測る。他の4基からは径10～16cmの柱痕が検出された。

掘り方の規模は短軸24～30cm、長軸40×48cm、深さ30～58cmを測る。平面形は不整形円形～不整形円形を、断面形はU字形を呈する。堆積土は2層からなり、1層は柱痕で黒褐色～にぶい黄褐色粘土質シルト～砂質シルト、2層は掘り方埋土で褐色灰黄褐色シルトである。

遺物は柱材以外、出土していない。



SA6 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No	色				
P1	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	なし	なし	柱底
	2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径3cm以下明褐色土粒少量
P2	1	10YR3/4	にぶい黄褐色	シルト	あり	なし	柱底
	2	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径3cm以下の礫少量
P3	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	柱底 断面に確、柱材の腐食によりしまりが少ない
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	ややあり	砂粒、灰褐色ブロック礫化鉄含む
P4	1	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	なし	柱底 砂粒、赤褐色土粒含む、一部腐食した木材が残る
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	砂粒、赤褐色土粒、酸化鉄、径1mmの明褐色土粒、シルト多量
P5	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	なし	なし	柱底
	2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径3cm未満明褐色土粒少量

第27図 SA6 柱列跡 平面図・断面図

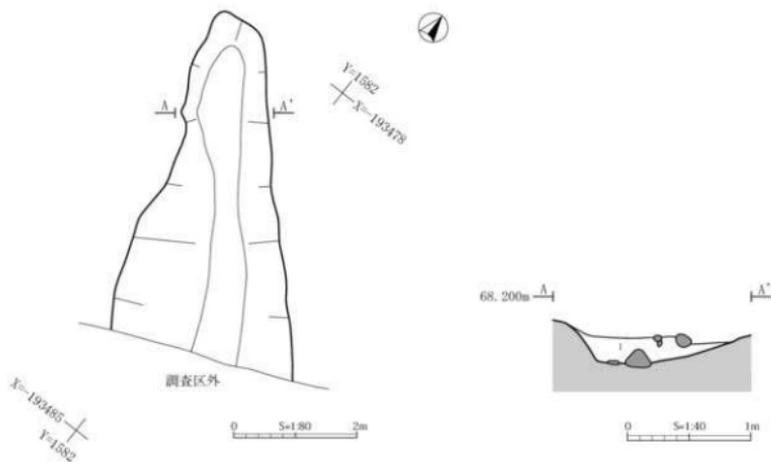
## (2) 溝跡

## 1) SD45 溝跡 (第 28 図、図版 16-5～6)

S8-W72・S8-W73・S9-W72 グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。北端は壁が立ち上がって途切れ、南側は調査区外へ延びる。

確認された規模は長さ 5.6m、幅 3m、深さ 32cm を測る。断面形は開いた U 字形を呈する。主軸方向は N-33°-W を示す。堆積土は褐灰色シルトの単層で礫、灰白色粘土ブロックを多量に含む。

遺物は瓦等が出土しているが細片のため図化し得なかった。



SD45 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	地	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	なし	径 15 cm 以下の礫・径 15 cm 以下の灰白色粘土ブロック多量

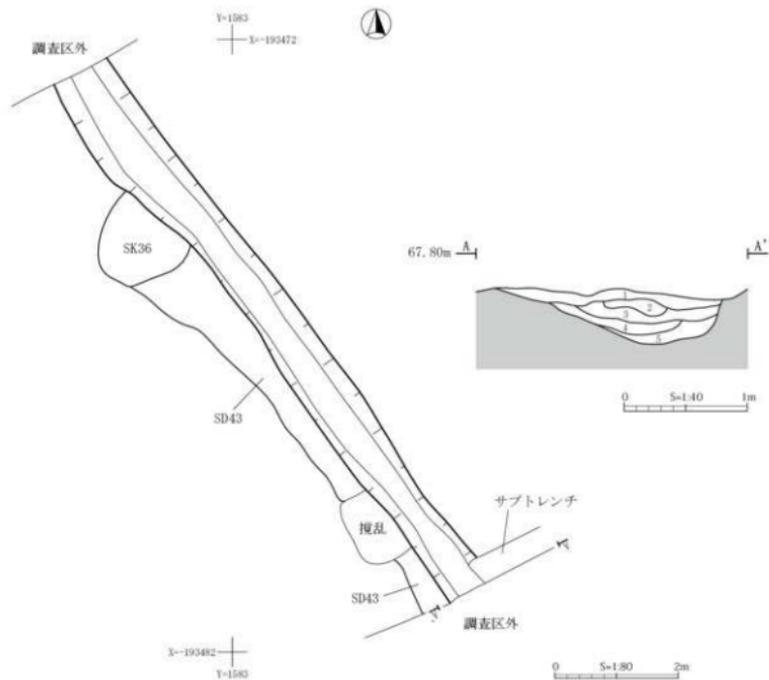
第 28 図 SD45 溝跡 平面図・断面図

## 2) SD51 溝跡 (第 29～30 図、図版 16-5・7)

S8-W72・S9-W72 グリッドに位置する。南北方向に直線的に走る素掘りの溝である。西側の上端を SK36 と SD43 に切られる。南北両側ともに調査区外に延びる。

確認された規模は長さ 10.6m、幅 72～112cm、深さ 26cm を測る。断面形は皿形を呈する。主軸方向は N-37°-W を示す。堆積土は 5 層からなり、灰色～灰黄褐色、オリーブ色の砂質シルト、粘土質シルト、シルト質砂等で、炭化物粒を微量～少量含む。

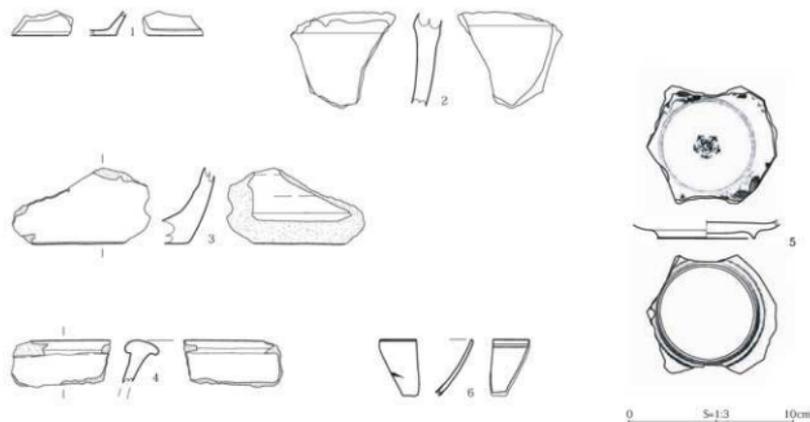
遺物は 18 世紀～19 世紀の陶磁器が出土している。



SD51 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	細	色				
1	5Y5/1	灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 5 mm の炭化物を微量
2	5Y6/2	オリーブ黄色	シルト質砂	なし	ややあり	径 5 mm の炭化物微量、酸化鉄多量
3	5Y6/1	灰色	砂質シルト	あり	なし	径 5 mm の礫を少量
4	2.5Y5/2	灰黄褐色	砂質シルト	あり	なし	径 5 mm の炭化物を微量
5	5Y6/2	灰オリーブ色	シルト質粘土	あり	なし	径 5 mm の炭化物を少量

第 29 図 SD51 溝跡 平面図・断面図



SD51 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・材目	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
30-1	86-15	S8・9-W72	陶器	焙烙	体部～底部	粗	菊軸	—	—	(1.5)	堤	19世紀	I-33	
		SD51 4層												
30-2	86-16	S8・9-W72	陶器	鹿か鉢	体部	粗	白濁軸	—	—	(5.7)	小野相馬	18世紀以降	I-34	
		SD51 4層												
30-3	86-19	S8・9-W72	陶器	鉢?	体部～底部	やや粗	—	—	—	(4.7)	不明	近世	I-226	
		SD51 5層												
30-4	86-20	S8・9-W72	陶器	鉢	口縁	やや粗	—	—	—	(2.9)	不明	近世	I-227	
		SD51 5層												
30-5	86-18	S8・9-W72	磁器	手塩皿	底部	緻密	染付菊輪曼文・五弁花	—	(5.95)	(1.1)	肥前	18世紀後半	J-19	
		SD51 5層												
30-6	86-17	S8・9-W72	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草文・團縁	—	—	(3.5)	肥前?	18～19世紀	J-20	
		SD51 5層												

第30図 SD51 溝跡 出土遺物

### (3) 井戸跡

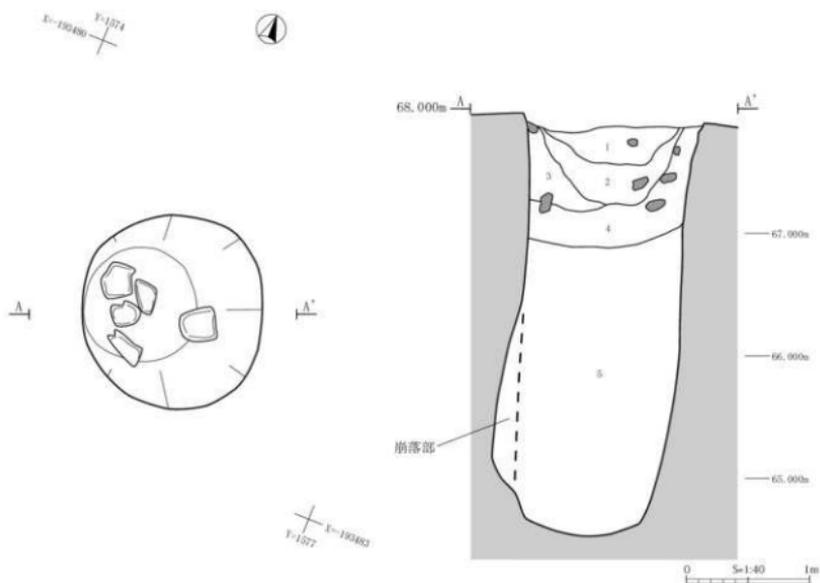
#### 1) SE6 井戸跡 (第31～32図、図版17-1～3)

S9-W73 グリッドに位置する素掘りの井戸である。平面形は円形を、断面形は筒状を呈する。

上端の径 1.5～1.6 m、深さ 3.4 m を測る。上端から下端に向かって南西方向に斜行する。井桁、井筒などの地上施設、上屋施設、井戸底の集水、浄水施設などの痕跡は検出されなかった。人力で約 1.5 m 掘り下げ土層の堆積状況を記録したが、それ以下は安全性を考慮して重機を使用して南側を掘削した。地盤、堆積土の崩落もあり、下層の堆積土はバケットですくい上げて、遺物を一括で取り上げた。

堆積土は5層の黒褐色、暗褐色、にぶい黄褐色、褐灰色の砂質シルトからなり、礫、炭化物を含む。これらは人為的埋め戻し土と考えられる。

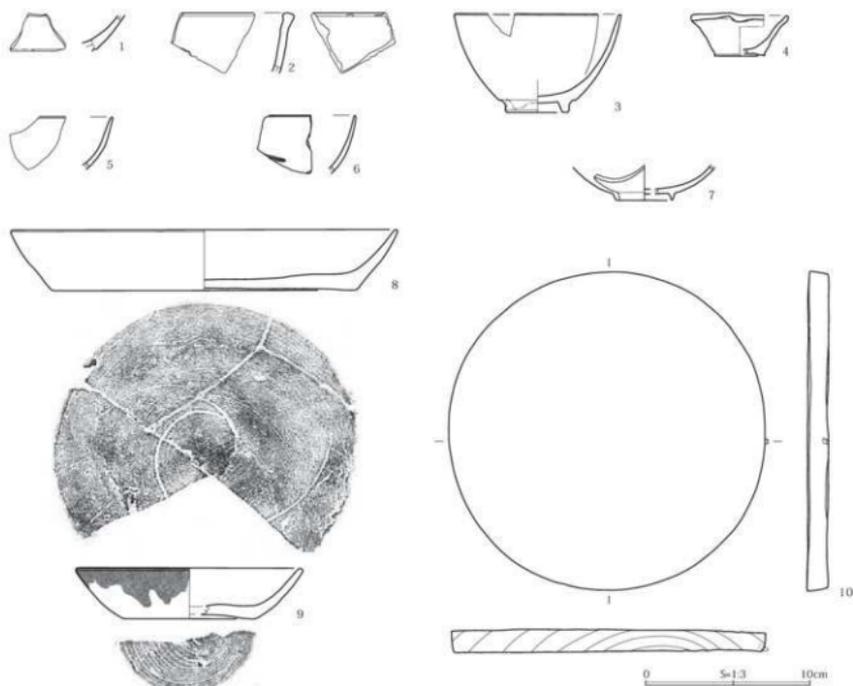
遺物は 18 世紀～19 世紀の陶磁器、土師質土器、木製品が上位の埋め戻し土中より出土している。



SE6井戸跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR4/1	褐色色	砂質シルト	ややあり	なし	径10cm以下の礫微量、径5mm以下の小粒炭化物少量
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	なし	径10cmの礫微量
3	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5mmの炭化物少量
4	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり	径15cmの礫少量、径3cmの礫やや多量
5	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	径20cm以下の礫少量、木片やや多量

第31図 SE6井戸跡 平面図・断面図



SE6 井戸跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号	
								口径	底径	器高					
32-1	87-7	S9-W73	陶器	碗	体部	密	白濁釉	—	—	(2.2)	大塚粗馬	18世紀後半		I-81	
		SE6 4層													
32-2	87-1	S9-W73	陶器	鉢か香炉	口縁~体部	やや粗	鉄釉	—	—	(3.7)	疑	19世紀代		I-82	
		SE6 4層													
32-3	87-2	S9-W73	陶器	碗	口縁~底部	密	—	(5.05)	(3.8)	6.1	大塚粗馬	19世紀前半		I-83	
		SE6 5層													
32-4	87-3	S9-W73	陶器	ミニチュア 片口	口縁~底部	やや密	—	(6.0)	(3.1)	2.6	産地不明	近世		I-84	
		SE6 5層													
32-5	87-5	S9-W73	陶器	碗	口縁~体部	密	白濁釉	—	—	(3.25)	大塚粗馬	18世紀代		I-85	
		SE6 埋土一括													
32-6	87-6	S9-W73	磁器	碗	口縁~体部	織密	染付	—	—	(3.6)	肥前	17世紀か 18世紀?		J-60	
		SE6 埋土一括													
32-7	87-4	S9-W73	磁器	碗	体部~底部	織密	白磁	—	—	(3.4)	(2.15)	肥前	近世		J-61
		SE6 4層													

SE6 井戸跡 出土遺物観察表 (土師質土器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
						口径	底径	器高				
32-8	87-8	S9-W73	土師質土器	皿	口縁~底部	23.6	18.6	3.8	在地	近世		I-224
		SE6 4層一括										
32-9	87-9	S9-W73	土師質土器	灯明皿	口縁~底部	(14.0)	(8.0)	3.1	在地	近世	煤付着	I-225
		SE6										

SE6 井戸跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
32-10	87-10	S9-W73	曲物	19.7	19.2	1.4	底板、本製または竹製の釘	L-9
		SE6 埋土一括						

第32図 SE6井戸跡 出土遺物

## (4) 土坑

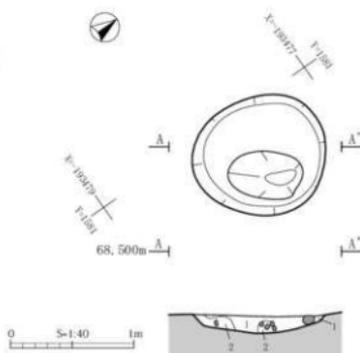
## 1) SK34 土坑 (第33図、図版17-4～5)

S8-W72 グリッドに位置する。長軸 1.1m、短軸 1m、深さ 14cm を測る。平面形は円形で、断面形は皿状を呈し、底面の東側には浅い落ち込みがある。堆積土は 2 層の砂質シルトからなり、礫を微量～少量含む褐灰色土および暗灰黄色土である。

遺物は出土していない。

SK34 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	あり	なし	径 3 cm の礫少量
2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	あり	径 5 cm の礫微量



第33図 SK34土坑 平面図・断面図

## (5) その他の遺構

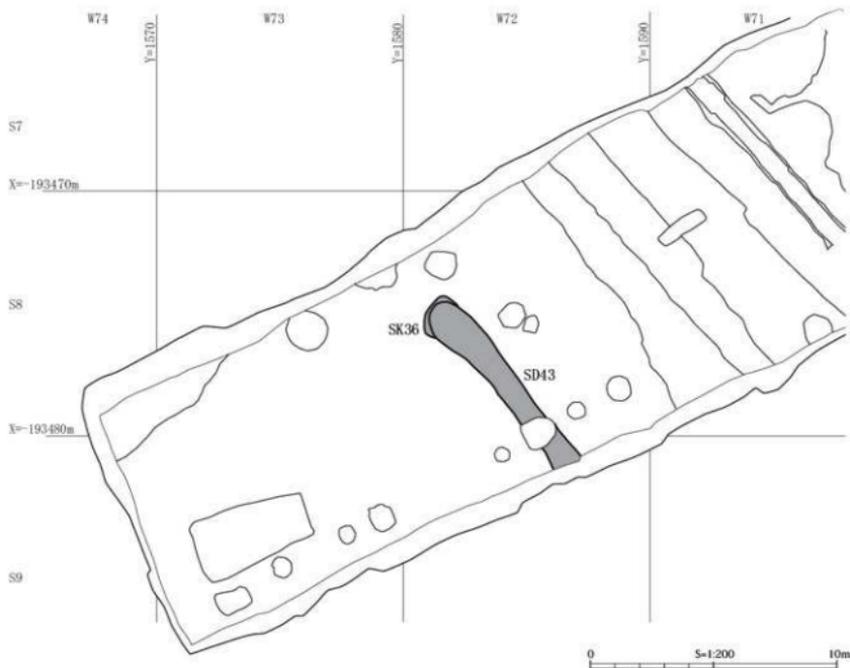
## 1) SX11・12・13・16・18・21 性格不明遺構 (第34図、図版17-6～18-3)

S8-W72・S9-W73・S9-W74 グリッドに位置する。炭化物が平面的に集中する範囲が 6 箇所確認され、SX11、SX12、SX13、SX16、SX18、SX21 として登録した。いずれも掘り込みは伴わない。

平面形はすべて不整形で、規模は長軸 65～160cm、短軸 60～120cm を測る。SX11、SX12、SX13 の炭化物を多量に含む層の下部は、被熱によると思われる暗赤褐色を呈する部分が見られた。

### 3 IV層上面

IV層上面で検出された遺構は溝跡1条、土坑1基である。IV層は近代以降の整地層で、Ⅲ層段階の土手状遺構、溝跡、道路跡等の構築以前の状況を示している。



第34図 I区 IV層上面遺構配置図

#### (1) 溝跡

##### 1) SD43 溝跡 (第35～36図、図版18-4～5)

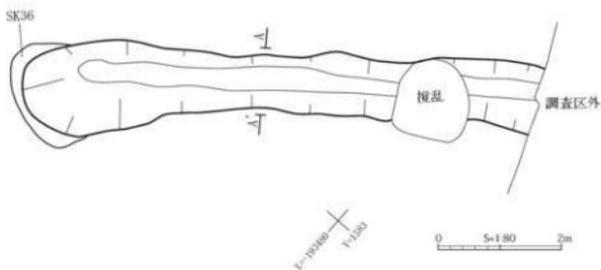
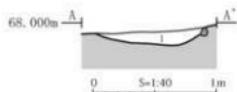
S8-W72・S9-W72グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。北端でSK36を切り、南側を攪乱によって壊される。北端は壁が立ち上がって途切れ、南側は調査区外に延びる。

確認された規模は長さ8.4m、幅85～145cm、深さ12cmを測る。断面形は皿状を呈する。主軸方向はN-40°-Wを示す。

堆積土は礫を多量に含む暗褐色～灰白色シルトの単層である。

遺物は18世紀後半～19世紀中頃の陶磁器、金属製品が出土している。

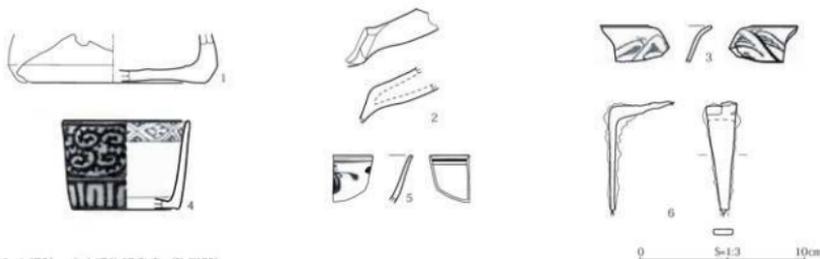
第1節 1区



SD43 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	加	色				
1	10YR3/3	暗褐色	シルト	なし	なし	径 15 cm 以下の礫多量。10YR7/1 灰白色シルト多量

第 35 図 SD43 溝跡 平面図・断面図



SD43 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	内面	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
									口径	底径	高さ				
36-1	87-11	S8・9-W72 SD43 1層	陶器	鉢か小甕	底部	粗	鉄輪	鉄輪	—	(5.6)	(3.0)	堤	19世紀前半		I-30
36-2	87-12	S8・9-W72 SD43 1層	陶器	焙烙	把手	粗	鉄輪	鉄輪	—	—	(3.55)	堤	19世紀		I-31
36-3	87-13	S8・9-W72 SD43 1層	磁器	端反小碗	口縁~体部	緻密	染付山水文	染付	—	—	(2.1)	肥前	18世紀後半		J-15
36-4	87-14	S8・9-W72 SD43 1層	磁器	蕎麦団L	口縁~底部	緻密	染付胡唐草文・蓮弁文・四方禪文	染付	(7.6)	(6.4)	(5.5)	肥前	18世紀末 ~ 19世紀初		J-16
36-5	87-15	S8・9-W72 SD43 1層	磁器	端反碗	口縁~体部	緻密	染付菖草・湖蓮	染付	—	—	(2.9)	瀬戸・美濃	19世紀前半~中頃		J-251

SD43 溝跡 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重量		
36-6	87-16	S8・9-W72 SD43 1層	釘	—	(6.9)	1.8	0.35	21.45	一部欠損	N-6

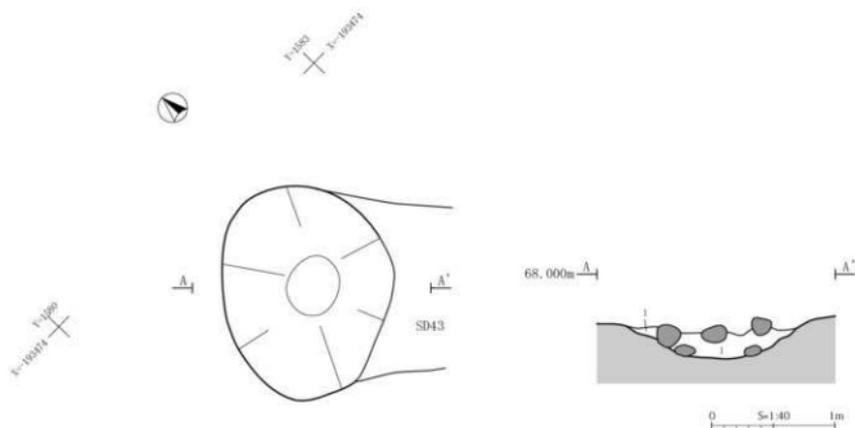
第 36 図 SD43 溝跡 出土遺物

## (2) 土坑

## 1) SK36 土坑 (第 37 図、図版 18-6～7)

S8-W72 グリッドに位置する。上部は SD43 によって切られる。残存する規模は長軸 1.75m、短軸 1.4m、深さ 30cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトの単層で、径 12～20cm 礫を多量に含む。

遺物は出土していない。



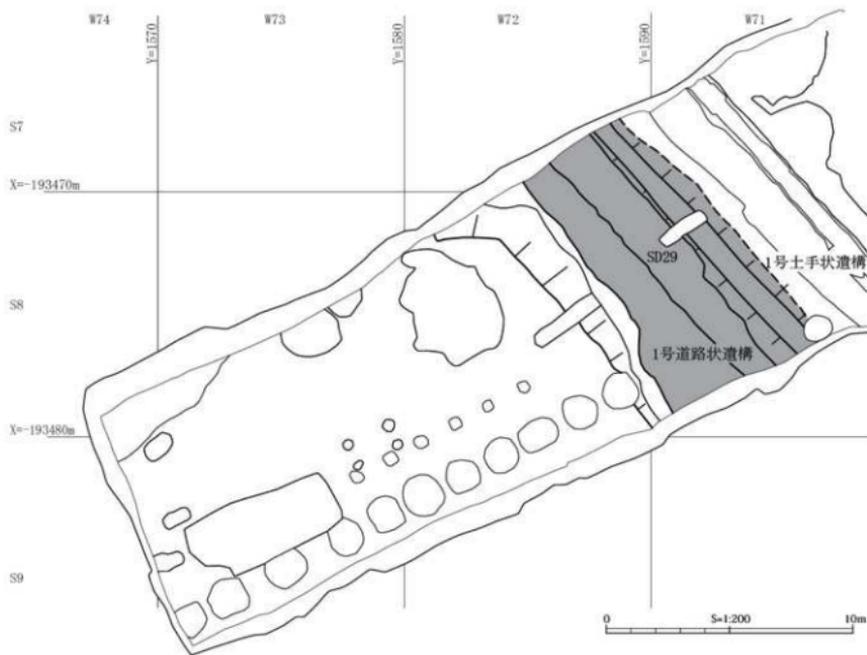
SK36 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	地	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	なし	径 12～20 cm の礫多量

第 37 図 SK36 土坑 平面図・断面図

#### 4 III層上面

III層上面で検出された遺構は溝跡1条、道路状遺構1条、土手状遺構1条である。これらの遺構は、当該期の区画施設と考えられる。また、道路状遺構についてはV層検出の柱列跡と近い方向性を持つことから、近世以前の区画性を踏襲している可能性がある。



第38図 1区 III層上面遺構配置図

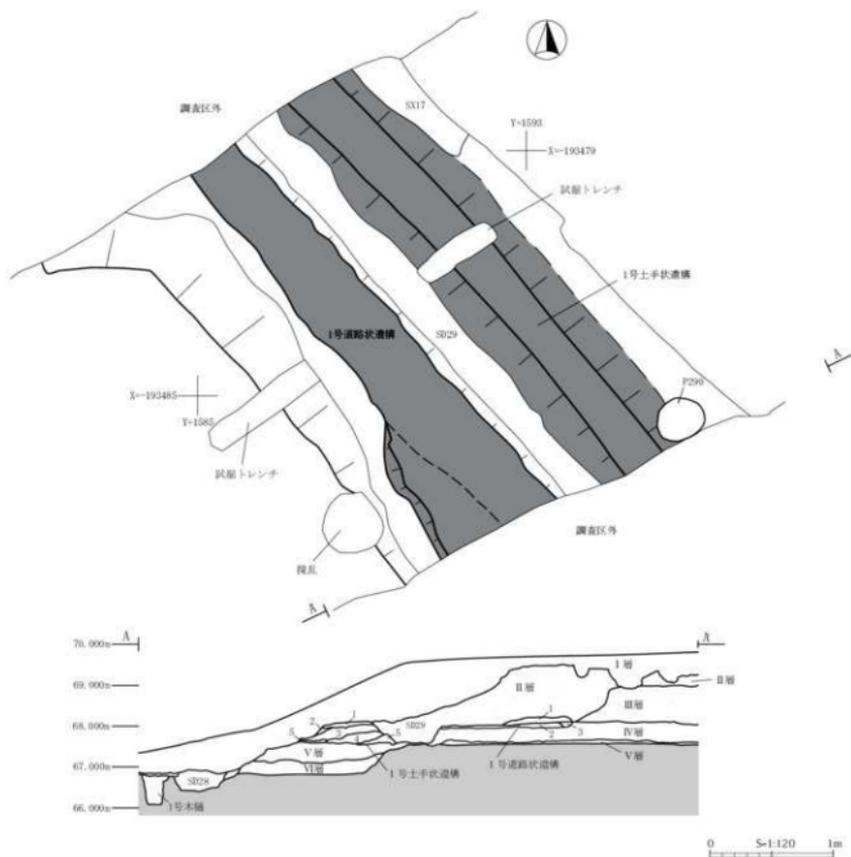
##### (1) 溝跡

###### 1) SD29 溝跡 (第39～40図、図版19-1～4)

S7～8-W71～72グリッドに位置する。南北方向に直線的に走る素掘りの溝である。1号道路状遺構の東側を平行して走り、南北両側とも調査区外に延びる。

確認された規模は長さ11.2m、幅1.3～2.0m、深さ40cmを測る。断面形は開いたU字形を呈する。主軸方向はN-41°-Wを示す。堆積土は4層からなる。1・2層は灰褐色砂質シルトで礫、炭化物を含む。3・4層はにぶい黄褐色砂質シルトで礫、粗砂を含む。いずれも上層の第二師団による造成土と考えられる。

遺物は17世紀～19世紀前半の陶磁器が出土している。



SD29 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径5cm以下の礫を多量、径5mmの炭化物を微量
2	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径10cm以下の礫を多量、径10cmの暗黄褐色砂質シルト粒や多量、粗砂を少量
3	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径10cmの礫を微量
4	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	なし	粗砂多量、径20cm以下の礫を多量

第1節 1区

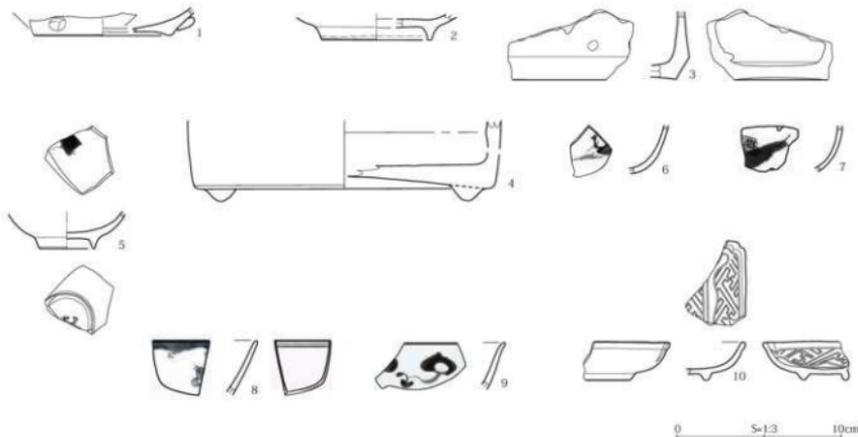
1号道路状遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR5/1	褐色色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄、径5mmの炭化物やや多量、径10cm以下の礫少量
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄、径10cm以下の礫やや多量
3	10YR5/1	褐色色	シルト質砂	なし	あり	上面に鉄分多量、径5cm以下の礫微量

1号土手状遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	ややあり	あり	径5cm以下の礫少量
2	2.5Y7/6	明黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径5cm以下の礫少量
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径10cmの礫少量、瓦礫層
4	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	あり	径5cmの浅黄褐色砂質シルトブロック少量、径10cmの礫少量
5	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径5mmの炭化物、径5cmの礫を微量

第39図 SD29溝跡・1号道路状遺構・1号土手状遺構 平面図・断面図



SD29溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			発地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
40-1	87-25	S7・8-W71・72 SD29 4層	陶器	土瓶	底部	密	灰緑の白濁輪	—	(8.4)	(1.4)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-22
40-2	87-23	S7・8-W71・72 SD29 4層	磁器	輪花皿	底部	緻密	青磁	—	6.3	(1.5)	肥前	17世紀代		I-23
40-3	87-24	S7・8-W71・72 SD29 4層	陶器	狭小鉢	体部～底部	粗	鉄軸	—	—	(4.3)	現	19世紀前半		I-24
40-4	87-26	S7・8-W71・72 SD29 3層	瓦質土器	火鉢	体部～底部	粗	—	—	18.8	(4.4)	在池	近世		I-209
40-5	87-17	S7・8-W71・72 SD29 3層	磁器	碗	体部～底部	緻密	青磁染付	—	(3.4)	(2.3)	肥前	18世紀?	跡あり	J-7
40-6	87-21	S7・8-W71・72 SD29 3層	磁器	碗	体部	緻密	染付風景文	—	—	(3.0)	肥前	18世紀?		J-8
40-7	87-18	S7・8-W71・72 SD29 3層	磁器	皿小	体部	緻密	染付山水文	—	—	(2.7)	肥前	18世紀		J-9
40-8	87-20	S7・8-W71・72 SD29 3層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付鳥文	—	—	(3.3)	肥前	17世紀～18世紀		J-10
40-9	87-19	S7・8-W71・72 SD29 4層	磁器	壇反碗	口縁～体部	緻密	染付草花文	—	—	(2.9)	瀬戸・美濃	19世紀前半	口跡	J-11
40-10	87-22	S7・8-W71・72 SD29 4層	磁器	角小皿	口縁～底部	緻密	白磁空押し線文	—	—	2.4	切込?	19世紀前半		J-12

第40図 SD29溝跡 出土遺物

## (2) その他の遺構

## 1) 1号道路状遺構 (第39・41図、図版19-1)

S7～8・W71～72グリッドに位置する。調査区内を南北方向に走る硬化面を検出し、道路状遺構として登録した。東側には当該遺構の側溝と推定されるSD29が平行して走り、南北両側とも調査区外へ延びる。

確認された規模は長さ9.9m、幅1.5～3.2mを測る。調査区北壁際が最も狭く、中央南寄りから徐々に西側に広がり、調査区南壁際で最大幅となる。南西部分には盛りあがりが見られ、調査区南壁で幅1.7mの硬化面がもう一面あるのが確認された。中央から北側にかけては検出されなかったことから、部分的な補修の可能性が考えられる。硬化面は、北方向へ緩やかに下り傾斜している。西側には側溝はなく、道路の境界を示すような施設も検出されなかった。主軸方向はN-41°-Wを示す。

構築土は3層からなり、いずれも硬化している。1層は褐灰色のシルト質砂で補修跡の可能性がある。2・3層はふい黄褐色・褐灰色のシルト質砂で硬化面を構築している。

遺物は17世紀～19世紀中頃の陶磁器等が硬化面上から出土している。



1号道路状遺構 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録番号	
								口径	底径					器高
41-1	88-1	S7・8・W71・72 道路1 1層	陶器	壺か徳利	体部	密	鉄軸	—	—	(4.1)	瀬戸・美濃	17世紀～18 世紀		J-96
41-2	88-2	S7・8・W71・72 道路1 1層	磁器	皿?	口縁	緻密	染付花文	—	—	(1.9)	肥前	不明		J-67
41-3	88-3	S7・8・W71・72 道路1 1層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付丸に花 菱文	—	—	(2.8)	肥前	不明		J-68
41-4	88-5	S7・8・W71・72 道路1 1層	磁器	小鉢	体部～底部	緻密	白磁型押し 面作り	—	(4.2)	(3.3)	肥前	19世紀中頃～ 幕末・明治	丸のみによる 調整痕	J-69
41-5	88-4	S7・8・W71・72 道路1 1層	磁器	端碗	口縁～体部	緻密	染付	8.6	—	(2.7)	瀬戸・美濃	近代以降		J-129

第41図 1号道路状遺構 出土遺物

## 2) 1号土手状遺構(第39・42図、図版19-1)

S7～8-W71～72グリッドに位置する。調査区内を南北方向に走る盛土を検出し、土手状遺構として登録した。北東側をSX17によって切られ、南北両側とも調査区外に延びる。当該遺構の西側法面は、東側を平行して走るSD29の東壁を兼ねている。また東側法面はそのままやや急傾斜しながら下り、比高差約1.3mの段差を作る。頂部は1号道路状遺構の硬化面より約10cm高い。

確認された規模は長さ12.2m、基底部幅2～2.6m、高さ60cm、頂部幅90～120cmを測る。主軸方向はN-41°-Wを示す。構築土は5層からなり、1層は礫を少量含むにぶい黄色砂質シルト、2層は礫を少量含む明黄褐色砂質シルト、3層は礫を少量、瓦微量含むにぶい黄褐色砂質シルト、4層は浅黄褐色砂質シルトブロック、礫を含むにぶい黄褐色シルト質砂、5層は炭化物、礫を微量含む明褐色砂質シルトである。

遺物は17世紀中頃～19世紀の陶磁器が構築土中から出土している。



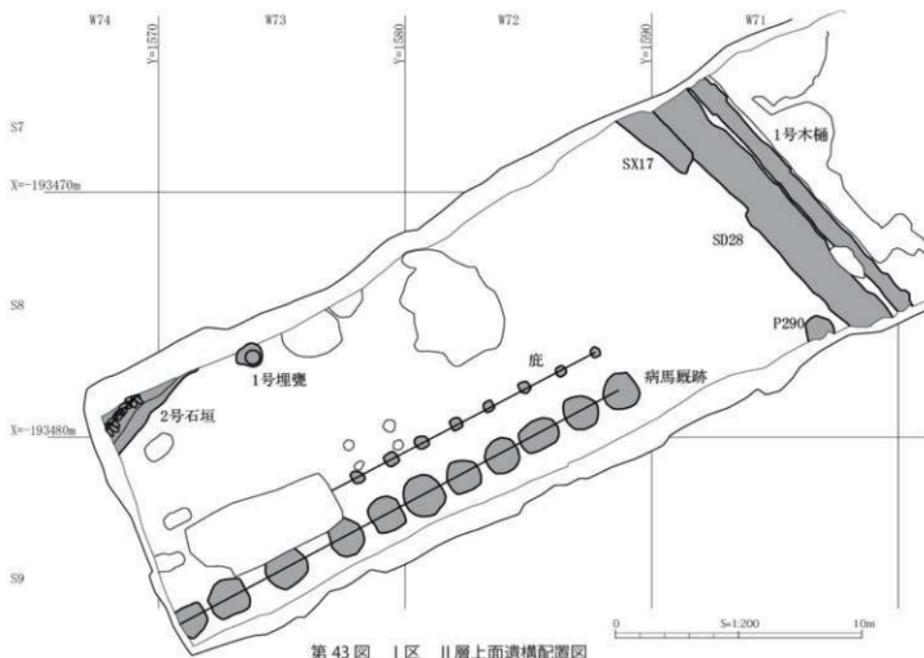
1号土手状遺構 出土物観察表(陶磁器)

図版番号	写真/図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
42-1	88-6	S7・8-W71・72 土手1 4層	陶器	香炉	底部	緻密	灰釉	—	(5.2)	(1.55)	大船相馬	18世紀代		J-94
42-2	88-7	S7・8-W71・72 土手1 4層	磁器	飯瓶	頸部	緻密	染付宝珠文	—	—	(4.2)	肥前	近世		J-80
42-3	88-8	S7・8-W71・72 土手1 4層	磁器	燗徳利	頸部	緻密	染付蓮弁文	—	—	(3.3)	地方窯	19世紀中～後半 (幕末・明治)		J-81
42-4	88-9	S7・8-W71・72 土手1 4層	磁器	壺	体部	緻密	染付草花文	—	—	(2.1)	肥前	17世紀中頃?		J-82

第42図 1号土手状遺構 出土遺物

## 5 II層上面

II層上面で検出された遺構は溝跡1条、近代建物跡1棟、ピット1基、石垣1基、埋喪1基、性格不明遺構1基、木樋1条の計7基である。これらは、第二師団に関わる遺構と考えられる。建物跡は「仙台師管区経理部『各部隊配置図・国有財産台帳附図』」において「病馬厩」と記載されている建物に比定される。



第43図 I区 II層上面遺構配置図

## (1) 溝跡

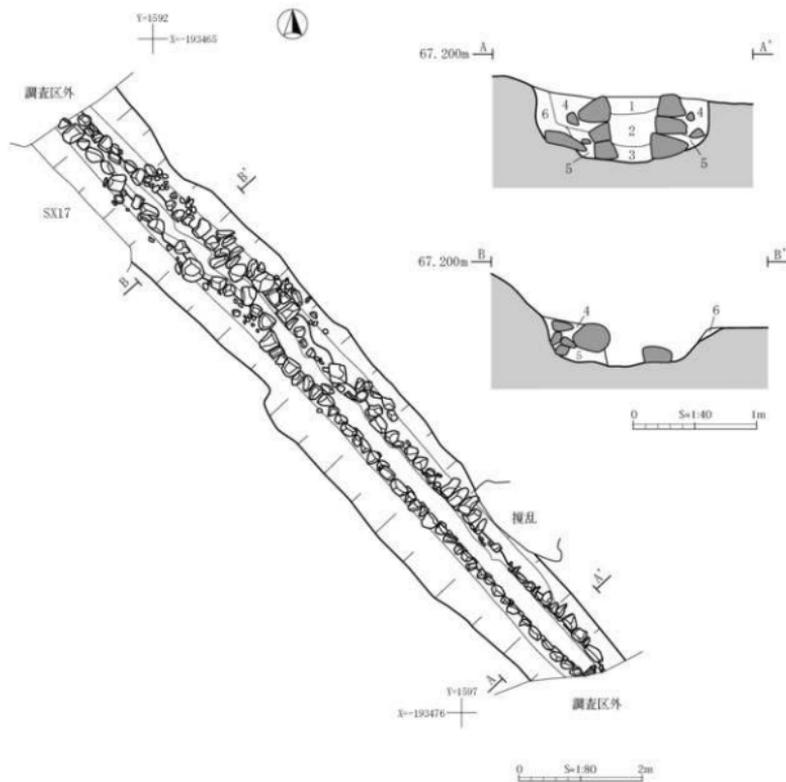
## 1) SD28 溝跡 (第44図、図版20-1～3)

S7～8-W71 グリッドに位置する。南北方向に走る石組溝である。南東側を攪乱によって壊され、北西端をSX17によって切られる。南北両側とも調査区外へ延びる。確認された規模は長さ12.4m、側石と側石の内幅は25～36cm、掘り方の幅は1.45～1.75m、深さ50cmを測る。側石は30～40cmの端部を打ち欠いた川原石を並べ、平坦にした面を向き合わせている。南側から中央にかけては遺存状態が良く、ほぼ垂直に三段積んでいるが、中央では二段、北側では一段のみとなり、両側の側石ともに崩落している部分もある。石列は乱れて蛇行し、側石の間隔を狭めながら調査区外へ延びる。底面は素掘りのままで石敷きなどは施されていない。掘り方の断面形は開いたU字形を呈する。主軸方向はN-43°-Wを示す。堆積土は6層からなり、1～3層は溝内堆積土で褐灰色の砂質シルト～シルト質粘土である。4～6層は裏込め・掘り方埋土で、黒褐色、黄灰色、灰黄褐色の砂質シルト

第1節 1区

である。裏込めには10cmの自然礫や割り石が多量に使用される部分がある。

遺物は近現代陶磁器、ガラス片、模擬手榴弾等が出土しているが図化は行わなかった。



SD28 溝跡 土層注記表

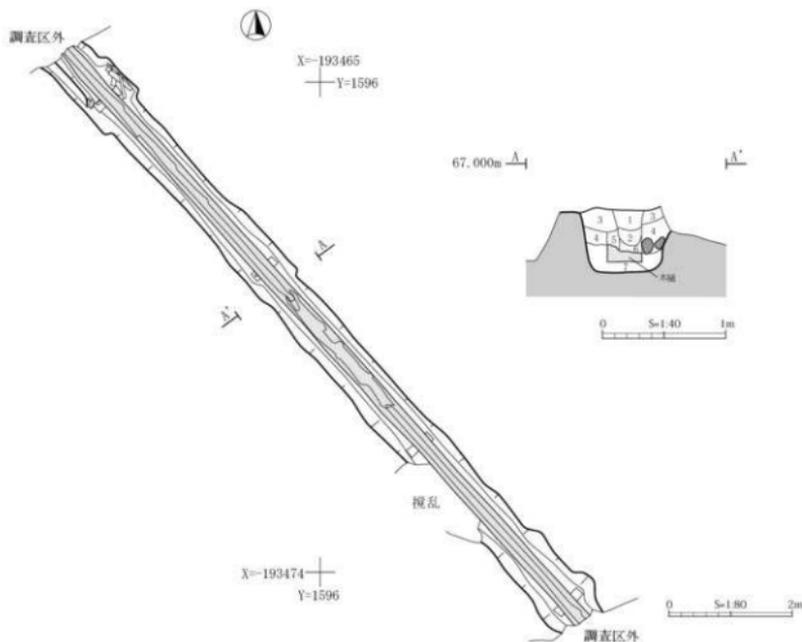
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	№	色				
1	10YR6/1	赤灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径1cmの炭化物、ガラス片少量
2	10YR4/1	赤灰色	砂質シルト	あり	なし	模擬手榴弾、ガラス片、東北大の海飲み茶碗等出土
3	10YR4/1	赤灰色	シルト質粘土	ややあり	なし	ガラス片、陶磁器片少量
4	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	径10cmの礫や多量、径5mmの炭化物少量
5	2.5Y5/1	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	ガラス片混入、径5mm以下の炭化物少量
6	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	ガラス片混入

第44図 SD28 溝跡 平面図・断面図

## (2) その他の遺構

## 1) 1号木桶 (第45～47図、図版20-4～6)

S7～8-W70～71グリッドに位置する。南北方向に直線的に走る木桶である。南西側は攪乱によって掘り方が壊される。埋設された木桶は5本接続するのが確認され、北端と南端では調査区外へ延びる。1本の長さは約4mで、幅29cmの角材に幅10cmの溝を切る。底の厚みは7cmで、上部ほど腐食が進んでいる。高さは最大で10cmを測る。蓋板はさらに遺存状態が悪く、幅や厚みは不明である。また1本の材を身と蓋に分けて合わせていたかも不明であるが、列り貫き式で作られた可能性が高いと思われる。蓋板には長さ11.3～12.8cm、厚さ5～



1号木桶 土層注記表

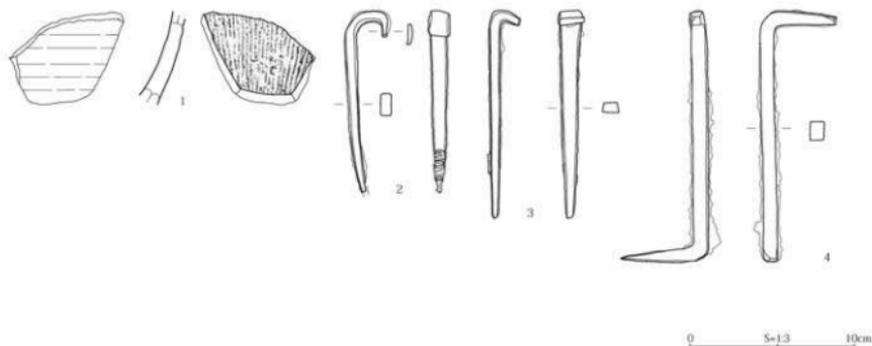
層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR6/5	黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径5cm以下の礫を少量、径2cm以下の暗褐色粘土質シルトやや多量
2	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	あり	なし	径3cm以下の礫を多量
3	10YR4/1	褐色	シルト質粘土	あり	なし	径5mmの炭化物を微量
4	10YR5/1	褐色	砂質シルト	あり	あり	径10cmの礫を多量
5	5G6/1	緑灰色	シルト質砂	なし	あり	径20cmの礫を多量
6	5G5/1	緑灰色	砂質シルト	ややあり	あり	木桶痕
7	10YR4/1	褐色	粘土	あり	なし	径3cm以下の礫少量

第45図 1号木桶 平面図・断面図

6.5mmの頭部を曲げた舟釘が遺存し、22cm前後の間隔で平行に蓋板が留められていたことがわかる。頭部付近に棕櫚と思われる繊維が付着しているものも確認された。釘穴を開けた痕跡は見られない。木桶の接続は枙や継手などは介しておらず、一方の端部を中央部分が細長く突き出るように加工し、もう一方の端部に切ったホゾに組み合わせている。接続部の下部には高さを調節するためか、または沈降を防ぐためと考えられる枕木状の角材が置かれ、木桶の側面と角材とを手違い状に加工した鑑で固定している。木桶と角材の間から木製の楔が2箇所で見出された。木桶を水平に置いたためであろうか。木桶の主軸方向はN-42°Wを示す。

掘り方の規模は長さ12.6m、幅60～80cm、深さ70cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面形はU字形を呈する。堆積土は7層からなる。1・2層は礫を含む黄褐色砂質シルトで、木桶が腐食し、上位層が崩落したものである。3層は木桶内の堆積土である。4層は木桶が腐食し、わずかに木質が残る。5層以下は掘り方の埋土である。緑灰色にグライ化している部分も見られるが、全体的には褐灰色を呈する。礫を少～多量に含む。

遺物は18世紀代の陶器、金属製品、木桶等が出土している。



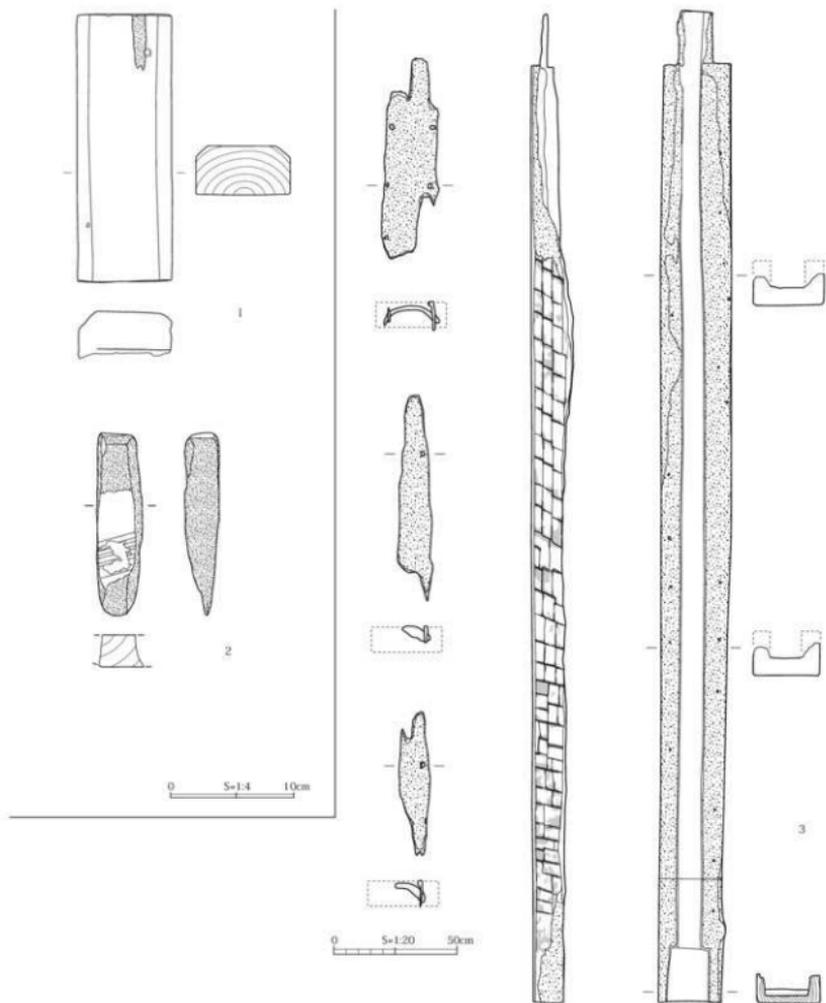
1号木桶 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
46-1	88-10	S7・8-W70・71 1号木桶 6層	陶器	漆鉢	体部	やや粗	鉄軸	—	—	(5.2)	不明	18世紀代?		I-32

1号木桶 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
46-2	88-11	S7・8-W70・71 1号木桶 4層	釘	完形	11.3	1.3	0.65	42.3	舟釘	N-7
46-3	88-12	S7・8-W70・71 1号木桶 4層	釘	完形	12.8	1.6	0.6	48.87	舟釘	N-8
46-4	88-13	S7・8CW70・71 1号木桶	鑑	完形	15.3	0.9	1	97.09	手違い鑑	N-9

第46図 1号木桶 出土遺物



1号木桶 出土遺物観察表（木製品）

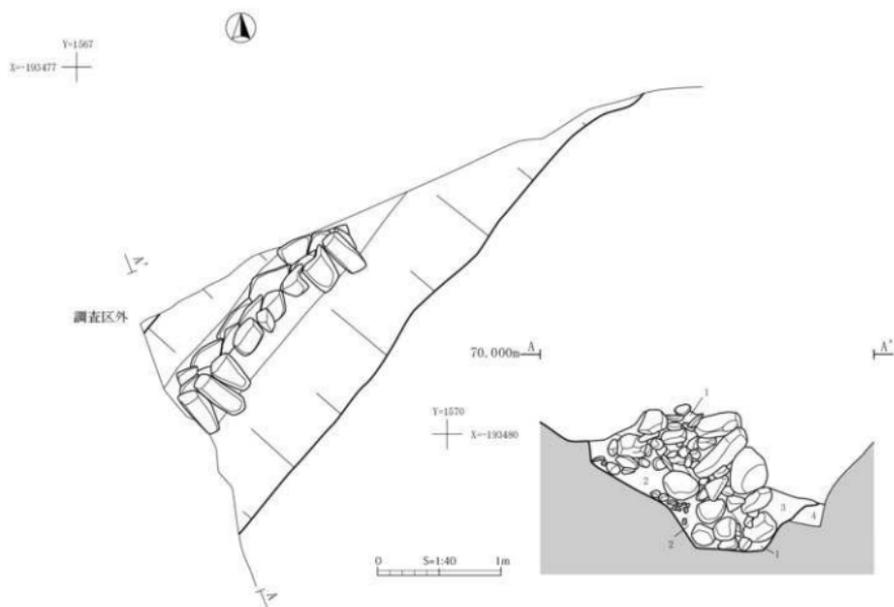
図版番号	写真図版 番号	グリッド		種類	部位	法量 (cm)			備 考	登録番号
		遺構・層位				長さ	幅	厚さ		
47-1	88-14	S7・8-W70・71 1号木桶		木桶台	完形	43	15.6	8		L-39
47-2	88-15	S7・8-W70・71 1号木桶		楔	完形	30	7.6	(5.2)	欠損大、一部磨蝕	L-40
47-3	88-16	S7・8CW70・71 1号木桶		木桶	—	440	19	14	蓋は鉄釘留め、側り 貫き式	L-41

第47図 1号木桶 出土遺物

2) 2号石垣 (第48～49図、図版21-1～3)

S 8～9-W73～74 グリッドに位置する。調査区北西隅で攪乱を除去している際に、端部を打ち欠いた川原石が積まれているのが確認され、石垣として登録した。南北両側ともに調査区外へ延びる。

確認された規模は石積み長さ2m、高さ1.1m、掘り方の長さ4.8m、幅1.65m 深さ90cmを測る。石積みの主軸方向はN-41°-Eを示し、勾配は調査区西壁で約71°を測る。加工された川原石は細長の40cm前後のものが多く、平坦面を石垣の表面にして北西方向に向ける。基底部に並べた根石は上段のものと比較し、ややおおぶりで、斜めに積み上げる乱積みである。最も多いところでは5段積まれているのが確認された。石材の表面形は楕円形が主で隙間が生じているが、詰石などは施されていない。裏込めには10cm前後の円礫が多量に、また径22～30cmの川原石や、加工の際に生じたと思われる剥片もやや多く使用されている。石垣背面の隙間にはこの剥片が充填されており、石材の安定や角度の調整を目的にしたものと考えられる。



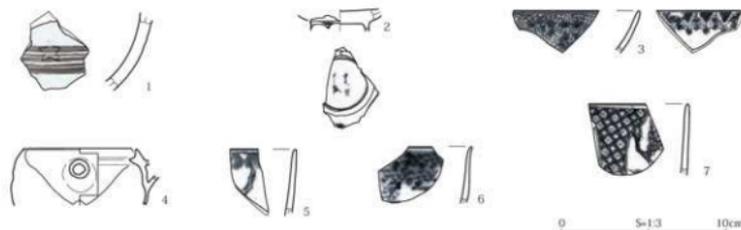
2号石垣 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややなし	ややなし	炭化物、ガラス片をやや多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややなし	ややなし	径10cmの礫多量 炭化物、ガラス片、鏡片やや多量
3	2.5Y6/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5cmの礫多量

第48図 2号石垣 平面図・断面図

構築土は3層からなる。1・2層は石垣裏込めの構築土で、黒褐色・灰黄褐色の砂質シルトで炭化物、ガラス片、礫を含む。3層は石垣前面の掘り方埋土で、にぶい黄褐色砂質シルトで礫を微量含む。4層は石垣前底部の整地層である。

遺物は17世紀後半～19世紀後半の陶磁器等が裏込めより出土している。



2号石垣 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
49-1	89-1	S8・9-W73・74 石垣2 2層	陶器	碗か鉢	体部	濃	刷毛目文	—	—	(4.8)	不明	19世紀後半	「金」刷印	J-93
49-2	89-2	S8・9-W73・74 石垣2 2層	磁器	碗	底部	緻密	染付	—	3.6	(1.2)	肥前?	17世紀か18世紀	「大明年製」 跡	J-74
49-3	89-3	S8・9-W73・74 石垣2 2層	磁器	碗	口縁-体部	緻密	刷版転写	—	—	(2.65)	瀬戸・美濃	19世紀後半		J-75
49-4	89-4	S8・9-W73・74 石垣2 2層	磁器	急須	口縁-体部	緻密		(6.9)	—	(3.5)	大塚相馬	19世紀中頃～ 後半		J-78
49-5	89-5	S8・9-W73・74 石垣2 2層	磁器	筒茶碗	口縁-体部	緻密	刷版転写	—	—	(4.1)	瀬戸・美濃	19世紀後半		J-76
49-6	89-6	S8・9-W73・74 石垣2 2層	磁器	碗	口縁-体部	緻密	染付	—	—	(3.5)	不明	不明	漆器による 補修痕	J-77
49-7	89-7	S8・9-W73・74 石垣2 2層	磁器	筒茶碗	口縁-体部	緻密	刷版転写	—	—	(4.4)	産地?	19世紀後半代		J-79

第49図 2号石垣 出土遺物

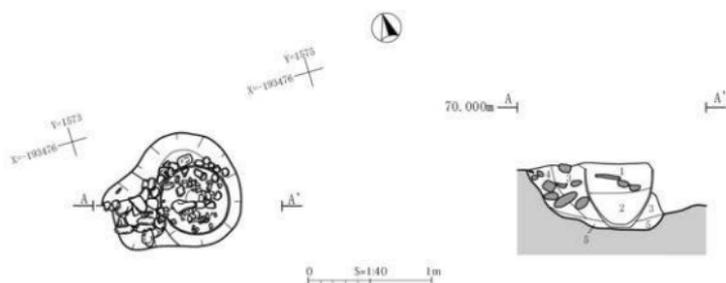
### 3) 1号埋甕 (第50～51図、図版21-4～5)

S8-W73グリッドに位置する。調査区北壁にかかる樹根下部の、第二師団による盛土を掘り下げている際に甕が出土し、1号埋甕として登録した。掘り方は第二師団の盛土を掘り込んで作られているため、東壁から南壁を壊してしまった。

残存する掘り方の規模は東西2.15m、南北1.9m、深さ1mを測る。平面形は西側が張り出すだるま状の不整形円形を呈するものと思われ、断面形は開いたU字形が推定される。甕は正立した状態で置かれ、径5～10cmの円礫を甕の周りに充填して固定したものと思われる。甕の上部は大きく破壊を受け、口縁部から胴上半部にかけての大半が、甕の内側に落ち込んでいる。胴中央部には直径約2cmの孔が穿たれている。甕の堆積土からは他に、ガラス片と鉄材がそれぞれ2点と、長さ10cm、幅7cm、厚み2cmの木片が1点出土している。また樹根と甕の間層からは近代の瓦が多量に出土している。

堆積土は5層からなる。1・2層は甕内堆積土、3～5層は掘り方埋土である。埋甕の上部にある樹根は調査前年(2005年)に伐採したもので、東北大学植物園の大山幹成氏に年輪の計測をしていただいたところ、72年の樹齡があたえられている。

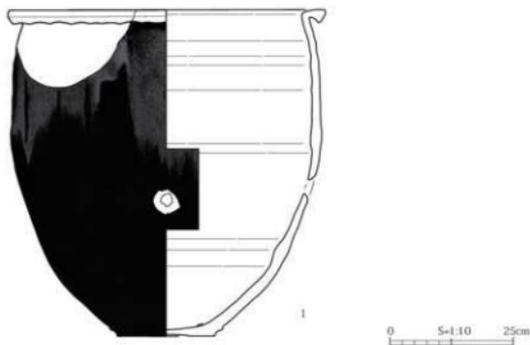
出土した甕は堤産の大甕で、19世紀中頃以降のものと考えられる。



1号埋葬 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	あり	径5cm以下の礫やや多量、径10cmの礫少量
2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径5cm以下の礫と径10cmの礫少量
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径3cmの礫やや多量、径10cmの礫少量、炭化物やや多量
4	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径10cmの礫少量 板材、ガラス片
5	5Y4/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3cm以下の礫を少量

第50図 1号埋葬 平面図・断面図



1号埋葬 出土遺物観察表 (陶器)

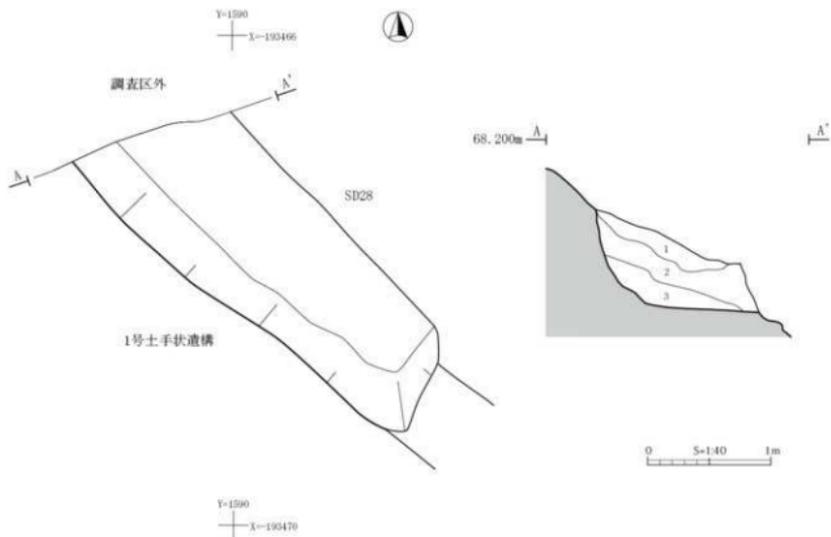
図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
51-1	89-8	S8-W73 1号埋葬	陶器	甕	口縁～底部	やや粗	海鼠輪	64.4	20.3	66.5	埴	19世紀	胴部穿孔	I-263

第51図 1号埋葬 出土遺物

## 4) SX17 性格不明遺構 (第52図、図版21-6～7)

S7-W71・S7-W72 グリッドに位置する。西側で1号土手状遺構を切り、東側はSD28に切られる。北側は調査区外へ延びる。確認された規模は南北3.1m、東西1.15m、深さ75cmを測る。平面形は方形または台形状が推定され、断面形は開いたU字形状を呈するものと思われる。堆積土は3層からなる。オリーブ褐色、黒褐色、暗褐色の砂質シルトでいずれも礫を多量に含む。

遺物は出土していない。



SX17 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	輪	色				
1	10YR4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径10～15cmの礫多量
2	10 Y R 3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径10cmの礫多量
3	10YR4/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5～10cmの礫多量

第52図 SX17 性格不明遺構 平面図・断面図

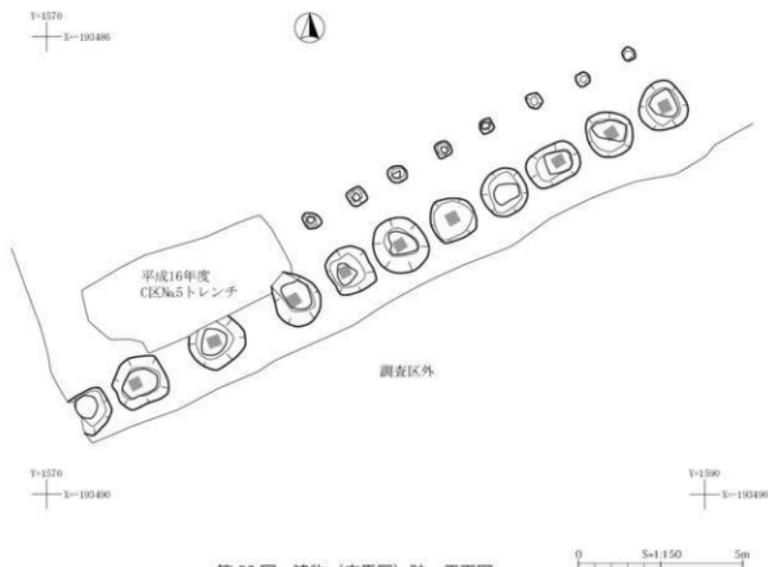
5) 建物(病馬厩)跡(第53図、図版21-8)

S 8-72・S 9-W 72・S 9-W 7 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ 11 基の竪穴と、それと並行する 8 基の柱穴からなる。確認された長さは 20m を測る。竪穴の平面形は不整形が多く、楕円形を呈するものもある。断面形はおおむね U 字形を呈する。

確認された基礎の規模は平面の径 1.35 ～ 1.6m、深さは 85cm を測る。竪穴の底面には 68 ～ 113cm の川原石を礎板石として置き、その上に一辺が 31.5 ～ 37.5cm、長さ 65cm を測る直方体の軟質凝灰岩を直立させる。これは直接建物の柱を乗せるためのものではなく、さらにその上に同規模の直方体の硬質石材を横にして並べ、建物の基礎としたことが 2007 年度の仙台城跡(亀岡トンネル立坑部)の調査で確認されている。直立させた直方体の間隔は 1.763m (5 尺 8 寸) を中心に、1.763m (5 尺 8 寸) ～ 2.74m (9 尺) を測る。

北側には庇跡と考えられる柱穴列が確認された。掘り方の平面形は不整形形または方形を、断面形は開いた U 字形を呈す。西側の 5 基には 19.5 ～ 25.5cm の川原石が礎板石として置かれている。確認された長さは 10.9m で、柱間寸法は 1.65m (5 尺 4 寸) を中心に、1.425m (4 尺 7 寸) ～ 1.65m (5 尺 4 寸) を測る。主軸方向は N-62° E を示す。

当該遺構は近代建物の基礎と考えられ、遺存する図面、航空写真などから第二師団当時の病馬厩に相当する。



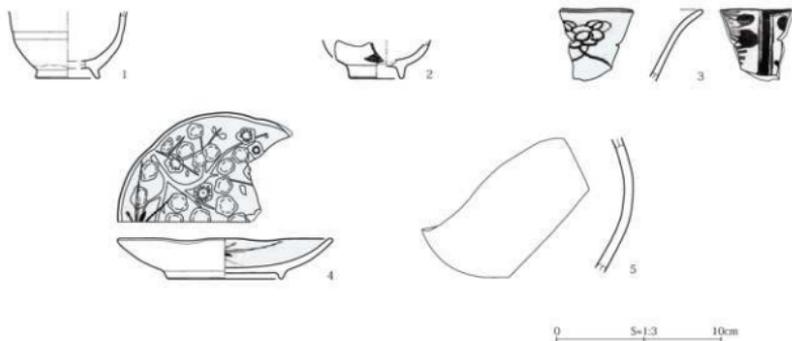
第53図 建物(病馬厩)跡 平面図

## 6 遺構外出土遺物

I区からは多量の遺物が出土しており、近代以降の盛土・整地層に混入しているものが大半をしめる。I区の出土遺物の総量は1371点である。陶磁器の内訳はIV層102点、III層595点、II層68点、I層86点である。以下、層別に実測図と観察表を掲載する。

## (1) IV層出土遺物 (第54～58図、図版89-9～17・90)

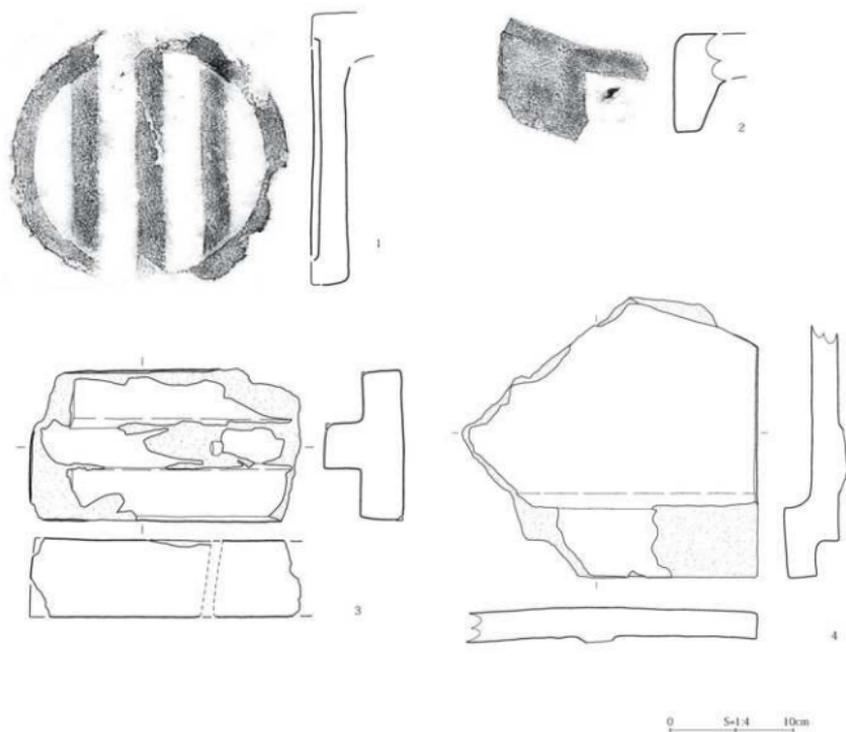
IV層からは17世紀～19世紀前半の陶磁器、三引両文軒丸瓦、板塀瓦等が出土している。陶器は大塚相馬を主体として堤、瀬戸・美濃産が見られ、磁器は肥前、瀬戸・美濃を主体とし、少量の地方産磁器が出土している。



IV層 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								上径	底径	器高				
54-1	89-9	I区 IV層	陶器	碗	体部~底部	やや密	白濁輪	—	(3.8)	(4.1)	大塚相馬	18世紀後半~ 19世紀前半		J-152
54-2	89-10	I区 IV層	磁器	小碗	体部~底部	緻密	染付	—	(3.2)	(2.4)	肥前	18世紀後半		J-72
54-3	89-12	I区 IV層	磁器	皿	口縁~体部	緻密	染付花文	—	—	(4.45)	肥前	17世紀~ 18世紀	桃花 芙蓉? 手?	J-218
54-4	89-11	I区 IV層	磁器	皿	口縁~底部	緻密	青磁型押し梅 樹文	(13.0)	(6.9)	(2.5)	肥前	17世紀~ 18世紀		J-222
54-5	89-16	I区 IV層	磁器	袋物	体部	緻密	白磁	—	—	(8.2)	不明	近世		J-212

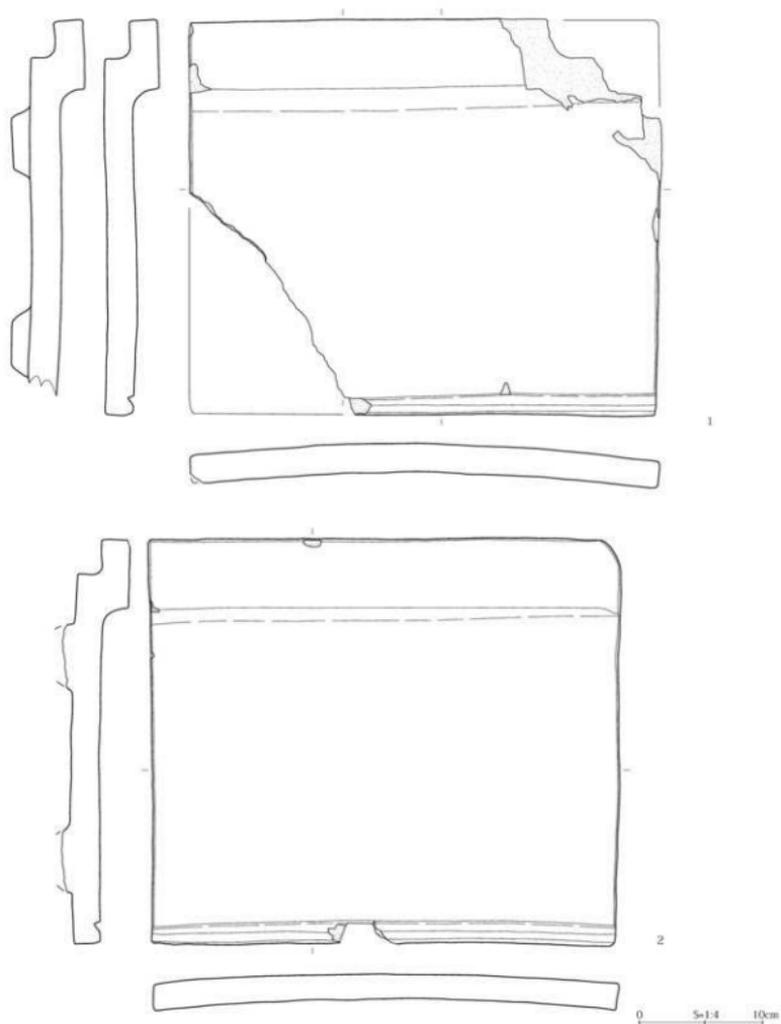
第54図 I区IV層 出土遺物



IV層 出土遺物観察表(瓦)

図版番号	写真図版 番号	クワッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
55-1	89-13	1区 IV層	軒丸瓦	(3.6)	21.2	3.0	三引肉文	F-7
55-2	89-17	1区 IV層	軒平瓦	(3.2)	(9.4)	3.4	南草	G-9
55-3	89-14	1区 IV層	丁字瓦	11.8	(20.8)	6.2	釘穴あり	H-27
55-4	89-15	1区 IV層	板瓦	31.8	(22.6)	2.0		H-26

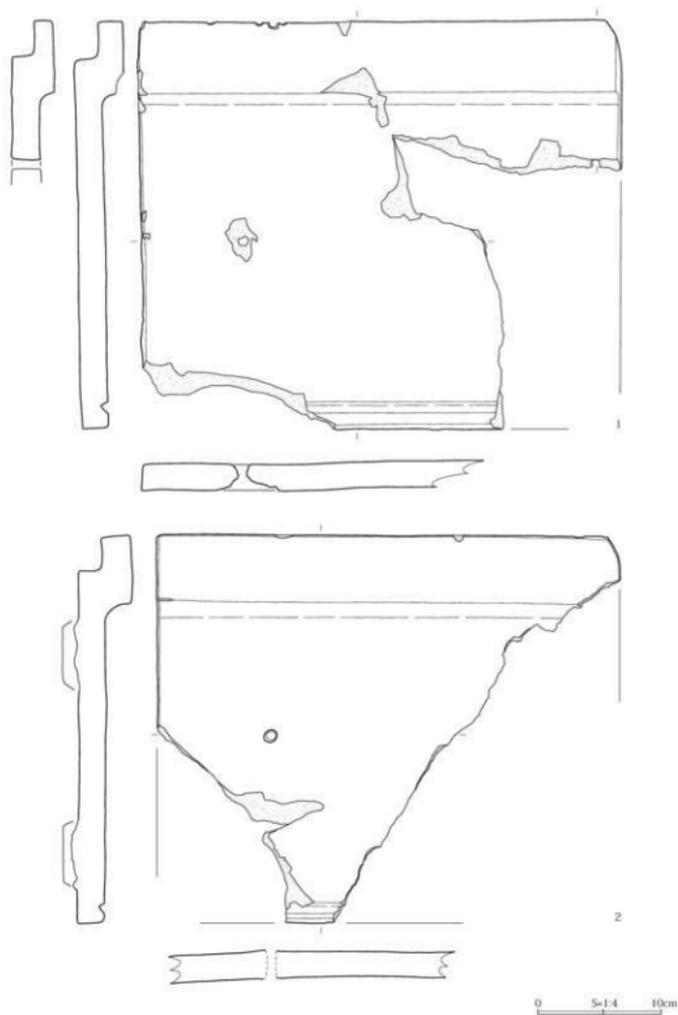
第55図 1区IV層 出土遺物



IV層 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法層 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
56-1	90-1	I区	板瀬瓦	30.8	36.1	2.3		H-37
		IV層						
56-2	90-2	I区	板瀬瓦	31.4	36.0	2.1		H-29
		IV層						

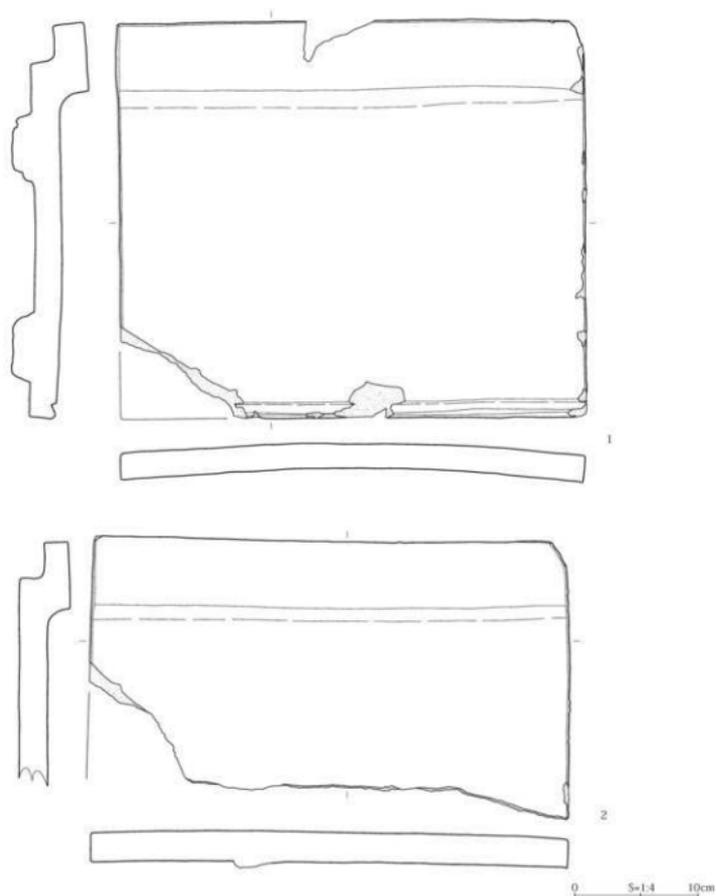
第56図 I区IV層 出土遺物



IV層 出土物観察表 (瓦)

図取番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
57-1	90-3	1区	板瀬瓦	31.6	37.2	2.2	溝あり	H-28
		IV層						
57-2	90-4	1区	板瀬瓦	30.2	35.6	2.1	溝あり	H-33
		IV層						

第57図 1区IV層 出土遺物



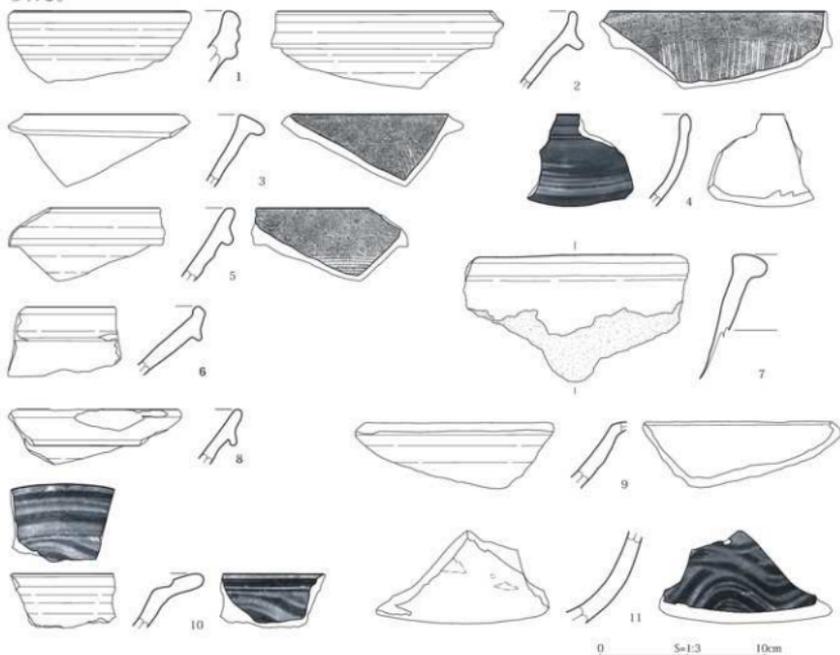
IV層 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
58-1	90-5	I区	板瀬瓦	30.1	35.8	2.2	溝あり	H-34
		IV層						
58-2	90-6	I区	板瀬瓦	(19.2)	37.0	2.2		H-35
		IV層						

第58図 I区IV層 出土遺物

## (2) Ⅲ層出土遺物(第59図～69図、図版91～98)

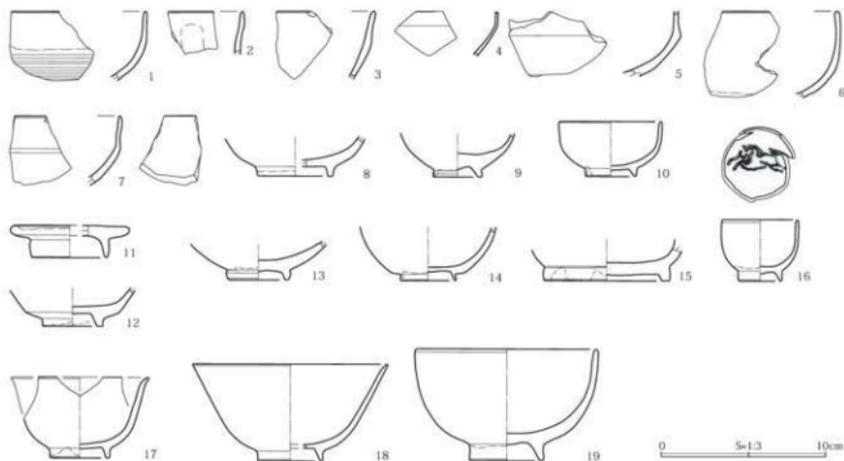
Ⅲ層からは最も多量の遺物が出土した。18世紀後半代を主体とし、17世紀～19世紀を通して遺物の出土が見られる。



Ⅲ層 出土遺物観察表(陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
59-1	91-1	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	控鉢	口部～体部	やや粗	鉄軸	—	—	(4.4)	不明	近世		I-182
59-2	91-2	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	播鉢	口部～体部	やや粗	鉄軸	—	—	(4.8)	不明	近世		I-185
59-3	91-3	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	播鉢	口部～体部	やや粗		—	—	(4.5)	不明	近世		I-196
59-4	91-4	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	碗	口縁～体部	やや密	刷毛目	—	—	(5.7)	唐津	18世紀		I-166
59-5	91-5	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	播鉢	口部～体部	やや粗	鉄軸	—	—	(4.5)	不明	近世	即日ノ横位	I-183
59-6	91-6	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	控鉢	口縁	やや粗	鉄軸	—	—	(4.3)	不明	近世		I-160
59-7	91-7	Ⅰ区 Ⅲ層	土師瓦土器	鉢	口縁～体部	やや粗		—	—	(8.5)	在地	近世		I-223
59-8	91-8	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	鉢	口縁	やや粗	鉄軸	—	—	(3.4)	堤	19世紀前半		I-154
59-9	91-9	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	鉢	体部	やや密	刷毛目	—	—	(4.1)	唐津	18世紀		I-158
59-10	91-10	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	鉢	口縁	やや密	刷毛目	—	—	(3.3)	唐津	18世紀		I-159
59-11	91-11	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	鉢	体部	やや密	刷毛目	—	—	(5.7)	唐津	18世紀		I-156

第59図 Ⅰ区Ⅲ層 出土遺物

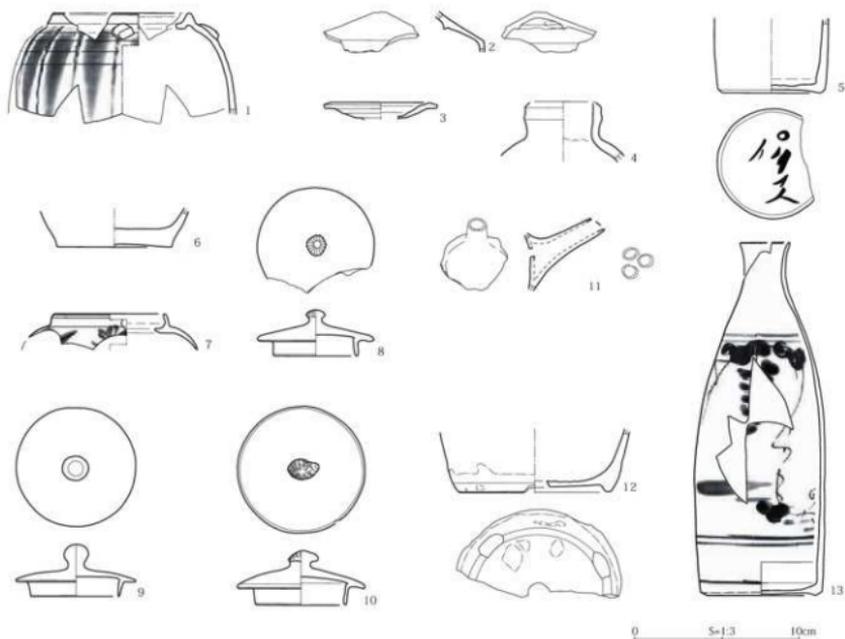


III層 出土遺物観察表(陶器)

採取番号	写真採取番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
60-1	91-12	1区 遺層	陶器	碗	口部～体部	密	灰釉鉄輪部分	—	—	(4.3)	大塚相馬	18世紀後半		I-181
60-2	91-13	1区 遺層	陶器	碗	口部～体部	密	灰釉	—	—	(2.6)	大塚相馬	18世紀後半	体部に凹部あり	I-188
60-3	91-14	1区 遺層	陶器	天目茶碗	口部～体部	密	灰釉	—	—	(4.2)	瀬戸美濃	17世紀～18世紀		I-180
60-4	91-15	1区 遺層	陶器	段付碗	体部	密	灰釉	—	—	(2.8)	大塚相馬	19世紀		I-176
60-5	91-16	1区 遺層	陶器	段付碗	体部	密	灰釉	—	—	(4.0)	大塚相馬	18世紀後半		I-189
60-6	91-17	1区 遺層	陶器	碗	口縁～体部	密	鉄輪	—	—	(5.3)	大塚相馬	18世紀後半		I-155
60-7	91-19	1区 遺層	陶器	段付碗	口縁～体部	密	灰釉	—	—	(4.3)	大塚相馬	18世紀後半		I-149
60-8	91-18	1区 遺層	陶器	碗	体部～底部	密	灰釉	—	(4.6)	(2.45)	大塚相馬	18世紀後半		I-190
60-9	91-21	1区 遺層	陶器	小碗	体部～底部	密	灰釉	—	(3.0)	(2.7)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-171
60-10	91-20	1区 遺層	陶器	小碗	口部～底部	密	白濁釉	(6.15)	(3.0)	(3.4)	大塚相馬	18世紀後半～19世紀前半		I-199
60-11	92-1	1区 遺層	陶器	蓋	口縁～底部	粗	灰釉	(6.8)	(4.5)	(2.0)	小野相馬?	18世紀～19世紀		I-179
60-12	92-2	1区 遺層	陶器	碗	体部～底部	密	灰釉	—	3.7	(2.4)	大塚相馬	18世紀後半		I-184
60-13	92-3	1区 遺層	陶器	碗	体部～底部	密	白濁釉	—	(3.6)	(2.2)	大塚相馬	18世紀後半～19世紀前半		I-177
60-14	92-4	1区 遺層	陶器	碗	体部～底部	密	白濁釉	—	(3.3)	(3.3)	大塚相馬	18世紀後半～19世紀前半		I-175
60-15	92-5	1区 遺層	陶器	造類	体部～底部	やや密	灰釉	—	(7.6)	(2.6)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-178
60-16	92-9	1区 遺層	陶器	井	口縁～底部	密	鉄絵駒文	(4.6)	2.9	3.8	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-148
60-17	92-6	1区 遺層	陶器	端反碗	口縁～底部	密	白濁釉	(8.4)	(3.6)	5.0	大塚相馬	18世紀末～19世紀前半		I-151
60-18	92-7	1区 遺層	陶器	碗	口部～底部	密	白濁釉	(11.9)	(3.85)	(6.0)	大塚相馬	18世紀末～19世紀前半		I-192
60-19	92-8	1区 遺層	陶器	灰釉碗	口部～底部	粗	灰釉	(11.0)	(4.4)	(6.9)	小野相馬	18世紀中ごろ～18世紀後半		I-187

第60図 I区III層 出土遺物

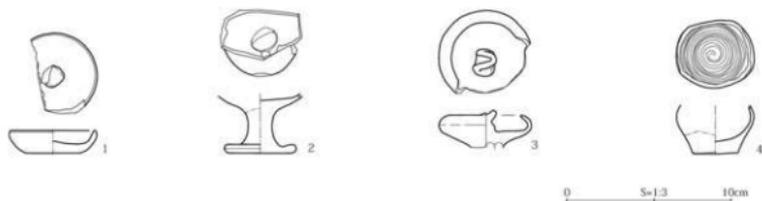
第1節 Ⅰ区



Ⅲ層 出土遺物観察表 (陶器)

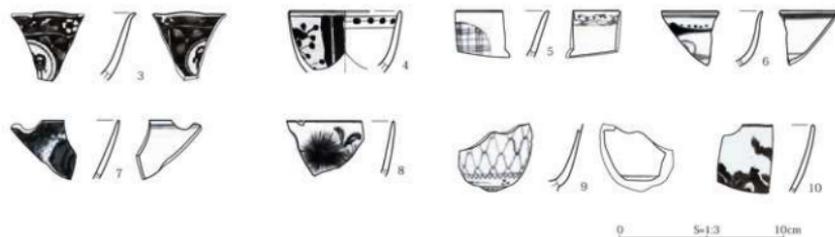
探取番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
61-1	92-10	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	土瓶	口縁～体部	繪密	色絵	8.4	—	(6.2)	大塚粗馬	19世紀中頃～		I-169
61-2	92-11	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	壺	体部	密	鉄軸	—	—	(2.5)	不明	近世		I-167
61-3	92-12	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	蓋	口縁～体部	密	—	7.0	—	(1.0)	不明	近世		I-165
61-4	92-13	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	瓶	口縁～体部	やや密	灰軸	(4.2)	—	—	不明	近世		I-164
61-5	92-14	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	瓶類	体部～底部	密	灰軸	—	6.0	(4.6)	大塚粗馬	18世紀後半～19世紀前半	墨書	I-161
61-6	92-15	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	壺	底部	やや密	—	—	(7.0)	(2.4)	不明	近世		I-168
61-7	92-16	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	土瓶	口部～体部	密	鉄軸	(6.8)	—	(2.2)	大塚粗馬	19世紀前半		I-186
61-8	92-18	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	蓋	口縁～底部	密	白濁釉 菊花形筋	5.0	7.2	2.9	大塚粗馬	18世紀後半～19世紀前半	土瓶	I-153
61-9	92-19	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	蓋	完形	密	白濁釉	5.2	7.4	3.2	大塚粗馬	18世紀後半～19世紀前半	土瓶	I-150
61-10	92-20	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	蓋	口縁～底部	密	白濁釉 貝形筋	5.6	7.8	(3.35)	大塚粗馬	18世紀後半～19世紀前半	土瓶	I-157
61-11	92-17	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	土瓶	注口部	密	—	—	—	(4.5)	大塚粗馬	19世紀前半		I-173
61-12	93-1	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	植木鉢	体部～底部	粗	鉄軸	—	9.2	(3.9)	埴	19世紀		I-163
61-13	93-6	Ⅰ区 Ⅲ層	陶器	徳利	完形	密	—	(2.6)	6.6	21.9	大塚粗馬	19世紀中頃		I-229

第61図 Ⅰ区Ⅲ層 出土遺物



III層 出土遺物観察表（陶器）

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・部位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			発地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
62-1	93-2	1区 皿層	陶器	素焼	口縁～底部	やや粗	鉄粒	5.5	3.5	1.5	堤	19世紀		I-174
62-2	93-3	1区 皿層	陶器	素焼	脚部	やや粗	鉄粒	—	4.1	(3.8)	堤	19世紀	脚付	I-198
62-3	93-4	1区 皿層	陶器	素焼	受け部	やや粗	鉄粒	—	—	(2.1)	堤	19世紀	脚付	I-197
62-4	93-5	1区 皿層	陶器	豆焼	体部～底部	やや粗	胎粒	—	3.0	3.1	堤	19世紀	内) ロク口口	I-195



III層 出土遺物観察表（磁器）

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・部位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			発地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
62-3	93-7	1区 皿層	磁器	梅花碗	口縁～体部	緻密	染付宝文・波濤文	—	—	(4.3)	肥前	18世紀後半～19世紀		J-227
62-4	93-8	1区 皿層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付梅草花文	(6.3)	—	(3.8)	肥前	18世紀～19世紀		J-166
62-5	93-9	1区 皿層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付丸文	—	—	(2.9)	肥前	18世紀前半		J-174
62-6	93-10	1区 皿層	磁器	端反碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(3.4)	瀬戸美濃	19世紀前半		J-134
62-7	93-11	1区 皿層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付吹雪花文二重四線	—	—	(3.55)	肥前	17世紀後半		J-140
62-8	93-12	1区 皿層	磁器	筒形碗	口縁～体部	緻密	染付植物文	—	—	(3.4)	肥前	18世紀～19世紀		J-130
62-9	93-13	1区 皿層	磁器	坪	体部	緻密	染付新目文	—	—	(3.7)	肥前	17世紀後半～18世紀		J-164
62-10	93-14	1区 皿層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(4.2)	肥前	18世紀後半～19世紀前半	口紅	J-225

第62図 1区III層 出土遺物

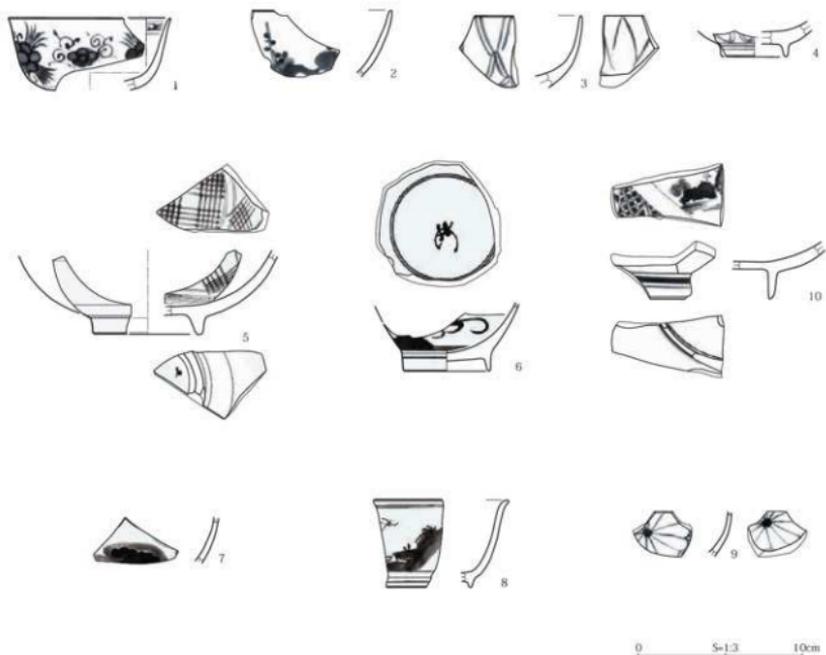
第1節 Ⅰ区



Ⅲ層 出土遺物観察表（磁器）

調査番号	写真図版番号	グリッド 区画・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
63-1	93-15	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	小碗	口縁～体部	踏密	染付風雲文	—	—	(3.85)	瀬戸・美濃	19世紀		J-224
63-2	93-16	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	碗	口縁～体部	踏密	染付流水・花文	—	—	(2.3)	肥前	18世紀		J-145
63-3	93-17	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	碗	口縁～体部	踏密	外) 柿輪 内) 染付	—	—	(4.0)	肥前	18世紀?		J-162
63-4	93-18	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	碗	口縁～体部	踏密	染付草文	—	—	(3.1)	肥前?	19世紀		J-159
63-5	94-1	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	端反碗	口縁～体部	踏密	染付草花文	—	—	(3.7)	瀬戸・美濃	19世紀前半		J-175
63-6	94-2	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	碗	口縁～体部	踏密	染付松文	—	—	(4.8)	肥前	18世紀後半 ～19世紀		J-197
63-7	94-3	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	端反碗	口縁～体部	踏密	染付	—	—	(3.6)	肥前	19世紀		J-141
63-8	94-4	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	碗	口縁～体部	踏密	染付	—	—	(4.1)	肥前	18世紀後半 ～19世紀		J-226
63-9	94-5	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	碗	口縁～体部	踏密	白磁	—	—	(3.1)	肥前	18世紀	口紅	J-184
63-10	94-6	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	碗	口縁～体部	踏密	染付丸文	—	—	(3.25)	肥前	18世紀		J-148
63-11	94-7	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	端反碗	口縁～体部	踏密	染付	—	—	(4.4)	瀬戸・美濃	19世紀前半		J-199
63-12	94-8	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	輪花皿	口縁～体部	踏密	染付草文	—	—	(2.9)	肥前	18世紀	口紅	J-181
63-13	94-9	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	碗?	体部	踏密	染付・鉄斑	—	—	(3.9)	肥前	近世		J-131

第63図 Ⅰ区Ⅲ層 出土遺物



III層 出土遺物観察表（磁器）

図版 番号	写真図版 番号	グリップ 遺構・層位	類別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			発地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
64-1	94-10	I区 遺層	磁器	碗	口縁～体部	磁密	染付花文	(9.95)	—	(4.5)	肥前	18世紀前半		J-169
64-2	94-11	I区 遺層	磁器	碗	口縁～体部	磁密	染付松梅文	—	—	(4.1)	肥前	17世紀後半 ～18世紀		J-180
64-3	94-12	I区 遺層	磁器	小碗	口縁～体部	磁密	染付網目文	—	—	(4.45)	肥前	18世紀		J-183
64-4	94-13	I区 遺層	磁器	碗	体部～底部	磁密	染付網目文	—	(2.85)	(2.2)	肥前	18世紀		J-185
64-5	94-18	I区 遺層	磁器	碗	体部～底部	磁密	染付格子文	—	(6.4)	(5.2)	肥前	19世紀		J-204
64-6	94-19	I区 遺層	磁器	広東碗	体部～底部	磁密	染付草花文	—	(5.2)	(3.6)	地方?	19世紀		J-155
64-7	94-14	I区 遺層	磁器	皿	体部	磁密	染付	—	—	(2.8)	肥前	17世紀後半 ～18世紀中頃	懸挿き	J-156
64-8	94-15	I区 遺層	磁器	端反小碗	口縁～底部	磁密	染付風景文	—	—	(5.4)	瀬戸・美濃	19世紀		J-214
64-9	94-16	I区 遺層	磁器	碗	体部	磁密	染付菊花文	—	—	(2.8)	肥前	18世紀中頃 ～後半		J-206
64-10	94-17	I区 遺層	磁器	角皿	体部～底部	磁密	染付風景文	—	—	(3.5)	肥前	18世紀～ 19世紀		J-173

第64図 I区III層 出土遺物

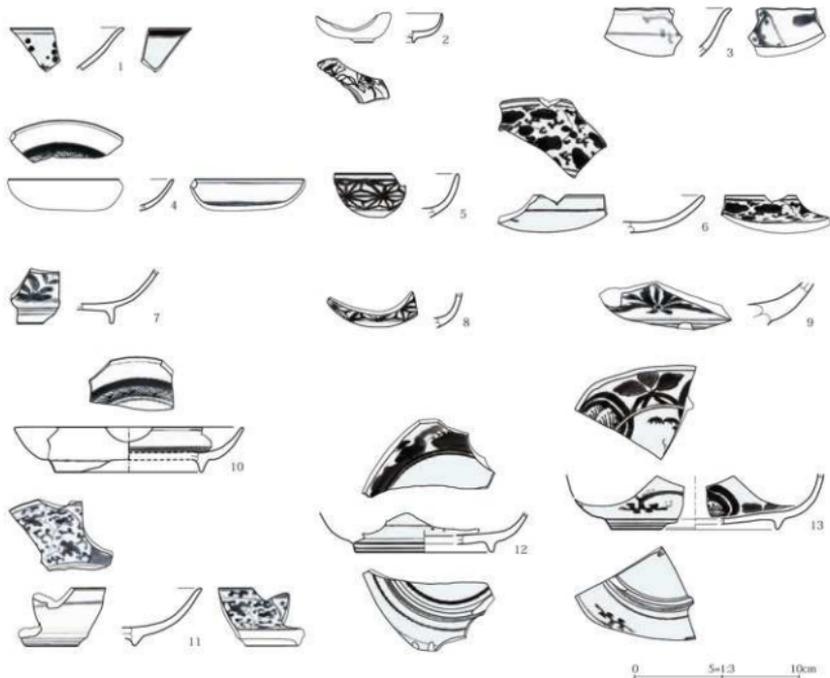
第1節 I区



III層 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺跡・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	付録番号
								口径	底径	器高				
65-1	95-1	I区 重層	磁器	碗	体部~底部	緻密	染付風梨文	—	(4.1)	(2.55)	肥前	18世紀		J-153
65-2	95-2	I区 重層	磁器	碗	体部~底部	緻密	染付草花文	—	(2.15)	(3.2)	地方?	18世紀		J-154
65-3	95-3	I区 重層	磁器	端反小皿	口縁~底部	緻密	染付菊唐草文	(8.4)	(3.1)	4.6	瀬戸美濃	19世紀前半		J-127
65-4	95-4	I区 重層	磁器	端反小皿	口縁~底部	緻密	染付蓮華文	(11.1)	(4.2)	(5.9)	肥前	19世紀		J-223
65-5	95-5	I区 重層	磁器	碗	口縁~底部	緻密	染付山水文	(10.3)	(5.0)	(5.5)	肥前	18世紀~19世紀		J-196
65-6	95-6	I区 重層	磁器	端反小皿	口縁~底部	緻密	染付山形に武田菱	(10.2)	(4.5)	(5.25)	肥前	19世紀前半		J-133
65-7	95-7	I区 重層	磁器	碗	口縁~底部	緻密	染付・内底「寿」文	(8.85)	(3.4)	(4.8)	肥前?	18世紀前半		J-158
65-8	95-9	I区 重層	磁器	端反小皿	口縁~底部	緻密	染付草文	(8.4)	(3.4)	(4.3)	瀬戸美濃	19世紀前半	見込に「寿」	J-150
65-9	95-10	I区 重層	磁器	碗	口縁~底部	緻密	染付梅蝶文	(8.7)	(3.8)	(4.6)	肥前	18世紀中頃~後半		J-198
65-10	95-8	I区 重層	磁器	端反小皿	口縁~体部	緻密	染付草文	—	—	(2.1)	肥前	19世紀前半		J-176
65-11	95-11	I区 重層	磁器	角皿	口縁~体部	緻密	外)染付草文 内)染付菊唐草文	—	—	(1.6)	肥前	18世紀		J-189
65-12	95-12	I区 重層	磁器	皿	口縁~体部	緻密	染付草文	—	—	(2.0)	肥前	19世紀前半		J-182

第65図 I区III層 出土遺物

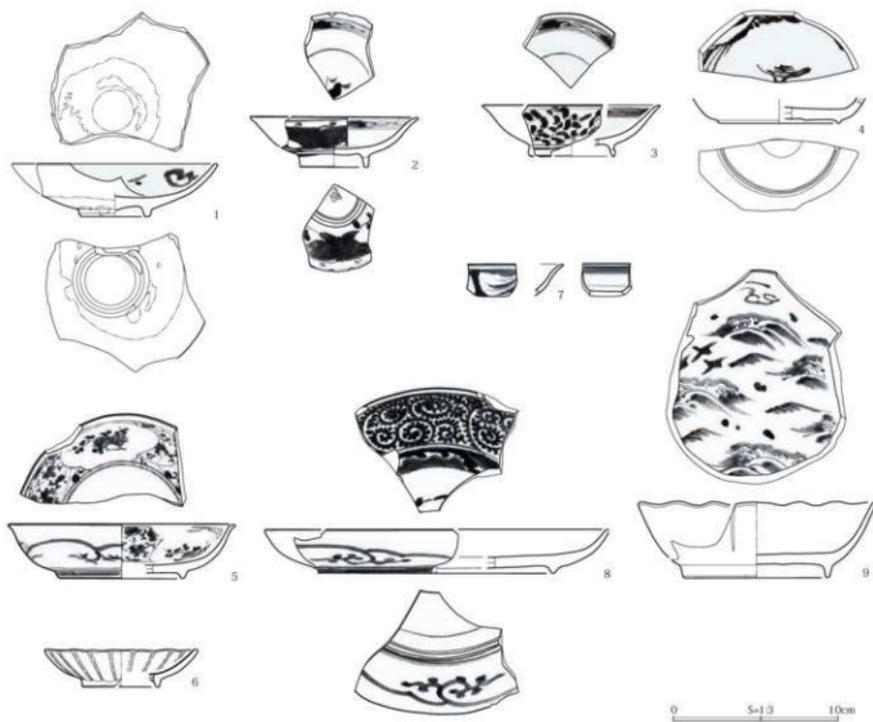


III層 出土遺物観察表 (磁器)

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 道幅・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
66-1	96-1	1区 Ⅱ層	磁器	皿	口縁～体部	織密	染付草花文	—	—	(2.7)	瀬戸・美濃	19世紀		J-208
66-2	95-13	1区 Ⅱ層	磁器	蓋	口縁～底部	織密	染付草花文・赤 絵	—	—	(1.8)	肥前	19世紀		J-188
66-3	96-2	1区 Ⅱ層	磁器	皿	口縁～体部	織密	染付樹木文	—	—	(2.95)	肥前	18世紀		J-163
66-4	96-5	1区 Ⅱ層	磁器	皿	口縁～体部	織密	染付	—	—	(1.75)	肥前	18世紀後半		J-165
66-5	96-3	1区 Ⅱ層	磁器	端切皿	口縁～体部	織密	染付麻葉文	—	—	(2.7)	肥前	近世		J-205
66-6	96-6	1区 Ⅱ層	磁器	皿	口縁～体部	織密	染付花唐草文	—	—	(2.3)	肥前	17世紀後半～ 18世紀前半		J-146
66-7	96-4	1区 Ⅱ層	磁器	碗	体部～底部	織密	染付草文	—	—	(3.45)	肥前	17世紀後半		J-136
66-8	96-7	1区 Ⅱ層	磁器	小碗	体部	織密	染付麻葉文	—	—	(2.2)	肥前	近世		J-143
66-9	96-8	1区 Ⅱ層	磁器	皿	体部	織密	染付草文	—	—	(2.7)	肥前	17世紀後半 ?	美器手	J-151
66-10	96-9	1区 Ⅱ層	磁器	皿	口縁～底部	織密	染付	—	—	(2.8)	肥前	18世紀後半		J-168
66-11	96-10	1区 Ⅱ層	磁器	皿	口縁～底部	織密	染付花唐草文	—	—	(3.6)	肥前	17世紀後半～ 18世紀前半		J-160
66-12	96-11	1区 Ⅱ層	磁器	皿	体部～底部	織密	染付風景文	—	(8.4)	(2.4)	肥前	18世紀後半		J-152
66-13	96-12	1区 Ⅱ層	磁器	皿	体部～底部	織密	染付草文	—	(10.2)	(3.3)	肥前	18世紀後半		J-195

第66図 I区III層 出土遺物

第1節 Ⅰ区



Ⅲ層 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
67-1	97-1	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	皿	口縁～体部	積密	染付	(12.4)	(4.1)	(3.3)	肥前(波佐見)	18世紀前半	肥の日輪刺子	J-135
67-2	97-2	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	皿	口縁～底部	積密	染付模文	(10.4)	(4.2)	3.1	肥前	17世紀後半		J-161
67-3	97-4	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	皿	口縁～底部	積密	染付唐草文	(10.8)	(5.1)	(3.2)	瀬戸・美濃	19世紀前半		J-229
67-4	97-3	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	皿	体部～底部	積密	染付草花	—	(7.3)	(1.5)	肥前	18世紀		J-203
67-5	97-7	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	皿	口縁～底部	積密	染付花草文	(13.8)	(7.5)	(3.4)	肥前	18世紀前半		J-177
67-6	97-5	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	菊皿	口縁～底部	積密	型押	(9.4)	(4.6)	(2.3)	肥前	19世紀前半?		J-172
67-7	97-6	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	皿	口縁～体部	積密	染付草文	—	—	(2.0)	肥前	17世紀後半		J-138
67-8	97-8	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	皿	口縁～底部	積密	外) 染付草文 内) 染付唐草文・波濤文	(21.0)	(14.4)	(2.7)	肥前	18世紀後半		J-191
67-9	97-9	Ⅰ区 Ⅲ層	磁器	輪花皿	口縁～底部	積密	染付波鳥文	(14.4)	(8.8)	(4.7)	肥前	19世紀前半	口紅・肥の日輪刺子	J-178

第 67 図 Ⅰ区Ⅲ層 出土遺物



III層 出土遺物観察表 (磁器)

図版 番号	写真版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
68-1	98-1	1区 Ⅱ層	磁器	坏	口縁~底部	織密	白磁	(6.5)	(1.6)	(2.4)	肥前	近世		J-228
68-2	98-2	1区 Ⅱ層	磁器	高足坏	口縁~底部	織密	染付菊花纹	(6.85)	(3.95)	(6.2)	肥前	18世紀後半~ 19世紀		J-194
68-3	98-3	1区 Ⅱ層	磁器	高足坏	口縁~底部	織密	白磁	(7.9)	(4.4)	3.7	肥前	近世		J-186
68-4	98-4	1区 Ⅱ層	磁器	角小皿	口縁~底部	織密	白磁型押し	—	—	(1.9)	肥前	近世		J-192
68-5	98-10	1区 Ⅱ層	磁器	角小皿	口縁~底部	織密	型押し青海波・葉・ 花纹	(7.5)	(3.6)	(2.6)	切込	19世紀中葉		J-167
68-6	98-5	1区 Ⅱ層	磁器	坏	口縁~底部	織密	染付隋唐草文・草 文	—	—	(2.2)	肥前	18世紀前半		J-207
68-7	98-6	1区 Ⅱ層	磁器	瓶	体部~底部	織密	染付蓮弁文	—	—	(3.5)	肥前	18世紀~19世 紀		J-217
68-8	98-7	1区 Ⅱ層	陶器	坏?	口縁~体部	織密	鉄輪	—	—	(3.2)	肥前	近世	口クロ目	J-230
68-9	98-9	1区 Ⅱ層	磁器	猪口	体部~底部	織密	染付	—	(5.9)	(5.2)	肥前	19世紀前半?		J-137
68-10	98-11	1区 Ⅱ層	磁器	香炉	口縁~体部	織密	染付	—	—	(5.05)	肥前	18世紀		J-171
68-11	98-12	1区 Ⅱ層	磁器	向付	口縁~底部	織密	染付隋唐草・蓮弁	(9.15)	(8.1)	(3.85)	肥前	18世紀末~19 世紀初頭		J-149
68-12	98-8	1区 Ⅱ層	磁器	小碗	口縁~体部	織密	染付草文	(6.2)	—	(2.1)	肥前	18世紀		J-190

第68図 I区III層 出土遺物



0 S=1:3 10cm

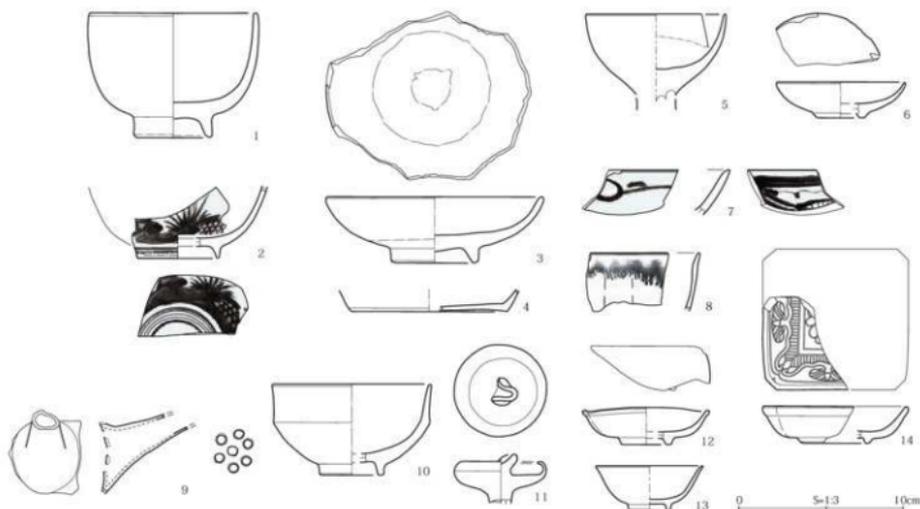
III層 出土遺物観察表 (磁器)

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺積・樹位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
69-1	98-18	1区 Ⅱ層	磁器	蓋	口縁～底部	織密	染付風簾文	(9.3)	(3.3)	(2.65)	肥前	19世紀前半	跡あり	J-187
69-2	98-19	1区 Ⅱ層	磁器	蓋	口縁～底部	織密	染付	6.6	—	2.3	肥前	19世紀前半		J-234
69-3	98-13	1区 Ⅱ層	磁器	瓶	体部	織密	染付・赤絵	—	—	(6.8)	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半		J-179
69-4	98-16	1区 Ⅱ層	磁器	徳利	体部	織密	染付草文	—	—	(10.55)	肥前	19世紀?		J-147
69-5	98-15	1区 Ⅱ層	磁器	瓶	体部	織密	染付菊唐草文	—	—	(2.8)	肥前	18世紀後半?		J-144
69-6	98-21	1区 Ⅱ層	磁器	蓋	体部	織密	染付丸文	(5.8)	—	(2.3)	肥前	18世紀		J-157
69-7	98-20	1区 Ⅱ層	磁器	御神酒徳利	体部～底部	織密	染付	—	(3.7)	(2.4)	肥前	19世紀		J-132
69-8	98-14	1区 Ⅱ層	磁器	皿	底部	織密	染付	—	—	(0.5)	肥前	18世紀前半～ 中頃	「宮貴長春」 跡	J-250
69-9	98-17	1区 Ⅱ層	磁器	瓶	体部	織密	染付草文	—	—	(8.0)	肥前	18世紀～ 19世紀		J-231

第69図 I区III層 出土遺物

## (3) I層・II層・攪乱出土遺物(第70～71図、図版99～100)

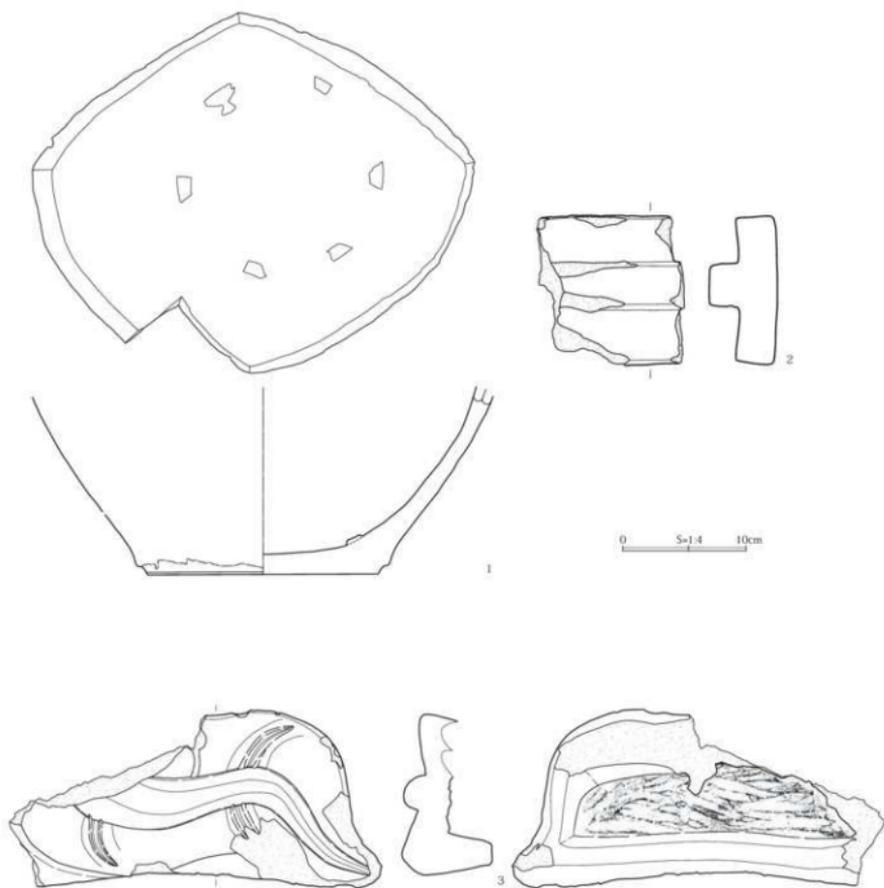
I層・II層・攪乱からは18世紀以降の陶磁器類、瓦等が出土している。陶器は大塚相馬を主体とし、磁器は肥前を主体とし、瀬戸・美濃産のものを含んでいる。



I層・II層・攪乱 出土遺物観察表(陶磁器)

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
70-1	99-1	I区	陶器	碗	口部～底部	やや密	灰釉	10.2	4.5	7.7	肥前?	17世紀?	御勝手か	I-194
70-2	99-6	I区	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付草文	(10.4)	(4.0)	(5.9)	肥前	19世紀		J-128
		II区												
70-3	99-3	I区	陶器	皿	口縁～底部	粗	灰釉	(13.2)	(4.8)	(4.1)	小野相馬	18世紀後半	龍の目輪 刺ぎ	I-172
		II区												
70-4	99-7	I区	陶器	惣柄	体部～底部	やや粗	—	—	(9.6)	(1.35)	埴?	19世紀		I-193
		II区												
70-5	99-2	I区	磁器	環	口縁～体部	緻密	青磁	(8.5)	—	(5.4)	肥前	18世紀?		J-202
		II区												
70-6	99-4	I区	磁器	皿	口縁～底部	緻密	染付水草文	(7.85)	(2.9)	(2.2)	肥前	17世紀後半 ～18世紀		J-201
		II区												
70-7	99-5	I区	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(2.8)	肥前	18世紀		J-211
		II区												
70-8	99-8	I区	陶器	変形碗	口部～体部	密	白磁軸部軸 流し	—	—	(3.1)	大塚相馬	18世紀後半 ～19世紀		I-203
		II区												
70-9	100-1	I区	陶器	土瓶	注口部	密	灰釉	—	—	(5.2)	大塚相馬	19世紀	7穴	I-202
		II区												
70-10	99-9	I区	陶器	段付碗	口部～体部	密	灰釉	(9.6)	(3.8)	(5.75)	大塚相馬	18世紀中頃 ～後半		I-201
		II区												
70-11	99-10	I区	陶器	茶碗	口部～体部	やや密	黒釉	(4.8)	—	(3.1)	埴?	19世紀		I-200
		II区												
70-12	99-11	I区	磁器	角小皿	口縁～底部	緻密	型押し	(7.6)	(3.0)	(2.3)	肥前?	近世		J-200
		II区												
70-13	100-2	I区	磁器	小碗	口縁～底部	緻密	白磁	(6.5)	(2.4)	2.8	肥前	近世		J-233
		II区												
70-14	100-3	I区	磁器	角小皿	口縁～底部	緻密	白磁型押し 縦形文	(8.8)	(4.0)	(2.3)	肥前	近世		J-232
		II区												

第70図 I区I層・II層・攪乱 出土遺物



攪乱 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・樹位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
71-1	100-4	Ⅰ区 攪乱	陶器	甕	口縁~底部	やや粗	鉄軸	7.65	3.6	3.4	埴	19世紀	目録×6	I-170

攪乱 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・樹位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
71-2	100-5	Ⅰ区 攪乱	T字瓦	11.6	(11.2)	5.4		H-31
71-3	100-6	Ⅰ区 攪乱	鬼瓦	13.2	26.4	3.6		H-36

第71図 Ⅰ区攪乱 出土遺物

## 第2節 II区

## 1 IV層上面

IV層上面で検出された遺構は竹樋2条、溝跡2条、土坑2基、その他の遺構2基の計8基である。調査区東側では竹樋2条の他、桁状遺構1基が検出され、水周り関係の遺構が多い。



第72図 II区 IV層上面遺構配置図

## (1) 溝跡

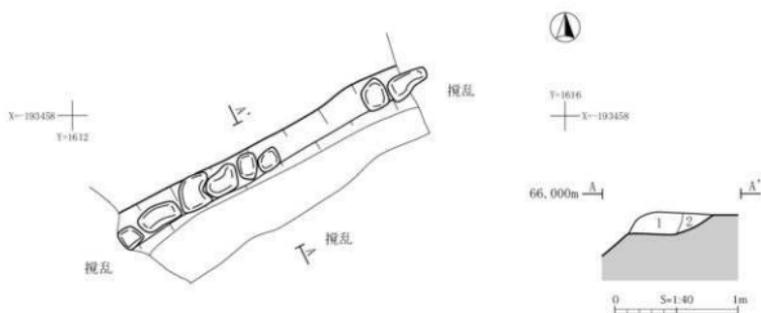
## 1) SD27 溝跡 (第73図、図版22-1～2)

S6-W69 グリッドに位置する。東西方向に走る石組溝である。北側以外は攪乱によって大きく壊され、そのままで延びていた痕跡は見られなかった。

残存する規模は長さ4.9m、北側石の南面からの幅1m、掘り方の幅1.5m、深さ15cmを測る。主軸方向はN-60°-Eを示す。側石には18～34cmの川原石が間を空けて一段並べられている。側石が抜き取られた痕跡はなかった。

堆積土は2層からなり、1層は黄褐色シルトで礫を少量含む溝内堆積土であるが、水流の痕跡は認められなかった。2層は黄灰色シルト質粘土で礫を多量に含む掘り方埋土である。

遺物は出土していない。



SD27 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR5/6	黄褐色	シルト	なし	あり	径5cm以下の微少量
2	2.5Y6/1	黄灰色	シルト質粘土	ややあり	あり	砂粒、1~2cmの礫多量 掘り方埋土

第73図 SD27 溝跡 平面図・断面図

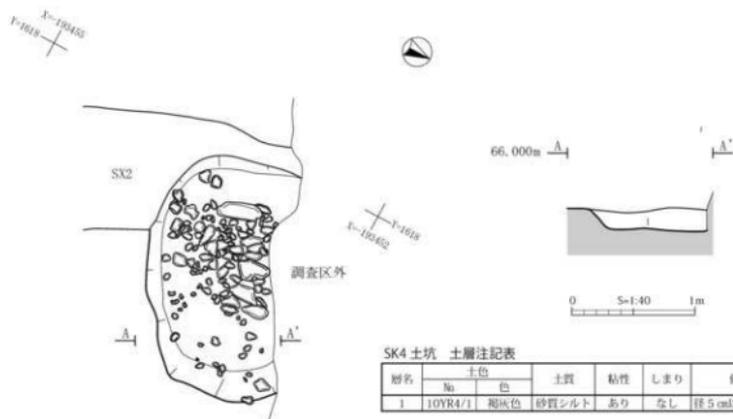
## (2) 土坑

### 1) SK4 土坑 (第74~75図、図版22-3~4)

S6-W69 グリッドに位置する。西側をSX2によって切られ、北側は調査区外へ広がる。

確認された規模は南北1m、東西の残存長2m、深さ16cmを測る。平面形は不整丸方形を、断面形は皿状を呈するものと思われる。堆積土は2層の礫を含む砂質シルトからなる。

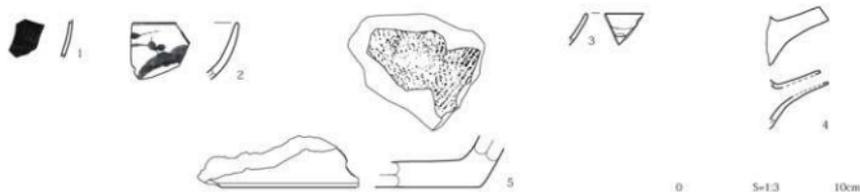
遺物は18世紀後半から19世紀前半の陶磁器、瓦が出土している。



SK4 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/1	黄灰色	砂質シルト	あり	なし	径5cm以下の微少量

第74図 SK4 土坑 平面図・断面図



SK4 土坑 出土遺物観察表 (陶磁器)

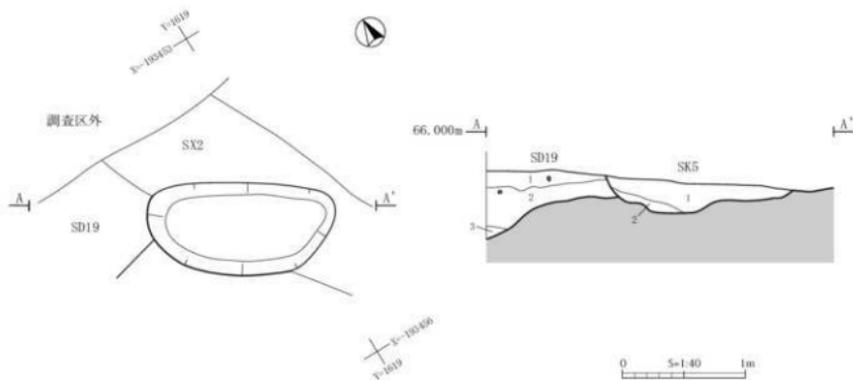
図版番号	写真図版番号	グリッド 遺種・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
75-1	101-1	S6-W69 SK4 1層	陶器	甕	体部	密	胎釉	—	—	(2.2)	大塚粗馬	19世紀前半~幕末		I-43
75-2	101-2	S6-W69 SK4 埋土一括	磁器	甕	口縁~体部	緻密	染付梅樹文	—	—	(3.5)	肥前(波佐見)	18世紀後半		J-24
75-3	101-3	S6-W69 SK4 2層	磁器	皿	口縁	緻密	染付	—	—	(1.95)	肥前	18世紀		J-23
75-4	101-4	S6-W69 SK4 2層	陶器	土瓶類	注口部	密	灰釉	—	—	(3.6)	大塚粗馬	18世紀		I-42
75-5	101-5	S6-W69 SK4 1層	陶器	溜鉢	底部	やや粗	鉄釉	—	—	(3.2)	堀	19世紀前半		I-44

第75図 SK4土坑 出土遺物

## 2) SK5土坑 (第76図、図版22-5~6)

S6-W69グリッドに位置する。西端でSD19を切り、中央西側から東にかけてSX2によって上部を壊されている。残存する規模は長軸1.5m、短軸75cm、深さ30cmを測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は底面中央が浅くくぼ皿状を呈する。堆積土は2層の砂質シルトからなる。

遺物は出土していない。



SK5土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR5/3	赤み・黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径5mmの炭化物微量。径2cm以下の礫微量。酸化鉄微量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5mm以下の炭化物微量

第76図 SK5土坑 平面図・断面図

## (3) その他の遺構

## 1) 1・2号竹樋 (第77～80図、図版22-7～8・23-1～5・24-1～3)

調査区を南北方向に走る竹樋である。プラン検出と調査区北壁の土層観察から2条の竹樋が新旧関係にあることが判明し、東側の古い竹樋を1号竹樋、西側の新しい竹樋を2号竹樋として登録した。1号竹樋は枡部分の調査から2時期あったことが確認された。

[1号竹樋] S5-W67・S5-W68・S6-W67 グリッドに位置する。北側はSD7・SD18・SD33に、北端は2号竹樋によって切られる。中央部分はII区の東端にある1号石垣の裏込め状況を把握するために試掘した際、上部を壊してしまった。試掘トレンチの底面で検出した枡によって南北方向から西方向へ向きを変えたことが確認された。

枡は長方形の底板と側板、やや欠損する蓋板からなり、いずれも一枚板でほぼ方形である。横長の側板には縁より6cm内側にホゾ溝が切れ、もう一方の側板をはめ込んだ外側から和釘で固定している。釘を正確な位置に打ち込むための縦方向の見当線が2条確認された。底板にはホゾ溝は切られておらず、裏から和釘で側板を固定している。蓋板と側板上面には釘を打ち込んだ痕跡が見られず、蓋板は固定されていなかったものと思われる。南側と西側の側板には径約8cmの竹樋を差し込む孔があり、南側板の孔は丁寧な加工によって開けられた痕跡が見られ、西側板の孔は割り裂いたような荒い作りになっていることが観察された。孔の位置は西側板のほうが4.6cm高く、また、竹樋が北に向かって緩やかな下り傾斜していることから、南側から引いた水を枡で水位を上げ、西方向に流したことが窺える。枡を設置した掘り方の規模は平面72cm×80cm、深さ44cmを測る。平面形は不整五角形で、断面形は方形を呈する。枡に接続して南方向に走る竹樋の痕跡は長さ6.6m、径約8cmを測る。本来は継手などの接続材があったものと考えられる。掘り方の規模は長さ6.7m、幅54～66cm、深さ83cmを測る。断面形はU字形を呈する。主軸方向はN-25°-Wを示す。

枡から西方向に走る長さ3.94m、径約8cmを測る竹樋が1条検出された。枡近くでは原形を留め、枡に差し込まれている状態が確認されたが上部の大半は腐食して消失する。その先は竹樋痕が調査区外へ伸びる。継手などの接続材は残存していない。確認された掘り方の規模は長さ5.9m、幅40～58cm、深さ64cmを測り、断面形は開いたU字形を呈する。竹樋の主軸方向はN-67.5°-Wを示す。

枡でつながる竹樋を完掘した後に、枡から北方向に走る竹樋痕を検出した。竹樋1条、竹樋痕1条、継手1基からなる。継手の北側にはほぼ原形を保つ竹樋が遺存する。竹樋は径約6.5cmで、継手に差し込まれており、継手から調査区北壁までの間で確認された長さは1.9mを測る。継手から南側では長さ2.4m、径約5cmの竹樋痕が枡に向かって延びる。継手は縦14cm、横23.6cm、高さ15cmの角材に、径約7cmと径約5cmの孔を両側から貫通させ、大きい孔の方を北に向けて設置している。北面の孔の径と差し込まれた竹樋の外径とは合わず、隙間が生じているが特に水漏れを防ぐような材は検出されなかった。確認された掘り方の規模は長さ4.60m、幅42～56cm、深さ25cmを測り、断面形は開いたU字形を呈する。主軸方向はN-25°-Wを示し、枡から南に走る竹樋痕と同じ傾斜にある。また双方の標高差は北側の方が低く、これらのことから、もともとは南北方向に直線的につながった竹樋によって北方向に水を流していたが、何らかの理由で枡を設置することによって西方向に流れを変えたものと推測される。

竹樋の堆積土は5層からなり、1層は礫を少量含む灰黄褐色シルト、2層は礫を微量に含むにぶい黄褐色粘土質シルト、4層は褐灰色の粘土、5層は黄褐色シルトで掘り方埋土である。3層は灰黄褐色の砂で、竹樋内の堆積土である。枡の堆積土は5層からなり、粘土もしくは砂質シルトである。1層は竹樋内の堆積土、2層は枡内の堆積土、3～5層は掘り方埋土である。

遺物は瓦、磁器、木製品等が出土している。

[2号竹樋] S5-W68・S6-W67・S6-W68 グリッドに位置する。中央と北側を攪乱に壊され、SD18によって切られる。南側、北側ともに調査区外へ延びる。攪乱によって桁が壊されていることから、北側の2条の竹樋に新旧関係があるのか、それとも同時期に機能していたかは不明である。しかしながら東に構築された1号竹樋と方位や構造が類似していることから当該遺構にも時期差があり、桁を設置して西方向に走る竹樋につけかえた可能性が考えられる。桁は西側板以外は攪乱によって大きく壊され、蓋板は残存していない。北側と南側の側板は一枚板で、縁際にホゾ溝が切られる。そこに西側板をはめ込み、外側から和釘で固定している。釘を打ち込むための縦方向の見当線が確認された。西側板は2枚の板を鉄製の合釘で接合させている。底板は2枚の板が使われており、合釘などによる接合の痕跡は見られない。ホゾ溝は切られず、裏から和釘で側板を固定している。竹樋を差し込む孔は径約7cmを測り、南側板からのみ検出された。桁を設置した掘り方の規模は平面が96×102cm、深さ34cmを測る。平面形は不整形を、断面形は方形を呈するものと思われる。

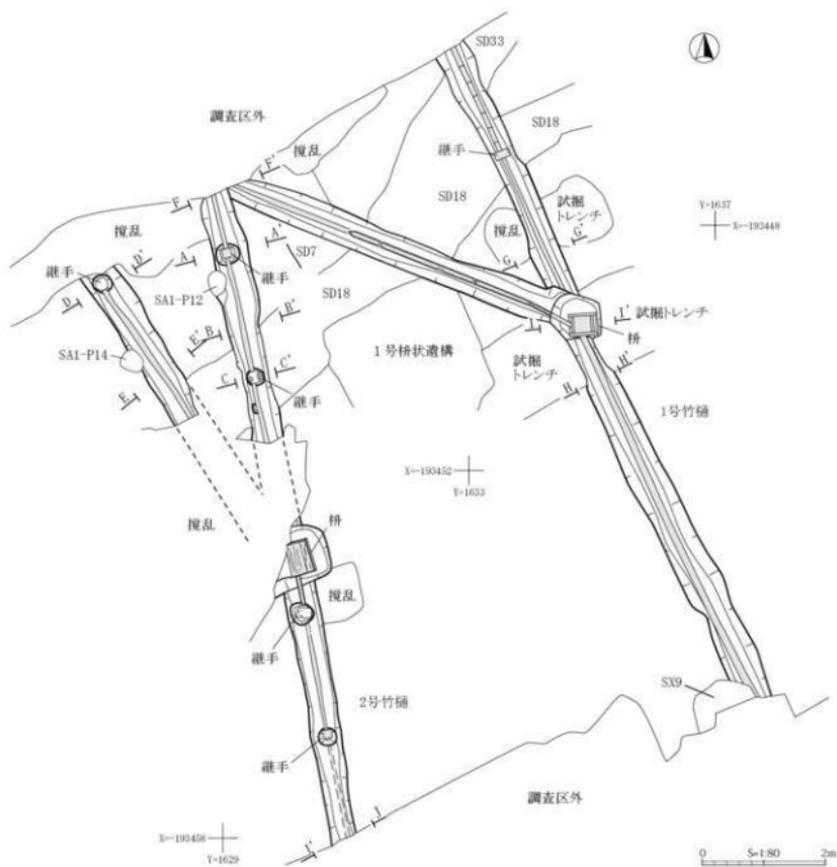
桁に接続して南方向に走る竹樋が1条検出され、継手の痕跡が2箇所確認された。南端では竹樋の痕跡のみ遺存する。桁の南側板から北側の継手痕までの距離は52cm、北側と南側の継手痕の距離2.02mを測る。桁の北側で確認された継手の距離は2mで南側と同じである。北側の継手痕の底面は16×24cmの長方形、南側は14×14cmの方形を呈し、高さは不明である。竹樋は桁から北側の継手痕の間に遺存し、径約7cmを測る。上部は腐食し消失する。竹樋痕は径約7cmで、継手痕の間で約1.75mが確認された。掘り方の規模は長さ4.2m、幅40～56cm、深さ66cmを測る。竹樋の主軸方向はN-11.5°-Eを示す。桁の北西方向からは、長さ2.12m、径約8cmの竹樋痕が1条と、継手を設置したと考えられる浅い掘り込みが検出された。竹樋痕の主軸方向はN-34°-Wを示す。掘り方の規模は長さ2.88m、幅50～58cm、深さ50cmを測る。断面形はU字形を呈する。

桁の北方向からは、竹樋痕1条・継手1基・継手痕1基が検出された。継手は縦15.4cm、横15.5cm、高さ27cmの角材に、径約6.5～8cmの楕円形の孔を開けている。両側面には幅8.5cm、深さ1.4cmのホゾ溝が切られ、何らかの部材を転用したものと考えられる。

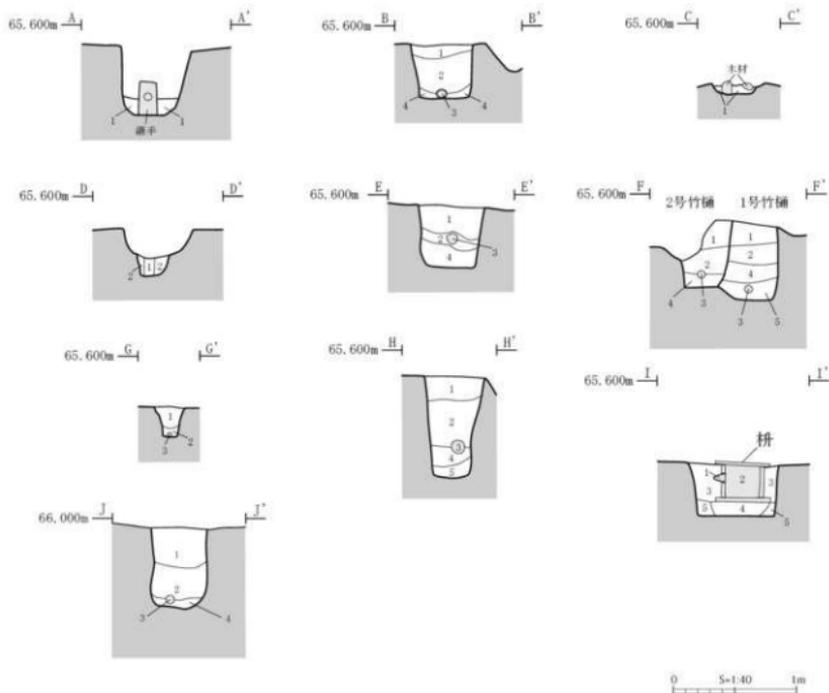
継手痕は木質がわずかに残存するだけで形状は不明である。

堆積土は4層からなる。1～2層は竹樋埋設後の埋め戻し土、3層は竹樋内の堆積土、4層は掘り方埋土である。

遺物は杭、桁、継手等が出土している。



第77図 1・2号竹樋 平面図



1号竹桶 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径5mm以下の黄褐色土粒少量 径5cm以下の灰白色粘土粒少量 径2cm以下の礫少量
2	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径3cm以下の褐灰色土粒多量 径5cm以下の灰白色粘土粒少量 径2cm以下の礫微量
3	10YR5/2	灰黄褐色	砂	なし	なし	
4	10YR5/1	褐灰色	粘土	あり	あり	径5～10cmのにぶい黄褐色粘土多量
5	10YR5/6	黄褐色	シルト	なし	あり	径5mm以下の灰白色粘土粒少量

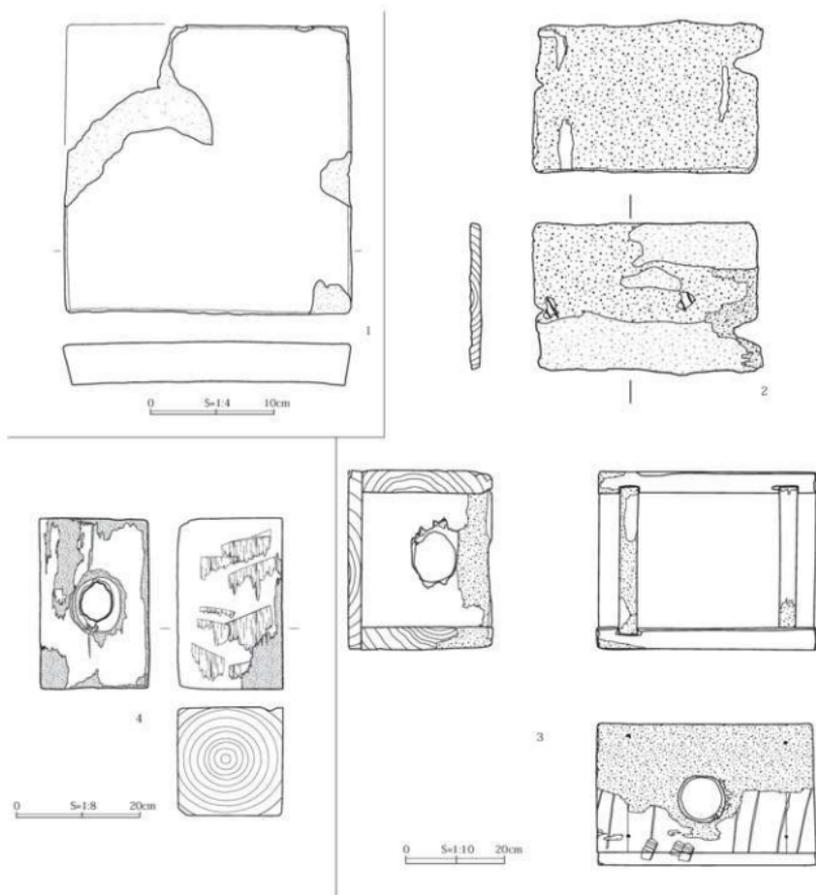
1号竹桶枘 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土	あり	なし	竹桶内埋粘土
2	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	陥込に酸化砂が混入
3	10Y7/1	灰白色	粘土	あり	あり	10BG7/1 明青灰色粘土粒の混層
4	5G5/1	緑灰色	粘土	あり	なし	径2cm以下の礫少量 径10mm以下の5G3/1 暗緑灰色粘土粒少量
5	10YR6/3	にぶい黄褐色	粘土	あり	あり	径5cm以下の礫や中多量 径10mm以下の褐灰色土粒多量 径1m以下の酸化砂多量

2号竹桶 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径5cm以下の褐灰色土粒多量
2	10YR6/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径5cm以下の礫・灰白色土粒少量
3	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	砂多量
4	5G3/1	暗緑灰色	粘土	あり	なし	径3cm以下の礫多量

第78図 1・2号竹桶 断面図



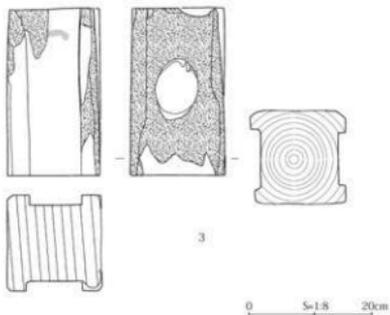
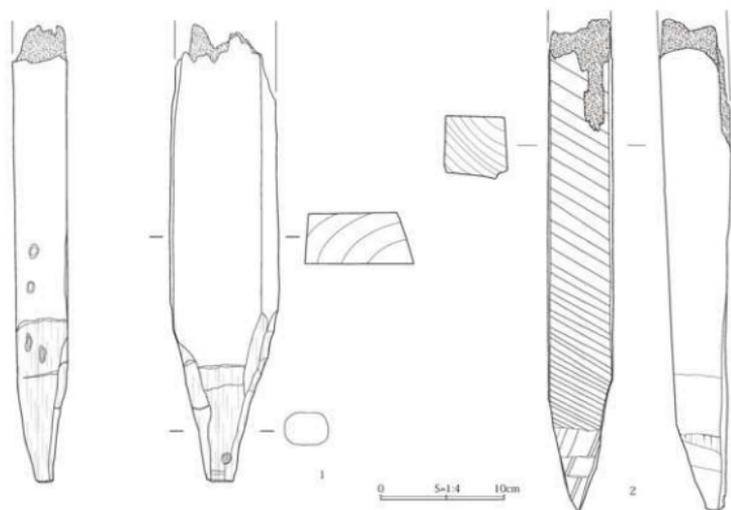
1号竹樋 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド		種類	法量 (cm)			備考	登録番号
		遺構・層位			長さ	幅	厚さ		
79-1	101-6	S5・6 - W67・68	1号竹樋	1層	23.6	23.2	3.2		H-13

1号竹樋 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド		種類	法量 (cm)			備考	登録番号
		遺構・層位			長さ	幅	厚さ		
79-2	101-7	S5・6 - W67・68	1号竹樋	蓋	29.5	45.5	2	桁と接する部分は残存良好	L-36
79-3	101-8	S5・6 - W67・68	1号竹樋	桁	36	50	29	足当線あり 側面の孔は調整不良	L-35
79-4	101-9	S5・6 - W67・68	1号竹樋	継手	23.6	16.4	14	柱材転用か	L-37

第79図 1号竹樋 出土遺物



2号竹桶 出土遺物観察表 (木製品)

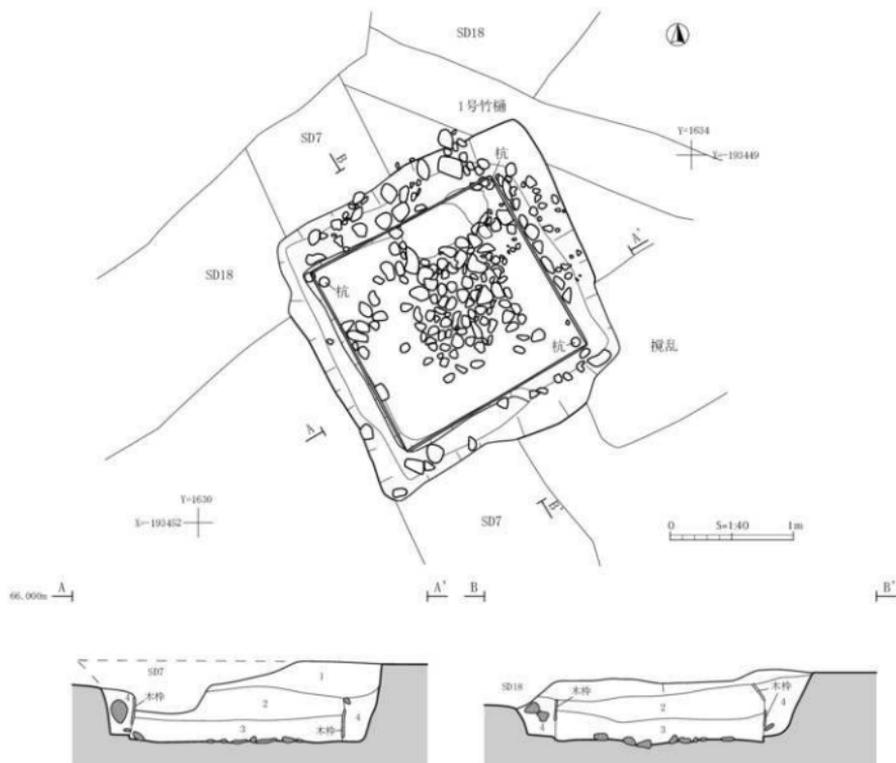
図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
80-1	101-10	SD8-P4	杭	36.4	8.8	4		L-31
80-2	101-11	SD8-P4	杭	40.4	4.8	4.8	断面明瞭	L-30
80-3	101-12	SD8-P1	榑手	27.2	15.4	15.2	榑書あり 柱材転用	L-29

第80図 2号竹桶 出土遺物

2) 1号枡状遺構(第81～82図、図版24-4～5・25-1～3)

S-W67・S6-W67グリッドに位置する。北東隅で1号竹桶を切り、中央から西側をSD7に、北辺をSD18によって壊される。

長さ156～168cm、幅15～24cm、厚さ2～3cmの板材を横置きにした、内法160×164cm、深さ52cmを測る方形の木枠を検出した。内側隅には杭が打ち込まれ、板材を支えていたことが窺える。底面には8～20cmの円礫が敷かれる。掘り方の規模は232～235cm、深さ65cmを測り、裏込めには6～15cmの円礫がやや多く使用されている。断面形は方形～深皿状を呈する。



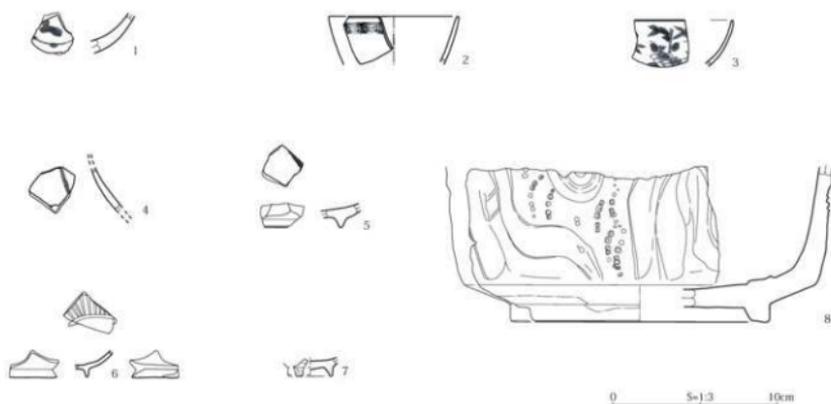
1号枡状遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/1	褐色	シルト	なし	なし	径3cm以下黄褐色土粒少量
2	10YR5/6	黄褐色	砂	なし	なし	酸化鉄を帯び含む
3	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	あり	あり	酸化鉄を少量混入
4	10YR5/1	褐色	粘土質シルト	あり	あり	15cm以下の礫多量 10mm以下白色シルト粒多量 5mm以下暗褐色シルト粒多量

第81図 1号枡状遺構 平面図・断面図

堆積土は4層からなり、1～3層は木枠内の堆積土、4層は掘り方埋土である。

遺物は17世紀代の中国産磁器、肥前産磁器、18世紀前半～19世紀中頃の肥前産（波佐見産を含む）、瀬戸・美濃産等の陶磁器、瓦、杭等が出土している。



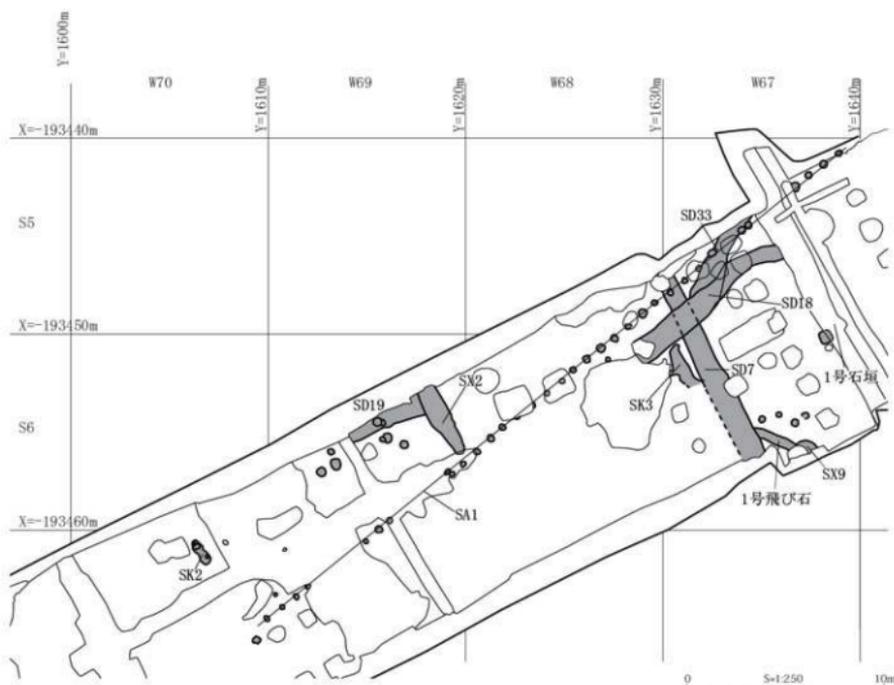
1号枡状遺構 出土遺物観察表（陶磁器）

回収 番号	写真図 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	散土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	付録 番号
								口径	底径	器高				
82-1	102-2	SS-6-W67 1号枡状遺構 2層	磁器	碗?	体部	緻密	染付草花文	—	—	(2.5)	肥前(波佐見)	18世紀前半		I-95
82-2	102-3	SS-6-W67 1号枡状遺構 2層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付赤文	—	—	(3.0)	肥前	19世紀		J-54
82-3	102-4	SS-6-W67 1号枡状遺構 2層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草花文	—	—	(2.9)	肥前	18世紀前半?		J-52
82-4	102-5	SS-6-W67 1号枡状遺構 2層	磁器	瓶?	頸部	緻密	染付	—	—	(2.3)	肥前(波佐見)	近世		J-53
82-5	102-6	SS-6-W67 1号枡状遺構 2層	磁器	皿	底部	緻密	染付	—	—	(1.5)	肥前	17世紀代		I-79
82-6	102-7	SS-6-W67 1号枡状遺構 2層	磁器	碗	体部～底部	緻密	青花型押蓮弁文	—	—	(1.7)	中国	17世紀前半		J-55
82-7	102-8	SS-6-W67 1号枡状遺構 2層	陶器	小鉢	底部	緻密	鉄繪・瑠璃釉	—	(2.6)	(1.2)	肥前?	19世紀中頃	被熱	I-80
82-8	102-9	SS-6-W67 1号枡状遺構 4層	陶器	水盥	体部～底部	緻密	緑釉	—	(7.85)	(9.6)	瀬戸・美濃	19世紀前半		I-28

第82図 1号枡状遺構 出土遺物

## 2 III層上面

III層上面で検出された遺構は柱列跡1条、溝跡4条、土坑2基、ピット18基、その他の遺構3基の計28基である。



第83図 II区 III層上面遺構配置図

### (1) 柱列跡

#### 1) SA1 柱列跡 (第84～87図、図版25-4・26-1～2)

S5-W67～S7-W70グリッドに位置する。東西方向に直線的に並ぶ34基の柱穴からなる。西側は攪乱によって寸断され、西端は途切れるが、近代の整地時に削平されたことも考えられる。東端は調査区外に延びる可能性がある。

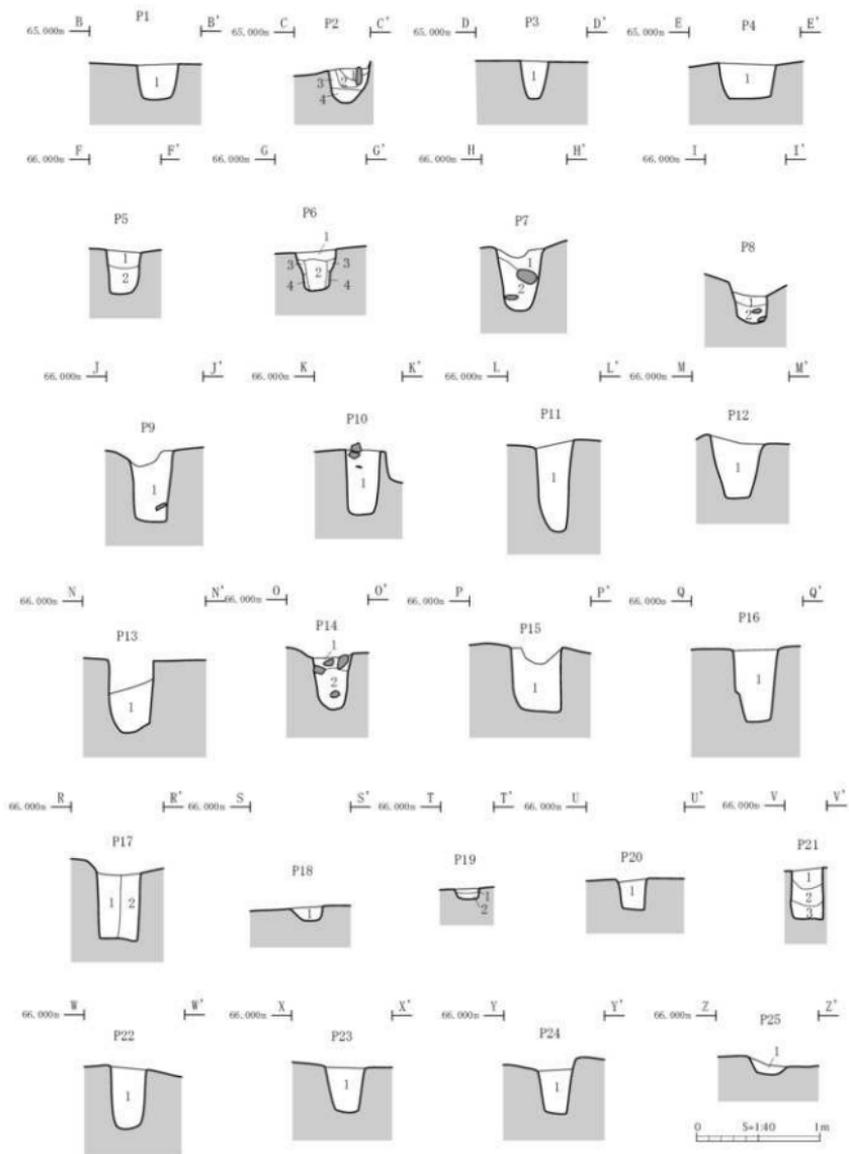
1号・2号竹樋・SD7・SD33を切り、西側は1号石垣によって壊される。

P24・P25には径12～13cm、高さ約20cmの丸材が遺存し、P3では径18cm、P15では径9cmの柱痕が検出された。P5・P8・P12・P36では、根固めのために入れたと思われる石が検出された。掘り方の平面形は不整楕円形を、断面形はU字形を呈する。

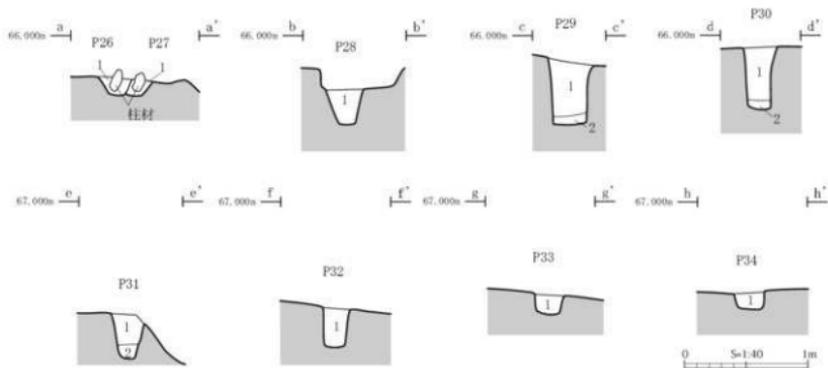
確認された長さは37mで、柱間寸法は95cm(3尺1寸)を中心に、71cm(2尺3寸)～103cm(3尺4寸)を測る。主軸方向はN-51°Eを示す。

遺物は瓦、瓦質土器火鉢等が出土している。

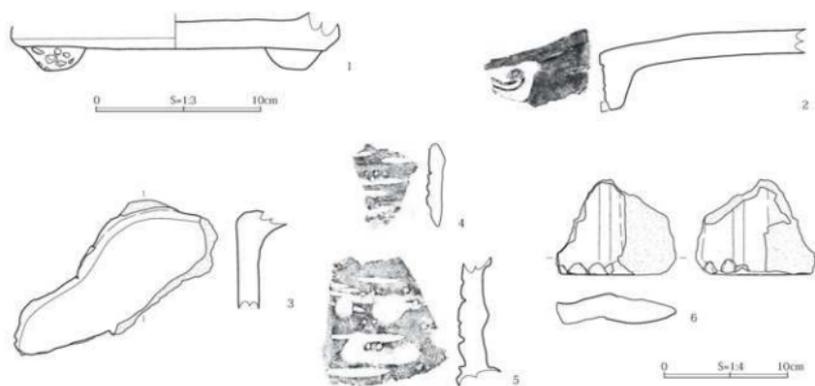




第 85 图 SA1 柱列迹 断面图



第86図 SA1柱列跡 断面図



SA1柱列跡 出土遺物観察表(陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			所在地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
87-1	102-10	S5-W67 SA1-P4 1層	瓦	瓦葺土器	火鉢	粗	—	—	18.1	(2.7)	在地	近世		I-208

SA1柱列跡 出土遺物観察表(瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
87-2	102-11	S5-W67	鬼瓦	4.8	8.8	2.8	唐草文	G-8
		SA1-P2 1層						
87-3	102-13	S5-W67	鬼瓦類	9.2	18.8	1.6		H-9
		SA1-P2 1層						
87-4	102-12	S5-W67	鬼瓦類	6.8	5.2	1.2	散刺	H-10
		SA1-P2 2層						
87-5	102-15	S5-W67	鬼瓦類	10.8	10	2.4	散刺	H-11
		SA1-P2 2層						
87-6	102-14	S6-W68	鬼瓦類	7.6	9.6	2.0		H-12
		SA1-P16 1層						

第87図 SA1柱列跡 出土遺物

SA1 柱列跡 土層注記表

ビット番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No	色				
SA1-P1	1	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 20 cm以下の礫多量
	1	10YR4/4	褐色	粘土	あり	なし	柱面
SA1-P2	2	10YR5/1	赭灰色	砂質シルト	なし	なし	径 3 cm以下の灰白色土粒少量
	3	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫多量
	4	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量
	1	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 20 cm以下の礫多量
SA1-P4	1	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 20 cm以下の礫多量
SA1-P5	1	10YR5/1	赭灰色	砂質シルト	なし	なし	径 5 mm未満の白色ローム粒少量
	2	10YR5/2	灰黄色	砂質シルト	なし	なし	
SA1-P6	1	10YR4/3	褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄多量
	2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 1 cm以下の炭化物微量 柱面
	3	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	
	4	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	あり	酸化鉄微量
SA1-P7	1	10YR5/1	赭灰色	シルト	なし	なし	径 5 cm以下の礫微量 径 1 cm以下の炭化物微量
	2	10YR4/1	赭灰色	シルト	なし	なし	径 10 cmの礫少量 径 1 cm以下の灰白色土粒少量
SA1-P8	1	2.5YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5YR6/2 灰黄色シルト土粒少量
	2	2.5YR4/2	暗黄褐色	砂質シルト	あり	あり	径 6 cm程度の石微量
SA1-P9	1	10YR5/2	灰黄色	砂質シルト	なし	なし	径 1 cmの礫微量 酸化鉄少量 径 1 mm炭化物微量
SA1-P10	1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	径 5 cm以下の礫やや多量、径 5 cm以下の黄褐色土粒少量
SA1-P11	1	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量
SA1-P12	1	10YR5/1	赭灰色	シルト	なし	あり	径 5 cm以下の礫微量
SA1-P13	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	黄灰色シルト多量、10 cm程度の礫と炭化物を微量
SA1-P14	1	10YR4/3	褐色	砂質	なし	なし	径 10 cm以下の礫微量、酸化鉄、炭化物多量 瓦片含む
	2	2.5YR5/3	黄褐色	砂質シルト	あり	あり	酸化鉄多量
SA1-P15	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	径 20 cm以下の礫少量 径 5 mm以下の明黄褐色土粒少量
SA1-P16	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄、瓦片、径 18 cm以下の礫多量
SA1-P17	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	あり	柱面 径 2 mm以下の炭化物少量
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 5 cmの礫微量
SA1-P18	1	10YR7/2	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 3 cm以下の暗褐色土粒多量
SA1-P19	1	7.5YR4/6	褐色	砂質シルト	なし	なし	径 2 cm以下の礫少量
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土	あり	あり	
SA1-P20	1	5G5/1	緑灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 5 cm以下の礫微量 径 1 cm以下の炭化物少量
SA1-P21	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	なし	径 5 mm以下の礫・炭化物微量 一部赭灰色シルトにグライ化
	2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	あり	あり	径 5 mm以下の礫微量 一部赭灰色シルトにグライ化
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	なし	酸化鉄多量 一部赭灰色にグライ化
SA1-P22	1	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫微量、径 5 cm以下の褐色土粒多量
SA1-P23	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト			酸化鉄少量
SA1-P24	1	10YR4/1	赭灰色	粘土	あり	あり	径 3 cm以下の炭化物多量
SA1-P25	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 2 cm以下の明黄褐色土粒少量
SA1-P26	1	10YR4/1	赭灰色	粘土	あり	あり	径 1 cm以下の礫微量
SA1-P27	1	10YR5/1	赭灰色	粘土	あり	あり	径 2 cm以下の礫微量
SA1-P28	1	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量 径 1 cm以下の灰白色土粒少量
SA1-P29	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	なし	径 1 cm以下の炭化物微量
	2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	あり	あり	径 1 cmの酸化鉄少量
	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	なし	径 1 cm以下の炭化物微量
SA1-P30	2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	あり	あり	径 1 cmの酸化鉄少量
	1	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量
SA1-P31	2	10YR5/1	赭灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 5 cm以下の灰白色土粒少量
SA1-P32	1	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量
SA1-P33	1	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量
SA1-P34	1	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量

## (2) 溝跡

## 1) SD7 溝跡 (第 88 ~ 89 図、図版 26-3 ~ 7・27-1)

S5-W67 ~ S6-W67 グリッドに位置する。南北方向に走る石組溝である。北端は擾乱によって壊され、中央北側で SD18 を、その南で 1 号桁状遺構を切る。南側は擾乱によって西側石が壊される。南北両側ともに調査区外へ延びる。

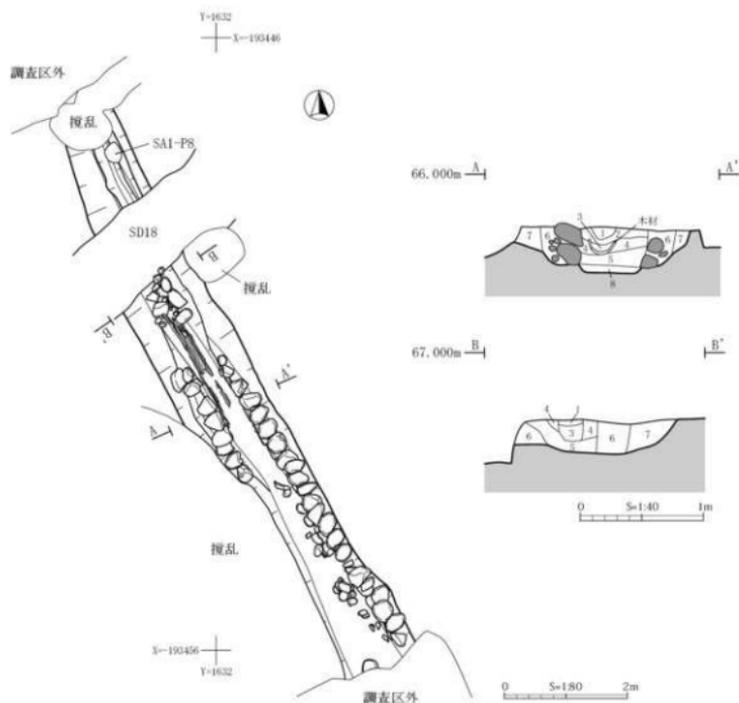
確認された規模は長さ 10.7m、側石と側石の内幅 40cm、掘り方の幅 1.4m、深さ 40cm を測る。断面形は開いた U 字形を呈し、側石間の底面は浅く窪む。

側石は SD18 より南側でのみ検出された。30 ~ 40cm の端部を打ち欠いた川原石と、未加工のものとを 2 段積む

が、特に使い分けされていない。北端の側石は崩落して溝中央に落ち込んだものと考えられる。底面は素掘りのままで石敷きなどは施されていない。裏込めには3～5cmの礫が少量含まれる。主軸方向はN-32°-Wを示す。堆積土の中層からは長さ5.3m、幅16～22cmの木材が出土している。断面形は椀状に内側が窪み、木樋の可能性も考えられるが、遺存状態は悪く、内側に溝が掘られた痕跡等は見られなかった。

堆積土は8層からなる。1層は上位整地層による埋め戻し土、2～5層は溝内堆積土で、5層において水流の痕跡が認められる。6～8層は掘り方理土である。

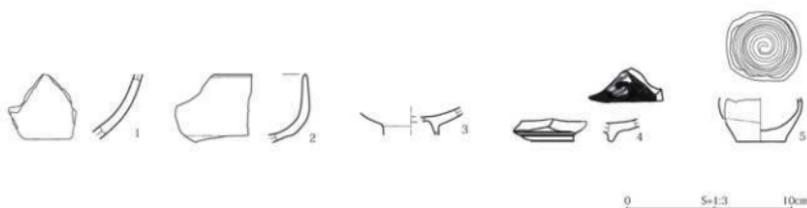
遺物は18世紀～19世紀前半の瀬戸・美濃産陶器、大塚相馬産陶器、堤産陶器、肥前産磁器、瓦等が出土している。陶器の中には漆継による補修痕が残っているものも見られる。



SD7 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR5/2	にぶい灰黄褐色	シルト	あり	あり	径10cm以下の白色土ブロック多量 埋め戻し土
2	10YR5/2	にぶい灰黄褐色	シルト	なし	なし	径5cm以下炭化物微量、酸化鉄微量 調理土
3	10YR4/4	褐色	砂	なし	なし	径5cmの礫少量 調理土
4	10YR5/2	にぶい灰黄褐色	シルト	なし	あり	径5cmの礫少量 調理土
5	10YR4/2	にぶい灰黄褐色	砂	なし	なし	桶状に酸化砂が混入 水成堆積土
6	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径5cm以下の礫少量 掘り方理土
7	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径5cm以下の礫少量 径5cm以下の酸化ブロック多量 掘り方理土
8	10YR5/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径3cm以下の礫多量 掘り方理土

第88図 SD7 溝跡 平面図・断面図



SD7 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			発地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
89-1	103-1	S5・6-W67 SD7 3層	陶器	鉢	体部	やや粗	鉄軸	—	—	(4.0)	堀	近世		I-11
89-2	103-2	S5・6-W67 SD7 3層	陶器	碗か小鉢	体部	密	鉄軸	—	—	(3.9)	瀬戸・美濃	19世紀前半	漆黒	I-10
89-3	103-3	S5・6-W67 SD7 3層	陶器	碗	体部~底部	密	鉄軸・榫軸部分	—	—	(1.8)	大塚相馬	18世紀		I-12
89-4	103-4	S5・6-W67 SD7 3層	磁器	中皿	体部~底部	緻密	染付	—	—	(1.5)	肥前	18世紀以降		J-1
89-5	103-5	S5・6-W67 SD7 3層	陶器	豆皿	体部~底部	やや密	胎軸	—	(3.0)	(2.7)	大塚相馬	19世紀代		I-9

第89図 SD7 溝跡 出土遺物

## 2) SD18 溝跡 (第90～91図、図版27-2～4)

S5-W67～S6-W68 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。SD7・SD33と1号枡状遺構を切る。西端は攪乱によって壊され、東端は1号石垣に切られて途切れるが、両側とも本来はさらに延びていたものと考えられる。

確認された規模は長さ8m、幅80～140cm、深さ40cmを測る。断面形は開いたU字形を呈する。西端からN-53°Eの方向に走り、東端で湾曲して西方向に向きを変える。底面には2～8cmの円礫が多量に見られ、石敷きを施した可能性も考えられる。1号石垣によって壊されているため1号池との切り合い関係が判然としないが、SD18は1号池と同時に機能していた可能性が高いと考えられる。

堆積土は5層からなり、1～3層は砂質シルトの埋め戻し土、4層は円礫を多量に含む砂層、5層は水成堆積土と考えられる。

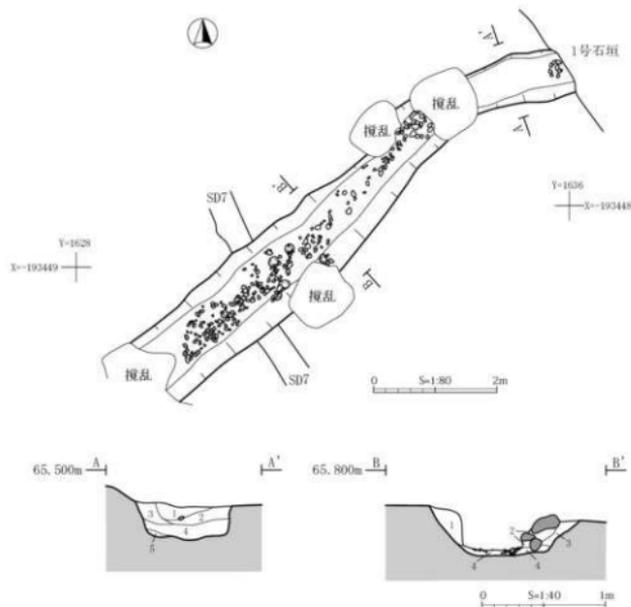
遺物は19世紀代の陶磁器が出土している。



SD18 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			発地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
90-1	103-6	S5・6-W67・68 SD18 4層	磁器	碗反碗	口縁~体部	—	白磁	(8.3)	—	(3.4)	瀬戸・美濃	19世紀		J-3
90-2	103-7	S5・6-W67・68 SD18 4層	陶器	土鍋	把手	粗	鉄軸	—	—	(2.45)	堀	19世紀前半		I-16

第90図 SD18 溝跡 出土遺物



SD18 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト土粒微量 酸化鉄多量
2	10YR5/3	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	10YR5/4 に近い黄褐色砂礫を帯状に少量含む
3	2.5YR5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径 8mm以下の 5Y6/4 オリーブ黄色土粒少量、酸化鉄多量
4	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質砂	なし	なし	10YR5/4 に近い黄褐色砂礫を帯状に含み、径 5mm以下の酸化鉄多量・炭化物微量
5	10YR5/3	に近い黄褐色	シルト質砂	なし	なし	

第91図 SD18 溝跡 平面図・断面図

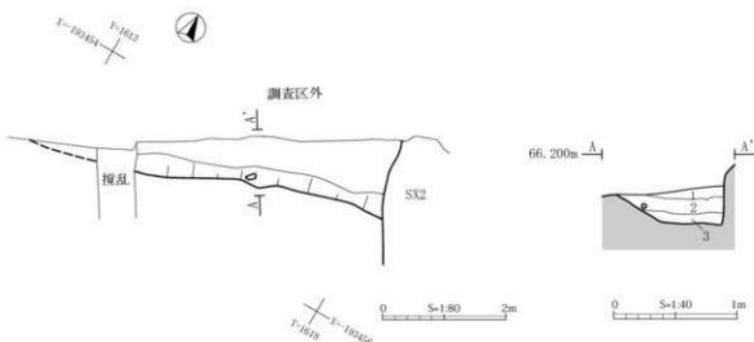
### 3) SD19 溝跡 (第92～93図、図版27-5～6)

S6-W69 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。東側はSX2によって切られ、その先に伸びていた痕跡がないことから、途切れるかまたは方向を変えて調査区外へ延びると考えられる。西側は攪乱によって壊されるが、調査区北壁の土層観察からさらに西へ走り調査区外へ延びることが判明した。

確認された規模は長さ6m、幅1.3m、深さ30cmを測る。断面形は開いたU字形を呈するものと思われる。主軸方向はN-68°-Eを示す。堆積土は3層の砂質シルトおよびシルトからなり、全て埋め戻し土で水流の痕跡は認められなかった。

遺物は18世紀～19世紀中頃の陶磁器、瓦、土師質土器、木製品等が出土している。磁器の中には焼継による補修痕跡が見られるものもある。

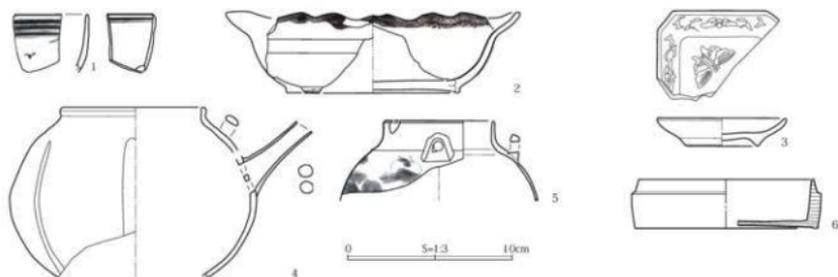
第2節 II区



SD19 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	層	色				
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径5cmの礫少量、遺物片微量、酸化鉄多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	ややあり	径5mmの炭化物微量、酸化鉄多量
3	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	あり	あり	径3mm以下の砂礫・にぶい黄色砂質シルト・酸化鉄少量

第92図 SD19 溝跡 平面図・断面図



SD19 溝跡 出土物観察表 (陶磁器)

図記番号	写真図取番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
93-1	103-8	S6 - W69 SD19 1層	磁器	湯呑	口縁~体部	緻密	染付團線	—	—	(3.6)	肥前	18世紀代		J-4
93-2	103-9	S6 - W69 SD19 1層	陶器	鉢	口縁~体部	密	白濁釉・緑釉 掛分	—	—	(4.7)	大塚相馬	幕末~明治	茨城県	I-19
93-3	103-12	S6 - W69 SD19 1層	磁器	角小皿	口縁~底部	緻密	青磁型押模文	(7.9)	(4.3)	(1.7)	肥前	18世紀後半~ 19世紀前半	焼窯	J-5
93-4	103-10	S6 - W69 SD19 1層	陶器	土瓶	口縁~体部	密	白濁釉	—	—	(10.6)	大塚相馬	18世紀後半~ 19世紀前半	2穴	I-17
93-5	103-11	S6 - W69 SD19 1層	陶器	土瓶	口縁~体部	密	色絵草花文	(6.85)	—	(4.9)	大塚相馬	幕末		I-18

SD19 溝跡 出土物観察表 (木製品)

図記番号	写真図取番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				口径	底径	器高		
93-6	103-13	S6 - W69 SD19 埋土一括	合子	11.8	12.2	3.3		L-34

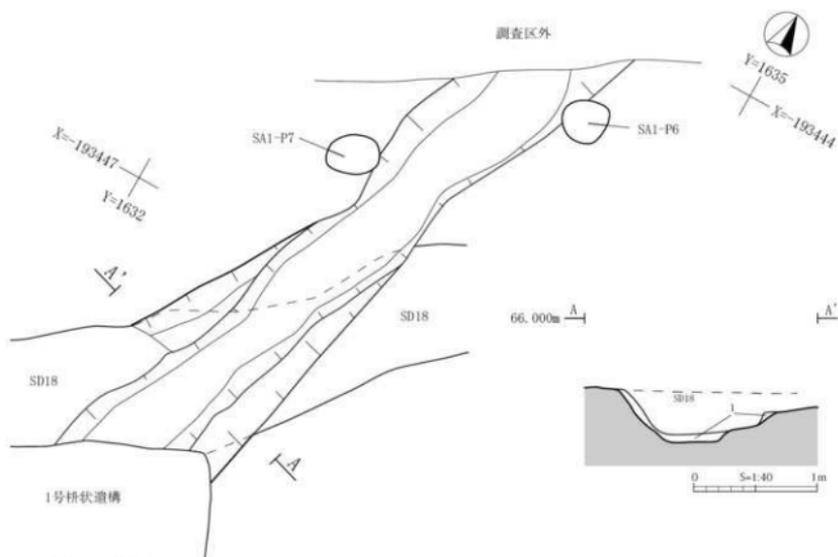
第93図 SD19 溝跡 出土遺物

## 4) SD33 溝跡 (第94～95図、図版27-7)

S5-W67 グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。南側はSD18と1号拵状遺構に切られ、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと考えられる。北側は調査区外に延びる。

確認された規模は長さ4.6m、幅55～82cm、深さ36cmを測る。断面形は逆台形状を呈する。主軸方向はN-19°-Eを示す。底面からは遺存状態の悪い棒状の木材や竹が出土している。堆積土は礫をやや多く含む砂質シルトの単層である。

遺物は18世紀代の陶磁器、瓦等が出土している。



SD33 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR4/1	暗灰色	砂質シルト	なし	なし	10cm以下の礫やや多量 褐色酸化砂やや多量

第94図 SD33 溝跡 平面図・断面図



SD33 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
95-1	103-14	S5-W67 SD33 2層	陶器	瓶	頸部	やや密	灰輪・鉄斑	—	—	(2.4)	大幡相馬	18世紀		I-27
95-2	103-15	S5-W67 SD33 1層	磁器	鉢	口縁～体部	密	染付コシヤク 印刷草花文	—	—	(3.9)	肥前(流佐見)	18世紀前半		J-14

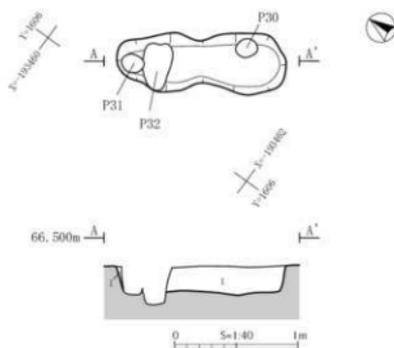
第95図 SD33 溝跡 出土遺物

## (3) 土坑

## 1) SK2 土坑 (第96図、図版28-1～2)

S7-W70 グリッドに位置する。P30～P32に切れ、長軸1.4m、短軸35～52cm、深さ24cmを測る。平面形は中央がくぼむ不整長楕円形を、断面形は血状を呈する。堆積土は礫を少量含む砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK2 土坑 土層注記表

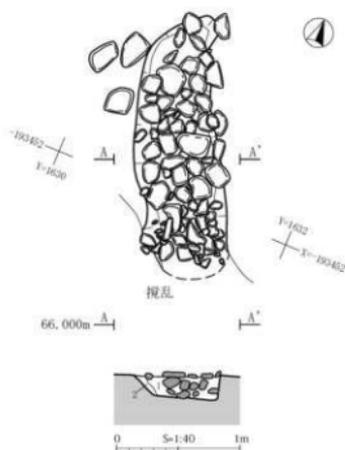
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	№	色				
1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	径10cm以下の礫少量、砂礫・酸化鉄の沈着多量 5mm程度の黄褐色土粒多量

第96図 SK2 土坑 平面図・断面図

## 2) SK3 土坑 (第97図、図版28-3～4)

S6-W67 グリッドに位置する。南側を攪乱によって壊される。長軸の残存長2m、短軸70cm、深さ20cmを測る。平面形は不整長楕円形が推定され、断面形は東壁が急角度で立ち上がる逆台形を呈する。堆積土は2層からなる。

遺物は瓦が数点出土しているが細片のため図化し得なかった。



SK3 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	№	色				
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	15cm以下の礫、酸化鉄多量
2	10YR4/3	広赤い黄褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄少量

第97図 SK3 土坑 平面図・断面図

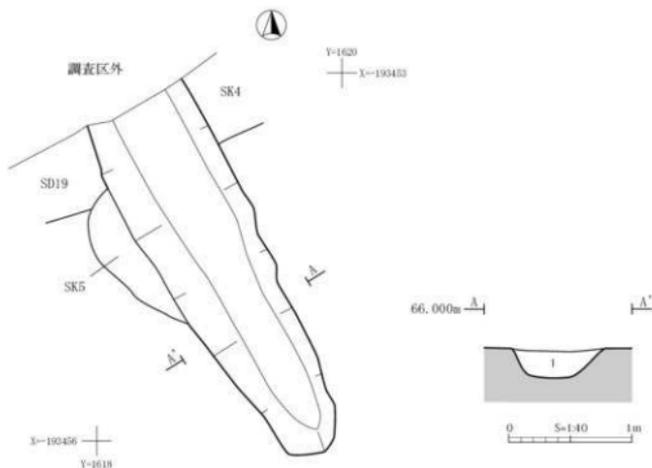
## (4) その他の遺構

## 1) SX2 性格不明遺構 (第98～99図、図版28-5～6)

S6-W69 グリッドに位置する。南北方向に走る溝状の浅い掘り込みで、南端は壁が立ち上がって途切れ、北側は調査区外に延びる。

確認された規模は長軸3.2m、短軸96cm、深さ22cmを測る。平面形は溝状を呈し、断面形は開いたU字形を呈する。堆積土は瓦を多量に含む褐色シルトの単層からなる。

遺物は19世紀代の瀬戸・美濃産磁器、瓦が出土している。



SX2 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	層	色				
1	10YR4/1	褐色	シルト	なし	なし	径15cm以下の礎多量

第98図 SX2 性格不明遺構 平面図・断面図



SX2 性格不明遺構 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	散土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
99-1	103-16	S6-W69 SX2 2層	磁器	碗	口縁~底部	散土	染付草花文	(8.0)	(3.4)	4.1	瀬戸・美濃	19世紀		J-63

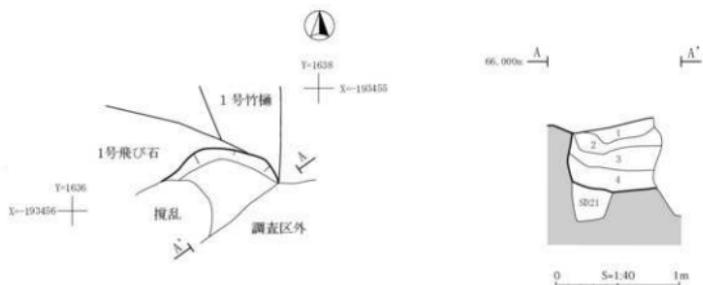
第99図 SX2 性格不明遺構 出土遺物

## 2) SX9 性格不明遺構 (第 100～101 図、図版 28-7～8)

S6-W67 グリッドに位置する。北側で 1 号竹樋と 1 号飛び石を切る。西側は攪乱によって壊され、南側は調査区外へ広がる。

確認された規模は南北 60cm、東西の残存長 50cm、深さ 60cm を測る。平面形は不明で、断面形は U 字形を呈する。堆積土は 4 層の粘土質シルトからなる。人為的埋め戻し土と考えられる。

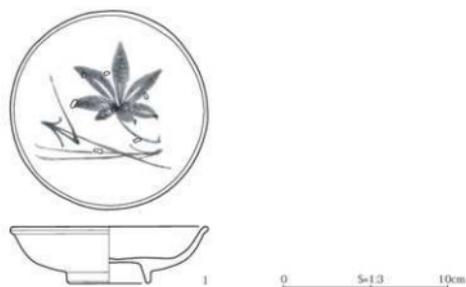
遺物は平清水産もしくは銀山上畑産の可能性のある皿が 1 点完形で出土している (第 101 図-1)。19 世紀代のものであると思われる。



SX9 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	地	色				
1	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	なし	あり	径 5 cm 以下の礫多量
2	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	
3	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	なし	なし	にぶい・黄褐色砂多量
4	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	

第 100 図 SX9 性格不明遺構 平面図・断面図



SX9 性格不明遺構 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備 考	登録番号
								口径	底径	器高				
101-1	102-1	S6-W67 SX9 1層	磁器	玉縁皿	口縁・底部	やや密	染付模文・松葉文	12.2	4.0	3.5	平清水か 鹿山?	19世紀	白漆×6	J-70

第 101 図 SX9 性格不明遺構 出土遺物

## 3) 1号飛び石(第102図、図版29-1~2)

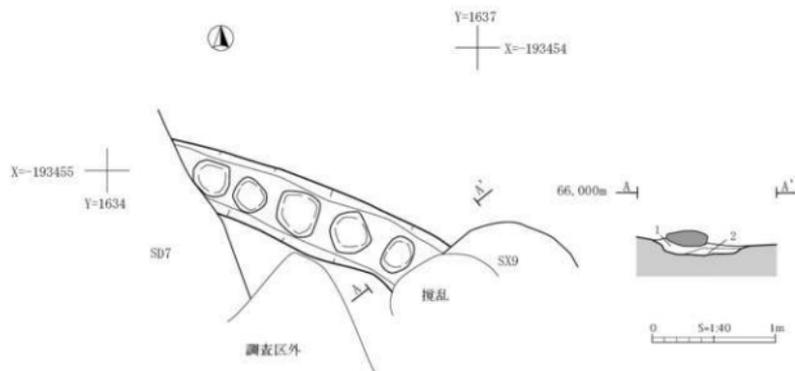
S6-W67グリッドに位置する。

南東側はSX9に壊され、西側をSD7によって切られる。SD7の西側は攪乱され、その先に延びる痕跡は見られなかった。

飛び石は、緑を加工した30~40cmの扁平な川原石を使用し、6~12cm(2寸~4寸)の間隔でほぼ直線的に5個並べている。方位はN-68°-Wを示す。飛び石は溝状の掘り方を整地した上に載せる。掘り方の規模は長さ2m、幅55~60cm、深さ10cmを測る。

堆積土は褐色シルト、灰黄褐色砂質シルトの2層からなる。

遺物は出土していない。



1号飛び石 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR5/1	褐色色	シルト	あり	あり	径5cm未満の礫少量、径1mm以下の酸化鉄微量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	

第102図 1号飛び石 平面図・断面図

## 3 II層上面

II層上面では石垣が1基検出された。

## (1) その他の遺構

## 1) 1号石垣 (第103～104図、図版29-3～7)

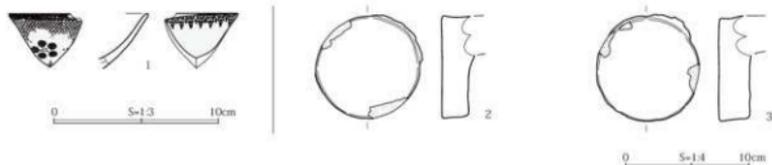
S5-W67・S6-W66・S6-W67 グリッドに位置する。調査前現況では、部分的にモルタルが充填された石垣面が確認されるが、基底部に近世の構築跡があるかどうかを確かめるため1号石垣として登録し、調査を行った。III層上面検出のSD18、III区III層上面検出の1号池を切る。石垣の前には排水のためと思われる石組溝が伴う。

調査区内で確認された規模は長さ14.4m、高さ5m、掘り方の幅3mを測る。主軸方向はN-29°-Wを示し、勾配は76°を測る。20cm前後の打ち欠いた川原石を、割れ口を面にして交差状に10～11段積み、基底部には40cmを超える根石を据えている。

石組溝の規模は石垣と北側石の内幅約30cm、掘り方幅約50cm、深さ18～20cmを測る。南側の溝内には打ち込まれた杭が5本確認されている。

堆積土は7層からなる。1～2層は前底部の溝内堆積土で腐食物を多く含む。3～7層は裏込めの礫を多量に含む掘り方埋土である。ガラス片等も出土しており、近代以降の構築と思われる。

遺物は近代以降の瓦、陶器、磁器、金属製品、ガラス片等が裏込めから出土している。



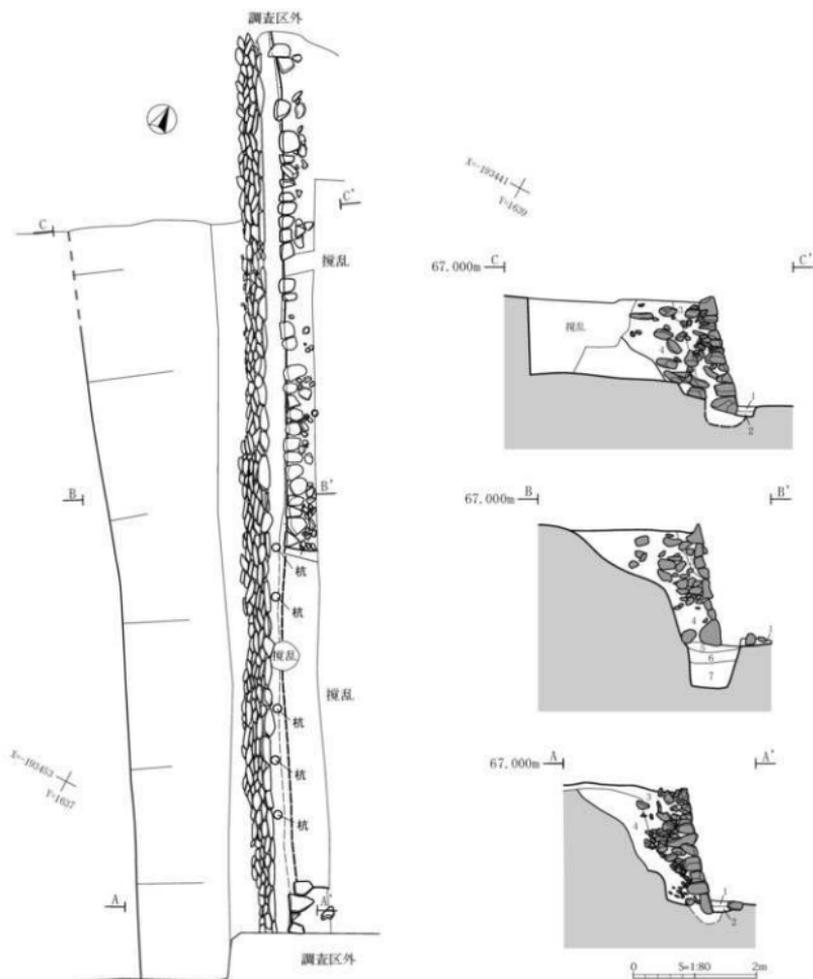
1号石垣 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	番土	文様等	法量 (cm)			発地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
103-1	103-17	S4～6-W66・67 石垣1 1層	磁器	碗	口縁～体部	やや密	照絵梅文・環状文	—	—	(3.4)	地方窯	明治前半 (19世紀後半代)		J-73

1号石垣 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考		登録番号
				長さ	幅	厚さ			
103-2	103-18	S4～6-W66・67 II区 石垣上一括	軒枕瓦	6.3	6.3	1.8	瓦当部	無文	H-32
103-3	103-19	S4～6-W66・67 II区 石垣裏一括	軒枕瓦	6.3	6.3	1.8	瓦当部	無文	H-41

第103図 1号石垣 出土遺物



石塚1 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	5Y2/1	黒色	砂質シルト	ややあり	なし	腐食した木材片多量、径3～5cmの礫少量 溝内埋積土
2	5Y5/3	灰オリーブ	砂質シルト	ややあり	なし	径1～2cmの礫多量 溝内埋積土
3	10YR3/1	黒褐色	シルト	なし	なし	径30cmの礫多量 ガラス・瓦 裏込め
4	7.5YR5/8	黄褐色	シルト	なし	あり	径30cmの礫多量 裏込め
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	あり	径1cm以下の小礫少量 径30cm以下の裏込め石多量 径1cm以下の炭化粒多量 裏込め
6	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	あり	径15～20cmの礫・径2cm程度の灰白色シルト粒多量 径1cm以下の炭化粒多量 裏込め
7	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	径15～20cmの礫多量 裏込め

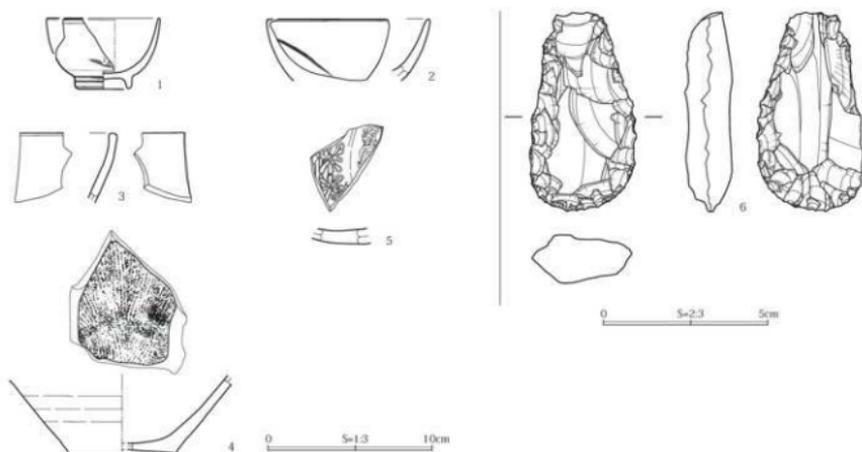
第104図 1号石塚 平面図・断面図

## 4 遺構外出土遺物

II区の出土遺物の総量は733点、そのうち遺構外出土のものは442点で、内訳は瓦62点、陶器56点、土師質土器54点、磁器212点、石器・石製品2点、木製品2点、金属製品7点、その他47点である。III層は大部分が削平され残っておらず、遺物は出土していない。近世の陶磁器の内訳はIV層28点、I層・II層42点、攪乱95点を数える。以下、層別に実測図と観察表を掲載する。

## (1) IV層出土遺物 (第105図、図版は104-1～6)

IV層からは18世紀～19世紀の陶磁器や、瓦、石器等が出土している。



IV層 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			発地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
105-1	104-1	II区 IV層	磁器	碗	口縁～底部	磁密	染付	—	—	4.4	肥前	19世紀		J-115
105-2	104-2	II区 IV層	磁器	碗	口縁～体部	磁密	染付	(9.15)	—	(3.8)	肥前	19世紀		J-116
105-3	104-3	II区 IV層	陶器	碗	口縁～体部	やや密	灰輪	—	—	(4.25)	大塚相馬	18～19世紀		I-124
105-4	104-4	II区 IV層	陶器	楕鉢	体部～底部	やや粗	—	—	(3.35)	(4.9)	在地?	近世		I-123
105-5	104-5	II区 IV層	陶器	皿	体部	密	型押花文	—	—	(4.1)	不明	近世		I-121

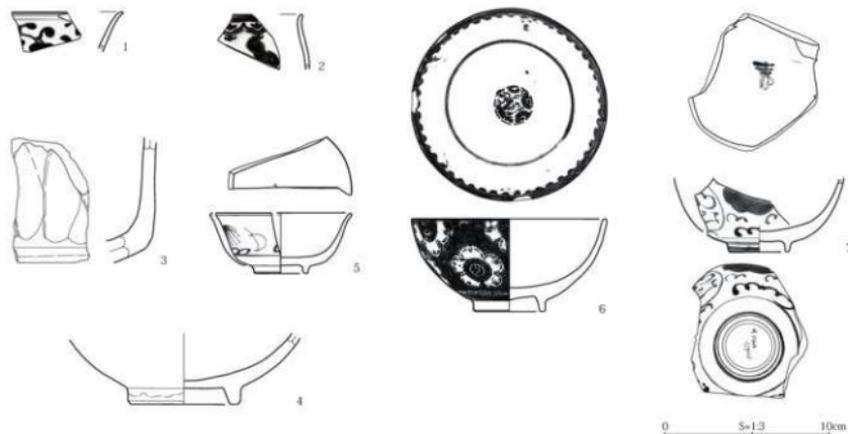
IV層 出土遺物観察表 (石器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	石材	法量				備考	登録番号
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
105-6	104-6	II区 IV層	石器	珪質頁岩	6.1	3.2	1.45	31.6		K-2

第105図 II区IV層 出土遺物

## (2) II層出土遺物 (第106図、図版104-7～13)

II層からは近代以降のものを主体とした陶磁器、瓦等が出土している。その中には近世のものが含まれており、それらを中心に実測・図化を行っている。



II層 出土遺物観察表 (陶磁器)

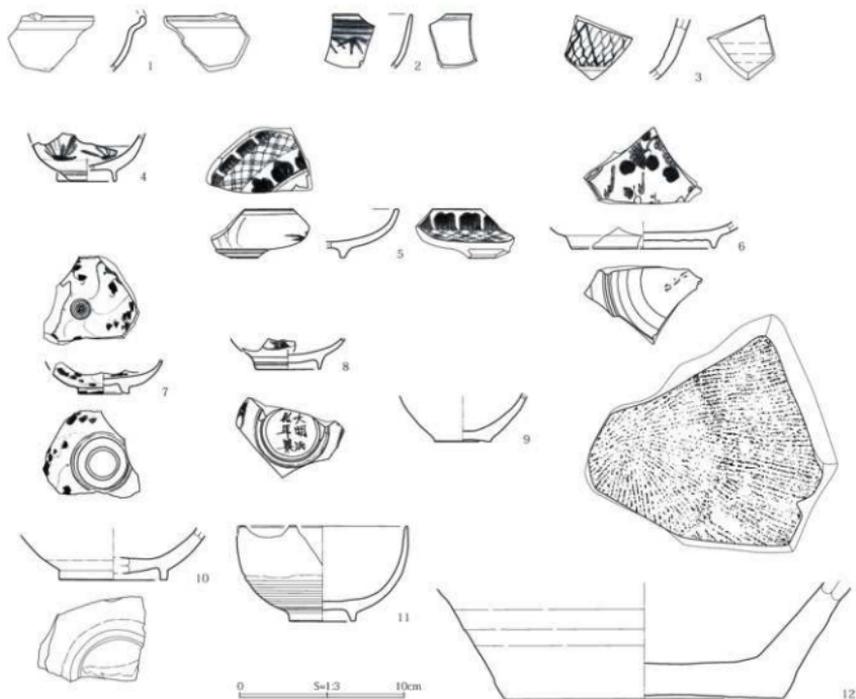
図版 番号	写真図版 番号	グリッド 道幅・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
106-1	104-7	II区	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付みじろ 唐草文	—	—	(2.5)	瀬戸・美濃	19世紀		J-125
		II層												
106-2	104-8	II区	磁器	碗か鉢	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(2.6)	不明	19世紀?	変形碗	J-126
		II層												
106-3	104-10	II区	陶器	水甕	体部～底部	粗	灰釉	—	—	(7.7)	瀬戸・美濃	18世紀		I-125
		II層												
106-4	104-11	II区	陶器	碗	体部～底部	やや密	灰釉	—	(6.5)	(4.4)	大塚相馬	18世紀後 半?		I-127
		II層												
106-5	104-9	II区	磁器	碗	口縁～底部	緻密	染付草文	(8.5)	(3.1)	(3.75)	瀬戸・美濃	19世紀		J-124
		II層												
106-6	104-12	II区	磁器	碗	完形	緻密	摺胎花文・ 蓮格文	11.9	4.1	5.7	瀬戸・美濃	19世紀後半		J-122
		II層												
106-7	104-13	II区	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付花文・ みじろ唐草 文	—	(3.6)	(4.6)	瀬戸・美濃	19世紀	外底部「キ 之マ (分十) 六十三」(津書、 見込み「花」 文	J-123
		II層												

第106図 II区II層 出土遺物

## (3) I層・攪乱出土遺物 (第107～108図)

I層・攪乱からは近代を主体とした陶磁器、瓦等が出土している。II層出土遺物と同様に、中でも近世に相当する遺物を中心に実測・図化を行っている。

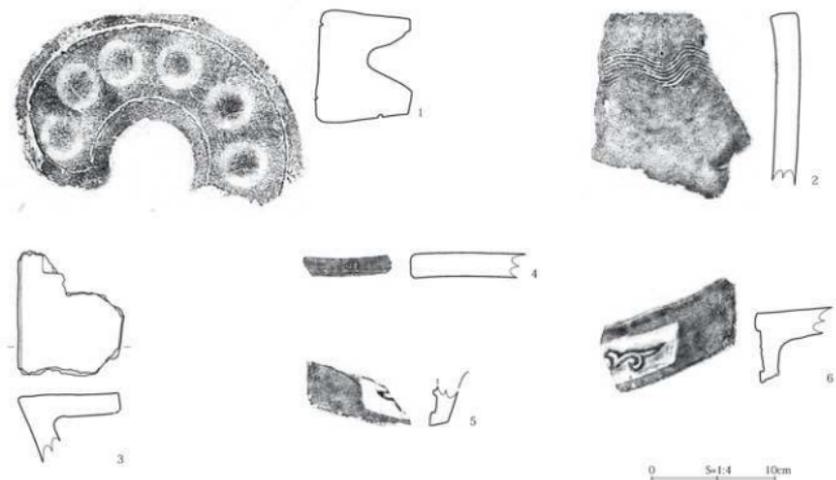
第2節 II区



I層 出土遺物観察表(陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
107-1	105-1	II区 I層	陶器	鉢	口縁～体部	密	鉄釉	—	—	(3.4)	堤?	19世紀?		I-120
107-2	105-2	II区 I層	磁器	碗	口縁～底部	積密	染付世文・團縁	—	—	(3.3)	肥前	18世紀		J-120
107-3	105-3	II区 I層	磁器	瓶類	体部	積密	染付欄干文	—	—	(3.6)	肥前	18世紀		J-121
107-4	105-4	II区 I層	磁器	碗	体部～底部	積密	染付水草文	—	(3.45)	(2.9)	肥前	18～19世紀		J-114
107-5	105-6	II区 I層	磁器	皿	口縁～底部	積密	染付	—	—	(3.0)	肥前	18～19世紀		J-113
107-6	105-7	II区 I層	磁器	皿	底部	積密	染付蓮池文	—	(8.8)	(1.7)	肥前	18世紀	「ひじり」銘	J-117
107-7	105-8	II区 I層	磁器	碗	体部～底部	積密	染付蔓草・鳥文	—	(3.0)	(1.35)	瀬戸・美濃	19世紀		J-118
107-8	105-5	II区 I層	磁器	碗	底部	積密	染付草花文	—	(3.8)	(1.9)	肥前	18世紀	「大明成化年製」銘	J-119
107-9	105-10	II区 I層	陶器	小鉢	体部～底部	密	—	—	(3.6)	(4.6)	不明	近世		J-123
107-10	105-11	II区 I層	陶器	碗	体部～底部	中々密	—	—	(6.6)	(3.2)	小野相馬	18世紀後半		I-126
107-11	105-12	II区 I層	陶器	碗	体部～底部	密	灰釉緑釉滲分	(10.4)	(4.0)	(5.9)	大塚相馬	18世紀後半		I-128
107-12	105-13	II区 I層	陶器	湯鉢	体部～底部	中々粗	—	—	(16.9)	(7.8)	在地?	近世		I-122

第107図 II区I層 出土遺物



I層 出土遺物観察表(瓦)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法層 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
108-1	106-1	Ⅱ区 1層	鬼瓦	8.8	20.8	3.8	透珠×6	H-38
108-2	106-2	Ⅱ区 1層	平瓦	(13.4)	(12.0)	1.8	柳書波状文	G-11
108-3	106-3	Ⅱ区 1層	軒平瓦	(9.8)	7.8	1.8		H-39
108-4	106-4	Ⅱ区 1層	平瓦	(8.8)	6.6	1.9	刷印跡あり	H-40
108-5	106-5	Ⅱ区 1層	軒平瓦	—	(6.4)	1.4	唐草文	G-12
108-6	106-6	Ⅱ区 1層	軒平瓦	(6.0)	(10.4)	2.2	唐草文	G-10

第108図 Ⅱ区I層 出土遺物

## 第3節 Ⅲ区

## 1 V層上面

V層上面で検出された遺構は柱列跡7条、溝跡13条、土坑15基、ピット61基、その他の遺構3基、祭祀遺構1基、計100基が検出された。V層は17世紀代の整地層で、本調査区周辺における第1回目の整地跡と考えられる。検出された遺構にはほぼ調査区に対して平行する溝・柱列跡が多い。

## (1) 柱列跡

## 1) SA13 柱列跡 (第110図、図版30-1～5)

S1-W58・S1-W59グリッドに位置する。東西方向に並ぶ4基の小穴からなる。西側は途切れるが、東側は調査区外へ延びる可能性がある。P1は東端でSA27・溝1と重複し、これを切る。P2からは16cmの石が出土している。P3で検出された杭痕は上位の整地層から打ち込まれたものである。柱材や柱痕は検出されず柱穴と断定できる根拠は乏しいが、直線的に並ぶことから柱列として登録した。

掘り方の規模は平面が37×60cm～52×73cm、深さ12～48cmを測る。平面形は不整楕円形を、断面形は皿状から開いたU字形を呈する。主軸方向はN-64°-Eを示す。

確認された長さは6.14mで、柱間寸法は西端から1.86m(6尺1寸)・2.22m(7尺3寸)・2.06m(6尺8寸)を測る。

堆積土は1～2層からなり、P3の1層は柱痕である。そのほかは掘り方埋土である。

遺物は出土していない。

## 2) SA14 柱列跡 (第111図、図版30-1・31-1～4)

N1-W58・N1-W59・S1-W59グリッドに位置する。東西方向に並ぶ4基の柱穴からなる。西側は途切れるが、東側は調査区外へ延びる可能性がある。P1からは径14cm、P3からは径10cmの柱痕が検出され、P4の中段には16.5cmの扁平な川原石が遺存していた。

掘り方の規模は平面が36×48cm～60×84cm、深さ20～34cmを測る。平面形は不整楕円から不整隅丸方形を呈し、断面形は開いたU字形を呈する。主軸方向はN-65°-Eを示す。

確認された長さは5.92mで、柱間寸法は西端から1.24m(4尺1寸)・2.52m(8尺3寸)・2.16m(7尺1寸)を測る。

堆積土は2～3層からなる。P1、P3の1層は柱痕。そのほかは掘り方埋土である。P3は特にグライ化が著しくみとめられる。

遺物は出土していない。

## 3) SA15 柱列跡 (第112図、図版30-1・31-5・32-1～5)

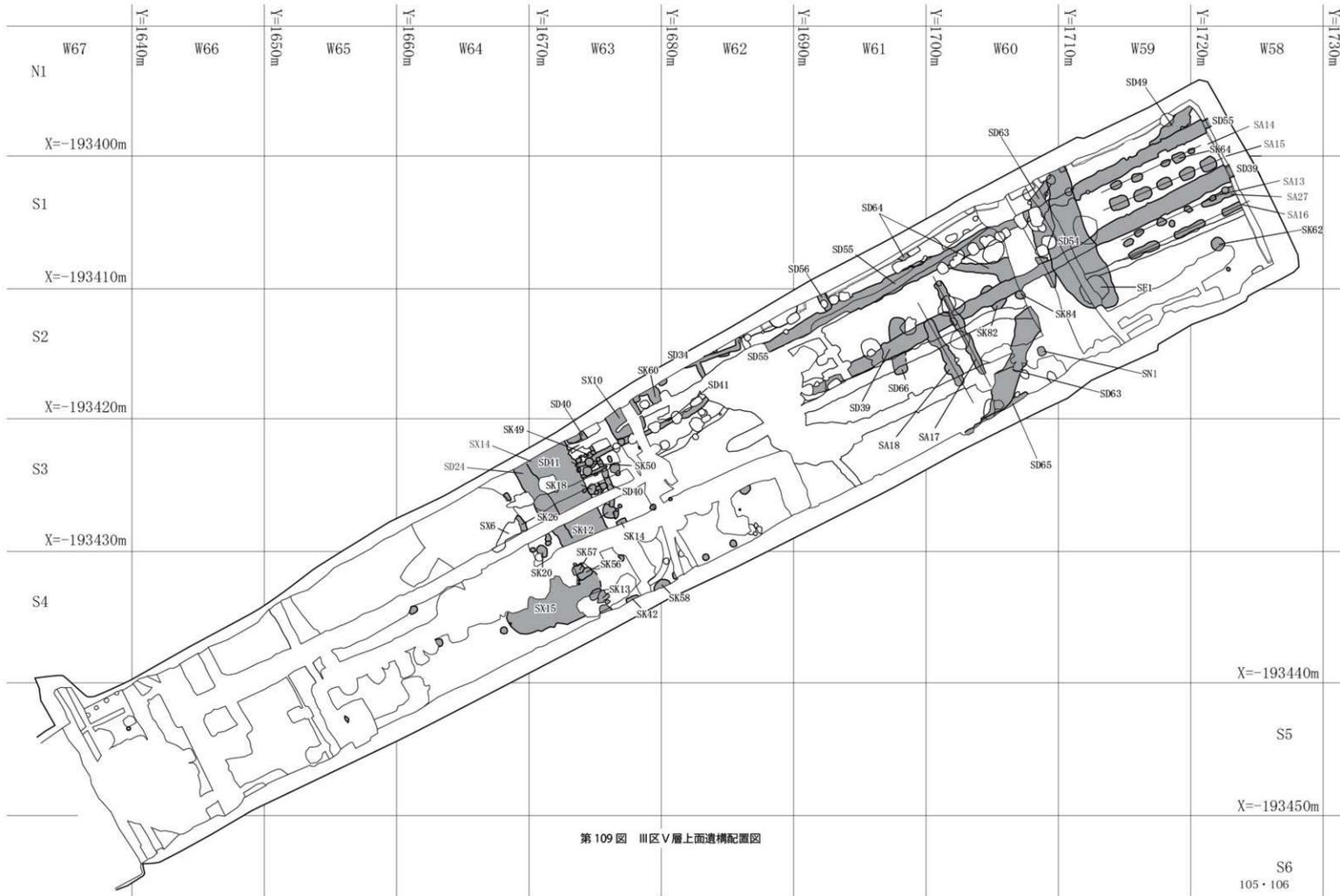
S1-W58・S1-W59グリッドに位置する。東西方向に並ぶ5基の柱穴からなる。西側は途切れるが、東側は調査区外へ延びる可能性がある。すべてに径10～18cmの柱痕が見られる。

掘り方の規模は平面が76×94cm～110×142cm、深さ48～86cmを測る。平面形は不整隅丸方形を、断面形は開いたU字形を呈す。主軸方向はN-65°-Eを示す。

確認された長さは7.40mで、柱間寸法は西端から1.96m(6尺5寸)・1.80m(5尺9寸)・1.90m(6尺3寸)・1.74m(5尺7寸)を測る。

堆積土は1～3層からなり、P1、P3～5の1層は柱痕、そのほかは掘り方埋土である。

遺物は出土していない。



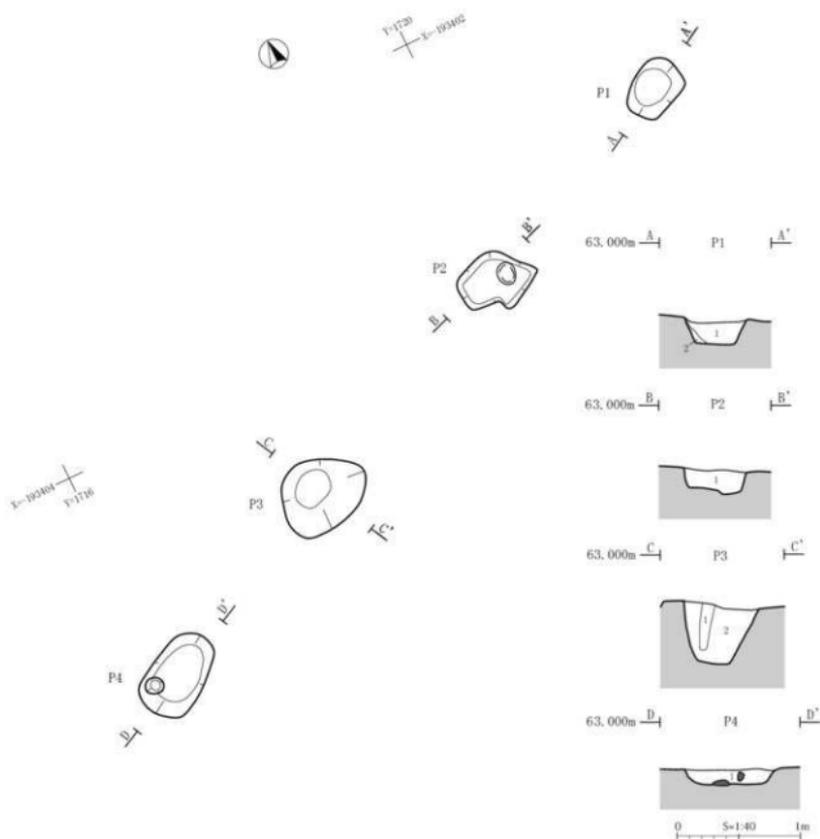
第109図 III区V層上面遺構配置図

X=-193440m

S5

X=-193450m

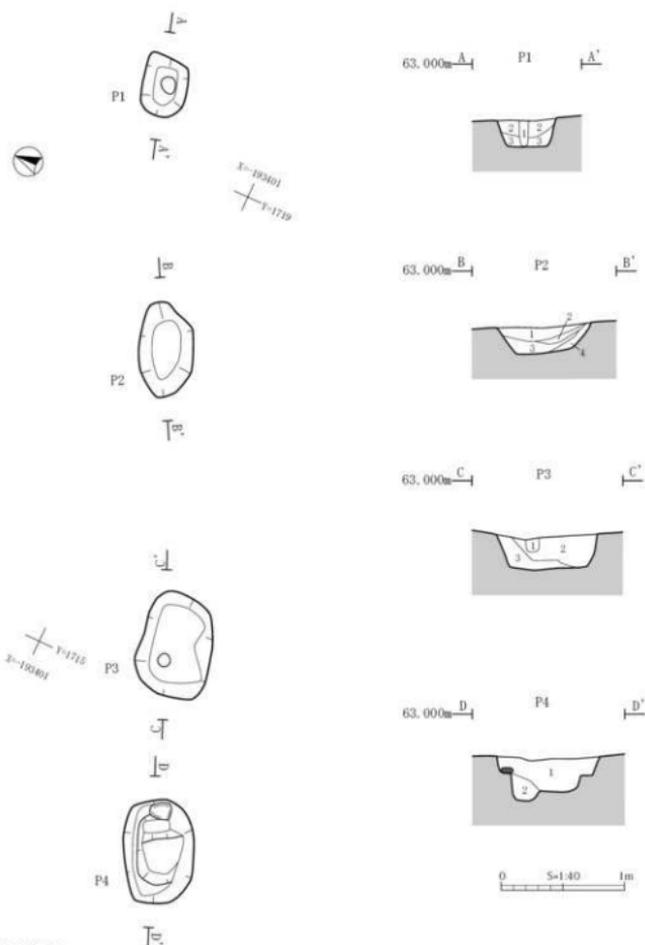
S6



SA13 柱列跡 土層注記表

ビット番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		地	色				
P1	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	なし	黄褐色シルト土粒少量、砂多量、炭粒微量
	2	2.5Y3/3	暗オリーブ色	粘土質シルト	あり	あり	オリーブ褐色砂質シルト・酸化鉄
P2	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	なし	黄褐色シルト土粒少量、砂多量、炭粒微量
	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	なし	なし	植痕
P3	2	2.5Y3/3	暗オリーブ色	粘土質シルト	あり	あり	オリーブ褐色砂質シルト・酸化鉄少量、径1cm程度の塊微量
	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	なし	黄褐色シルト土粒少量、砂多量、炭粒微量

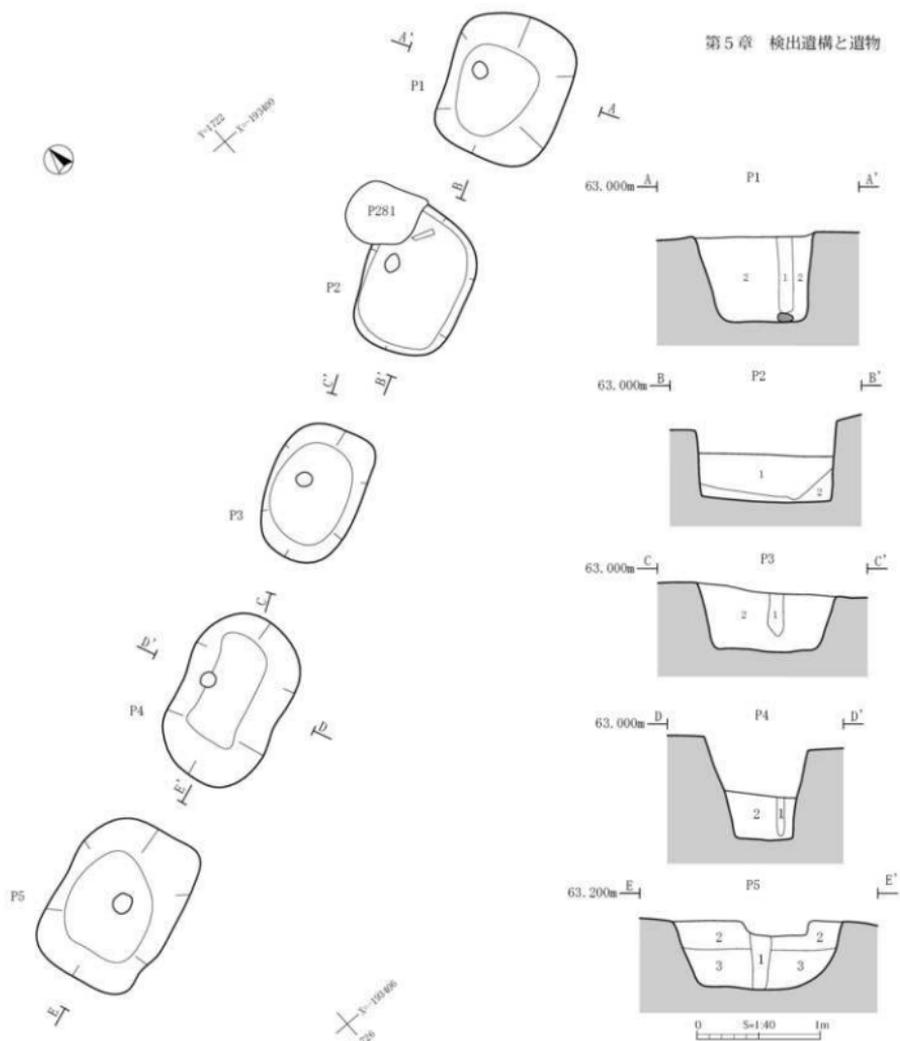
第110図 SA13 柱列跡 平面図・断面図



SA14 柱列跡 土層注記表

ピット番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		層	色				
P1	1	2.5YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒微量
	3	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒少量
P2	1	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒、1cm以下の礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒、1cm以下の礫微量
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒微量
	4	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒微量
P3	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	柱痕
	2	7.5Y4/1	灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	1cm以下の礫少量、酸化鉄微量
	3	7.5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒微量
P4	1	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	1cm以下の礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	シルト質粘土	あり	あり	砂粒微量

第111図 SA14柱列跡 平面図・断面図



SA15 柱列跡 土層注記表

ビット番号	別名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		層	色				
P1	1	10YR4/3	にじい黄褐色	シルト	あり	ややあり	柱痕
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径5cm以下の黄褐色土粒・灰褐色土粒多量、酸化鉄多量
P2	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径5cm以下の暗褐色土粒微量、上部に酸化鉄多量
	2	7.5YR5/1	黒灰色	砂質シルト	ややあり	あり	砂粒多量
P3	1	10YR4/1	褐色	シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	なし	径1mm以下のにじい黄褐色土粒
P4	1	2.5Y5/2	暗灰黄褐色	シルト質砂	ややあり	ややあり	柱痕
	2	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	径1cm以下のシルトストーン少量
P5	1	2.5Y3/2	暗灰黄褐色	シルト質砂	ややあり	あり	柱痕
	2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径10cm以下の硬塊量、酸化鉄微量
	3	10YR5/4	にじい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	

第112図 SA15 柱列跡 平面図・断面図

#### 4) SA16 柱列跡 (第 113、114 図、図版 30-1・32-6～8・33-1)

S1-W58・S1-W59 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ柱痕を有する 3 基の布掘り溝からなる。西側は途切れ、東側はさらに延びることが 2007 年度の仙台城跡 (川内駅部) の調査で判明している。西から溝 1・溝 2・溝 3 として個別に説明する。

溝 1 の確認された規模は長さ 2.4m、幅 50～70cm を測る。断面は底面を中央から両側に向かって 2 段掘り下げた段状を呈する。深さは西端から 60cm、40cm、中央が 28cm、40cm、東端が 64cm を測る。径 10～14cm の柱痕が 4 基検出され、溝 2・溝 3 とは様相が異なる。西から 2 番目の柱痕だけが柱筋から 8cm 北にずれ、掘り方理土の観察からは明瞭な切り合い関係は見られなかったが、西端の柱痕と同時期に作られたものとは考えにくい。2 基の柱間寸法は 64cm (2 尺 1 寸) を測る。東側の 2 基の柱痕は掘り方理土の観察からは切り合い関係は認められない。また柱筋に乗ることから同時期に作られた可能性が高いと考えられる。柱間寸法は 38cm (1 尺 3 寸) を測る。礎板石などは検出されていない。

溝 2 の規模は長さ 2.5m、幅 42～56cm を測る。断面は底面の両端を深く掘りくぼめ、中央を浅くした段状を呈し、深さは西端が 84cm、中央 8cm、東端 58cm を測る。両端には径 14cm の柱痕が見られるが、礎板石などは検出されていない。

溝 3 は東端が調査区外へ延びる。確認された規模は長さ 2m、幅 48～52cm を測る。断面は底面が平坦な長方形を呈するものと思われる、深さ 1m を測る。両側で径 14cm の柱痕が見られるが、礎板石などは検出されていない。

溝 1 から溝 3 の主軸方位は N-65°-E を示す。それぞれの両端の柱痕を柱間寸法とすると、西端から 1.96m (6 尺 5 寸)・1.88m (6 尺 2 寸)・1.96m (6 尺 5 寸)・1.92m (6 尺 3 寸)・1.84m (6 尺 1 寸) を測り、西端の柱痕から東端の柱痕までの長さは 9.56m である。

堆積土は溝 1～溝 3 まで全て同一で、柱痕と掘り方の 2 層からなる。

遺物は溝 2 の掘り方より飾り金具 (第 113 図-1) が出土している。

#### 5) SA27 柱列跡 (第 114 図、図版 33-1～4)

S1-W58・S1-W59 グリッドに位置する。SA16 の北側を平行に走る柱痕を有する 2 基のピットと、3 基の礎板石を有する布掘り溝からなる。西端の礎板石には柱痕が乗る。

西から P1・P2・溝 1 と番号をつけて個別に説明する。

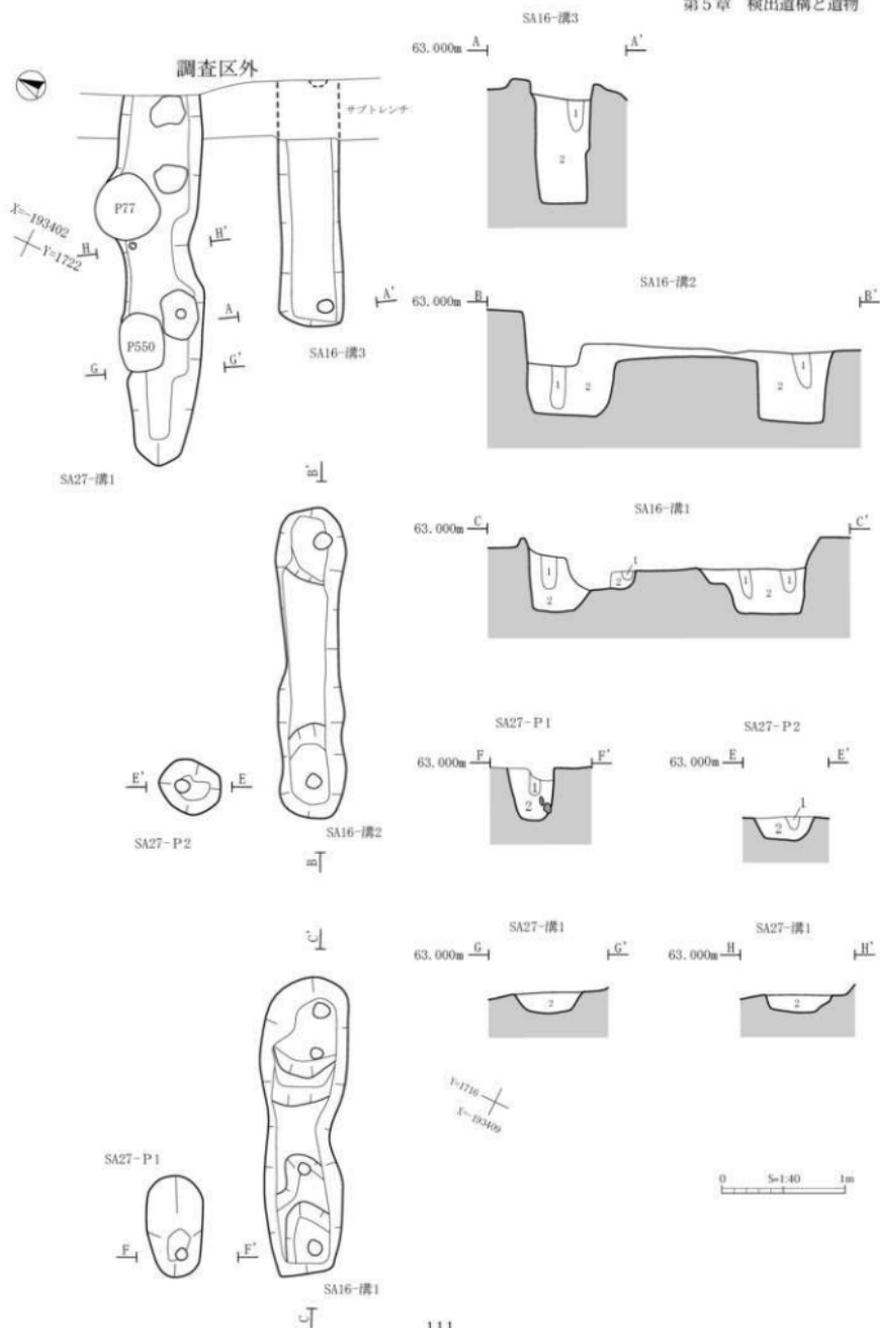
P1 の規模は長軸 82cm、短軸 46cm、深さ 49cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は開いた U 字形を呈する。径 8cm の柱痕が検出され、SA16-溝 1 の西端にある柱痕との距離は 1.08m (3 尺 6 寸) を測る。

P2 の規模は長軸 48cm、短軸 40cm、深さ 19cm を測る。平面形は不整形を、断面形は開いた U 字形を呈する。径 12cm の柱痕が検出され、SA16 の溝 2 の西側にある柱痕との距離は 1.08m (3 尺 6 寸) を測る。

溝 1 は北側を P77・P550 によって切られ、東端は調査区外へ延びる。確認された規模は長さ 3.00m、幅 55～65cm、深さ 16cm を測る。断面形は開いた U 字形を呈する。礎板石は 3 基置かれ、西端の礎板石の上面で確認された径 8cm の柱痕と SA16 の溝 3 の西側にある柱痕との距離は 1.16m (3 尺 8 寸) を測る。

P1・P2 と溝 1 の柱間寸法は 2 間とも 3.84m (12 尺 7 寸) を測る。礎板石は西から 40cm・26cm・28cm の扁平な川原石が用いられている。平坦面を上に向けて、溝の南壁寄りに置かれている。2 基の礎板石には柱痕が伴わないのでやや不正確になるが、柱間距離は 1.32m (4 尺 4 寸)、56cm (1 尺 8 寸) を測るものと思われ、これらに直角に組む柱痕は SA16 にはない。P1 から溝 1 の主軸方位は N-65°-E を示す。

堆積土は P1、P2、溝 1 まで全て同一で、柱痕と掘り方の 2 層からなる。



第3節 Ⅲ区

SA16・27 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		色	層				
SA16	1	2.5Y4/2	暗灰褐色	シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR4/3	に赤い黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径 2 cm以下の褐色土粒やや多量、径 3 mm以下の粗砂微量
SA27	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR4/2	灰褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径 2 cm以下の褐色土粒やや多量、径 3 mm以下の粗砂微量

第113図 SA16・27 柱列跡 平面図・断面図

遺物は出土していない。

SA16とSA27は、東西方向に平行して並ぶ柱列跡である。北側のSA27はSA16の柱筋に対して直交し、柱間寸法も1.08m（3尺6寸）～1.16m（3尺8寸）と近似する。またSA16の柱痕2基に対して1基の割り合いで位置すること、掘り方の規模が小さいことから、SA16の控え柱になる可能性が高いと思われる。そのことからSA16は塀であったことが推定され、塀によって区画された南側が外で、控え柱を有する北側が内になるものと考えられる。



SA16 柱列跡 出土遺物観察表（金属製品）

採取番号	写真採取番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備 考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
113-1	106-7	S1-W58・59	飾り金具	—	22.5	—	0.05	2.37	菊花形	N-10
		SA16-溝2・2層								

第114図 SA16 柱列跡 出土遺物

## 6) SA17 柱列跡 (第115図、図版33-5・34-1～2)

S1-W60・S2-W60グリッドに位置する。南北方向に走る布掘り溝の中に、5基の柱跡が検出された。中央西側は攪乱に壊され、南端をSD4によって切られる。南北両端とも壁は立ち上がり途切れる。

確認された規模は長さ7.80m、幅50～82cm、深さ54～64cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面形は開いたU字形を呈する。柱跡は5基の礎板石と、その上に載る1基の柱材と4基の柱痕からなる。柱材は径16cm、長さ25cmを測る丸材で、柱痕は径20cm前後である。

主軸方向はN-27°-Wを示す。柱間寸法は南端から1.98m(6尺5寸)・1.62m(5尺3寸)・1.77m(5尺8寸)・1.48m(4尺9寸)を測り、南端の柱材から北端の柱痕までの長さは6.79mである。礎板石には26×44cm～34×50cmの端部を打ち欠いた川原石と、ほぼ全面的に打ち欠いたものが使われている。南側の柱間には18～26cmの川原石と割り石が4個積まれた状態で検出されたが、柱を載せた痕跡は見られなかった。堆積土は柱痕と掘り方の2層からなる。

遺物は柱材以外、出土していない。

## 7) SA18 柱列跡 (第115図、図版34-1・4～5)

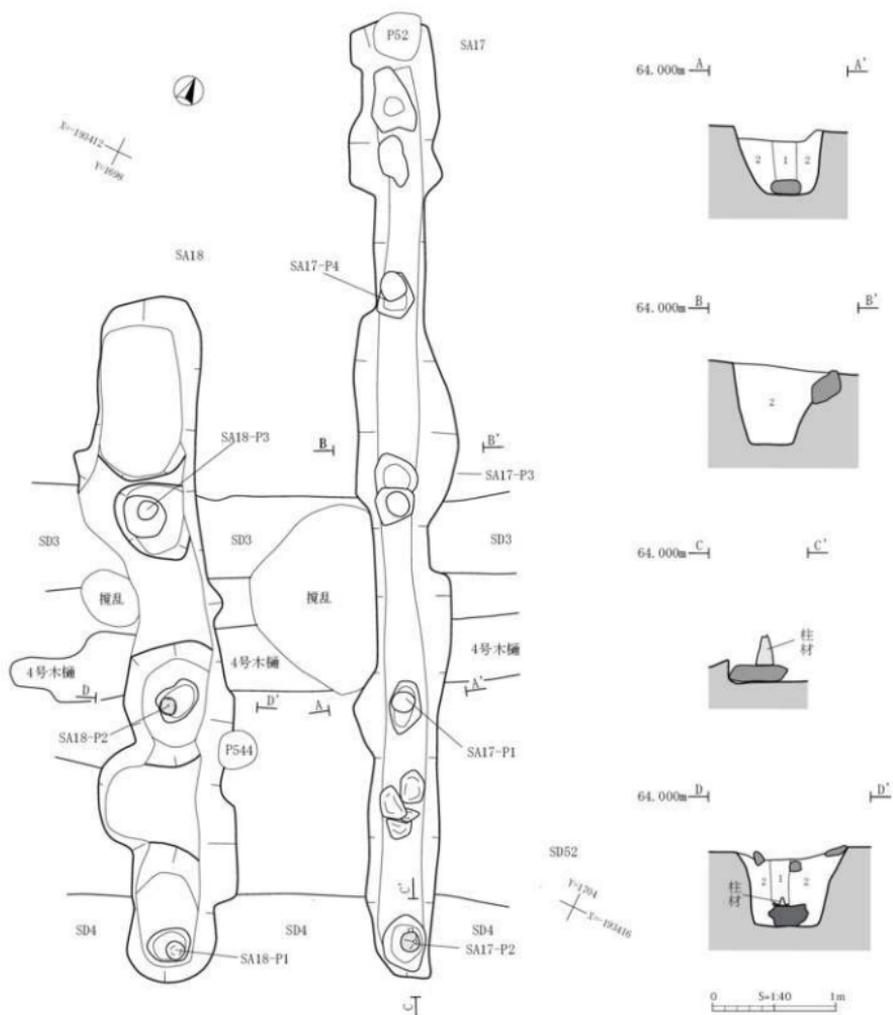
S2-W60・S2-W61グリッドに位置する。南北方向に走る布掘り溝の中に、3基の柱跡が検出された。南北両端とも壁は立ち上がり、途切れる。

確認された規模は長さ5.6m、幅60～110cm、深さ45～60cmを測る。底面はSA17とは様相が異なり、ピット状に掘り下げた底面に礎板石を置く。断面形は開いたU字形を呈する。

柱跡は3基の礎板石と、その上に載る2基の柱材と1基の柱痕からなる。溝の北端も精査したが柱を置いた痕跡は見られなかった。柱材はともに丸材で、柱1が径14cm、長さ29cm、柱2が径15cm、長さ18.5cmを測る。柱痕は径16cmである。

主軸方位はSA17と同じくN-27°-Wを示す。柱間寸法は南端から1.98m(6尺5寸)・1.60m(5尺3寸)を測り、南端の柱材から北側の柱痕までの距離は3.58mを測る。礎板石には26×35cm～34×36cmの川原石が使用されている。堆積土は柱痕と掘り方の2層からなる。

遺物は柱材以外、出土していない。



SA17・18 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No.	色				
SA17	1	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	なし	柱頭
	2	10YR5/1	褐色	シルト	ややあり	あり	径20cm以下の礫少量、径10cm以下の暗青灰色土粒多量
SA18	1	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	あり	なし	柱頭
	2	5G4/1	暗緑灰色	粘土質シルト	あり	あり	径5cm以下の礫少量、径10cm以下の暗青灰色土粒多量

第115図 SA17・18 柱列跡 平面図・断面図

## (2) 溝跡

## 1) SD24 溝跡・SX14 性格不明遺構 (第116～120図、図版34・6・35-1～2)

[SD24] S3-W63・S3-W64 グリッドに位置する。南北方向に走る石組溝である。SX14 を切り、中央やや北寄りの東側を2号枡状遺構によって壊される。南側は攪乱によって壊され、その先に延びていた痕跡が認められないことから、攪乱付近で収束するものと考えられる。北側は調査区外へ延びる。

確認された規模は、長さ7m、側石と側石の最大内幅18cm、掘り方の幅76～120cm、深さ48cmを測る。断面形は開いたU字形を呈する。主軸方向はN-32.5°-Wを示す。

側石は30～48cmの端部を打ち欠いた川原石と、未加工のもののが1段並べられ、西側石は全体的に東側に横ずれしたと思われる。南側では石蓋が架けられているような様相を呈する部分もあるが、崩れた西側石が載ったものと考えられる。中央の底面には28～39cmの川原石が施されている。裏込めには10～15cmの礫が少量含まれる。

堆積土は6層からなる。1～3層は溝内堆積土で、3層では水成堆積の砂が確認されている。堆積は東側の石組面に対して斜めに落ち込んでおり、西方向からの堆積と思われる。4～6層は掘り方埋土である。

遺物は18世紀代と思われる京・信楽系の色絵水滴が出土している。

[SX14] S3-W63・S3-W64・S4-W63 グリッドに位置する。中央と南側を攪乱によって壊され、4号池付帯の2号木樋・2号枡状遺構・SD12・SD24に切られる。北側は調査区外へ延び、南端は壁が立ち上がって途切れる。

確認された規模は長軸9.9m、短軸4～4.5m、深さ36cmを測る。平面形は長方形か隅丸長方形が推定され、断面形は皿状を呈する。主軸方向はSD24と同じくN-32.5°-Wを示す。

堆積土は6層からなる。シルトブロック、シルトストーン等を含む砂質シルトを主体としており、一部グライ化しているのが認められる。水分の多い場所で整地を行った際の堆積の可能性がある。

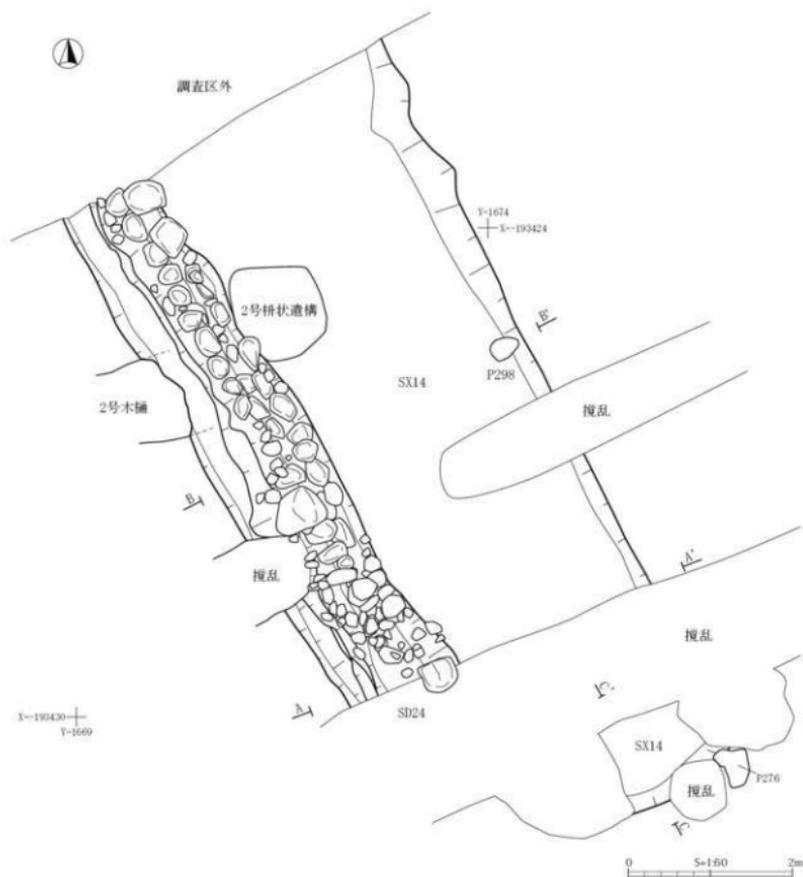
遺物は中国漳州産の青花皿、漆器・曲げ物等の木製品、古銭が出土している。出土した古銭は全て寛永通宝で、古寛永が4点、新寛永が10点出土している。古寛永は無背、新寛永は全て背面に「文」字が施される寛永年間の鑄造と見られるものである。



SD24 溝跡 出土遺物観察表 (磁器)

図版 番号	写真図版 番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録番号
		遺構・層位						口径	底径				
116-1	106-8	S3-W63・64 SD24 4層	磁器	鳥型水滴	体部	密	色絵	—	(22)	京焼	18世紀		J-6

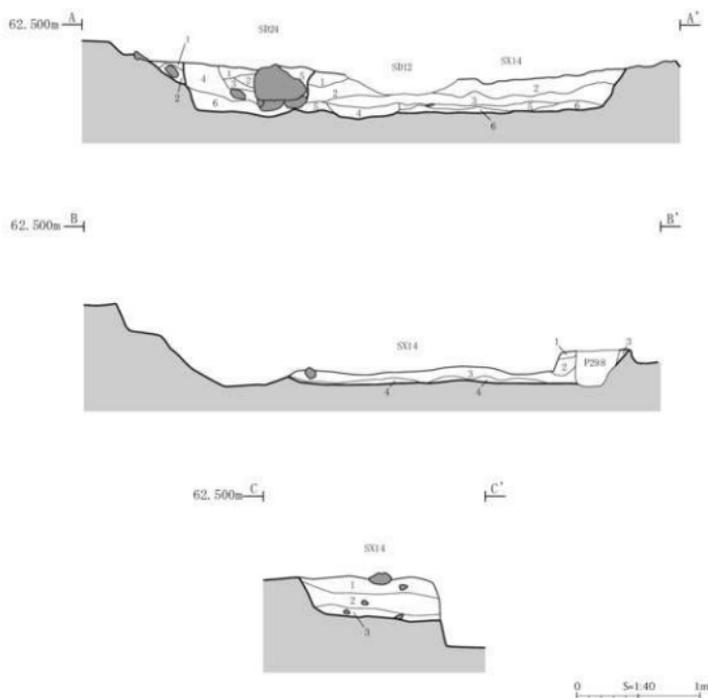
第116図 SD24 溝跡 出土遺物



SD24 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	にぶい黄色シルトを少量、酸化鉄多量
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	ややあり	オリーブ褐色砂質シルト少量、酸化鉄微量
3	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	あり	なし	暗灰黄色砂質シルト少量、酸化鉄少量
4	5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	なし	酸化鉄少量 5GY5/1 オリーブ灰色にグライ化
5	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	なし	
6	2.5Y3/1	黒褐色	砂	なし	なし	

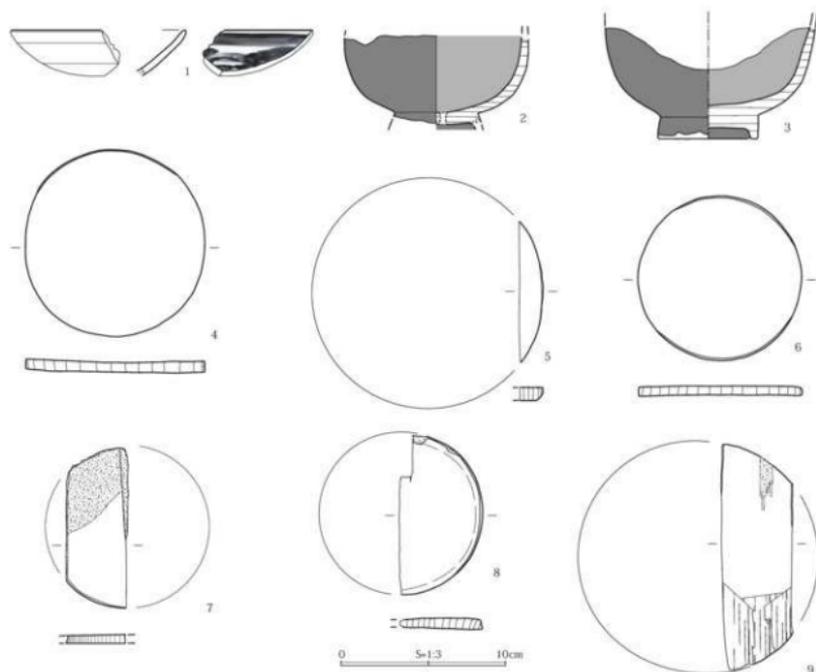
第117図 SD24 溝跡・SX14 性格不明遺構 平面図



SD24 溝跡・SX14 性格不明遺構 土層注記表

遺構名	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No.	色				
SD24	1	5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	なし	酸化鉄少量 溝内埋積土
	2	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	なし	溝内埋積土
	3	2.5Y3/1	黒褐色	砂	なし	なし	溝内埋積土
	4	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	にぶい黄色シルトを少量、酸化鉄多量 掘り方埋土
	5	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	ややあり	オリーブ褐色砂質シルト少量、酸化鉄微量 掘り方埋土
	6	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	あり	なし	暗灰黄色砂質シルト少量、酸化鉄少量 掘り方埋土
SX14	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径 1 cm の黄褐色シルト粒少量、酸化鉄多量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径 1 cm の黄褐色シルト粒多量、酸化鉄微量
	3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	酸化鉄微量、径 1 cm 以下の 2.5Y6/6 微量
	4	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	なし	ややあり	径 5 cm 以下の礫少量、シルトストーン微量 グライ化
	5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径 5 cm 以下の礫多量、シルトストーン多量 グライ化
	6	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量

第 118 図 SD24 溝跡・SX14 性格不明遺構 断面図



SX14 性格不明遺構 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド		種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
		遺構・層位	層						口径	底径	器高				
119-1	106-9	S3-W63・64	6層	磁器	皿	口縁~体部	顔密	染付	—	—	(2.85)	中国 (漳州系)	16世紀末~17世紀初		J-71
		SX14													

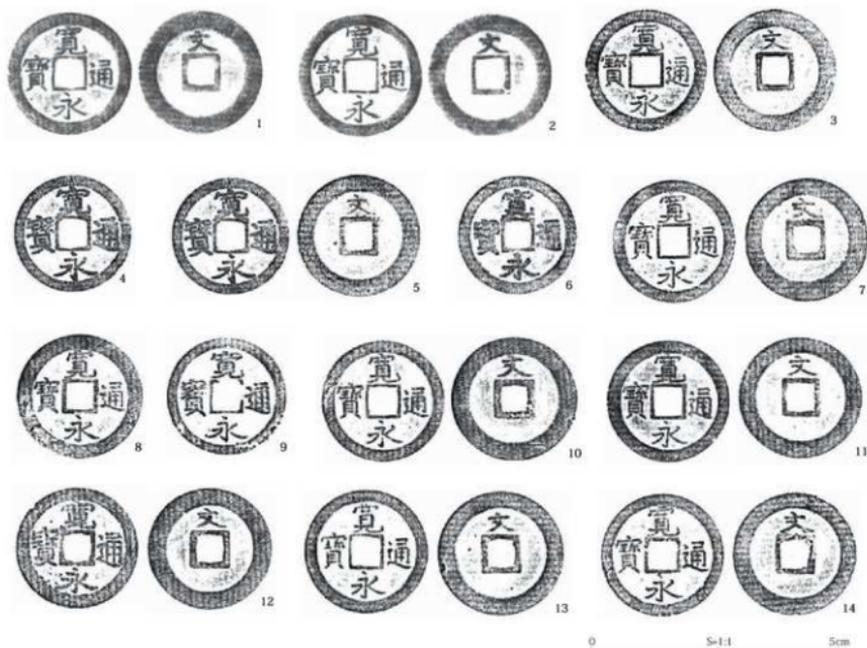
SX14 性格不明遺構 出土遺物観察表 (漆器)

図版番号	写真図版番号	グリッド		種類	法量 (cm)			備考	登録番号
		遺構・層位	層		口径	底径	器高		
119-2	106-10	S3-W63・64	4層	漆器椀	—	—	(5.8)	外面黒漆、内面赤漆	L-120
		SX14							
119-3	106-11	S3-W63・64	SX14	漆器椀	—	—	(7.9)	外面黒漆、内面赤漆	L-119
		SX14							

SX14 性格不明遺構 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド		種類	法量 (cm)			備考	登録番号
		遺構・層位	層		長さ	幅	厚さ		
119-4	106-14	S3-W63・64	SX14	曲物	12.5	11.9	0.7		L-117
		SX14							
119-5	106-13	S3-W63・64	SX14	曲物	9.6	(1.5)	0.8		L-116
		SX14							
119-6	106-16	S3-W63・64	SX14	曲物	11.0	10.9	0.5		L-121
		SX14							
119-7	106-12	S3-W63・64	SX14	曲物	(10.6)	(4.1)	0.7		L-115
		SX14							
119-8	106-15	S3-W63・64	SX14	曲物	(10.6)	(5.5)	0.7		L-118
		SX14							
119-9	106-17	S3-W63・64	SX14	曲物	(15.3)	(4.5)	0.7		L-93
		SX14							

第119図 SX14 性格不明遺構 出土遺物



SX14 性格不明遺構 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真/図版 番号	グリッド 遺構・層位	銭種名	初鋳年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	孔径	重量		
120-1	107-1	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(新)	1668年	2.5	0.6	4.06	文銭	N-117
120-2	107-2	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(新)	1668年	2.5	0.6	3.42	文銭	N-118
120-3	107-3	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(新)	1668年	2.5	0.6	3.57	文銭	N-119
120-4	107-4	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(古)	1626年	2.4	0.6	3.66	無背	N-120
120-5	107-5	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(新)	1668年	2.5	0.6	3.62	文銭	N-121
120-6	107-6	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(古)	1626年	2.4	0.6	3.55	無背	N-122
120-7	107-7	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(新)	1668年	2.5	0.6	3.65	文銭	N-123
120-8	107-8	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(新)	1668年	2.55	0.6	3.53	文銭	N-124
120-9	107-9	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(古)	1626年	2.4	0.6	2.99	無背	N-130
120-10	107-10	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(新)	1668年	2.5	0.6	3.87	文銭	N-125
120-11	107-11	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(新)	1668年	2.5	0.6	3.8	文銭	N-126
120-12	107-12	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(古)	1626年	2.5	0.6	3.34	無背	N-127
120-13	107-13	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(新)	1668年	2.55	0.6	4.11	文銭	N-128
120-14	107-14	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝(新)	1668年	2.55	0.6	3.16	文銭	N-129

第120図 SX14 性格不明遺構 出土遺物

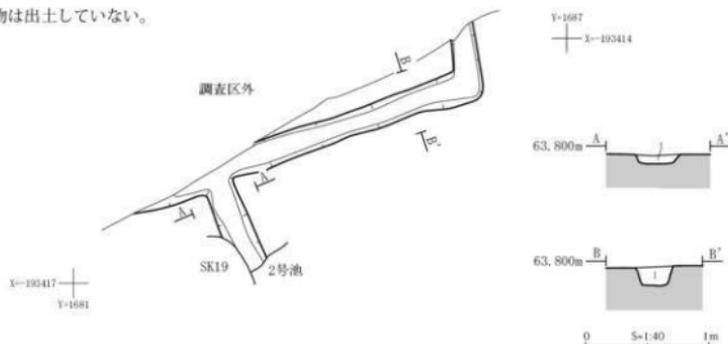
2) SD34 溝跡 (第 121 図、図版 35-3～5)

S2-W62 グリッドに位置する。幅の狭い素掘りの溝で、調査区北壁から東方向に 3.3m 走り、そこから北方向へ L 字状に 65cm 走って調査区外へ延びる。また西端の東側で T 字状に南に分岐する溝を確認し、形状と堆積土が類似することから同一の遺構であると判断し登録した。

分岐点から 1.3m 走った南端は SK19 と 2 号池によって切られる。確認された規模は、幅 30～42cm、深さ 16cm を測る。

東西の主軸方向は N-71°-E を、調査区北壁に延びる南北の主軸は N-6°-W を、池 2 に延びる南北の主軸は N-20°-W を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は褐灰色の粘土質シルトの単層で、水流の痕跡は認められなかった。

遺物は出土していない。



SD34 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	編	色				
1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 3cm 以下の礫少量

第 121 図 SD34 溝跡 平面図・断面図

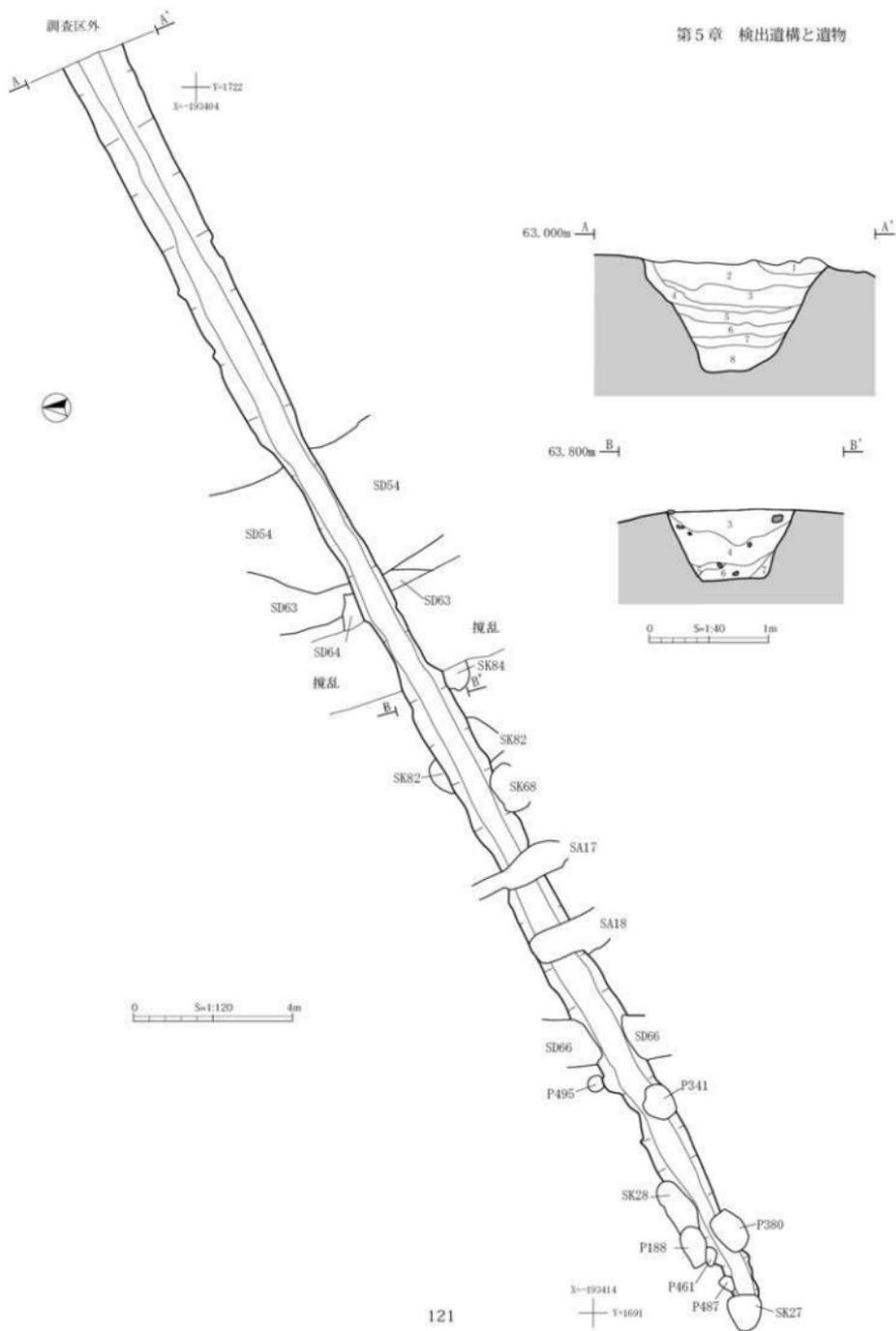
3) SD39 溝跡 (第 122 図、図版 35-6～7・36-1・38-1)

S1-W58～S2-W61 グリッドに位置する。東西方向に直線的に走る素掘りの溝である。中央は攪乱と SD54 によって壊される。西端は SK27 に切れ、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるか、または上位の整地によって削平されたものと思われる。東側は調査区外に延びる。

確認された規模は長さ 35.5m、幅 1～1.56m、深さ 95cm を測る。主軸方向は N-62°-E を示す。断面形は逆台形状を呈する。

堆積土は 8 層からなる。1～5 層は上層の整地による埋め戻し土と考えられ、1～3 層は混入物の差により分層された。4・5 層は水分の多い所に直接埋め戻し土を入れたものと思われ、グライ化が観察される。6 層は水成堆積の砂層で、ラミナ構造が見られる。7・8 層は礫を多量に含む。

遺物は 1 層から瓦片が出土しているが細片のため図化し得なかった。



SD39 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	№	色				
1	2.5Y5/3	黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	白色砂粒多量
2	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径3～5cmの暗灰黄色粘土質シルトブロック多量
3	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径5～10cmの暗灰黄色粘土質シルトブロック少量
4	2.5Y4/2	暗灰褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	白色砂粒多量 グライ化層
5	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	シルトストーンや砂多量 白色粒や砂多量 グライ化層
6	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質砂	ややあり	ややあり	白色砂粒をすみなりにやや多量 水成埋積土
7	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト～砂層	ややなし	ややあり	径5cm以下の礫多量
8	5Y4/1	灰色	シルト質砂～砂礫層	ややあり	ややなし	径3cm以下の礫多量

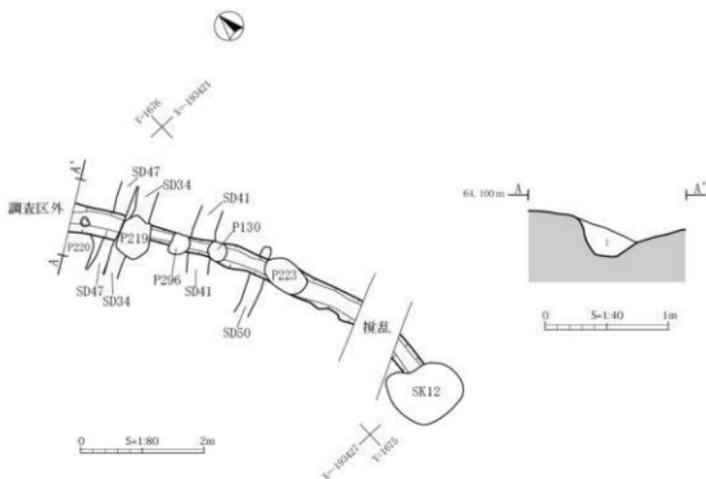
第122図 SD39 溝跡 平面図・断面図

## 4) SD40 溝跡 (第123図、図版36-2～3)

S3-W63 グリッドに位置する。南北方向に緩やかに湾曲しながら走る素掘りの溝である。SD34・SD41・SD47に切れ、南側は攪乱によって壊される。南端はSK12によって切れ、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと思われる。北西端でP220を切り、調査区外へ延びる。

確認された規模は長さ6.3m、幅23～48cm、深さ32cmを測る。主軸方向はN-23°-Eを示す。断面形はU字形を呈する。堆積土は褐灰色のシルト質砂の単層からなり、水成堆積土と思われる。

遺物は出土していない。



SD40 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	№	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト質砂	なし	ややあり	径1cm以下の小礫・砂やや多量

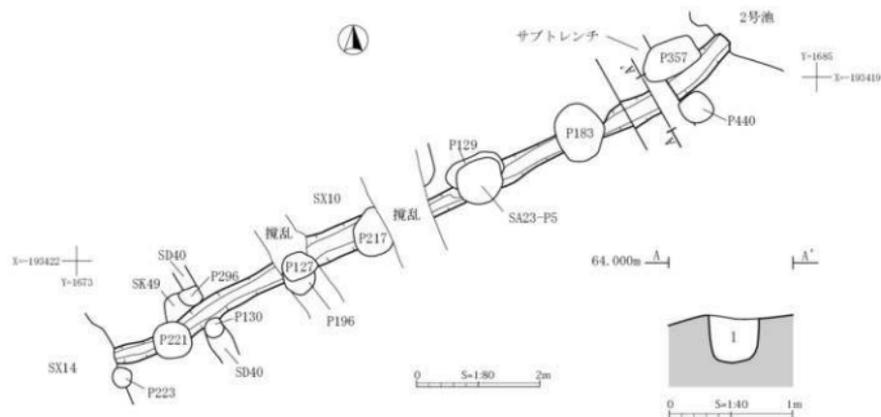
第123図 SD40 溝跡 平面図・断面図

## 5) SD41 溝跡 (第 124 図、図版 36-4・62-1)

S2-W62・S3-W62・S3-W63 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。中央は攪乱によって壊され、西端を SX14 に切られる。その先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと思われる。東端はやや北方向に向きを変えたところで 2 号池によって切られる。

確認された規模は長さ 11.25m、幅 25 ~ 50cm、深さ 18cm を測る。主軸方向は N-63°-E を示す。断面形は U 字形を呈する。堆積土は黒褐色の砂質シルトの単層からなる。

遺物は出土していない。



SD41 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色粗砂を多量、酸化鉄少量 全体的にオリーブ灰色にグライ化

第 124 図 SD41 溝跡 平面図・断面図

## 6) SD49 溝跡 (第 125 ~ 126 図、図版 37-1 ~ 3)

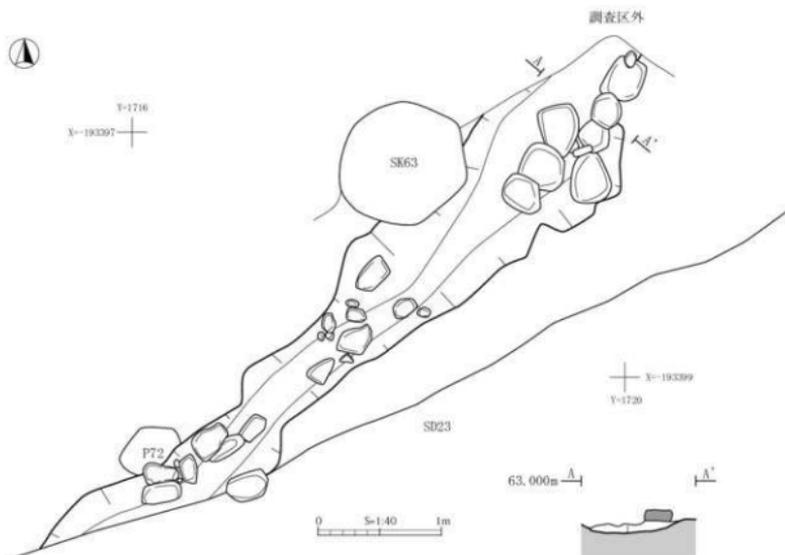
N1-W59・S1-W59 グリッドに位置する。東西方向に走る石組溝と思われる。西側は SD23 に切られ、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。東側は掘り方の幅を広げながら調査区外に延びる。

確認された規模は残存長 3.72m、掘り方の幅 33 ~ 84cm、深さ 10cm を測る。

主軸方向は N-45°-E を示す。側石は 14×24cm ~ 33×42cm の端部を打ち欠いた川原石と未加工のものが使われ、そのほとんどが原状をとどめていないようである。側石と側石の内幅は不明で、掘り方も明瞭ではない。調査区北壁の土層観察から、整地による削平を受けた可能性も考えられる。断面形は皿状を呈する。

堆積土は褐色砂質シルトの単層からなり、酸化鉄を多量に含む。

遺物は底面付近から磁器片が 2 点出土している。第 126 図 - 1 は内外面の口縁部に帯文を回す景徳鎮産の皿で 16 世紀後半 ~ 17 世紀前半のものと思われる。漆による補修痕が残る。2 は近世と思われる肥前産の鉢か皿で、内外面に草花文が施される。



SD49 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄多量

第 125 図 SD49 溝跡 平面図・断面図



SD49 溝跡 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備 考	登録番号
								口径	底径	器高				
126-1	107-15	N1-W5B・59 SD49 下層	磁器	皿	1.縁	緻密	染付團縁・文様帯	—	—	(1.8)	景徳鎮	16世紀後半～17世紀前半		J-17
126-2	107-16	N1-W5B・59 SD49 下層	磁器	鉢?	底部	緻密	染付草花文	—	—	(1.05)	肥前	近世		J-18

第 126 図 SD49 溝跡 出土遺物

## 7) SD54 溝跡 (第 127 ~ 133 図、図版 37-4 ~ 6)

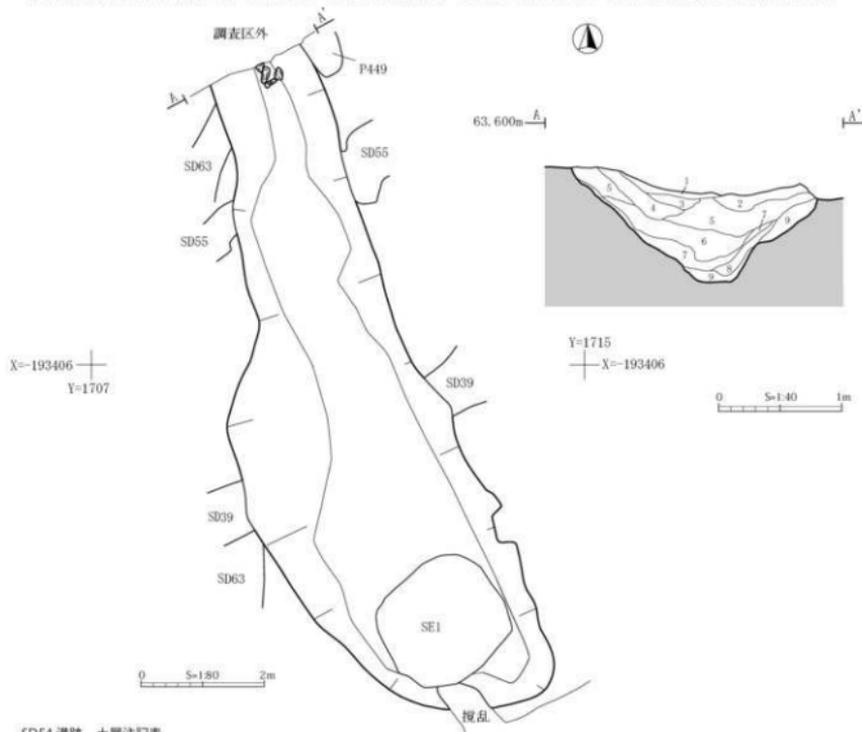
S1-W59・S1-W60・S2-W59 グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。SD63 を切り、SE1、P449、SD39、SD55 に壊される。南端は壁が立ち上がり途切れ、北側は調査区外へ延びる。

確認された規模は長さ 11m、幅 1.8 ~ 3.6m、深さ 52cm を測る。

主軸方向は N-20°-W を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。

堆積土は 9 層からなる。1 ~ 6 層は上層の整地による埋め戻し土と考えられる。7 ~ 9 層はグライ化が著しく、有機物を多量に含む溝機能時の底面堆積土と考えられる。

遺物は瓦、陶器、木製品等が 7 層および 9 層の有機物層から多量に出土している。陶器は志野産、唐津産、瀬戸・



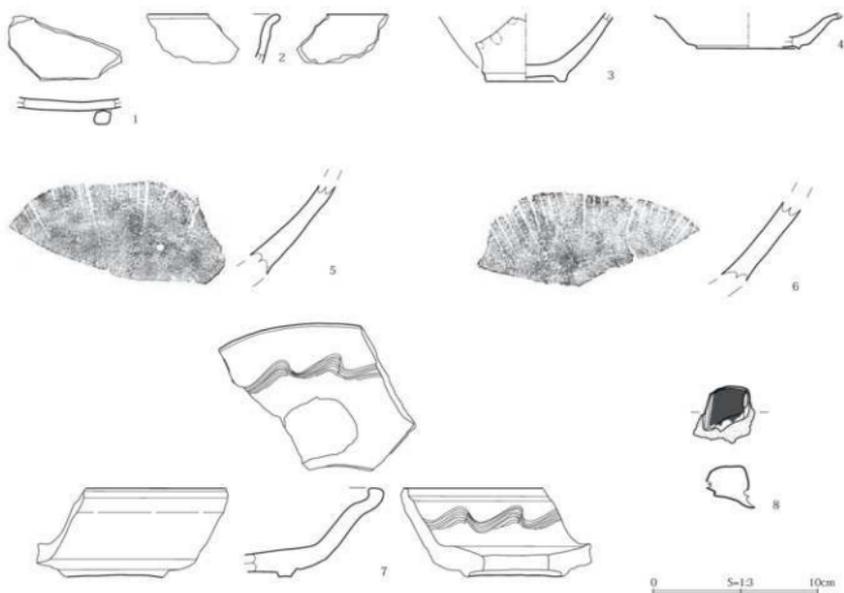
SD54 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	層	色				
1	2.5Y5/3	黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	白色砂粒多量
2	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 3 ~ 5cm の暗灰黄色粘土質シルトブロック多量
3	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 5 ~ 10cm の暗灰黄色粘土質シルトブロック少量
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	白色砂粒多量
5	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	なし	あり	径 2mm 以下のシルトストーン少量
6	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	なし	あり	径 4cm 以下の黒褐色土粒やや多量
7	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	グライ化顕著、有機物を多量に含む
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト質砂	なし	ややあり	グライ化顕著 径 2mm 以下の黒褐色土粒微量
9	5Y2/1	黒色	泥炭	なし	あり	有機物層

第 127 図 SD54 溝跡 平面図・断面図

第3節 Ⅲ区

美濃産が見られ、16世紀末～17世紀代のものを主体としている。瓦は鬼瓦片が出土しており、金箔が付着している。木製品は漆器、椀、曲物、加工木、箸、下駄、杭等が出土している。漆器は椀、皿、蓋などの器種のものと思われ、文様には草文、三引両文が認められる。下駄は差歯下駄のみが出土しており、箸は全て白木のまま使用したのものと思われ、漆等の塗装がなされているものは認められなかった。



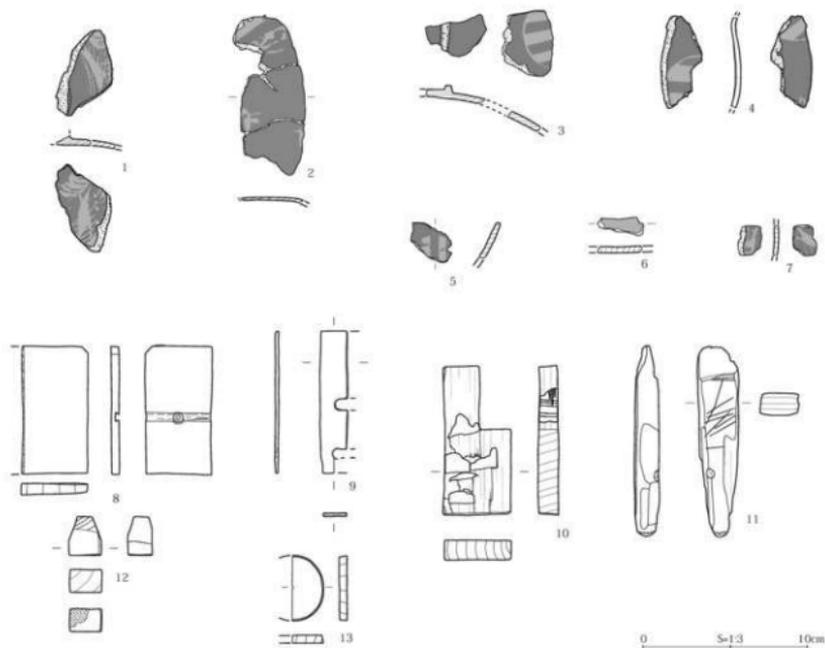
SD54 溝跡 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・樹位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
128-1	107-17	S1・2・W59・60	陶器	鉢	底部	粗	長石釉	—	—	(3.45)	志野	17世紀		I-39
		SD54 7層												
128-2	107-18	S1・2・W59・60	陶器	碗?	口縁～体部	粗	長石釉	—	—	(3.0)	志野	16世紀末～ 17世紀初頭		I-38
		SD54 9層												
128-3	107-19	S1・2・W59・60	陶器	碗	体部～底部	やや粗	鉄釉	—	(4.8)	(4.2)	唐津	17世紀前半		I-36
		SD54 7層												
128-4	107-20	S1・2・W59・60	陶器	碗	底部	粗	白濁釉	—	(6.3)	(2.3)	瀬戸・美濃	16世紀後半		I-37
		SD54 9層												
128-5	107-22	S1・2・W59・60	陶器	深鉢	体部	やや粗	—	—	—	(5.9)	不明	近世		I-213
		SD54 9層												
128-6	107-23	S1・2・W59・60	陶器	深鉢	体部	やや粗	—	—	—	(4.9)	不明	近世		I-218
		SD54 9層												
128-7	107-21	S1・2・W59・60	陶器	皿	口縁～底部	粗	藤書羽状文	—	—	5.5	瀬戸・美濃	17世紀		I-35
		SD54 7層												

SD54 溝跡 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・樹位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
128-8	107-24	S1・2・W59・60 SD54 7層	鬼瓦か	(3.6)	(3.3)	(4.0)	金箔付着 (■部)	H-8

第128図 SD54 溝跡 出土遺物

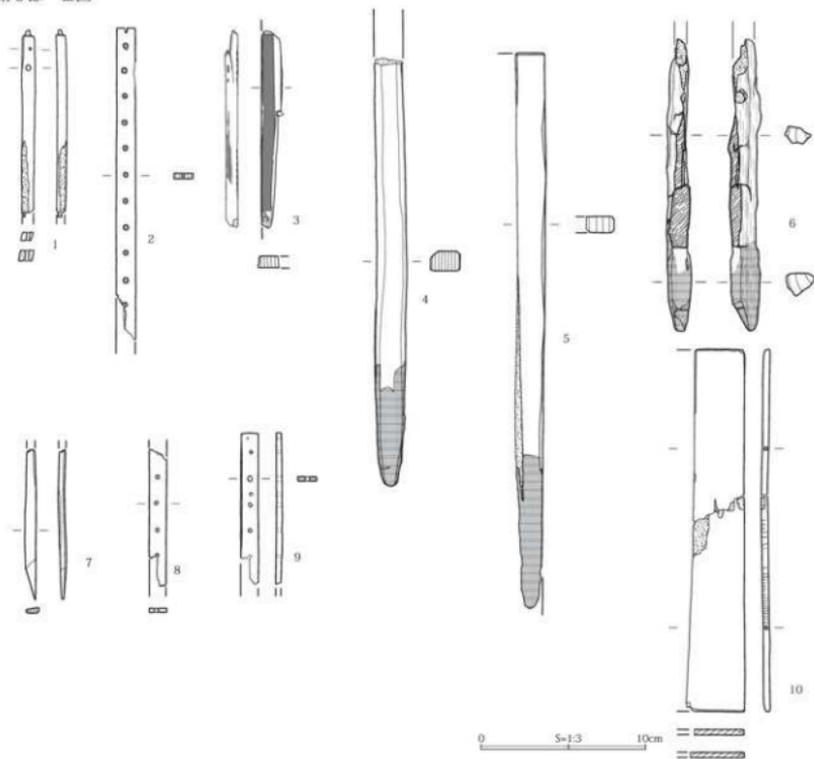


SD54 溝跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・標位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
129-1	108-1	S1・2-W59・60 SD54 7層	漆器	(5.8)	(4.0)	0.3	草文 黒地赤漆草文	L-46
129-2	108-2	S1・2-W59・60 SD54 7層	漆器	(10.7)	(4.1)	0.3	黒地赤漆文様あり	L-58
129-3	108-3	S1・2-W59・60 SD54 9層	漆器	(4.5)	(8.3)	0.5	黒地赤漆三引内文	L-49
129-4	108-4	S1・2-W59・60 SD54 9層	漆器	(6.3)	(2.6)	0.3	黒地赤漆三引内文	L-50
129-5	108-5	S1・2-W59・60 SD54 7層	漆器	(3.3)	(2.5)	0.3	黒地赤漆三引内文	L-48
129-6	108-6	S1・2-W59・60 SD54 9層	漆器	(1.3)	(3.0)	0.3	赤漆	L-47
129-7	108-7	S1・2-W59・60 SD54 7層	漆器	(2.0)	(1.7)	0.3	黒地赤漆草文	L-59
129-8	108-10	S1・2-W59・60 SD54 7層	部材	8.6	4.3	0.5	中央にホゾ	L-54
129-9	108-11	S1・2-W59・60 SD54 7層	部材	9.6	1.8	0.3	孔×2	L-64
129-10	108-12	S1・2-W59・60 SD54 7層	部材	10.0	4.6	1.3	割製 横面に割痕	L-62
129-11	108-13	S1・2-W59・60 SD54 9層	榧	12.7	2.6	1.5	欠損大	L-63
129-12	108-8	S1・2-W59・60 SD54 7層	部材	2.5	2.0	1.7		L-66
129-13	108-9	S1・2-W59・60 SD54 7層	曲物	(4.5)	2.1	0.5	中央に孔あり 蓋か	L-55

第129図 SD54 溝跡 出土遺物

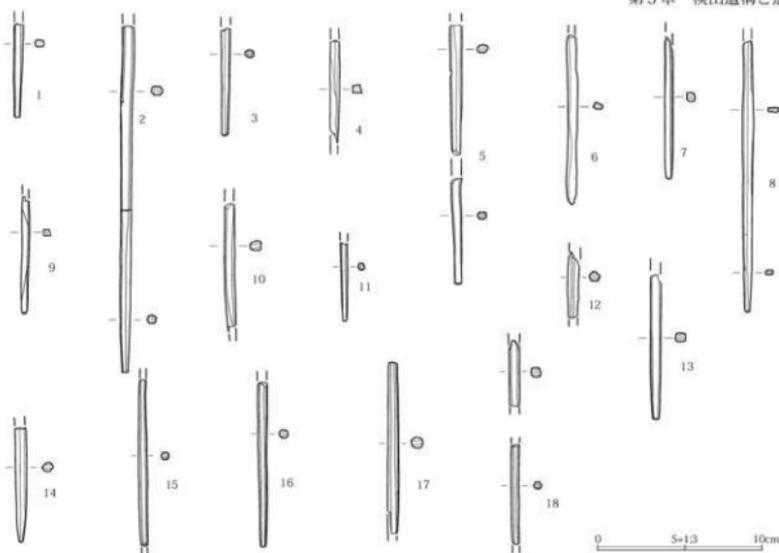
第3節 Ⅲ区



SD54 溝跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
130-1	108-14	S1・2-W59・60 SD54 7層	加工木	(12.5)	0.8	0.7	穿孔×2	L-61
130-2	108-15	S1・2-W59・60 SD54 9層	加工木	(20.8)	1.3	0.3	穿孔×11	L-81
130-3	108-19	S1・2-W59・60 SD54 7層	加工木	13.2	1.3	0.8	漆付着	L-60
130-4	108-16	S1・2-W59・60 SD54 7層	加工木	(28.7)	2.0	1.3	先端にコゲ	L-80
130-5	108-17	S1・2-W59・60 SD54 9層	加工木	37.1	1.8	1.2	先端にコゲ	L-44
130-6	108-18	S1・2-W59・60 SD54 9層	加工木	19.8	1.8	1.5	漆付着	L-83
130-7	108-20	S1・2-W59・60 SD54 9層	加工木	(10.2)	0.7	0.3	先端を切り落とす	L-65
130-8	108-21	S1・2-W59・60 SD54 7層	加工木	(9.4)	1.2	0.3	穿孔×3	L-73
130-9	108-22	S1・2-W59・60 SD54 7層	加工木	(10.6)	1.2	0.3	穿孔×5	L-77
130-10	108-23	S1・2-W59・60 SD54 9層	加工木	24.4	3.3	0.3	横面に孔×2	L-71

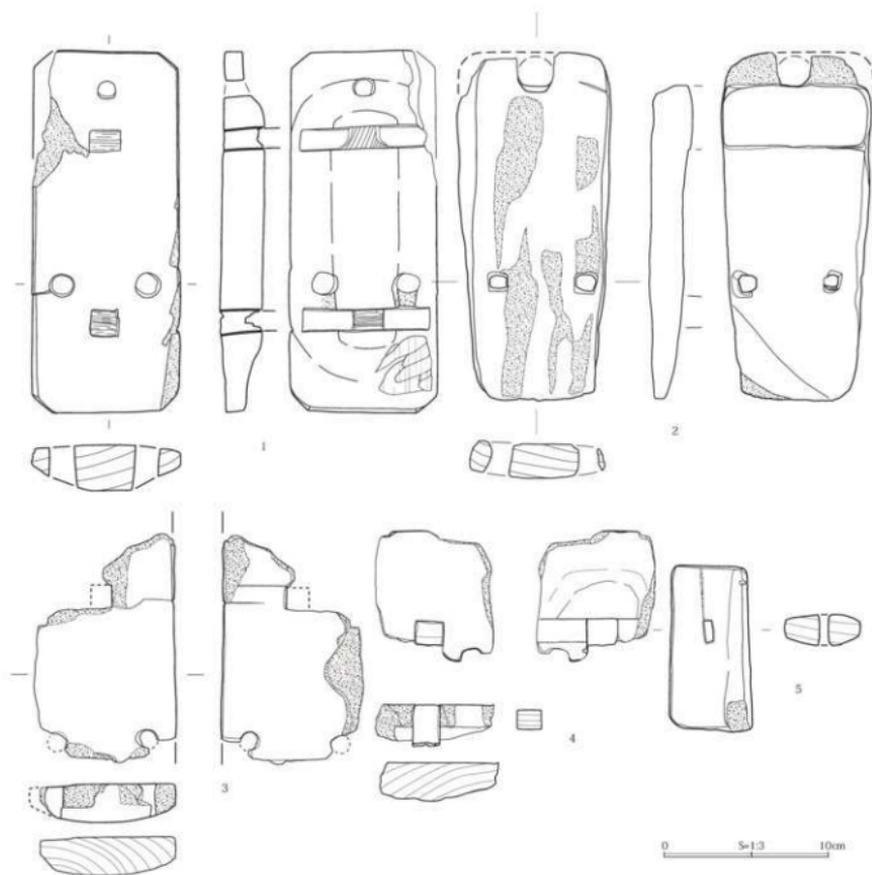
第130図 SD54 溝跡 出土遺物



SD54 溝跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
114-1	109-1	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(6.3)	0.7	0.5		L75-4
114-2	109-2	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(23.4)	0.8	0.7		L69-2
114-3	109-3	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(7.3)	0.5	0.5		L70
114-4	109-4	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(6.9)	0.5	0.5		L75-5
114-5	109-5	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(17.2)	0.7	0.5		L69
114-6	109-6	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(11.6)	0.7	0.3		L72
114-7	109-7	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(9.6)	0.5	0.7		L75-2
114-8	109-8	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(24.1)	0.7	0.5		L76
114-9	109-9	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(8.0)	0.7	0.5		L75-3
114-10	109-10	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(8.3)	0.7	0.7		L72-2
114-11	109-11	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(5.3)	0.5	0.5		L52-2
114-12	109-12	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(4.6)	0.7	0.5		L72-3
114-13	109-13	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(9.7)	0.7	0.7		L75
114-14	109-14	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(7.6)	0.7	0.5		L52
114-15	109-15	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	11.2	0.5	0.5		L52-5
114-16	109-16	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(11.2)	0.5	0.5		L52-4
114-17	109-17	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	11.6	0.7	0.7		L52-3
114-18	109-18	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(13.7)	0.7	0.7		L52-6

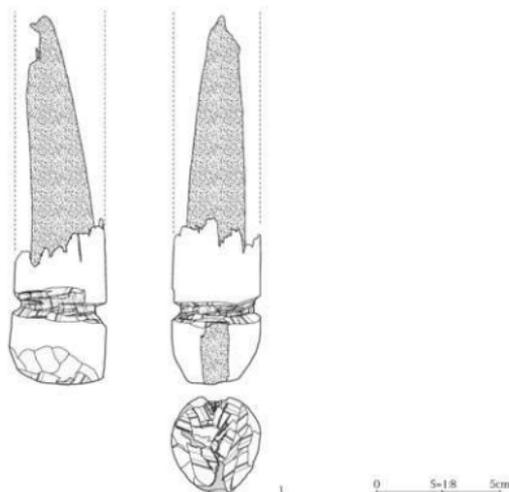
第 131 図 SD54 溝跡 出土遺物



SD54 溝跡 出土遺物観察表（木製品）

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
132-1	109-19	S1・2-W59・60 SD54 7層	下駄	24.1	9.7	2.8	差南下駄	L-45
132-2	109-20	S1・2-W59・60 SD54 9層	下駄	22.4	9.7	2.6	差南下駄	L-78
132-3	109-21	S1・2-W59・60 SD54 7層	下駄	(15.0)	(9.2)	2.6	差南下駄	L-67
132-4	109-22	S1・2-W59・60 SD54 9層	下駄	(7.6)	(7.6)	3.0	差南下駄	L-68-2
132-5	109-23	S1・2-W59・60 SD54 7層	部材	11.2	5.3	2.3	穿孔	L-68-1

第132図 SD54 溝跡 出土遺物



SD54 溝跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
133-1	109-24	S1・2-W59・60 SD54 7層	柱材	(58.6)	13.3	13.4	上部破食 挟りあり 先端割裂顕著	L-51

第133図 SD54 溝跡 出土遺物

## 8) SD55 溝跡 (第134～135図、図版38-1～2)

N1-W58～S2-W62グリッドに位置する。東西方向に直線的に走る素掘りの溝である。中央は攪乱とSD54に壊される。西端は2号池によって切られ、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるか、または上位の整地によって削平されたものと思われる。東側は調査区外へ延びる。調査区東壁の土層観察から当該遺構が埋まった後にSD39が掘られたことが確認されている。

確認された規模は長さ37.5m、幅70～140cm、深さ56cmを測る。主軸方向はN-62°Eを示す。断面形は開いたU字形を呈する。堆積土は6層からなり、1・2層は砂質シルトの埋め戻し土と考えられる。3～5層は砂を主体としラミナ構造も見られ、水成堆積土と思われる。6層はシルト質粘土層で、最下層に沈殿した堆積土層と考えられる。

遺物は瓦、瓦質土器が出土している。第134図・1は火鉢と思われる底部片で、近世の所産と思われる。

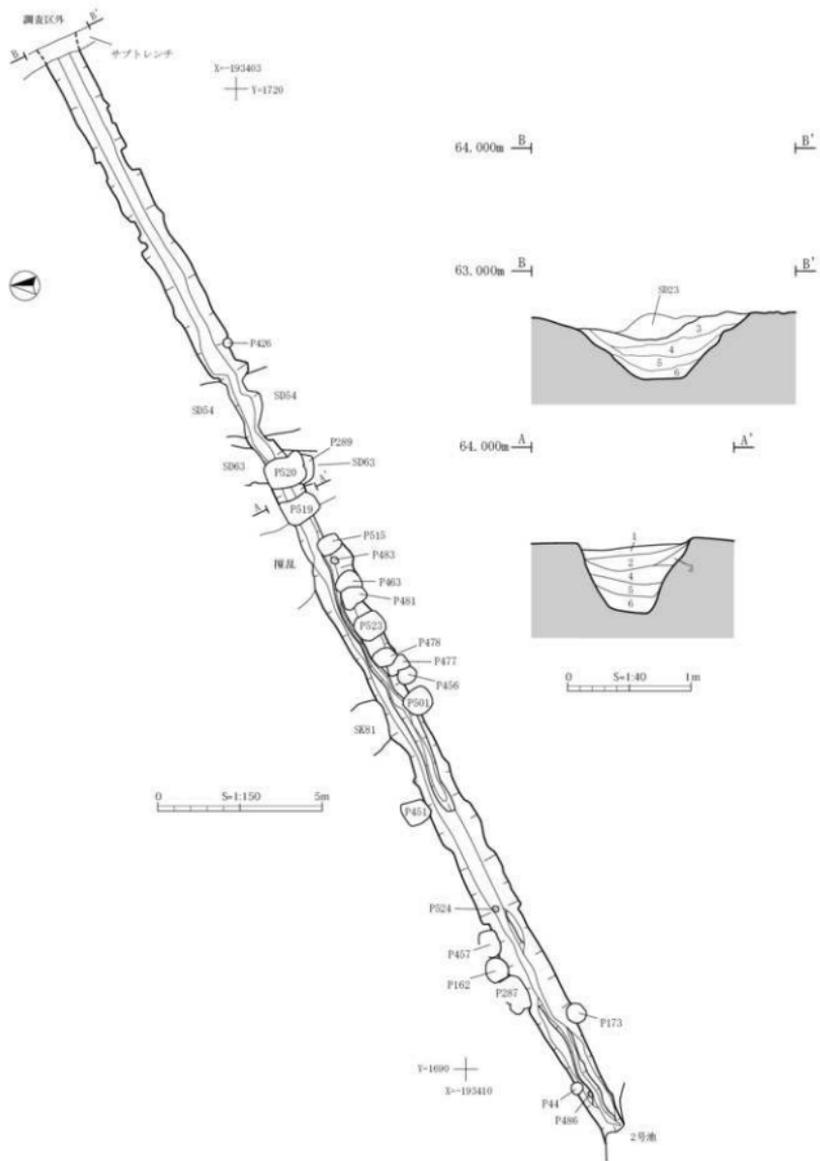


SD55 溝跡 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備 考	登録番号
								L径	底径	器高				
134-1	110-1	N1-W58 SD55 3層	瓦質土器	火鉢	底部	粗		—	—	(1.3)	在地	近世		I-214

第134図 SD55 溝跡 出土遺物

第3節 Ⅲ区



SD55 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややなし	ややあり	シルトストーン少量
2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややなし	ややあり	白色粒やや多量 礫微量 ラミナ構造みられる
3	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質砂	ややなし	ややあり	径3mm以下の礫微量
4	10YR3/4	暗褐色	砂	なし	あり	小礫・砂多量
5	10YR3/4	暗褐色	砂	なし	ややなし	ラミナ構造有 発達している 砂礫の互層
6	10YR4/1	暗灰色	シルト質粘土	あり	ややなし	酸化鉄やや多

第135図 SD55 溝跡 平面図・断面図

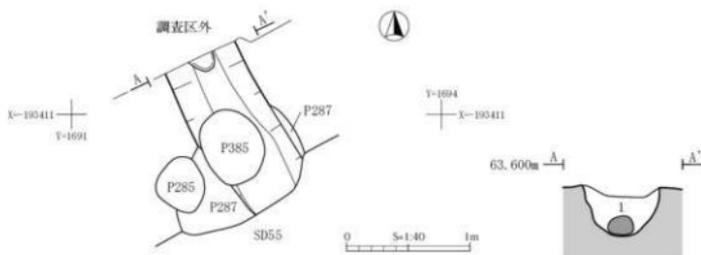
## 9) SD56 溝跡 (第136図、図版38-3～4)

S2-W61 グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。中央から南側を P287・P385 に、南端は SD55 に切れ、その先まで延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。北側は調査区外へ延びる。

確認された規模は、残存長 1.3m、幅 64cm、深さ 32cm を測る。

主軸方向は N-27°-W を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層からなり、水流の痕跡は認められない。

遺物は出土していない。



SD56 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径1～2cmの礫、砂粒多量

第136図 SD56 溝跡 平面図・断面図

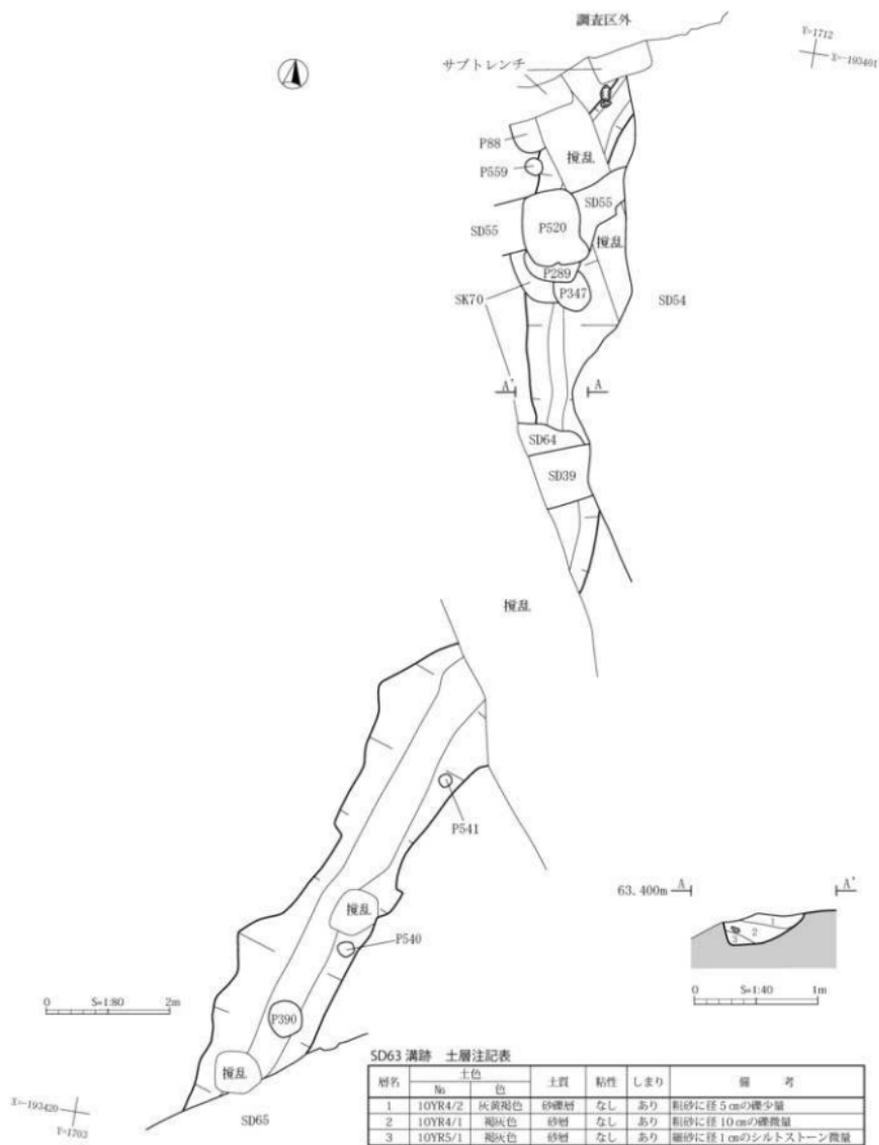
## 10) SD63 溝跡 (第137図、図版38-5～7)

S1-W60～S2-W60 グリッドに位置する。南北方向に蛇行する素掘りの溝である。中央は攪乱によって壊され、SD39・SD55・SD64 によって寸断される。東側から北側にかけては SD54 に切れ、調査区外まで延びているかは不明である。南側は SK84 を切り、SD65 によって壊され調査区外に延びる。

確認された規模は長さ 18.3m、幅 55～190cm、深さ 24cm を測る。主軸方向はおおむね N-11°-E を示す。断面形はいびつな開いた U 字形を呈する。

堆積土は 3 層からなり、1 層は灰黄褐色の砂礫層で埋め戻し土、2～3 層は褐色灰色の砂層で、ラミナ構造が見られ、水成堆積土と考えられる。

遺物は瓦が 1 点出土しているが細片のため図化し得なかった。



第137図 SD63 溝跡 平面図・断面図

## 11) SD64 溝跡 (第 138 図、図版 39-1 ~ 2)

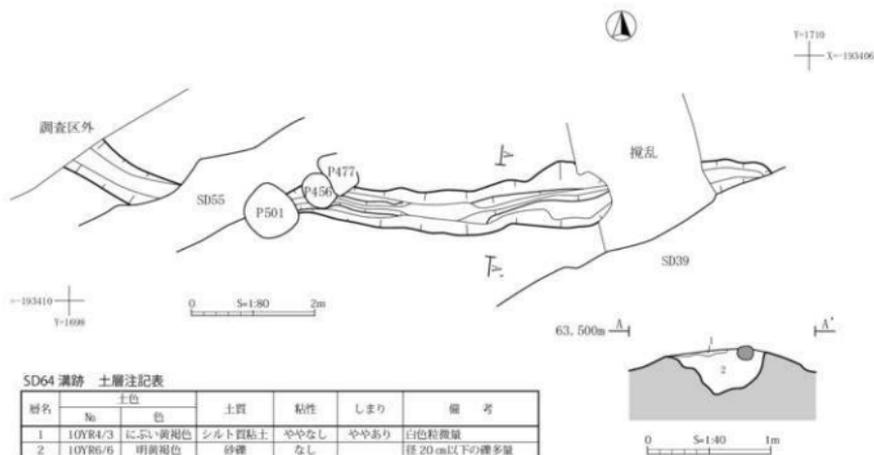
S1-W60 グリッドに位置する。東西方向に湾曲しながら走る素掘りの溝である。SD55 と攪乱によって寸断され、東端は SD39 に切られて途切れる。西側は調査区外に延びる。

確認された規模は長さ 11.4m、幅 55 ~ 75cm、深さ 36cm を測る。

主軸方向は N-88°-W を示す。断面形はいびつな開いた U 字形を呈する。

堆積土は 2 層からなり、1 層はシルト質粘土の埋め戻し土と思われる。2 層は砂礫層で、流入土と考えられる。いずれも水流の痕跡は認められない。

遺物は出土していない。



第 138 図 SD64 溝跡 平面図・断面図

## 12) SD65 溝跡 (第 139 ~ 140 図、図版 39-3)

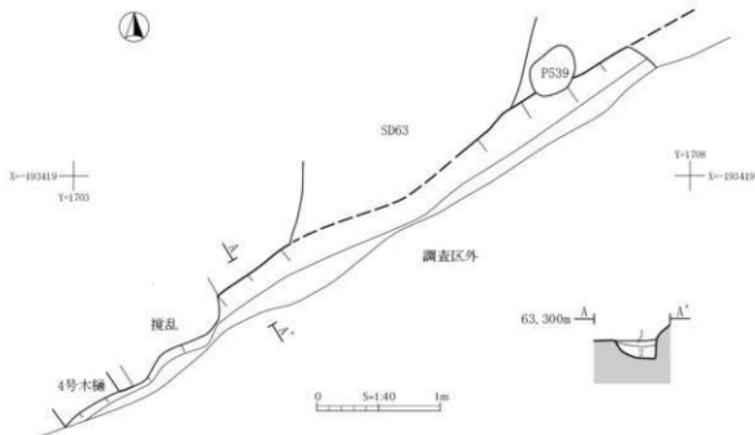
S2-W60・S3-W60 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。東側はプランを検出することができなかったが、その後の調査区南壁の土層観察で、東側にさらに延びていたことを確認した。また当該遺構よりも古い SD63 を先に掘り下げてしまったことから上端を壊してしまい、それらの部分については破線で表記している。南側の下端から上端にかけては調査区外に広がるものと思われ、西端で 4 号木樋に、東端で P539 に切られる。

確認された規模は長さ 8.5m、幅 42cm、深さ 56cm を測る。

主軸方向は N-58°-E を、断面形は開いた U 字形を呈するものと思われる。

堆積土は 2 層からなり、1 層は砂質シルトの埋め戻し土、2 層は粘土質シルトで、溝底面に堆積した沈殿物層と考えられる。

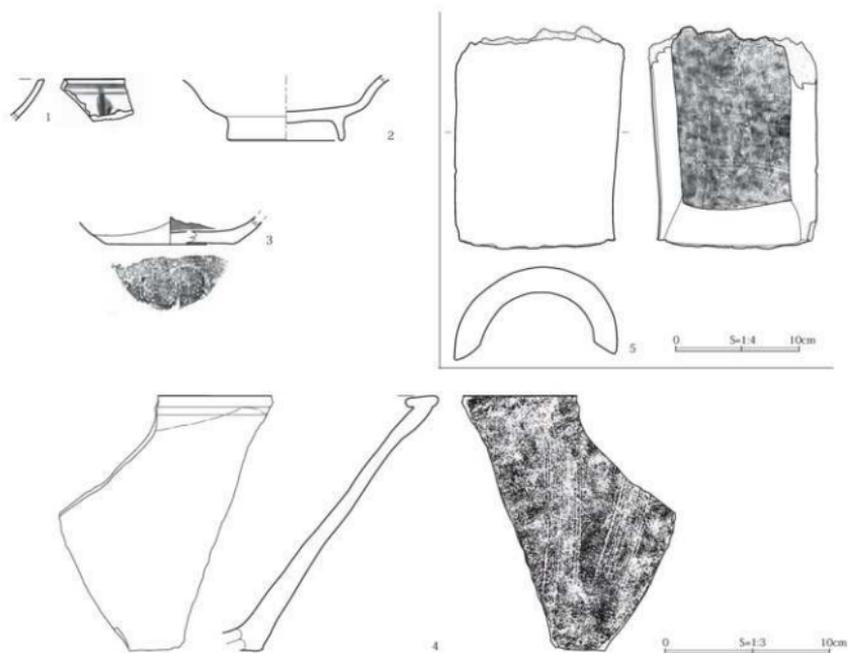
遺物は 16 世紀末 ~ 17 世紀前半の陶磁器、土師土器、瓦が下層を中心に出土している。



SD65 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	25YR4/1	黄灰色	砂質シルト	あり	ややあり	砂粒多量
2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	砂粒多量

第139図 SD65 溝跡 平面図・断面図



SD65 溝跡 出土遺物観察表(陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
140-1	110-2	S2・3-W60 SD65 2層	磁器	碗?	口縁~体部	緻密	染付	—	—	(2.6)	肥前	17世紀前半		J-22
140-2	110-3	S2・3-W60 SD65 2層	陶器	皿	体部~底部	やや粗	長石釉	—	(6.8)	(4.0)	志野	16世紀末~ 17世紀初	高い高台 口径外反	I-41
140-3	110-4	S2・3-W60 SD65 1層	土師質 土器	皿	体部~底部	密	—	—	8.2	(1.8)	在地	近世	煤付着	I-216
140-4	110-5	S2・3-W60 SD65 2層	陶器	摺鉢	口縁~底部	密	—	—	—	(15.75)	岸裏系	17世紀		I-40

SD65 溝跡 出土遺物観察表(瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
140-5	110-6	S2・3-W60 SD65 2層	丸瓦	(16.0)	12.8	2.0		F-4

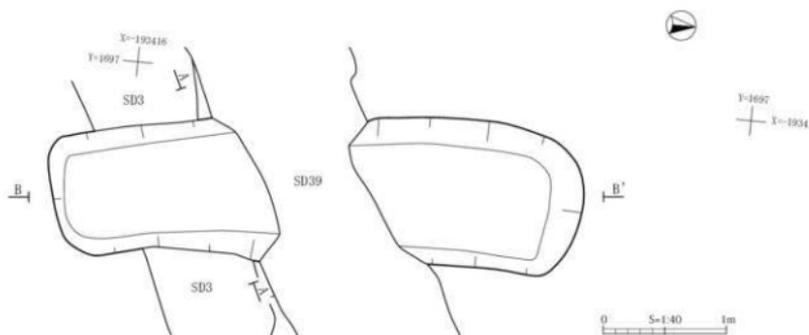
第140図 SD65 溝跡 出土遺物

## 13) SD66 溝跡 (第141~142図、図版39-4~6)

S2-W61グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。中央をSD39に、南側をSD3によって切られる。確認された規模は長さ4.3m、幅1~1.2m、深さ32cmを測る。主軸方向はN-3.5°-Wを示す。底面はほぼ平坦で、断面形は開いたU字形を呈する。底面には10~30cmの川原石が散在している。

堆積土は10層からなり、1~4層は埋め戻し土、5層以下は砂と粘土が互層状に堆積しており、水成堆積土と考えられる。

遺物は出土していない。



第141図 SD66 溝跡 平面図

### 第3節 Ⅲ区

64.000m A

A'



64.000m B

B'



0 5=1.40 1m

SD66 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	白色粒子やや少量、径1cmのシルトストーン微量
2	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3cmの礫微量
3	2.5Y6/2	灰黄色	シルト質砂	なし	あり	粗砂主体、酸化鉄やや少量
4	2.5Y2/1	黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5cmの礫微量、径5mmのシルトストーン少量、酸化鉄やや少量
5	10YR3/1	黒褐色	シルト質砂	なし	ややあり	炭化物を微量
6	10YR4/1	褐色	砂質シルト	ややあり	なし	白色粒子を微量、径5mmのシルトストーン少量
7	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径1cmのシルトストーンを少量、粗砂多量、酸化鉄やや少量
8	10YR2/2	黒褐色	シルト質砂	なし	ややあり	径1cmの白色粒子と炭化物少量
9	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質粘土	あり	ややあり	径5mmのシルトストーン微量、粗砂を少量
10	5Y4/1	灰色	粗砂	なし	ややあり	径5mmのシルトストーン少量

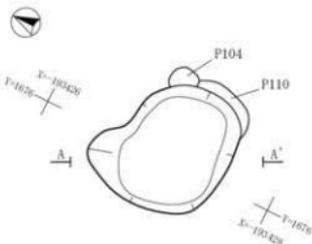
第142図 SD66 溝跡 断面図

### (3) 土坑

#### 1) SK12 土坑 (第143図、図版39-7~8)

S3-W63 グリッドに位置する。西側をP104、P110に切られる。確認された規模は長軸1.1m、短軸88cm、深さ12cmを測る。平面形は北西側が張り出す不整形円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は3層からなる。

遺物は出土していない。



SK12 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	なし	なし	酸化鉄少量
2	10YR1.7/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	有機物の埋積
3	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5mm以下の礫少量、酸化鉄多量



第143図 SK12 土坑 平面図・断面図

## 2) SK13土坑 (第144図、図版40-1~2)

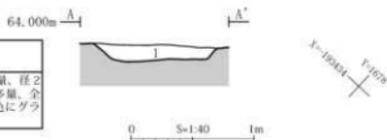
S4-W63グリッドに位置する。北西側でP114を切る。

確認された規模は長軸1m、短軸80cm、深さ1.4mを測る。平面形は不整楕円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は砂質シルトの単層で、グライ化が認められる。

遺物は出土していない。

SK13土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	灰黄褐色中粒砂を多量、径2mm以下の礫・酸化鉄多量、全体的に暗オリーブ灰色にグライ化



第144図 SK13土坑 平面図・断面図

## 3) SK14土坑 (第145~146図、図版40-3~4)

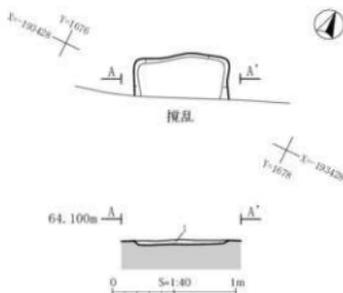
S3-W63グリッドに位置する。南側は攪乱によって壊される。

確認された規模は南北の残存長36cm、東西76cm、深さ4cmを測る。平面形は方形が推定され、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は黒褐色シルトの単層である。

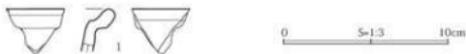
遺物は17世紀前半の美濃産鉄軸鉢片が1点出土している。

SK14土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	径5mm以下の明黄褐色砂質シルト粒・黄褐色細粒砂微量



第145図 SK14土坑 平面図・断面図



SK14土坑 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								I径	底径	器高				
146-1	110-15	S3-W63 SK14 1層	陶器	鉢	口縁	やや粗	鉄軸	-	-	(2.8)	美濃	17世紀前半		1-45

第146図 SK14土坑 出土遺物

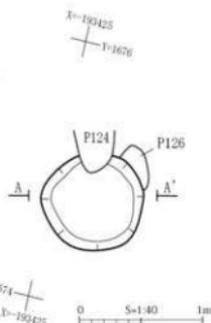
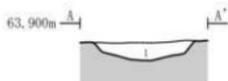
4) SK18 土坑 (第 147 図、図版 40-5～6)

S3-W63 グリッドに位置する。P126 を切り、東側を P124 によって壊される。確認された規模は長軸 82cm、短軸 76cm、深さ 14cm を測る。平面形は不整形円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は黒褐色シルトの単層で、グライ化が認められる。

遺物は出土していない。

SK18 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	あり	灰黄褐色砂質シルト少量、径 1 cm 以下の明黄褐色砂質シルト粒少量。暗オリーブ灰色にグライ化

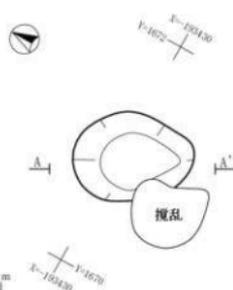


第 147 図 SK18 土坑 平面図・断面図

5) SK20 土坑 (第 148 図、図版 40-7～8)

S3-W63・S4-W63 グリッドに位置する。南西側を擾乱によって壊される。確認された規模は長軸 1m、短軸 72cm、深さ 16cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は 3 層の砂質シルト層からなる。

遺物は出土していない。



SK20 土坑 土層注記表

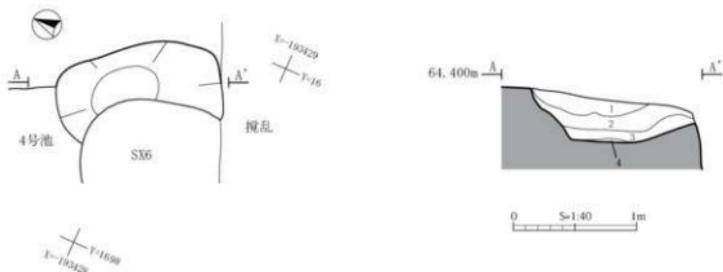
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/2	灰黄色	砂質シルト	あり	あり	黒褐色砂質シルト・酸化鉄多量
2	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	あり	にぶい黄褐色砂質シルト・酸化鉄少量

第 148 図 SK20 土坑 平面図・断面図

6) SK26 土坑 (第 149 図、図版 41-1～2)

S3-W64 グリッドに位置する。西側を 4 号池と SX6 に切れ、南側を擾乱によって壊される。確認された規模は長軸 1.3m、短軸 66cm、深さ 40cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は楕鉢状を呈する。堆積土は 4 層からなる。1～3 層は砂質シルト、4 層は砂で、底面に敷き詰めているものと思われる。

遺物は出土していない。



SK26 土坑 土層注記表

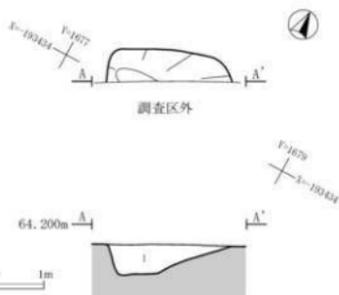
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	5Y6/3 オリーブ黄色粘土粒微量, 5Y3/1 オリーブ黒色土粒少量, 酸化鉄多量
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	5Y6/3 オリーブ黄色粘土粒微量, 酸化鉄多量
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄多量
4	2.5Y5/3	黄褐色	砂	なし	なし	砂

第 149 図 SK26 土坑 平面図・断面図

## 7) SK42 土坑 (第 150 図、図版 41-3)

S4-W63 グリッドに位置する。南側は調査区外に広がる。確認された規模は長軸 1m、残存する短軸 26cm、深さ 26cm を測る。平面形は隅丸方形が推定され、断面形は東壁が緩やかに立ち上がる開いた U 字形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK42 土坑 土層注記表

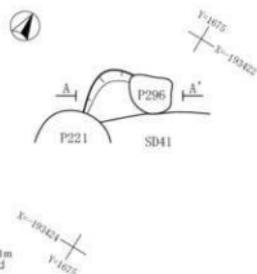
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	あり	灰黄褐色砂質シルト少量

第 150 図 SK42 土坑 平面図・断面図

## 8) SK49 土坑 (第 151 図、図版 41-4 ~ 5)

S3-W63 グリッドに位置する。南側を SD41 と P221 に、東側を P296 によって切られる。確認された規模は、残存する長軸 48cm、短軸 44cm、深さ 8cm を測る。平面形は不明、断面形は皿状を呈するものと思われる。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK49 土坑 土層注記表

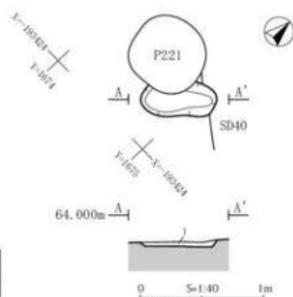
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量

第 151 図 SK49 土坑 平面図・断面図

## 9) SK50 土坑 (第 152 図、図版 41-6 ~ 7)

S3-W63 グリッドに位置する。北側を SD40 に、西側を P221 によって切られる。確認された規模は残存する長軸 62cm、短軸 28cm、深さ 5cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は皿状を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK50 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄少量

第 152 図 SK50 土坑 平面図・断面図

## 10) SK56 土坑 (第 153 図、図版 41-8・42-1)

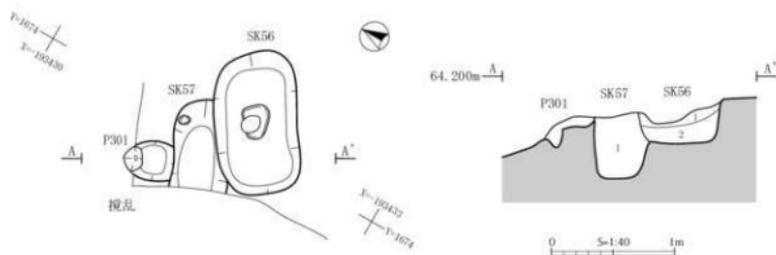
S4-W63 グリッドに位置する。底面に 28cm の礎板石を置き、その上に径約 16cm の柱痕が載る。南西側で SK57 を切る。確認された規模は長軸 1.2m、短軸 68cm、深さ 36cm を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、底面は平坦で、断面形は U 字形を呈する。当該遺構の南にある木柱を有する P114・P271 と柱列を組む可能性もある。堆積土は 2 層のシルト層からなる。

遺物は出土していない。

## 11) SK57 土坑 (第 153 図、図版 41-8・42-1)

S4-W63 グリッドに位置する。P301 を切り、南東側を 56 号土坑に、西側を擾乱によって壊される。確認された規模は残存する長軸 95cm、短軸 46cm、深さ 52cm を測る。平面形は隅丸長方形が推定され、断面形は U 字形を呈する。柱を置いた痕跡はなかったが、形状から柱穴の可能性も考えられる。堆積土はシルトの単層からなる。

遺物は出土していない。



SK56 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR5/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径 15 cm以下の礫少量、径 3 cm以下の灰白色土粒少量
2	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	あり	径 5 cm以下の褐灰色シルト微量、酸化鉄少量 一部明緑灰色にグライ化

SK57 土坑 土層注記表

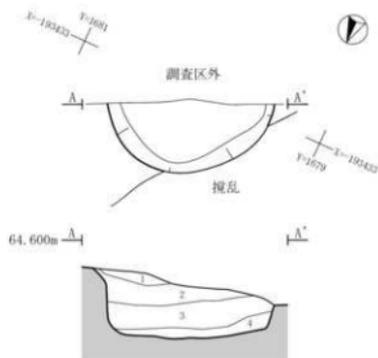
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	7.5YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径 5 cm以下の褐灰色シルト少量、酸化鉄微量

第 153 図 SK56・57 土坑 平面図・断面図

## 12) SK58 土坑 (第 154 図、図版 42-2)

S4-W62・S4-W63 グリッドに位置する。北西側は攪乱によって壊され、南側は調査区外へ広がる。確認された規模は長軸 1.3m、残存する短軸 60cm、深さ 18cm を測る。平面形は円形もしくは楕円形が推定され、断面形は U 字形を呈するものと思われる。堆積土は 4 層からなり、1～2 層は砂質シルト、3～4 層はシルト層である。3 層は有機物を含んでいる。

遺物は出土していない。



SK58 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黒色砂質シルト少量 灰黄色砂質シルトを混在に多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 5 cmの礫微量、酸化鉄多量
3	2.5Y2/1	黒色	シルト	ややあり	なし	有機物を含んだ土
4	10YR5/3	灰黄褐色	シルト	あり	ややあり	酸化鉄少量、径 1 cm以下の明黄褐色シルトストーン微量

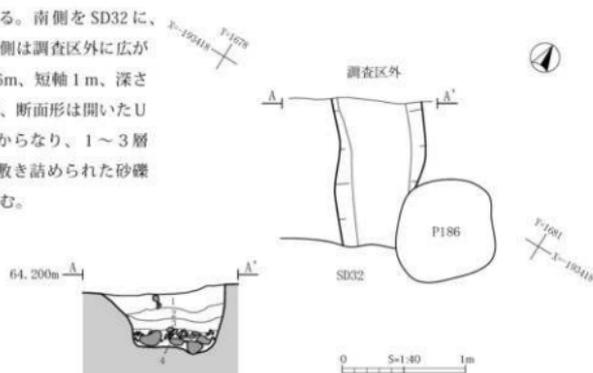
第 154 図 SK58 土坑 平面図・断面図

第3節 Ⅲ区

13) SK60 土坑 (第 155 図、図版 42-3)

S2-W63 グリッドに位置する。南側を SD32 に、南東側を P186 に切られる。北側は調査区外に広がる。確認された規模は長軸 1.6m、短軸 1m、深さ 54cm を測る。平面形は溝状で、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は 4 層からなり、1～3 層は砂質シルト、4 層は底面に敷き詰められた砂礫層で、5～18cm の礫を多量含む。

遺物は出土していない。



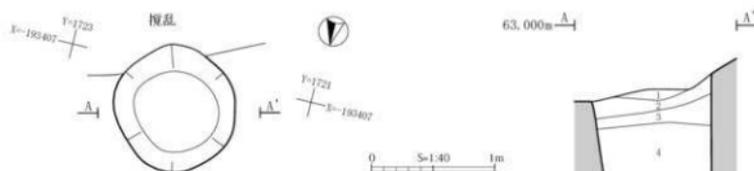
SK60 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	7.5Y6/1	灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径 5 cm 以下の礫微量、酸化鉄少量
2	10B5/1	青灰色	砂質シルト	なし	なし	
3	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄多量
4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂礫層			径 15 cm 以下の礫やや多量、径 5 cm 以下の礫多量

第 155 図 SK60 土坑 平面図・断面図

14) SK62 土坑 (第 156～157 図、図版 42-4～5)

S1-W58 グリッドに位置する。南側の上部を擾乱によって壊される。確認された規模は径 1m、深さ 1.4m を測る。平面形は円形を、断面形は筒状を呈する。堆積土は 6 層からなり、1～4 層は砂質シルトおよびシルト層で、5～6 層は粘土層である。4 層からは木製品が、5 層からは多量の有機物が出土した。

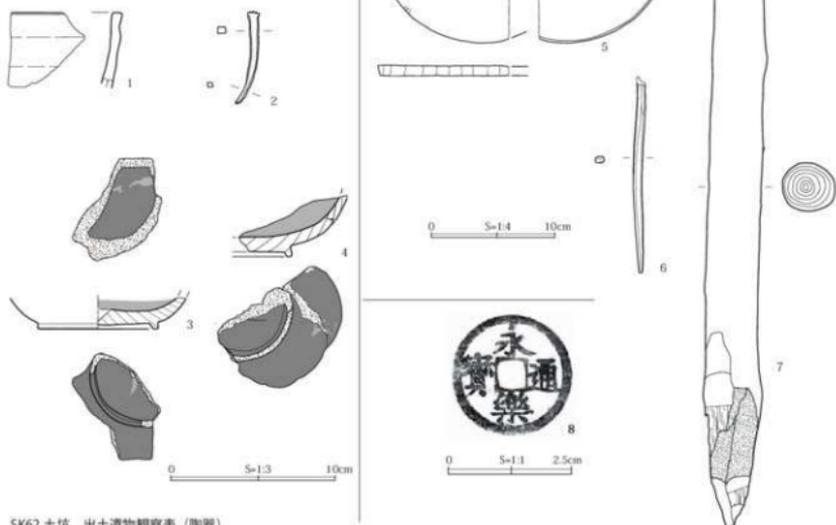


SK62 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	なし	径 5 mm 以下の灰白色土粒少量
2	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	なし	ややあり	径 1 mm 以下のシルトストーン少量
3	2.5Y5/2	暗灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒樹皮を含む
4	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	あり	あり	木製品・加工木を含む
5	0YR4/1	褐色	粘土	あり	なし	径 5 cm 以下の明緑灰色粘土少量 植物残滓多量
6	5G7/1	暗緑灰色	粘土	あり	なし	径 3 cm 以下の暗灰色粘土少量

第 156 図 SK62 土坑 平面図・断面図

遺物は4層から志野産陶器、金属製品、古銭、木製品が出土している。木製品は漆器、曲物、箸、杭がみられる。古銭は永楽通宝が1点出土している。



SK62土坑 出土遺物観察表(陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
157-1	110-7	S1-W58 SK62 4層	陶器	鉢	口縁~体部	黒	長石軸	—	—	(4.6)	志野	17世紀		I-48

SK62土坑 出土遺物観察表(金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
157-2	110-8	S1-W58 SK62 埋土一坊	釘	完形	5.7	0.7	0.4	4.6		N-2

SK62土坑 出土遺物観察表(漆器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				口径	底径	器高		
157-3	110-9	S1-W58 SK62 4層	漆器椀	—	—	(3.0)	黒地赤漆文様あり	L-25
157-4	110-10	S1-W58 SK62 4層	漆器椀	—	—	(4.1)	黒地赤漆文様あり	L-24

SK62土坑 出土遺物観察表(木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
157-5	110-11	S1-W58 SK62 4層	曲物	16.8	(10.6)	0.8	加工不明瞭	L-23
157-6	110-12	S1-W58 SK62 4層	箸	(16.0)	0.6	0.6		L-21
157-7	110-14	S1-W58 SK62 4層	杭	56.4	4.0	4.0	先端部削製加工	L-22

SK62土坑 出土遺物観察表(古銭)

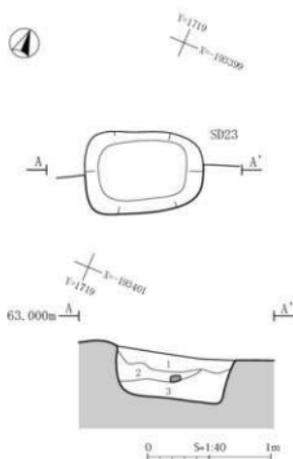
図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
157-8	110-13	S1-W58 SK62	永楽通宝	1408年	2.5	0.6	3.05		N-19

第157図 SK62土坑 出土遺物

## 15) SK64 土坑 (第 158～159 図、図版 42-6)

N1-W59・S1-W59 グリッドに位置する。北側で SD23 に切られる。確認された規模は長軸 96cm、短軸 68cm、深さ 38cm を測る。平面形は隅丸方形を、断面形は幅の広い U 字形を呈する。形状と位置関係から SA17 の作り替えの柱穴になる可能性も考えられる。堆積土は 3 層からなる。

遺物は 16 世紀末～17 世紀初頭の志野産丸皿が 3 層から出土している。



SK64 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	輪	色				
1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	なし	径 1mm 以下の灰い黄褐色土粒少量
2	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	なし	
3	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 3cm 以下の灰色粘土少量

第 158 図 SK64 土坑 平面図・断面図



SK64 土坑 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・初位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
159-1	110-16	N1・S1-W58・ 59 SK64 3層	陶器	皿	口縁～体部	粗	長石釉	(11)	(6.4)	2.3	志野	16 世紀末～17 世紀初頭		1-20

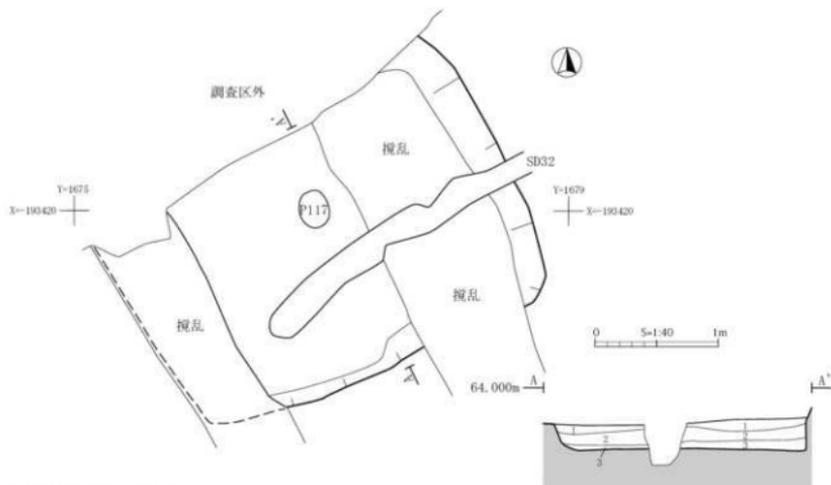
第 159 図 SK64 土坑 出土遺物

## (4) その他の遺構

## 1) SX10 性格不明遺構 (第160～161図、図版42-7～8)

S2-W63・S3-W63グリッドに位置する。南北に走る2本の攪乱により壊され、東西方向に走るSD32によって中央西側の底面から東側上端までを切られる。西側の上端は調査区北壁で確認できた西壁と、残存する南壁の上端ラインから推定し、破線で表記した。確認された規模は南北2.3m、東西約3.2m、深さ39cmを測る。平面形は隅丸方形が想定され、断面形は皿状を呈するものと思われる。底面はほぼ平坦だが中央北側が緩やかにくぼんでいる。堆積土は3層のシルト質粘土からなる。

遺物は17世紀中頃の美濃産御深井釉菊皿が出土している。



SX10 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト質粘土	ややなし	ややなし	径1m以下の小砂礫少量、酸化鉄やや多量
2	7.5YR3/2	オリーブ黒色	シルト質粘土	ややなし	なし	植物遺体やや多量 松葉、広葉樹葉を含む
3	10YR4/6	褐色	シルト質粘土	ややなし	ややなし	シルトストーンやや多量

第160図 SX10 性格不明遺構 平面図・断面図



SX10 性格不明遺構 出土物観察表 (陶器)

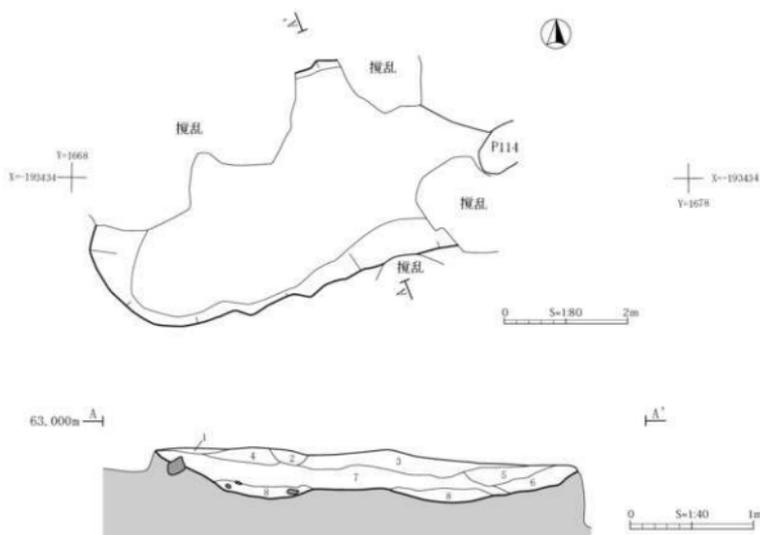
図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
161-1	110-17	S2・3-W63 SX10 埋土一括	陶器	菊皿	口縁~底部	やや粗	御深井輪	(13.2)	(8.4)	(3.15)	美濃	17世紀中頃		I-91

第161図 SX10 性格不明遺構 出土遺物

## 2) SX15 性格不明遺構 (第 162 図、図版 43-1～2)

S4-W63・S4-W64 グリッドに位置する。北側から南東側にかけて攪乱に壊され、東側を P114 によって切られる。確認された規模は長軸 3.4m、短軸 1.9m、深さ 56cm を測る。平面形は不整楕円形を呈するものと思われ、断面形は底面中央がやや盛り上がる皿状を呈する。平面形状や堆積状況から部分的な整地の可能性が高いと考えられる。堆積土は 8 層の砂質シルトからなる。

遺物は出土していない。



SX15 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	地	色				
1	SV3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	なし	あり	径3～5cmの礫多量
2	SV4/2	灰オリーブ色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
3	2SV5/3	黄褐色	砂質シルト	あり	ややあり	粗砂・酸化鉄多量
4	2SV4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量、径1cmの小礫微量
5	2SV3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径3～5mmの炭化物微量、酸化鉄多量
6	2SV3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄多量
7	2SV3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	あり	あり	酸化鉄少量
8	2SV4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	なし	オリーブ褐色砂との混土、径5～8cmの礫微量

第 162 図 SX15 性格不明遺構 平面図・断面図

## 3) SN1 祭祀遺構 (第 163 ~ 173 図、図版 43-3 ~ 8)

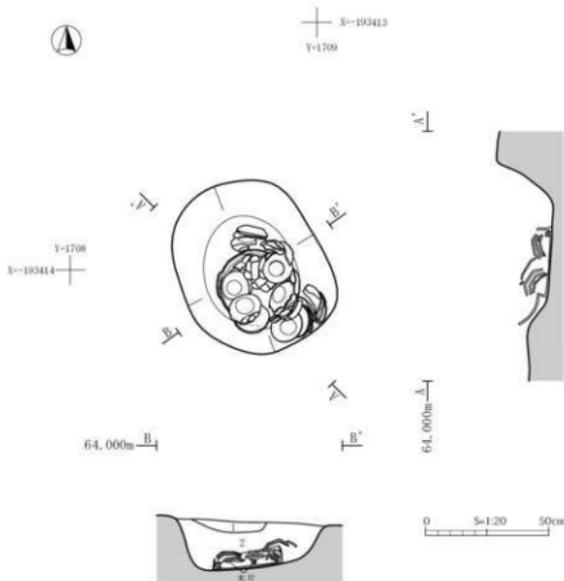
S2-W60 グリッドに位置する。南側の上面は攪乱によって壊される。

ピットの底面に置かれた曲物から古銭 93 点、土師質土器 30 点が出土した。曲物の底板は一枚板で径 31.2cm、厚さ 6mm、側板の最大幅 6cm、厚さ 9mm を測り、とじ紐は残存していない。古銭は中国銭に限られ、曲物の底板直上の隅に置かれていた。土師質土器は底部を上に向け、四つに分けて積んでいるが、曲物から外に出ているものは仰位か立位の状態で出土している。最下面に置いた土師質土器質を外すと、器内に入れていたと思われる木片が確認されたが、それ以外の有機物は残存していなかった。

ピットの規模は長軸 72cm、短軸 59cm、深さ 23cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は開いた U 字形を呈す。堆積土は 2 層のシルト層からなる。

柱痕や礎板石などの柱を立てた痕跡は検出されなかった。

東北大学埋蔵文化財調査研究センターによる仙台城二の丸北方武家屋敷跡 BK4 地点の調査では、地鎮跡が 3 基検出されている。ピットの規模は 30 ~ 50cm と SN1 に比べてやや小さく、底面に 2 枚の土師質土器を合口にして配し、2 基は内部に古銭を埋納している。古銭は永楽通宝に限られ、17 世紀初頭の様相を呈する。埋納方法に差はあるが、土師質土器と中国銭を共伴するピット状の遺構であり、SN1 もこれらと同様の地鎮遺構と考えられる。

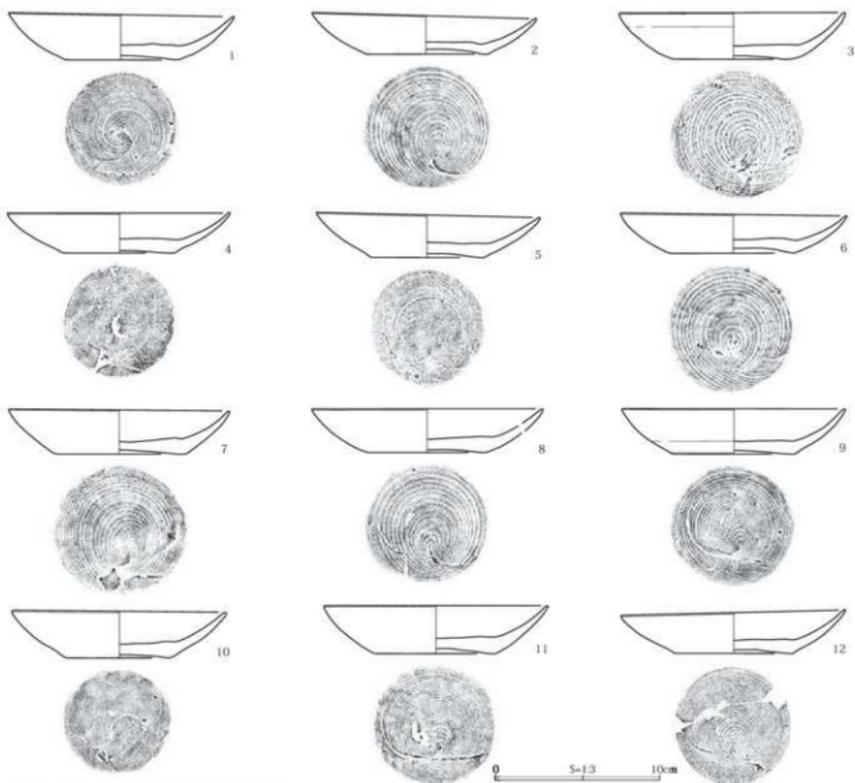


SN1 祭祀遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	層	色				
1	10YR4/1	暗灰色	シルト	なし	なし	径 1 cm 以下の黑色土粒少量
2	5B5/1	緑灰色	シルト	ややあり	なし	径 3 mm 以下の明黄褐色土粒少量

第 163 図 SN1 祭祀遺構 平面図・断面図

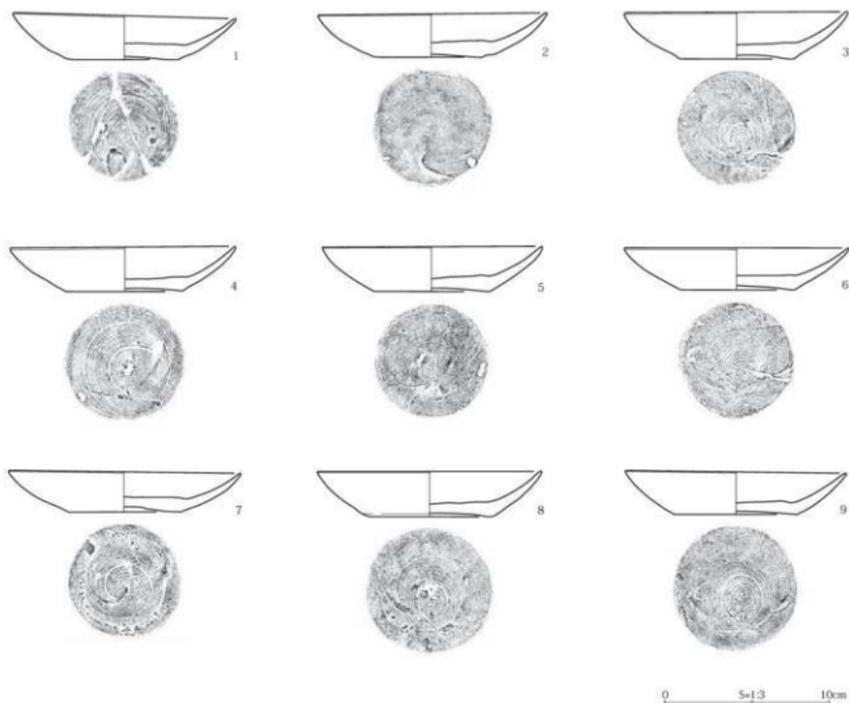
第3節 Ⅲ区



SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (土師質土器)

探版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			所在地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
164-1	111-1	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.1	7.6	3.1	在地	17世紀前半		I-260
164-2	111-2	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	8.1	2.6	在地	17世紀前半		I-255
164-3	111-3	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.2	7.6	3.1	在地	17世紀前半		I-245
164-4	111-4	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	7.6	2.8	在地	17世紀前半		I-258
164-5	111-5	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	7.6	2.9	在地	17世紀前半		I-254
164-6	111-6	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.2	8.3	2.6	在地	17世紀前半		I-244
164-7	111-7	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.9	8.6	3.0	在地	17世紀前半		I-257
164-8	111-8	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.5	7.9	3.0	在地	17世紀前半		I-253
164-9	111-9	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	8.3	3.1	在地	17世紀前半		I-243
164-10	111-10	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.4	7.1	3.1	在地	17世紀前半		I-256
164-11	111-11	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	8.1	3.3	在地	17世紀前半		I-246
164-12	111-12	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	7.9	2.8	在地	17世紀前半		I-242

第164図 SN1 祭祀遺構 出土遺物

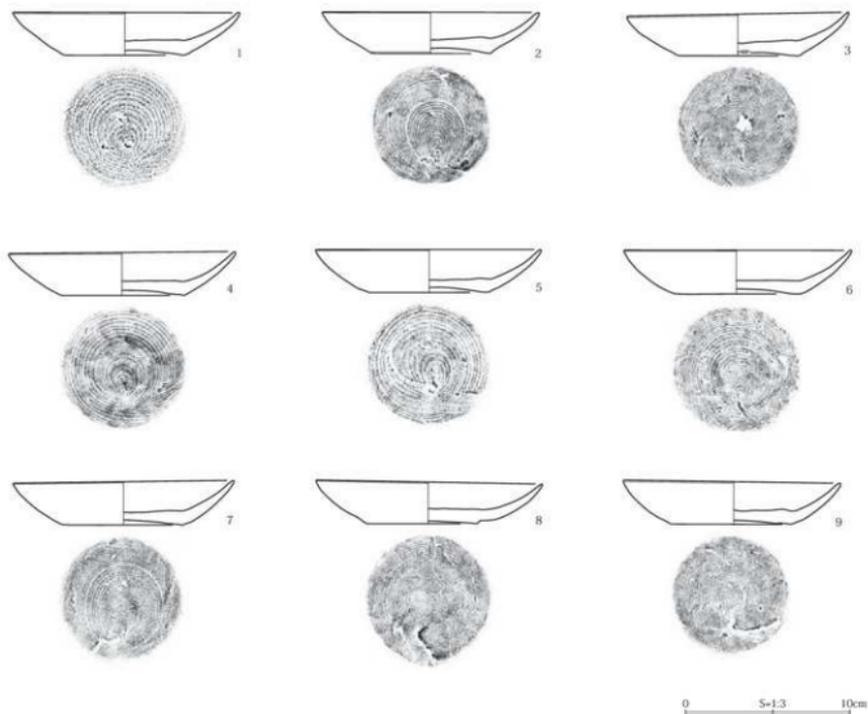


SNI 祭祀遺構 出土遺物観察表 (土師質土器)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			所在地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
165-1	111-13	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.8	7.3	3.0	在地	17世紀前半		I-259
165-2	111-14	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.5	7.3	3.0	在地	17世紀前半		I-240
165-3	111-15	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	7.6	3.3	在地	17世紀前半		I-241
165-4	111-16	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.2	8.0	3.2	在地	17世紀前半		I-239
165-5	111-17	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.9	7.6	3.2	在地	17世紀前半		I-238
165-6	111-18	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.2	7.6	2.8	在地	17世紀前半		I-252
165-7	111-19	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.7	7.6	2.8	在地	17世紀前半		I-237
165-8	111-20	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	8.3	3.1	在地	17世紀前半		I-236
165-9	111-21	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.9	8.3	3.0	在地	17世紀前半		I-251

第165図 SNI 祭祀遺構 出土遺物

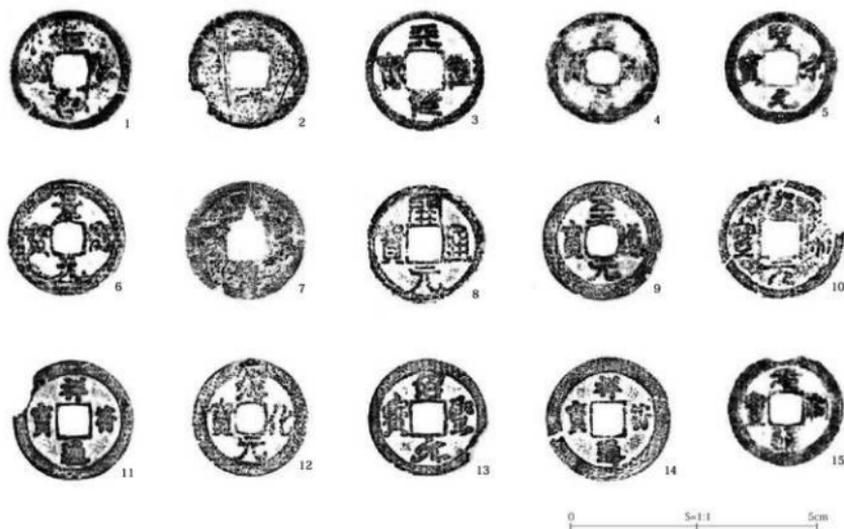
第3節 III区



SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (土師質土器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			所在地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
165-1	111-22	S2-W60	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.2	8.0	3.0	在地	17世紀前半		I-235
		SN1											
165-2	111-23	S2-W60	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.5	8.0	2.8	在地	17世紀前半		I-234
		SN1											
165-3	111-24	S2-W60	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.9	8.0	2.8	在地	17世紀前半		I-250
		SN1											
165-4	111-25	S2-W60	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	8.1	3.0	在地	17世紀前半		I-233
		SN1											
165-5	111-26	S2-W60	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	7.9	3.0	在地	17世紀前半		I-232
		SN1											
165-6	111-27	S2-W60	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.4	8.5	3.0	在地	17世紀前半		I-249
		SN1											
165-7	111-28	S2-W60	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.9	8.0	3.0	在地	17世紀前半		I-231
		SN1											
165-8	111-29	S2-W60	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.1	7.5	2.8	在地	17世紀前半		I-247
		SN1											
165-9	111-30	S2-W60	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.7	7.9	3.0	在地	17世紀前半		I-248
		SN1											

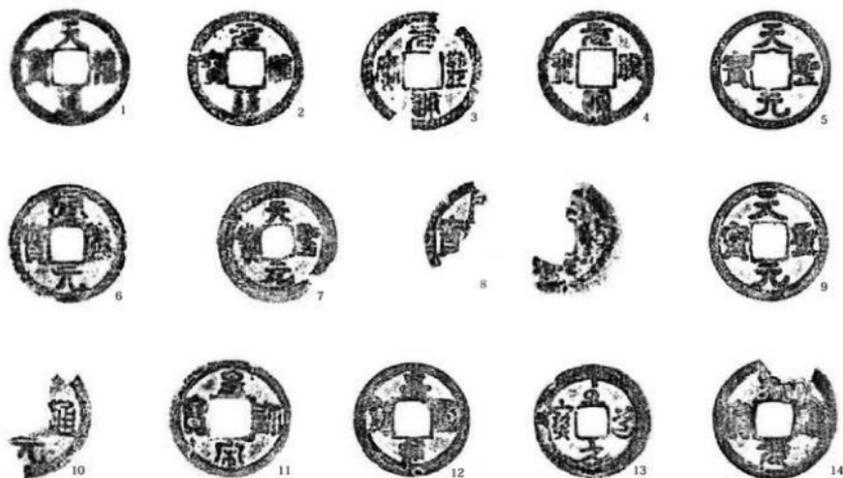
第166図 SN1 祭祀遺構 出土遺物



SN1 祭祀遺構 遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真ID順 番号	グリッド 遺構・層位 SN1	銭貨名	初鋳年	法量 (cm/g)			備 考	登録番号
					外径	穿径	重量		
167-1	111-31	S2-W60 SN1	不明	-	2.5	0.8	(2.35)	一部欠損	N-23
167-2	111-32	S2-W60 SN1	天聖元宝	1023年(北宋)	2.45	0.7	1.9		N-24
167-3	111-33	S2-W60 SN1	聖宋元宝	1101年(北宋)	2.35	0.7	2.46		N-25
167-4	111-34	S2-W60 SN1	不明	-	2.4	0.7	(1.81)	一部欠損	N-26
167-5	111-35	S2-W60 SN1	聖道元宝	995年(北宋)	2.45	0.6	2.07		N-27
167-6	111-36	S2-W60 SN1	祥符元宝	1008年(北宋)	2.5	0.65	(2.87)	一部欠損	N-28
167-7	111-37	S2-W60 SN1	天聖元宝	1023年(北宋)	2.45	0.65	2.89		N-29
167-8	111-38	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.4	0.6	(2.68)	一部欠損	N-30
167-9	111-39	S2-W60 SN1	不明	-	2.4	0.65	2.1	一部欠損	N-31
167-10	111-40	S2-W60 SN1	聖○元宝	-	2.4	0.6	2.84		N-32
167-11	111-41	S2-W60 SN1	開元通宝	621年(唐)	2.4	0.7	2.4		N-33
167-12	111-42	S2-W60 SN1	○元○	-	(2.4)	0.65	(1.71)	3/4残存	N-34
167-13	112-1	S2-W60 SN1	淳化元宝	990年(北宋)	2.4	0.6	2.36		N-35
167-14	112-2	S2-W60 SN1	祥符元宝	1008年(北宋)	2.5	2.65	2.44		N-36
167-15	112-3	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.4	0.6	(2.68)	一部欠損	N-37

第167図 SN1 祭祀遺構 出土遺物

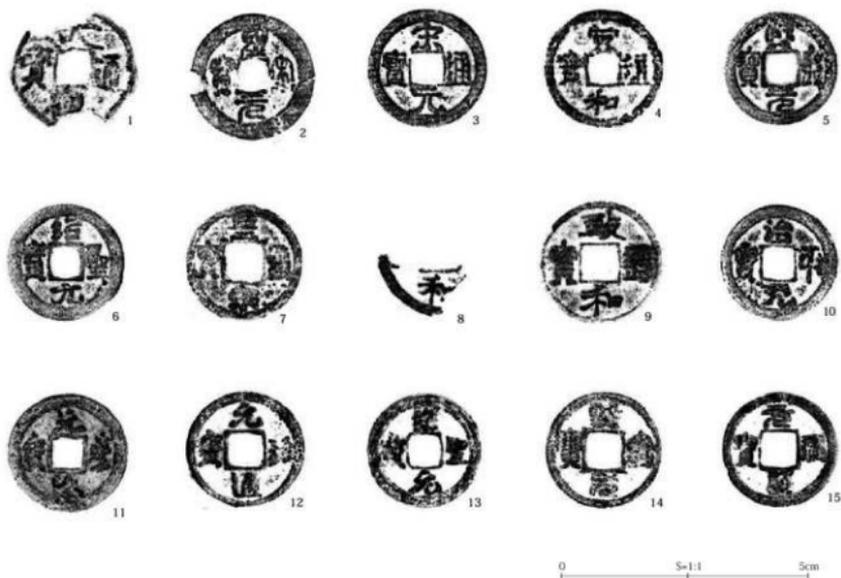


0 5=1.1 5cm

SN1 祭祀遺構 遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版番号	フリット 遺構・層位	銭貨名	初鋳年	法量 (cm <sup>2</sup> g)			備考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
168-1	112-4	S2-W60	天禧通宝	1017年(北宋)	2.5	0.7	2.14		N-38
		SN1							
168-2	112-5	S2-W60	元○通宝	-	2.35	0.7	2.21		N-39
		SN1							
168-3	112-6	S2-W60	元豊通宝	1078年(北宋)	2.4	0.7	2.1	一部欠損	N-40
		SN1							
168-4	112-7	S2-W60	元祐通宝	1086年(北宋)	2.4	0.7	2.71		N-41
		SN1							
168-5	112-8	S2-W60	天聖元宝	1032年(北宋)	2.5	0.7	2.72	一部欠損	N-42
		SN1							
168-6	112-9	S2-W60	開元通宝	621年(唐)	2.35	0.7	4.26		N-43
		SN1							
168-7	112-10	S2-W60	天聖元宝	1023年(北宋)	2.5	0.7	2.71		N-43
		SN1							
168-8	112-11	S2-W60	不明	-	(2.4)	(0.6)	(1.85)	一部欠損	N-44
		SN1							
168-9	112-12	S2-W60	天聖元宝	1032年(北宋)	2.45	0.7	2.63		N-45
		SN1							
168-10	112-13	S2-W60	○通元○	-	-	-	(0.8)	1/3 残存	N-46
		SN1							
168-11	112-14	S2-W60	皇宋通宝	1039年(北宋)	2.45	0.8	1.23		N-47
		SN1							
168-12	112-15	S2-W60	嘉祐通宝?	1056年(北宋)	2.4	0.7	2.27		N-48
		SN1							
168-13	112-16	S2-W60	聖道元宝	995年(北宋)	2.4	0.6	2.23	母書体	N-49
		SN1							
168-14	112-17	S2-W60	不明	-	2.5	0.7	(2.12)	一部欠損	N-50
		SN1							

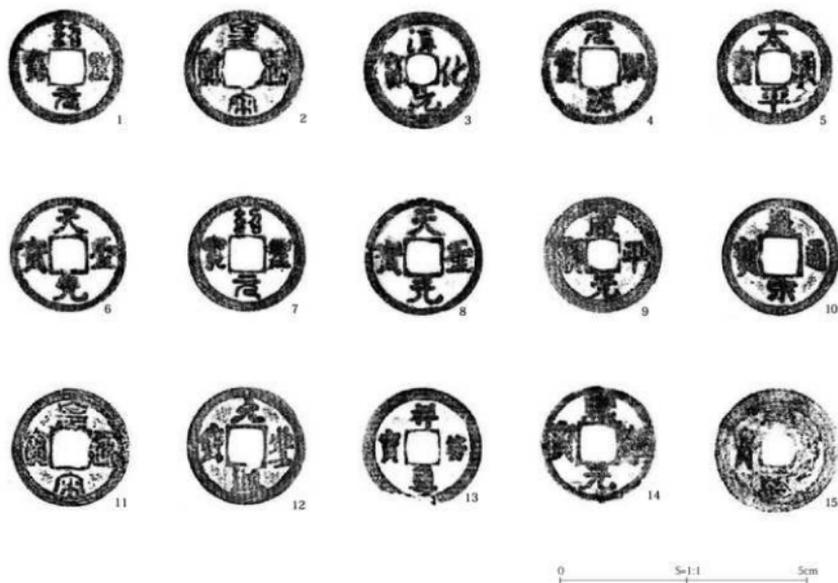
第168図 SN1 祭祀遺構 出土遺物



SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版 番号	タリッド 遺構・層位 SN1	銭貨名	初鋳年	質量 (cm・g)			備 考	登録番号
					外径	厚径	重さ		
169-1	112-18	S2-W60 SN1	不明	—	2.5	0.7	(2.25)	一部欠損	N-51
169-2	112-19	S2-W60 SN1	宋通元宝	960年(北宋)	2.4	0.7	2.69	一部欠損	N-52
169-3	112-20	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.3	0.7	3.16		N-53
169-4	112-21	S2-W60 SN1	皇宋通宝	1039年(北宋)	2.4	0.8	1.72		N-54
169-5	112-22	S2-W60 SN1	政和通宝	1111年(北宋)	2.5	0.7	2.4		N-55
169-6	112-23	S2-W60 SN1	元豊通宝	1078年(北宋)	2.4	0.6	2.98		N-56
169-7	112-24	S2-W60 SN1	紹聖元宝	1094年(北宋)	2.35	0.65	2.56		N-57
169-8	112-25	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.35	0.6	2.55	1/4 残存	N-58
169-9	112-26	S2-W60 SN1	政和通宝	1111年(北宋)	2.5	0.7	2.4		N-59
169-10	112-27	S2-W60 SN1	元豊通宝	1078年(北宋)	2.4	0.6	2.98		N-60
169-11	112-28	S2-W60 SN1	紹聖元宝	1094年(北宋)	2.35	0.65	2.56		N-61
169-12	112-29	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.35	0.6	2.55		N-62
169-13	112-30	S2-W60 SN1	紹聖元宝	1094年(北宋)	2.35	0.65	2.56		N-63
169-14	112-31	S2-W60 SN1	〇〇元宝	—	2.35	0.7	3.18		N-64
169-15	112-32	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.35	0.6	2.55		N-65

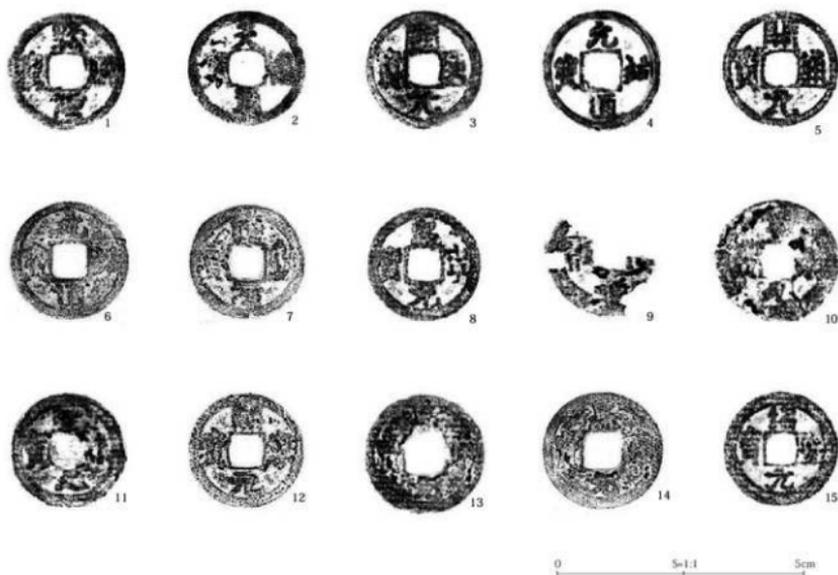
第169図 SN1 祭祀遺構 出土遺物



SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 道幅・層位 SN1	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備 考	登録番号
					外径	穿径	重量		
170-1	112-33	S2-W60 SN1	紹聖元宝	1094年(北宋)	2.35	0.7	3.22		N-66
170-2	112-34	S2-W60 SN1	皇宋通宝	1039年(北宋)	2.4	0.8	2.81		N-67
170-3	112-35	S2-W60 SN1	淳化元宝	990年(北宋)	2.4	0.6	2.53		N-68
170-4	112-36	S2-W60 SN1	不明	-	2.4	0.7	2.33		N-69
170-5	112-37	S2-W60 SN1	太平通宝	976年(北宋)	2.4	0.6	(2.49)	一部欠損	N-70
170-6	112-38	S2-W60 SN1	天聖元宝	1032年(北宋)	2.4	0.7	2.93		N-71
170-7	112-39	S2-W60 SN1	紹聖元宝	1094年(北宋)	2.4	0.7	3.9		N-72
170-8	112-40	S2-W60 SN1	天聖元宝	1032年(北宋)	2.4	0.65	3.04		N-73
170-9	112-41	S2-W60 SN1	咸平元宝	998年(北宋)	2.4	0.65	2.86		N-74
170-10	112-42	S2-W60 SN1	皇宋通宝	1039年(北宋)	2.4	0.7	2.45		N-75
170-11	112-43	S2-W60 SN1	皇宋通宝	1039年(北宋)	2.4	0.7	2.52		N-76
170-12	112-44	S2-W60 SN1	元豐通宝	1078年(北宋)	2.4	0.7	2.32	穿孔直?有り、一部欠損	N-77
170-13	112-45	S2-W60 SN1	祥符通宝	1009年(北宋)	2.45	0.65	(2.88)	一部欠損	N-78
170-14	112-46	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.35	0.7	1.69		N-79
170-15	112-47	S2-W60 SN1	〇〇通宝	-	2.5	0.7	2.41		N-80

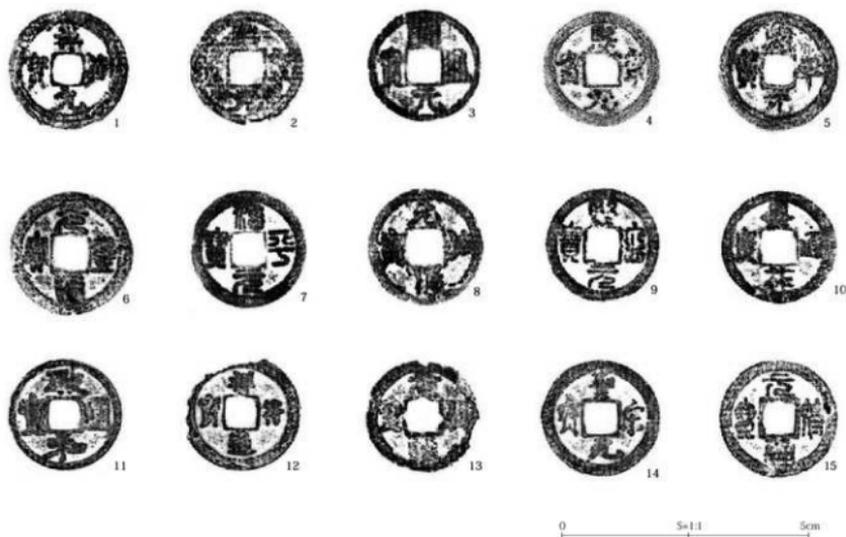
第170図 SN1 祭祀遺構 出土遺物



SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版番号	クワット遺構・層位	銭貨名	初鋳年	法量 (cm <sup>3</sup> g)			備 考	登録番号
					外径	穿径	重量		
171-1	112-48	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.45	0.7	1.99		N-81
171-2	112-49	S2-W60 SN1	天 <sub>一</sub> 通宝	-	2.4	0.7	2.21		N-82
171-3	112-50	S2-W60 SN1	開元通宝	621年(唐)	2.4	0.65	2.25		N-83
171-4	112-51	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.45	0.7	2.34		N-84
171-5	112-52	S2-W60 SN1	開元通宝	621年(唐)	2.4	0.7	2.47		N-85
171-6	112-53	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.4	0.7	1.17		N-86
171-7	112-54	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.35	0.7	2.98		N-87
171-8	112-55	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.35	0.7	3.42		N-88
171-9	112-56	S2-W60 SN1	不明	-	(2.7)	(0.7)	(1.43)	1/2残存	N-89
171-10	112-57	S2-W60 SN1	〇〇元宝	-	2.5	0.7	2.9		N-90
171-11	112-58	S2-W60 SN1	〇〇元宝	-	2.35	0.7	2.84		N-91
171-12	112-59	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.3	0.7	2.88		N-92
171-13	113-1	S2-W60 SN1	熙寧元宝?	1068年(北宋)	2.3	0.7	3.16		N-93
171-14	113-2	S2-W60 SN1	〇〇元宝	-	2.45	0.8	2.42		N-94
171-15	113-3	S2-W60 SN1	〇〇元宝	-	2.35	0.6	3.51		N-95

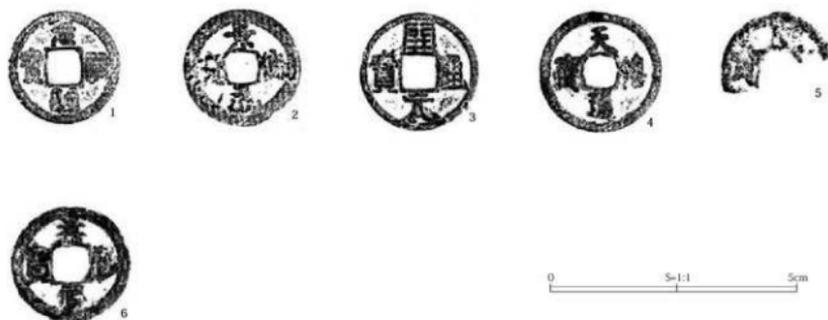
第171図 SN1 祭祀遺構 出土遺物



SNI 祭祀遺構 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備 考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
172-1	113-4	S2-W60 SN1	祥符元宝	1008年(北宋)	2.4	0.6	2.68		N-96
172-2	113-5	S2-W60 SN1	〇〇元〇	—	2.35	0.7	1.76		N-97
172-3	113-6	S2-W60 SN1	開元通宝	621年(唐)	2.3	0.7	1.89		N-98
172-4	113-7	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.35	0.7	3.42		N-99
172-5	113-8	S2-W60 SN1	〇平元宝	—	2.4	0.6	2.86		N-100
172-6	113-9	S2-W60 SN1	元豊通宝	1078年(北宋)	2.5	0.7	2.61		N-101
172-7	113-10	S2-W60 SN1	治平通宝	1064年(北宋)	2.4	0.7	3.06		N-102
172-8	113-11	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.35	0.7	2.34		N-103
172-9	113-12	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.3	0.7	2.59		N-104
172-10	113-13	S2-W60 SN1	不明	—	2.4	0.7	2.01		N-105
172-11	113-14	S2-W60 SN1	政和通宝	1111年(北宋)	2.3	0.6	2.28		N-106
172-12	113-15	S2-W60 SN1	祥符通宝	1009年(北宋)	(2.4)	0.6	(1.58)	一部欠損	N-107
172-13	113-16	S2-W60 SN1	〇〇〇宝	—	2.3	0.7	1.87	一部欠損	N-108
172-14	113-17	S2-W60 SN1	聖宋元宝	1101年(北宋)	2.4	0.7	2.38		N-109
172-15	113-18	S2-W60 SN1	元符通宝	1098年(北宋)	2.4	0.65	2.42		N-110

第172図 SNI 祭祀遺構 出土遺物



SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	銭貨名	初録年	法量 (cm・g)			備 考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
173-1	113-19	S2-W60 SN1	元○通宝	—	2.3	0.7	2.56		N-111
173-2	113-20	S2-W60 SN1	景○元宝	1034年(北宋)	2.4	0.6	3.12	一部欠損	N-112
173-3	113-21	S2-W60 SN1	開元通宝	621年(唐)	2.4	0.7	2.81		N-113
173-4	113-22	S2-W60 SN1	天禧通宝	1017年(北宋)	2.5	0.65	2.73		N-114
173-5	113-23	S2-W60 SN1	不明	—	2.35	(0.7)	1.19	1/2残存	N-115
173-6	113-24	S2-W60 SN1	嘉祐元宝	1056年(北宋)	2.4	0.7	3.17		N-116

第173図 SN1 祭祀遺構 出土遺物

## 2 IV層上面

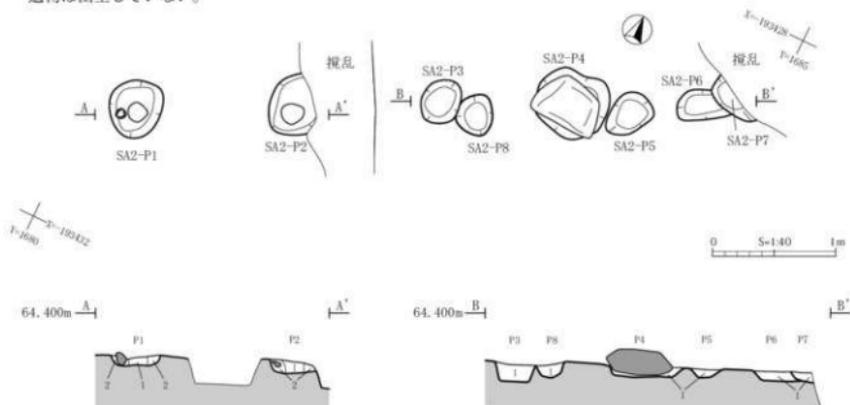
IV層上面で検出された遺構は柱列跡12条、溝跡13条、井戸跡2基、土坑26基、ビット170基、その他の遺構2基、池跡1基、合計224基である。SA23、SA24など、前段階の溝跡を埋め戻した上に再度区画を構築しているものが見られる。

## (1) 柱列跡

## 1) SA2 柱列跡 (第174図、図版44-1～7)

S3-W62・S4-W62グリッドに位置する。東西方向に並ぶ間隔がまばらな3基の柱穴と5基の小穴からなる。西側に続く痕跡は見られないが、覆乱によるものかは不明である。東側には当該遺構の柱筋に乗る柱穴や小穴も見られ、さらに延びる可能性がある。P1からは径16cmの、P2からは径18cmの柱痕が検出され、P4には38×57cmの礎板石が置かれていた。柱穴の痕跡を示すものはこの3基だけであるが、ほぼ直線的に並ぶことから柱列として登録した。P1とP2を除き、2基が隣接するのは部分的に作り替えが行われた可能性が考えられる。掘り方の規模は平面30×32cm～56×60cm、深さ8～16cmを測る。平面形は不整形円形を、断面形はU字形から皿状を呈する。主軸方向はN-63°-Eを示す。柱間寸法はP1・P2と、修理される以前のものと考えられるP8・P5・P6を計測した。西端から1.25m(4尺1寸)・1.50m(5尺)・1.25m(4尺1寸)・0.60m(2尺)を測る。堆積土は1～2層の黒色～灰黄褐色シルトからなり、人為的埋め戻し土である。

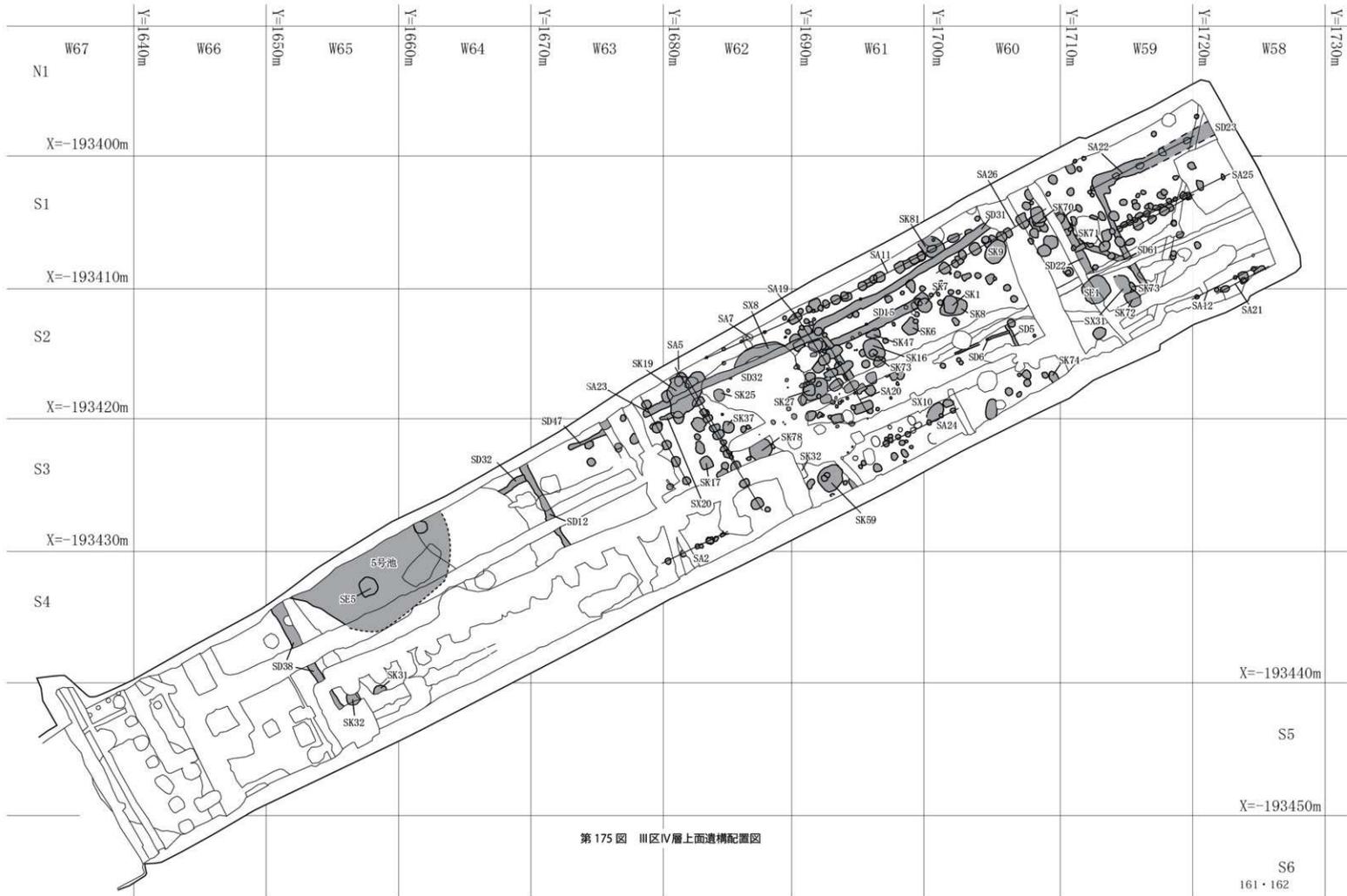
遺物は出土していない。



SA2 柱列跡 土層注記表

ビット番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No	色				
SA2-P1	1	10YR2/1	黒色	腐植土	なし	なし	柱痕
	2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	褐色砂質シルト・酸化鉄微量
SA2-P2	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄多量、径5cm以下の礎多量
SA2-P3	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5cm以下の礎多量、酸化鉄多量
SA2-P4	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5cm以下の礎多量、酸化鉄多量
SA2-P5	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄多量、径8cm以下の礎多量、灰黄褐色砂質シルト少量
SA2-P6	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径1cm程度の礎多量、酸化鉄少量
SA2-P7	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	

第174図 SA2 柱列跡 平面図・断面図



第175図 III区IV層上面遺構配置図

X=-193440m

S5

X=-193450m

S6

## 2) SA5 柱列跡 (第176図、図版45-1～7・46-1～6)

S2-W62・S3-W62グリッドに位置する。切り合い関係から2時期の作り替えが確認された。

SA5a(旧段階)は7基の柱穴からなる。確認された長さは11.3mで、柱間寸法は北端から3.1m(10尺2寸)・1.5m(5尺)・1.8m(6尺)・1.6m(5尺2寸)・1.4m(4尺6寸)・1.6m(5尺2寸)とばらつきがある。

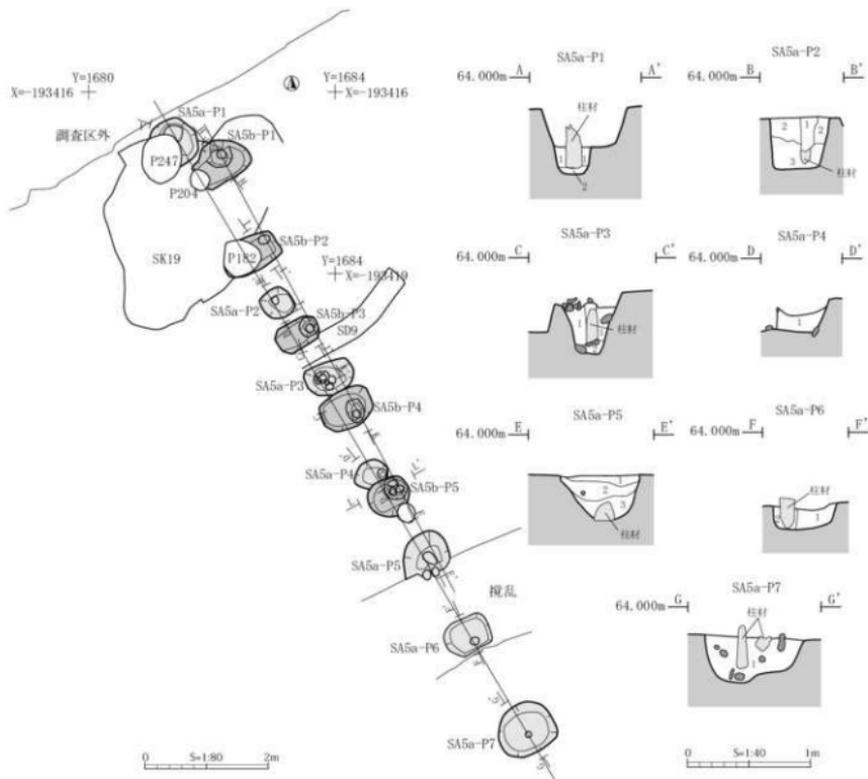
P4以外、すべてから柱材が検出された。

掘り方の規模は径50～80cmの楕円形もしくは長軸80～90cm、短軸50～75cm程度の長楕円形を呈し、深さ40～55cmを測る。断面形は方形～丸底状であり、P1は中段を有する。主軸方向はN-30°-Wを示す。堆積土は1～3層のにぶい黄褐色～灰褐色砂質シルトからなる。

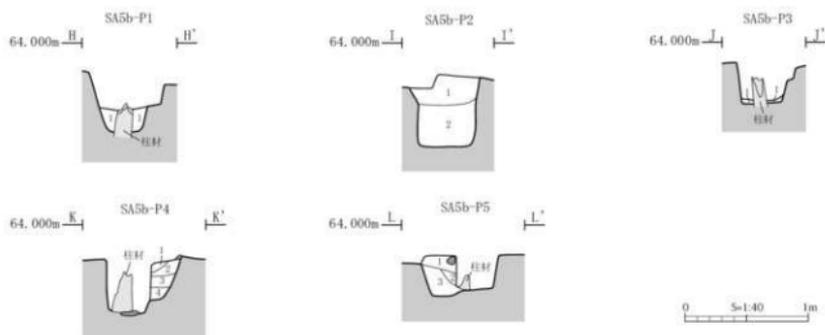
SA5b(新段階)は5基の柱穴からなり、確認された長さは3.12mである。柱間寸法は4間とも約1.6m(5尺3寸)を測る。P2からは柱痕が、P1・P3～P5からは柱材が検出された。

掘り方の規模は、長軸70～80cm、短軸50～60cm、深さ32～55cmを測る。平面形は長方形を呈し、断面形は方形～丸底状である。P1・P2・P3では中段を有する。主軸方向はN-28°-Wを示す。堆積土は1～3層のにぶい黄褐色～灰褐色砂質シルトからなる。

遺物は柱材以外、出土していない。



### 第3節 Ⅲ区



SA5 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No	色				
SA5a-P1	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA5a-P2	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA5a-P3	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA5a-P4	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3～5mmの酸化マンガン粒少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄少量
SA5a-P5	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA5a-P6	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄少量
SA5a-P7	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA5b-P1	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA5b-P2	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA5b-P3	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA5b-P4	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
	3	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA5b-P5	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
	3	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量

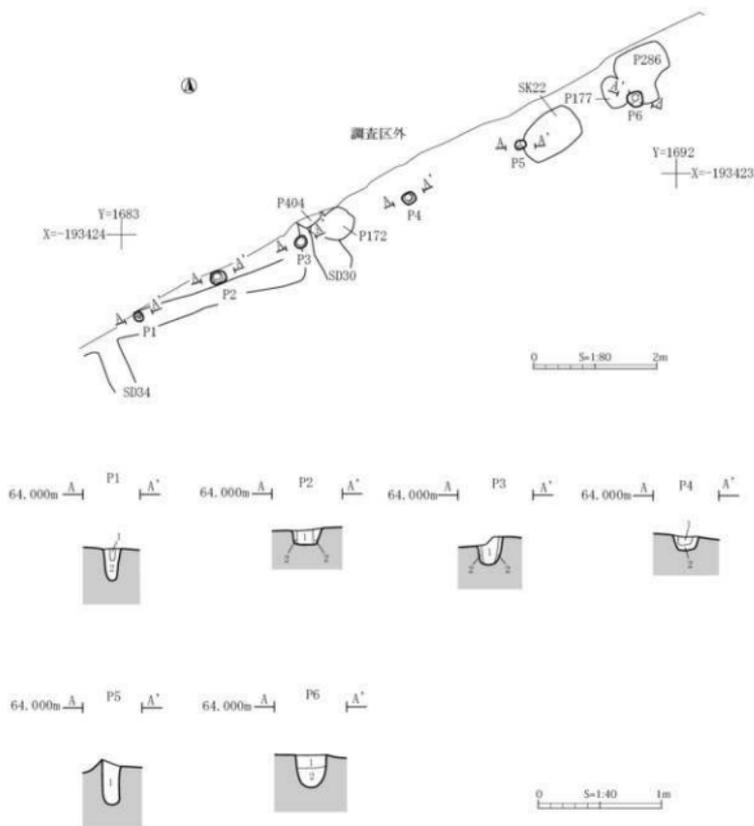
第176図 SA5 柱列跡 断面図

### 3) SA7 柱列跡 (第177図、図版46-7・47-1～6)

S2-W61・S2-W62 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ4基の柱穴と2基の小穴からなる。西側は調査区外へ延びる可能性がある。東側には同規模の柱穴や小穴は見られないが、主軸方向を北に約4度傾けて並ぶ規模の大きなSA11があり、これを同一の遺構と考えるとさらに延びることになる。P1～P4には径5～14cmの柱痕が見られる。

掘り方の規模は長軸18～26cm、短軸14～20cm、深さ11～26cmを測る。平面形は楕円形から不整楕円形を、断面形はU字形を呈する。主軸方向はN-66°Eを示す。確認された長さは8.8mで柱間寸法は西端から1.40m(4尺6寸)・1.48m(4尺9寸)・1.90m(6尺3寸)・2.02m(6尺7寸)・2.00m(6尺6寸)を測る。堆積土は1～3層の黄灰色を主体とする砂質シルト～粘土質シルトからなる。

遺物は出土していない。



SA7 柱列跡 土層注記表

ピット番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No	色				
SA7-P1	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	柱痕 径5mmのシルトストーン微量
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	
SA7-P2	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	柱痕 径5mmのシルトストーン微量
	2	2.5Y6/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	径5mmのシルトストーン少量
SA7-P3	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	柱痕 径5mmのシルトストーン微量
	2	2.5Y6/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	
SA7-P4	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質砂	なし	なし	柱痕 炭化物やや多量
	2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	あり	あり	径5mmのシルトストーン微量
SA7-P5	1	5Y5/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	ややあり	ややなし	径1cm以下の礫微量、炭化物少量
	1	2.5Y7/3	浅黄色	粘土質シルト	ややなし	ややあり	白色粒微量 酸化鉄少量
SA7-P6	1	2.5Y7/3	浅黄色	粘土質シルト	ややなし	ややあり	白色粒微量 酸化鉄少量
	2	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	白色粒微量

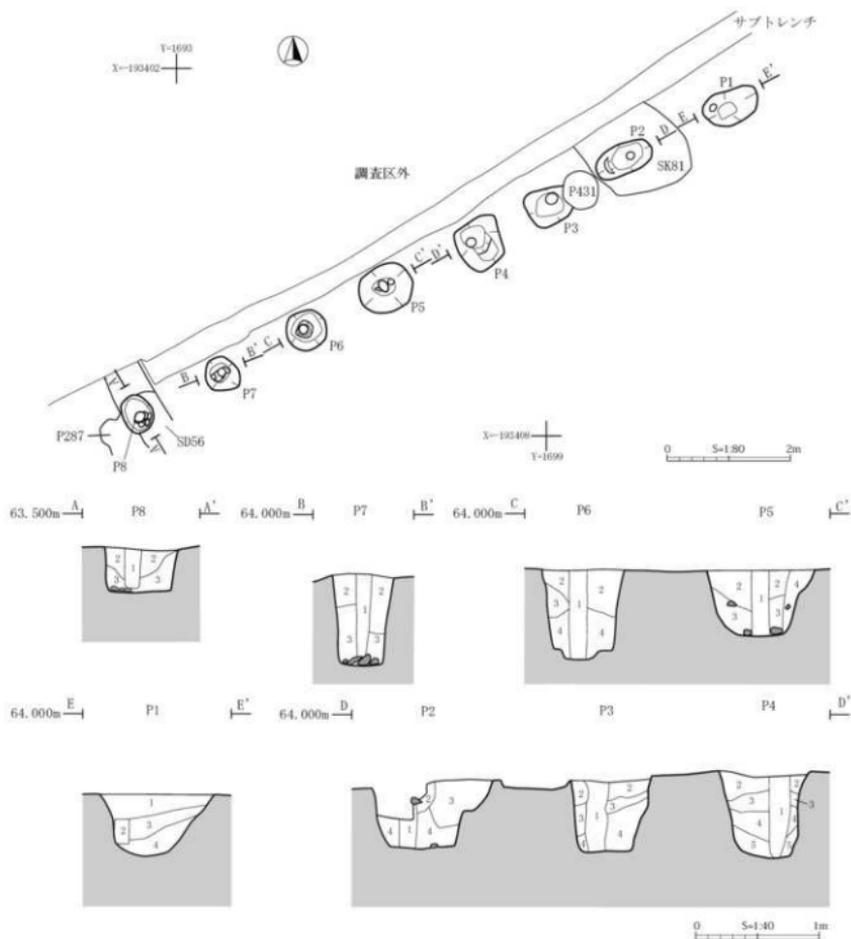
第177図 SA7柱列跡 平面図・断面図

4) SA11 柱列跡 (第 178 図、図版 47-7 ~ 8・48-1 ~ 6)

S1-W60・S1-W61・S2-W61 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ 8 基の柱穴からなる。両方向ともその先に続く同規模の柱穴はないが、西側には主軸方向を南に約 4 度傾けて並ぶ規模の小さい SA7 がある。すべての柱穴に径 12 ~ 22cm の柱痕が見られ、P5・P7・P8 からは根固め石が検出された。

掘り方の規模は長軸 60 ~ 96cm、短軸 48 ~ 74cm、深さ 37 ~ 75cm を測る。平面形は円形から不整形円形を、断面形は U 字形から開いた U 字形を呈する。確認された長さは 10.56m で、柱間寸法は西端から 1.52m (5 尺・1.50m (5 尺)・1.46m (4 尺 8 寸)・1.60m (5 尺 3 寸)・1.48m (4 尺 9 寸)・1.46m (4 尺 8 寸)・1.54m (5 尺 1 寸) を測る。主軸方向は N-62°・E を示す堆積土は黒褐色～褐灰色のシルト質砂～シルト質粘土を主体としている。P1 の 2 層、P2 ~ P8 の 1 層は柱痕で、その他は掘り方埋土である。

遺物は出土していない。



SA11 柱列跡 土層注記

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		色	注				
SA11-P1	1	10YR5/3	黄褐色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	シルトストーンやや多量
	2	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	3	10YR3/1	黒褐色	シルト質砂	なし	ややあり	径 5cm以下の礫微量
SA11-P2	4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	酸化鉄微量、炭化物微量
	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	ややなし	ややあり	シルトストーン微量、白色粒少量、酸化鉄やや多量
	3	10YR3/2	黒褐色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	白色粒少量
SA11-P3	4	10YR5/1	褐灰色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	酸化鉄やや多量、白色粒少量、上部はしまり強い
	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	ややなし	ややあり	シルトストーン微量、白色粒少量、酸化鉄やや多量
	3	10YR3/2	黒褐色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	白色粒少量
SA11-P4	4	10YR5/1	褐灰色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	酸化鉄やや多量、白色粒少量、上部はしまり強い
	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR5/1	褐灰色	シルト質粘土	ややなし	ややなし	酸化鉄やや多量、炭化物微量
	3	10YR3/1	黒褐色	シルト質砂	なし	ややあり	径 5cm以下の礫微量
SA11-P5	4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	酸化鉄微量、炭化物微量
	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	シルトストーン微量
	2	10YR5/1	褐灰色	シルト質粘土	ややなし	ややなし	柱痕
	3	10YR3/1	黒褐色	シルト質砂	なし	ややあり	径 5cm以下の礫微量
	4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	酸化鉄微量、炭化物微量
SA11-P6	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR5/1	褐灰色	シルト質粘土	ややなし	ややなし	酸化鉄やや多量、炭化物微量
	3	10YR3/1	黒褐色	シルト質砂	なし	ややあり	径 5cm以下の礫微量
	4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	酸化鉄微量、炭化物微量
SA11-P7	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質砂	なし	あり	径 5cmの礫微量
	3	5Y4/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	シルトストーン微量
SA11-P8	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質砂	なし	あり	径 5cmの礫微量
	3	5Y4/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	シルトストーン微量

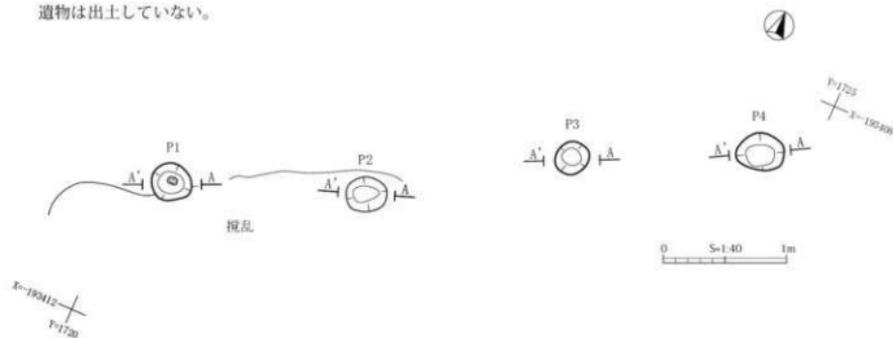
第178図 SA11 柱列跡 平面図・断面図

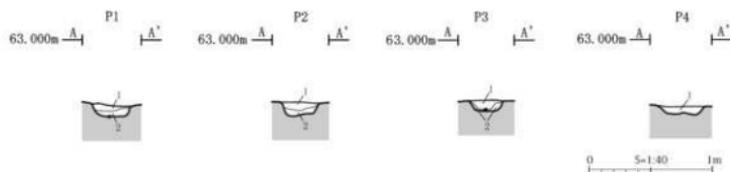
## 5) SA12 柱列跡 (第179図、図版48-7・49-1~4)

S1-W58・S2-W58 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ4基の小穴からなる。柱痕や礎板石などが見られず、柱穴と断定できる根拠は乏しいが、ほぼ直線上に並び、規模が同じで堆積土も類似することから柱列跡として登録した。東側は調査区外へ延びる可能性がある。西側は途切れるが掘乱によるものかは不明である。

掘り方の規模は長軸 31~40cm、短軸 26~28cm、深さ 6~12cm を測る。平面形は円形から楕円形を、断面形は開いたU字形を呈する。主軸方向は N-64°-E を示す。確認された長さは 4.79m で、柱間寸法は西端から 1.59m (5 尺 2 寸)・1.68m (5 尺 5 寸)・1.52m (5 尺) を測る。堆積土はにぶい黄褐色、黒褐色、黄褐色の砂質シルトからなる。

遺物は出土していない。





SA12 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No	色				
SA12-P1	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA12-P2	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA12-P3	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA12-P4	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3～5mmの酸化マンガン粒少量

第179図 SA12 柱列跡 平面図・断面図

## 6) SA19 柱列跡 (第180図、図版49-5～7・50-1～4)

S2-W612グリッドに位置する。南北方向に並ぶ6基の柱穴からなる。それぞれ柱痕や柱材が残存している状況であった。柱間寸法はまばらで規格性がみとめられないが、直線的に並ぶため柱列として登録した。北側は調査区外に延びる可能性があるが、南側では柱筋に並ぶ柱穴は確認できなかった。P2はP191に、P3は南側をSD15に、西側を攪乱に壊される。P4はP187およびSA20-P1に切られる。P5はP462を切り、P6は南側を攪乱によって壊されている。

掘り方の規模は長軸73～109cm、短軸54～81cm、深さ13～60cmを測る。平面形はほぼ長方形を、断面形はU字形～方形を呈する。主軸方向はN-32.6°-Wを示す。

確認された長さは5.87mで、柱間寸法は北端から1.15m(3尺8寸)・1.33m(4尺4寸)・1.52m(5尺7寸)・0.9m(3尺)・1.09m(3尺6寸)を測る。また、P4は柱痕が2基検出され、断面観察から掘り直しと思われる堆積状況が確認されたため、部分的に作り直しが行われたと考えられる。堆積土は1～8層からなる。

遺物は柱材以外、出土していない。

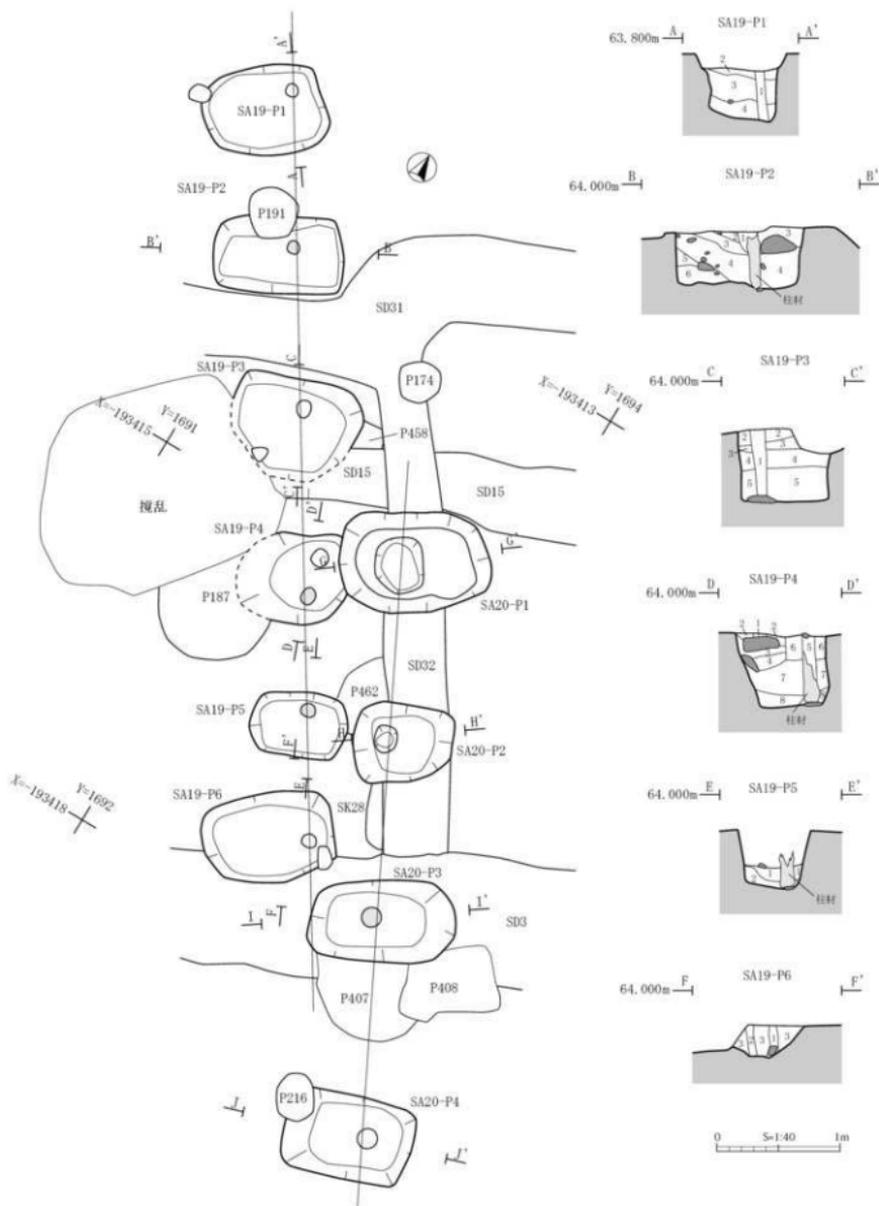
## 7) SA20 柱列跡 (第180図、図版49-5・50-5～8)

S2-W61グリッドに位置する。南北方向に並ぶ4基の柱穴からなる。柱間寸法はまばらだが、直線的に並ぶため柱列として登録した。両方向ともその先に続く柱穴は確認されず、比較的短い棚などと思われる。P1はSD32、SA19-P4を、P2はSD32を切る。P3は上部をSD3に、P4はP216に壊されている。

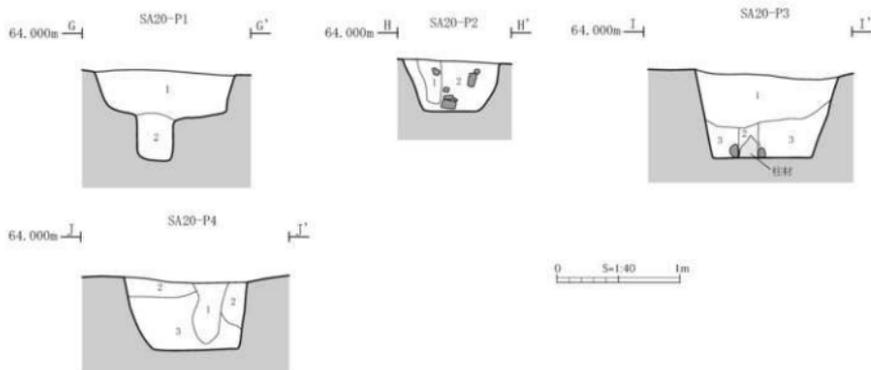
掘り方の規模は長軸81～120cm、短軸58～85cm、深さ38～73cmを測る。平面形はほぼ長方形を、断面形はおおむね逆台形を呈する。主軸方向N-29.4°-Wを示す。

確認された長さは4.7mで、柱間寸法は北端から1.39m(4尺6寸)・1.29m(4尺3寸)・1.8m(6尺)を測る。堆積土は1～3層からなる。

遺物は柱材以外、出土していない。



第3節 Ⅲ区



SA19・20 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		名	色				
SA19-P1	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	径5mmのシルトストーン微量
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	ややなし	径5mmのシルトストーン微量
SA19-P2	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
	4	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	5	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3～5mmの酸化マンガン粒少量
SA19-P3	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	径1cmの礫微量
	2	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄やや多量
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	径5mmのシルトストーン微量
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	ややなし	径5mmのシルトストーン微量
	5	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	あり	径5cmの礫少量、径1cmのシルトストーン微量
SA19-P4	6	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	
	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややなし	あり	径10cmの礫微量、径3cmの礫少量
	3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径5cmの礫微量
	4	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	
	5	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径3cm以下の黒褐色土粒多量 径10cm以下の礫少量
	7	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径5cm以下の礫少量
	8	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径1cm以下のシルトストーンやや少量、径5mm以下の炭化物微量
SA19-P5	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	5Y4/1	灰色	シルト質砂	なし	ややあり	砂多量
SA19-P6	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	ややなし	ややあり	シルトストーン微量、白色粒少量、酸化鉄やや多量
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト質粘土	ややなし	なし	柱痕 酸化鉄微量
SA20-P1	1	10YR3/2	黒褐色	シルト質粘土	ややあり	ややあり	白色粒少量
	2	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
SA20-P2	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/2	灰黄褐色	シルト質砂	なし	あり	粗砂多量
SA20-P3	1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径1cmのシルトストーンやや少量
	2	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	3	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄やや少量
SA20-P4	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR3/1	黒褐色	シルト	なし	あり	径10cmの礫微量、径1cm以下のパミス多量
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄少量、径5mm以下の炭化物微量 根石の掘り方(根石含む)

第180図 SA19・20柱列跡 平面図・断面図

## 8) SA21 柱列跡 (第 181 図、図版 51-1~4)

S1-W58・S2-W58 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ3基の柱穴からなる。西側に続く痕跡は見られないが、攪乱によるものかは不明である。東側は調査区外へ延びる可能性がある。

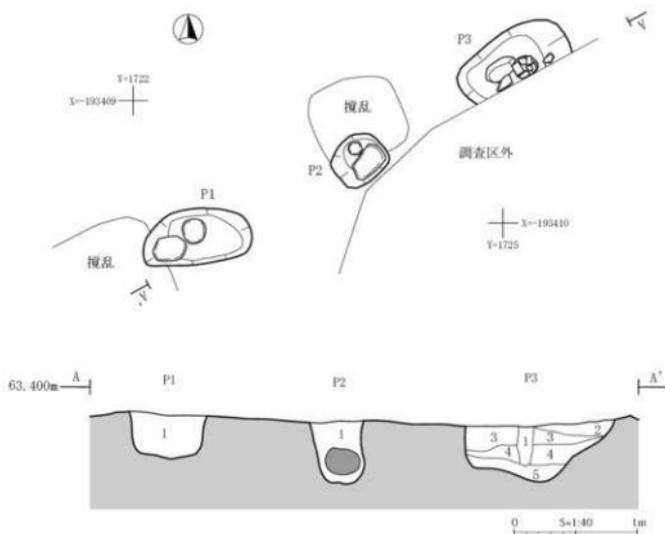
P1 は掘り方の規模が長軸 88cm、短軸 46cm、深さ 36cm を測る。径 20cm、長さ 8cm の丸材と根固めに用いられた 20 × 27cm の川原石が検出された。

P2 は掘り方の規模が長軸 44cm、短軸 39cm、深さ 50cm を測る。幅 11cm、長さ 8cm の7角に面取りした木柱と根固めに用いられた 18 × 28cm の川原石が検出された。

P3 は南側が調査区外へ広がり、確認された掘り方の規模は長軸 85cm、短軸 41cm、深さ 46cm を測る。柱痕の下には高さを調節するために敷かれた瓦片と、16 × 20cm の礎板石が置かれ、P1・P2 と同じように根固めとして用いられた 16 × 28cm の川原石が検出された。主軸方向は N-64°-E を示す。

確認された長さは 3.02m で、柱間寸法は西から 1.46m (4 尺 8 寸)・1.56m (5 尺 1 寸) を測る。堆積土は 1~5 層からなる。

遺物は瓦片と柱材が出土した。



SA21 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No.	色				
SA21-P1	1	10YR5/3	にぶい・黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径 3mm の礎少量
SA21-P2	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA21-P3	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	なし	径 5mm の礎少量
	2	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	白色粒子やや多量、酸化鉄少量
	3	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	あり	あり	径 3mm の礎少量
	4	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 3mm の礎少量
	5	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5mm 以下の礎微量

第 181 図 SA21 柱列跡 平面図・断面図

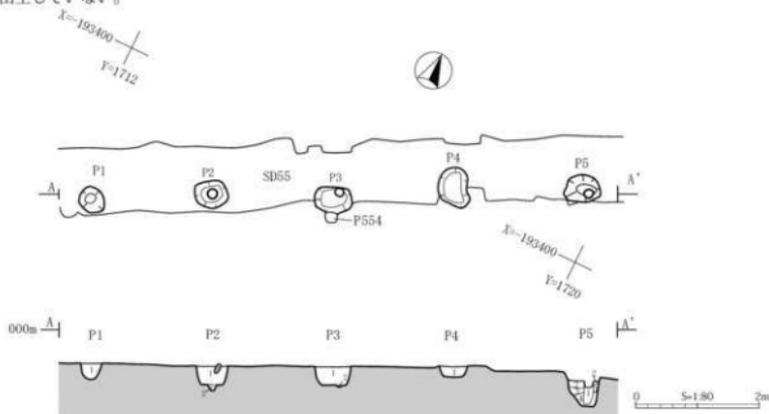
## 9) SA22 柱列跡 (第182図、図版51-5~7)

N1-W59・S1-W59グリッドに位置する。東西方向に並ぶ3基の柱穴と2基の小穴からなる。西側に続く痕跡は見られず途切れるが、東側は調査区外へ延びる可能性がある。P1・P3・P4からは径14~16cmの柱痕が検出され、P4からは根固めに使われたと思われる16cmの川原石が出土している。ほぼ直線的に並ぶことから柱列として登録した。

掘り方の規模は長軸44~67cm、短軸38~60cm、深さ17~56cmを測る。主軸方向はN-64°Eを示す。

確認された長さは8.08mで、柱間寸法は西端から1.98m(6尺5寸)・2.06m(6尺8寸)・1.84m(6尺1寸)・2.20m(7尺3寸)を測る。

遺物は出土していない。



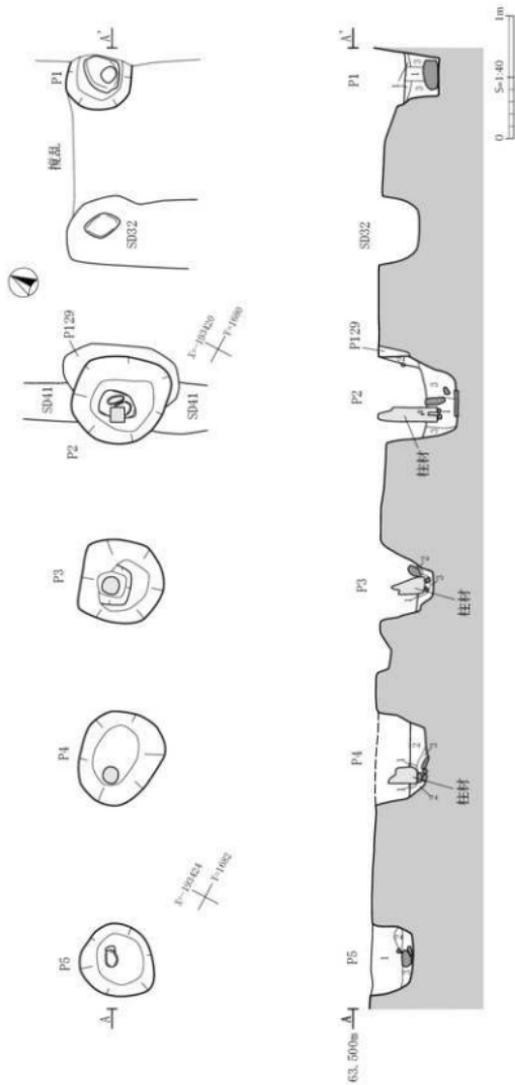
SA22 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		層	色				
SA22-P1	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3~5mmの酸化マンガン粒少量、暗灰黄色砂質シルトブロック多量
SA22-P2	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA22-P3	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3~5mmの酸化マンガン粒少量
SA22-P4	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3~5mmの酸化マンガン粒少量
	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	なし	なし	柱痕 酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA22-P5	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量

第182図 SA22 柱列跡 平面図・断面図

## 10) SA23 柱列跡 (第183図、図版52-1~5)

S2-W63・S3-W62・S3-W63グリッドに位置する。南北方向に並ぶ5基の柱穴からなる。南側はさらに続く痕跡は見られないが、攪乱によって壊されている可能性がある。北側は調査区外へ延びる。P1とP2の間には礎板石を伴うSD32が位置するが、遺構は重複しない。切り合い関係は不明であるが、SD32の東端の礎板石が当該遺構の柱筋に載ることから同時期に機能していた可能性も考えられる。P1は底面に31cmの川原石が置かれ、径13cmの柱痕が載る。P2・P3からはホゾが切られた部材を転用したと思われる柱材が出土している。P2の柱材は一边が12.6cm、長さ49.4cmを測る角材で、四隅を面取りしている。底面に31cmの扁平な割り石を置き、その上に円礫を載せて柱を立てる。P3の柱材は幅10.8×12cm、長さ27.4cmを測る8角材と思われる、円礫を置いた上



SA23 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		上	下				
1	10YR5/3	灰色、黄褐色		砂質シルト	なし	なし	柱礎 断面径減少部、径 3 mm の減少部
SA23-P1	2	10YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややなし	あり	径 10 mm の減少部、径 3 mm の減少部
	3	10YR4/1	褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5 mm の減少部、柱礎
	4	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	あり	なし	柱礎
SA23-P2	1	10YR4/1	褐色	砂質シルト	ややなし	あり	径 10 mm の減少部、径 3 mm の減少部
	2	10YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5 mm の減少部、柱礎
	3	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	あり	なし	柱礎
SA23-P3	1	10YR4/1	褐色	砂質シルト	ややなし	あり	径 10 mm の減少部、径 3 mm の減少部
	2	10YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5 mm の減少部、柱礎
	3	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	あり	なし	柱礎
SA23-P4	1	10YR4/1	褐色	砂質シルト	ややなし	あり	径 10 mm の減少部、径 3 mm の減少部
	2	10YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5 mm の減少部、柱礎
	3	10YR4/1	褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径 3 mm 以下の断面径土粒多量 径 10 mm 以下の減少部
SA23-P5	1	10YR4/1	褐色	シルト	あり	あり	径 10 mm の減少部、径 3 mm の減少部
	2	10YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややなし	あり	径 10 mm の減少部、柱礎
	3	10YR4/1	褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5 mm の減少部、柱礎

第 183 図 SA23 柱列跡 平面図・断面図

に載せる。P4の柱材は丸材で径12.6cm、長さ23.6cmが残存する。円礎を置いた上に載せる。P5からは柱を載せたと考えられる円礎が出土している。

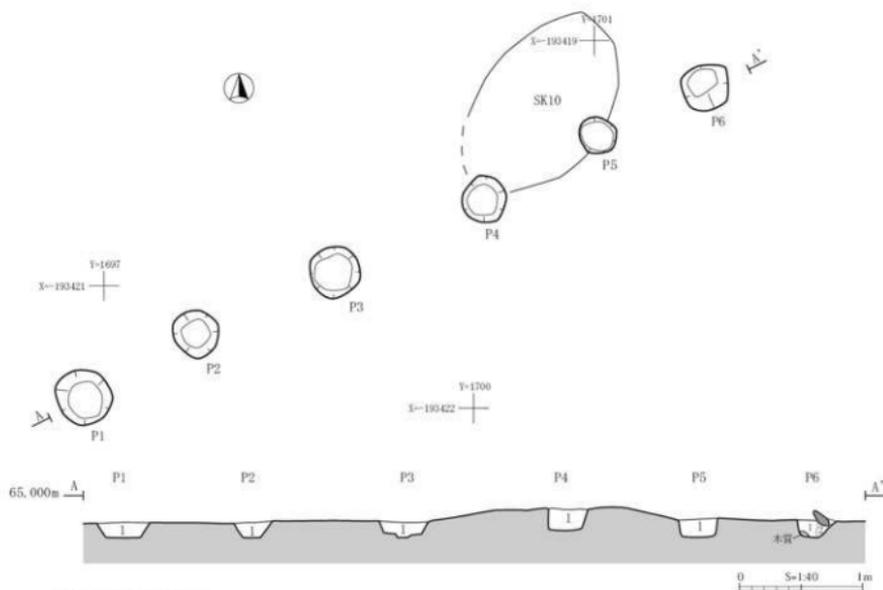
掘り方の規模は長軸64～78cm、短軸58～65cm、深さ44cmを測る。平面形は不整形円形から不整形円形を、断面形は開いたU字形を呈する。主軸方向はN-62°・Eを示す。確認された長さは7.2mで、柱間寸法は西端から1.48m(4尺9寸)・1.56m(5尺1寸)・1.38m(4尺6寸)・2.78m(9尺2寸)を測る。北端のP1とP2の柱間寸法2.78mを2で割ると、南側のそれとほぼ同じになる。

堆積土は各柱穴とも3層からなる。P1～P4の1層は柱痕、P5では柱痕の断面は確認できなかった。そのほかは掘り方埋土である。

遺物は柱材以外、出土していない。

### 11) SA24 柱列跡 (第184図、図版53-1～5)

S2-W60・S3-W60・S3-W61 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ1基の柱穴と5基の小穴からなる。P4・P5はSX10を切る。東西ともその先に続く柱穴は検出されなかった。P6以外に柱痕等は見られなかったが、直線的



SA24 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No	色				
SA24-P1	1	10YR5/3	にぶい・黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA24-P2	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA24-P3	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA24-P4	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA24-P5	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	1	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
SA24-P6	2	10YR5/1	褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄やや少量

第184図 SA24 柱列跡 平面図・断面図

に並ぶため柱列跡として登録した。掘り方の規模は径 24～37cm、深さ 2～16cm を測る。平面形は円形～楕円形を、断面は逆台形～方形を呈する。主軸方向は N-63°-W を示す。確認された長さは 5.7m で、柱間寸法は、西端から 1.07m (3 尺 6 寸)・1.24m (4 尺 1 寸)・1.36m (4 尺 5 寸)・1.08m (3 尺 6 寸)・0.93m (3 尺 1 寸) を測る。

堆積土は P1～P5 は単層で、P6 は 2 層からなる。P5 の 1 層は柱痕で、底面に柱材の残存と思われる木質がわずかに遺存していた。2 層は掘り方埋土である。

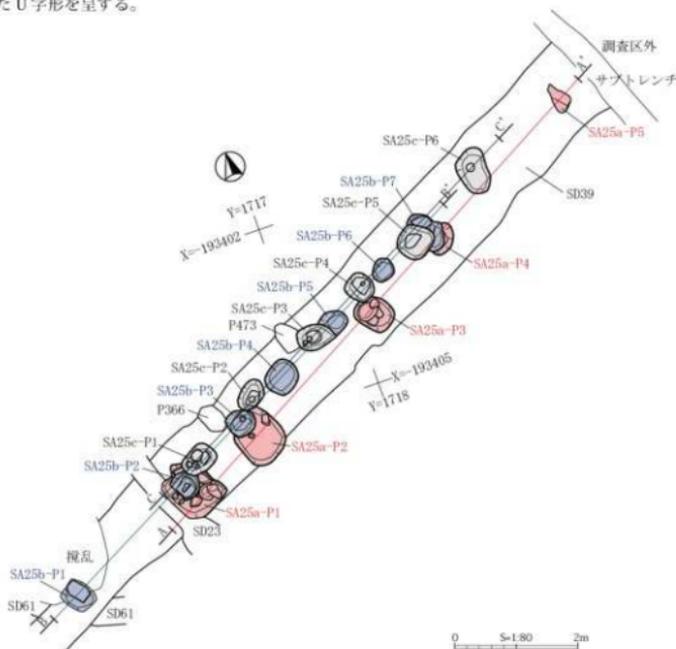
遺物は出土していない。

## 12) SA25 柱列跡 (第 185～186 図、図版 53-6・54-1～7・55-1～8)

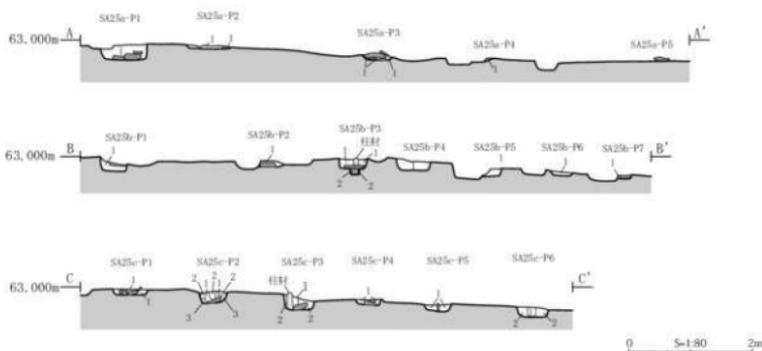
S1-W58・59 グリッドに位置する。東西に並ぶ 17 基の柱穴が検出され、切り合い関係から 3 条の柱列になることが確認された。柱間寸法はまばらで、柱痕跡、柱材が検出されないものも含まれるが、直線的に並ぶことから柱列として登録した。これらは、V 層上面で検出された SD39 の堆積土上面に構築されている。いずれも浅く、本来は上位から掘り込まれたものと思われる。以下、古い順から SA25a、SA25b、SA25c として記述する。

[SA25a] 5 基の柱穴からなる。P1、P3 では礎板石が出土している。P5 は礎板石のみの検出である。

掘り方の規模は長軸 63～105cm、短軸 50～74cm、深さ 8～26cm を測る。平面形は長方形を、断面形は浅い皿状～開いた U 字形を呈する。



第 185 図 SA25 柱列跡 平面図



SA25c 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No	色				
SA25a-P1	1	10YR5/3	にぶい・黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA25a-P2	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA25a-P3	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA25a-P4	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA25b-P1	1	2.5Y6/3	にぶい・黄色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄やや多量
SA25b-P2	1	10YR5/3	にぶい・黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA25b-P3	1	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	あり	なし	柱礎
SA25b-P4	2	2.5Y6/3	にぶい・黄色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄やや多量
SA25b-P5	1	2.5Y6/3	にぶい・黄色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄やや多量
SA25b-P6	1	10YR5/3	にぶい・黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA25b-P7	1	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	あり	なし	柱礎
SA25c-P1	1	10YR5/3	にぶい・黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA25c-P2	2	10YR4/1	褐色	粘土質シルト	あり	なし	柱礎
SA25c-P3	2	2.5Y6/3	にぶい・黄色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄やや多量
SA25c-P4	3	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	径5mmのシルトストーン微量
SA25c-P5	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA25c-P6	2	2.5Y6/3	にぶい・黄色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄やや多量
SA25c-P7	1	10YR5/3	にぶい・黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA25c-P8	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA25c-P9	2	10YR5/3	にぶい・黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量

第186図 SA25c 柱列跡 断面図

確認された長さは9.2mで、柱間寸法は、西端から1.40m(4尺6寸)・3.08m(10尺2寸)・2.24m(7尺4寸)・2.80m(9尺2寸)を測る。主軸方向はN-45°Eを示す。堆積土は砂質シルトの単層からなる。

遺物は出土していない。

[SA25b] 7基の柱穴からなる。P2はSD23に、P3はP366に切られる。P1・P2・P7からは礎板石が検出された。P3は底面中央を1段掘り下げて、方形に加工した礎を置き、その上に礎板石を載せて柱を立てる。

掘り方の規模は長軸37～54cm、短軸32～38cm、深さ7～30cmを測る。平面形は楕円形で、断面形はU字形～逆台形を呈する。

確認された長さは8.64mで、柱間寸法は西端から2.40m(7尺9寸)・1.40m(4尺6寸)・0.96m(3尺2寸)・1.34m

(4尺4寸)・1.52m(5尺)・1.44m(4尺8寸)を測る。主軸方向はN-43°-Eを示す。堆積土は1～2層からなる。

遺物は柱材以外、出土していない。

[SA25c] 6基の柱穴からなる。P3はP473を切る。P1～P4では礎板石が、P3では加えて柱材が検出された。

掘り方の規模は長軸52～55cm、短軸24～26cm、深さ10～25cmを測る。平面形は楕円形を呈し、断面形は開いたU字形を呈する。

確認された長さは7.04mで、柱間寸法は西端から1.35m(4尺5寸)・1.34m(4尺5寸)・1.28m(4尺2寸)・1.12m(3尺6寸)・1.52m(5尺)を測る。主軸方向は、N-43°-Eを示す。堆積土は1～3層からなる。

遺物は柱材以外、出土していない。

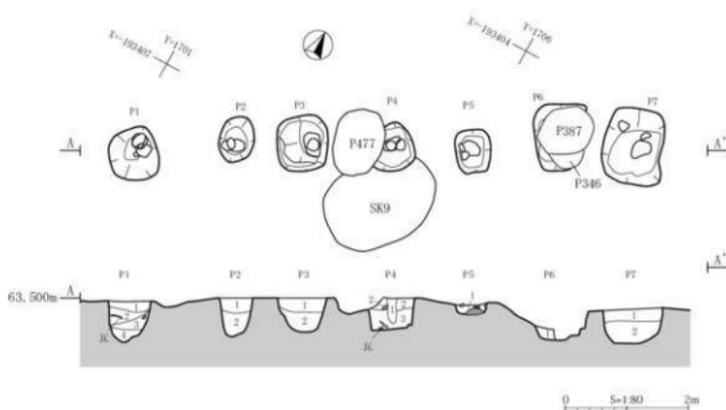
### 13) SA26 柱列跡 (第187図、図版56-1～8)

S1-W60グリッドに位置する。東西に並ぶ7基の柱穴からなる。P4はSK9、P477に、P6はP387とP346に切られる。すべてから柱痕、または礎板石が検出された。

掘り方の規模は55×70cm～94×110cm、深さ49～54cmを測る。平面形は楕円形～方形、断面形はU字形～方形を呈する。

確認された長さは8.3mで、柱間寸法は、西端から1.6m(5尺3寸)・1.22m(4尺)・1.37m(4尺5寸)・1.58m(5尺2寸)・1.36m(4尺5寸)を測る。中央のP2からP5までは間隔が狭く、その両脇は広がっている。P6とP7間は再び狭くなり、さらに東方向へ展開する可能性もある。主軸方向はN-61°-Wを示す。堆積土は1～4層からなる。

遺物はP1・P3～P5・P7で瓦が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



SA26 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		№	色				
SA26-P1	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA26-P2	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3～5mmの酸化マンガン粒少量
SA26-P3	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA26-P4	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱頭
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA26-P5	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA26-P6	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA26-P7	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量

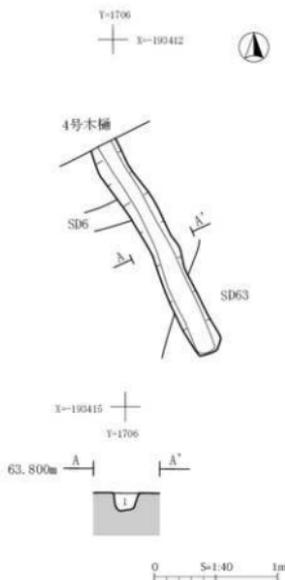
第187図 SA26 柱列跡 平面図・断面図

## (2) 溝跡

## 1) SDS 溝跡 (第188図、図版57-1～2)

S2-W60グリッドに位置する。南北方向に直線的に走る素掘りの溝である。SD6とSD63を切り、北端を4号木柱に、南端を視乱によって壊される。南北両側ともにその先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。確認された規模は長さ1.9m、幅21～24cm、深さ14cmを測る。主軸方向はN-27°-Wを示す。断面形は開いたU字形を呈する。堆積土は黄灰色シルト質砂の単層で、上面の整地により埋め戻されたものと考えられる。

遺物は出土していない。



SDS 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	№	色				
1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質砂	なし	ややあり	径5mm以下の礫、酸化鉄多量

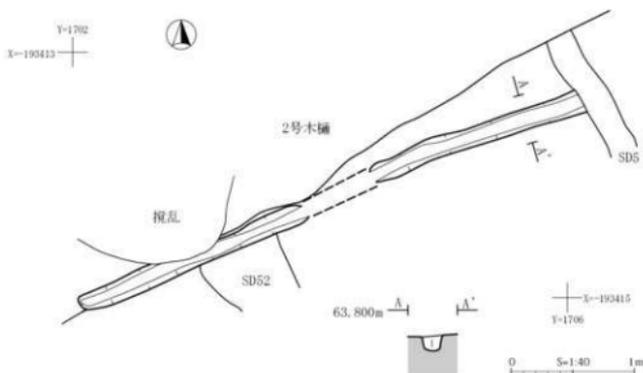
第188図 SDS 溝跡 平面図・断面図

## 2) SD6 溝跡 (第 189 図、図版 57-1・3)

S2-W60 グリッドに位置する。東西方向に直線的に走る素掘りの溝である。SD52 を切り、北西側を攪乱によって壊される。西端は 2 号木樋に、東端は SD5 に切れ、東西両側ともその先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。

確認された規模は長さ 4.4m、幅 15～20cm、深さ 12cm を測る。主軸方向は N-67°E を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土にはぶい黄褐色砂質シルトの単層であり、上面の整地により埋め戻されたものと考えられる。

遺物は出土していない。



SD6 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/2	ぶい・灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径 5 mm 以下の砂礫多量、酸化鉄微量

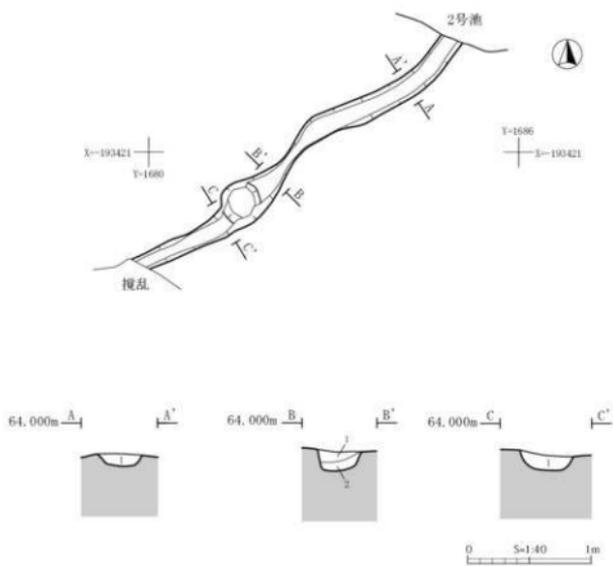
第 189 図 SD6 溝跡 平面図・断面図

## 3) SD9 溝跡 (第 190 図、図版 57-4～6)

S2-W62・S3-W62・S3-W63 グリッドに位置する。緩やかに蛇行しながら東西方向に走る素掘りの溝である。西端は攪乱によって壊され、東端は 2 号池に切られる。東西両側ともにその先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。中央やや西側にはビット状の掘り込みが検出された。

確認された規模は長さ 6.3m、幅 16～72cm、深さ 18cm を測る。主軸方向は N-54°E を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は黒褐色シルト層からなり、礫の混入度により 2 層に細分された。

遺物は出土していない。



SD9 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR3/2	黒褐色	シルト	なし	なし	礎少量
2	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	あり	径5cmの礎多量

第190図 SD9 溝跡 平面図・断面図

## 4) SD12 溝跡 (第191~192図、図版57-7~8・58-1)

S3-W63 グリッドに位置する。南北方向に走る石組溝である。SX14を切り、2号柵状遺構によって壊される。中央から南側は攪乱によって寸断され、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。北側は調査区外に延びる。

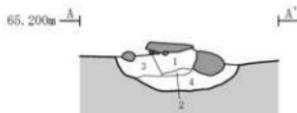
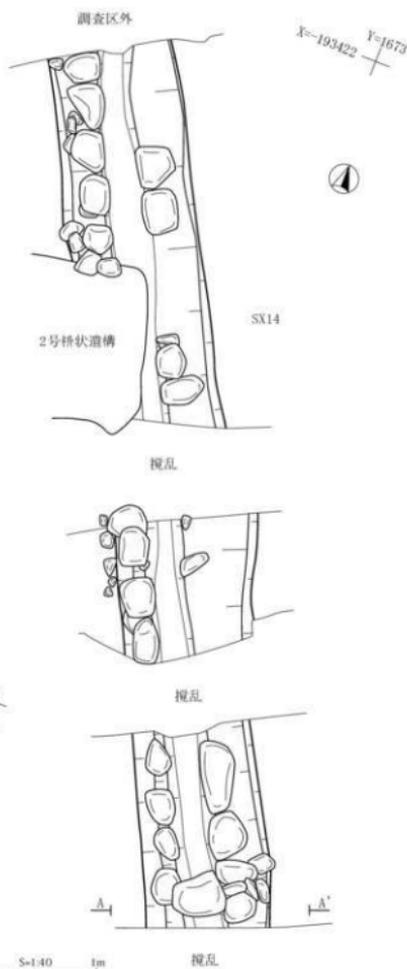
確認された規模は長さ7.2m、側石と側石の内幅24cm、掘り方の幅96~116cm、深さ68cmを測る。主軸方向はN-27°-Wを示す。

側石には28~60cmの端部を打ち欠いた川原石と無加工のものごとが使用される。東側石はまばらで、西側石の中央で2段積んでいる他は1段のみ置く。南端部では32×43cmの全面加工された板状の石が側石の上に乗せ、石蓋の可能性も考えられる。底面は素掘りのままで石敷きは施されていない。

断面形は開いたU字形を呈する。

堆積土は4層からなる。1~2層は石組構築後の溝内堆積土で、水成堆積である。暗褐色砂質シルトで、砂粒、礫を含む。3~4層は掘り方理土で、にぶい黄褐色シルトおよび黒褐色粘土質シルトで、砂粒、礫を含む。

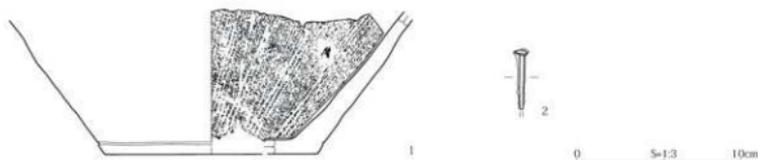
遺物は17世紀代の丹波産播鉢、金属製品等が出土している。



SD12 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	基	色				
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒多量。径5cm以下の礫少量 水成堆積土
2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒多量 水成堆積土
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	あり	径5cm以下の礫少量 掘り方理土
4	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	砂粒少量 掘り方理土

第191図 SD12 溝跡 平面図・断面図



SD12 溝跡 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 道幅・層位 S3-W63 SD12 4層	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	収番号
								口径	底径	器高				
192-1	113-25	S3-W63 SD12 4層	陶器	罎鉢	体部~底部	やや粗	鉄軸	—	(13)	(8.8)	丹波	17世紀		I-13

SD12 溝跡 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	図版番号	グリッド 道幅・層位 S3-W63 SD12 4層	種別	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
192-2	113-26	S3-W63 SD12 4層	釘	—	3.65	0.8	0.3	1.39	一部欠損	N-5

第192図 SD12 溝跡 出土遺物

## 5) SD15 溝跡 (第193図、図版58-2~3・59-1~2)

S2-W61 グリッドに位置する。東西方向に直線的に走る石組溝である。西側はSD32に切れられ、西端を攪乱によって壊される。東端はSK7に切れられ、壁が立ち上がって途切れる。両方向ともその先に続く痕跡は検出されなかった。

確認された規模は長さ8.9m、側石と側石の内幅14~22cm、掘り方の幅56~72cm、深さ20cmを測る。主軸方向はN-65°-Eを示す。断面形は開いたU字形を呈する。

側石には13~52cmの川原石が主に使われ、端部を打ち欠いたものや分割したのものもある。ほとんどは割り面を向かい合わせて配置している。北側石では部分的に2段積むが、他は1段のみ置く。また、側石間の上面には18~28cmの川原石が蓋のように並べられているが、これらは側石の内幅より小さなものが多く、蓋として使用されたものではない。

堆積土は埋め戻し土と底面に薄く堆積する水成堆積層、掘り方理土の3層からなる。

遺物は出土していない。

## 6) SD22 溝跡 (第194図、図版37-1・59-3~4・60-1~2)

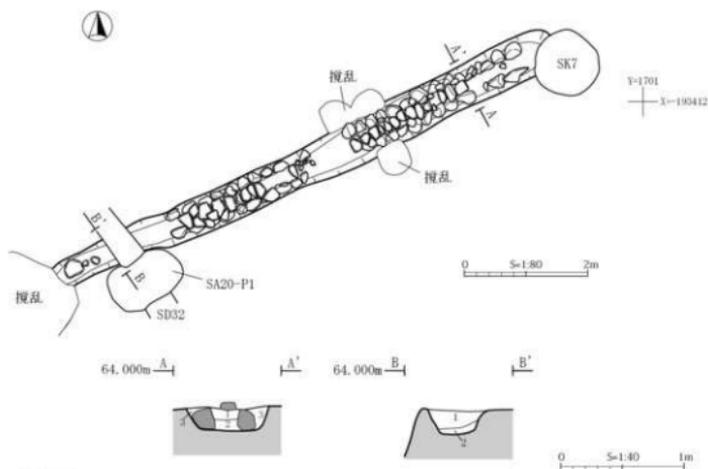
S1-W59・S1-W60 グリッドに位置する。南北方向に直線的に走る石組溝である。攪乱によって底面から西壁は壊され、西側石は検出されない。南側は4号木樋とSD10によって切れられ、さらに南側にあるSE1の先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと思われる。北端は壁が立ち上がって途切れる。

確認された規模は長さ5.2m、側石と側石の内幅46cm以上、掘り方の幅78cm以上、石敷き上面までの深さ26cm、掘り方の深さ32cmを測る。主軸方向はN-23°-Wを示す。断面形はU字形を呈するものと思われる。

側石は27~60cmの端部を打ち欠いた川原石と、30~36cmの全面を打ち欠いた割り石を使用して、平坦面を内側に向ける。南端で二段積むが、他は1段のみ置く。底面には16~32cmの川原石と26~39cmの割り石を用いて、平坦面を上に向けた石敷きを施している。裏込めには3~5cmの礫が少量含まれる。

堆積土は4層からなり、1~3層は溝内堆積土で、3層には水流の痕跡が認められる。4層は掘り方理土である。

遺物は出土していない。



SD15 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/1	赭灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	砂、酸化鉄多量
2	10YR3/2	黒褐色	シルト質砂	なし	なし	水成堆積土
3	10YR4/1	赭灰色	砂質シルト	なし	あり	径1cm以下の礫多量、炭化物少量

第193図 SD15 溝跡 平面図・断面図

## 7) SD23 溝跡 (第195～196図、図版37-1・59-4・60-3～6)

N1-W58～S2-W59グリッドに位置する。西端でT字状に分岐する溝である。分岐部分には側石が組まれている。東西方向に走る溝の中央から東端にかけて、堆積土と整地層とを誤認して掘り下げたため、平面図では確実に当該遺構と考えられる部分と、調査区東壁で確認された断面の上端を結んだラインを破線で示した。

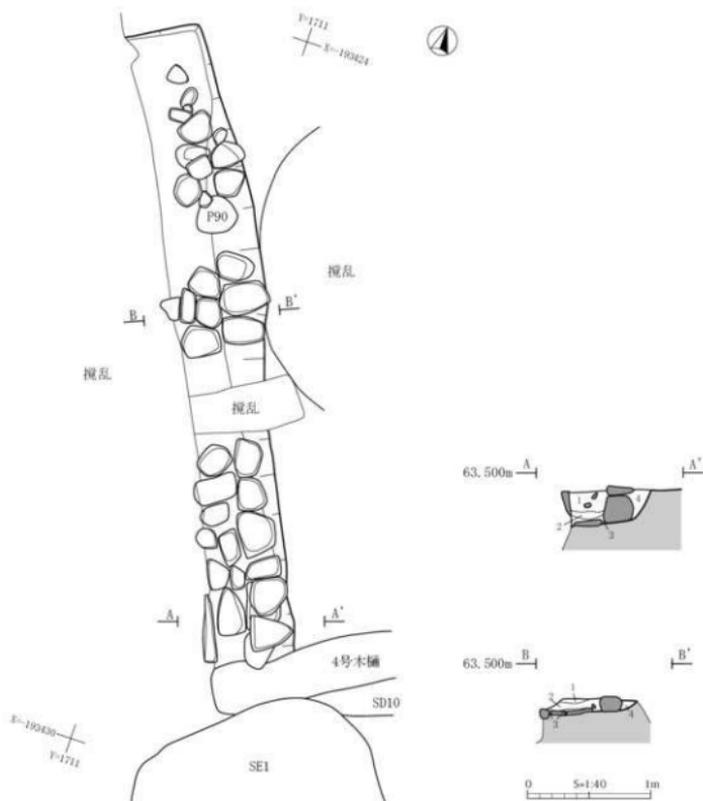
東側と南側を4号木樋に、南側をSD10と掘乱によって切れ、東端は調査区外へ延びる。南端は掘乱よりその先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと思われる。北側は調査区北壁の手前で検出ができなくなり、調査区壁面においても確認できなかった。

主軸方向は東西溝がN-67°-Eを、南北溝がN-26°-Wを示す。

確認された規模は、東西方向の長さ9.6m、側石と側石の内幅18cm、掘り方の幅96～108cm、深さ37cmを、南北方向の長さ約5m、掘り方の幅32～48cm、深さ31cmを測る。断面形は開いたU字形を呈する。

側石は両方向とも長さ約80cmが遺存し、南北方向の西側石は検出されなかった。20～36cmの川原石を部分的に2段積むが、他は1段のみ置く。側石が抜き取られた痕跡は確認されず、分岐部分にのみ側石が組まれたと考えられる。堆積土は4層からなる。

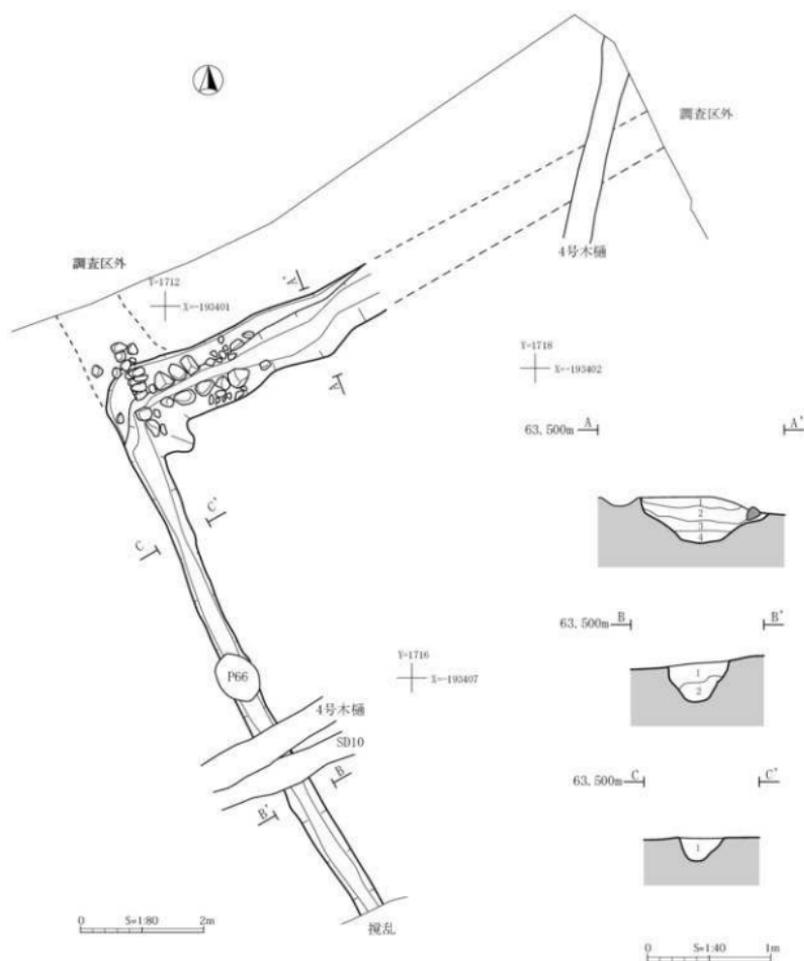
遺物は17世紀前半の陶器が出土している。



SD22 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/1	褐色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄、砂粒多量、径5cmの礫少量、炭化物微量
2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径1cm以下の暗褐色シルトブロック少量
3	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂	なし	ややあり	水成埋積土
4	10YR4/1	褐色	砂質シルト	なし	あり	径1cm以下の礫多量、炭化物少量

第194図 SD22 溝跡 平面図・断面図



SD23 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	地	色				
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒多量、径5cm以下の礫少量
2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒多量
3	10YR4/3	にぶい・黄褐色	シルト	ややあり	あり	径5cm以下の礫少量
4	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	砂粒少量

第195図 SD23 溝跡 平面図・断面図



0 5=1:3 10cm

SD23 溝跡 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 座標・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			発地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
196-1	113-27	N1・S1-W58・59 SD23 3層	陶器	皿	L脚~体部	やや粗	青磁部	—	—	(2.5)	織部	17世紀前半		I-21

第196図 SD23 溝跡 出土遺物

## 8) SD31 溝跡 (第197図、図版60-7・61-1)

S1-W60・S1-W61・S2-W61 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。東端は攪乱によって壊され、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。西端は P173、SD32 に切られる。

確認された規模は長さ 15.4m、幅 48～78cm、深さ 23cm を測る。主軸方向は N-59°-E を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は 3 層からなる。

完掘状況から、東、中央、南の 3 本の溝に分かれる可能性がある。東側の溝は長さ約 410cm、中央の溝は長さ 514cm、西側の溝は長さ約 650cm を測る。柱を置いた痕跡は検出されなかったが、布掘り溝の掘り方になる可能性もある。

遺物は出土していない。

## 9) SD32 溝跡 (第198～199図、図版61-2～5)

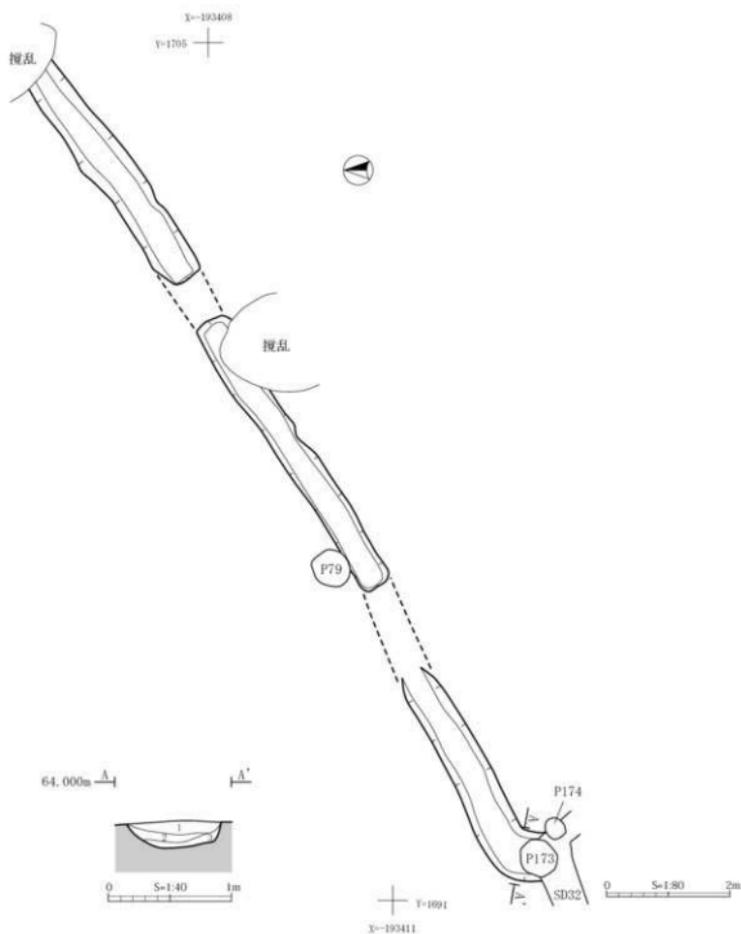
S2-W61～S3-W64 グリッドに位置する。東端で南方向に屈折する L 字形の布掘り溝である。東西方向に走る溝の底面からは 10 箇所礎板石が検出された。東側は 2 号池、SX8 によって上部を壊され、西側を SD12、SD24、SD40、SX14、攪乱により寸断される。西端は 4 号池によって切られ、その先に続くかは不明である。南北方向の溝は SD15・SA20-P1・SA20-P2 によって寸断され、南端を SD3 によって切られる。その先に続く痕跡は検出されなかった。

確認された規模は東西方向の長さ 15m、幅 41～70cm、深さ 20～25cm、南北方向の長さ 4.5m、幅 30～57cm、深さ 20cm を測る。断面形は開いた U 字形～逆台形を呈する。

東西方向に並ぶ礎板石を直線で結んだ主軸方向は N-65°-E を示し、南北方向では N-32°-W を示す。

礎板石には 30cm を主に、14～32cm の扁平な川原石が使用され、平坦面を上にして置く。礎板石の間隔は東から 1.26m (4 尺 2 寸)・1.32m (4 尺 4 寸)・1.26m (4 尺 2 寸)・1.3m (4 尺 3 寸)・1.26m (4 尺 2 寸)・1.26m (4 尺 2 寸)・1.32m (4 尺 4 寸)・1.24m (4 尺 1 寸)・1.38m (4 尺 6 寸) を測る。堆積土は 2 層からなる。

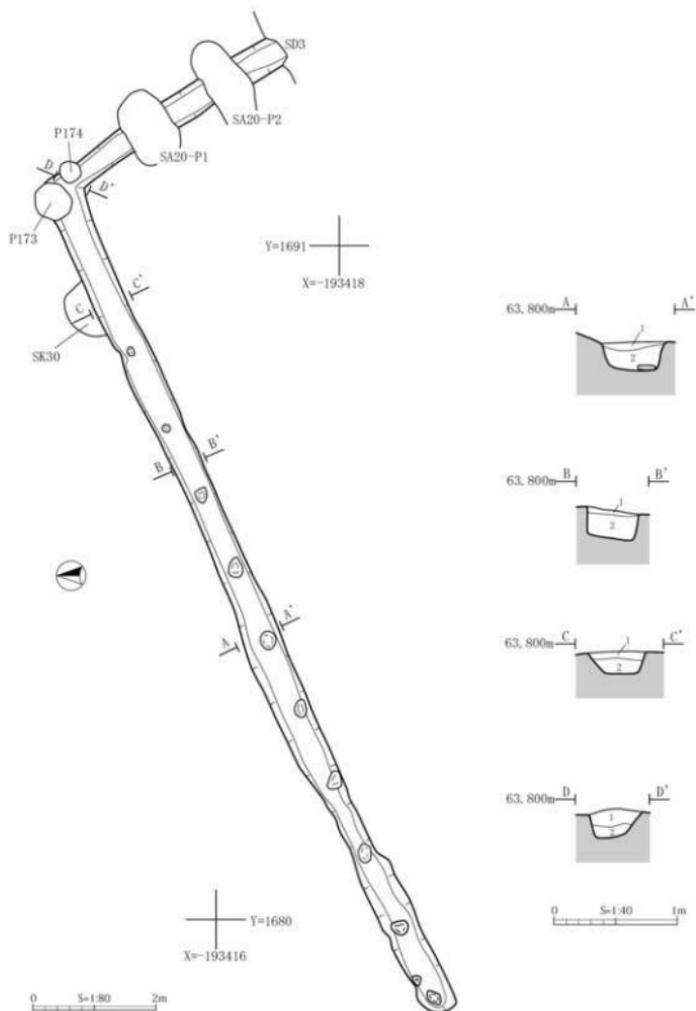
遺物は堆積土中から 17 世紀～18 世紀代の陶器・磁器が出土している。1 は 18 世紀後半～19 世紀前半の肥前産高茶碗、2 は 18 世紀代と見られる唐津刷毛目皿もしくは小鉢、3 は 17 世紀代の岸窯系陶器である。



SD31 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	2.5Y5/3	オリープ褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径 3 cm以下の黒色シルトブロック・砂粒多量
2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト質粘土	あり	ややあり	砂粒多量
3	2.5Y4/3	オリープ褐色	粘土質シルト	なし	あり	径 3 cm以下の礫粒量

第 197 図 SD31 溝跡 平面図・断面図



SD32 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径 3 cm以下の黒色シルトブロック・砂粒多量
2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	なし	あり	径 3 cm以下の微細量

第 198 図 SD32 溝跡 平面図・断面図



SD32 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
199-1	113-28	S2-W61・62 SD32 2層	磁器	筒茶碗	口縁～体部	緻密	染付	(4.55)	—	(5.0)	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半		J-13
199-2	113-29	S2-W61・62 SD32 2層	陶器	皿か小鉢	上縁	やや密	刷毛目文	—	—	(1.4)	唐津	18世紀		I-26
199-3	113-30	S2・3-W61～63 SD32 埋土一括	陶器	鉢	口縁～体部	密	灰釉	—	—	(4.5)	厚狭系	17世紀	上縁部のみ 他種	I-25

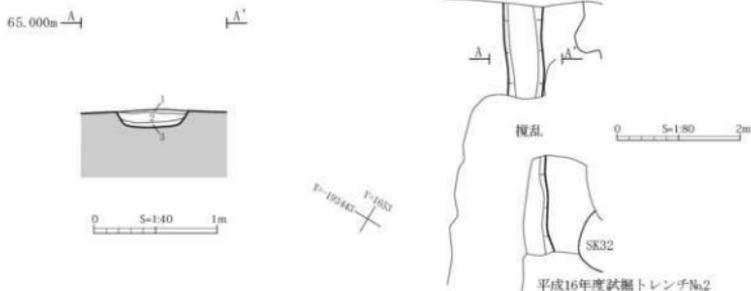
第199図 SD32 溝跡 出土遺物

## 10) SD38 溝跡 (第200図、図版61-6～7)

S4-W65・S5-W65グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。中央と南側は攪乱によって分断され、南端は平成16年試掘トレンチNo.2に接する。トレンチでは当該遺構は検出されていない。東側はSK33とSD14によって切られ、北端は調査区外へ延びる。

確認された規模は長さ9.3m、幅60～100cm、深さ36cmを測る。主軸方向はN-33°-Wを示す。断面形は皿状を呈する。堆積土は3層の砂質シルトからなる。

遺物は出土していない。



SD38 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	h <sub>0</sub>	色				
1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	あり	径1cm以下の明黄褐色シルト粒微量、酸化鉄多量
2	2.5Y4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径1cm以下の淡黄色砂質シルト少量、酸化鉄微量
3	10YR4/3	にじみ黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄多量

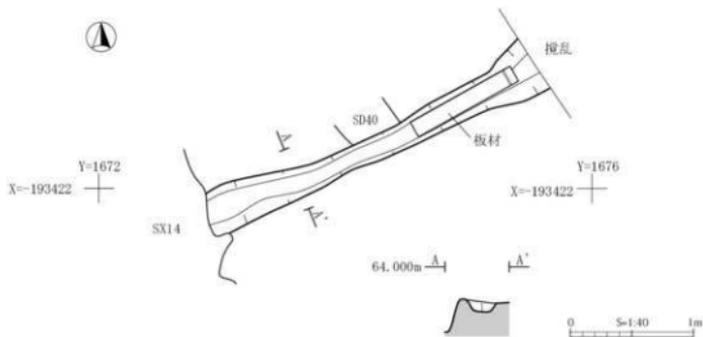
第200図 SD38 溝跡 平面図・断面図

11) SD47 溝跡 (第 201 図、図版 62-1～3)

S3-W63 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。中央で SD40 を切り、東側を攪乱によって壊される。東側はその先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと思われる。西端はV層の SX14 を誤認して先に掘り下げてしまったため不明である。

確認された規模は長さ 2.9m、幅 17～48cm、深さ 11cm を測る。主軸方向は N-65°-E を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は長さ 93cm、幅 14cm、厚さ 1.5cm の板材が出土しているが用途・性格等は不明である。



SD47 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	あり	黄褐色粗砂多量、暗灰黄色砂質シルト少量、酸化鉄多量

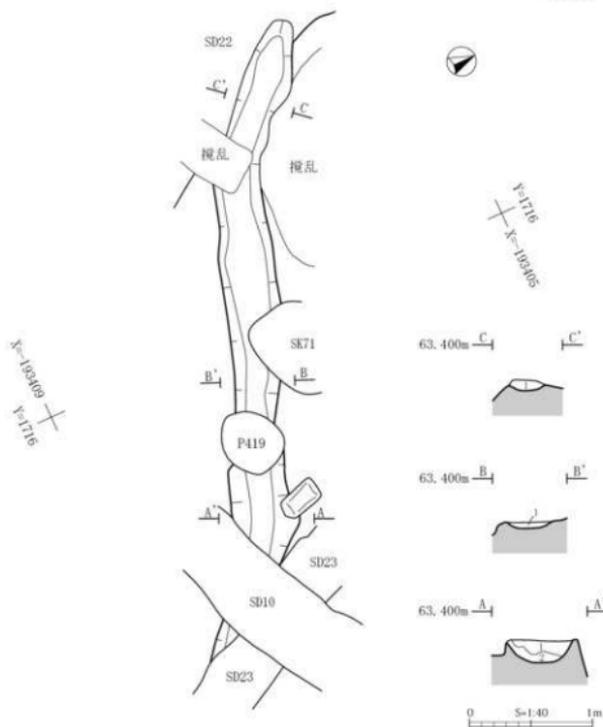
第 201 図 SD47 溝跡 平面図・断面図

12) SD61 溝跡 (第 202 図、図版 62-4～6)

S1-W59 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。西側を攪乱によって壊され、西端を SD22 に切られる。中央から東側にかけて SK71・P419・SD10 に切られ、東端は SD23 によって壊される。両側とも途切れるが、その先まで続いていたかは不明である。

確認された規模は長さ 5.2m、幅 34～45cm、深さ 20cm を測る。主軸方向は N-63°-W を示す。断面形は中央から北側にかけては皿状を、南側では開いた U 字形を呈する。堆積土は 2 層からなる。

遺物は出土していない。



SD61 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄微量、径5mm以下の砂礫多量
2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄多量

第202図 SD61 溝跡 平面図・断面図

### (3) 井戸跡

#### 1) SE1 井戸跡 (第203～204図、図版62-7～8・63-1～3)

S1-W59・S2-W59 グリッドに位置する。上層から近代以降の瓦片が多量に出土した。攪乱として掘り下げたところ、円形の石組みと縦板で構成された木枠とが検出されたことから井戸として登録した。

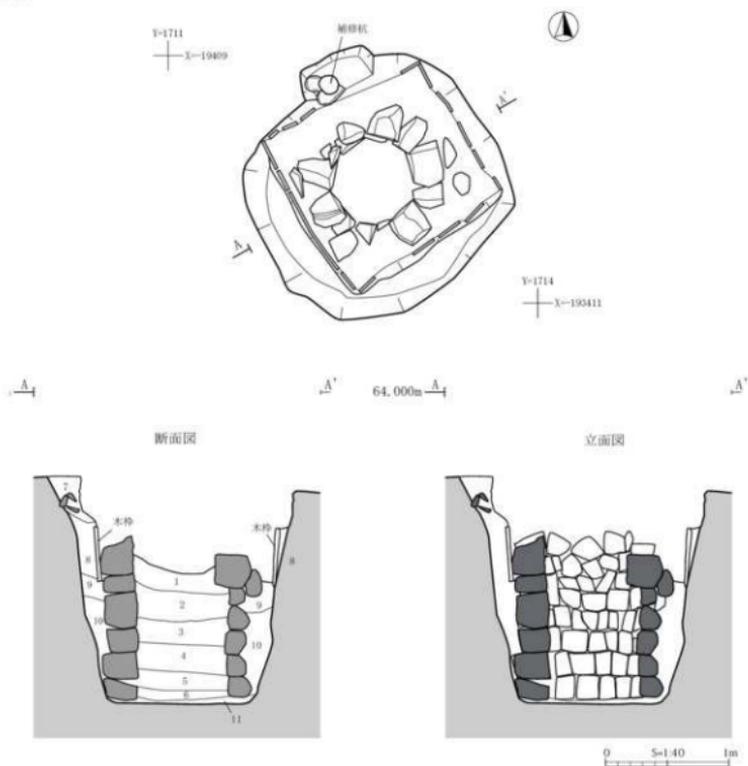
確認された規模は石組の内径65cm、掘り方の長軸2m、短軸1.73m、深さ1.84mを測る。石組は最も多いところで8段確認された。5段目を境にして土質、加工法、積み方、裏込めの混入物に違いが見られ、作り替えたことが窺える。1～5段までは14～25cmの方形に加工した砂質凝灰岩の切石を積み上げる。裏込めには5～10cmの円礫や割石が多量に、また瓦片がやや多量に使用される。6～8段は18～32cmの端部を打ち欠いた川原石や間知石を乱積みする。裏込めには5～20cmの割り石と瓦片が多量に使用される。木枠は長さ35～44cm、幅28～30cmの板材を、一辺に4～6枚縦置きにしてそろえ、1.3×1.46mの井桁を構成していたものと思わ

第3節 Ⅲ区

れる。

石組内の堆積土は6層で、褐灰色～黒褐色の砂質シルトおよび砂からなる。掘り方は黄褐色～暗褐色のシルト質粘土および粘土からなり、最下層は水の浸食により白色粘土化している。

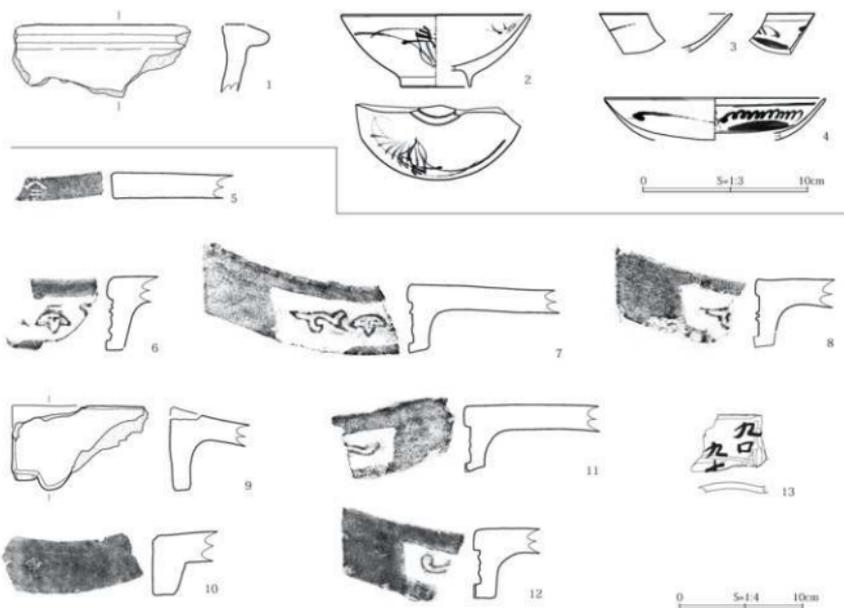
遺物は瓦質土器、磁器、瓦などが出土している。大半は上部攪乱層および溝内から出土しており、近代以降のものである。



SE1 井戸跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径1m以下の炭化物微塵、瓦多量に含む
2	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	
3	10YR3/1	黒褐色	砂	なし	あり	
4	10YR4/1	褐灰色	砂	なし	あり	
5	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	
6	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	なし	ややあり	径2mm以下のシルトストーン、黒褐色土粒少量
7	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	なし	あり	5～20cmの礫、瓦片多量
8	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	5～20cmの礫、瓦片多量、径2mm以下のシルトストーン少量
9	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	なし	5～10cmの礫多量、瓦片やや多量
10	10YR3/4	暗褐色	粘土	なし	なし	5～10cmの礫多量、瓦片やや多量
11	2.5Y7/1	灰白色	粘土	なし	ややあり	径5cm以下の礫、瓦片多量、径10cm以下の板状礫多量

第203図 SE1 井戸跡 平面図・断面図



SE1井戸跡 出土遺物観察表（陶磁器）

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			発地	時期	備考	登録番号
								上径	底径	器高				
204-1	114-6	S1・2-W59 SE1 石胆	瓦質土器	鉢	口縁	やや粗	—	—	(4.6)	在地	近世		J-228	
204-2	114-1	S1・2-W59 SE1 埋土一括	磁器	碗	口縁～底部	緻密	染付草文	(11.5)	(4.2)	4.5	不明	近代以降		J-56
204-3	114-2	S1・2-W59 SE1 埋土一括	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付草文・みじ ん唐草文	—	—	(2.5)	瀬戸・美濃	19世紀		J-57
204-4	114-4	S1・2-W59 SE1 埋土一括	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付草文・みじ ん唐草文	—	—	(2.6)	瀬戸・美濃	19世紀		J-58

SE1井戸跡 出土遺物観察表（瓦）

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (±mm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
204-5	114-9	S1・2-W59 SE1 掘り方	契斗瓦	(100)	(6.4)	2.2	「△」刻印	H-16
204-6	114-5	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦	(3.6)	(5.2)	2.2	雷持三枚浪+唐草文	G-1
204-7	114-13	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦	(12.0)	(14.8)	2.0	三枚浪+唐草文	G-2
204-8	114-10	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦	(6.4)	(10.4)	2.4	唐草文	G-3
204-9	114-7	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦?	(6.4)	(9.6)	1.8		G-4
204-10	114-8	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦	(4.8)	(11.0)	2.6	「△」刻印	G-5
204-11	114-11	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦	(10.8)	(8.8)	2.0	唐草文	G-6
204-12	114-12	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦	(5.2)	(9.6)	2.0	唐草文	G-7
204-13	114-3	S1・2-W59 SE1 掘り方	棧瓦	(4.6)	(5.4)	0.6	朱書	H-23

第204図 SE1井戸跡 出土遺物

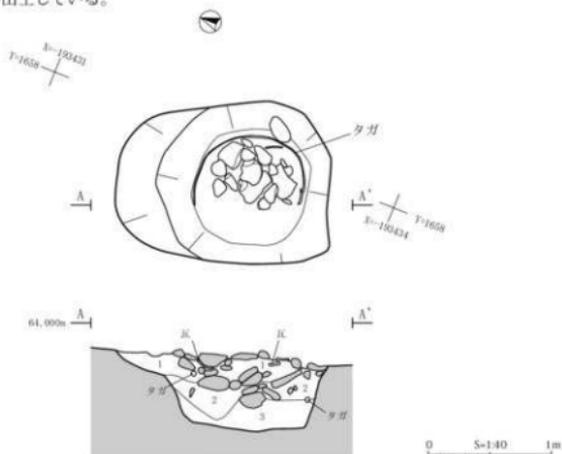
2) SE5 井戸跡 (第 205～206 図、図版 63-4～6)

S4-W65 グリッドに位置する素地の井戸である。5号池の底面で8～25cmの川原石が集中する箇所を検出し、平面精査、断面観察により井戸として登録した。

確認された規模は長軸 1.64m、短軸 1.26m、深さ 65cm を測る。平面形は楕円形で、断面形は逆台形を呈し、北側の上部は緩く広がっている。上層から、内径約 80cm を測るタガが出土した。側板等は遺存していないが、曲物が設置されていた可能性もある。

堆積土は3層からなり、瓦、礫を多量に含む。

遺物は瓦、木製品等が出土している。



SE5 井戸跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	7.5Y4/1	灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 25 cm 以下の礫 (地層石) 多量。径 5 cm 以下の小礫が流入する。粘性の非常に強い土層 分的にシルト質。木片、瓦を含む
2	7.5Y5/3	灰褐色	シルト質粘土	なし	なし	径 10 cm 以下の礫を微量。植物遺物を含む
3	7.5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	あり	なし	

第 205 図 SE5 井戸跡 平面図・断面図



SE5 井戸跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
206-1	114-14	S4-W65 SE5 5層	曲物	9.9	(6.4)	0.5	穿孔あり	L-7

第 206 図 SE5 井戸跡 出土遺物

## (4) 土坑

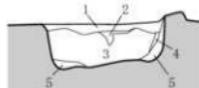
## 1) SK1 土坑 (第 207 図、図版 63-7~8)

S2-W60 グリッドに位置する。SK8 と SA17 を切る。

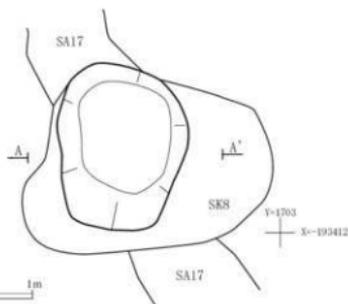
確認された規模は長軸 1.1 m、短軸 98 cm、深さ 26 cm を測る。平面形は不整楕円形を、断面形は幅の広い U 字形を呈する。堆積土は 5 層の砂質シルトおよび砂からなる。

遺物は出土していない。

64,000m  $\overrightarrow{A-A'}$



Y=1700  
X=193410



0 S=1:40 1m

SK1 土坑 土層注記表

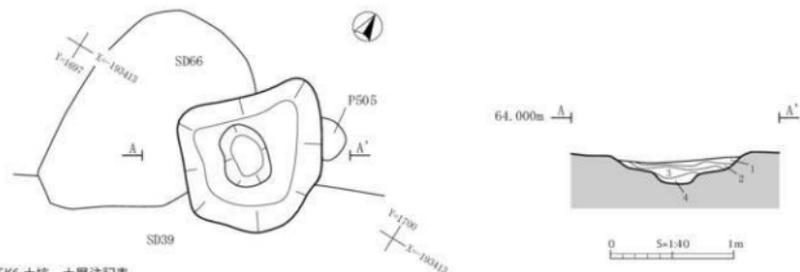
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	7.5YR6/2	灰褐色	砂質シルト	なし	なし	径 5 cm 以下の礫少量、酸化鉄微量
2	7.5YR5/2	灰褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄多量
3	10YR5/1	褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径 10 cm 以下の礫少量、酸化鉄微量
4	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 3 cm 以下の礫少量
5	10YR6/2	褐色	砂	なし	なし	酸化鉄微量

第 207 図 SK1 土坑 平面図・断面図

## 2) SK6 土坑 (第 208 図、図版 64-1~2)

S2-W61 グリッドに位置する。SD39・SD66・P505 を切る。確認された規模は長軸 1.2 m、短軸 1.1 m、深さ 24 cm を測る。平面形は不整隅丸方形を呈し、底面の中央には不整楕円形の浅い掘り込みを有する。断面は上端から下端にかけて緩やかに傾斜し、底面の中央が浅くくぼむ。堆積土は 4 層からなる。

遺物は出土していない。



SK6 土坑 土層注記表

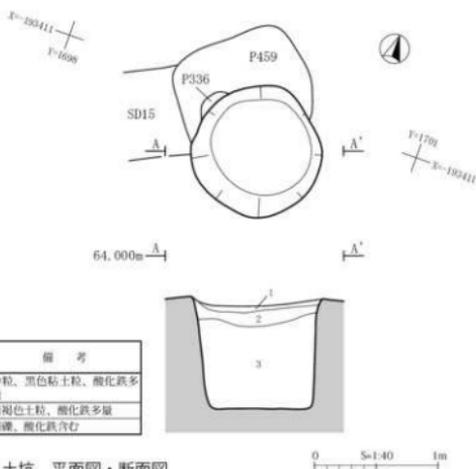
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	なし	あり	砂粒多量
2	10YR2/1	黒色	粘土	あり	ややあり	
3	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径 2 cm 以下の黒色粘土粒多量
4	10YR3/1	黒色	粘土質シルト	ややあり	あり	径 2 cm 以下の暗褐色シルト粘土含む

第 208 図 SK6 土坑 平面図・断面図

3) SK7 土坑 (第 209 図、図版 64-3～4)

S2-W60・S2-W61 グリッドに位置する。SD15・P336・P459 を切る。確認された規模は径 1 m、深さ 92cm を測る。平面形は円形を、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は 3 層からなる。

遺物は出土していない。



SK7 土坑 土層注記表

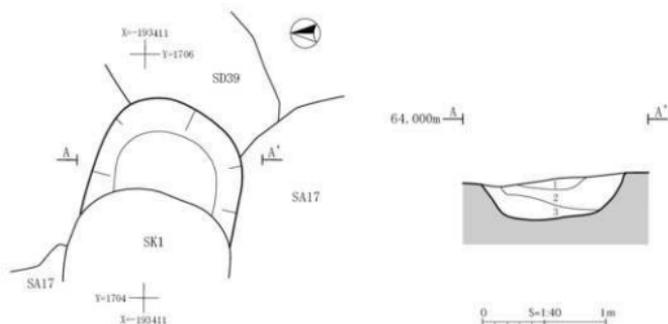
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	あり	砂粒、黒色粘土粒、酸化鉄多量
2	10YR2/3	黒褐色	粘土シルト	あり	あり	暗褐色土粒、酸化鉄多量
3	10YR4/1	褐色	粘土シルト	あり	ややあり	細礫、酸化鉄含む

第 209 図 SK7 土坑 平面図・断面図

4) SK8 土坑 (第 210 図、図版 64-5～6)

S2-W60 グリッドに位置する。SA17・SD39 を切り、SK1 によって壊される。確認された規模は南北 1.2 m、東西 74cm、深さ 32cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は 3 層からなる。

遺物は出土していない。



SK8 土坑 土層注記表

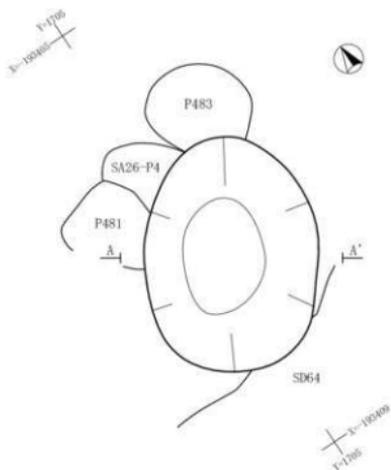
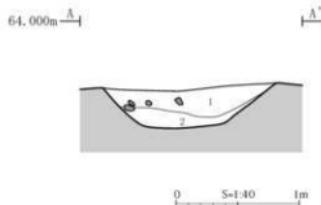
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	礫、砂粒多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	砂、細～中礫、酸化鉄多量
3	10YR4/1	褐色	シルト	あり	あり	砂粒多量、上部に酸化鉄多量

第 210 図 SK8 土坑 平面図・断面図

## 5) SK9 土坑 (第 211 図、図版 64-7~8)

S1-W60 グリッドに位置する。SD64・P481・P483・SA26-P4 を切る。確認された規模は長軸 1.9 m、短軸 1.4m、深さ 36cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は 2 層からなる。

遺物は出土していない。



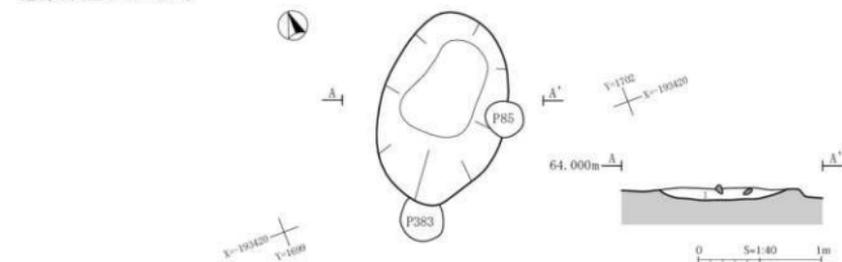
SK9 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	25Y4/3	オリブ褐色	砂質シルト	なし	あり	中~大礫多量、砂粒、酸化鉄
2	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	砂、酸化鉄多量

第 211 図 SK9 土坑 平面図・断面図

## 6) SK10 土坑 (第 212 図、図版 65-1~2)

S2-W60・S3-W60 グリッドに位置する。P383 を切り、P85 によって壊される。確認された規模は長軸 1.56 m、短軸 1.04m、深さ 8 cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は砂質シルトの単層からなる。遺物は出土していない。



SK10 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/1	褐色	砂質シルト	なし	あり	径 5 cm 以下の礫多量、砂・炭化物少量

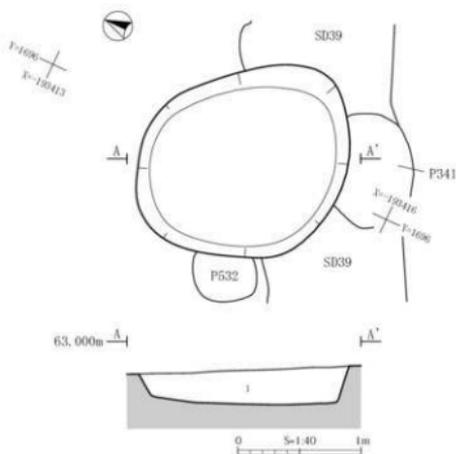
第 212 図 SK10 土坑 平面図・断面図

第3節 Ⅲ区

7) SK16 土坑 (第 213 図、図版 65-3 ~ 4)

S2-W61 グリッドに位置する。SD39・P341・P532 を切る。確認された規模は長軸 1.9 m、短軸 1.56 m、深さ 30 cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK16 土坑 土層注記表

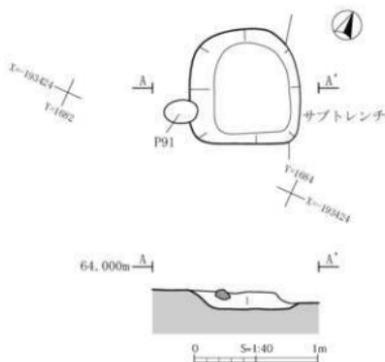
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
I	10YR4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	あり	径 5 cm 以下の黄褐色砂質シルト粒多量、1 ~ 2 cm 厚の炭化物層状に少量

第 213 図 SK16 土坑 平面図・断面図

8) SK17 土坑 (第 214 図、図版 65-5 ~ 6)

S3-W62 グリッドに位置する。P91 に切れ、東側の先端はサブレンチを入れた際に壊す。確認された規模は長軸 94 cm、短軸 90 cm、深さ 35 cm を測る。平面形は隅丸方形を断面形は皿状を呈するものと思われる。堆積土は砂質シルトの単層からなる。

遺物は出土していない。



SK17 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
I	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	なし	径 5 mm 以下の炭化物微量。に、黄褐色細粒砂少量、酸化鉄少量

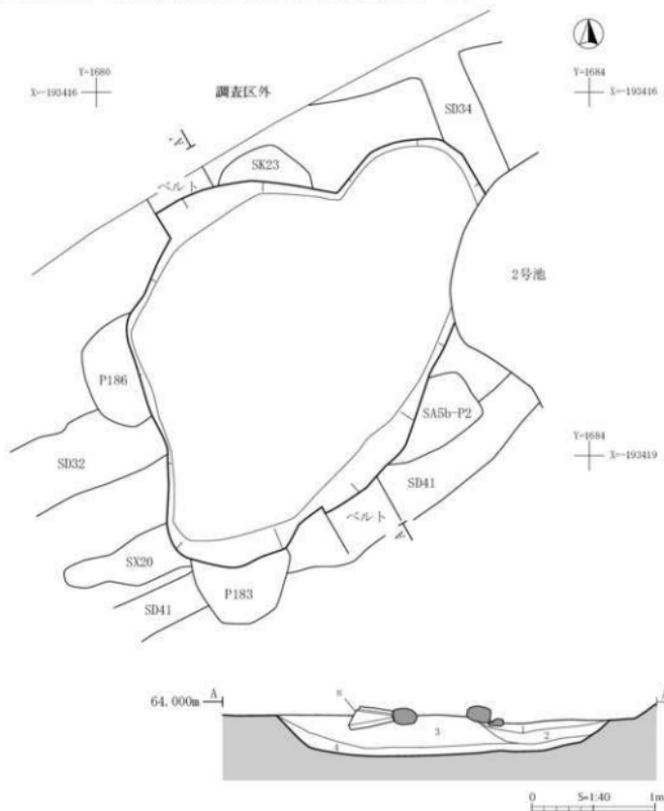
第 214 図 SK17 土坑 平面図・断面図

## 9) SK19土坑 (第215～216図、図版65-7～8)

S2-W62グリッドに位置する。SA5b-P2・SK19・SD32・SD34・SD41・SX20を切り、2号池に切られる。

確認された規模は南北3.8m、東西2.48m、深さ34cmを測る。平面形は不整形円形を、断面形は皿状を呈する。平面形状や堆積状況から部分的な整地が行なわれた跡と考えられる。堆積土は4層からなる。

遺物は18世紀前半の肥前染付碗などの磁器片、瓦等が出土している。



SK19土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒多量、炭化物微量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径5cm以下の礫少量、炭化物微量、酸化鉄多量
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径20cm以下の礫多量、炭化物少量、酸化鉄、砂粒を含む
4	10YR3/1	黒褐色	粘土	あり	ややあり	径3cm以下の炭化物少量、砂粒多量、酸化鉄少量

第215図 SK19土坑 平面図・断面図



SK19 土坑 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
216-1	114-15	S2-W62 SK19 1層	磁器	碗	体部~底部	磁密	染付	—	4.4	2.1	肥前	18世紀前半?	薄手 銘「大明 年製」?	J-25
216-2	114-16	S2-W62 SK19 1層	磁器	浅鉢	口縁~体部	磁密	白磁	—	—	(2.1)	肥前	近世	口跡	J-26

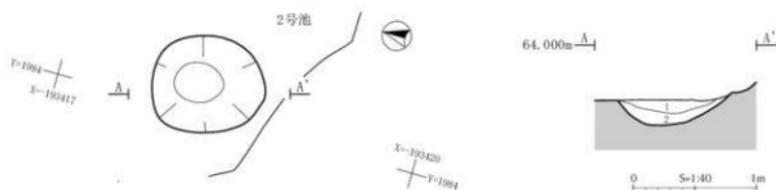
第216図 SK19土坑 出土遺物

## 10) SK25土坑 (第217図、図版66-1~2)

S2-W62グリッドに位置する。2号池によって上部を壊される。

確認された規模は南北92cm、東西79cm、深さ21cmを測る。平面形は楕円形を、断面形は開いたU字形を呈する。堆積土は2層からなる。

遺物は出土していない。



SK25土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径10cm以下の褐色粘土塊多量、径2cm以下の礫少量
2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	細礫多量

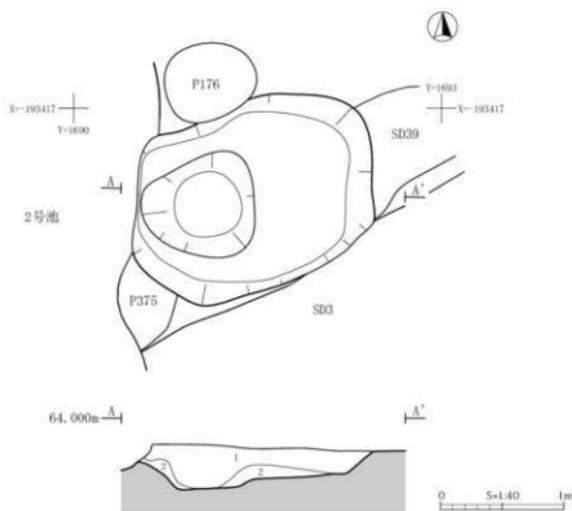
第217図 SK25土坑 平面図・断面図

## 11) SK27 土坑 (第 218 図、図版 66-3～4)

S2-W61 グリッドに位置する。SD39・P375 を切り、2 号池・SD3・P176 によって壊される。

確認された規模は長軸 1.9 m、短軸 1.6 m、深さ 36 cm を測る。平面形は不整楕円形を、断面形は底面の中央から西側かけて浅くくぼむ皿状を呈する。堆積土は 2 層からなる。

遺物は出土していない。



SK27 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐色色	粘土質シルト	あり	あり	径 15 cm以下の明黄褐色粘土塊多量、径 2 cm以下の礫少量、下部に径 10 cm以下の礫多量
2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	酸化鉄・砂多量

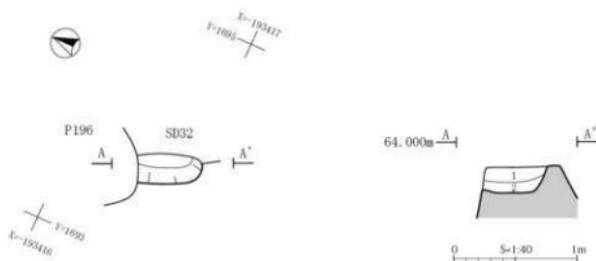
第 218 図 SK27 土坑 平面図・断面図

## 12) SK28 土坑 (第 219 図、図版 66-5～6)

S2-W61 グリッドに位置する。SD32・P196 に切られる。

確認された規模は南北 52 cm、東西 26 cm、深さ 20 cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は開いた U 字形を呈するものと思われる。堆積土は 2 層からなる。

遺物は出土していない。



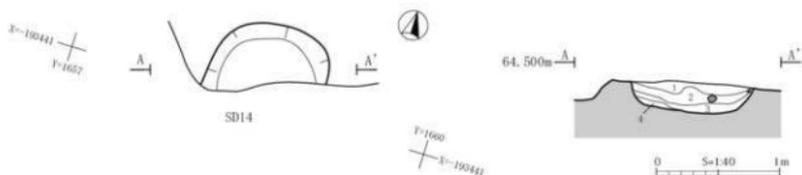
SK28 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	砂粒、径1～3cmの酸化鉄、礫多量
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	砂含む 壁から底面にかけて酸化鉄が沈着し、硬化している

第219図 SK28土坑 平面図・断面図

13) SK31土坑 (第220図、図版66-7～8)

S5-W65グリッドに位置する。南側をSD14に切られる。確認された規模は東西94cm、南北58cm、深さ24cmを測る。平面形は隅丸方形が推定され、断面形は開いたU字形を呈するものと思われる。堆積土は4層からなる。遺物は出土していない。



SK31土坑 土層注記表

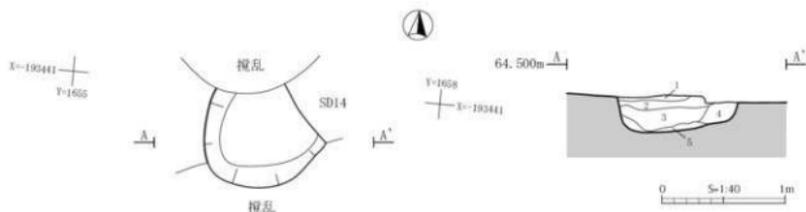
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト質粘土	あり	あり	2.5Y5/3黄褐色土粒多量、酸化鉄多量
2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/3黄褐色土粒多量、径1cmの炭化物微量
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/3黄褐色土粒少量、腐食物が混ざった土
4	2.5Y3/1	黒褐色	シルト質粘土	あり	ややあり	

第220図 SK31土坑 平面図・断面図

## 14) SK32 土坑 (第 221 図、図版 67-1～2)

S5-W65 グリッドに位置する。北側と南側を攪乱によって壊され、東側を SD14 によって切られる。確認された規模は南北 90cm、東西 1m、深さ 30cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は 5 層からなる。

遺物は出土していない。



SK32 土坑 土層注記表

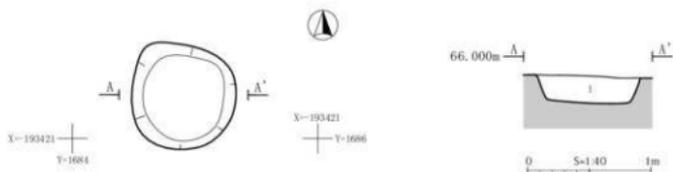
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y3/2 黒褐色土粒を少量、酸化鉄多量
2	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色土粒多量、2.5Y3/1 黒褐色土粒微量、酸化鉄多量
3	5Y2/1	黒色	砂質シルト	ややあり	なし	2.5Y4/1 黄灰色土粒多量、腐食物多量、有機化した植物
4	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色土粒微量、酸化鉄少量
5	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	

第 221 図 SK32 土坑 平面図・断面図

## 15) SK37 土坑 (第 222 図、図版 67-3～4)

S3-W62 グリッドに位置する。確認された規模は長軸 94cm、短軸 90cm、深さ 22cm を測る。平面形は北西側が張り出す不整形円形を、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



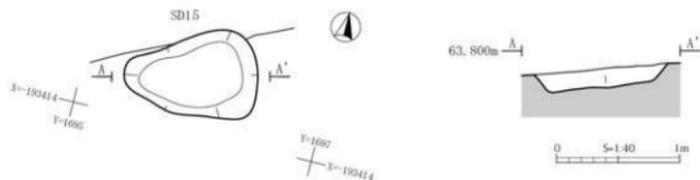
SK37 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	黒色腐植土を少量、酸化鉄多量、灰黄褐色砂質シルトを少量

第 222 図 SK37 土坑 平面図・断面図

## 16) SK47 土坑 (第 223 図・図版 67-5～6)

S2-W61 グリッドに位置する。北側をSD15に切られる。確認された規模は長軸 1m、短軸 72cm、深さ 16cmを測る。平面形は不整楕円形が推定され、断面形は底面が西方向に傾斜する皿状を呈する。堆積土は粘土質シルトの単層からなる。遺物は 18 世紀代の大堀相馬産の灰軸碗が出土している。



SK47 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5V5/4	黄褐色	粘土シルト	ややなし	ややあり	径 5 cm 以下の微少量、シルトストーン多量

第 223 図 SK47 土坑 平面図・断面図



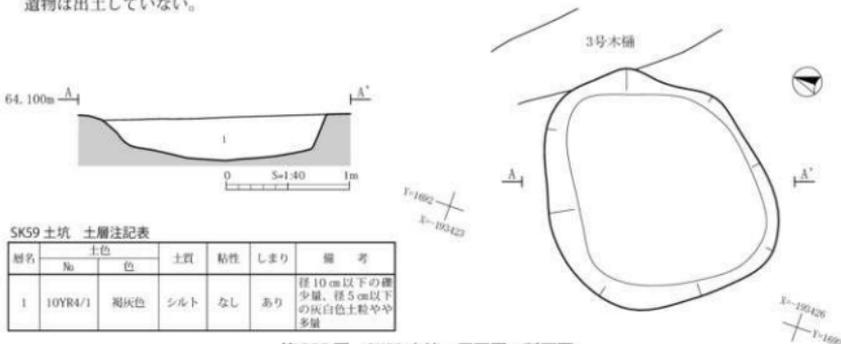
SK47 土坑 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図面 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	堆土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備 考	登録番号
								上径	底径	器高				
224-1	114-17	S2-W61 SK47 2層	陶器	碗	底部	密	灰軸	—	(6.0)	(1.9)	大堀相馬	18 世紀		1-46

第 224 図 SK47 土坑 出土遺物

## 17) SK59 土坑 (第 225 図・図版 67-7～8)

S3-W61 グリッドに位置する。東端を 3 号木樋に切られる。確認された規模は長軸 1.9m、短軸 1.8 m、深さ 34cmを測る。平面形は不整楕円形を呈し、断面形は幅の広い、開いた U 字形を呈する。堆積土はシルトの単層である。遺物は出土していない。



SK59 土坑 土層注記表

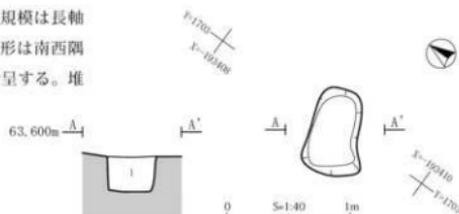
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 10 cm 以下の微少量、径 5 cm 以下の灰白色土粒や砂多量

第 225 図 SK59 土坑 平面図・断面図

## 18) SK69 土坑 (第226図、図版68-1～2)

S1-W60 グリッドに位置する。確認された規模は長軸72cm、短軸48cm、深さ28cmを測る。平面形は南西隅が張り出す不整隅丸方形を、断面形は方形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK69 土坑 土層注記表

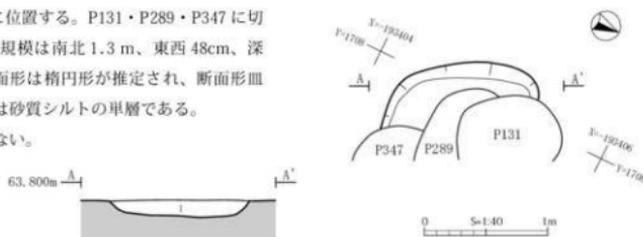
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径3cm以下の黒色土粒多量、径20cm以下の礫多量

第226図 SK69 土坑 平面図・断面図

## 19) SK70 土坑 (第227図、図版68-3～4)

S1-W60 グリッドに位置する。P131・P289・P347に切られる。確認された規模は南北1.3m、東西48cm、深さ16cmを測る。平面形は楕円形が推定され、断面形皿状を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK70 土坑 土層注記表

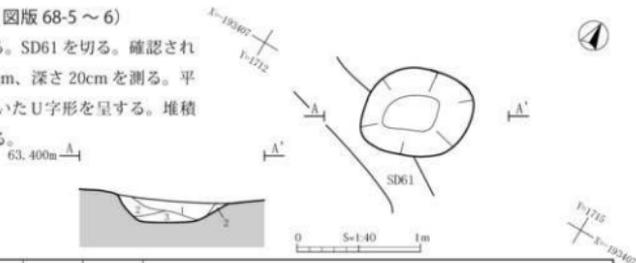
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	相灰色砂質シルトブロック多量、径2cm以下の黄褐色砂質シルト粒少量、灰黄褐色砂質シルト微量

第227図 SK70 土坑 平面図・断面図

## 20) SK71 土坑 (第228図、図版68-5～6)

S1-W59 グリッドに位置する。SD61を切る。確認された規模は長軸94cm、短軸76cm、深さ20cmを測る。平面形は楕円形を、断面形は開いたU字形を呈する。堆積土は3層の砂質シルトからなる。

遺物は出土していない。



SK71 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5mm以下の炭化物微量、酸化鉄少量
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄微量
3	5Y4/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量

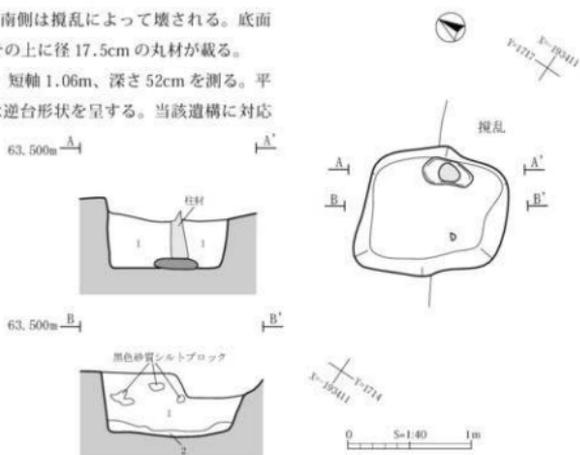
第228図 SK71 土坑 平面図・断面図

21) SK72 土坑 (第 229 図、図版 68-7 ~ 8)

S2-W59 グリッドに位置する。南側は攪乱によって壊される。底面に 22 × 40cm の礎板石を置き、その上に径 17.5cm の丸材が載る。

確認された規模は長軸 1.16 m、短軸 1.06m、深さ 52cm を測る。平面形は不整隅丸方形を、断面形は逆台形状を呈する。当該遺構に対応する柱穴は検出されていない。堆積土は 3 層からなり、1 層上部は酸化鉄の沈着が顕著である。

遺物は柱材以外、出土していない。



SK72 土坑 土層注記表

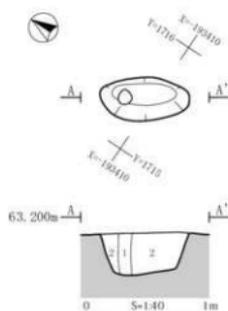
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	ややなし	ややあり	上部に酸化鉄多量 (赤色化)、下部はグライ化
2	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	ややあり	ややなし	径 1 cm 以下のパミスブロック少量

第 229 図 SK72 土坑 平面図・断面図

22) SK73 土坑 (第 230 図、図版 69-1 ~ 2)

S1-W59・S2-W59 グリッドに位置する。径 12cm の柱痕が検出された。確認された規模は長軸 72cm、短軸 36cm、深さ 34cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は逆台形を呈する。当該遺構に対応する柱穴は検出されていない。堆積土は 2 層からなり、1 層は柱痕、2 層は掘り方土である。

遺物は出土していない。



SK73 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	7.5YR6/2	灰褐色	砂質シルト	ややあり	なし	柱痕 酸化鉄微量
2	7.5YR6/3	にぶい褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径 1 cm 以下のシルトストーン微量

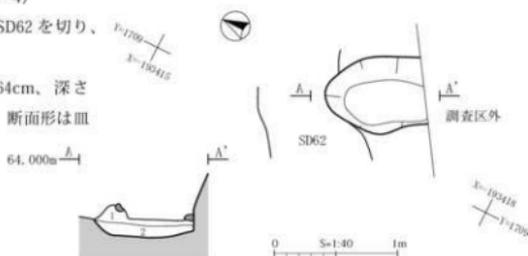
第 230 図 SK73 土坑 平面図・断面図

## 23) SK74 土坑 (第 231 図、図版 69-3 ~ 4)

S2-W60 グリッドに位置する。北側で SD62 を切り、南側は調査区外へ延びる。

確認された規模は南北 80cm、東西 64cm、深さ 24cm を測る。平面形は楕円形が想定され、断面形は皿状を呈する。堆積土は 2 層からなる。

遺物は出土していない。



SK74 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト質砂	なし	あり	径 1cm 以下の礫 炭化物少量
2	10YR5/1	褐灰色	シルト質砂	なし	なし	炭化物微量

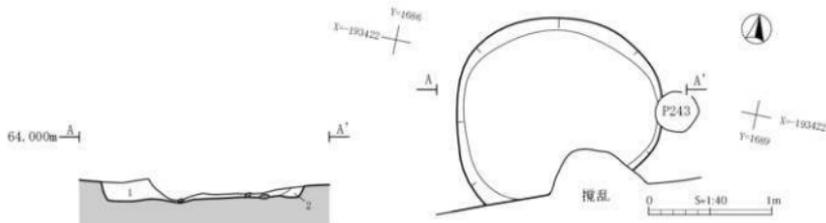
第 231 図 SK74 土坑 平面図・断面図

## 24) SK78 土坑 (第 232 ~ 233 図、図版 69-5)

S3-W62 グリッドに位置する。南側を視乱によって壊され、東側を P243 により切られる。

確認された規模は南北 1.76 m、東西 1.62m、深さ 16cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は皿状を呈する。堆積土は 2 層からなる。

遺物は瓦、金属製品が出土している。第 233 図 - 1 は弾で、鉛製と見られる。



SK78 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR5/1	褐灰色	シルト質砂	なし	ややあり	径 10cm 以下の礫多量、径 1cm のシルトストーンやや少量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	粗砂少量

第 232 図 SK78 土坑 平面図・断面図

SK78 土坑 出土遺物観察表 (金属製品)

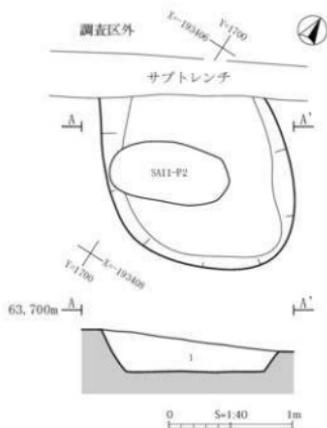
採取番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	部位	法量 (cm <sup>3</sup> g)				備 考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
233-1	114-18	S3-W63 SK78 下層	弾	—	1.4	—	—	13.28	一部剥落	N-3

第 233 図 SK78 土坑 出土遺物

25) SK81 土坑 (第 234 図、図版 69-6～7)

S1-W60・S1-W61 グリッドに位置する。中央を SA11-P2 に切れられ、北側は調査区外へ延びる。確認された規模は南北 1.72 m、東西 1.48 m、深さ 30 cm を測る。平面形は楕円形が想定され、断面形は逆台形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層からなる。

遺物は出土していない。



SK81 土坑 土層注記表

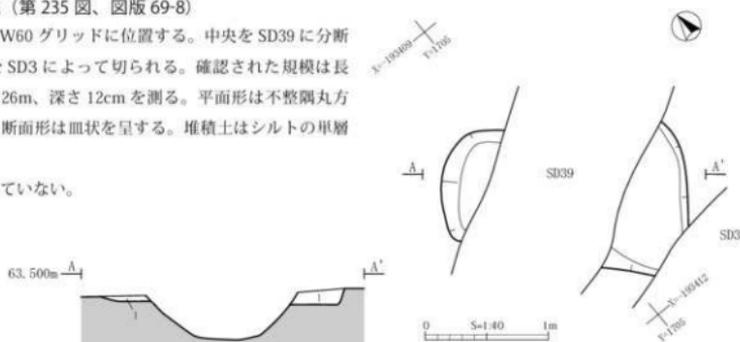
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR6/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径 30 cm 以下の礫少量、径 10 cm 以下の礫多量、酸化鉄やや多量

第 234 図 SK81 土坑 平面図・断面図

26) SK82 土坑 (第 235 図、図版 69-8)

S1-W60・S2-W60 グリッドに位置する。中央を SD39 に分断され、南端隅を SD3 によって切られる。確認された規模は長軸 2 m、短軸 1.26 m、深さ 12 cm を測る。平面形は不整隅丸方形が推定され、断面形は皿状を呈する。堆積土はシルトの単層からなる。

遺物は出土していない。



SK82 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 15 cm 以下の礫多量

第 235 図 SK82 土坑 平面図・断面図

## 27) SK84 土坑 (第 236 図、図版 70-1～2)

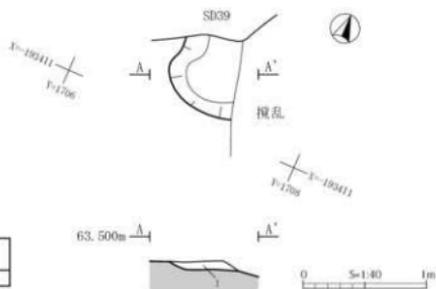
S2-W60 グリッドに位置する。東側を視乱によって壊され、北側を SD39 に切られる。

確認された規模は南北 66cm、東西 58cm、深さ 8cm を測る。平面形は不明、断面形は皿状を呈するものと思われる。堆積土はシルト質砂の単層からなる。

遺物は出土していない。

SK84 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質砂	ややなし	ややあり	礫化痕少量



第 236 図 SK84 土坑 平面図・断面図

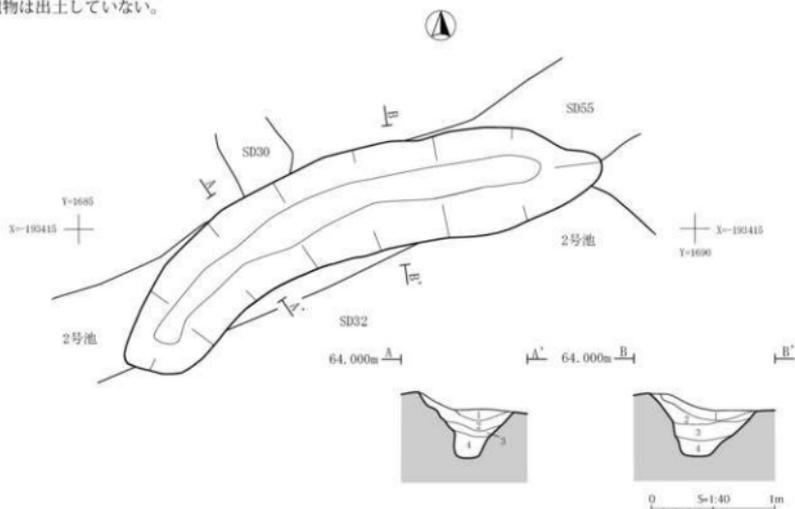
## (5) その他の遺構

## 1) SX8 性格不明遺構 (第 237 図、図版 70-3～4)

S2-W62 グリッドに位置する。東西方向に弧を描くように延びる溝状の掘り込みである。南側で SD32 を、東側で SD55 を切る。北側は SD30 に、また全体を 2 号池によって壊される。

確認された規模は長軸 4.27 m、短軸 86cm、深さ 44cm を測る。断面形は開いた U 字形を呈するが、中端に段を有するところもある。堆積土は 4 層からなり、1・2 層は上位整地層による埋め戻し土、3・4 層は砂礫層で、流入土の可能性はある。

遺物は出土していない。



SX8 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	あり	あり	砂粒1~2cmの礫少量
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	あり	あり	砂粒1~2cmの礫少量 一部グライ化
3	7.5YR4/4	褐色	砂礫	なし	なし	酸化鉄多量、5~10cmの礫少量
4	5Y4/1	灰色	砂礫	なし	なし	

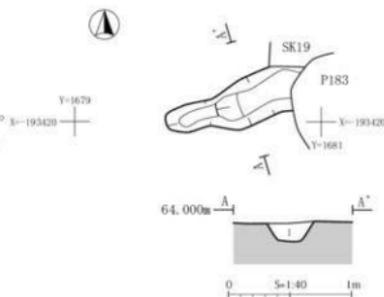
第237図 SX8 性格不明遺構 平面図・断面図

## 2) SX20 性格不明遺構 (第238図、図版70-5~6)

S2-W62~S3-W63グリッドに位置する。東側はSK19とP183によって切れ、西側は壁が立ちあがって途切れる。

確認された規模は長軸1.22m、短軸38cm、深さ22cmを測る。平面形は溝状を呈するものと思われる。底面は西から東へ1段下がり、断面形は開いたU字形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SX20 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	あり	黄灰色砂質シルト多量、酸化鉄少量

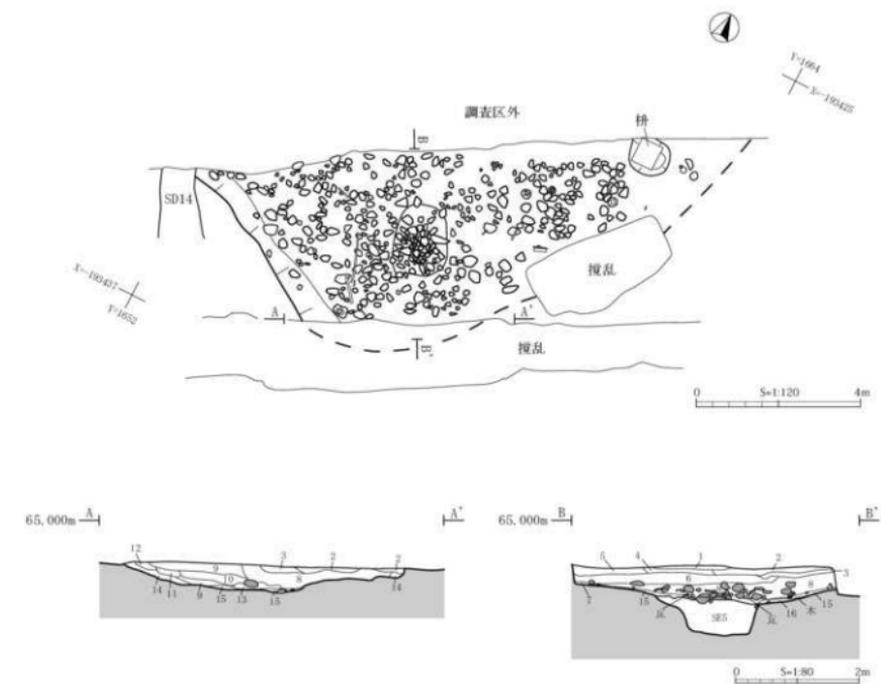
第238図 SX20 性格不明遺構 平面図・断面図

## 3) 5号池 (第239~242図、図版70-7)

S3-W64~S4-W65グリッドに位置する。東側は4号池に、西端はSD14に切れ、南側は攪乱によって壊される。北側は調査区外に広がる。南側から東側にかけての範囲は、土層断面の観察を元にして破線で示した。確認された規模は東西13.7m、南北約4.3m、深さ50~70cmを測る。底面には約5cmの厚さで粘土質シルト~粘土を貼り、その上に径1~3cmの玉石を敷いている。底面からはSE5が検出され、また掘り方面からは枡の底板が出土した。

堆積土は16層からなり、1~13層までは埋め戻し土、14~16層は構築時に貼られた粘土質シルト~粘土である。

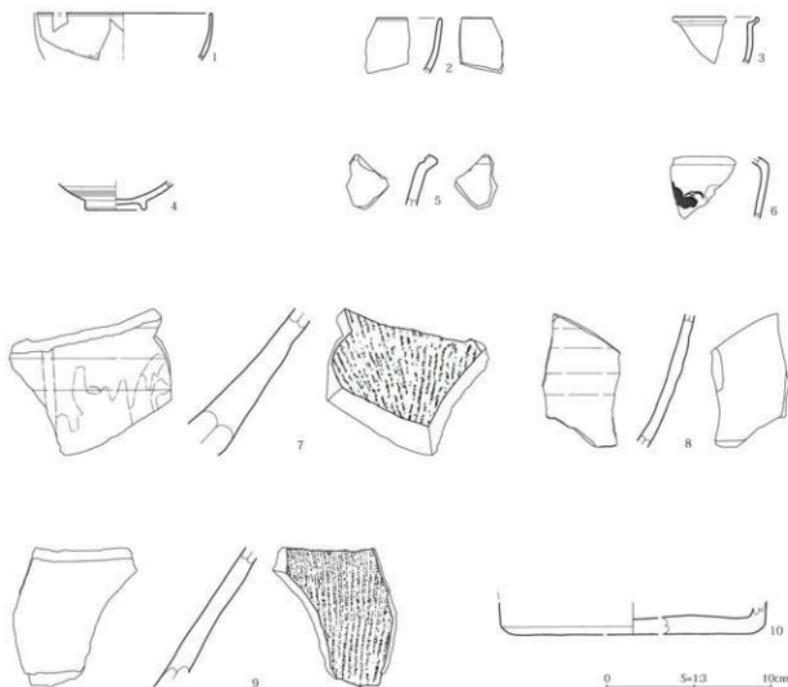
遺物は8層から集中して出土している。18世紀を中心に17世紀後半から19世紀代の陶磁器、木製品、瓦、金属製品がみられる。



5号池 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/4	褐色	シルト	なし	なし	径1cm以下の暗褐色土粒少量 黄褐色土粒多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	径5mm以下の黄褐色土粒少量
3	10YR5/1	褐灰色	シルト	なし	なし	径3mm以下の黄褐色土粒少量
4	10YR3/3	暗褐色	シルト	あり	あり	径1~3cmの礫多量
5	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	なし	径1~3cmの礫多量
6	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径10cm以下の礫多量 径5mm以下の炭化物少量
7	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径10cm以下の礫多量
8	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	砂粒少量、瓦・礫多量
9	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径10cm以下の礫少量
10	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径10cm以下の礫多量
11	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂互層状に少量
12	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	あり	あり	砂互層状に少量
13	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒多量、径2cm以下の黄褐色土粒多量
14	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径30cm以下の礫多量、2.5Y4/3オリーブ褐色砂少量、酸化鉄少量
15	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	3cm以下の玉石、酸化鉄微量
16	10YR4/4	褐色	粘土	あり	あり	砂粒少量

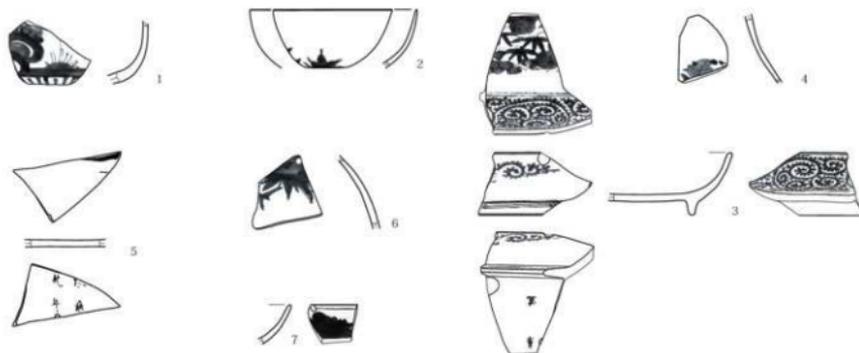
第239図 5号池 平面図・断面図



5号池 出土遺物観察表(陶器)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 道幅・樹位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量(cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
240-1	115-3	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	碗	口縁~体部	密	灰輪・鉄輪 拵分	(5.4)	—	(2.9)	大塚粗馬	18世紀		1-74
240-2	115-2	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	碗	口縁~体部	密		—	—	(3.3)	大塚粗馬	18世紀		1-73
240-3	115-8	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	土鍋	口縁~体部	密	鉄輪	—	—	(2.9)	大塚粗馬	19世紀前半		1-69
240-4	115-5	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	皿	体部~底部	密	鉄輪・灰輪	—	(3.5)	(1.75)	大塚粗馬	19世紀		1-71
240-5	115-1	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	鉢	口縁~体部	やや粗	灰輪	—	—	(3.2)	唐津	17世紀後半		1-70
240-6	115-4	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	手筒碗	体部	密	色絵	—	—	(3.85)	京・信楽系	18世紀		1-72
240-7	115-15	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	摺鉢	体部	やや粗	鉄輪	—	—	(9.9)	在地?	18世紀?		1-77
240-8	115-14	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	逆か頒	体部	密	鉄輪	—	—	(8.3)	瀬戸・美濃?	18世紀以降		1-76
240-9	115-10	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	摺鉢	体部	やや粗	鉄輪	—	—	(8.6)	在地系	18世紀		1-75
240-10	115-16	S3・4-W64・65 5号池 下層	瓦質土 器	火鉢	底部	粗		—	—	(9.4)	在地	近世		1-210

第240図 5号池 出土遺物



5号池 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			高地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
241-1	115-9	S3・4-W64・65 5号池 埋土	磁器	碗	体部	緻密	染付	—	—	(3.9)	肥前	19世紀前半		J-51
241-2	115-12	S3・4-W64・65 5号池 8層	磁器	碗	口縁~体部	緻密	染付若松文	—	—	(3.6)	肥前	18世紀後半		J-48
241-3	115-17	S3・4-W64・65 5号池 8層	磁器	瓶類	胴部	緻密	染付草花文	—	—	(4.0)	肥前	18世紀?		J-247
241-4	115-7	S3・4-W64・65 5号池 8層	磁器	内皿	口縁~底部	緻密	染付蘭唐草文・松竹梅文	—	—	(4.0)	肥前	18世紀?		J-49
241-5	115-13	S3・4-W64・65 5号池 8層	磁器	皿	底部	緻密	染付	—	—	(3.6)	肥前	17世紀~ 18世紀	路「大明製 年」	J-47
241-6	115-11	S3・4-W64・65 5号池 8層	磁器	瓶?	体部	緻密	染付	—	—	(4.1)	肥前	18世紀代		J-46
241-7	115-6	S3・4-W64・65 5号池 8層	磁器	皿	口縁~体部	緻密	染付草文	—	—	(2.9)	肥前	17世紀~ 18世紀		J-50

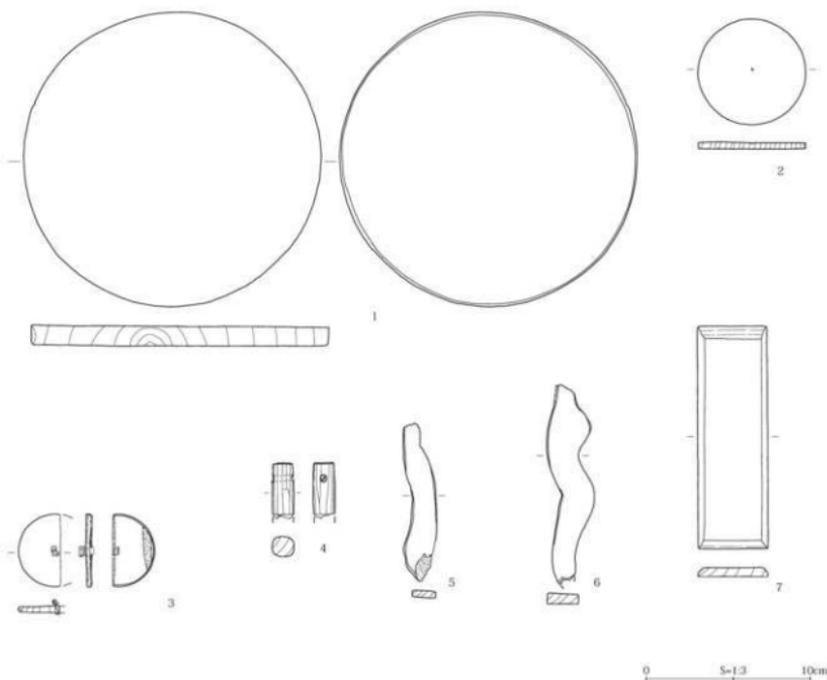
5号池 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
241-8	115-18	S3・4-W64・65 5号池 5層	焼瓦	(30.6)	(17.6)	2.0		H-7

5号池 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備 考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
241-9	115-26	S3・4-W64・65 5号池 最下層	匙	突起	16.95	0.95	0.15	14.07		N-16

第241図 5号池 出土遺物



5号池 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
242-1	115-21	S3・4-W64・65 5号池 5層	曲物	19.8	19.8	1.3		L-99
242-2	115-19	S3・4-W64・65 5号池 5層	曲物	7.3	7.3	0.5		L-98
242-3	115-20	S3・4-W64・65 5号池 5層	蓋?	5.0	(2.8)	0.5	細付	L-103
242-4	115-24	S3・4-W64・65 5号池 5層	加工木	(3.8)	1.5	—	穿孔あり	L-102
242-5	115-23	S3・4-W64・65 5号池 5層	不明	(10.9)	2.1	0.5	装飾品か	L-101
242-6	115-22	S3・4-W64・65 5号池 5層	不明	(13.5)	3.0	0.9	装飾品か	L-100
242-7	115-25	S3・4-W64・65 5号池 5層	加工木	15.0	4.6	0.7		L-104

第242図 5号池 出土遺物

### 3 Ⅲ層上面

Ⅲ層上面では柱列跡1条、溝跡5条、土坑3基、ピット7基、木樋3条、池跡4基が確認されている。池跡では、2号池にSD3、4号池に2号木樋、6号池に3号木樋およびSD4などの水回り施設が伴って検出された。

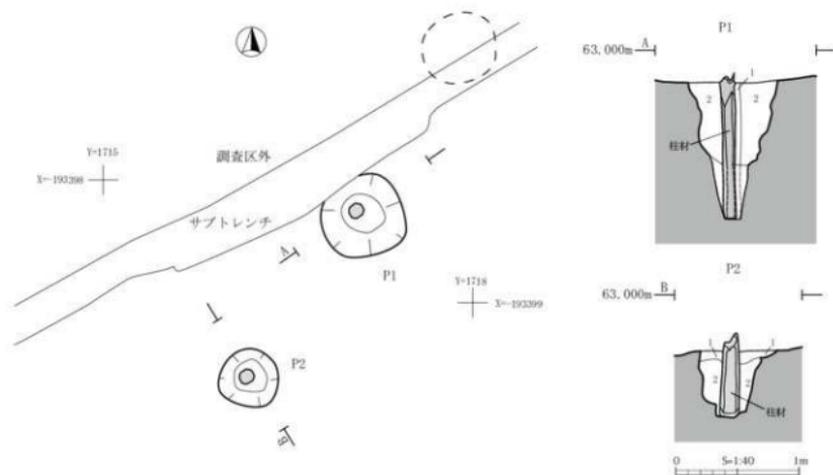
#### (1) 柱列跡

##### 1) SA8柱列跡(第243～244図、図版72-1～2)

N1-W59グリッドに位置する。南北方向に並ぶ2基の柱穴からなる。P1・P2ともに八角形に面取りした柱材が出土している。

確認された掘り方の規模は、P1が長軸69cm、短軸の残存長62cm、深さ112cm、P2は長軸51cm、短軸49cm、深さ50cmを測る。主軸方向はN-32°-Eを示す。柱間寸法は1.62m(5尺3寸)を測る。堆積土は2層からなる。

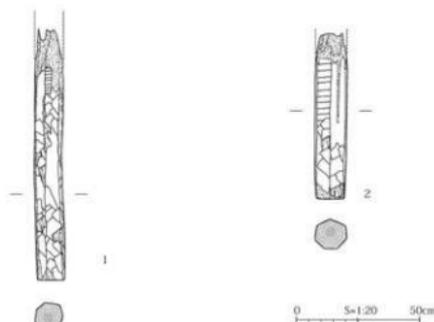
遺物は柱材以外、出土していない。



SA8柱列跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	なし	ややあり	径2m以下の白色土粒少量
2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	なし	あり	径1m以下の白色土粒少量、径3m以下のシルトストーンやや多量

第243図 SA8柱列跡 平面図・断面図



SA8 柱列跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
244-1	116-1	N1-W59 SA8	柱材	102	12.0	12.0	芯持ち柱材を転用 7角に面取り	L-107
244-2	116-2	N1-W59 SA8	柱材	67	11.5	11.5	芯持ち柱材を転用 7角に面取り	L-108

第244図 SA8柱列跡 出土遺物

## (2) 溝 跡

## 1) SD3 溝跡 (第245・247図、図版58-2・72-3～8)

S2-W69～S3-W62グリッドに位置する東西方向に走る溝である。西側は2号池に、東側は4号木樋に切られる。西端では掘り込みはほとんど確認できず、側石が露出した状態で検出されたことから、途切れるかまたは上部が削平されたものと考えられる。東端は掘乱れによって壊され、そこに先へ延びていた痕跡が認められないことから途切れるものと推定される。

確認された規模は長さ26.6mで、西端から北東方向に18.7m走り、そこから屈曲して東方向に7.9m延びる。側石と側石の内幅25～35cm、掘り方の上幅80～102cm、下幅42～60cm、深さ20～34cmを測る。断面形は開いたU字形を呈する。

側石は2号池の東側で約4m、西側で約1.8mが検出された。その他の部分では抜き取られた痕跡等も確認できないことから、部分的に側石を伴う溝と考えられる。側石には20～45cmの打ち欠いた川原石と、25～53cmの未加工のものなどが半々に使用される。石蓋が載る付近では2段積み、その他では1段のみが遺存する。石蓋には40～57cmの全面加工した扁平な石を使用している。主軸方向は西端からの直進部分がN-63°E、屈曲部より東側はN-93.5°Eを示す。

堆積土は8層確認された。1～5層は側石を伴わない部分の堆積土で、粘土質シルトを主体とし、埋め戻し土とみられる。側石部分の溝内堆積土である6・7層は水成堆積土で、8層は掘り方埋土である。

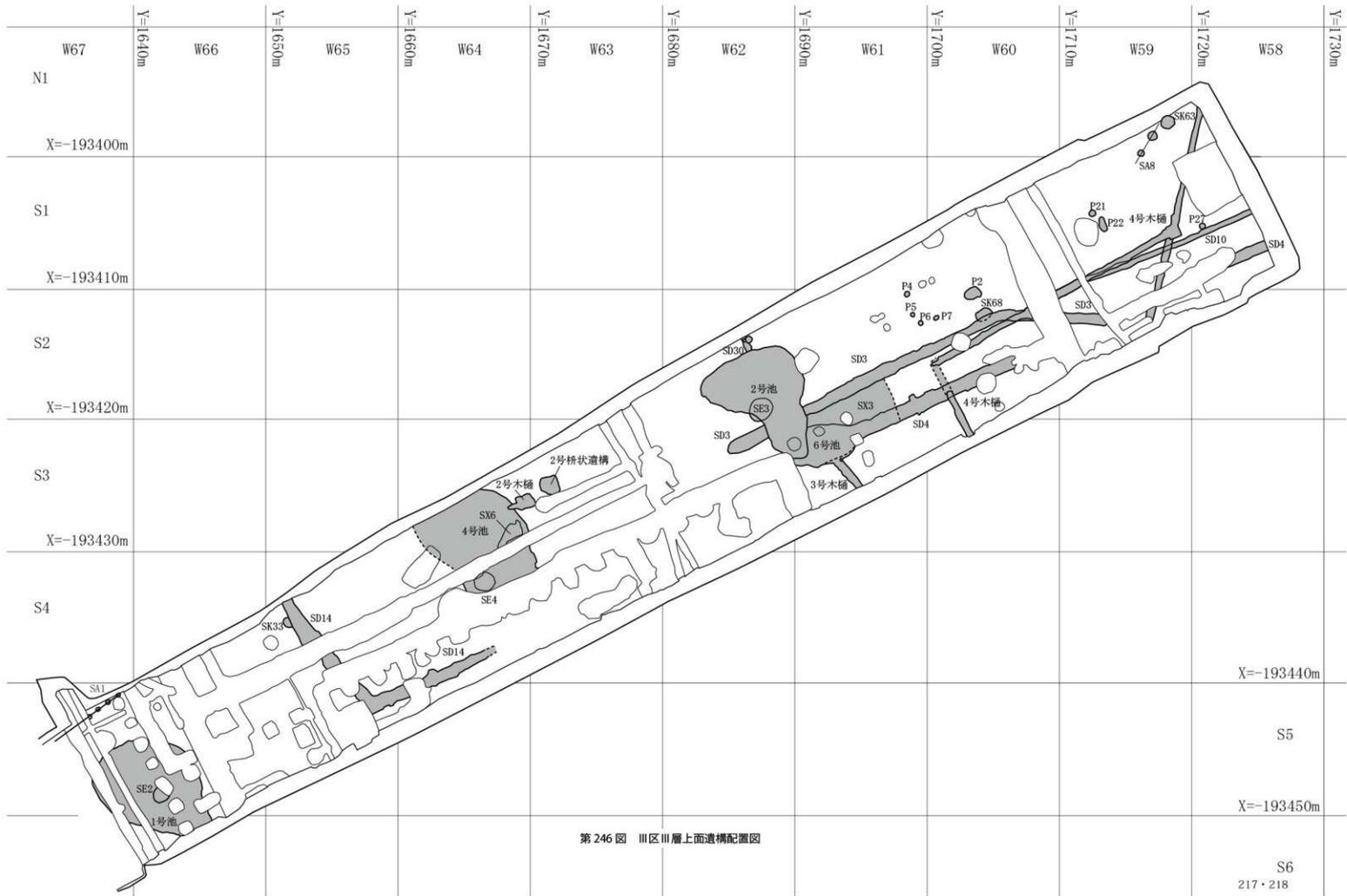
遺物は17世紀代の唐津産鉢、18世紀代の大塚相馬産掛分碗が側石を伴わない溝の堆積土から出土している。



SD3 溝跡 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	散土	文様等	法量 (cm)		産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径				
245-1	116-3	S2-W60 SD3 2層	陶器	鉢	体部	密	—	—	(3.6)	唐津	17世紀?		I-5
245-2	116-4	S2-W60 SD3 3層	陶器	碗	体部	密	灰輪鉄輪掛分	—	(1.75)	大塚相馬	18世紀	掛分け碗	I-6

第245図 SD3溝跡 出土遺物



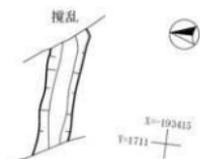
第246図 III区III層上面遺構配置図

X=-193440m

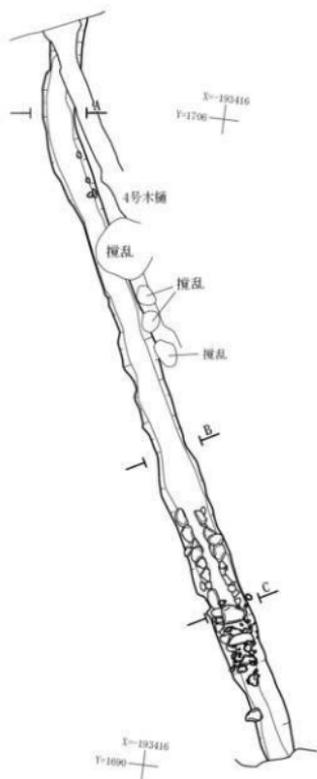
S5

X=-193450m

S6



覆乱



2号池

0 S=1:120 4m



64.000m A



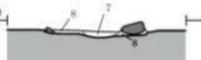
64.000m B



64.000m C



64.000m D



0 S=1:40 1m

SD3 溝跡 土層注記表

部位	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		肌	色				
表層部分	1	10YR4/1	暗灰色	粘土質シルト	あり	あり	径3cm以下の礫少量、炭化糞多量
	2	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径5cm以下の礫少量、炭化物微量
	3	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	径10cm以下の礫多量、炭化物少量
	4	10YR3/4	暗褐色	シルト質粘土	あり	あり	
	5	10YR5/1	暗灰色	粘土質シルト	あり	あり	径10cm以下の礫少量、炭化糞多量
石組部分	6	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト質砂	なし	なし	砂粒多量 水成堆積土
	7	10YR4/3	にぶく黄褐色	シルト質砂	なし	なし	砂粒多量 水成堆積土
	8	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	

第247図 SD3 溝跡 平面図・断面図

## 2) SD4 溝跡 (第248～249図、図版58-2・73-1～4)

S2-W60・S1-W58グリッドに位置する。東西方向に直線的に走る石組溝である。西側はSX3を掘りあげた底面から検出された。東側は当初、別の溝として登録したが、主軸方位・規模が一致することから同一の溝として登録し直した。中央は攪乱によって壊され、西端は6号池、中央を4号木樋に切られる。東端は調査区外へ延びる。

確認された規模は、中央の攪乱部の西側で長さ13.3m、東側で2.7m、側石の内幅25～30cm、掘り方の上幅1～1.2m、下幅70～90cm、深さ24～39cmを測る。主軸方向はN-65°-Eを示す。断面形は逆台形を呈する。東端から西端までの距離は34mである。

側石は6号池付近で15～40cmの川原石を2段積む。SD3と同様に部分的に側石を伴う溝である。

堆積土は1～5層からなり、1～3層は溝内堆積土、4・5層は掘り方埋土である。西端の6号池と交わる部分での断面観察から、6号池の堆積土がSD4の堆積土と重複して確認されたため、6号池とSD4はほぼ同時期に機能していたものと考えられる。

遺物は16世紀末～17世紀初頭の唐津産鉄絵皿、17世紀後半の肥前産折縁皿、金属製の弾が溝内の堆積土中から出土している。



0 S=1:3 10cm



0 2.5cm



0 S=1:1 2.5cm

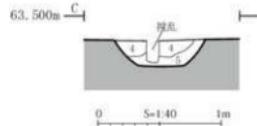
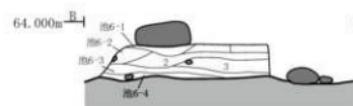
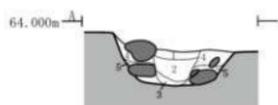
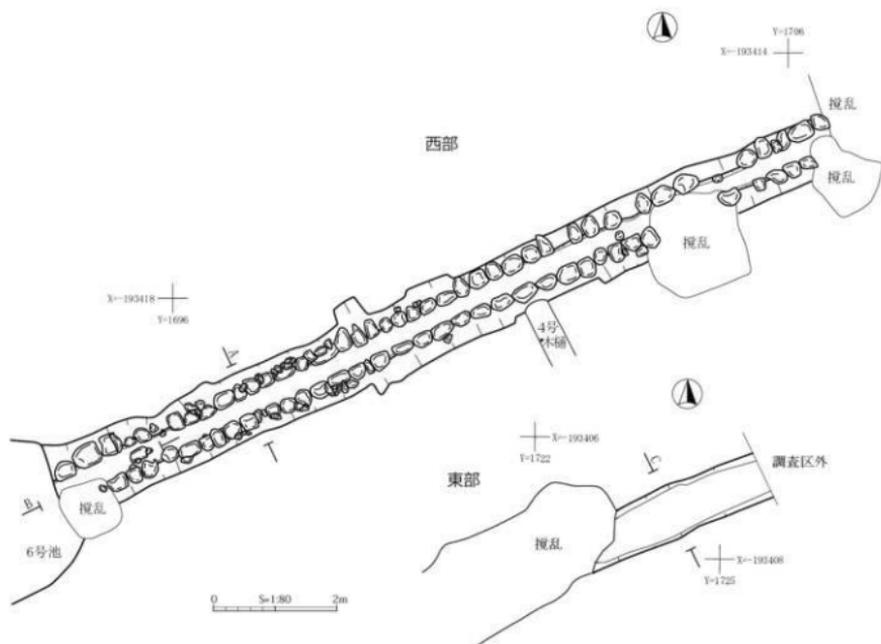
SD4 溝跡 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
248-1	116-5	S2・3-W60・61	陶器	折縁皿	口縁	密	灰輪・青緑釉	—	—	(1.65)	肥前	17世紀後半		1-7
		SD4 1層												
248-2	116-6	S2・3-W60・61	陶器	皿	底部	やや密	鉄絵	—	—	(1.3)	唐津	16世紀末～17世紀初		1-8
		SD4 1層												

SD4 溝跡 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)			備 考	登録番号	
					長さ	幅	厚さ			
248-3	116-7	S2・3-W60・61	弾	—	1.25	—	—	10.24	一部脱落	N-4
		SD4 1層								

第248図 SD4 溝跡 出土遺物



SD4 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	砂粒多量 径1~2cmの礫少量
2	10YR3/1	黒褐色	シルト	あり	なし	砂粒多量 径1~2cmの礫少量
3	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂	ややあり	なし	砂粒多量 植物遺体少量 水性堆積土
4	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	あり	なし	径3~5cmの礫多量
5	7.5Y4/1	灰色	粘土質シルト	あり	あり	径3~5cmの礫多量

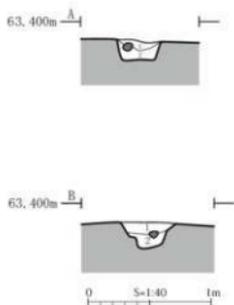
第249図 SD4 溝跡 平面図・断面図

3) SD10 溝跡 (第 250 図、図版 74-1 ~ 3)

S1-W58 ~ S2-W601 に位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。西側を攪乱によって壊され、中央から西側にかけて 4 号木樋に切られる。東端は調査区外へ延びる。西端はその先に延びていた痕跡なく、途切れるものと思われる。

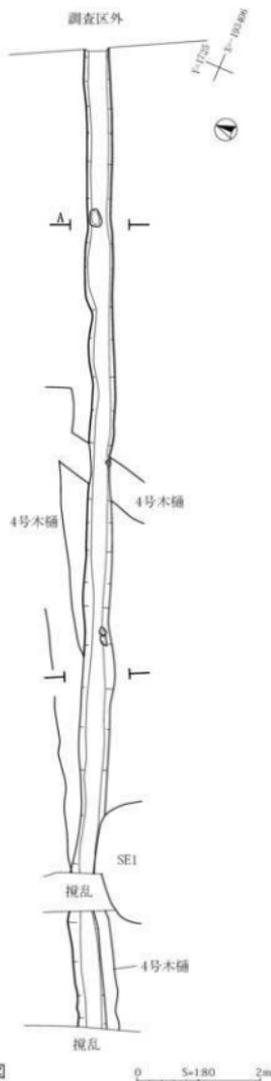
確認された規模は長さ 29m、上幅 32 ~ 52cm、下幅 20 ~ 28cm、深さ 20 ~ 25cm を測る。主軸方向は N-67° -E を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は 2 層からなる。2 層はラミナ構造が見られ、水成堆積土と考えられる。

遺物は出土していない。



SD10 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	あり	あり	1 ~ 5 mm の黄褐色砂質シルト粒、1 ~ 5 mm の白色粘土粒、1 ~ 2 mm の炭化物粒多量、小礫少量
2	10YR2/1	黒色	粘土	あり	あり	砂互層状に多量、小礫少量



第 250 図 SD10 溝跡 平面図・断面図

## 4) SD14 溝跡 (第 251・253 図、図版 74-6～7・75-1)

S4-W64～S5-W65 グリッドに位置し、L 字状に屈曲する石組溝である。SK33 を切り、所々攪乱により寸断される。東端は攪乱によって壊され、その先に続いていたかは不明である。北端は調査区外へ延びる。

確認された規模は、南北の長さ 10m、東西の長さ 9.3m、側石と側石の内幅 30～37cm、掘り方の幅 95～130cm、深さ 13～18cm を測る。主軸方向は南北が N-40°-E を、東西が N-65°-W を示す。断面形は皿状を呈する。

側石には 18～33cm の川原石が主に使われるが、南北方向の東側石の内側に長さ 30～38cm の細長い切り石が 2 個置かれているのが検出された。側石はすべて 1 段のみ遺存する。

堆積土は 6 層からなり、1～4 層は溝内堆積土、5・6 層は掘り方埋土である。L 字に曲がることから、屋敷境を示す区画溝の可能性はある。

遺物は 18 世紀前半～中頃の肥前産染付碗、19 世紀前半の堤産小瓶が出土している。



SD14 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								L径	口径	器高				
251-1	116-8	S4・3-W65	陶器	小瓶	体部	やや粗	鉄軸	—	—	(3.0)	堤	19 世紀前半		I-15
		SD14 埋土一括												
251-2	116-9	S4・3-W65	磁器	碗	口縁～体部	織土	染付草花文 (コンニャク印判)	—	—	(3.9)	肥前	18 世紀前半～中頃		J-2
		SD14 1 層												

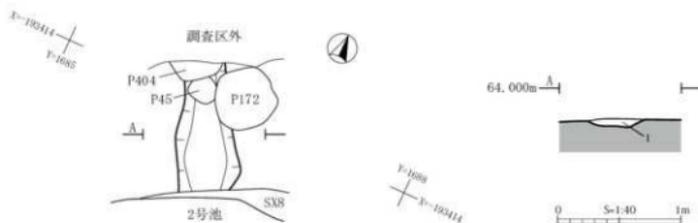
第 251 図 SD14 溝跡 出土遺物

## 5) SD30 溝跡 (第 252 図、図版 74-4～5)

S2-W62 グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。南側を 2 号池・SX8 に切られ、北側を P45・P172・P404 に切られる。北側は調査区外に延びるものと思われる。

確認された規模は長さ 1m、幅 50cm、深さ 6cm を測る。主軸方向は N-23°-W を示す。断面形は皿状を呈する。堆積土は黄褐色シルトの単層である。

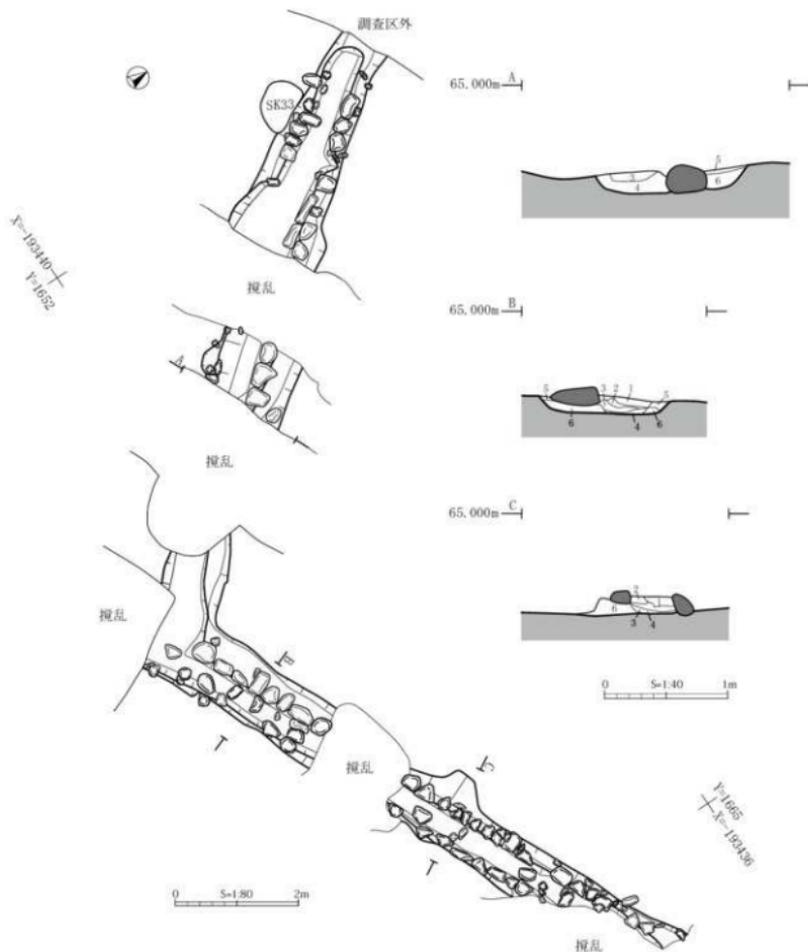
遺物は出土していない。



SD30 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR5/6	黄褐色	シルト	なし	なし	3cm以下暗褐色土粒少量

第 252 図 SD30 溝跡 平面図・断面図



SD14 溝跡 土層注記表

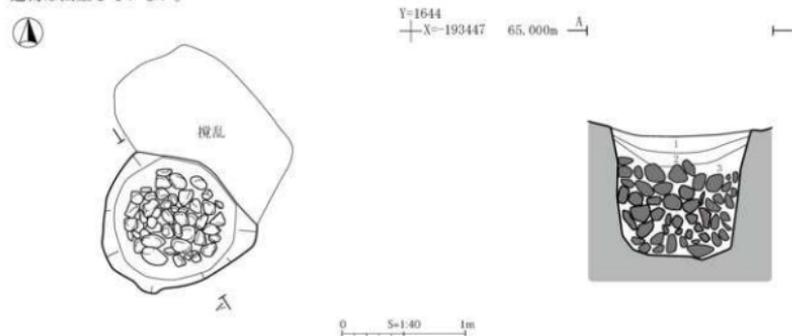
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径2cm以下の礫微量、酸化鉄少量
2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄少量
3	10YR3/1	黒褐色	シルト	あり	なし	砂粒多量、径1~2cmの礫少量
4	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂	ややあり	なし	砂粒多量、植物遺体少量
5	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	黒色砂質シルト多量、ブロック状の褐色砂質シルト少量
6	5Y5/1	灰色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄少量

第253図 SD14 溝跡 平面図・断面図

## (3) 井戸跡

## 1) SE2 井戸跡 (第254図、図版75-2～4)

S5-W66 グリッドに位置する素掘りの井戸である。1号池の底面で検出した。北側は擾乱によって壊される。確認された規模は長軸118cm、短軸108cm、深さ107cmを測る。平面形は楕円形を、断面形はU字形を呈する。堆積土は3層からなる。1・2層は堆積状況から埋め戻し土と思われる。3層は5～15cmの礫を多量に含む。遺物は出土していない。



Y=1641  
X=-193450

SE2 井戸跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	7.5Y4/1	灰色	粘土	あり	あり	径20cm以下の礫多量、灰オリーブ粘土粒少量
2	5G4/1	暗緑灰色	粘土	あり	なし	径2cm以下の灰白色土粒少量、径5cm以下の礫少量
3	5G4/1	暗緑灰色	粘土質シルト	あり	なし	径5～15cmの礫多量

第254図 SE2 井戸跡 平面図・断面図

## 2) SE3 井戸跡 (第255～256図、図版75-5・76-1～2)

S2-W62・S3-W62 グリッドに位置する石組井戸である。2号池の底面を精査している際に検出された。

確認された規模は石組の内径84～90cm、掘り方の長軸187cm、短軸163cm、深さ98cmを測る。平面形は楕円形、断面形は中位に段を持つ逆凸字状を呈する。石組は20×30cm～21×40cmの端部を打ち欠いた川原石と無加工のものを円形に乱積みする。

堆積土は6層からなり、1・2層は上位の2号池底面の構築粘土が入り込んでいるものと思われる。3層は井戸内の堆積土で、4～6層は掘り方埋土である。

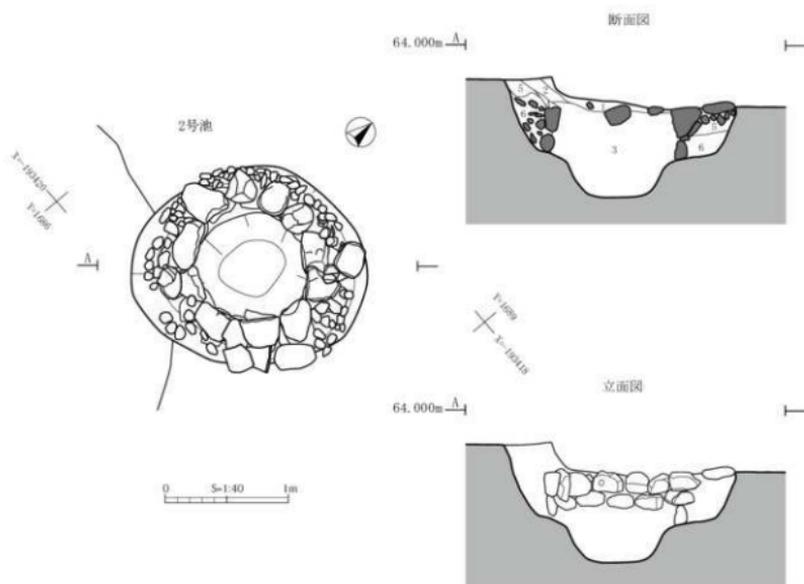
遺物は掘り方埋土より16世紀末～17世紀前半の中国景德鎮産の皿、瓦等が出土している。



SE3 井戸跡 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
255-1	116-10	S2・3-W62 SE3 5層	磁器	皿	底部	磁赤	染付	—	—	(0.8)	中国・景德鎮	16世紀末～17世紀前半		J-59

第255図 SE3 井戸跡 出土遺物



SE3井戸跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	炭化物微量
2	10YR4/1	褐色	シルト質砂	なし	ややあり	砂多量、酸化鉄多量
3	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土	あり	あり	径30cm以下の礫多量、砂やや多量
4	5Y6/2	灰オリーブ色	粘土	あり	あり	
5	7.5YR4/4	褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	砂多量
6	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	黄褐色土粒多量、炭化物多量

第256図 SE3井戸跡 平面図・断面図

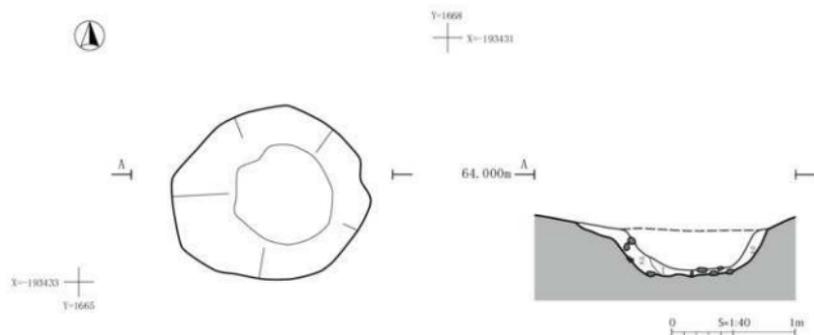
### 3) SE4井戸跡(第257図、図版76-3～4)

S4-W64 グリッドに位置する素掘りの井戸である。4号池の底面で検出された。

確認された規模は長軸153cm、短軸140cm、深さ37cmを測る。平面形は楕円形、断面形は逆台形を呈する。

堆積土は2層からなる。

遺物は出土していない。



SE4井戸跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/1	黒褐色	粘土	あり	なし	径2cm以下の灰白色土粒少量、径5cm以下の礫少量
2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	なし	径5～15cmの礫少量

第257図 SE4井戸跡 平面図・断面図

#### (4) 土 坑

##### 1) SK33土坑 (第258図、図版76-5～6)

S5-W65グリッドに位置する。SD38を切り、東側はSD14によって壊される。

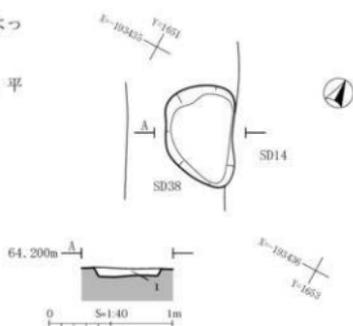
確認された規模は長軸78cm、短軸53cm、深さ6cmを測る。平面形は楕円形を、断面形は皿状を呈する。

堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。

SK33土坑 土層注記表

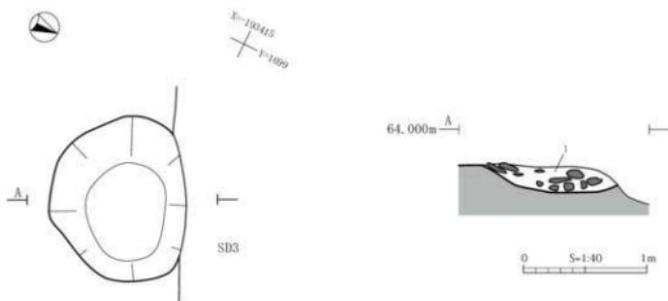
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10BGS/1	青灰色	砂質シルト	ややあり	なし	グライ化



第258図 SK33土坑 平面図・断面図

2) SK44 土坑 (第 259～260 図、図版 76-7～8)

S2-W60・S2-W61 グリッドに位置する。北側は SD3 によって切られる。確認された規模は長軸 94cm、短軸 90cm、深さ 20cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は皿状を呈する。堆積土はシルトの単層である。遺物は 19 世紀代の磁器片が出土している。



SK44 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y5/2	暗灰黄褐色	シルト	ややあり	あり	緑灰色土粒やや多量、径 5～20 μm の繊維多量

第 259 図 SK44 土坑 平面図・断面図



SK44 土坑 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備 考	登録番号
								口径	底径	器高				
260-1	116-11	S2-W60・61 SK44 1層	磁器	皿	口縁・ 体部	織垂	外) 染付草文・ 内) 染付みじろ 唐草文	—	—	(2.3)	瀬戸・美濃	19世紀		L-27

第 260 図 SK44 土坑 出土遺物

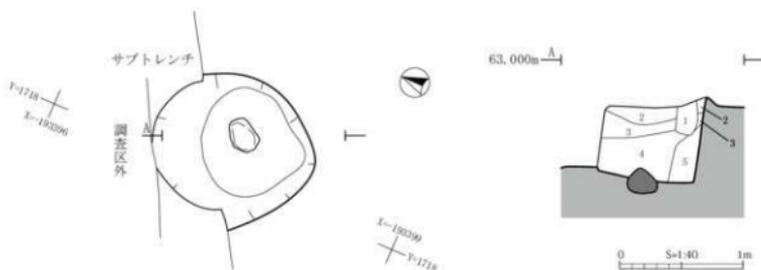
3) SK63 土坑 (第 261～262 図、図版 77-1～2)

N1-W59 グリッドに位置する。北側はサブトレンチによって壊す。V層上面で検出したが、調査区北壁の土層観察によりⅢ層上面の遺構とした。

確認された規模は長軸 132cm、短軸 123cm、深さ 74cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は方形を呈する。底面の中央に径 20cm の川原石を据える。柱の礎板石になる可能性もあるが、周辺に対応する柱穴は認められなかった。

堆積土は 5 層からなる。1 層は柱痕もしくは、上位からの打ち込みの杭の跡と思われる。

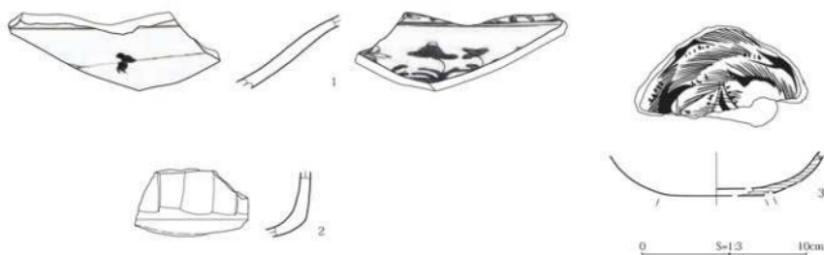
遺物は 17 世紀代の陶磁器のほか、漆器が出土している。



SK63 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	あり	なし	柱痕か
2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	径 2 cm 以下の礫少量
3	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径 5 mm 以下の灰色土粒少量
4	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	なし	あり	3 層より色顕明
5	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	

第 261 図 SK63 土坑 平面図・断面図



SK63 土坑 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備 考	登録番号
								L径	底径	器高				
262-1	116-12	N1-W59	磁器	皿	体部	縹赤	染付草花文	—	—	(4.5)	肥前	17世紀中頃		J-29
		SK63 3層												
262-2	116-13	N1-W59	陶器	鉢	体部	—	面取り	—	—	(4.15)	志野	17世紀		I-49
		SK63 4層												

SK63 土坑 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				L径	底径	器高		
262-3	116-14	N1-W59	輪	—	—	(3.0)	内) 千鳥文	L-26
		SK63 4層						

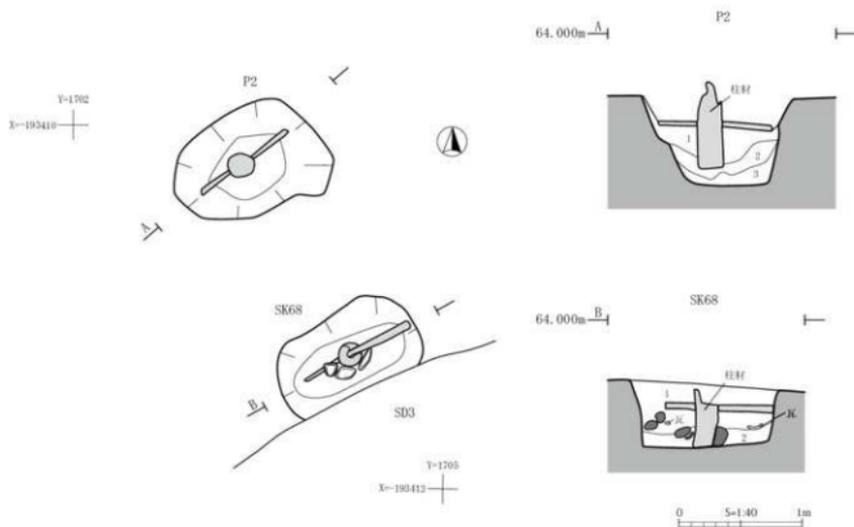
第 262 図 SK63 土坑 出土遺物

4) SK68 土坑・P2 (第 263～264 図、図版 77-3～6)

S2-W60 グリッドに位置する。SK68 と P2 は、共に地中梁を持つ柱材が出土しており、規模も同程度なことから、関連性が認められる。しかし、明確に建物や柱列とするには周辺に類するものが見られないことから、個別に登録した。これらの遺構は地盤沈下防止のため、地中梁を伴う柱を据え、掘り方には石を詰めて固めていた。両遺構の距離は 1.76cm (5 尺 8 寸) を測る。

P2 の規模は長軸 119cm、短軸 84cm、深さ 76cm、SK68 の規模は、長軸 121cm、短軸 81cm、深さ 50cm を測る。堆積土は 2～3 層からなる。

遺物は柱材、瓦等が出土している。SK68 の木柱は年代測定を行い、その結果によると幕末～明治期に伐採された木材を利用している可能性が極めて高い。



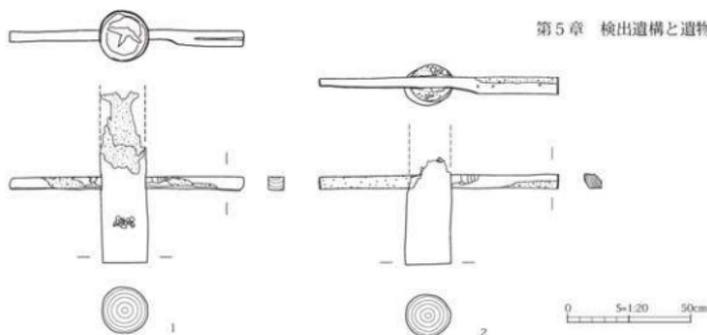
P2 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 10 cm 以下の礫多量。径 5 cm 以下の黒色土粒やや多量
2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	
3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂、粗礫多量

SK68 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 10 cm 以下の礫多量。径 5 cm 以下の黒色土粒やや多量
2	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 15 cm 以下の礫多量

第 263 図 SK68 土坑・P2 平面図・断面図



P2 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド		種類	法量 (cm)		備考	登録番号
		遺構・樹位	遺構・樹位		高さ	幅		
264-1	116-15			柱材	(72.0)	20.0	横木長 98.0、厚さ 5.0cm	L-112
		S2-W50	P2					

SK68 土坑 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド		種類	法量 (cm)		備考	登録番号
		遺構・樹位	遺構・樹位		高さ	幅		
264-2	116-16			柱材	(43.0)	19.0	横木長 97.0、厚さ 5.0cm	L-10
		S2-W50	SK68					

第264図 SK68土坑・P2 出土遺物

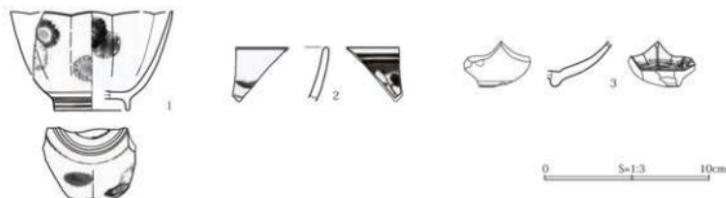
## (5) その他の遺構

## 1) SX3 性格不明遺構 (第265～266図、図版77-7～8・78-1～2)

S2-W61・S3-W61 グリッドに位置する。東西方向に広がる締まりの強い硬化面を検出した。部分的な整地跡の可能性もあり、その他の遺構として登録した。

北側はSD3の南側上端の手前で途切れる。その先には広がらないことからSD3によって切られるか、または同時期に機能していたものと思われる。西側は2号池によって切れ、その先へ続いていた痕跡がないことから途切れるかまたは上位の整地を行う際に削平された可能性も考えられる。南～西側はSD4と6号池を埋め戻した上に載る。確認された範囲は東西5m、南北2.4mで、厚みは最大17cmを測る。堆積土は硬化した2層のシルト質砂、シルトからなる。

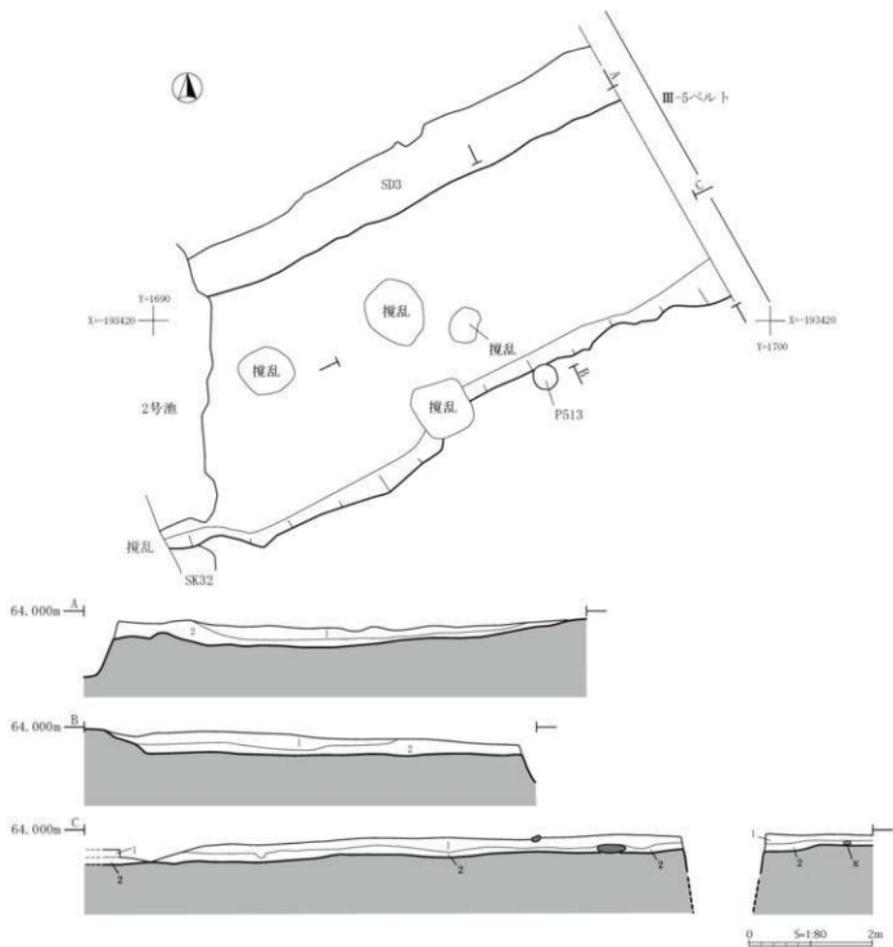
遺物は17世紀後半～18世紀前半の肥前産磁器片が1層より出土している。



SX3 性格不明遺構 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド		種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
		遺構・樹位	遺構・樹位						口径	底径	器高				
265-1	117-1			磁器	輪花鉢	口縁～底部	緻密	染付物輪文	(9.9)	(4.5)	6.1	肥前	17世紀末～18世紀前半		J-64
		S2-3-W61	SX3 1層												
265-2	117-2			磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(3.4)	肥前	近世		J-65
		S2-3-W61	SX3 1層												
265-3	117-3			磁器	輪花皿	体部～底部	緻密	染付	—	—	(2.8)	肥前	17世紀後半		J-66
		S2-3-W61	SX3 1層												

第265図 SX3 性格不明遺構 出土遺物



SX3 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	7.5YR3/2	黒褐色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄を屑状に多量
2	10YR4/1	褐灰色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄・砂や多量

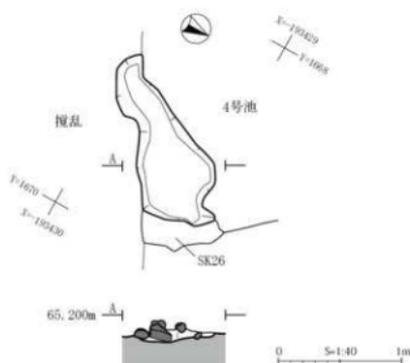
第266図 SX3 性格不明遺構 平面図・断面図

## 2) SX6 性格不明遺構 (第267～268図、図版78-3～4)

S3-W64・S4-W64 グリッドに位置する。4号池の底面に敷かれた玉石と礫を取り除く際に検出した。SK26を切り、4号池に上部を削平され、南側は攪乱によって壊される。

確認された規模は長軸1.65m、短軸24～62cm、深さ24cmを測る。平面形は不整形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は粘土質シルトの単層で礫を多量に含んでいる。

遺物は18世紀後半の大塚相馬産小鉢、瓦等が出土している。



SX6 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
I	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	20 cm以下の礫多量、砂少量

第267図 SX6 性格不明遺構 平面図・断面図



SX6 性格不明遺構 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備 考	登録番号
								口径	底径	器高				
208-1	117-4	S3・4-W64 SX6 1層	陶器	小鉢	口縁～体部	泥	白濁釉	—	—	3.0	大塚相馬	18世紀後半		1-90

第268図 SX6 性格不明遺構 出土遺物

## 3) 4号木桶 (第269～270図、図版78-5～8・79-1～2)

N1-W58～S3-W60グリッドに位置する。新旧2時期ある木桶である。木桶と柵の標高差から水は北方向へ流していたものと考えられる。

〔新段階〕木桶3条、柵1基が検出された。遺存状態は悪く、木桶の本数は不明である。調査区南壁から北方向N-27°-Wに走る木桶は北側を攪乱によって壊され、3mが残存する。蓋板を留めるのに使われた舟釘が身に打ち込まれた状態で検出され、30cm前後の間隔で平行に蓋板が留められていたことが窺える。南端から北に6m走った地点で、榫軸を東方向N-61°-Eに変えるが、柵等の接統具は検出されていない。東方向に走る木桶は柵までの距離25mを測り、底部の一部が残存するだけでほとんどが痕跡を残すだけである。

3箇所でも木桶とは違う木材の痕跡が確認された。西側のものはわずかに木質が残る27×36cm、高さ16cmを測る角材であったと思われる。中央のものは34×52cmの痕跡、東側のものは25×31.5cmの痕跡である。いずれも下部には川原石が置かれている。木桶の下部に敷く枕木か、または継手が推定される。柵から北方向N-13°-Eに走る木桶は9.3m先で調査区外へ延びる。底部がわずかに残るが、ほとんどは痕跡だけである。柵の北側板から82cm北で23×27cmの木材の痕跡が検出された。柵に近いことから木桶の重量が直接柵の差し込み口にかからないように置いた枕木の痕跡と思われる。木桶を設置した掘り方の規模は幅39～66cm、深さ23cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面形は開いたU字形を呈する。

柵は底板と4枚の側板からなる。側板の遺存状態は悪く、木桶の差し込み口は検出されなかった。横長の側板には縁より4.8cm内側にホゾ溝が切れ、もう一方の側板をはめ込んだ外側から和釘で固定している。底板は長さ不揃いな2枚の板材からなる。ホゾ溝は切られず、裏から和釘で側板を固定している。見当線はなく、釘を打った際のけんのうの痕跡が多数見られた。柵を設置した掘り方の規模は長軸1.1m、短軸90cm、深さ22cmを測る。平面形は不整長方形を、断面形は浅い逆台形を呈する。

〔古段階〕木桶の痕跡がわずかに検出された。柵から南方向に6.21m走り、攪乱に分断されて調査区外へ延びる。主軸方向はN-13°-Eを示し、柵から北に走る木桶と同一である。もともとは南北方に直線的に繋いだ木桶によって北方向に水を流していたものと考えられる。

木桶を埋設した掘り方の規模は長さ7.4m、幅45～64cm、深さ10～15cmを測る。

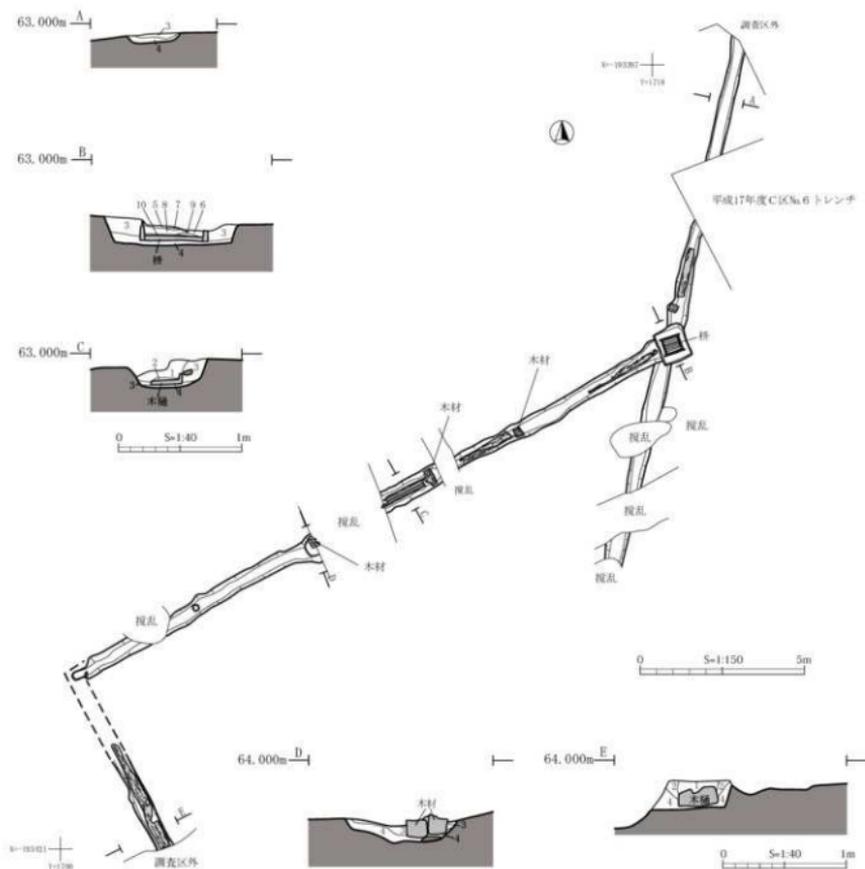
遺物は新段階の木桶の掘り方から18世紀代の大塚相馬産陶器、肥前産陶器、瓦等が出土している。



4号木桶 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・樹位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			高地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
269-1	117-5	S3-W60	陶器	碗	口縁～体部	密	灰軸	—	—	(3.2)	大塚相馬	18世紀		I-1
		4号木桶 埋土一括												
269-2	117-6	S3-W60	陶器	碗	底部	密	—	—	—	(1.5)	肥前	近世		I-2
		4号木桶 埋土一括												
269-3	117-7	S3-W60	陶器	碗?	体部	密	緑釉流し掛け	—	—	(2.2)	大塚相馬	18世紀		I-3
		4号木桶 埋土一括												
269-4	117-8	S3-W60	陶器	碗?	体部	密	緑釉流し掛け	—	—	(2.4)	大塚相馬	18世紀		I-4
		4号木桶 埋土一括												

第269図 4号木桶 出土遺物



4号木桶 土層注記表

部位	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No	色				
掘り方	1	10R4/4	赤褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径1cm以下の礫少量
	2	10R3/6	暗赤色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2cm以下の礫少量
	3	7.5YR4/1	褐色	シルト	あり	あり	径1cmの礫、径5mm以下の炭化物を微量
	4	7.5YR4/1	褐色	シルト	あり	あり	径5cm以下の礫多量
箱内堆積土	5	2.5Y3/2	黒褐色	粘土	あり	ややあり	細粒砂微量
	6	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	なし	
	7	7.5YR5/6	明褐色	砂	ややあり	なし	
	8	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土	なし	あり	細粒砂極微量
	9	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	なし	細粒砂微量
	10	2.5Y4/1	黄灰色	粗砂	なし	なし	

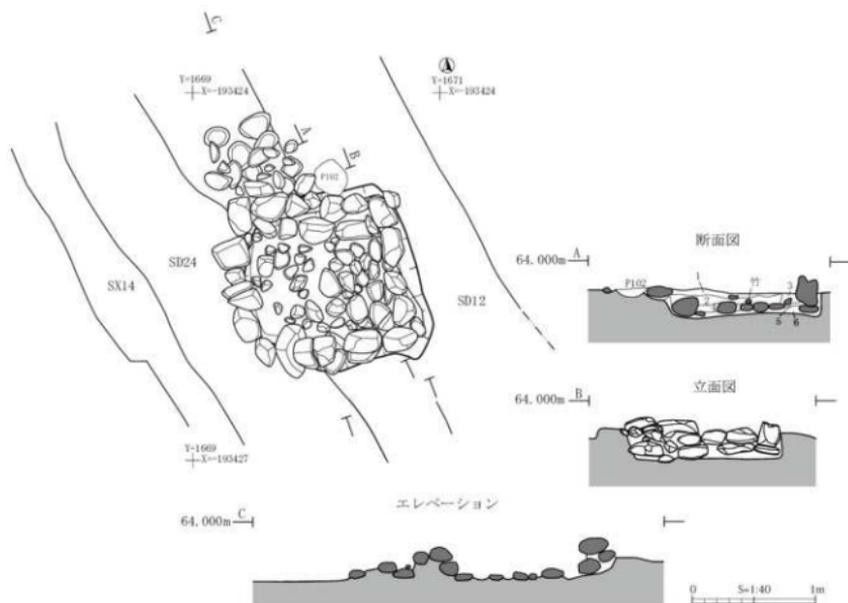
第270図 4号木桶 平面図・断面図

4) 2号枡状遺構 (第271～272図、図版79-3～5)

S3-W63 グリッドに位置する。SD12・SD24・SX14 を切る。15×20 cm～26×44 cmの川原石を主に用いて平面形が菱形を呈する側壁を築く。東側壁は3段、南側壁は2段積み、西側壁は1段のみ遺存する。北側壁は段掘りした上に石を載せて2段造り、そこから北方向に緩やかに下り傾斜する長さ68cm、幅54cmの石列が検出された。底面には12～25 cmの扁平な川原石が施されている。東側は密に敷かれ、西側はまぼらである。

確認された石組みの規模は側壁の内法が南北1m、東西1.02m、石敷き面までの深さは24cmを測る。掘り方の規模は南北1.45m、東西1.36m、深さ30cmを測り、平面形は不整形を呈す。堆積土は6層からなる。

遺物は19世紀代の磁器片が底面付近より出土している。



2号枡状遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5 Y 3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	礫少量、砂多量、木片微量を含む
2	2.5 Y 4/3	オリーブ褐色	砂	なし	あり	酸化鉄多量、2.5Y4/2砂質シルト少量
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	砂多量
4	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y6/2灰黄色砂(細砂)を少量、酸化鉄微量
5	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	酸化鉄少量
6	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄多量

第271図 2号枡状遺構 平面図・断面図



2号枡状遺構 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
272-1	117-9	S3-W63	磁器	皿	口縁-体部	緻密	草文・みじん唐 草文	—	—	(2.5)	瀬戸・美濃	19世紀中頃		J-83
		2号枡 5層												
272-2	117-10	S3-W63	磁器	碗	口縁-体部	緻密	染付	—	—	(3.6)	肥前	19世紀		J-84
		2号枡 5層												

第272図 2号枡状遺構 出土遺物

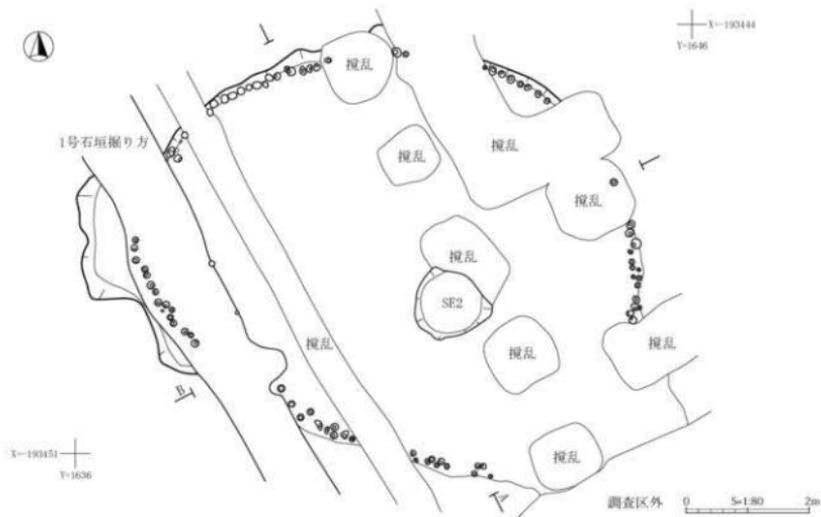
## 5) 1号池 (第273～276図、図版80-1～3)

S5-W66～S6-W67グリッドに位置する。西側は1号石垣によって壊されるが、石垣の掘り方部分で池の周囲に巡らされた杭列を検出した。東側も石垣造成時に削平を受けているが、池底部が残存しており、形状や規模を推定することができる。さらに南東部は調査区外に及んでいる。

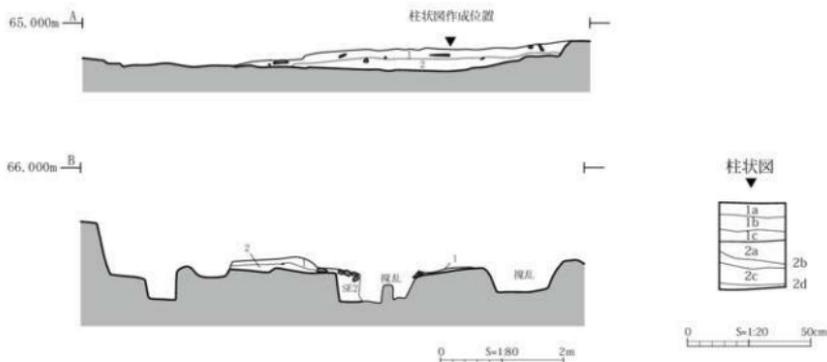
池の平面形は長円形を呈し、周囲に径10～13cmの杭を密に巡らしている。底面に玉石などは見られない。確認された規模は東西8.2m、南北7.2m、最深部は80cm以上である。

堆積土は2層からなり、1層は1a～1cの3層に、2層は2a～2dの4層に細分できる。砂を互層状に多量に含む。

遺物は堆積土中から陶磁器、瓦、木製品、金属製品などが多く出土した。陶磁器は切込産皿、産地不明の鉢など19世紀前半のものが主体を占める。瓦は棟瓦が多く、刻印が施されているものがある。木製品は建築廃材が多く、焼印が押された桶の側板や、墨書がある木札等も出土した。金属製品は引き手などである。



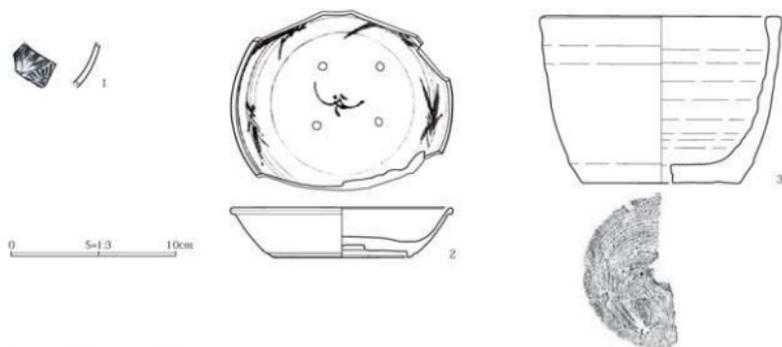
第3節 Ⅲ区



1号池 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1a	10YR4/4	褐色	シルト	なし	なし	黄褐色土粒多量、径1cm以下の暗褐色土粒少量
1b	10YR3/3	暗褐色	砂	なし	なし	
1c	10YR4/4	褐色	砂	なし	なし	
2a	10YR3/3	暗褐色	砂	なし	なし	
2b	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	径5mm以下の黄褐色土粒少量
2c	10YR5/1	褐色	砂	なし	なし	
2d	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	径5mm以下の黄褐色土粒少量

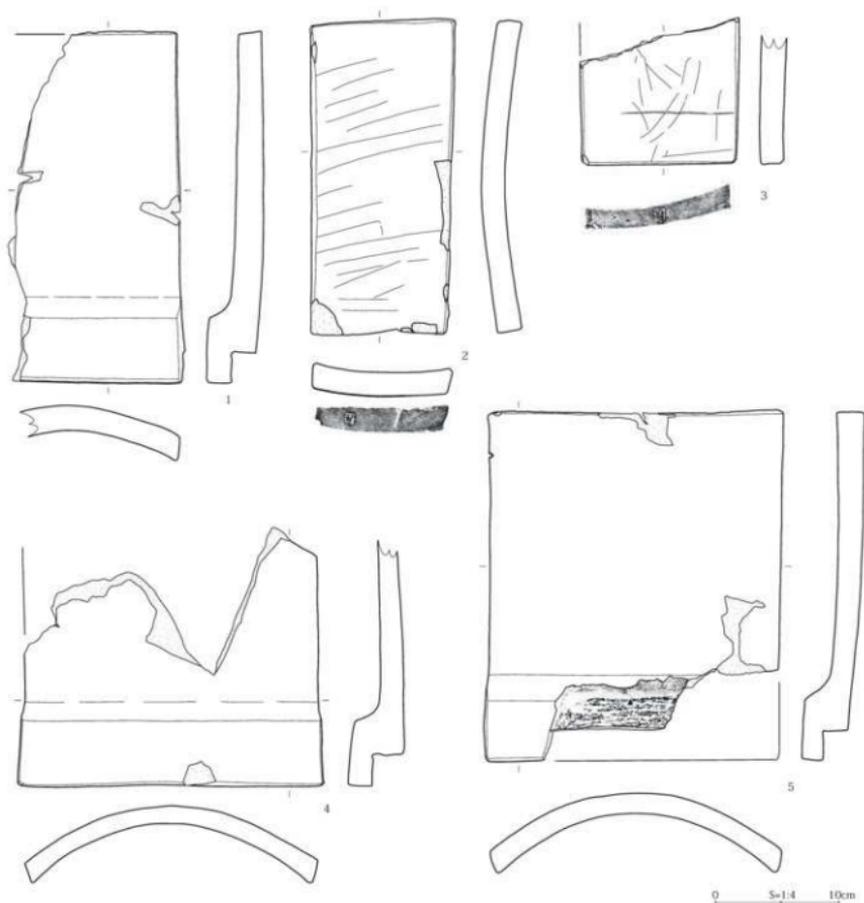
第273図 1号池 平面図・断面図



1号池 出土遺物観察表(陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
274-1	117-12	S5・6-W66・67	磁器	碗?	体部	緻密	染付花文	—	—	(2.8)	肥前	19世紀前半		J-31
		1号池 2a層												
274-2	117-11	S5・6-W66・67	磁器	皿	体部	密	染付花文	(13.4)	(8.4)	3.1	切込	19世紀前半	蛇の目輪割 目跡あり	J-30
		1号池 2a層												
274-3	117-13	S5・6-W66・67	土師製土器	鉢	完形	やや粗		14.8	9.6	10.3	在地	近世	底部糸切り	1-221
		1号池 2a層												

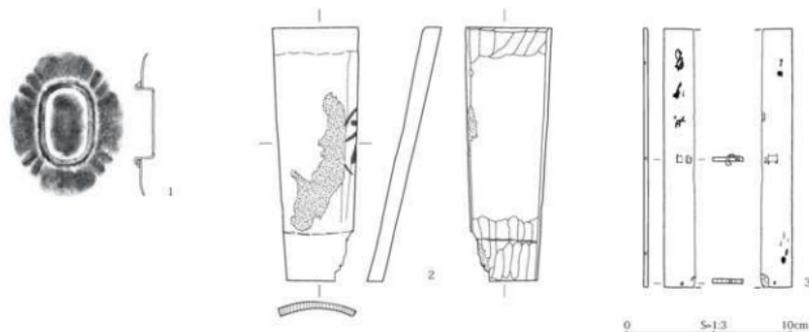
第274図 1号池 出土遺物



1号池 出土遺物観察表(瓦)

図版番号	写真(図版)番号	グリッド 遺構・樹位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
275-1	118-3	SS・6-W66・67 1号池 2a層	棟瓦	28.8	(13.4)	2.4		H-4
275-2	118-6	SS・6-W66・67 1号池 2a層	棟瓦	25.8	11.6	2.0	朝印あり	H-15
275-3	118-5	SS・6-W66・67 1号池 2a層	棟瓦	(12.0)	12.8	2.2	朝印「廿三」	H-14
275-4	118-4	SS・6-W66・67 1号池 2a層	棟瓦	(20.4)	23.8	2.0		H-30
275-5	118-2	SS・6-W66・67 1号池 2a層	棟瓦	28.6	23.6	2.2		H-6

第275図 1号池 出土遺物



1号池 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版 番号	グリッド		種別	部位	法量 (cm・g)				備 考	登録番号
		遺構・層位				長さ	幅	厚さ	重さ		
276-1	118-1	S5・6-W66・67		飾り金具	—	8.8	1.2	0.1	53.74	引き手	N-11
		1号池 2c層									

1号池 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版 番号	グリッド		種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
		遺構・層位			長さ	幅	厚さ		
276-2	117-14	S5・6-W66・67		桶	17.3	5.3	1.8	焼印あり	L-89
		1号池 2a層							
276-3	117-15	S5・6-W66・67		木札	17.5	2.2	0.5	墨書あり	L-91
		1号池 2a層							

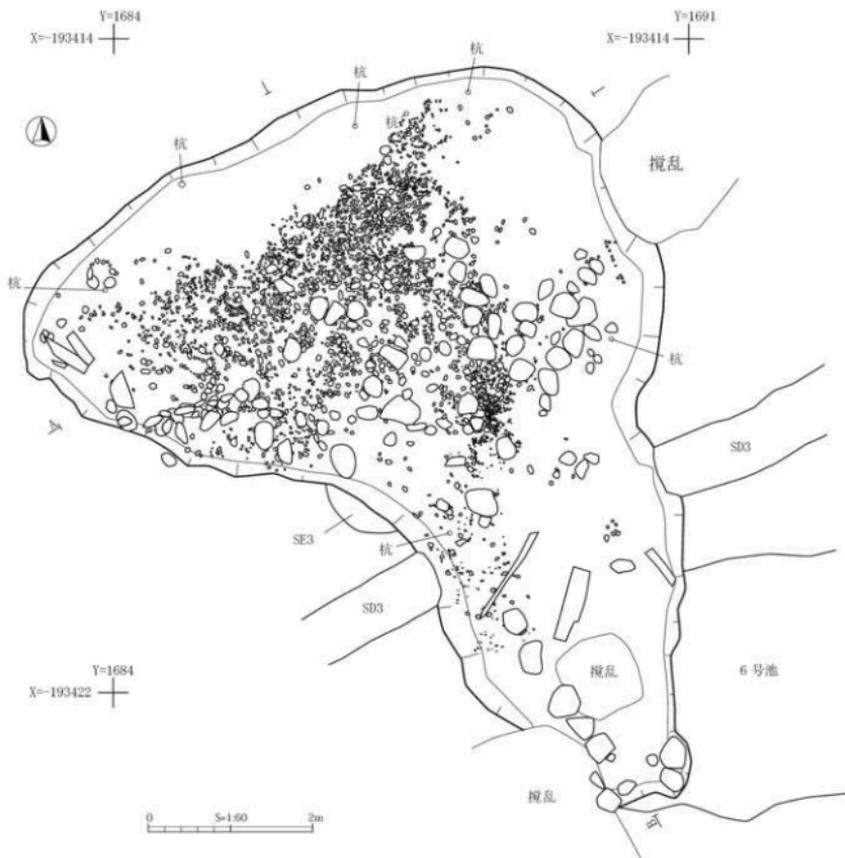
第276図 1号池 出土遺物

## 6) 2号池 (第277～280図、図版80-4～5・81-1)

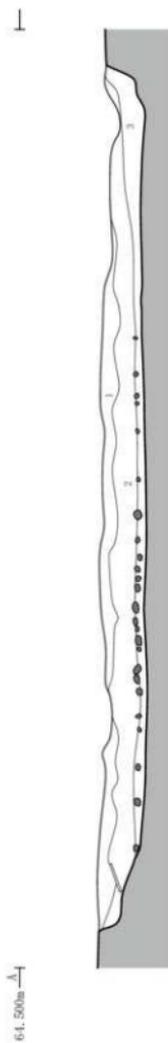
S2・3～W61・62グリッドに位置する。SE3の上面に構築され、南端で6号池を切り、中央付近をSD3によって壊される。

確認された規模は長軸9.4m、短軸3.1～7m、深さ28～35cmを測る。底面は構築時に6～9cmの厚さで粘土を貼り、その上に径1～3cmの玉石を敷く。平面形は北側の幅が広く、南側の幅が狭い弧形状を呈する。堆積土は3層からなる。1層は粘性の強いシルトが堆積しており、廃棄後に沈澱した土層と思われる。2層は砂質シルトで埋め戻し土の可能性がある。3層は構築粘土である。

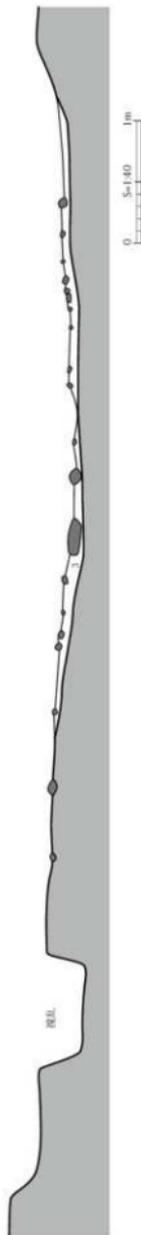
遺物は1～2層より17世紀から19世紀の陶磁器、古銭、煙管等が出土している。構築粘土からの遺物の出土はみられなかった。



第277図 2号池 平面図



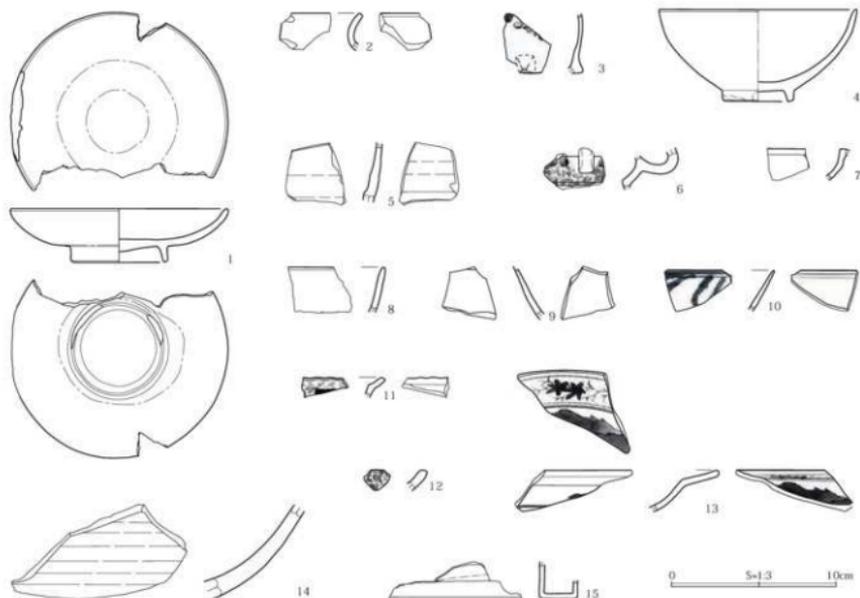
61.500m  $\frac{B}{1}$



2号池 土層記載表

層名	土位		土質	粘性	しまり	備	考
	No	色					
1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒少量	
2	10YR5/6	灰色、黄褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径2~3cmの礫・砂粒多量	
3	10YR4/2	灰褐色	粘土	あり	あり	構造粘土	

第 278 図 2号池 断面図



2号池 出土遺物観察表（陶磁器）

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
279-1	119-3	S2・3-W61・62 2号池 2層	磁器	皿	口縁～底部	やや粗	灰釉	(13.2)	(5.7)	3.3	小野粗馬	18世紀	蛇の目輪割	J-35
279-2	118-9	S2・3-W61・62 2号池 2層	磁器	片口	片口	緻密	青磁	—	—	(2.25)	不明	近世		J-34
279-3	118-8	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	香炉	脚部	密	色絵	—	—	(3.2)	京焼	17世紀後半～18 世紀前半		I-55
279-4	118-16	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	碗	口縁～底部	やや粗	灰釉	(6.05)	(4.0)	5.7	小野粗馬	18世紀		I-58
279-5	118-10	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	鉢?	体部	やや粗	鉄釉	—	—	(3.7)	岸	17世紀以降		I-54
279-6	118-7	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	香炉	口縁～体部	密	色絵	—	—	(2.45)	京焼	17世紀後半～18 世紀前半		I-53
279-7	118-14	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	皿	口縁～体部	密	灰釉	—	—	(1.95)	大塚粗馬	18世紀後半		I-56
279-8	118-17	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	碗	口縁～体部	密	灰釉	—	—	(2.8)	大塚粗馬	19世紀		I-262
279-9	118-12	S2・3-W61・62 2号池 2層	磁器	壺か 徳利	体部	緻密	白磁	—	—	(3.0)	肥前	近世		J-33
279-10	118-18	S2・3-W61・62 2号池 2層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(2.5)	景徳園	16世紀後半～17 世紀前半		J-32
279-11	118-13	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器		口縁	密	色絵	—	—	(1.25)	京焼	17世紀後半～18 世紀前半		I-51
279-12	118-11	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	香炉	口縁	密	色絵	—	—	(1.3)	京焼	18世紀		I-52
279-13	119-1	S2・3-W61・62 2号池 2層	磁器	折縁皿	口縁～体部	緻密	染付山水 文	—	—	(2.3)	肥前	17世紀後半		J-36
279-14	119-2	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	鉢	体部	やや粗	—	—	—	(5.4)	不明	近世		I-57
279-15	118-15	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	甕水入	体部～底部	やや粗	—	—	—	(2.3)	瀬戸・美濃	近世		I-50

第279図 2号池 出土遺物



2号池 土遺物観察表（金属製品）

図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	部位	法量 (cm・g)				備 考	登録番号
		遺構・層位			長さ	幅	厚さ	重さ		
280-1	119-6	S3・4-W63・64 池2・2層	煙管	簾首	4.05	1.6	0.05	6.21		N-13

2号池 出土遺物観察表（古銭）

図版番号	写真図版番号	グリッド	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備 考	登録番号
		遺構・層位			外径	穿径	重さ		
280-2	119-4	S3・4-W63・64 池2・2層	寛永通宝（新）	1627年	2.3	0.7	2.17	無背	N-21
280-3	119-5	S3・4-W63・64 池2・2層	寛永通宝（古）	1626年	2.4	0.6	2.89	無背	N-22

第280図 2号池 出土遺物

## 7) 4号池・2号木樋（第281～285図、図版81-2・82-1～8）

[4号池] S3-W63～S4-W64グリッドに位置する。西側は5号池と隣接し、調査区北壁の断面観察によって4号池が5号池を切ることが判明した。東側は2号木樋と接続する。北側は調査区外に広がり、南側は攪乱により壊される。また、SX6、SE4を切る。

確認された規模は南北7.2m、東西8.2m、深さ38cmを測る。底面には構築時に5～10cmの厚さで粘土を貼り、その上に径1～3cmの玉石を敷く。堆積土は6層からなる。1～4層は近代以降の陶磁器片、土管片等を含み、後世の埋め戻し土と思われる。5層は池底面の堆積土、6層は構築粘土である。

遺物は玉石の上面より舟形木製品、17世紀後半～19世紀前半の陶磁器、犬・猪型土製品等が出土している。

[2号木樋] S3-W63・S3-W64グリッドに位置する。東西方向に走る木樋1条と柁1基からなる。東側はSX14に切られる。木樋は柁の西側に遺存し、西端が4号池の中に延びる。先端の両脇には径32cmの川原石が置かれ、木樋を固定したものと考えられる。

主軸方位はN-74°Eを示す。木樋を埋設した掘り方の規模は長さ80cm、幅40cm、深さ45cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面形は開いたU字形を呈する。

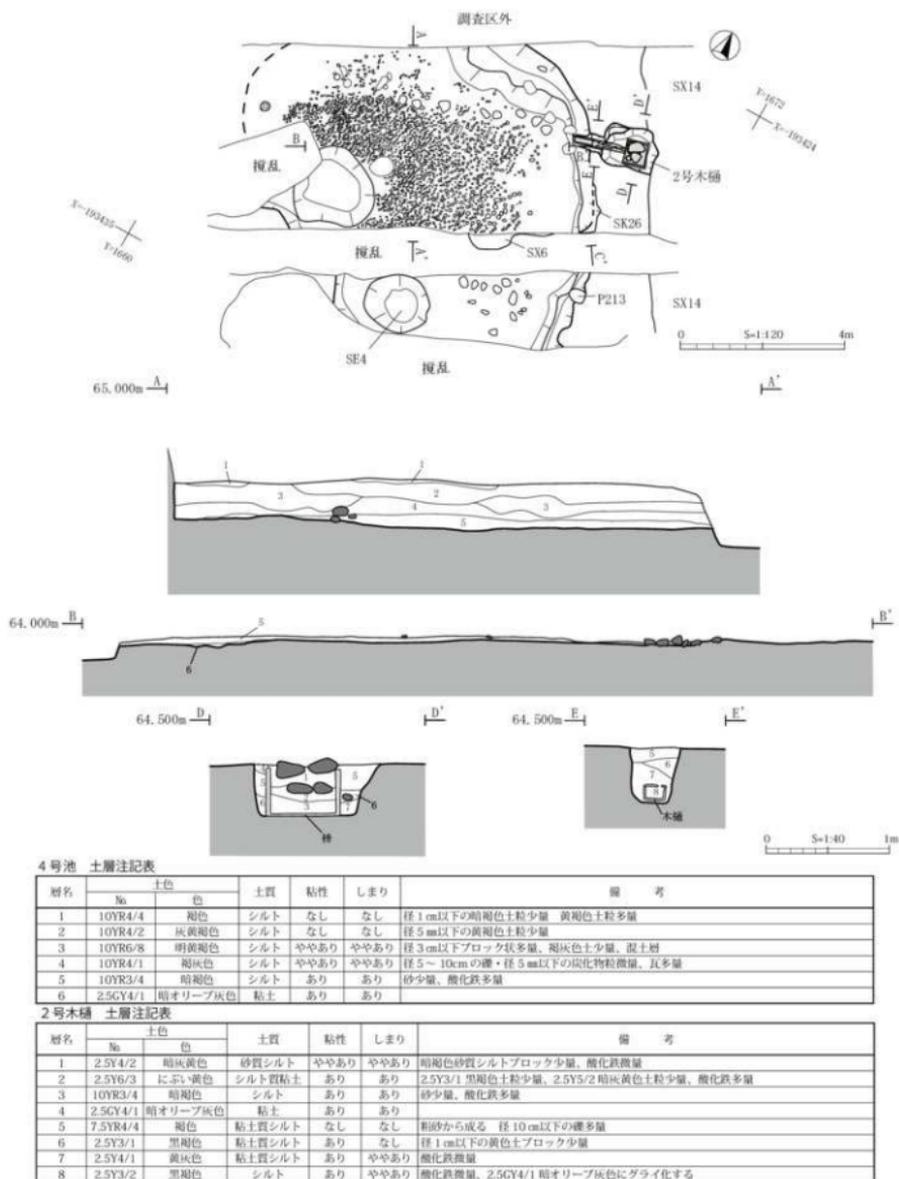
木樋は長さ1.17m、幅16cm、高さ10cmで、幅8.5cm、深さ約7cmの溝を切る。蓋板は長さ84cm、幅16cm、厚みは最大4cmを測る。一木から身と蓋に分けて作られた割り貫き式のものである。東端は蓋板が載らず、開口する。池の水が流れ込みやすくするためであろうか。身は柁近くで削り込んで幅をせばめ、柁の差し込み口に合わせ調整している。釘は検出されず、また痕跡も見られないことから蓋板を固定していたかは不明である。

柁は底板と側板からなる。側板は横長の板を木釘で接合している。東西の側板は縁にホゾ溝を切って南北の側板を組んだ外側から和釘で固定する。また木樋の差し込み口が施され、東側のほうが1cmほど低い位置にある。底板は2枚の横長の板材からなり、裏から和釘で側板を固定している。

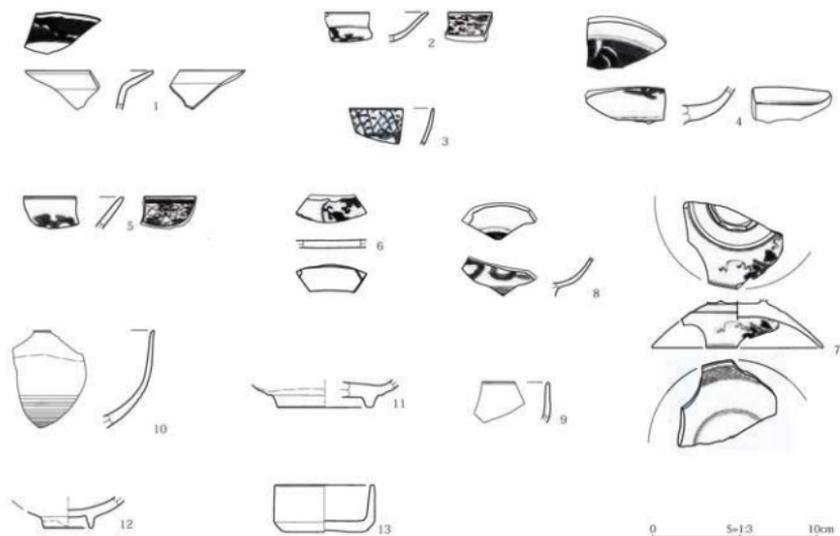
柁を設置した掘り方の規模は長軸1.32m、短軸1.04m、深さ40cmを測る。平面形は不整長方形を、断面形は北側が開く長方形を呈する。

堆積土は8層からなる。1～3層は柁内堆積土、4～7層は掘り方埋土、8層は木樋内堆積土である。

木樋・柁以外の遺物は出土していない。



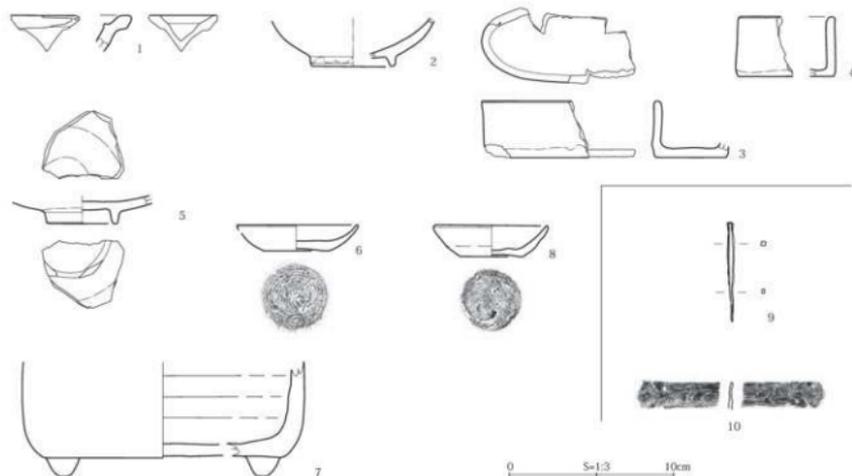
第281図 4号池・2号木桶 平面図・断面図



4号池 出土遺物観察表(陶磁器)

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 造機・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
282-1	119-7	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	折縁皿	口縁	緻密	染付	—	—	(2.4)	肥前	17世紀後半	輪花	J-45
282-2	119-8	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	皿	口縁~体部	緻密	染付	—	—	(1.8)	肥前	18世紀		J-44
282-3	119-9	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	碗	口縁~体部	緻密	染付花文・ 水霞文	—	—	(2.2)	肥前	18世紀前半		J-38
282-4	119-10	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	皿か鉢	体部	緻密	青磁染付	—	—	(3.3)	肥前	18世紀		J-39
282-5	119-11	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	中皿	口縁	緻密	染付花文	—	—	(2.0)	肥前	17世紀後半		J-43
282-6	119-12	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	皿	底部	緻密	染付唐草文	—	—	(1.65)	肥前	18世紀前半 ~中頃		J-40
282-7	119-13	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	蓋	口縁部	緻密	染付草花文・ 四方淨文	(11.2)	—	(3.0)	肥前	18世紀後半		J-41
282-8	119-14	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	碗	体部~底部	緻密	染付	—	—	(1.8)	肥前	18世紀		J-42
282-9	120-2	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	碗	口縁~体部	密	灰釉	—	—	(2.5)	大塚相馬	18世紀		I-65
282-10	120-1	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	碗	口縁~体部	密	灰釉緑釉指 分	—	—	(6.0)	大塚相馬	18世紀		I-60
282-11	119-16	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	碗	体部~底部	中々密	黒釉・高台 鉄化粧	—	(5.8)	(1.2)	肥前			I-68
282-12	119-18	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	碗	体部~底部	密	緑釉	—	(3.0)	(1.55)	大塚相馬	18世紀		I-63
282-13	119-19	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	甌人?	体部~底部	粗	鉄釉	6.0	5.0	2.9	埴	19世紀前半		I-59

第282図 4号池 出土遺物



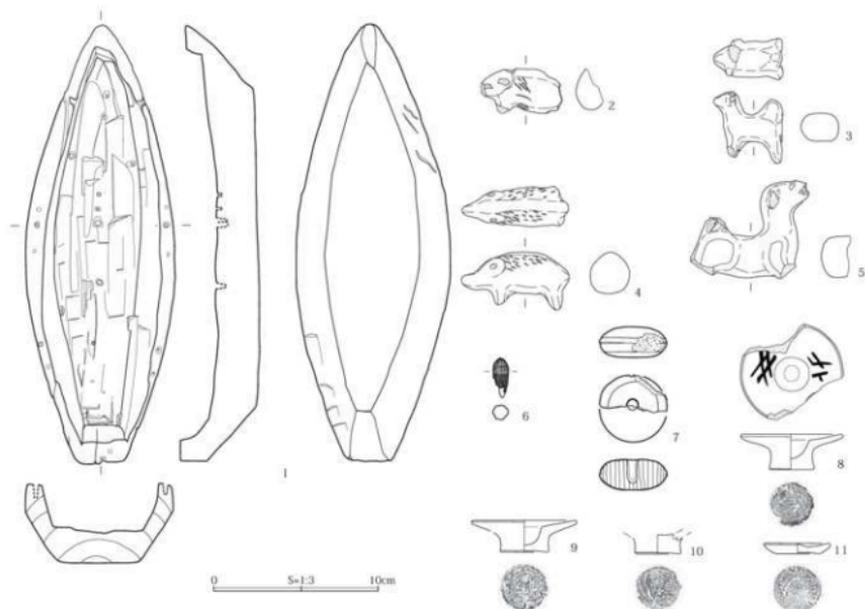
4号池 出土遺物観察表(陶器)

採取番号	写真順 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
283-1	119-20	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	折縁皿	口縁～底部	密	灰軸	—	—	(2.2)	瀬戸・美濃	17世紀中頃～後半		I-67
283-2	119-17	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	碗	体部～底部	密	白濁軸	—	(5.0)	(3.0)	大塚粗馬	18世紀後半以降		I-64
283-3	119-21	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	贅水入	口縁～底部	やや粗	灰軸	—	—	(3.5)	小野粗馬	18世紀		I-61
283-4	120-3	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	贅水入	口縁～底部	やや粗	灰軸	—	—	(3.7)	小野粗馬	18世紀		I-66
283-5	119-15	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	皿	底部	やや粗	灰軸	—	(4.1)	(1.7)	小野粗馬	18世紀	蛇の目輪 測さ	I-62
283-6	120-4	S3・4-W63・64 4号池 6層	土師質土器	皿	口縁～底部	やや粗	—	(7.6)	—	1.6	在地	近世	糸切り	I-220
283-7	120-6	S3・4-W63・64 4号池 6層	瓦質土器	火鉢	体部～底部	やや粗	—	—	15.6	6.6	在地	近世		I-207
283-8	120-5	S3・4-W63・64 4号池 6層	土師質土器	皿	完形	やや粗	—	7.2	—	1.9	在地	近世	糸切り	I-222

4号池 出土遺物観察表(金属製品)

採取番号	写真順 番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm/g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
283-9	120-12	S3・4-W63・64 4号池 構築粘土	釘	—	6.15	0.3	0.25	2.05	一部欠損	N-15
283-10	120-11	S3・4-W63・64 4号池 上層一括	飾り金具	—	1.7	0.25	0.05	4.38	銅製(唐草文)	N-14

第283図 4号池 出土遺物



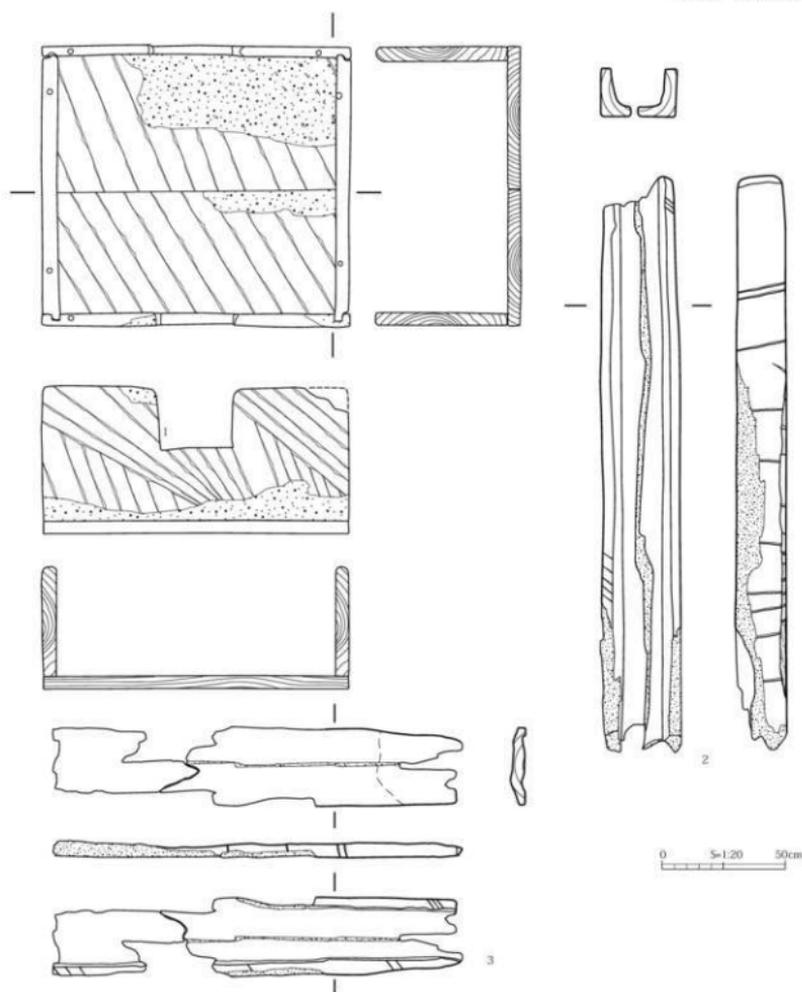
4号池 出土遺物観察表（木製品・土製品）

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
284-1	120-17	S3・4-W64・65 4号池 6層	舟形木製品	29.0	11.6	3.0	内面割製 孔×18	L-94
284-2	120-13	S3・4-W64・65 4号池 6層	楕円土製品	(5.3)	(1.7)	3.0	型造り	P-12
284-3	120-14	S3・4-W64・65 4号池 6層	犬形土製品	4.0	2.5	(4.5)	型造り	P-7
284-4	120-15	S3・4-W64・65 4号池 6層	楕円土製品	(7.3)	2.6	(3.3)	型造り	P-4
284-5	120-16	S3・4-W64・65 4号池 6層	犬形土製品	6.9	(1.8)	(6.6)	型造り	P-11
284-6	120-18	S3・4-W64・65 4号池 6層	浮き	(4.0)	1.5	—	漆塗り	L-95
284-7	120-19	S3・4-W64・65 4号池 6層	紡錘車	(4.5)	4.6	2.1	孔×1	L-96

4号池 出土遺物観察表（土師質土器）

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
284-8	120-10	S3・4-W64・65 4号池 6層	土師質土器	受皿	口縁～底部	中々粗	6.9	3.1	4.1	在地	近世	墨書	P-6
284-9	120-7	S3・4-W64・65 4号池 6層	土師質土器	受皿	口縁～底部	中々粗	7.0	3.3	2.1	在地	近世		P-9
284-10	120-8	S3・4-W64・65 4号池 6層	土師質土器	受皿	底部	中々粗	—	3.1	(1.3)	在地	近世		P-5
284-11	120-9	S3・4-W64・65 4号池 6層	土師質土器	皿	口縁～底部	中々粗	2.8	3.0	0.8	在地	近世		P-8

第284図 4号池 出土遺物



2号木桶 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
285-1	121-1	S3-W64	桶	125.4	114.2	6.0	胴底あり 上端に木釘8箇所	L-85
		2号木桶						
285-2	121-2	S3-W64	木桶	(234.6)	32.0	4.0		L-84
		2号木桶						
285-3	121-3	S3-W64 2号木桶	木桶蓋	(114.60)	(24.30)	(4.0)	残存不良	L-84

第285図 2号木桶 出土遺物

## 8) 6号池・3号木桶(第286～287図、図版83-1～5・84-1～2)

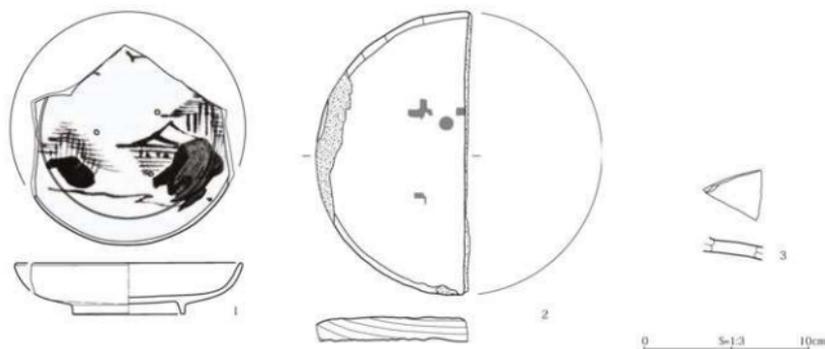
[6号池] S3-W61グリッドに位置する。SX3を完掘した底面から検出された。北側は2号池に切られる。南側の中央には、4号木桶が接続する。確認された規模は東西4.48m、南北3.1m、深さ30cmを測る。平面形は不整形を呈するが、北西側は水を流すためか溝状にすぼまっている。その西縁には川原石を1段並べたような状況が見られた。用途は判然としなが護岸の可能性も考えられる。SD4の断面観察から6号池と同時期に機能していたことが確認されたため、3号木桶から引き入れた水を、6号池で溜め、SD4に排水するといった利用法が推定される。堆積土は4層の砂を含む粘土質シルトからなる。玉石は敷いていない。

遺物は比較的少なく、19世紀前葉の大塚相馬産鉄鉛皿のほか、木製品等が堆積土中より出土している。

[3号木桶] 木桶1条が検出された。南側は調査区外に延びる。確認された木桶の規模は長さ3.1m、幅13～15cmを測り、幅9cmの溝を切る。蓋板は残存しておらず蓋を留めた釘も検出されなかった。一木から身と蓋に分けられたかは不明だが、割り貫き式で作られたものと思われる。掘り方の断面形は逆台形を呈する。

確認された掘り方の規模は長さ2.9m、上幅54～56cm、下幅26～30cm、深さ16～21cmを測る。堆積土は3層からなる。1～2層は崩落土、3層は掘り方埋土である。

遺物は信楽産の壺片が出土している。



6号池 出土遺物観察表(陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量(cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
286-1	121-4	S2・3-W61・62 6号池 1層	陶器	皿	口縁～底部	やや密	鉄鉛山水文	(138)	(66)	(32)	大塚相馬	19世紀初頭	目録3箇所	L-78

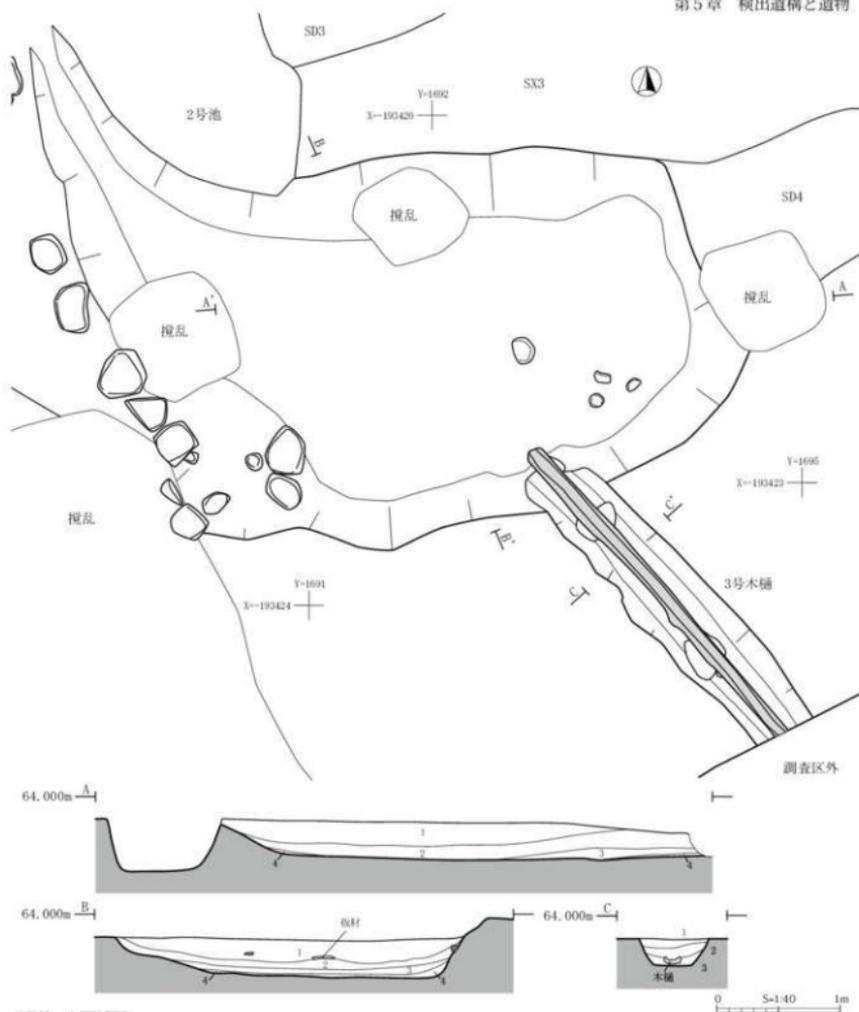
6号池 出土遺物観察表(木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量(cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
286-2	121-5	S2・3-W61・62 6号池 1層	曲物	18.9	(9.9)	1.4	付着物あり	L-106

3号木桶 出土遺物観察表(陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量(cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
286-3	121-6	S3-W61 3号木桶 2層	陶器	壺	体部	密	鉄軸	—	—	(1.35)	信楽	18世紀代		L-29

第286図 6号池・3号木桶 出土遺物



6号池 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	ややなし	砂粒・酸化鉄少量
2	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややなし	砂粒・酸化鉄少量
3	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり		砂粒を樹状に多量
4	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト			砂粒を樹状に多量

3号木樋 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	砂粒・径3cm以下の礫少量
2	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	砂粒・径3cm以下の礫少量
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄少量、砂粒微量

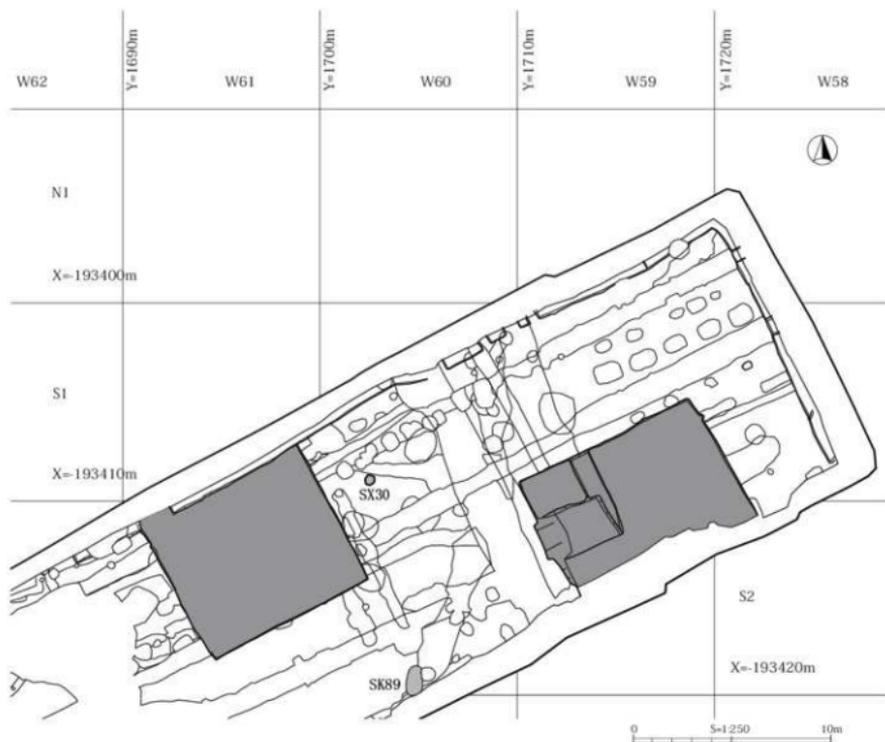
第287図 6号池・3号木樋 平面図・断面図

#### 4 縄文時代の調査（第288～291図、図版84-3～8）

Ⅲ区の東側では、基本層のⅥc層に10世紀前半の指標テフラである十和田a火山灰が含まれていることが確認され、その下層から縄文土器が出土したことからトレンチ調査を行なった。

トレンチは2箇所設定した。S1・S2-W59グリッドに75㎡、S1・S2-W61グリッドに75㎡、合計150㎡を深度約1mまで掘り下げた。その結果、縄文土器60点を取り上げたが、古代以前の遺構は検出されなかった。出土した土器のほとんどは文様を観察することが困難なほど磨耗しており、流入土に混入して調査区内に運ばれてきたものと思われる。第292図-1は縄文時代中期の大木8a式、そのほかは後期の南境式である。

また、トレンチ外で十和田a火山灰層下より遺構が2基検出されたが（SK89、SX30）、遺物も出土せず、時期・性格等は不明である。

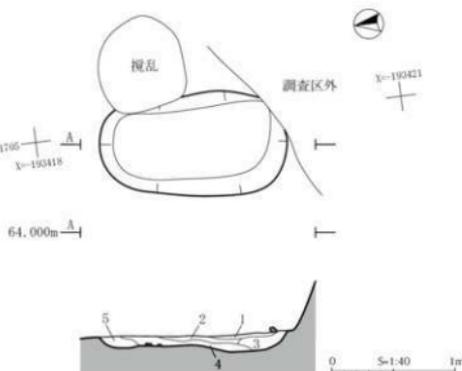


第288図 トレンチ設定図

## 1) SK89 土坑 (第 289 図、図版 84-5～6)

S2-W60・S3-W60 グリッドに位置する。北東側を掘乱によって壊され、南東側はわずかに調査区外に広がる。十和田 a 火山灰層の下から検出された。

確認された規模は長軸 1.52m、短軸 0.86m、深さ 0.14m を測る。平面形は楕円形を、断面形は底面の南側が浅く窪んだ皿状を呈する。堆積土は 5 層からなる。



SK89 土坑 土層注記表

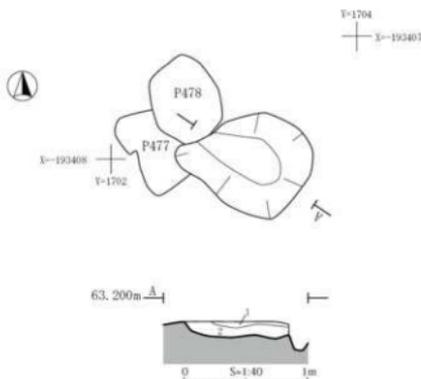
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	粗砂少量、径 2 cm の炭化物微量
2	2.5Y3/2	黒褐色	シルト質粘土	あり	あり	細砂少量、径 5 mm のシルトストーン微量
3	2.5Y4/1	黄灰色	シルト質砂	なし	ややあり	粗砂主体に、径 5 mm の礫と径 1 cm の炭化物微量
4	10Y4/1	灰色	シルト質砂	ややあり	あり	粗砂主体に、径 5 cm のシルトストーン微量
5	2.5Y4/1	黄灰色	シルト質砂	なし	ややあり	粗砂主体に、径 5 mm の礫と径 1 cm の炭化物微量 3 層に近似

第 289 図 SK89 土坑 平面図・断面図

## 2) SX30 性格不明遺構 (第 290 図、図版 84-7～8)

S1-W60 グリッドに位置する。西側を P477・P478 によって切られる。十和田 a 火山灰層の下から検出された炭化物集中範囲である。浅い掘り込みを伴う。壁面や底面には被熱による変色や変質は見られない。少量ではあるが炭化物は外側にも分布する。

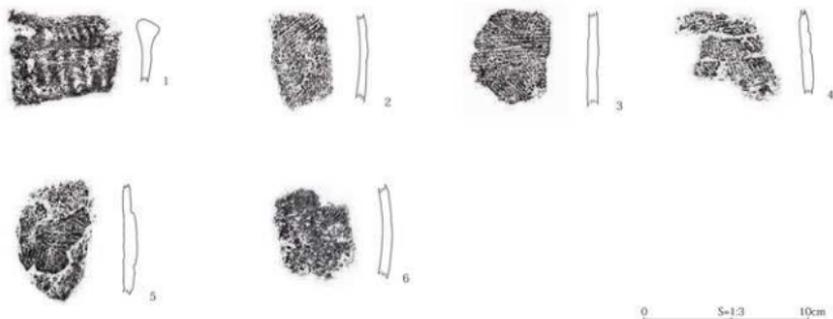
確認された規模は長軸 1.12 m、短軸 82cm、深さ 12cm を測る。平面形は不整楕円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は 2 層からなる。



SX30 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/1	黒褐色	シルト	あり	なし	砂粒多量、径 1～2cm の礫少量
2	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂	ややあり	なし	砂粒多量、軸物遺体少量 水性埋積土

第 290 図 SX30 性格不明遺構 平面図・断面図



縄文土器観察表

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	器種	部位	法量 (cm)			文様の特徴	登録番号
					口径	底径	器高		
291-1	121-7	S1-W59 VI層	深鉢	口縁部	—	—	(4.0)	LR側面押止	A-1
291-2	121-8	S1-W59 VI層	深鉢	胴部	—	—	(5.8)	帯歯状文 (斜位→横位)	A-2
291-3	121-9	S2-W61 VI層	深鉢	胴部	—	—	(6.0)	帯歯状文 (斜位→横位)	A-3
291-4	121-10	S1-W59 VI層	深鉢	胴部	—	—	(5.5)	帯歯状文	A-4
291-5	121-11	S2-W61 VI層	深鉢	胴部	—	—	(7.2)	帯歯状文	A-5
291-6	121-12	S2-W61 VI層	深鉢	胴部	—	—	(6.2)	帯歯状文	A-13

第291図 トレンチ出土の縄文土器

## 5 遺構外出土遺物

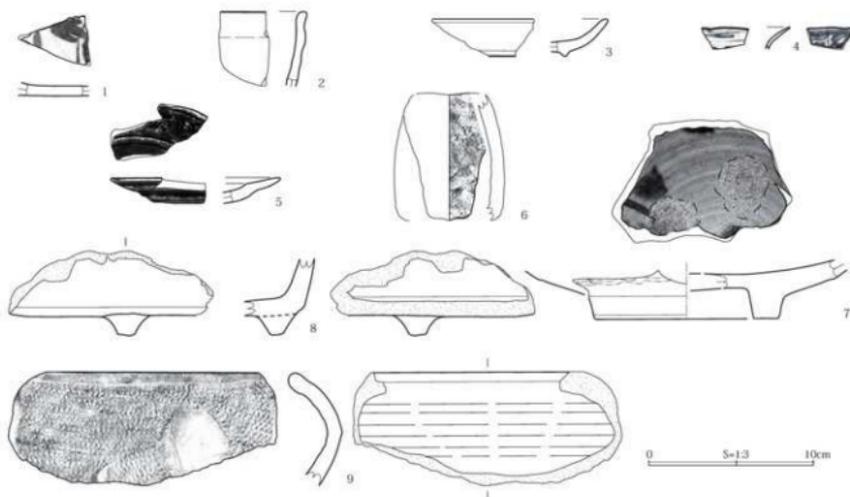
Ⅲ区の出土遺物の総量は2965点、

そのうち遺構外出土のものは2003点で、

内訳は瓦864点、陶器89点、瓦質土器17点、土師質土器196点、磁器122点、石器・石製品37点、木製品類553点、金属製品24点、その他101点である。近世の陶磁器の内訳はⅤ層34点、Ⅳ層46点、Ⅲ層71点、Ⅰ・Ⅱ層137点、掘乱95点を数える。以下、層別に実測図と観察表を掲載する。

## (1) Ⅴ層出土遺物 (第292図、図版122-1～9)

Ⅴ層からは17世紀を中心とした陶磁器、瓦質土器等が出土している。



Ⅴ層 出土遺物観察表 (陶磁器)

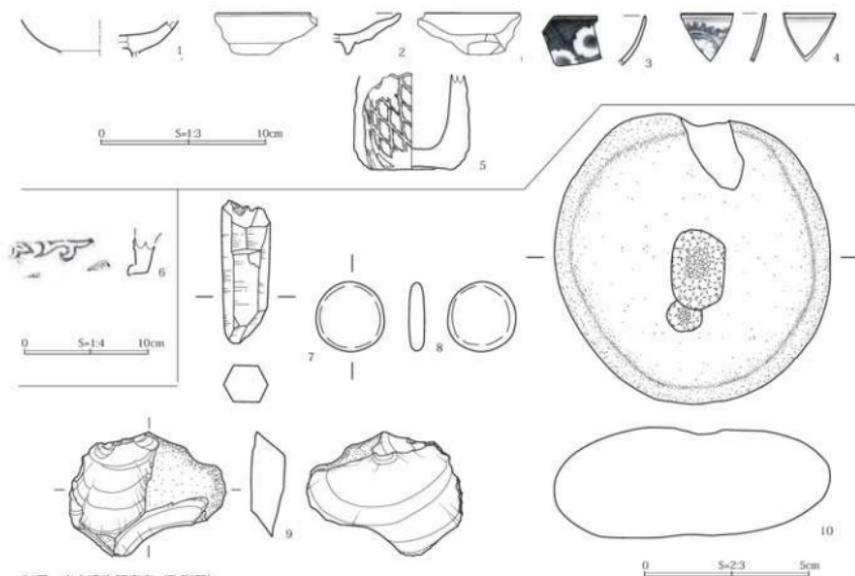
図版番号	写真図取番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
282-1	122-1	Ⅲ区	陶器	皿?	底部	やや粗	鉄絵	—	—	(3.0)	唐津?	17世紀		I-136
		Ⅴ層												
282-2	122-2	Ⅲ区	陶器	碗	上縁～体部	やや粗	長石軸	—	—	(4.6)	志野	17世紀前半		I-139
		Ⅴ層												
282-3	122-3	Ⅲ区	陶器	皿	上縁～底部	やや粗	長石軸	—	—	(2.3)	志野	17世紀前半		I-138
		Ⅴ層												
282-4	122-4	Ⅲ区	磁器	輪花皿	口縁	緻密	染付	—	—	(1.4)	中国(景德鎮)	17世紀前半		J-246
		Ⅴ層												
282-5	122-5	Ⅲ区	陶器	皿	上縁～体部	やや密	織部軸	—	—	(1.6)	美濃織部	17世紀	口縁部鉄絵文様あり	I-137
		Ⅴ層												
282-6	122-7	Ⅲ区	土師質土器	焼塩壺	胴部	粗	—	—	—	(7.5)	在地	近世		P-10
282-7	122-8	Ⅲ区	陶器	皿	底部	やや密	織部軸	—	(11.2)	(3.6)	美濃織部	17世紀前半	砂目	I-130
		Ⅴ層												
282-8	122-9	Ⅲ区	瓦質土器	火鉢	底部	やや粗	—	—	—	(5.3)	在地	近世		I-212
		Ⅴ層												
282-9	122-6	Ⅲ区	瓦質土器	火鉢	口縁部	やや粗	—	—	—	(7.6)	在地	近世		I-215
		Ⅴ層												

第292図 Ⅲ区Ⅴ層 出土遺物

第3節 Ⅲ区

(2) Ⅳ層出土遺物 (第293図、図版122-10～19)

Ⅳ層からは17世紀～18世紀の陶磁器、瓦、石器等が出土している。



Ⅳ層 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
293-1	122-10	Ⅲ区 Ⅳ層	陶器	碗?	体部	やや密	—	—	—	(3.0)	不明	近世		I-142
293-2	122-11	Ⅲ区 Ⅳ層	陶器	皿	口縁～底部	やや粗	長石軸	—	—	(5.1)	志野	16世紀末～ 17世紀初頭		I-145
293-3	122-12	Ⅲ区 Ⅳ層	磁器	碗	口部～体部	緻密	染付雪輪文	—	—	(3.1)	肥前	18世紀前半		J-249
293-4	122-13	Ⅲ区 Ⅳ層	磁器	碗	口部～体部	緻密	染付流水文	—	—	(3.0)	中野 (製鉄 跡)	17世紀前半		J-248
293-5	122-14	Ⅲ区 Ⅳ層	土師質土器	桃亀壺	胴部～底部	粗	—	—	—	(6.3)	台地	近世	外) 格子 印き	P-1

Ⅳ層 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
293-6	122-15	Ⅲ区 Ⅳ層	軒平瓦	(2.4)	(7.5)	2.5	三枚張+唐草	G-14

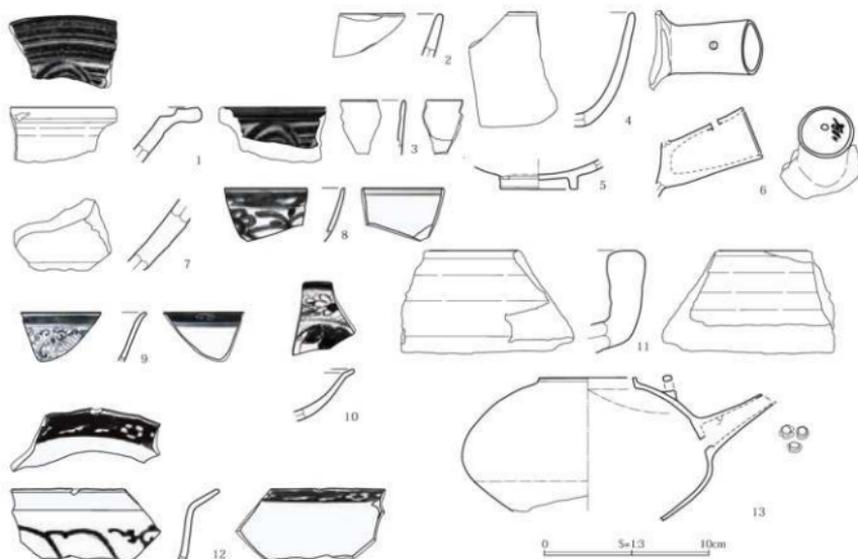
Ⅳ層 出土遺物観察表 (石器・石製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	石材	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
293-7	122-17	Ⅲ区 Ⅳ層	—	水晶	(4.3)	1.45	1.1	10.14		K-1
293-8	122-16	Ⅲ区 Ⅳ層	碁石	粘板岩	2.1	2.1	4.5	3.44		K-5
293-9	122-19	Ⅲ区 Ⅳ層	フレーク	珪質頁岩	2.9	4.7	1	16.51		K-6
293-10	122-18	Ⅲ区 Ⅳ層	磨石	安山岩	8.9	8.4	3.4	342.36		K-8

第293図 Ⅲ区Ⅳ層 出土遺物

## (3) III層出土遺物 (第294～295図、図版123-1～20・124-1～4)

III層からは18世紀代を中心とした陶磁器、瓦、瓦質土器等が出土している。

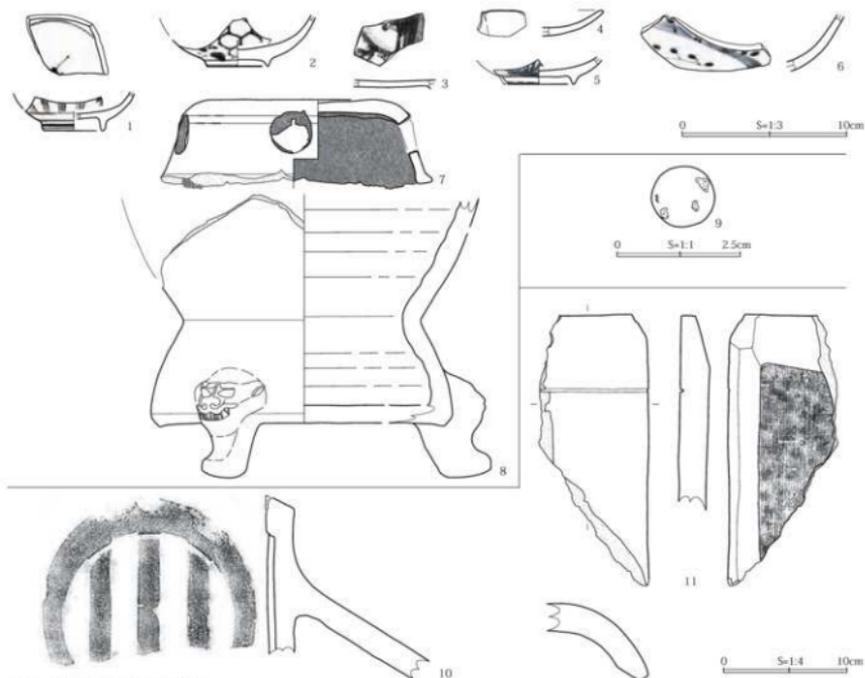


III層 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・樹位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
294-1	123-1	Ⅲ区 Ⅲ層	陶器	皿	口縁～体部	やや粗	刷毛目	—	—	(3.4)	唐津	18世紀		I-115
294-2	123-2	Ⅲ区 Ⅲ層	陶器	碗	口縁	密	—	—	—	(2.6)	大船相馬	18世紀～19世紀		I-114
294-3	123-3	Ⅲ区 Ⅲ層	陶器	碗	口縁～体部	密	—	—	—	(3.35)	大船相馬	18世紀～19世紀		I-113
294-4	123-6	Ⅲ区 Ⅲ層	陶器	碗	口縁～体部	やや密	—	—	—	(7.05)	肥前?	18世紀?		I-108
294-5	123-9	Ⅲ区 Ⅲ層	陶器	碗	底部	やや粗	—	—	—	(4.6)(1.85)	不明	近世		I-102
294-6	123-4	Ⅲ区 Ⅲ層	陶器	給筒	把手	やや粗	—	—	—	(5.4)	堤	19世紀前半	「古田瓦」墨書	I-98
294-7	123-8	Ⅲ区 Ⅲ層	陶器	鉢?	体部	粗	—	—	—	(4.45)	堤?	近世		I-109
294-8	123-13	Ⅲ区 Ⅲ層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(3.3)	肥前	18世紀		J-88
294-9	123-11	Ⅲ区 Ⅲ層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付唐草文	—	—	(3.0)	肥前	18世紀後半～19世紀		J-96
294-10	123-12	Ⅲ区 Ⅲ層	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付草花文	—	—	(3.2)	肥前	18世紀		J-97
294-11	123-5	Ⅲ区 Ⅲ層	陶器	鉢	口縁～体部	やや粗	—	—	—	(6.4)	不明	近世		I-110
294-12	123-7	Ⅲ区 Ⅲ層	磁器	跗皿	口縁～体部	緻密	染付草文・ 花文帯	—	—	(4.5)	肥前	18世紀中頃	輪花	J-243
294-13	123-10	Ⅲ区 Ⅲ層	陶器	土瓶	口縁～体部	密	—	—	—	(3.6)	大船相馬	19世紀中頃	3穴	I-99

第294図 III区III層 出土遺物

第3節 Ⅲ区



Ⅲ層 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)				産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高	重さ				
295-1	123-17	Ⅰ区 Ⅱ層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付	—	(3.6)	(2.1)	—	肥前	18世紀～19世紀		J-89
295-2	123-14	Ⅰ区 Ⅱ層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付亀甲文	—	(3.7)	(3.0)	—	肥前	18世紀～19世紀		J-90
295-3	123-16	Ⅰ区 Ⅱ層	磁器	皿	底部	緻密	染付山水文	—	—	(2.6)	—	肥前	18世紀～19世紀		J-85
295-4	123-15	Ⅰ区 Ⅱ層	磁器	茶碗	口縁～体部	緻密	白磁・型押し	—	—	(1.6)	—	肥前	18世紀		J-242
295-5	123-18	Ⅰ区 Ⅱ層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付草文	—	(4.3)	(1.7)	—	肥前	18世紀後半～19世紀初頭		J-241
295-6	123-19	Ⅰ区 Ⅱ層	磁器	鉢	体部	緻密	染付草花文	—	—	(3.5)	—	肥前	18世紀後半～19世紀初頭		J-244
295-7	124-1	Ⅰ区 Ⅱ層	瓦葺土器	紋通り・蓋	天井～縁部	粗	—	17.8	—	5.5	—	在池	近世	裾付着	I-205
295-8	124-2	Ⅰ区 Ⅱ層	瓦葺土器	紋通り・身	胴部～脚部	粗	—	—	18.4	(18.8)	—	在池	近世	裾付着	I-204

Ⅲ層 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm/g)				備考	登録番号	
					長さ	幅	厚さ	重さ			
295-9	123-20	Ⅰ区 Ⅱ層	弾	—	1.3	—	—	11.66	—	一部剥落	N-18

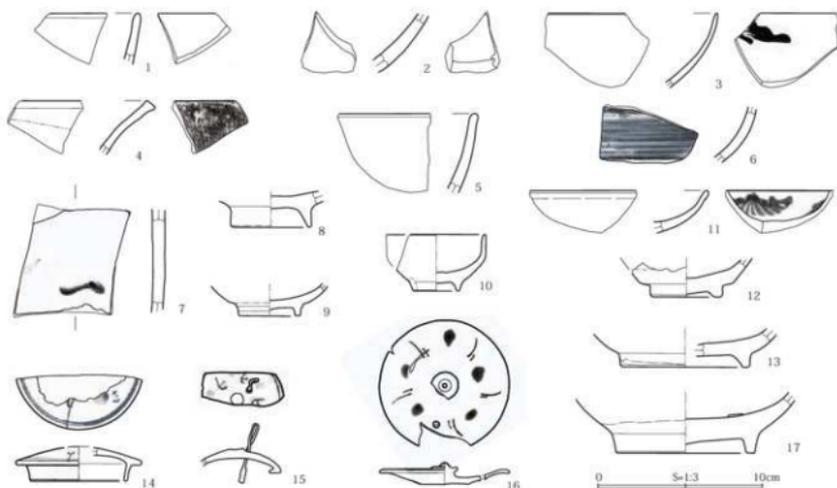
Ⅲ層 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
295-10	124-4	Ⅰ区 Ⅱ層	鳥伏瓦	(12.0)	16.8	2.1	三引山文	H-1
295-11	124-3	Ⅰ区 Ⅱ層	丸瓦	(22.0)	(8.0)	2.4	外)溝あり	F-5

第295図 Ⅲ区Ⅲ層 出土遺物

## (4) I層・II層・攪乱出土遺物(第296～299図、図版124-5～17・125-1～20・126-1～14・127-1～7)

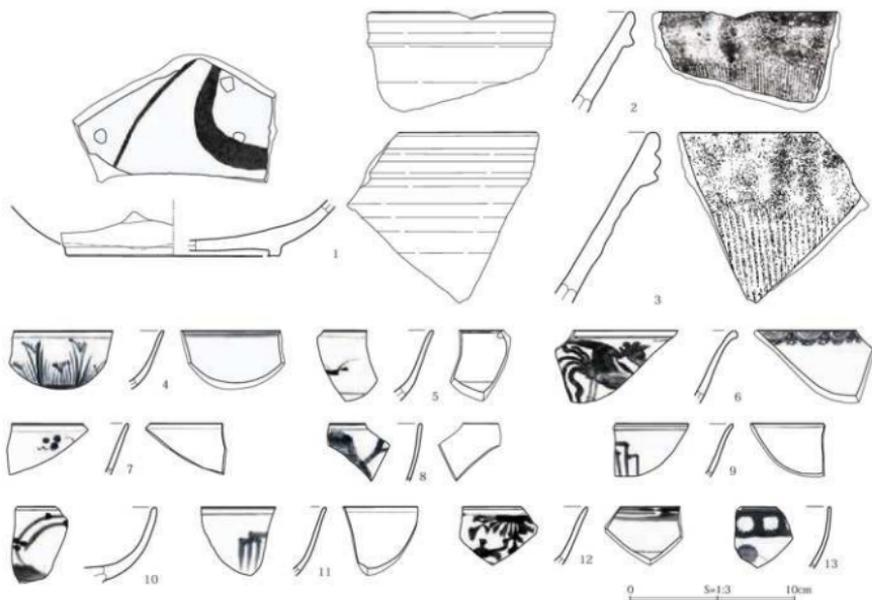
I層・II層・攪乱からは近代を主体とした陶磁器、瓦等が出土している。その中で近世に相当する遺物を中心に実測・図化を行っている。



I層・II層 出土遺物観察表(陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種類	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
296-1	124-5	III区 I層	陶器	碗	口縁～体部	密	—	—	(3.1)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-107	
296-2	124-6	III区 I層	陶器	碗	体部	密	—	—	(3.75)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-106	
296-3	124-7	III区 II層	陶器	碗	口縁～体部	密	—	—	(4.6)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-140	
296-4	124-8	III区 I層	陶器	擂鉢	口縁	密	—	—	(3.25)	不明	近世		I-134	
296-5	124-9	III区 I層	陶器	碗	口縁～体部	密	—	—	(4.9)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-111	
296-6	124-10	III区 I層	陶器	鉢	体部	やや密	刷毛目	—	(3.4)	唐津	18世紀		I-112	
296-7	124-12	III区 I層	陶器	瓶?	底部	密	鉄絵	—	(6.8)	大塚相馬	18世紀～19世紀	「—」	I-104	
296-8	124-13	III区 I層	陶器	碗	底部	密	—	—	(2.35) (2.2)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-144	
296-9	124-16	III区 II層	陶器	碗	底部	密	—	—	(3.7) (2.0)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-146	
296-10	124-14	III区 I層	陶器	碗	口縁～底部	密	—	(6.0)	(2.8) (3.6)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-103	
296-11	124-11	III区 II層	陶器	皿	口縁～体部	密	呉須絵草文	—	(2.6)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-105	
296-12	124-15	III区 II層	陶器	碗	底部	密	—	—	(4.2) (2.4)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-143	
296-13	124-17	III区 II層	陶器	鉢	底部	密	—	—	(7.7) (2.4)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-141	
296-14	125-5	III区 I層	陶器	蓋	体部～縁部	密	色絵花文	(6.6)	—	(2.15)	大塚相馬	19世紀前半～中葉		I-97
296-15	125-2	III区 I層	陶器	蓋	天井部～縁部	密	色絵花文	—	—	(1.6)	大塚相馬	19世紀前半～中葉	鉄紐残存	I-131
296-16	125-1	III区 I層	陶器	蓋	皿～縁部	密	色絵花文	(7.4)	(3.0)	1.3	大塚相馬	19世紀前半～中葉		I-101
296-17	125-4	III区 II層	陶器	鉢	底部	やや粗	—	—	(8.4) (3.8)	堤	19世紀	目跡	I-133	

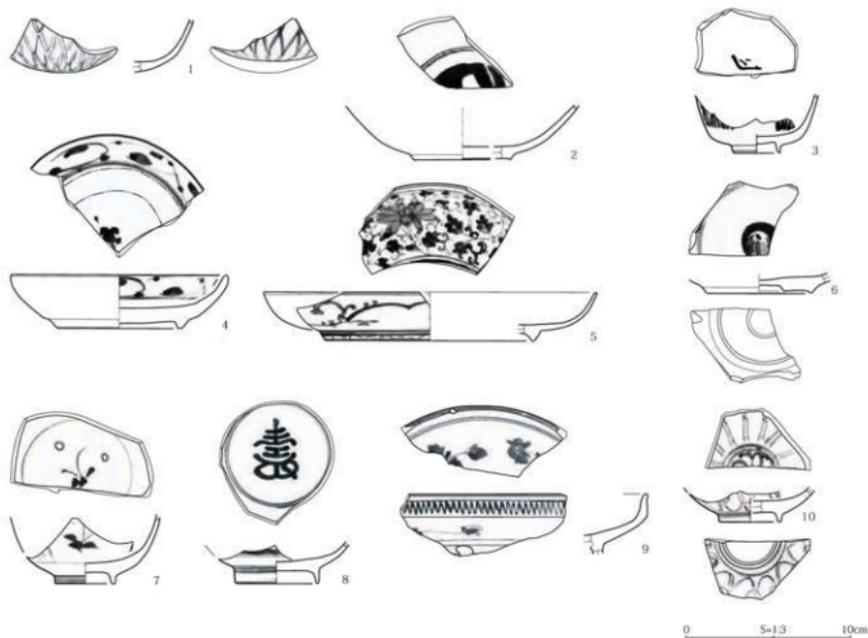
第296図 III区I層・II層 出土遺物



Ⅰ層・Ⅱ層・攪乱 出土遺物観察表(陶磁器)

調査番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
297-1	125-6	Ⅲ区 Ⅱ層	陶器	甕	底部	やや密	鉄絵	—	(6.5)	(3.5)	唐津	18世紀	目跡×3	J-100
297-2	125-9	Ⅲ区 Ⅱ層	陶器	楕鉢	口縁	やや粗	—	—	—	(6.2)	不明	近世		J-147
297-3	125-3	Ⅲ区 Ⅱ層	陶器	楕鉢	口縁～体部	やや粗	—	—	—	(10.6)	不明	近世		J-135
297-4	125-7	Ⅲ区 Ⅱ層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(7.05)	肥前	19世紀前半		J-108
297-5	125-8	Ⅲ区 Ⅱ層	磁器	碗	底部	緻密	染付草文	—	(4.6)	(1.85)	肥前	18世紀～ 19世紀		J-102
297-6	125-10	Ⅲ区 Ⅰ層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付風 扇文・ 唐文 帯	—	—	(4.5)	肥前	18世紀後半		J-95
297-7	125-11	Ⅲ区 Ⅰ層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(3.2)	肥前	18世紀		J-105
297-8	125-12	Ⅲ区 Ⅱ層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(3.05)	肥前	18世紀		J-104
297-9	125-13	Ⅲ区 Ⅱ層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(3.3)	肥前	18世紀		J-235
297-10	125-16	Ⅲ区 Ⅱ層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草 花文	—	—	(4.7)	肥前 (或佐良)	18世紀	くらわん か	J-237
297-11	125-15	Ⅲ区 Ⅱ層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(4.2)	肥前	18世紀		J-94
297-12	125-14	Ⅲ区 Ⅱ層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草 文	—	—	(3.6)	肥前	18世紀後半 ～19世紀		J-99
297-13	125-18	Ⅲ区 Ⅱ層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付唐 輪文	—	—	(3.8)	肥前	18世紀後半		J-109

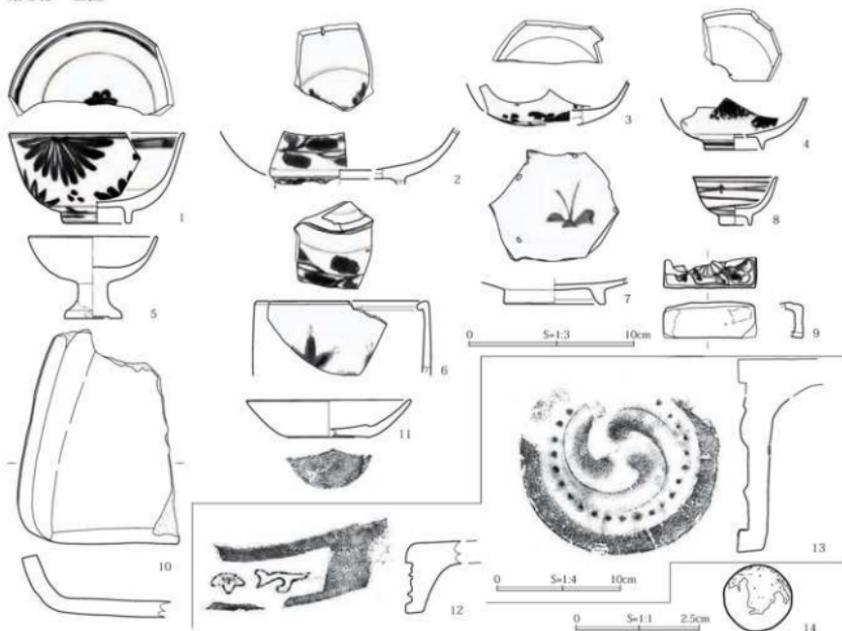
第297図 Ⅲ区Ⅰ層・Ⅱ層・攪乱 出土遺物



I層・II層・攪乱 出土遺物観察表（磁器）

回収番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
298-1	125-17	Ⅲ区 I層	磁器	甕	体部	織密	染付蘭目文	—	—	(3.3)	肥前	18世紀		J-236
298-2	125-20	Ⅲ区 I層	磁器	甕	体部～底部	織密	染付	—	(5.95)	(3.3)	瀬戸・美濃	19世紀		J-100
298-3	125-19	Ⅲ区 I層	磁器	甕	体部～底部	織密	染付源氏杵文	—	(2.8)	(2.1)	瀬戸・美濃	19世紀		J-107
298-4	126-1	Ⅲ区 I層	磁器	皿	口縁～底部	織密	染付五弁花・ 草文	(13.4)	(7.4)	3.3	肥前（波庄 見）	18世紀後半	内底に龍の目 輪刺ぎ	J-240
298-5	126-3	Ⅲ区 掘瓦	磁器	皿	口部～底部	織密	染付草文・花 唐草文	(20.4)	(12.7)	(3.0)	肥前	18世紀前半		J-239
298-6	126-4	Ⅲ区 I層	磁器	皿	底部	織密	染付	—	(6.4)	(1.2)	瀬戸・美濃	19世紀		J-111
298-7	126-2	Ⅲ区 I層	磁器	甕	体部～底部	織密	染付草花文	—	(3.6)	(4.0)	瀬戸・美濃	19世紀	目跡×2	J-98
298-8	126-6	Ⅲ区 II層	磁器	甕	体部～底部	織密	染付	—	(5.0)	(2.6)	瀬戸・美濃	19世紀	見込み「寿」	J-238
298-9	126-7	Ⅲ区 I層	磁器	皿	口縁～体部	織密	染付草花文・ 蘭文帯	—	—	(3.7)	肥前	17世紀末～ 18世紀前半		J-245
298-10	126-11	Ⅲ区 II層	磁器	甕	体部～底部	織密	染付蘭目文	—	(3.6)	(1.9)	肥前	17世紀後半 ～18世紀		J-110

第298図 Ⅲ区I層・II層・攪乱 出土遺物



Ⅰ層・掘乱 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
299-1	126-13	Ⅲ区 掘乱	磁器	碗	口縁～底部	織密	染付草花文	(10.7)	(4.0)	(5.6)	瀬戸・美濃	19世紀中頃		J-101
299-2	126-10	Ⅲ区 掘乱	磁器	碗	体部～底部	織密	染付草文	—	—	(3.5)	肥前	18世紀		J-112
299-3	126-8	Ⅲ区 掘乱	磁器	碗	体部	織密	染付草文	—	—	(2.2)	肥前	18世紀		J-103
299-4	126-9	Ⅲ区 1層	磁器	碗	体部～底部	織密	染付	—	(3.6)	(3.2)	瀬戸・美濃	19世紀		J-93
299-5	126-12	Ⅲ区 1層	磁器	仏教器	口縁部～底部	織密	白磁	(7.8)	(3.5)	5.1	肥前	近世		J-86
299-6	127-1	Ⅲ区 1層	磁器	香炉	口縁～体部	織密	染付	—	—	(4.6)	肥前	18世紀～19世紀		J-91
299-7	126-14	Ⅲ区 掘乱	磁器	皿	底部	織密	染付	—	(6.1)	(1.6)	肥前	18世紀～19世紀	目録×4	J-87
299-8	126-5	Ⅲ区 1層	磁器	碗	口縁～底部	織密	染付線文	5.1	1.8	3.0	瀬戸・美濃	19世紀		J-106
299-9	127-2	Ⅲ区 1層	磁器	水筒	体部～底部	織密	染付・型押菊文	—	—	(1.9)	肥前	近世	内) 布11	J-92
299-10	127-5	Ⅲ区 掘乱	瓦質土器	盤?	口縁部～底部	今卒粗	—	—	—	(3.6)	在地	近世		F-206
299-11	127-3	Ⅲ区 掘乱	土師質土器	皿	口縁部～底部	今卒密	—	11.0	5.9	2.5	在地	近世		F-219

掘乱 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
299-12	127-6	Ⅲ区 掘乱	軒平瓦	(4.4)	(14.0)	1.9	三枚栞+唐草文	G-13
299-13	127-4	Ⅲ区 掘乱	軒丸瓦	(6.5)	16.1	2.2	三巴文+池珠文	F-6

Ⅰ層 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm/g)			備考	登録番号	
					長さ	幅	厚さ			
299-14	127-7	Ⅲ区 1層	弾	—	1.5	—	—	14.78	一部割落	N-17

第299図 Ⅲ区Ⅰ層・掘乱 出土遺物

## 第6章 自然科学分析

### 第1節 樹種調査

中尾七重（武蔵大学総合研究所）

#### 1. はじめに

仙台城跡（亀岡トンネル開削部）から出土した木製品40点について樹種調査を行った。

#### 2. 調査方法

1) 出土部材から剃刀を使用して、木材組織切片を木口面（図版a）・板目面（図版b）・柃目面（図版c）の3面を作成し、生物顕微鏡観察により樹種名を同定した。樹種名の同定にあたっては、島地謙・伊藤隆夫 1982 図説木材組織 地球社、伊藤隆夫 1995 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ 木材研究・資料第31号 京都大学木質科学研究所、伊藤隆夫 1996 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ 木材研究・資料第32号 京都大学木質科学研究所、伊藤隆夫 1997 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ 木材研究・資料第33号 京都大学木質科学研究所、伊藤隆夫 1998 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ 木材研究・資料第34号 京都大学木質科学研究所、IAWA委員会・E.A.Wheeler・P.Baas・P.E.Gasson 1998 広葉樹材の識別 海青社、独立行政法人森林総合研究所木材データベース を参考にし、筆者が所持しているプレパラートと比較して、確認した。

2) 同定の根拠 樹種名を同定した根拠について簡単に述べる。

二葉松類 *Pinus*(*Diploxylon*) sp.

道管はない。樹脂道を持ち、分野壁孔は窓状、放射仮道管の内壁は、鋸歯状に不規則に突出している。

スギ *Cryptomeria japonica* D.Don

道管はない。晩材の幅が広く、早材と晩材の硬さの違いが大きい。樹脂細胞は年輪外側に接線状に散在する。分野壁孔は典型的なS型で、1分野に1～3個、通常は2個存在する。日本特産で1属1種。

クリ *Castanea crenata* SIEB. et ZUCC.

環孔材。孔圏部は3～4列。孔圏外は急に大きさを減じて、複合して火炎状に配列。放射組織は単列同性。道管を囲む、振れ絡みあう周囲仮道管が特徴的。

ナラ類 *Sect. Prinus Loudon syn. Diversipilosae, Dentatae*

環孔材。孔圏部1～3列の大道管は円形で単独、孔圏外で急に大きさを減じた小道管は単独あるいは2～3個かたまって火炎状に配列。放射組織は単列同性と複合型広放射組織の2種類からなり、全て平伏細胞。

クマシデ属 *Carpinus* L.

散孔材。年輪界は波状を呈する。道管は単独ないし放射方向に数個複合する。道管は単穿孔を有し、内壁には不鮮明ならせん肥厚が見られる。放射組織は1-4列で、集合放射組織を有し、結晶細胞が存在する。

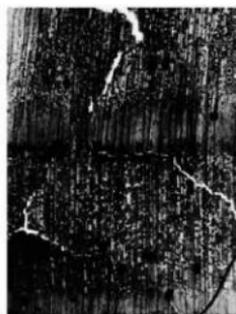
#### 3. 調査結果

柱はスギ、クリ、ニヨウマツが、杭はスギ、クリ、ナラ類、クマシデ属が、木柱はニヨウマツが用いられていた。マツ科マツ属は、ニヨウマツ（複維管束亜属）とゴヨウマツ（単維管束亜属）に分類され、日本で代表的なニヨウマツはアカマツとクロマツである。アカマツとクロマツは顕微鏡観察では識別は困難である。ナラ類とは、ブナ科コナラ亜科コナラ属コナラ亜属コナラ節に属するコナラ、ミズナラ、カシワなどの呼称である。コナラ、ミズナラ、カシワは顕微鏡観察では識別は困難である。カバノキ科クマシデ属にはサワシバ、クマシデ、イヌシデ、アカシデ、イワシデが属するが、No 21 はクマシデ、イヌシデ、アカシデ、イワシデのいずれかであり、これらは顕微鏡観察では識別は困難である。

第1節 樹種調査

通しNo	出土遺構	種類	樹種	C14年代No	遺物No	登録No
1	1号木樋	木樋台	スギ		1339	L-39
2	1号木樋	木樋	マツ		1546	L-41
3	1号木樋	木樋	マツ		1546-2	L-41
4	1号木樋	木樋	マツ		1545	
5	1号木樋	蓋板	マツ		1546	L-41
6	2号竹樋-P4	杭	スギ		369	L-31
7	2号竹樋-P4	杭	スギ		368	L-30
8	1号池-杭6	杭	クリ		510	
9	1号池-杭16	杭	クリ	K9	520	L-92
10	1号池-杭10	杭	クリ		514	
11	1号池-杭42	杭	マツ	K18	546	
12	1号池	建築部材	スギ		440	L-88
13	1号石垣	杭	スギ		495	L-111
14	1号枿状遺構-杭1	杭	スギ	K16	551	
15	SA1-P25	柱材	マツ	K22	220	
16	SA1-P24	柱材	マツ		219	
17	SA6-P3	柱材	スギ		1875	
18	SA5a-P1	柱材	クリ		2229	
19	SA5b	柱材	クリ	K20	2236	
20	SA8	柱材	ナラ類	K2	2124	L-107
21	SA8	柱材	クマシデ類		2126	L-108
22	SA9	杭	スギ		2197	L-110
23	SA9	杭	スギ	K4	2199	L-109
24	SA17-P2	柱材	スギ		2051	L-43
25	SA18-P2	柱材	スギ	K17	2273	
26	SA19-P2	柱材	クリ		2310	
27	SA21-P2	柱材	クリ	K12	2548	
28	SA21-P1	柱材	クリ	K13	2549	
29	SA23-P3	柱材	クリ		502	L-1
30	SA23-P4	柱材	スギ		503	L-2
31	SA23-P5	柱材	スギ		504	L-3
32	SD54	杭	スギ		2696	L-51
33	SE1	側板	スギ		2159	L-4
34	SE1	側板	マツ		2167	L-5
35	SE1	柱材	スギ	K19	2611	
36	SK68	柱材	マツ	K1	2241	L-10
37	SK68	横木	スギ		2241	L-10
38	P2	柱材	マツ		971	L-112
39	P2	横木	スギ		971	L-112
40	SK72	柱材	スギ		2239	L-27

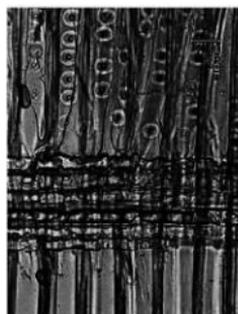
第3表 樹種一覧



1. ニヨウマツ木口



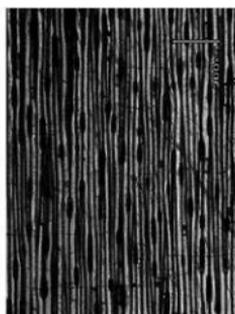
2. ニヨウマツ板目



3. ニヨウマツ径目



4. スギ木口



5. スギ板目



6. スギ径目



7. クリ木口

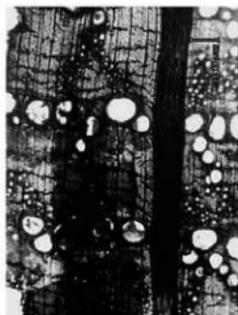


8. クリ板目



9. クリ径目

第300図 仙台城跡（亀岡トンネル開削部）出土木製品の顕微鏡写真



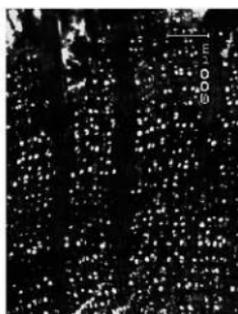
10. ナラ木口



11. ナラ板目



12. ナラ縦目



13. クマシデ木口



14. クマシデ板目



15. クマシデ縦目

第301図 仙台城跡（亀岡トンネル開削部）出土木製品の顕微鏡写真

## 第2節 放射性炭素年代測定調査

中尾七重（武蔵大学総合研究所）

### 1. はじめに

仙台城跡（亀岡トンネル開削部）から出土した木製品 12 点について、放射性炭素年代測定を行った。12 点の木製品のうち、20 年輪以上が確認された 10 点の木製品についてはウィグルマッチ法を用いた。

### 2. 調査方法

#### 1) 試料採取

2008 年 9 月 23 日、保管中の出土木製品群から、遺構面の年代に対応する遺物であること、樹木の伐採年代を知るために必要な樹皮隣接層や辺材部が存在すること、ウィグルマッチ法の適用可能な年輪数が確保できること、の 3 点に注目して選定を行った。その結果、K1/Na 36(2241)、K2/Na 34(L-107)、K4/Na 19(L-109)、K9/Na 8 (L-92)、K12/Na 3(2548)、K13/Na 6(2549)、K16/Na 29(551)、K17/Na 28(2273)、K18/Na 31(546)、K19/Na 30(2611)、K20/Na 27(2236)、K 22/Na 4(220) の 12 木製品を選定し、放射性炭素年代測定対象とした。それぞれ写真撮影等の記録を行い、6 年輪の K4 および K16 は 1 点の試料採取、その他の 10 木製品については放射性炭素 14 ウィグルマッチ用に複数の年輪試料を採取した。それぞれ最外層からの年輪位置を記録し、最外年輪を第一年輪として数十ミリグラムの年代測定試料の採取を行った。

#### 2) 試料処理および炭素 14 測定

分析試料として十数ミリグラムを分取し、標準的な酸・アルカリ・酸による洗浄処理（AAA 処理）、化学洗浄した試料の二酸化炭素への変換、二酸化炭素のグラファイト化、ならびに放射性炭素 14（ $^{14}\text{C}$ ）の加速器質量分析を一括してパレオ・ラボ社に委託した。

#### 3) 炭素 14 測定について

得られた炭素 14 測定の測定結果を表 1 に示す。炭素 13 同位体比は、炭素 13 の炭素 12 に対する同位体比の標準資料に対する偏差で、千分率で表される。炭素 14 年代は、炭素 14 濃度（ $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$  比）の測定によって得られた値を炭素 14 年代に換算した値で示されている。炭素 14 年代値には測定施設のラボ番号が付される。

炭素 14 年代値は、西暦 1950 年に相当する大気炭素 14 濃度基準値に対する試料の濃度比から計算されるモデル年代で、 $\delta^{13}\text{C}$  の同位体効果補正（-25‰に規格化）を行った値である。通常は BP 又は yrBP で示されることが多いが、ここでは炭素 14 年代値であることを明確にするため、 $^{14}\text{C}$  BP を使用している。表の炭素 14 年代につけられた誤差は、測定における統計誤差（1 標準偏差、68%信頼限界）である。暦年値に換算するには、後述するように、較正曲線を用いて実年代（暦年代）に変換する必要があるが、基本的には、測定試料の炭素 14 濃度と、過去の大気の炭素 14 濃度曲線（較正曲線）との比較から年代が得られる。実際には濃度を炭素年代に換算した値（モデル年代）で解析する。

#### 4) 測定結果の解析・・・ウィグルマッチ法による年代解析

木材がもつそれぞれの年輪の炭素 14 濃度（同位体組成）は、ミクロ的には木材繊維（セルロース）が形成された年代の大気二酸化炭素の炭素 14 濃度（同位体組成）×経過時間による壊変減衰率、となっている。年輪中の炭素 14 濃度は全体としては、時間の経過による放射壊変減衰のため、過去に遡るほど少なくなっているが、詳細に見るとそれぞれの年の大気中炭素 14 濃度の変動によって凸凹の特性を持っている。すなわち暦年較正曲線は凸凹（wiggle）をもっているため、測定値はしばしば複数の年代に対応することになる。この問題を解決するため、年代間隔のわかった複数試料で炭素 14 測定値を得て、暦年較正曲線の凸凹の特性と照合解析し年代推定誤差を小さ

## 第2節 放射性炭素年代測定調査

くする方法（ウィグルマッチ法）が、近年の暦年較正曲線の整備や年代測定精度の向上に伴って注目されるようになった。年輪に沿って多数の測定値がある場合には、全体のデータのパターンを満たす条件は極めて限られ、高精度に年代が決定される。ここでは、ウィグルマッチ法のための歴博製解析プログラム RHC3.2w で計算した。プログラムは現在国際的に広く用いられているベイズ統計の方法を用いるもので、通常 95% の信頼限度で推定年代範囲を算出した。数値は最外年輪の較正年代を cal AD で表した。年代の計算値は用いる基準データ（暦年較正データベース）や計算法で一桁台は変わらるので、細かな数字の違いを議論することは意味がない。暦年較正データベースは IntCal04 を用いている。

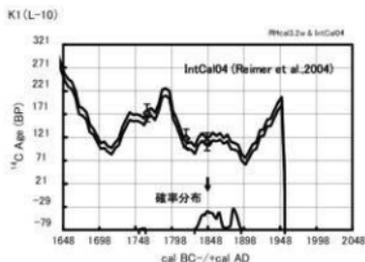
放射性炭素年代測定結果 仙台城跡（亀岡トンネル開削部）出土木製品

試料No	年代測定資料No	遺物番号	出土地点	種類	年輪層 / 総年輪数	最外部	炭素 13 同位体比 * $\delta^{13}C$ (‰)	14C 年代 (14CBP $\pm 1\sigma$ )	測定番号	較正した暦年代範囲
1	K1	L-10			1/84		-27.32 $\pm$ 0.16	110 $\pm$ 20	PLD-11516	
2	1	L-10	SK68	柱材	30/84		-27.69 $\pm$ 0.13	120 $\pm$ 20	PLD-11517	1833-1871 1876-1893
3	1	L-10			84/84		-28.11 $\pm$ 0.13	175 $\pm$ 20	PLD-11518	
4	K2	L-107			1/34		-28.82 $\pm$ 0.12	345 $\pm$ 20	PLD-11519	
5	2	L-107	SAB	柱材	22/34		-30.94 $\pm$ 0.16	345 $\pm$ 20	PLD-11520	1557-1634
6	2	L-107			34/34		-30.11 $\pm$ 0.20	310 $\pm$ 20	PLD-11521	
7	K4	L-109	SA9	杭	3/6		-24.28 $\pm$ 0.19	135 $\pm$ 25	PLD-11522	1680-1717 1719-1790 1803-1894 1911-1943
8	K9	L-92			1/20		-28.27 $\pm$ 0.12	90 $\pm$ 20	PLD-11523	
9	9	L-92	1号池	杭	10/20	皮つき	-30.03 $\pm$ 0.12	95 $\pm$ 20	PLD-11524	1710-1731 1830-1856 1878-1926
10	9	L-92			19/20		-31.15 $\pm$ 0.11	85 $\pm$ 20	PLD-11525	
11	K12	2548			1/20		-29.67 $\pm$ 0.13	195 $\pm$ 20	PLD-11526	
12	12	2548	SA21-P2	柱材	10/20		-27.95 $\pm$ 0.22	180 $\pm$ 20	PLD-11527	1762-1794
13	12	2548			20/20		-28.10 $\pm$ 0.13	145 $\pm$ 20	PLD-11528	
14	K13	2549			1/23		-29.35 $\pm$ 0.10	120 $\pm$ 20	PLD-11529	
15	13	2549	SA21-P1	柱材	10/23		-27.73 $\pm$ 0.14	135 $\pm$ 20	PLD-11530	1690-1714 1815-1835
16	13	2549			23/23		-27.73 $\pm$ 0.12	165 $\pm$ 20	PLD-11531	
17	K16	551	1号枘状遺構	杭	3/6		-27.02 $\pm$ 0.11	85 $\pm$ 20	PLD-11532	1697-1730 1816-1857 1869-1921
18	K17	2273			1/89		-24.80 $\pm$ 0.12	285 $\pm$ 20	PLD-11533	
19	17	2273	SA18	柱材	89/89		-25.41 $\pm$ 0.13	345 $\pm$ 20	PLD-11534	1629-1662
20	K18	546			1/48		-29.16 $\pm$ 0.12	60 $\pm$ 20	PLD-11535	
21	18	546	1号池	杭	20/48		-27.58 $\pm$ 0.11	55 $\pm$ 20	PLD-11536	1892-1921
22	18	546			48/48		-28.45 $\pm$ 0.14	140 $\pm$ 20	PLD-11537	
23	K19	2611			1/74		-23.62 $\pm$ 0.21	280 $\pm$ 20	PLD-11538	
24	19	2611	SE1	杭	40/74	皮つき	-24.06 $\pm$ 0.12	370 $\pm$ 20	PLD-11539	1633-1656
25	19	2611			74/74		-24.57 $\pm$ 0.15	315 $\pm$ 20	PLD-11540	
26	K20	2236			1/24		-28.09 $\pm$ 0.22	160 $\pm$ 20	PLD-11541	
27	20	2236	SA5b	柱材	10/24		-26.87 $\pm$ 0.13	165 $\pm$ 20	PLD-11542	1733-1757 1927-1949
28	20	2236			24/24		-28.91 $\pm$ 0.19	85 $\pm$ 20	PLD-11543	
29	K22	220			1/36		-30.10 $\pm$ 0.11	105 $\pm$ 20	PLD-11544	
30	22	220	SA1-P25	柱材	20/36	皮つき	-28.97 $\pm$ 0.17	70 $\pm$ 20	PLD-11545	1904-1937
31	22	220			36/36		-27.29 $\pm$ 0.14	65 $\pm$ 20	PLD-11546	

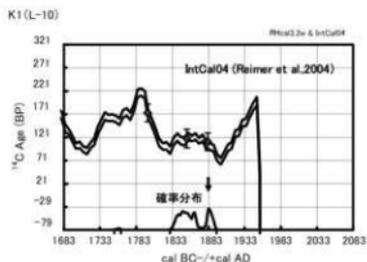
\* 炭素 13 の炭素 12 に対する同位体比の標準試料に対する偏差を千分率で表示したもので、AMS による測定で参考値。炭素 14 濃度 (14C/12C) の同位体効果の補正に用いられる指標。

第4表 仙台城跡（亀岡トンネル開削部）出土木製品の炭素 14 年代測定結果

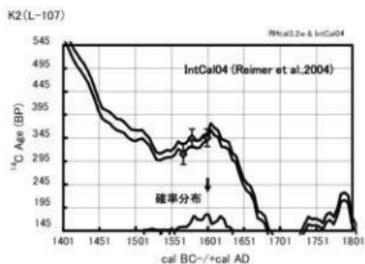
## 3. 年代解析結果



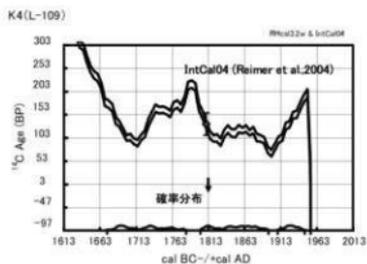
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1833 cal AD	~	1871 cal AD	( 68% )
1876 cal AD	~	1893 cal AD	( 27% )



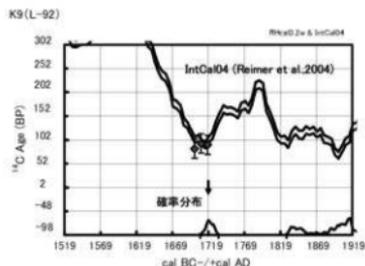
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1833 cal AD	~	1871 cal AD	( 68% )
1876 cal AD	~	1893 cal AD	( 27% )



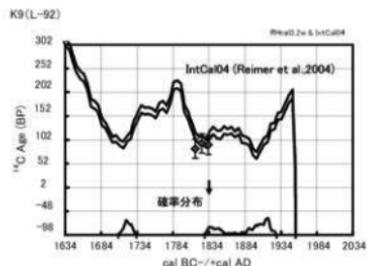
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1519 cal AD	~	1528 cal AD	( 2% )
1557 cal AD	~	1634 cal AD	( 93% )



Result of Analysis:		95% confidence limit	
1680 cal AD	~	1717 cal AD	( 16% )
1719 cal AD	~	1770 cal AD	( 20% )
1775 cal AD	~	1779 cal AD	( 1% )
1803 cal AD	~	1894 cal AD	( 43% )
1911 cal AD	~	1943 cal AD	( 15% )



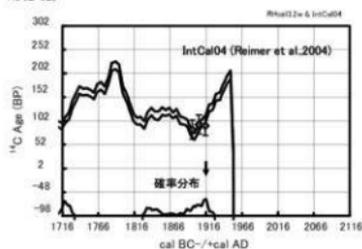
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1710 cal AD	~	1731 cal AD	( 24% )
1830 cal AD	~	1856 cal AD	( 20% )
1861 cal AD	~	1862 cal AD	( 0% )
1868 cal AD	~	1871 cal AD	( 1% )
1878 cal AD	~	1926 cal AD	( 50% )



Result of Analysis:		95% confidence limit	
1710 cal AD	~	1731 cal AD	( 24% )
1830 cal AD	~	1856 cal AD	( 20% )
1861 cal AD	~	1862 cal AD	( 0% )
1868 cal AD	~	1871 cal AD	( 1% )
1878 cal AD	~	1926 cal AD	( 50% )

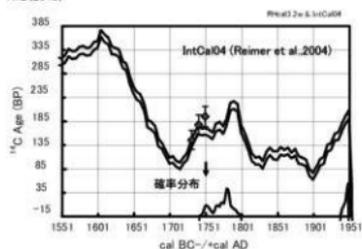
## 第2節 放射性炭素年代測定調査

K9(L-92)



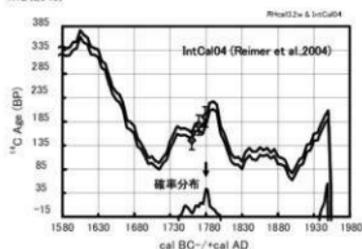
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1710 cal AD	~	1731 cal AD	( 24% )
1830 cal AD	~	1856 cal AD	( 20% )
1861 cal AD	~	1862 cal AD	( 0% )
1868 cal AD	~	1871 cal AD	( 1% )
1878 cal AD	~	1926 cal AD	( 50% )

K12(2548)



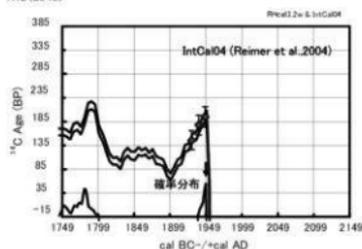
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1747 cal AD	~	1760 cal AD	( 15% )
1762 cal AD	~	1794 cal AD	( 57% )
1940 cal AD	~	1949 cal AD	( 23% )

K12(2548)



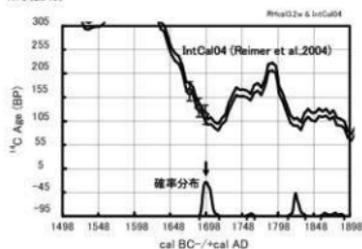
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1747 cal AD	~	1760 cal AD	( 15% )
1762 cal AD	~	1794 cal AD	( 57% )
1940 cal AD	~	1949 cal AD	( 23% )

K13(2549)



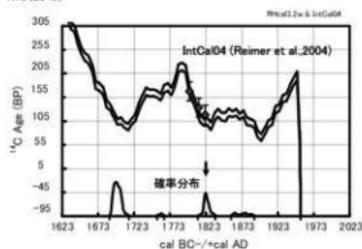
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1747 cal AD	~	1760 cal AD	( 15% )
1762 cal AD	~	1794 cal AD	( 57% )
1940 cal AD	~	1949 cal AD	( 23% )

K13(2549)

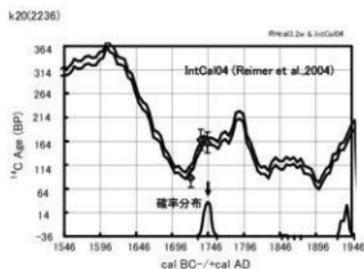
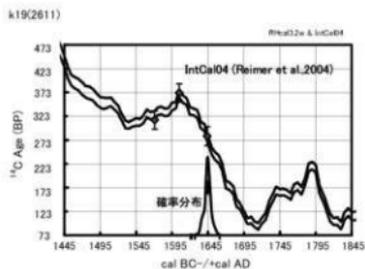
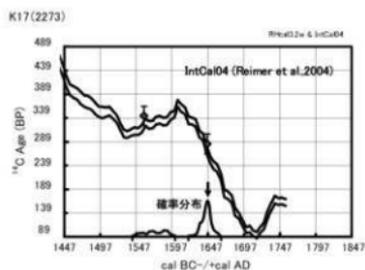
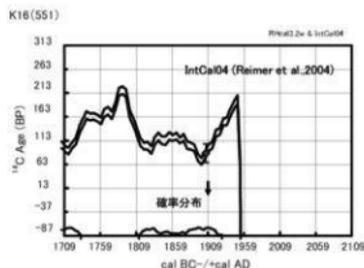
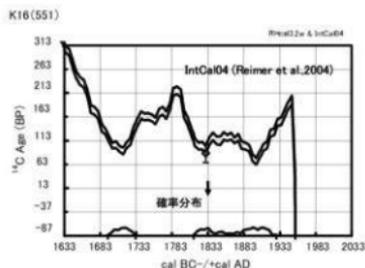


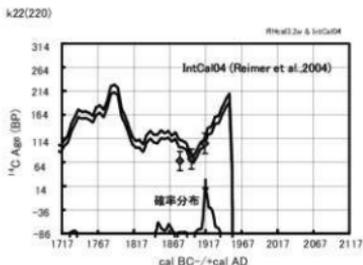
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1690 cal AD	~	1714 cal AD	( 80% )
1757 cal AD	~	1764 cal AD	( 2% )
1815 cal AD	~	1835 cal AD	( 25% )
1859 cal AD	~	1888 cal AD	( 9% )

K13(2549)



Result of Analysis:		95% confidence limit	
1690 cal AD	~	1714 cal AD	( 80% )
1757 cal AD	~	1764 cal AD	( 2% )
1815 cal AD	~	1835 cal AD	( 25% )
1859 cal AD	~	1888 cal AD	( 9% )





Result of Analysis:		95% confidence limit	
1730	cal AD ~	1737	cal AD ( 2% )
1847	cal AD ~	1872	cal AD ( 20% )
1881	cal AD ~	1882	cal AD ( 0% )
1886	cal AD ~	1887	cal AD ( 0% )
1904	cal AD ~	1937	cal AD ( 73% )

謝辞：パレオ・ラボ（株）の AMS 測定スタッフの方々の高精度炭素 14 測定のためのご協力に感謝する。

- i 放射性炭素年代測定番号 / 木製品リスト通しNo (遺物番号)
- ii 今村峯雄 (2007) 「炭素 14 年代校正ソフト RHC3.2 について」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 137 集, pp.79-88
- iii Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) Radiocarbon 46, pp.1029-1058.

### 第3節 寄生虫卵分析

株式会社古環境研究所

#### 1. はじめに

人や動物などに寄生する寄生虫の卵殻は、花粉と同様の条件下で堆積物中に残存しており、人の居住域では寄生虫卵による汚染度が高くなる。寄生虫卵分析を用いてトイレ遺構の確認や人糞施肥の有無の確認が可能であり、寄生虫卵の種類から、摂取された食物の種類や、そこに生息していた動物種を推定することも可能である。

#### 2. 試料

分析試料は、仙台城跡（亀岡トンネル開削部）の調査区北壁短弁から採取されたⅢ層（試料110）、Ⅳa層（試料111）、Ⅴa層（試料112）、Ⅴb層（試料113）、Ⅵa層（試料114）、Ⅵb層（試料115）、Ⅵc層（試料116）、Ⅵd層（試料117）、Ⅵe層（試料125）の9点、調査区南壁断面から採取されたⅡ層（試料118）、Ⅲ層（試料119）、Ⅳa層（試料120）、Ⅴc層（試料121）、Ⅵd層（試料122）、Ⅵe層（試料123）の6点の計15点である。

#### 3. 方法

微化石分析法を基本に以下のように行った。

- 1) 試料から1cm<sup>3</sup>を採量
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加え15分間湯煎
- 3) 篩別により大きな砂粒や木片等を除去し、沈澱法を施す
- 4) 25%フッ化水素酸を加え30分静置（2・3度混和）
- 5) 水洗後サンプルを2分
- 6) 2分したサンプルの一方にアセトリシス処理を施す
- 7) 両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作製
- 8) 検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行う

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

#### 4. 結果

調査区北壁短弁、調査区南壁断面ともに、いずれの試料からも寄生虫卵および明らかな消化残査は検出されず、花粉密度も極めて低い。

#### 5. 考察とまとめ

仙台城跡（亀岡トンネル開削部）の調査区北壁短弁のⅢ層、Ⅳa層、Ⅴa層、Ⅴb層、Ⅵa層、Ⅵb層、Ⅵc層、Ⅵd層、Ⅵe層、調査区南壁断面のⅡ層、Ⅲ層、Ⅳa層、Ⅴc層、Ⅵd層、Ⅵe層において寄生虫卵分析を行ったが、いずれの層準からも寄生虫卵は検出されず、花粉密度も低かった。寄生虫卵や花粉などの有機質遺体が分解されたか、分別作用により堆積されなかったと考えられる。

以上のように、寄生虫卵や花粉の遺体群集から環境を知ることはできなかった。分析に用いた試料は、砂～礫混じりであり、水流などの分別作用により、寄生虫卵や花粉などを含む細粒は分別淘汰された可能性が考えられ、また堆積時間が速かったことも考えられる。

#### 第4節 植物珪酸体分析

分類群	学名	和名	調査区北壁短弁									調査区南壁断面					
			110	111	112	113	114	115	116	117	125	118	119	120	121	122	123
	Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	Digestion remains	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	Pollen frequencies of 1cm <sup>3</sup>	試料 1cm <sup>3</sup> 中の花粉密度	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	3.6	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓
												× 10 <sup>3</sup>					

第5表 仙台城跡（亀岡トンネル開削部）における寄生虫卵分析結果

[参考文献]

Peter J. Warnock and Karl J. Reinhard (1992) Methods for Extracting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. *Journal of Archaeological Science*, 19, p.231-245.

金原正明 (1999) 寄生虫. *考古学と動物学*, 考古学と自然科学, 2, 同成社, p.151-158.

#### 第4節 植物珪酸体分析

株式会社古環境研究所

##### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO<sub>2</sub>) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 2000)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である (藤原・杉山, 1984)。

##### 2. 試料

分析試料は、仙台城跡 (亀岡トンネル開削部) の調査区北壁および調査区南壁の2地点から採取された計15点である。いずれも寄生虫卵分析試料と同一のものである。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

##### 3. 分析方法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105℃ で 24 時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (0.1mg の精度で秤量)
- 3) 電気灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42kHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1

gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重(1.0と仮定)と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10-5g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる(杉山, 2000)。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

#### 4. 分析結果

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1、図2に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科]

イネ、ムギ類(穎の表皮細胞)、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型(おもにススキ属)、ウシクサ族A(チガヤ属など)

[イネ科-タケ亜科]

メダケ節型(メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節)、チマキザサ節型(ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型(ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、未分類等

[樹木]

その他

#### 5. 考察

##### (1) 稲作跡の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体(プラント・オパール)が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山, 2000)。なお、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

##### 1) 調査区北壁

Ⅲ層(試料110)からⅥe層(試料125)までの層準について分析を行った。その結果、Ⅲ層(試料110)からⅤb層(試料113)までの各層からイネが検出された。このうち、Ⅲ層(試料110)とⅤb層(試料113)では密度が3,500個/gおよび4,600個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

Ⅳa層(試料111)とⅤa層(試料112)では、密度が1,400個/gおよび2,800個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

##### 2) 調査区南壁

Ⅱ層(試料118)からⅥe層(試料123)までの層準について分析を行った。その結果、これらのすべての層からイネが検出された。このうち、Ⅱ層(試料118)、Ⅲ層(試料119)、Ⅳa層(試料120)の各層では密度が3,300~4,200個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他の層では、密度が700~2,300個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のよ

## 第4節 植物珪酸体分析

うなことが考えられる。

### (2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはムギ類が検出された。

ムギ類（穎の表皮細胞）は、調査区北壁のV b層（試料 113）から検出された。密度は700個/gと低い値であるが、穎（初穂）が栽培地に残される確率は低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。したがって、同層準の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

### (3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群の検出状況と、そこから推定される植生・環境について検討を行った。

#### 1) 調査区北壁

下位のVI e層からVI c層にかけては、ネザサ節型が多量に検出され、ミヤコザサ節型も比較的多く検出された。また、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族A、メダケ節型、チマキザサ節型なども認められた。VI b層からVI a層にかけては、ネザサ節型が減少傾向を示し、V b層からIV a層にかけてはさらに減少しているが、III層ではやや増加している。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねネザサ節型が優勢であり、とくに下位のVI c層～VI e層で多くなっている。また、III層やV b層ではイネも多くなっている。

以上の結果から、下位のVI e層からVI a層にかけては、メダケ属（おもにネザサ節）やササ属（おもにミヤコザサ節）などの竹笹類を主体として、ススキ属、ウシクサ族なども生育する日当たりの良い比較的乾燥した環境であったと考えられ、とくにVI d層～VI c層ではメダケ属（おもにネザサ節）が多く生育していたと推定される。また、部分的にヨシ属などが生育する湿地的なところも分布していたと考えられる。

V b層からIII層にかけては、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはメダケ属（おもにネザサ節）やササ属（おもにミヤコザサ節）などの竹笹類が分布していたと推定される。

#### 2) 調査区南壁

下位のVI e層では、ネザサ節型が多量に検出され、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族A、メダケ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型なども認められた。VI d層からII層にかけても、おおむね同様の結果であるが、ネザサ節型は減少している。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねネザサ節型が優勢であり、とくに下位のVI e層で多くなっている。また、II層～IV a層ではイネも多くなっている。

以上の結果から、VI e層からII層にかけては、調査地点もしくはその近辺で継続的に稲作が行われていたと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはメダケ属（おもにネザサ節）やササ属（おもにミヤコザサ節）などの竹笹類、およびキビ族、ススキ属、ウシクサ族などが生育していたと推定される。また、部分的にヨシ属などが生育する湿地的なところも分布していたと考えられる。

## 6. まとめ

植物珪酸体分析の結果、調査区北壁のⅢ層とⅤb層および調査区南壁のⅡ層～Ⅳa層では、イネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。調査区では水田土壌は検出されておらず、隣接する東北大学の調査成果等から、畑作による稲栽培の可能性が想定される。また、調査区北壁のⅣa層とⅤa層および調査区南壁のⅣc層～Ⅵe層でも、稲作が行われていた可能性が認められた。さらに、調査区北壁のⅤb層ではムギ類が栽培されていた可能性も認められた。

各層準の堆積当時は、おおむねメダケ属（おもにネザサ節）やササ属（おもにミヤコザサ節）などの竹笹類を主体として、ススキ属、ウシクサ族なども生育する日当たりの良い比較的乾燥した環境であったと考えられ、部分的にヨシ属などが生育する湿地的なところも分布していたと推定される。

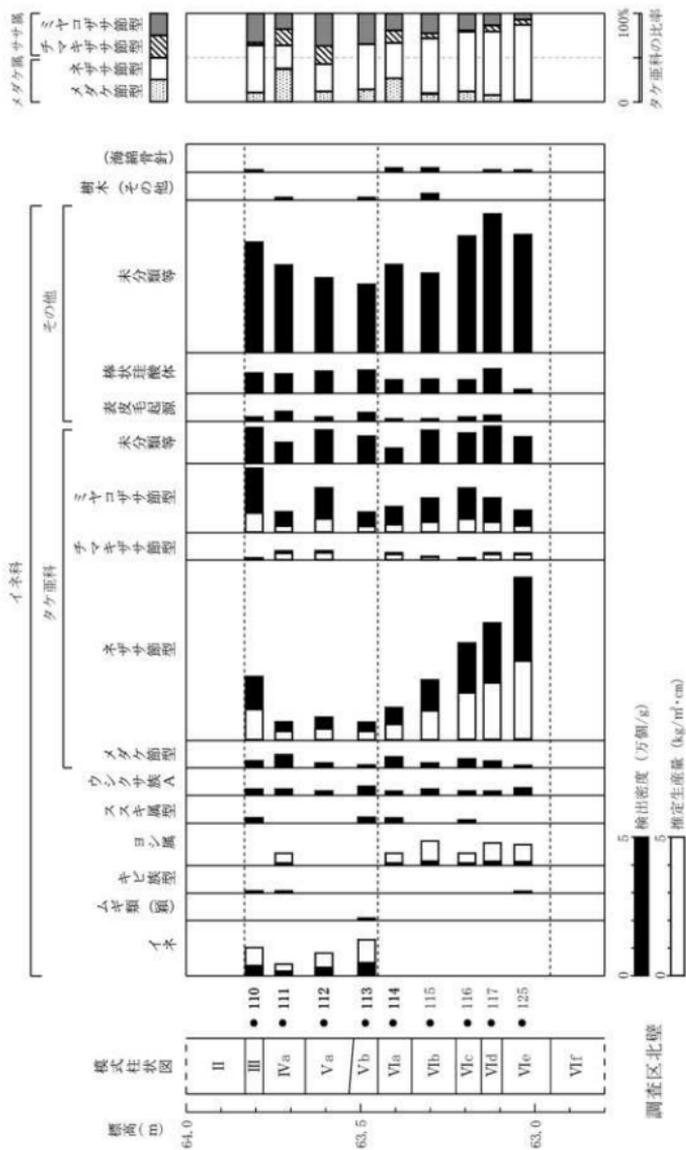
### [文献]

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）。考古学と植物学，同成社，p.189-213。

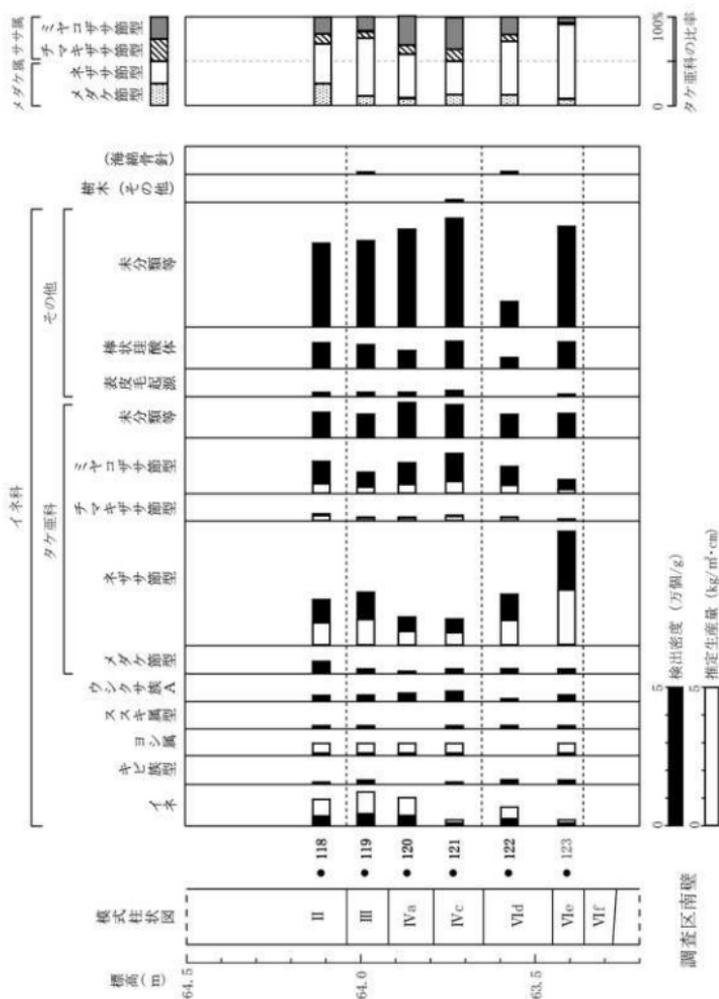
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学，9，p.15-29。

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査—。考古学と自然科学，17，p.73-85。

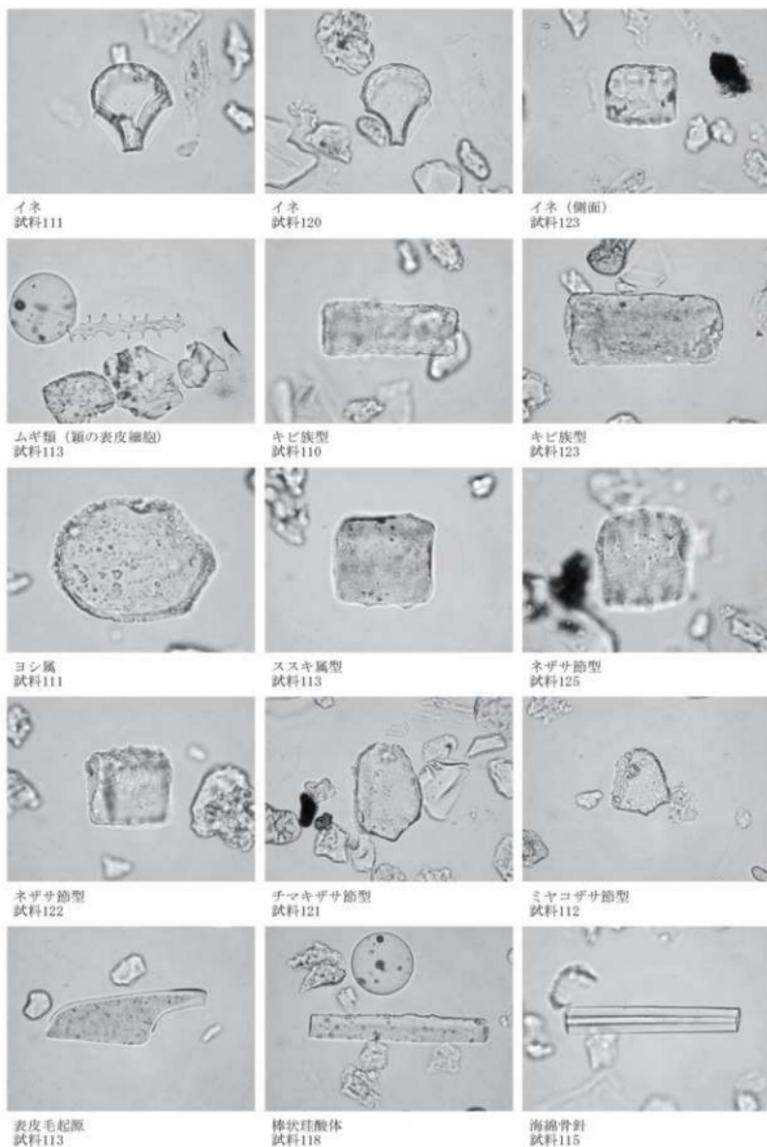




第302図 仙台城跡(龜岡トナネル開削部)における植物珪酸体分析結果



第303図 仙台城跡(龜岡トネル開削部)における植物珪酸体分析結果

第304図 仙台城跡 (亀岡トンネル開削部) の植物珪酸体 (プラント・オパール) 50  $\mu$  m

## 第5節 石材鑑定

株式会社古環境研究所

仙台北城跡（亀岡トンネル開削部）で出土した石器等 12 点について、肉眼および双眼実体顕微鏡（20 倍）を用い、岩石表面に現れている組織や構成鉱物を中心に石材の岩石種判定を実施した。鑑定結果を表 7 に示し、鑑定の基準となった特徴を以下に示す。

### 試料 1：水晶

6 ケの錐面と 6 ケの柱面の発達した透明な石英の結晶。

### 試料 2：珪質頁岩

光沢のある灰褐色を呈する。いわゆる硬質頁岩である。山形県や秋田県の盆地地域で採取可能な石材で、東北日本において旧石器時代以来鋭さを有する石器の石材として最も良く用いられている。

### 試料 3：粘板岩

雄勝石と推定される。石巻市雄勝町に分布する、古生代ペルム紀登米層の薄く平に剥がれる性質の明瞭な粘板岩。雄勝硯として中世・近世・近代・現代と広く流通している。

### 試料 4：流紋岩

遺物は黒い煤状のものが付着しているが、本来は淡帯緑灰色の石材。緑色凝灰岩地帯に分布する流紋岩と推定される。

### 試料 5：粘板岩

黒く極めて細粒で粒子が確認できない。頁岩との判別は難しいが、形状から剥がれる性質が顕著と判断し、粘板岩とした。

### 試料 6：珪質頁岩

いわゆる硬質頁岩に比べ、光沢が無く泥質感が強い。いわゆる硬質頁岩の範疇に入るが、泥質感の強いものである可能性は否定できない。

### 試料 7：流紋岩

小さな石英の斑晶が少量認められるため流紋岩と判定した。流紋岩の中でもガラス質なものである。

### 試料 8：安山岩

有色鉱物の斑晶が認められ、斑状組織が明瞭。多孔質で摩擦の多い安山岩であり、磨石には良く用いられる物性を有している。

### 試料 9：メノウ

赤色部分と乳白色部分が認められる。メノウとしては赤色部分の面積が広いため赤玉石（赤色碧玉）との判別が難しいが、赤玉石に特有の赤いコロイド状の模様は認められないため、メノウの一部が何らかの原因で赤色化したものと判断した。

### 試料 10、11、12：砂質凝灰岩（注 1）

軟質で固結度の弱い石材である。火山礫・軽石を含む。調査区周辺に分布する亀岡層もしくは向山層起源の石材と判断された。

（注 1）仙北市科学館 斎藤弘明氏のご教示による。



出土石材観察表

通しNo	遺物No	登録No	出土地点	出土地点	石材	備考
1	279	K-1	IV層	Ⅲ区	水晶	石英
2	618	K-2	IV層	Ⅱ区	珪質頁岩	いわゆる硬質頁岩
3	1010	K-3	IV層	I区	粘板岩	雄勝石
4	1147	K-4	IV層	I区	流紋岩	被熱?
5	2249	K-5	掘丸	I区	粘板岩	
6	2519	K-6	IV層	Ⅲ区	珪質頁岩	
7	2629	K-7	IV層	Ⅲ区	流紋岩	ガラス質
8	2653	K-8	IV層	Ⅲ区	安山岩	やや多孔質
9	2654	K-9	下層トレンチ	Ⅲ区	メノウ	赤色部分多い
10	2079		SE1	Ⅲ区	砂質凝灰岩	火山礫・軽石含む
11	2080		SE1	Ⅲ区	砂質凝灰岩	火山礫・軽石含む
12	2081		SE1	Ⅲ区	砂質凝灰岩	火山礫・軽石含む

第305図 仙台城跡（亀岡トンネル開削部）出土石材

## 第7章 出土遺物と検出遺構について

## 第1節 出土遺物について

本遺跡では縄文土器、陶器、磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦、剥片石器、石製品、古銭、金属製品、木製品等、合計5277点が出土している。多くは小さな破片資料であり、全体の約43%を陶磁器が、次いで瓦が約29%を占める。遺跡から出土した陶磁器は総数2287点を数え、近代以降の所産と見られるものを除くと2093点が出土している。これらの多くは破片資料であるが、可能な限り産地・年代の同定を行った。本節では陶器・磁器を中心として瓦、古銭、木製品、土製品等について述べる。

## (1) 出土した陶磁器について

## ① I区の様相

I区では、1095点の陶磁器が出土している。全体の53%がⅢ層から出土しており、次いで遺構から出土しているものが19.5%を数える(第306図)。

出土した陶磁器の中で、年代の判明している712点について、産地の割合を示したものが第307図である。出土した陶磁器は少量ながらも16世紀代～17世紀前半のものを含み、唐津、志野、景徳鎮などが認められる。17世紀中頃以降の製品はやや増加傾向にあり、岸窯系陶器、肥前産磁器が一定量認められるようになる。瀬戸・美濃産陶器や少量だが備前、唐津なども出土している。

18世紀以降になると、唐津、瀬戸・美濃系陶器にかわって大堀相馬産陶器がみられ、この時期において全体の86%を占める。また、小野相馬産陶器も全体の7%の量が出土している。近隣の産地からの流通が盛んになる時期である。また、少量ではあるが、堤産陶器、京・信楽系陶器も認められる。磁器は肥前産が大半を占める。19世紀代になると、陶器では大堀相馬産陶器と堤産陶器の割合が多くなる。磁器では肥前に替わって瀬戸・美濃、切込

やそのほか地方窯の製品が増加する。I区では、16世紀から17世紀の遺物の出土量が少なく、美濃・志野や唐津などといった近世初期の製品は非常に少ない。その一方で18世紀以降の遺物量は増加する傾向にある。

層別の陶磁器出土量を第308図に示した。Ⅲ層が全体の70%を占めている。Ⅴ層・Ⅵ層からの遺物の出土は見られなかった。

陶器では、Ⅰ～Ⅲ層においては、大堀相馬の割合が高く、少量ながら唐津、岸窯系、丹波、備前などが混入する状況である。磁器では肥前の割合が高いが、瀬戸・美濃ほか地方窯の製品も一定量が認められる。Ⅲ層以上は近代以降の整地層と考えられるため、これらの近世陶磁器類は整地の際に流入したものと考えられる。以上の状況は、

I区(総点数1095点)

Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層 582点	Ⅳ層 102点	遺構 213点	複乱 56点
75点	67点				

II区(総点数288点)

Ⅰ・Ⅱ層 42点	Ⅳ層 28点	遺構 80点	複乱 138点
-------------	-----------	-----------	------------

III区(総点数710点)

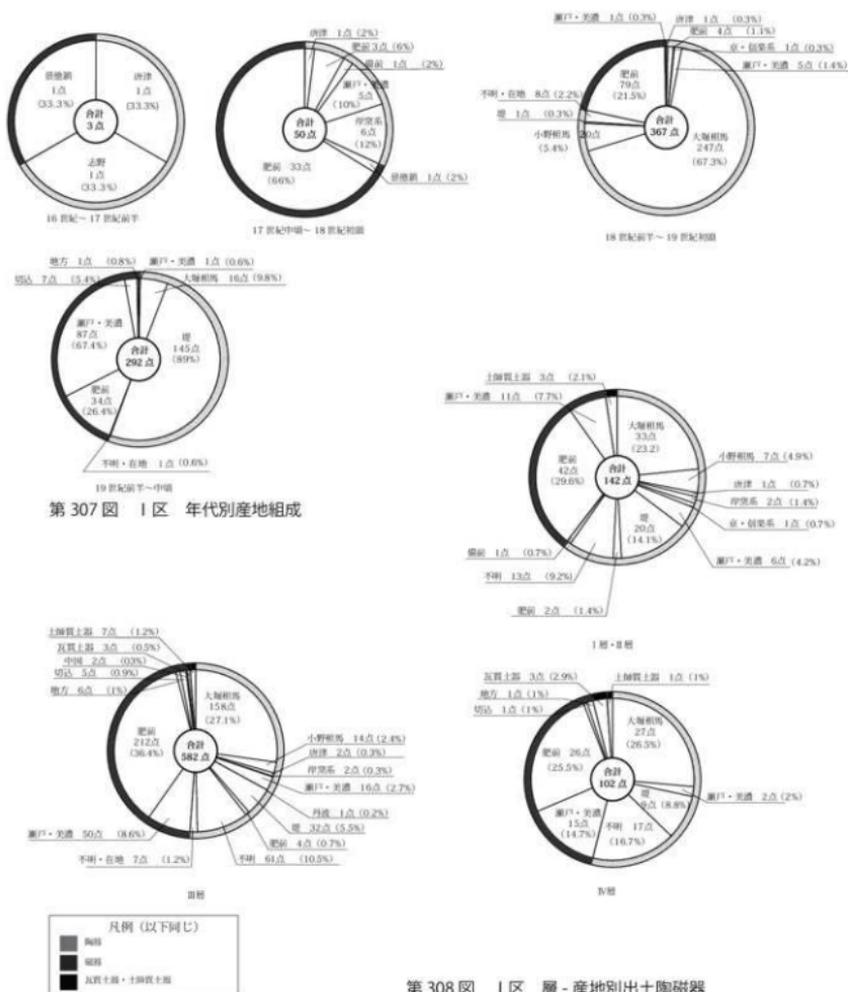
Ⅰ・Ⅱ層 137点	Ⅲ層 71点	遺構 327点	複乱 95点
	Ⅳ層 Ⅴ層 46点 34点		

第306図 各区出土陶磁器数量

当遺跡の性格を端的に示すものではないが、当遺跡付近の消費の傾向をある程度あらわしているものと思われる。

Ⅳ層は近世の整地層と見られるが、出土遺物の割合では、Ⅰ～Ⅲ層と類似している。また、Ⅰ区の特徴として、土師質土器、瓦質土器の量がⅡ区・Ⅲ区と比べて少ないことがあげられる。また、細片のため図化・掲載は行っていないが、Ⅰ層～Ⅲ層出土のもので、増埒と考えられる融解金属の付着した碗片が21点出土している。

Ⅰ区の陶磁器は18世紀代以降の製品にピークがあり、それらの大半は近代以降の整地土から出土している。



第308図 Ⅰ区 層-産地別出土陶磁器

② II区の様相

II区では、288点の陶磁器が出土している。全体の48%が攪乱から出土しており、次いで遺構から出土しているものが27.7%を数える（第306図）。II区では大部分が攪乱されているため、このような状況になっており、III層からの出土が認められない状況であった。

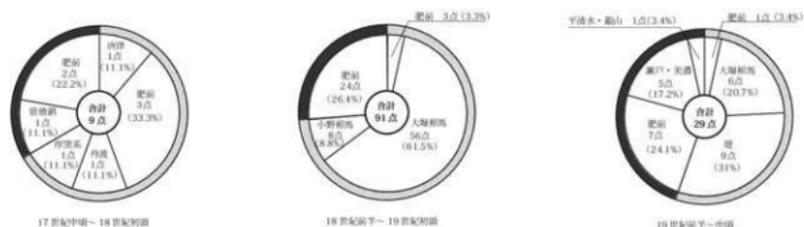
出土した陶磁器の中で、年代の判明している129点について、産地の割合を算出したものが第310図である。出土した陶磁器は18世紀初頭までのものは出土量が少なく、大部分は18世紀前半から19世紀中頃までのものである。陶器では大堀相馬、小野相馬、堤、磁器では肥前・美濃、瀬戸・美濃、平清水のものが出土している。



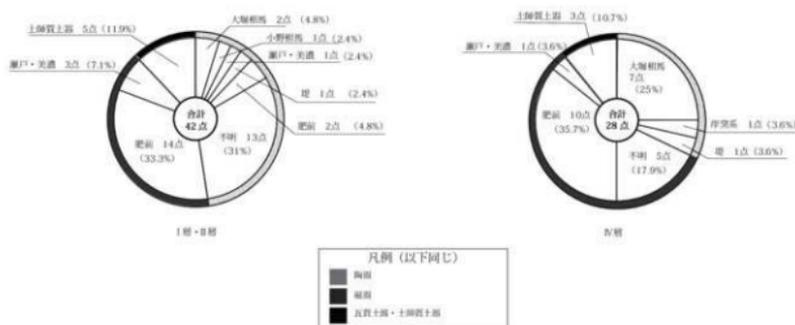
第309図 外底部漆書

層別では（第311図）、IV層で大堀相馬産陶器、肥前産磁器の量が比較的多くみられるが、全体の出土量が少なく、明確な傾向は認められない。III層からの出土はない。また、I区に比べて土師質土器の量が多い。そのほか、補修痕の残るもので、高台外底部に赤漆で文字が記されているものが確認された（第309図）。「キ之奈（もしくはキ之馬）」と書かれており武家屋敷での管理番号、焼窯師の注文番号などの可能性が考えられる。現段階では類例を確認することができず、今後の資料の蓄積に期待したい。

II区の陶磁器は18世紀代以降のものが多くみられ、それらの大半は攪乱から出土している。



第310図 II区 年代別産地組成



第311図 II区 層・産地別出土陶磁器

## ③ III区の様相

III区では、710点の陶磁器が出土している。全体の46%が遺構から出土しており、次いでI・II層から出土しているものが19.3%である(第306図)。

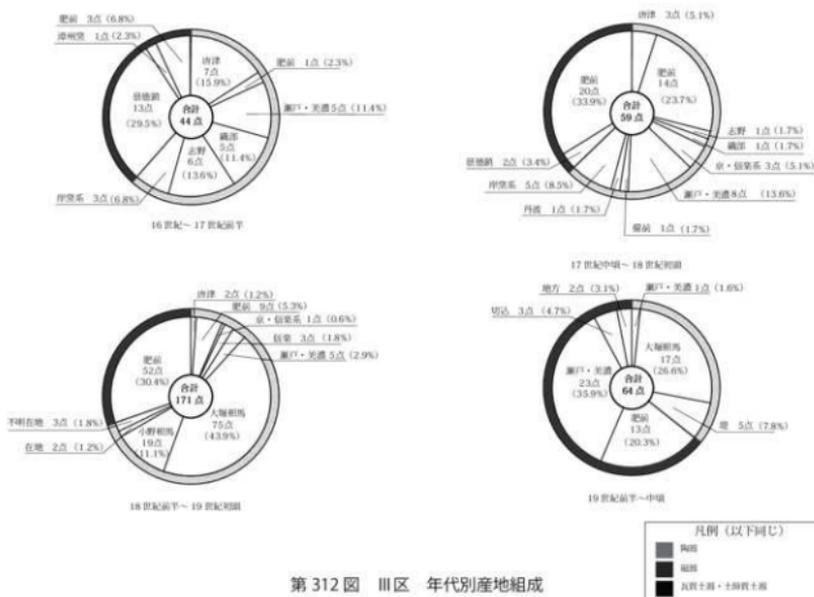
出土した陶磁器の中で、年代の判明している338点について、産地の割合を算出したものが第312図である。I区II区と比べて17世紀代にかかる遺物の量が多い。

陶器では唐津、志野・織部等の美濃系陶器、岸室系陶器、丹波、京焼が一定量認められる。18世紀代以降になると、瀬戸・美濃産が減少し、代わり大塚相馬産が多くなり、19世紀代には堤産がこれに加わる傾向にある。

磁器では、肥前産に次いで景徳鎮産のものが一定量出土している。18世紀代までは肥前産が占めるが、19世紀代に入り瀬戸・美濃産ほか地方窯の製品が多く出土するようになる。

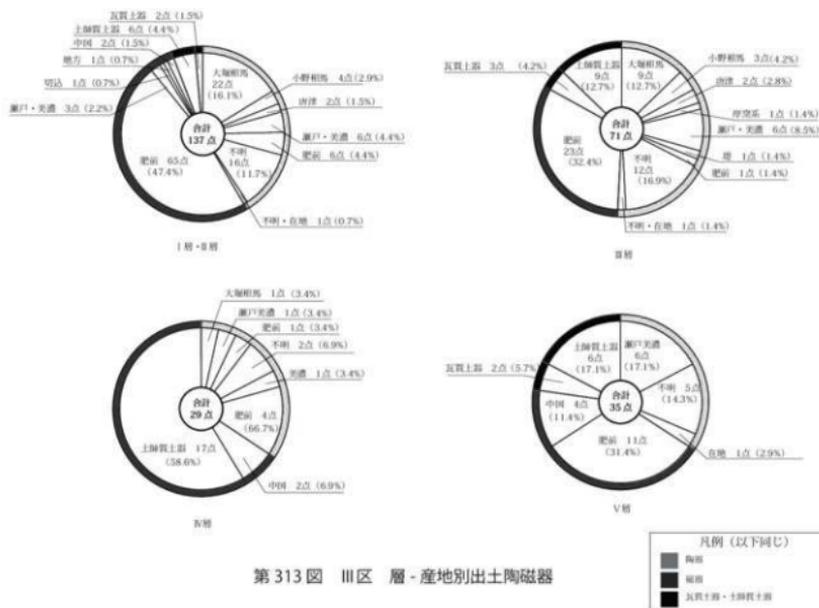
層別では(第313図)、I～III層まで陶器では大塚相馬、磁器では肥前が多く出土している。他の区に比べ、瀬戸・美濃産磁器の量が少ないのが特徴的である。IV層では陶器は出土量が少なく判然としなが、磁器では肥前産と景徳鎮産ほか中国磁器が出土している。V層もIV層と同じような状況であるが、織部、志野などの美濃系陶器の出土がある程度の割合を占めることが特徴的である。

III区の陶磁器は16世紀末以降のものがみられ、18世紀前半～19世紀初頭にピークがある。



第312図 III区 年代別産地組成

## 第1節 出土遺物について



### ④ 出土陶磁器の組成について

当遺跡から出土した陶磁器を、機能別に数量計測を行ったのが第314図である。I区では、道路状遺構・柱列跡などの区画施設が検出され、II・III区とは機能差が予想される点、II区遺物出土量が少なく、III区と同列に扱ったほうが良いと考えられる点の2観点から、I区/II・III区での比較を行っている。また、機能が判明した遺物総数が少なく、傾向把握が困難なため、出土層別での検討は行えなかった。以下にI区およびII区・III区の出土陶磁器の組成割合について検討を加える。

機能については食膳具(碗、皿、鉢、杯、向付等)、飲酒具(瓶類)、喫茶具(土瓶等)、煮炊具(焙烙等)、調理具(搥鉢、捏鉢等)、貯蔵具(甕、甕類)、信仰具(香炉、御神酒徳利等)、灯明具(灯明皿、秉燭等)、暖火具(火鉢等)、文房具(水滴等)、化粧具(合子、紅皿等)、喫煙具(灰落、灰吹等)、遊戯具(ミニチュア、人形等)、保健・衛生具(蚊遣り等)、植栽具(植木鉢等)、花瓶・花入、飼育具(餌入等)に分類して行った。

I区では食膳具が592点(61.7%)出土しており、次いで貯蔵具120点、飲酒具74点、喫茶具71点、調理具43点と続く。

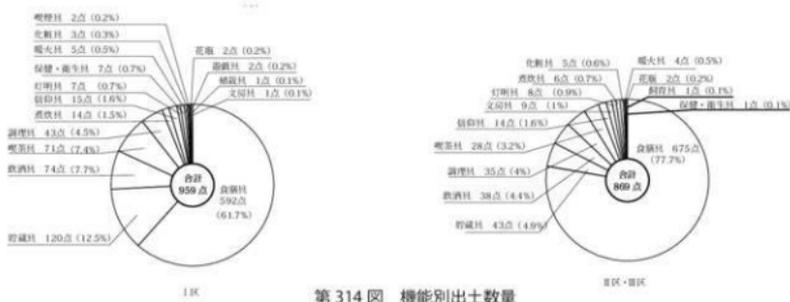
II区・III区では食膳具が675点(77.8%)出土しており、次いで貯蔵具43点、飲酒具38点、調理具35点と続く。

全体で食膳具、貯蔵具、飲酒具の割合が高く認められ、I区～III区を通してその傾向は変わらない。調理具、喫茶具については、I区とII区、III区で数量が逆転しており、I区での土瓶の出土が多くあることが要因と思われる。調理具、喫茶具の次に信仰具があるのも同じである。文房具はII区・III区で多く見られ、蚊遣り等の保健・衛生具はI区の方が多く出土している。飼育具、植栽具はそれぞれ点数が少なく傾向は判然としませんが、I区で見られる植栽具がII、III区にはなく、II区、III区にある飼育具はI区では出土していない。

以上をまとめると、

- ・全区を通して食膳具、貯蔵具、飲酒具の割合が高い。次いで割合は異なるが、調理具、信仰具と続く。
- ・Ⅰ区はⅡ区、Ⅲ区に比べて蚊遣りの割合が高い。また、植栽具はⅠ区でのみ出土が認められる。
- ・Ⅱ区、Ⅲ区はⅠ区に比べて文房具の割合が高い。また、飼育具はⅡ区・Ⅲ区でのみ出土が認められる。となる。

次に食膳具の産地別組成をまとめたのが第315図である。Ⅰ区は肥前産が最も多く、次いで大塚相馬、瀬戸・美濃がみられる。一方Ⅱ区・Ⅲ区では肥前の次に土師質土器の皿が多く出土しており、大塚相馬、瀬戸・美濃と続く。Ⅰ区では堤、切込が比較的上位にあるのに対し、Ⅱ区・Ⅲ区では堤、切込等は少なく、かわりに景徳鎮、志野・織部等美濃産陶器の出土が一定量認められる。このような差異が生じた理由は、Ⅰ区とⅡ区・Ⅲ区の土地利用の性質が異なることが要因と考えられる。



第314図 機能別出土数量



第315図 食膳具産地別割合

### ⑤ 土師質土器

当遺跡の土師質土器の出土は、多くがSN1に関わるものである。古銭の出土状況からも17世紀前葉の、比較的限定された時期の一括資料として評価される。ここではSN1の土師質土器について述べる。

1号地鉄遺構の土師質土器は、復元後30個体が確認された。30点全て、口径13.5cm、器高2.8cm程度と一定であり、規格化されたものと思われる。ロクロ整形後、底部末調整である。底径については、6.2cm(小:1点)、7cm(中:17点)、7.7cm(大:12点)の3種類確認できる。底部切り離し技法は、東北大学年報9:考察編4(藤沢1998)にない、a技法(通常の回転糸切りで中心が一方に偏るもの)、b技法(中心が中央にあり、糸抜きの圧痕が残るもの)に分類すると、全てa技法であり、左回転26点、右回転4点であった。b技法が見られないことは、17世紀初頭から前葉の様相を示しているものと思われる。

⑥ 陶磁器のまとめ

陶磁器について、出土状況の傾向について述べる。17世紀代ではⅢ区における出土陶磁器は、中国産磁器、織部・志野などの美濃産陶器、岸窯系陶器唐津などであり、17世紀中頃以降は肥前産磁器が見られるようになる。海外貿易を背景に、遠方からの流通が認められる。

18世紀代は各区とも出土量が増加傾向にあり、特にⅠ区では大量の陶磁器片が出土している。肥前産磁器の最盛期にあたり、陶器では大堀相馬が出土するようになる。中国産磁器、美濃産陶器、唐津等は減少する。

19世紀代はⅠ区、Ⅱ区の出土状況からみると、陶器では大堀相馬に加えて堤産のものが加わり、小野相馬がそれに続く。時期では肥前にかわって瀬戸・美濃、切込、平清水、そのほか地方窯の製品が多く流通するようになる。18世紀代に比べて比較的狭い範囲での近隣流通の時期にあたる。また、Ⅰ区では増場が多く認められ、Ⅰ区とⅡ区・Ⅲ区では出土陶磁器の傾向に差異が認められた。

出土した陶磁器の量の推移は生産地の動向に対応して変化しているものと思われる。磁器は中国磁器から肥前、19世紀代に至り肥前以外の地方窯の製品が多く出土し、陶器では美濃・岸窯系陶器・唐津の時代から、18世紀代に大堀相馬が出土するようになり、19世紀には堤産陶器も見られるようになる。

(2) 瓦

瓦は1527点出土している。丸瓦・軒丸瓦158点、平瓦・軒平瓦1026点、その他の瓦343点を数える。丸瓦、軒丸瓦、平瓦、軒平瓦、板塀瓦、棧瓦、鬼瓦等が出土している。このうち軒丸瓦、軒平瓦の文様について述べる。

軒丸瓦には三引両と連珠三巴文が見られる。二の丸・三の丸の調査成果等から、巴文系から家紋系への変遷が想定されており、Ⅰ区Ⅳ層出土の三引両文軒丸瓦(第316図-1)もその年代観と符合する。また、連珠三巴文軒丸瓦(第316図-3)は連珠の数が22個確認でき、復元すると27個の連珠が巡っていたと思われる。



第316図 軒丸瓦



第317図 軒平瓦

軒平瓦については、文様の種類に中央に雪持ち篋もしくは三枚篋のものが見られ、唐草には2種類が確認された(第317図)。篋の葉脈は3枚独立するもの(第317図・4)とT字になるもの(第317図・6)の2種類がある。軒平瓦は軒丸瓦に比べて点数も多く出土しているが、種類がさほど多くなく、18世紀以降の層・遺構に含まれる例が多い。

また、珍しいものとして表採資料ではあるが桃瓦1点が確認されている(第318図)。大阪城、和歌山城、岡山城、犬山城など各地の城郭で鬼瓦として用いられている例がある。採集した桃瓦は外面にいぶし等の調整は施されず、身は中空になっている。残存する高さは14cmである。

### (3) 金属製品

金属製品は262点が出土している。大半は古銭で、そのほか釘、鋸、飾り金具、煙管等が出土している。以下古銭について述べる。

中国銭は大半がⅢ区SN1から出土しており、内訳は開元通宝(621年:唐)4点、宋通元宝(960年:北宋)1点、太平通宝(976年:北宋)1点、淳化元宝(990年:北宋)2点、至道元宝(995年:北宋)2点、咸平元宝(998年:北宋)1点、祥符元宝(1008年:北宋)3点、祥符通宝(1009年:北宋)2点、天禧通宝(1017年:北宋)2点、天聖元宝(1023年:北宋)2点、天聖元宝(1032年:北宋)5点、景○元宝(1034年:北宋)1点、皇宋通宝(1039年:北宋)5点、嘉祐元宝(1056年:北宋)2点、治平通宝(1064年:北宋)2点、熙寧元宝(1068年:北宋)9点、元豊通宝(1078年:北宋)4点、元祐通宝(1086年:北宋)7点、紹聖元宝(1094年:北宋)4点、元符通宝(1098年:北宋)1点、聖宋元宝(1101年:北宋)3点、政和通宝(1111年:北宋)2点、宣和通宝?(1119年:北宋)1点である。そのほか、Ⅲ区Ⅳ層から天聖元宝(1032年:北宋)1点、SK62から永樂通宝(1587年:明)1点が出土している。

これらは寛永通宝鑄造前、近世初頭に流通していた貨幣と考えられる。特に、SN1からは、寛永通宝の出土が認められないことから、寛永通宝鑄造以前の遺構の可能性が極めて高い。

寛永通宝は古寛永が7点、新寛永が12点出土している。出土地点は2号池、SX14、1区1層、Ⅱ区Ⅳ層である。幕末の貨幣である文久永宝も2点出土している。地点は1区Ⅲ層およびⅣ層である。1区は文久永宝の出土から、Ⅳ層まで幕末頃の整地層と推察される。本遺跡の出土銭はSN1で多量の出土が認められたが、寛永通宝などの国産流通銭は比較的少なく、年代の根拠となりえるものは少ない。

### (4) 木製品

木製品は908点が出土している。漆器、桶、曲物、箸、下駄、木樋、木樋台、継手、舟形木製品、浮き、杭、柱材、楔などがある。以下、主要な木製品について概略を記す。

〔漆器〕 椀、皿、蓋等が見られ、中には金彩を施しているものもある(SK62出土遺物)。全体に腐食が著しく器種分類等はできなかった。文様については、三引両文(SD54出土)、木の葉文(SD54、SK63出土)、無文(SX14出土)などが見られる。SX14出土の無文椀2点については、SX14の年代が17世紀中葉に求められることから当該期の一括資料として有用と思われる。

〔木樋・枅〕 舟釘の使用の有無で2大別できる。

(A類) 舟釘を使用するもので、1号木樋、4号木樋で確認できる。木樋は一木から削り貫きで作られ、蓋を舟釘で止めている。釘の頭部分には棕桐と見られる繊維が巻きつけてあるのが確認できる(1号木樋)。枅は4号木樋で確認できるが、2枚の板を合わせて底とし、側面は長い板を分断して組み合わせて使っている。木樋との接続



第318図 桃瓦

## 第1節 出土遺物について

部分は残存しておらず確認できない。同様の構造の枡は、5号池の底面で出土した枡にも見られる。

(B類) 舟釘を使用しない。木樋はAと同じく一木からの削り貫きで作られる。枡は一枚板を底面とし、横板は上位で木釘により部材を繋いでいる。木樋との接続部分は木樋の形に切り取って角形になっている。同様の構造の枡は1号、2号竹樋でも確認できる。こちらは、接合部分は竹の形に合わせて丸くしている。また、竹樋の継手は2点出土しているが、そのうち1点は柱材の転用と見られる。

A類は近代(1号木樋)および幕末～近代初頭(4号木樋)に見られ、B類は近世の遺構(1号・2号竹樋、2号・3号木樋)にあることから、枡の構造、舟釘の使用については時期差を示していると思われる。

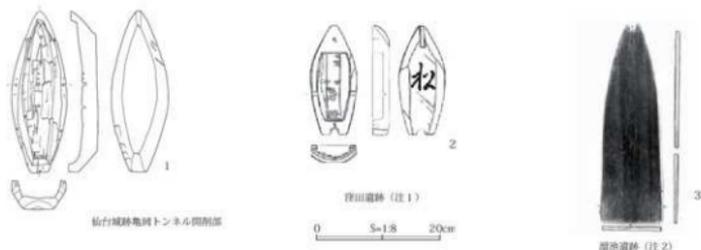
[舟形木製品] 4号池から出土した舟形木製品は縁部に帆立のための孔があいており、上に帆をたてて池に浮かべたものと思われる。近世の類例は少なく、窪田遺跡と溜池遺跡の出土例を提示した(第319図)。窪田遺跡の例は流路から出土しており、「松」字の墨書がある。中軸線上に帆立のための孔があげられている。溜池遺跡の出土資料は、上面形が舟形を呈する板状木製品で、古代以来の水辺の祭祀に使われたものと同じ系譜にあるものと推測される。前2例と異なり、実際に水面に浮かべて使用されるものではない。本遺跡出土の舟形木製品は窪田遺跡のものと類似しており、池の周辺で祭祀の際に使われた可能性がある。舟形木製品の出土した4号池からはそのほか犬形土製品、猪形土製品なども出土している。

[曲物] 曲物の底部の大きさは、直径19.5cm(SE5出土:6寸4分)、16.5cm(池6、SK62出土:5寸4分)、13.9cm(SX14出土:4寸5分)、11.5cm(SE4、SX14出土:3寸8分)、9.75cm(SX14出土:3寸2分)の5種類が見られる。中央に孔をあける蓋と思われるものについては、直径23cm(池5出土:7寸5分)、8.7cm(池5、SE5出土:2寸8分)の2種類が見られた。点数が十分でなく、大きさに年代差があるかどうかは不明であるが、概ね2寸8分、3寸2分、3寸8分、4寸5分、5寸5分、6寸5分、7寸5分といった規格が存在したと思われる。

[下駄] 下駄はSD54から4点出土した。すべて白木で漆塗りしたものはない。一木から台部と歯を切り出した連歯下駄が1点、台部のホゾに別材で作った歯をはめ込む差歯下駄が3点で、差歯下駄はいずれも台部の表にホゾ穴が貫通する露卯差歯下駄である。台部の平面形は角形を呈する。

点数も少なく、出土地点が限られることから全体の様相、変遷は検討できなかった。

[箸] 箸は31本が出土している。白木を加工してそのまま使うもので、漆等の塗装がされているものは見られなかった。こちらもほとんどがSD54からの出土で、一時期に大量廃棄されたものと考えられる。



第319図 舟形木製品

注1)「窪田遺跡1」 新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事務所 2007

注2)「溜池遺跡」 京都高速度交通資料館 地下鉄7号線溜池・柳田周辺調査委員会 1997

### (5) 出土遺物のまとめ

本遺跡では、近世初頭から幕末まで、各年代を通して遺物が出土している。出土陶磁器については17世紀から19世紀までの消費動向を確認できた。

17世紀初頭には景德鎮、志野、織部などが流入しており、次の時期には唐津、初期伊万里、岸窯系陶器が認められる。SN1からは多量の中国銭、土師質土器が出土した。出土した30点の土師質土器は製作技法・法量がほぼ同じもので、17世紀初頭の土師質土器の一端をあらわしているものと思われる。また、SX14は出土した古銭の分析から、SN1の次の段階に相当するものであり、17世紀中葉の年代が想定される。SX14からは漳州窯磁器、無文漆器碗が共存しており、一括性の高い資料である。SD54は切り合い関係から17世紀中葉から後半に位置づけられ、出土した大量の木製品類は当該期の一括資料として重要である。

18世紀代には肥前産磁器の最盛期となり、大堀相馬、小野相馬が出土するようになり、少量ではあるが京・信楽系の色絵陶器も見られた。特に大堀相馬産陶器はI区を中心に18世紀代のものが多量に出土している。大堀相馬と小野相馬の出土点数の割合は423点：49点(88.9%：9.1%)で、相馬系陶器の様相を示しているものと思われる。II区では上水関係の遺構(竹樋・枡状遺構)が検出され、継手には柱材を転用したのが見受けられた。

19世紀に至ると瀬戸・美濃産や切込などの地方産磁器、堤産陶器などが流通ようになる。大堀相馬は少なくなり代わりに堤産陶器の量が増える。また、特殊な例として漆塗りのパレットとして使われたI区SK55出土肥前産染付碗や、高台内に漆書きで文字の書かれた瀬戸・美濃産磁器片などが確認された。そのほか、19世紀代は池が多く造られ、舟形木製品や犬・猪形土製品などの祭祀用と見られる遺物が出土した。

遺物の出土状況からは17世紀代初頭にはすでに消費地としてのモノの流入が認められる。18世紀代の遺物量が最も多く、19世紀代も比較的量は多いものの、出土量の減少傾向がみられた。

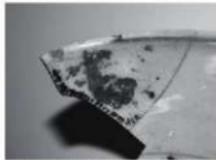
## 第2節 検出遺構について

本遺跡では、近世～近代の遺構が検出された。第2節では、各区の遺構の検出状況について述べる。

## (1) I区

I区の遺構は柱列跡3条、溝跡5条、井戸跡1基、土坑4基、ビット1基、性格不明遺構8基、木樋1条、道路状遺構1基、土手状遺構1条、埋裏1基、石垣1基が検出されている。17世紀代にさかのぼる遺構は見られず、整地層に含まれる遺物も18世紀代以降のものが主体である。

Ⅳ層上面検出のSK55からは、漆漉し布と、パレットとして利用したと推測される漆が付着した染付碗が共存している(第320図)。染付碗の年代からは18世紀代が想定されるが、共存する埴産の乗燭は19世紀前半代の年代のため、最終廃棄年代は19世紀代に至る。周辺では漆塗り作業が行われていたと思われ、それに伴う廃棄土坑と考えられる。漆塗りが行われたのは18世紀代から19世紀前半にかけてのことと想定される。



第320図 漆付着状況

Ⅴ層では柱列が3条検出された。規模こそ異なるが、方位は近似しており、同じ目的で設置された柱列の建て替えの痕跡と思われる。年代は19世紀代前半と思われ、I区の東側に存在した亀岡御殿に關わる裏手の塀の可能性もある。また、Ⅲ層上面で検出された土手状遺構は、柱列跡のほぼ直上に作られており、同じ機能を持っていたことが窺われる。Ⅲ層上面の年代は近代初頭から、1888年に陸軍第二師団が当地に入場する以前と考えられるため、19世紀後半までは近世と同じ道路、塀、土手などが設置されていたと思われる。これについては歴史的環境でも触れているが、第321図に道路筋が変更になる前の、明治15年の地図と調査区及びI区1号道路状遺構、1号土手状遺構、2号石垣の位置を重ねたものを示した。1号道路状遺構は川内山屋敷と川内の武家屋敷の境となる道路に相当し、この道路筋は近世から引き継がれたものである。Ⅴ層上面の柱列跡も、この道路境を示す区画施設と言える。

また、Ⅱ層上面検出の2号石垣については、調査区の西側を北方向に走り広瀬川に流れる沢の護岸石垣であると考えられる。2号石垣は近代のものだが、近世にも護岸の役割を果たす施設があった可能性もある。同じⅡ層上面検出の1号埋裏は、上部に自生していた樹木の年輪数から1930年代より古いものと判断される。便槽の痕跡は見られず、用途は不明である。



第321図 I区近代地図と遺構配置(任意縮尺)

明治15年(1882)「薩摩區及近傍村落之圖」 仙台市博物館 所蔵

## (2) II区

Ⅱ区の遺構は柱列跡1条、溝6条、土坑4基、ビット18基、性格不明遺構3基、竹樋2条、枡状遺構1基、石垣1基が検出されている。I区と同様に17世紀代にさかのぼる遺構は見られず、全て18世紀以降のものである。

Ⅳ層上面では竹樋、枡状遺構等の水道関係の遺構が多く検出された。1号竹樋と2号竹樋はそれぞれ2回以上の作りかえが行われており、合計で4回以上竹樋の付け替えが推定される。これらは18世紀代の遺構と考えられる。また、1号枡状遺構は1号・2号竹樋を切るため、次の段階の上水施設と考えられるが、関連する遺構は検出され

ていない。

Ⅲ層上面ではⅢ区1号池に水を供給していた可能性のあるSD18と、それと同じ方向性を持つSA1が検出されている。柱列の南側に給水溝と池が存在しており、当時の区画と土地利用を示す好資料である。また、飛び石が検出されているため周辺に庭園などの施設があった可能性がある。これらⅢ層上面検出遺構は19世紀代と考えられるので、当地に亀岡御殿があった時期に相当する。

Ⅱ区は遺構・遺物は少ないものの、18世紀代の水道遺構、19世紀代の庭園、武家屋敷の区画関係の遺構が検出され、土地利用の変遷を窺うことができる。

### (3) Ⅲ区

Ⅲ区の遺構は柱列跡20条、溝跡31条、井戸跡5基、土坑44基、ピット238基、その他の遺構5基、木樋3条、橋状遺構1基、池跡5基、祭祀遺構1基が検出されている。Ⅲ区はⅠ区・Ⅱ区に比べて整地層の残りがよく、17世紀代の遺構が検出されている。遺物量から見ると、Ⅲ区の主体は17世紀後半から18世紀代である。

V層上面では大溝2条と、布掘りによる柱列、掘立柱による柱列、地鎮遺構等が検出された。大溝、柱列は17世紀代の区画を示しており、切り合い関係から先に大溝による区画が作られ(SD39・55)、その後柱列による区画に替わっている様子が窺える。また、大溝に切られる歪曲する溝が2条確認されており(SD63・64)、近世の遺構では最も古い段階に相当するものと思われるが、区画施設・屋敷境といった性格は考えにくい。

SN1は、出土した土師器の技法が17世紀前半の様相を呈し、出土した古銭に寛永通宝が含まれないことから17世紀初頭～前半に年代が限定される。地鎮を行い、大区画を切り、当地の利用を開始したものと思われる。また、同じく古銭を出土したSX14は、古寛永と新寛永の古段階のものしか含まれず、17世紀中頃に年代を求めることができる。SX14の堆積土は池の沈澱堆積土に似た黒褐色の粘土質シルトを主体としているため、堀のような機能を持っていた可能性がある。

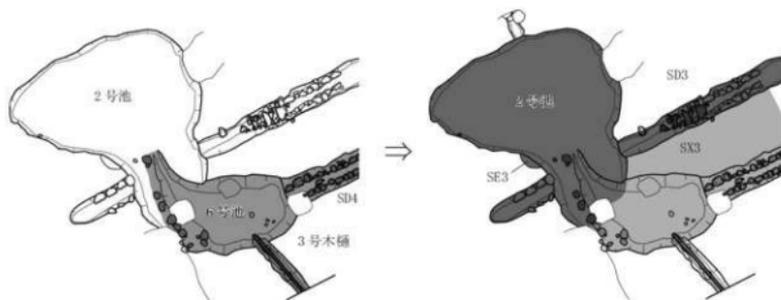
Ⅳ層上面では掘立柱による柱列、池等が検出された。17世紀代の区画溝SD39を埋め戻した上に、18世紀代に柱列SA25を構築している。柱間寸法もまばらで、数度の作り変えを行っていたようで、簡易的に扉を作っていたものと思われる。これに対して、最南端に位置するSA2とSA21は同じ線上にあり、これを結ぶと50mの区画施設となる。この時期には区画はやや南よりに変わっている可能性がある。

5号池は玉石を敷き、庭園の一部を成していたものと思われる。また、部分的に石組を持つ溝が検出された(SD23)。調査区の東端でT字に分岐する溝で、分岐の周辺のみ石組を持ち、そのほかの部分では抜き取りなどの痕跡も見られなかった。同じ方向性を持つSD22は敷石の溝で、SD23と同じ方向性を持つため同時期に機能した小区画を示すものと思われる。SD23と同様に部分的に石組を構築する例はⅢ層上面検出のSD3、SD4にもみられる。

Ⅲ層上面では石組溝、木樋等が検出された。池は玉石を伴うものが2基、玉石を伴わないものが2基、合計4基が検出された。これらは19世紀代の年代と推定され、亀岡御殿が営まれた時期に相当する。

Ⅲ区中央南側に検出された6号池とSD4は土層観察により同時期とみられ、さらに南から6号池につながる3号木樋があり、給水、貯水、排水の一連の機能が復元できる(第322図)。

Ⅲ区で検出された池は計5基になるが、6号池を除く4基は底面に井戸状の遺構がみられた。1号池にSE2、2号池にSE3、4号池にSE4、5号池にSE5がそれぞれ構築されており、池との関連が窺われる。これらは池の機能の一部をなす、集水井戸の可能性もある。SE3については池の構築粘土の下から検出されていることから、はじめはSE3と2号池が同時に存在しており、その後底面の粘土層を貼り直して玉石を敷き、2号池のみ機能していたと思われる。



第 322 図 III区 池と溝の変遷

#### (4) 区画施設について

本遺跡では、柱列跡、溝跡等による区画が複数確認された。明確な建物跡は確認されなかったが、歴史的環境で触れたように当調査区は屋敷境に近い場所であったと思われる、そのため区画施設が多く検出されたと考えられる。以下、時期別に区画施設の変遷を述べる。

#### ① 17世紀

17世紀代の区画施設はIII区でのみ確認されている。III区の概要で示したように大溝SD39とSD55が最初の区画と思われる、その方向は、両溝ともN-62°-Eを示す。次にSA14～16・27が大溝付近に建てられたと推定されるが、こちらの方位はN-65°-Eを示し、前段階に比べてわずかに南にふれている。SA13もほぼ同じ方向性を持つため、同時期の遺構と思われる。

SA17、SA18は調査区を南北方向に区切る柱列で、方向はN-27°-Wを示す。SD39と直交し、SA13～16・27との関係もほぼ直交、92°の角度である。SD56はSD55に切れられ、同じく92°角を示している。

そのほかの溝ではSD41がSD39・55に近い方向を持ち、切り合い関係からも古い段階のものと思われ。

遺構の年代について、切り合いから考えると、17世紀前葉にはSD63・64などの区画とは考えにくい遺構のほか地鎮遺構があり(1期)。

17世紀中葉はSD39・55による大溝区画(2期)、17世紀後葉ではSA13～18・27等の柱列による区画(3期)と変遷しているものと考えられる。また、先に触れたSX14については、17世紀中頃に時期が限定される。

まとめると以下ようになる。

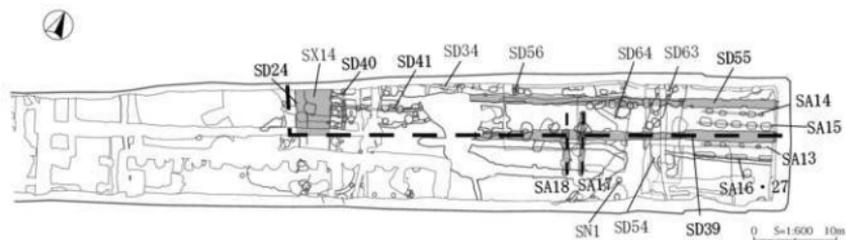
[1期] 地鎮遺構、SD63・64。本格的な区割り整備前の段階

[2期] 大溝区画、SX14に見られる堀?跡

[3期] 柱列による区画

調査区	検出画	遺構名・部位	方位
III区	V層	SA13	N - 64.0 - E
		SA14	N - 65.0 - E
		SA15	N - 65.0 - E
		SA16	N - 65.0 - E
		SA27	N - 65.0 - E
		SA17	N - 27.0 - W
		SA18	N - 27.0 - W
		SD24	N - 32.5 - W
		SX14	N - 32.5 - W
		SD34 東西	N - 71.0 - E
		SD34 南北(北)	N - 6.0 - W
		SD34 南北(南)	N - 20.0 - W
		SD39	N - 62.0 - E
		SD40	N - 23.0 - E
		SD41	N - 63.0 - E
		SD49	N - 45.0 - E
		SD54	N - 20.0 - W
		SD55	N - 62.0 - E
		SD56	N - 27.0 - W
		SD63	N - 11.0 - E
SD64	N - 88.0 - W		
SD65	N - 58.0 - E		
SD66	N - 3.5 - W		

第7表 III区 V層遺構方位



第323図 17世紀の区画

## ② 18世紀

18世紀代の区画施設はⅡ区、Ⅲ区で確認されている。時期がある程度推定できるⅢ区について述べる。Ⅲ区ではSD23の底面で検出されたSA22、SD39堆積土の上面から掘り込まれているSA25が最も古い段階に位置づけられる。方向はN-63°-Eを示す。切り合い関係から遺構の変遷を追うと以下ようになる。

[4期] SA2、SA5b、SA7、SA11、SA12、SA21～25、SD5・6

[5期] SD22、23、31、32、38

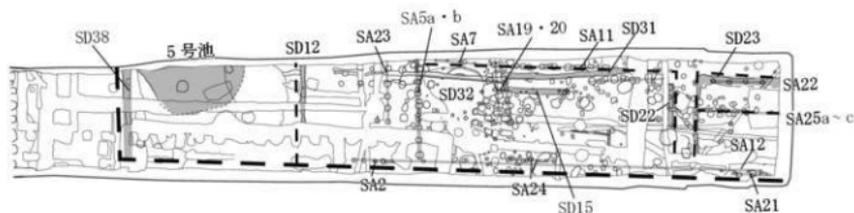
[6期] SA20、SA26、SD12

[7期] SA5a、SA19

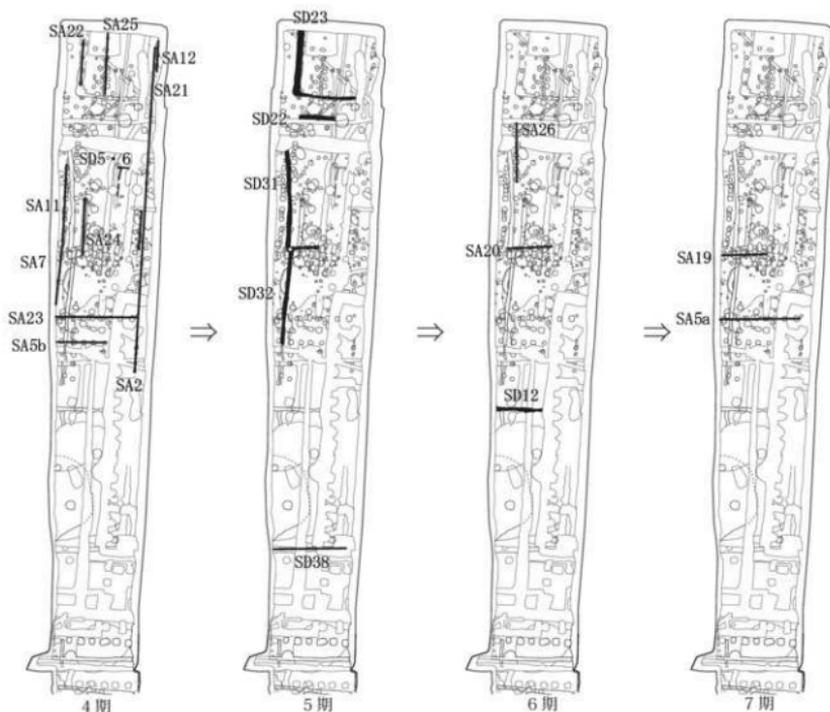
18世紀のはじめに大部分の柱列を整備している状況が推定される。その後石敷きを伴う石組溝のSD22、部分石組の溝であるSD23等が作られ、18世紀半ばから18世紀後半は部分的な改修が行われていたと推定される。SD12は下層のSD24、SX14の規模を縮小し、前代と同じ区画を踏襲しているものと思われる。7期にあたるSA5a、SA19は同じ場所での柱列のつくりかえと思われる。

調査区	検出面	遺構名・部位	方位
Ⅲ区	Ⅳ層	SA2	N - 63.0 - E
		SA5a	N - 30.0 - W
		SA5b	N - 28.0 - W
		SA7	N - 66.0 - E
		SA11	N - 62.0 - E
		SA12	N - 64.0 - E
		SA19	N - 32.6 - W
		SA20	N - 29.4 - W
		SA21	N - 64.0 - E
		SA22	N - 64.0 - E
		SA23	N - 28.0 - W
		SA24	N - 62.0 - E
		SA25a	N - 65.0 - E
		SA25b	N - 63.0 - E
		SA25c	N - 63.0 - E
		SA26	N - 59.0 - E
		SD5	N - 27.0 - W
		SD6	N - 67.0 - E
		SD9	N - 54.0 - E
		SD12	N - 27.0 - W
SD15	N - 65.0 - E		
SD22	N - 23.0 - W		
SD23 東西	N - 67.0 - E		
SD23 南北	N - 26.0 - W		
SD31	N - 59.0 - E		
SD32	N - 32.0 - W		
SD38	N - 33.0 - W		
SD47	N - 65.0 - E		
SD61	N - 63.0 - W		

第8表 Ⅲ区 Ⅳ層遺構方位



第324図 18世紀の区画



第325図 III区 IV層の区画変遷

③ 19世紀

19世紀代の区画施設はⅠ～Ⅲ区で確認されている。Ⅰ区ではSA3、4、6が検出され、方位はN-39～41°-Wを示す。近代の土手状遺構、道路状遺構も同じ方位を示しており、これらの近代に相当する遺構は、近世の柱列の方向性を踏襲していることが分かる。Ⅱ区ではSA1が区画施設としてあげられる。SA1はSD18と近い方向性を示すが、そのほかの遺構には規格性が見られない。Ⅲ区では柱列は検出されておらず、池に伴う溝が区画の代わりをしていたと推定される。あるいは、18世紀代の区画施設をそのまま修復しつつ利用していた可能性もある。

調査区	検出面	遺構名・部位	方位
Ⅰ区	Ⅱ層	SD28	N - 43.0 - W
		1号木桶	N - 42.0 - W
		SD29	N - 41.0 - W
	Ⅲ層	1号道路	N - 41.0 - W
		1号土手	N - 41.0 - W
	Ⅳ層	SD43	N - 40.0 - W
	V層	SA3	N - 41.0 - W
		SA4	N - 39.0 - W
		SA6	N - 41.0 - W
		SD45	N - 33.0 - W
SD51		N - 37.0 - W	

調査区	検出面	遺構名・部位	方位
Ⅱ区	Ⅲ層	SA1	N - 51.0 - E
		SD7	N - 32.0 - W
		SD18	N - 53.0 - E
		SD19	N - 68.0 - E
		SD33	N - 19.0 - E
		SD27	N - 60.0 - E
		Ⅳ層	1号竹樋新
1号竹樋古	N - 25.0 - W		
2号竹樋新	N - 11.5 - E		
2号竹樋古	N - 34.0 - W		

調査区	検出面	遺構名・部位	方位
Ⅲ区	Ⅲ層	SD3西	N - 63.0 - E
		SD3東	N - 176.5 - E
		SD4	N - 65.0 - E
		SD10	N - 67.0 - E
		SD14南北	N - 38.0 - W
		SD14東西	N - 64.0 - E
		SD30	N - 23.0 - W

第9表 Ⅰ～Ⅲ区 主要遺構方位



1. 寛文4年(1664)「仙台城下絵図」  
宮城県図書館蔵



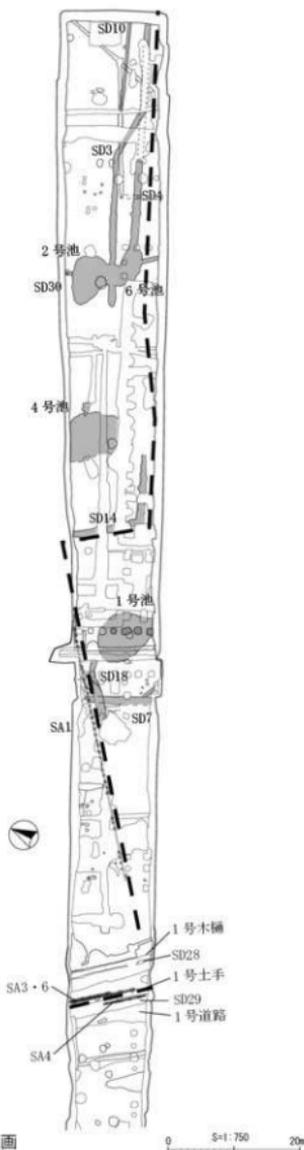
2. 元禄4・5年(1691・1692)「仙台城下五疊掛絵図」  
豊後報恩会蔵



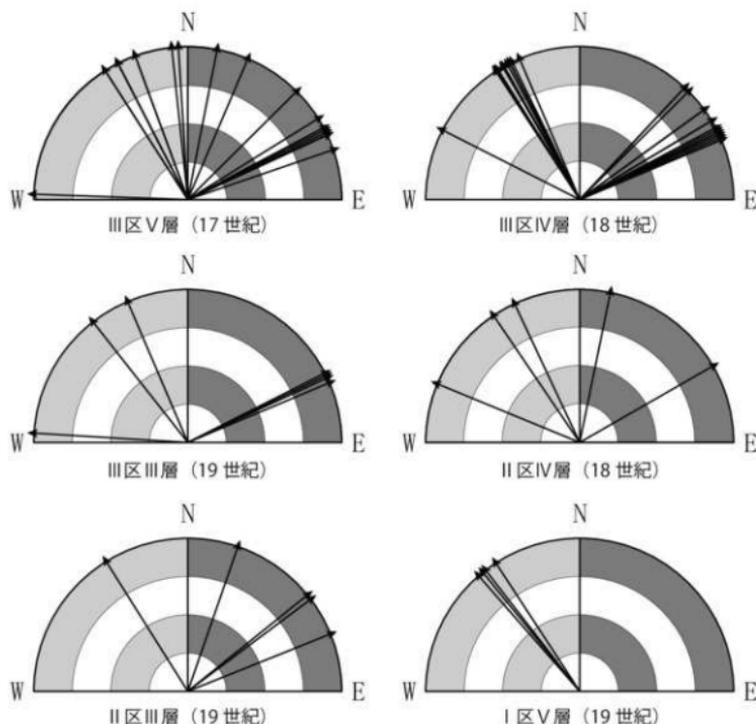
3. 宝暦・明和年間(1751～1772)「仙台城下絵図」  
豊後報恩会蔵



4. 天明6年～寛政元年(1786～1789)「仙台城下絵図」  
仙台市博物館蔵



第326図 19世紀の区画



第327図 各区・層別の遺構方位

図の上が北。N 30°Eの遺構の場合、右に30°傾いた矢印がその遺構の方位を表している。

#### ④ 区画施設についてのまとめ

表に示した柱列・溝の方位を図で表したのが第327図で、北を軸に東西に何度傾くかを、円の中心から延びる矢印で表している。Ⅲ区は、17世紀代は大溝は計画的に作られているが、そのほかの溝に統一性があまり見られず、全体としてまばらな状況になっている。18世紀代では柱列・溝はある程度規格性が窺われる。これは、この時期において計画的な整備が行われた可能性を示唆している。19世紀は対象となる遺構が少ないため傾向を見ることはできないが、ある程度前代の状況を踏まえて遺構がつくられているものと思われる。Ⅱ区は竹樋についてもグラフに表示しているが、遺構の数が少なく傾向は読み取れない。Ⅰ区は全て同じ方向を向いており、検出された区画施設が同じ性格を持って機能していたかもしれない。先にも述べたが、Ⅰ区の土手状遺構などは全て19世紀代のものであり、亀岡御殿との屋敷境となっていたと思われる。

各時代を通してⅢ区の西側に南北に伸びる区画があることが分かる（第323図～第326図）。17世紀代はSX14で、堀の可能性があり、その形を踏襲して作られたSD24、18世紀代にはこれがSD12へと変遷している。18世紀代はさらに西側にSD38があり、19世紀代はSD38と同じ場所にSD14が作られている。調査区を南北に区切る区画も多く検出されており、第323図に示した階段状の区画の一部を示している可能性がある。

### (5) 検出遺構のまとめ

当遺跡の主要な検出遺構は、Ⅰ区の区画施設、Ⅱ区の柱列・水道関連遺構、Ⅲ区の区画施設・池などである。

Ⅰ区では19世紀以降のものが主体で、近世に作られていた区画施設がそのまま踏襲され、近代における土手状遺構に変遷している様子が窺える。道路状遺構については近世の面は検出されなかったが、古い段階の道路を踏襲している可能性は高い。

Ⅱ区では18世紀代に竹樋の作り替えが4回以上行われた。19世紀代には60m近い柱列と、Ⅲ区の1号池に給水する溝が検出され、さらに飛び石などもみられ、庭園施設が近くにあったと思われる。

Ⅲ区では17世紀初頭に地鎮(SN1)を行ってから、17世紀中葉に大溝区画・SX14が作られている。SN1とSX14の年代差は出土した古銭から推定できる。SX14が堀として機能するものであれば、大溝区画がSX14付近で途切れることも理解できる。その後、SX14は石組溝SD24へと変遷し、大溝区画の周辺に柱列による区画が作られる。18世紀代には17世紀後半段階の柱列による区画を踏襲する形で、SA2～SA21へとつながる推定50m以上の区画が出現する。18世紀後半以降の柱列は部分的な建て替えが行われるのみで、19世紀代に新しく作られた柱列跡は確認できなかった。一方で19世紀段階には池が複数作られている。18世紀後半から19世紀にかけて遺跡の周辺が区画施設から庭園の景観に変化していったことが窺われる。

亀岡御殿に相当する建物跡は検出されなかったが、おそらく18世紀後半に5号池が造られ、19世紀代に至り飛び石、1号池、2号池、4号池、6号池等が構築されたと考えられる。18世紀中頃以前は当遺跡の場所は屋敷境にあたっており、南北、東西に縦横に走る柱列が、絵図に見られる階段状区画の一部であると考えられる。柱列の整備が進んだのは17世紀後半から18世紀前半にかけてと考えられ、特に18世紀代には方位が一定方向にまとまる傾向にあるため、この時期に整備されたとみられる。

Ⅲ区の遺構は17世紀前半～中頃、17世紀後半～18世紀中頃、18世紀後半～19世紀中頃に時期区分が可能である。

17世紀前半から中頃(Ⅰ期)は地鎮や大型区画などがあり、17世紀後半～18世紀中頃(Ⅱ期)は柱列などの区画施設が複数作られ、前段階の区画を踏襲しつつ再整備が行われているようである。18世紀後半～19世紀中頃には池等の庭園関係と思われる施設が作られている。

Ⅲ区の成果から当遺跡の年代区分を再度まとめると以下ようになる。

Ⅰ期：SN1・大区画から柱列への切り替え時期 17世紀前半～17世紀中頃(SN1、SX14の時期)。

Ⅱ期：柱列の整備段階 17世紀後半～18世紀中頃。

Ⅲ期：庭園の景観を呈する時期 18世紀後半～19世紀中頃

以上のように当遺跡の遺構は時期ごとに性格を変えて変遷している。

## 第8章 まとめ

1. 本遺跡では柱列跡24条、溝跡42条、井戸跡6基、土坑52基、ピット257基、性格不明遺構16基、地跡5基、木樋4条、竹樋2条、枳状遺構2基、土手状遺構1条、道路状遺構1条、石垣2基、埋裏1基、祭祀遺構1基が確認された。また、十和田a火山灰下より2基の遺構が確認され、遺構総数は418基を数える。

2. 出土遺物の総数は5277点である。遺物は縄文土器、瓦、陶器、土師質土器、瓦質土器、磁器、石製品、石器、木製品、金属製品、古銭、土製品等がみられた。産地は、磁器は景徳鎮、漳州窯、肥前、瀬戸・美濃、切込、平清水等を、陶器は志野、織部、岸窯系、肥前系（唐津を含む）、瀬戸・美濃、京・信楽系、丹波、大瀬相馬、小野相馬、堤を確認した。産地不明の在産と見られる播鉢等も複数確認している。

3. I区は19世紀代に柱列が作られ、その後同じ場所に近代初頭の土手状遺構が築かれた。整地層からの遺物の出土量が多く、周辺に武家屋敷があったことが窺われる。また、近世～近代を通して道路、区画に相当する地区であるが、絵図によると荒地のように描かれている時期もある。

4. II区は18世紀代に水道関係の遺構が整備され、19世紀代には柱列、飛び石、1号池に対する給水溝などが作られている。遺物の出土量は少ないが、平清水産か銀山畑山焼の可能性のある皿が出土した。

5. III区の遺構は3時期の変遷が窺える。17世紀前半は、当遺跡で確認されている近世の一番古い段階のもので、地鎮、大溝区画が作られた時期、17世紀後半から18世紀中頃は屋敷境の柱列が構築・整備された時期、18世紀後半～19世紀前半は庭園として整備された時期と、性格をかえている。

6. 自然科学分析では、以下のことが判明した。(1) 樹種同定の結果、柱はスギ・クリ・ニヨウマツが、杭はスギ・クリ・ナラ類・クマシデ属、木樋はニヨウマツが用いられていた。(2) 出土木製品の年代測定では、III区III層上面検出のSA8出土杭は17世紀前半の年代であり、遺構よりも古い年代の木材である。また、III区IV層検出のSE1出土坑も17世紀の年代となっており、同様に遺構との年代差がある。III区V層検出のSA18、III区IV層検出のSA5b出土木材等は、ほぼ遺構の年代に近い18世紀中ごろの年代となっている。(3) 土壌分析において稲作の可能性が指摘されたが、周辺の調査では畑の畝跡が検出されており、畝間に藁を敷いて耕作を行っていた可能性がある。本遺跡も同様に藁を使用した畑作が行われたと考えられる。

## 参考文献

- 江戸遺跡研究会編 2001『図説 江戸考古学研究事典』柏書房
- 追川吉生 2007『江戸のなりたち 2 武家屋敷・町屋』新泉社
- 大橋康二・西田宏子監修 1988『古伊万里』平凡社
- 大橋康二 1994『古伊万里の文様 初期肥前磁器を中心に』理工学社
- 大橋康二構成 2002『そば猪口事典』平凡社
- 角川書店 1994『宮城県姓氏家系大辞典』
- 鐘方正樹 2006『江戸の考古学 ものが語る歴史シリーズ⑧』同成社
- 九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』
- 九州近世陶磁学会 2002『国内出土の肥前陶磁 西日本の流通を語る 第1分冊』
- 九州近世陶磁学会 2002『国内出土の肥前陶磁 西日本の流通を語る 第2分冊』
- 坂田啓編 1995『私本仙台藩土事典』創栄出版
- 汐留地区遺跡調査会 1996『汐留遺跡』
- 新宿区遺跡調査会 1997『住吉町西遺跡1 - 新宿区営住吉町コーポラス等の建設に伴う緊急発掘調査報告書 -』
- 新宿区市谷加賀町一丁目遺跡調査団 1996『東京都新宿区市谷加賀町一丁目遺跡1 (仮称) 日本電信電話株式会社市ヶ谷加賀町社宅の新築工事に伴う緊急発掘調査報告書』
- 新宿区内藤町遺跡調査会 1992『内藤町遺跡 - 放射5号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書 -』
- 新宿区南山伏町遺跡調査団 1997『東京都新宿区南山伏町遺跡 警視庁牛込警察署改築に伴う緊急発掘報告書』
- 芹沢長介ほか編 1981『日本やきもの集成1 北海道 東北 関東』平凡社
- 仙台市教育委員会 1985『仙台城三ノ丸跡』仙台市文化財調査報告書第76集
- 仙台市教育委員会 1986『柳生』仙台市文化財調査報告書第95集
- 仙台市教育委員会 1997『養種園遺跡』仙台市文化財調査報告書第214集
- 仙台市教育委員会 2000『沼向遺跡第1～3次調査』仙台市文化財調査報告書第241集
- 仙台市教育委員会 2002『仙台城跡1 - 平成13年度調査報告書 -』仙台市文化財調査報告書第259集
- 仙台市教育委員会 2003『仙台城跡2 - 平成14年度調査報告書 -』仙台市文化財調査報告書第264集
- 仙台市教育委員会 2004『仙台城跡3 - 平成15年度調査報告書 -』仙台市文化財調査報告書第270集
- 仙台市教育委員会 2004『仙台城跡4 - 平成15年度調査報告書 -』仙台市文化財調査報告書第271集
- 仙台市教育委員会 2005『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告書』仙台市文化財調査報告書第289集
- 仙台市教育委員会 2006『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2)概要報告書』仙台市文化財調査報告書第302集
- 仙台市教育委員会 2007『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(3)概要報告書』仙台市文化財調査報告書第316集
- 仙台市教育委員会 2007『川内A遺跡 - 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書I -』仙台市文化財調査報告書第312集
- 仙台市環境計画課編・松本秀明監修 2001『せんだい空中写真集～杜の都いまむかし』仙台市環境計画課
- 仙台市史編さん委員会 1994『仙台市史 特別編1 自然』
- 仙台市史編さん委員会 1995『仙台市史 特別編2 考古資料』

- 仙台市史編さん委員会 2004『仙台市史 通史編 5 近世 3』
- 仙台市史編さん委員会 2006『仙台市史 特別編 7 城館』
- 高倉淳ほか編 1994『絵図・地図で見る仙台第一輯』今野印刷株式会社
- 高倉淳ほか編 2005『絵図・地図で見る仙台第二輯』今野印刷株式会社
- 地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡調査会 1997『溜池遺跡第1分冊-地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡発掘調査報告書 7-1-』
- 中央区教育委員会事務局 2004『日本橋新堀町一丁目遺跡Ⅱ-中央区日本橋新堀町一丁目 36番 集合住宅 建設に伴う緊急発掘調査報告書-』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1993『東北大学埋蔵文化財調査年報 6』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1994『東北大学埋蔵文化財調査年報 7』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997『東北大学埋蔵文化財調査年報 8』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1999『東北大学埋蔵文化財調査年報 11』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000『東北大学埋蔵文化財調査年報 13』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2005『東北大学埋蔵文化財調査年報 18』
- 中川久夫他 1960『仙台付近の第四系および地形(1)』第四期研究 I
- 新潟県教育委員会・財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 2007『窪田遺跡 I 日本海沿岸東北自動車道関係発掘報告書 X X III』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 176 集
- 兵庫埋蔵銭調査会 1996『日本出土銭総覧』
- 溝岡忠成ほか編 1981『日本やきもの集成 6 近畿(Ⅱ)』平凡社
- 宮城県文化財保護協会 1990『切込窯跡』宮崎町文化財調査報告書第 3 集

# 写 真 图 版

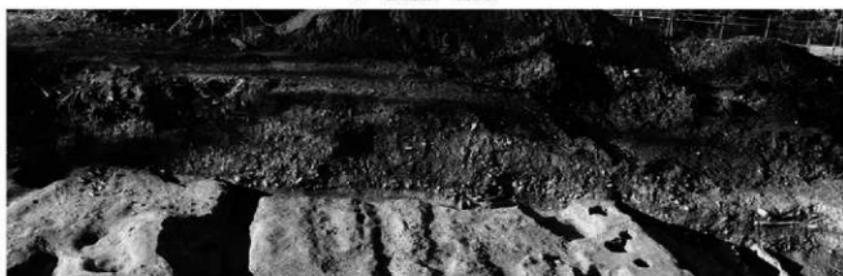




1. I区西壁面 (東から)



2. I区北壁面1 (南から)



3. I区北壁面2 (南から)



4. I区南壁面1 (北から)

図版1 I区壁面(1)



1. I区南壁面2 (北から)



2. I区南壁面3 (北から)



3. II区北壁面1 (南から)



4. II区北壁面2 (南から)

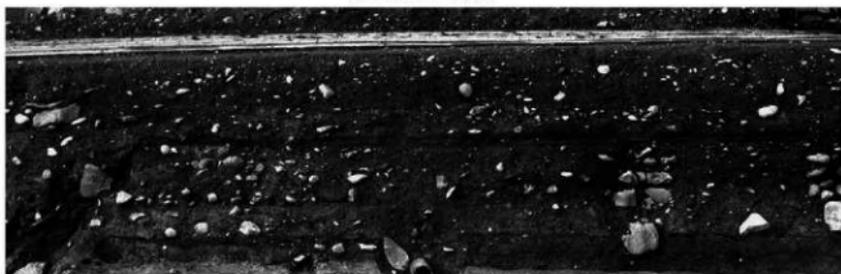
図版2 I区壁面(2)・II区壁面(1)



1. II区北壁面3 (南から)



2. II区北壁面4 (南から)



3. II区北壁面5 (南から)



4. II区北壁面6 (南から)



5. II区北壁面7 (南から)

図版3 II区壁面(2)



1. II区北壁面8 (南から)



2. II区南壁面1 (北から)



3. II区南壁面2 (北から)



4. II区南壁面3 (北から)



5. II区南壁面4 (北から)

図版4 II区壁面(3)



1. II区南壁面5 (北から)



2. III区北壁面1 (南から)



3. III区北壁面2 (南から)



4. III区北壁面3 (南から)



5. III区北壁面4 (南から)



6. III区北壁面5 (南から)



7. III区北壁面6 (南から)



8. III区北壁面7 (南から)



9. III区北壁面8 (南から)

図版5 II区壁面(4)・III区壁面(1)



1. Ⅲ区北壁面 9 (南から)



2. Ⅲ区北壁面 10 (南から)



3. Ⅲ区北壁面 11 (南から)



4. Ⅲ区北壁面 12 (南から)



5. Ⅲ区北壁面 13 (南から)



6. Ⅲ区北壁面 14 (南から)



7. Ⅲ区北壁面 15 (南から)



8. Ⅲ区北壁面 16 (南から)

図版6 Ⅲ区壁面 (2)



1. Ⅲ区北壁面 17 (南から)



2. Ⅲ区北壁面 18 (南から)



3. Ⅲ区北壁面 19 (南から)



4. Ⅲ区北壁面 20 (南から)



5. Ⅲ区北壁面 21 (南から)



6. Ⅲ区北壁面 22 (南から)



7. Ⅲ区北壁面 23 (南から)



8. Ⅲ区北壁面 24 (南から)

図版7 Ⅲ区壁面 (3)



1. Ⅲ区北壁面 25 (南から)



2. Ⅲ区北壁面 26 (南から)



3. Ⅲ区北壁面 27 (南から)



4. Ⅲ区北壁面 28 (南から)



5. Ⅲ区北壁面 29 (南から)



6. Ⅲ区南壁面 1 (北から)



7. Ⅲ区南壁面 2 (北から)



8. Ⅲ区南壁面 3 (北から)

図版 8 Ⅲ区壁面 (4)



1. III区南壁面4 (北から)



2. III区南壁面5 (北から)



3. III区南壁面6 (北から)



4. III区南壁面7 (北から)



5. III区南壁面8 (北から)



6. III区南壁面9 (北から)



7. III区南壁面10 (北から)



8. III区南壁面11 (北から)

図版9 III区壁面(5)



1. Ⅲ区南壁面 12 (北から)



2. Ⅲ区南壁面 13 (北から)



3. Ⅲ区南壁面 14 (北から)



4. Ⅲ区南壁面 15 (北から)



5. Ⅲ区南壁面 16 (北から)



6. Ⅲ区南壁面 17 (北から)



7. Ⅲ区南壁面 18 (北から)



8. Ⅲ区南壁面 19 (北から)

図版 10 Ⅲ区壁面 (6)



1. Ⅲ区南壁面 20 (北から)



2. Ⅲ区南壁面 21 (北から)



3. Ⅲ区南壁面 22 (北から)



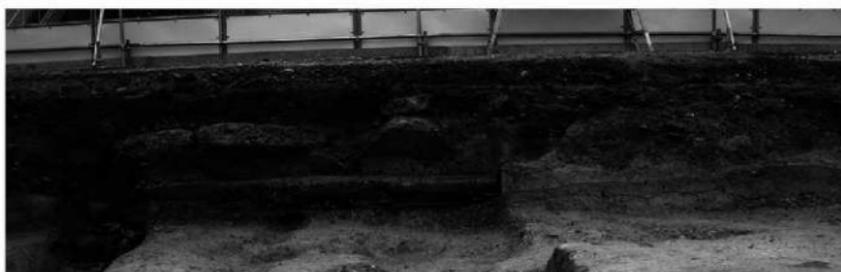
4. Ⅲ区南壁面 23 (北から)



5. Ⅲ区南壁面 24 (北から)



6. Ⅲ区南壁面 25 (北から)



7. Ⅲ区南壁面 26 (北から)

図版 11 Ⅲ区壁面 (7)



1. III区南壁面 27 (北から)



2. III区南壁面 28 (北から)



3. III区南壁面 29 (北から)



4. III区東壁面 (北から)

図版 12 III区壁面 (8)



1. SK55 土坑完照 (東から)



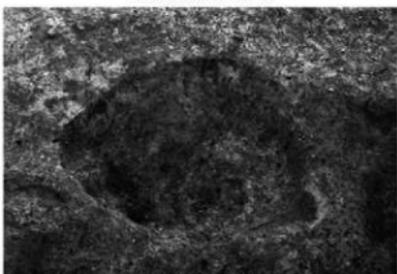
2. SK55 土坑断面 (南から)



3. SK55 土坑断面 (東から)



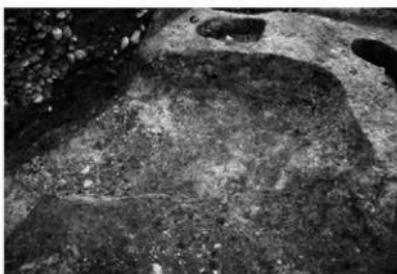
4. SK55 土坑断面 (西から)



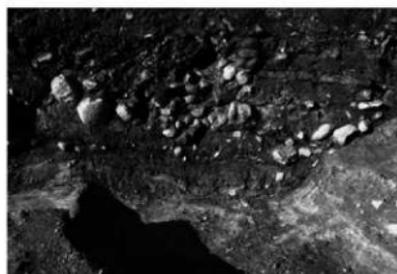
5. SK61 土坑完照 (東から)



6. SK61 土坑断面 (東から)

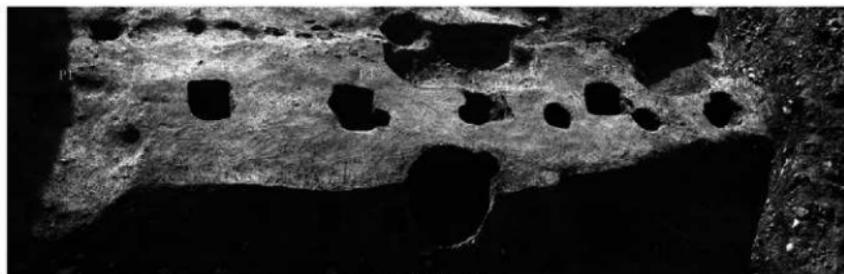


7. SK23 性格不明遺構完照 (南から)



8. SK23 性格不明遺構断面 (南から)

図版 13 | Ⅰ区Ⅵ層



1. SA3 柱列跡完壁 (東から)



2. SA3 柱列跡 P1 断面 (東から)



3. SA3 柱列跡 P2 断面 (東から)



4. SA3 柱列跡 P3 断面 (東から)



5. SA3 柱列跡 P4 断面 (東から)



6. SA3 柱列跡 P5 断面 (東から)

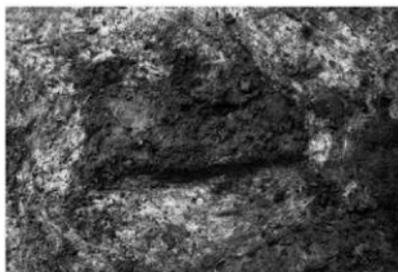


7. SA3 柱列跡 P6 断面 (東から)

図版 14 I 区V層 (1)



1. SA4 柱列跡完掘 (南から)



2. SA4 柱列跡 P3 断面 (東から)



3. SA4 柱列跡 P4 断面 (東から)



4. SA4 柱列跡 P5 断面 (東から)

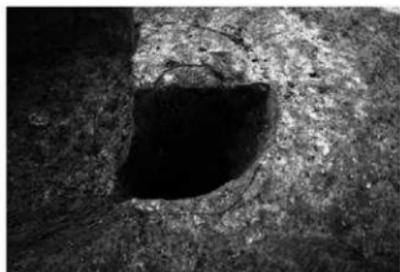


5. SA4 柱列跡 P6 断面 (東から)



6. SA3・4・6 柱列跡完掘 (南から)

図版 15 I 区V層 (2)



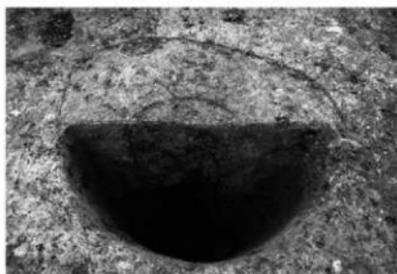
1. SA6 柱列跡 P1 断面 (東から)



2. SA6 柱列跡 P2 断面 (北から)



3. SA6 柱列跡 P3 柱材検出 (東から)



4. SA6 柱列跡 P4 断面 (東から)



5. SO45・S1 溝跡完掘 (南から)



6. SO45 溝跡断面 (北から)



7. SO51 溝跡断面 (北から)

図版 16 I 区V層 (3)



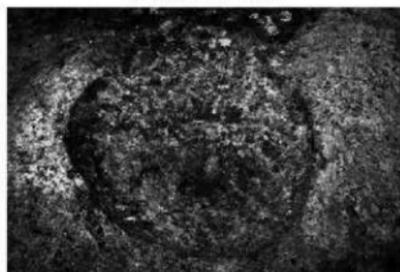
1. SE6 井戸跡完掘 (南から)



2. SE6 井戸跡断面 (南から)



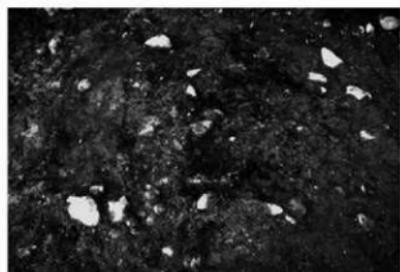
3. SE6 井戸跡断面 (南から)



4. SK34 土坑完掘 (南から)



5. SK34 土坑断面 (南から)

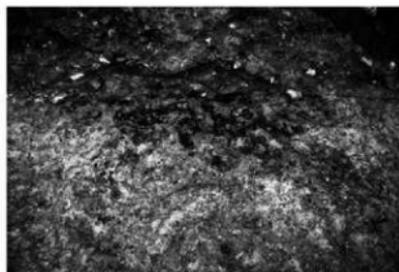


6. SX11 性格不明遺構 炭化物検出 (南から)

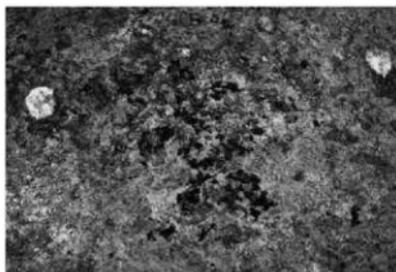


7. SX12 (左)・13 (右) 性格不明遺構 炭化物検出 (西から)

## 図版 17 I 区 V 層 (4)



1. SX16 性格不明遺構 炭化物検出 (東から)



2. SX18 性格不明遺構 炭化物検出 (北から)



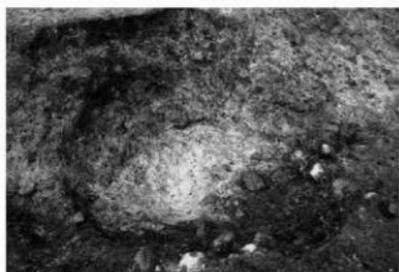
3. SX21 性格不明遺構 炭化物検出 (南から)



4. SD43 溝跡断面 炭化物検出 (北から)



5. SD43 溝跡断面 (北から)



6. SK36 土坑完照 (東から)

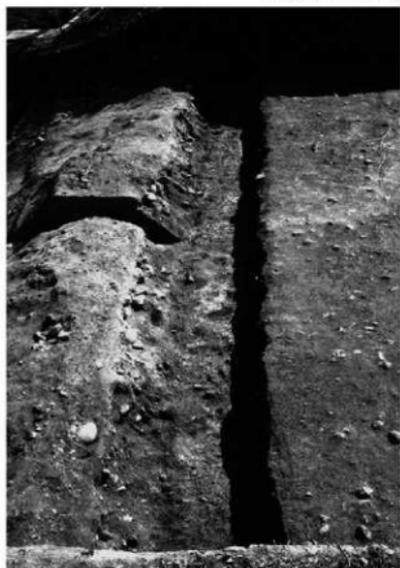


7. SK36 土坑断面 (東から)

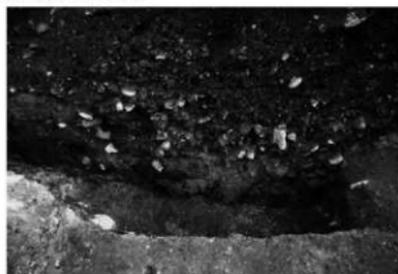
図版 18 I 区 V 層 (5)・IV 層



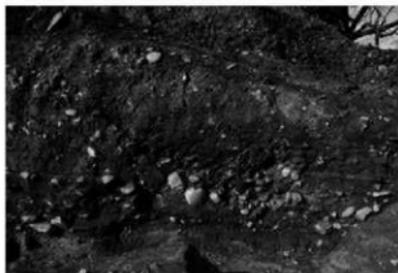
1. SD29 溝跡・1号道路状遺構・1号土手状遺構全景 (南から)



2. SD29 溝跡完掘 (北から)



3. SD29 溝跡断面 (北から)



4. SD29 溝跡断面 (北から)

図版 19 | 区III層



1. SD28 溝跡石組検出 (南から)



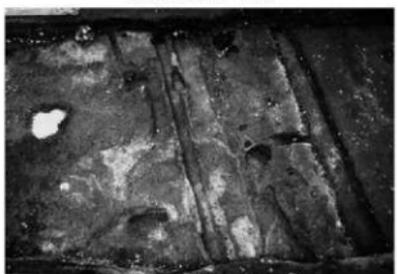
2. SD28 溝跡断面 (北から)



3. SD28 溝跡断面 (北から)



4. 1号木桶全容 (南から)



5. 1号木桶廻り方写真 (北から)



6. 1号木桶断面 (北から)

図版 20 I 区 II 層 (1)



1. 2号石垣掘り方完掘 (南から)



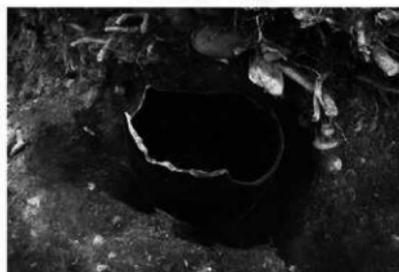
2. 2号石垣石船検出 (北から)



3. 2号石垣断面 (東から)



4. 1号埋篋掘り方完掘 (南から)



5. 1号埋篋検出 (南から)



6. SX17 性格不明遺構断面 (東から)



7. SX17 性格不明遺構断面 (南から)



8. 建物(南馬殿)跡検出 (南東から)

図版 21 | 区 II 層 (2)



1. SD27 溝跡完掘 (東から)



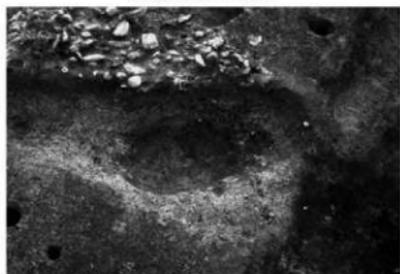
2. SD27 溝跡断面図 (東から)



3. SK4 土坑完掘 (南から)



4. SK4 土坑断面 (東から)



5. SK5 土坑完掘 (東から)



6. SK5 土坑・SD19 溝跡断面 (東から)



7. 1号竹簡 積検出 (西から)



8. 1号竹簡 積検出 (南西から)

図版 22 II 区IV層 (1)



1. 1号竹樋全景 (南から)



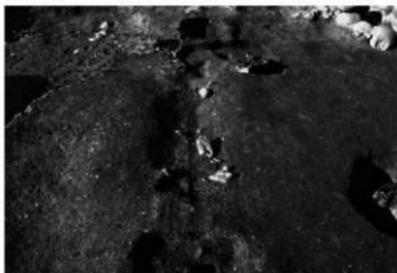
2. 1号竹樋廻り方完照 (南東から)



3. 1号竹樋 継手検出 (南から)



4. 2号竹樋検出 (南から)



5. 2号竹樋検出 (南から)

図版 23 II区IV層 (2)



1. 2号竹樋全景 (北東から)



2. 2号竹樋 枳検出 (南から)



3. 2号竹樋 継手検出 (南から)



4. 1号枳状遺構掘り方完照 (南から)



5. 1号枳状遺構遺物出土 (南から)

図版 24 II区IV層 (3)



1. 1号拵状遺構全景 (東から)



2. 1号拵状遺構断面 (西から)

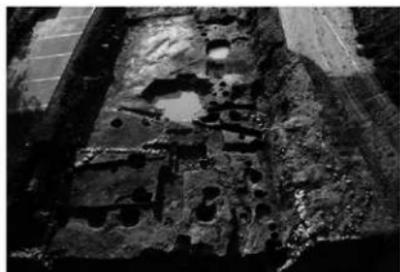


3. 1号拵状遺構断面 (南から)



4. SA1柱列跡全景 (東から)

図版 25 II区IV層(4)・III層(1)



1. SA1 柱列跡写真 (東から)



2. SA1 柱列跡写真 (北から)



3. SD7 溝跡石組全景 (南から)



4. SD7 溝跡堀り方写真 (南から)



5. SD7 溝跡石組検出 (南から)



6. SD7 溝跡断面 (北から)

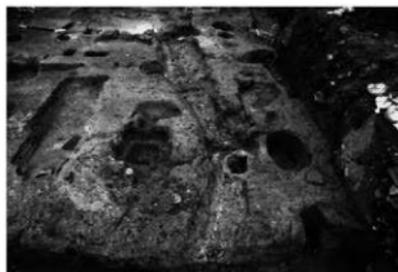


7. SD7 溝跡断面 (南から)

図版 26 II 区 III 層 (2)



1. SD7 溝跡木材検出 (東から)



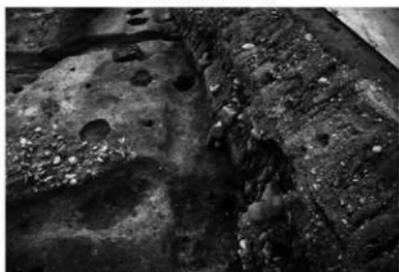
2. SD18 溝跡完照 (東から)



3. SD18 溝跡断面 (東から)



4. SD18 溝跡断面 (東から)



5. SD19 溝跡完照 (東から)



6. SD19 溝跡断面 (南から)



7. SD33 溝跡完照 (西から)

図版 27 II 区 III 層 (3)



1. SK2 土坑完備 (西から)



2. SK2 土坑断面 (西から)



3. SK3 土坑完備 (東から)



4. SK3 土坑断面 (南から)



5. SX2 性格不明遺構完備 (南から)



6. SX2 性格不明遺構遺物出土 (南から)



7. SX9 性格不明遺構完備 (北から)



8. SX9 性格不明遺構遺物出土 (北から)

図版 28 II 区 III 層 (4)



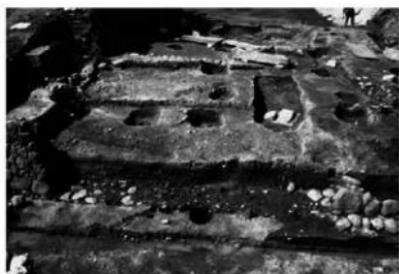
1. 1号飛び石検出 (東から)



2. 1号飛び石断面 (東から)



3. 1号石垣全景 (東から)



4. 1号石垣廻り方検出 (東から)



5. 1号石垣廻り方下部断面 (南から)

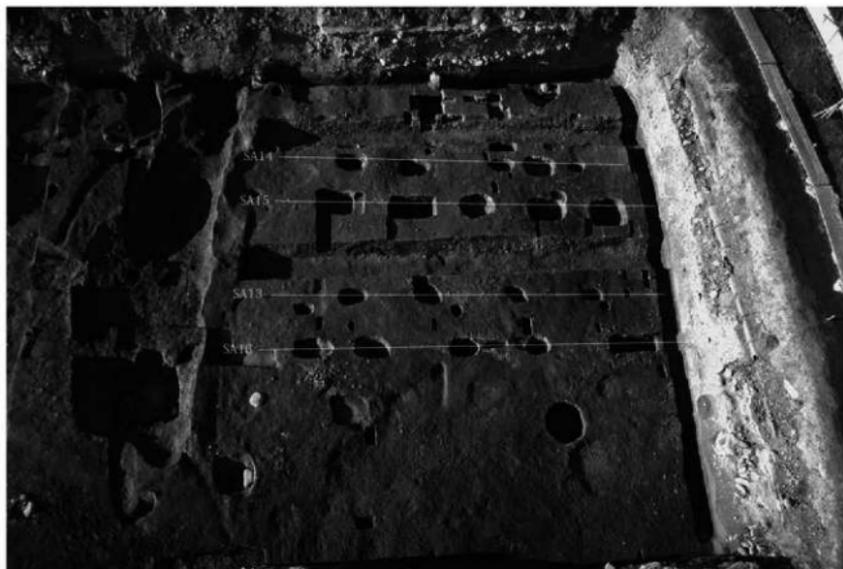


6. 1号石垣断面 (北から)

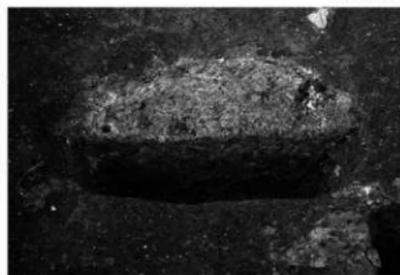


7. 1号石垣断面 (南から)

図版 29 II区III層 (5)・II層



1. SA13～16柱列跡全貌 (南から)



2. SA13柱列跡 P1断面 (南から)



3. SA13柱列跡 P2断面 (南から)

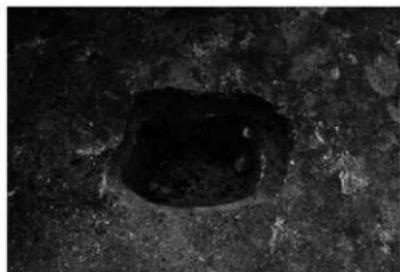


4. SA13柱列跡 P3断面 (西から)

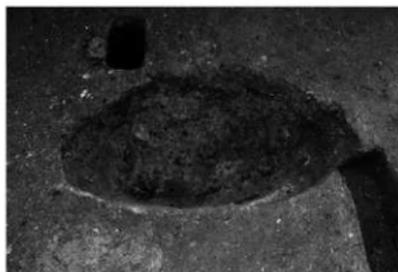


5. SA13柱列跡 P4断面 (南から)

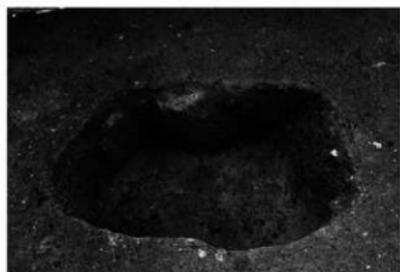
図版 30 III区V層 (1)



1. SA14 柱列跡 P1 穴眼 (北から)



2. SA14 柱列跡 P2 穴眼 (北から)



3. SA14 柱列跡 P3 穴眼 (北から)



4. SA14 柱列跡 P4 穴眼 (北から)



5. SA15 柱列跡全景 (東から)

図版 31 III 区 V 層 (2)



1. SA15 柱列跡 P1断面 (北から)



2. SA15 柱列跡 P2断面 (北から)



3. SA15 柱列跡 P3断面 (北から)



4. SA15 柱列跡 P4断面 (北から)



5. SA15 柱列跡 P5断面 (北から)



6. SA16 柱列跡 溝1断面 (南から)

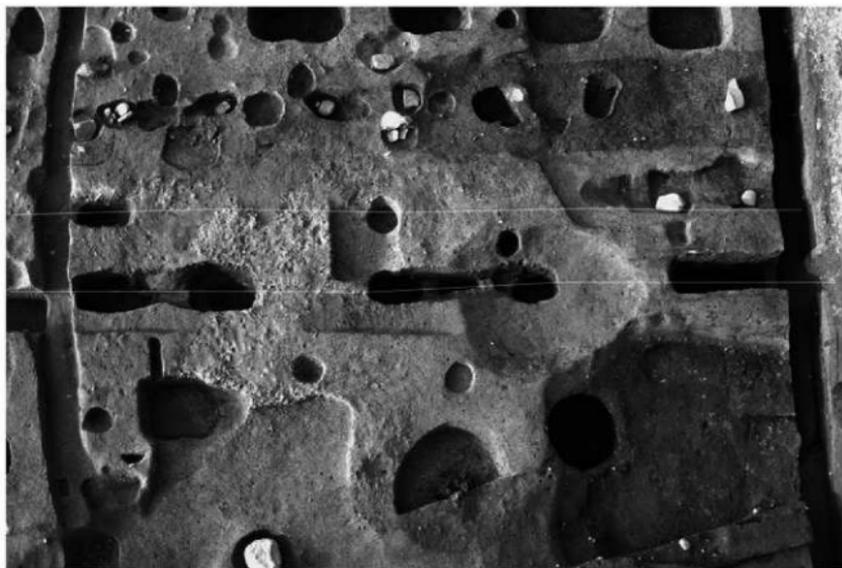


7. SA16 柱列跡 溝2断面 (北から)



8. SA16 柱列跡 溝3断面 (西から)

図版 32 III区V層 (3)



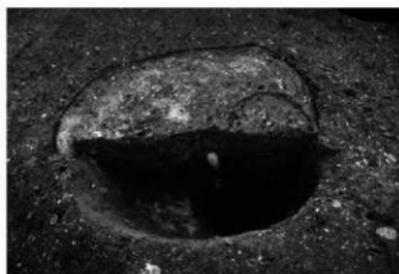
1. SA16・27柱列跡全景 (南から)



2. SA27柱列跡 溝1断面 (西から)



3. SA27柱列跡 P1断面 (北から)



4. SA27柱列跡 P2断面 (東から)

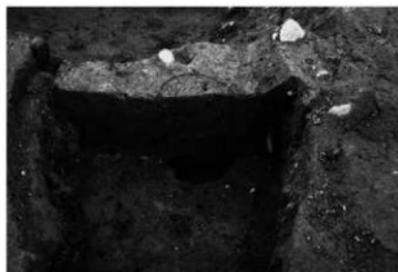


5. SA17柱列跡 柱1断面 (南から)

図版33 III区V層 (4)



1. SA17・18 柱列跡全景 (南から)



2. SA17 柱列跡 柱2断面 (南から)



3. SA18 柱列跡 柱1柱材・礎板石横出 (北から)



4. SA18 柱列跡 柱2柱材・礎板石横出 (北から)



5. SA18 柱列跡 柱2断面 (南から)



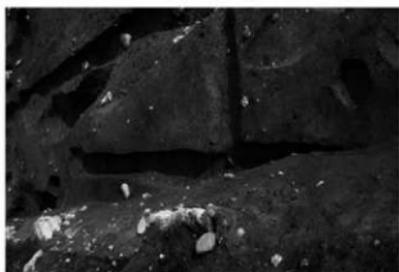
6. SO24 溝跡掘り方完照 (南から)



1. SD24 溝跡石組検出 (南東から)



2. SD24 溝跡断面 (南から)



3. SD34 溝跡完掘 (北から)



4. SD34 溝跡断面 (南から)



5. SD34 溝跡断面 (西から)



6. SD39 溝跡断面 (西から)



7. SD39 溝跡完掘 (東から)

図版 35 III区V層 (6)



1. SD39 溝跡完観全景 (北から)



2. SD40 溝跡完観 (北から)



3. SD40 溝跡断面 (南から)



4. SD41 溝跡完観 (西から)

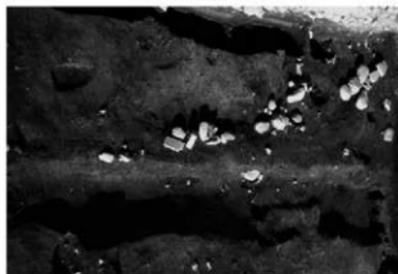
図版 36 III区V層 (7)



1. SD22・23・49 溝跡全景 (西から)



2. SD49 溝跡光景 (南から)



3. SD49 溝跡石組様出 (南から)



4. SD54 溝跡光景 (北から)



5. SD54 溝跡断面 (北から)



6. SD54 溝跡遺物出土状況 (北から)

図版 37 III区V層 (8)



1. SD39・55 溝跡写真 (東から)



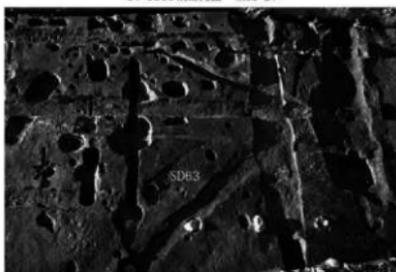
2. SD55 溝跡断面 (西から)



3. SD56 溝跡断面 (東から)



4. SD56 溝跡断面 (南から)



5. SD63 溝跡全景 (南から)



6. SD63 溝跡写真 (東から)

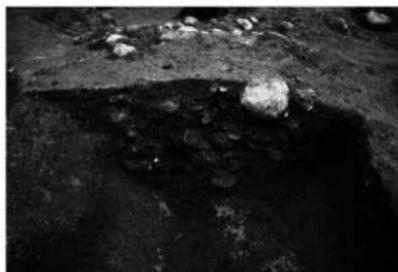


7. SD63 溝跡断面 (北から)

図版 38 III区V層 (9)



1. SD64 溝跡完観 (北から)



2. SD64 溝跡断面 (西から)



3. SD65 溝跡完観 (東から)



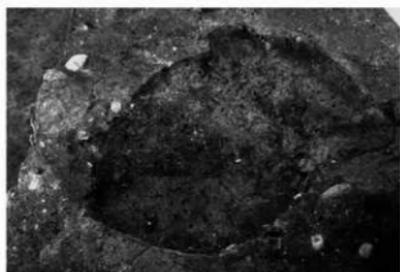
4. SD66 溝跡完観 (東から)



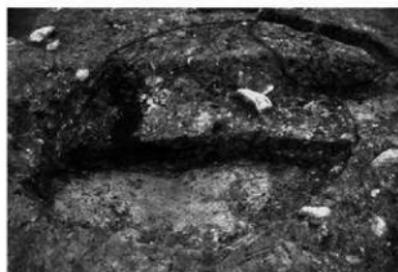
5. SD66 溝跡断面 (東から)



6. SD66 溝跡断面 (東から)



7. SK12 土坑完観 (西から)



8. SK12 土坑断面 (西から)

図版 39 III区V層 (10)



1. SK13 土坑完観 (北西から)



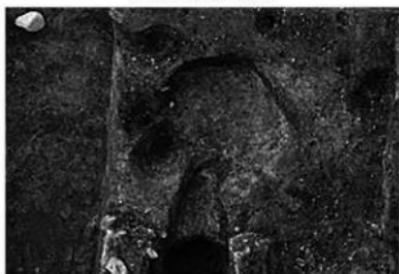
2. SK13 土坑断面 (西から)



3. SK14 土坑完観 (南から)



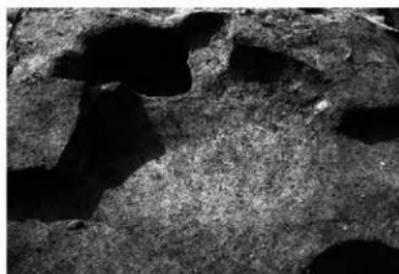
4. SK14 土坑断面 (南から)



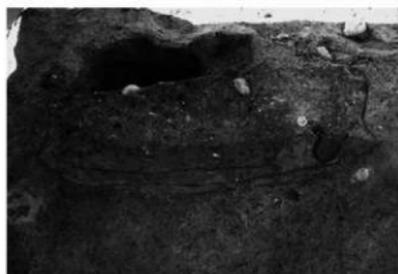
5. SK18 土坑完観 (東から)



6. SK18 土坑断面 (西から)



7. SK20 土坑完観 (東から)



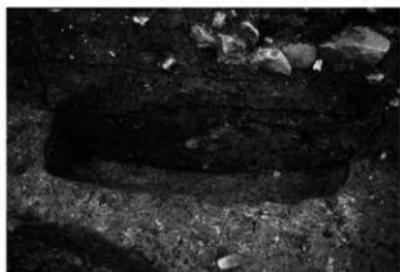
8. SK20 土坑断面 (東から)



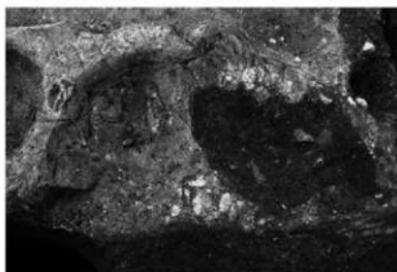
1. SK26 土坑完観 (西から)



2. SK26 土坑断面 (西から)



3. SK42 土坑完観・断面 (南から)



4. SK49 土坑完観 (南から)



5. SK49 土坑断面 (南から)



6. SK50 土坑完観 (北西から)



7. SK50 土坑断面 (北東から)



8. SK56・57 土坑完観 (西から)

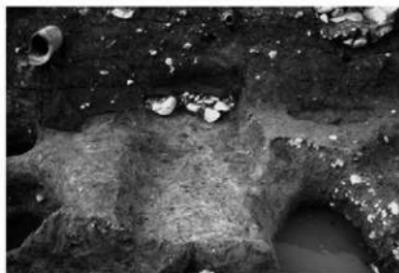
## 図版 41 III区V層 (12)



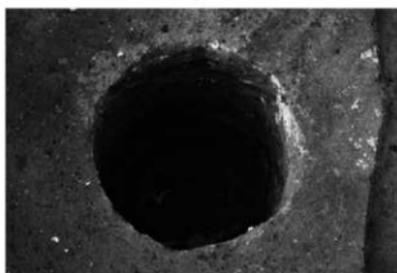
1. SK56・57 土坑断面 (西から)



2. SK58 土坑完掘・断面 (北から)



3. SK60 土坑完掘・断面 (南から)



4. SK62 土坑完掘 (南から)



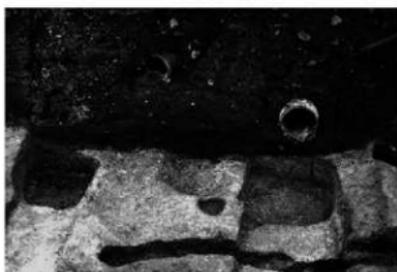
5. SK62 土坑断面 (北から)



6. SK64 土坑完掘 (南から)



7. SX10 性格不明遺構完掘 (南東から)



8. SX10 性格不明遺構断面 (南から)

図版 42 III区V層 (13)



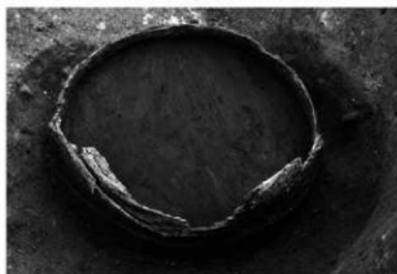
1. SK15 性格不明遺構完掘 (北西から)



2. SK15 性格不明遺構断面 (東から)



3. SN1 祭祀遺構掘り方完掘 (南から)



4. SN1 祭祀遺構掘り方完掘 (北から)



5. SN1 祭祀遺構掘り方完掘 (南から)



6. SN1 祭祀遺構掘り方完掘 (北から)



7. SN1 祭祀遺構掘り方完掘 (南から)

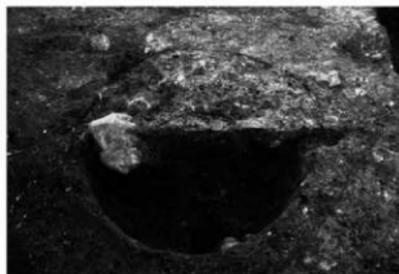


8. SN1 祭祀遺構掘り方完掘 (西から)

図版 43 III区V層 (14)



1. SA2 柱列跡全景 (南から)



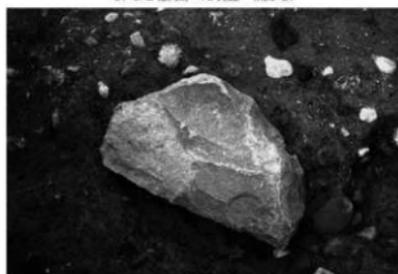
2. SA2 柱列跡 P1 断面 (南から)



3. SA2 柱列跡 P2 穴眼 (南から)



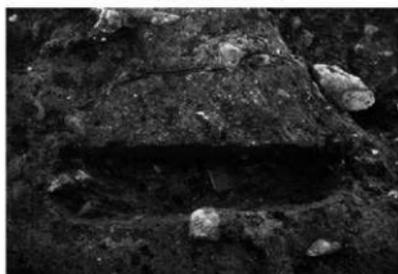
4. SA2 柱列跡 P3 断面 (南から)



5. SA2 柱列跡 P4 礎板石出土 (南から)

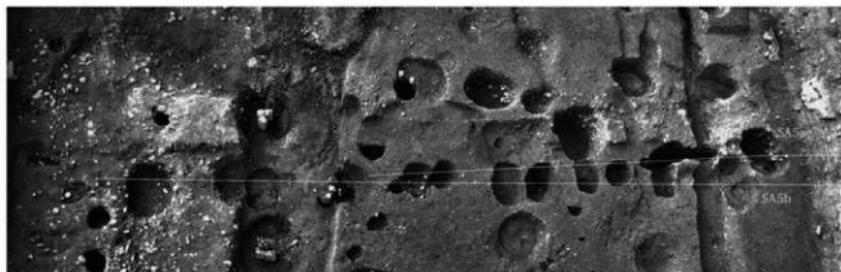


6. SA2 柱列跡 P5 断面 (南から)

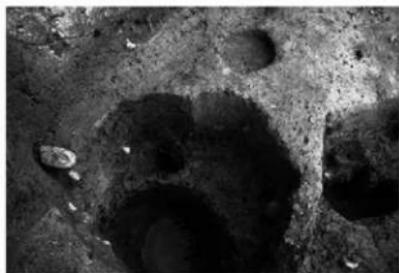


7. SA2 柱列跡 P6・7 断面 (南から)

図版 44 III区IV層 (1)



1. SAS 柱列跡全景 (東から)



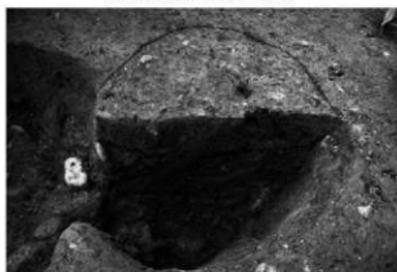
2. SASa 柱列跡 P1 穴窟 (南西から)



3. SASa 柱列跡 P2 断面 (東から)



4. SASa 柱列跡 P3 柱材映出 (南から)



5. SASa 柱列跡 P4 断面 (東から)



6. SASa 柱列跡 P5 柱材映出 (西から)



7. SASa 柱列跡 P6 断面 (東から)

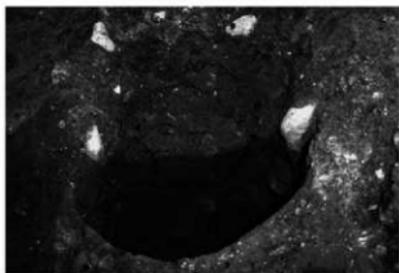
図版 45 III区IV層 (2)



1. SASa 柱列跡 P7 断面 (東から)



2. SASb 柱列跡 P1 断面 (南西から)



3. SASb 柱列跡 P2 断面 (西から)



4. SASb 柱列跡 P3 断面 (南西から)



5. SASb 柱列跡 P4 断面 (南西から)

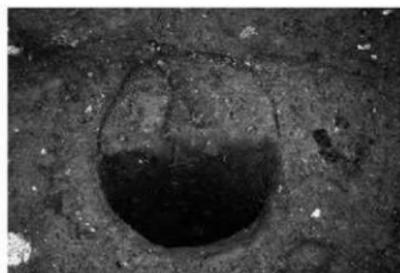


6. SASb 柱列跡 P5 断面 (東から)



7. SA7 柱列跡完掘 (南から)

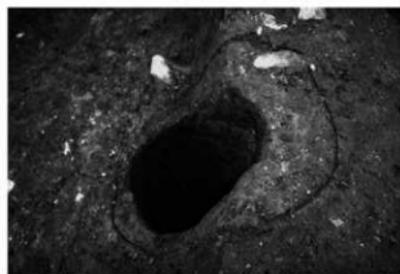
図版 46 III区IV層 (3)



1. SA7 柱列跡 P1新面 (南から)



2. SA7 柱列跡 P2新面 (南から)



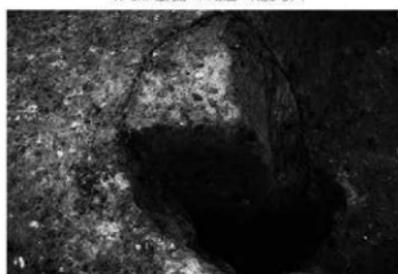
3. SA7 柱列跡 P3柱底完観 (南から)



4. SA7 柱列跡 P4新面 (南から)



5. SA7 柱列跡 P5新面 (南から)



6. SA7 柱列跡 P6新面 (南から)



7. SA11 柱列跡完観 (西から)



8. SA11 柱列跡 P1新面 (南から)

## 図版 47 III区IV層 (4)



1. SA11 柱列跡 P2 断面 (北から)



2. SA11 柱列跡 P3 断面 (北から)



3. SA11 柱列跡 P5 断面 (東から)



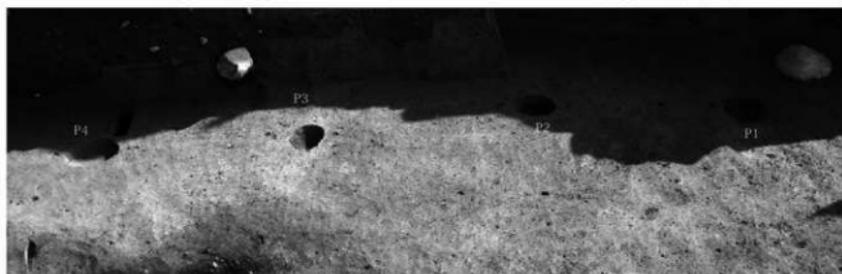
4. SA11 柱列跡 P6 断面 (東から)



5. SA11 柱列跡 P7 断面 (南から)



6. SA11 柱列跡 P8 断面 (東から)



7. SA12 柱列跡全景 (北から)

図版 48 III区IV層 (5)



1. SA12 柱列跡 P1 断面 (北から)



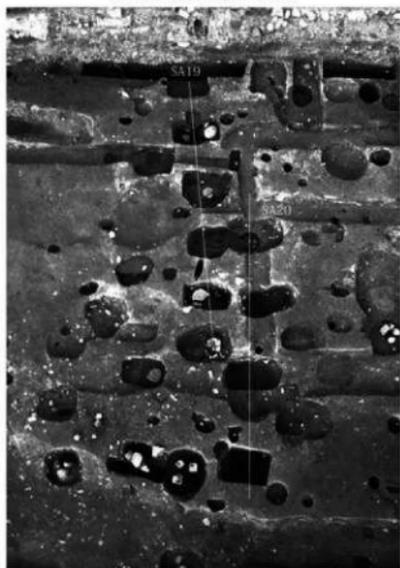
2. SA12 柱列跡 P2 断面 (北から)



3. SA12 柱列跡 P3 断面 (北から)



4. SA12 柱列跡 P4 断面 (北から)



5. SA19・20 柱列跡全景 (南から)

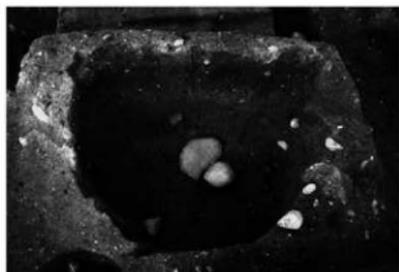


6. SA19 柱列跡 P1 完照 (南から)



7. SA19 柱列跡 P2 断面 (南から)

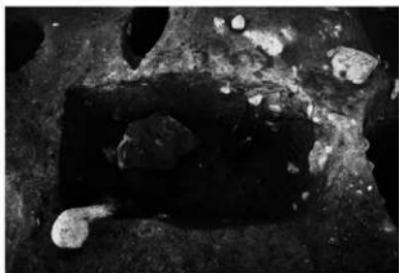
図版 49 III区IV層 (6)



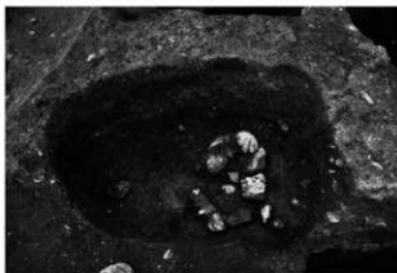
1. SA19 柱列跡 P3 完備 (南から)



2. SA19 柱列跡 P4 断面 (東から)



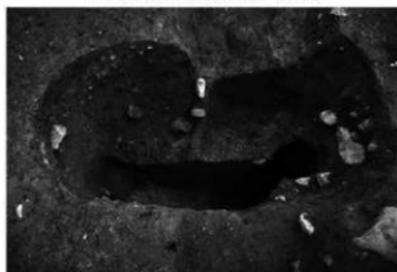
3. SA19 柱列跡 P5 柱材検出 (南から)



4. SA19 柱列跡 P6 柱固め石検出 (南から)



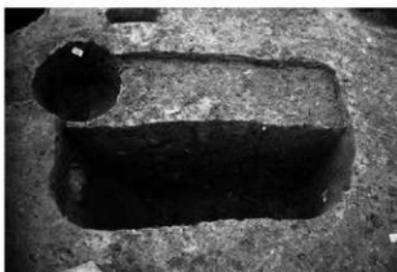
5. SA20 柱列跡 P1 断面 (南から)



6. SA20 柱列跡 P2 断面 (北から)



7. SA20 柱列跡 P3 柱材検出 (南から)

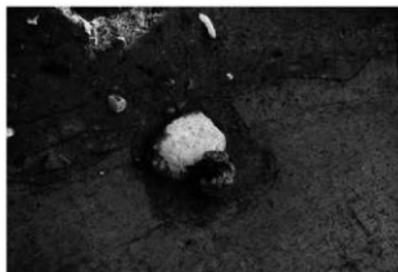


8. SA20 柱列跡 P4 断面 (南から)

図版 50 III区IV層 (7)



1. SA21 柱列跡 P1 柱材検出 (北から)



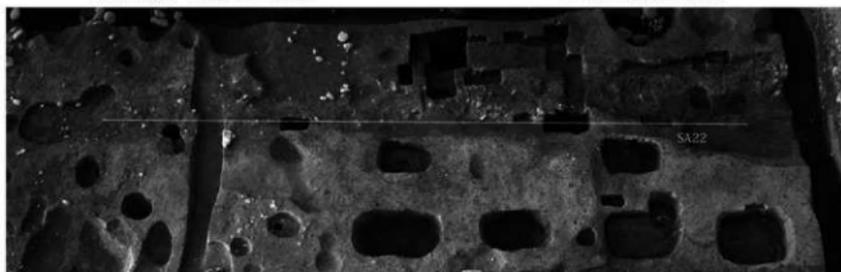
2. SA21 柱列跡 P2 柱材検出 (北から)



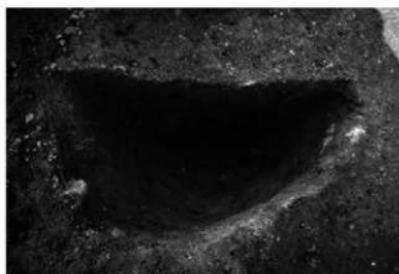
3. SA21 柱列跡 P3 礎板石出土 (北から)



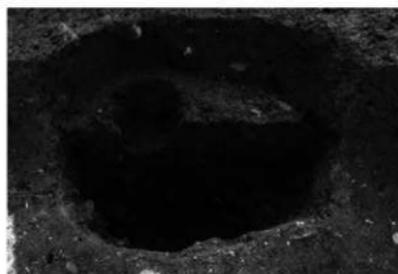
4. SA21 柱列跡断面 (北から)



5. SA22 柱列跡全景 (南から)



6. SA22 柱列跡 P1 断面 (東から)

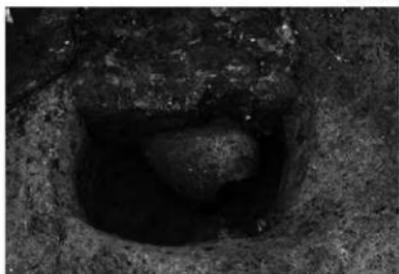


7. SA22 柱列跡 P5 断面 (北から)

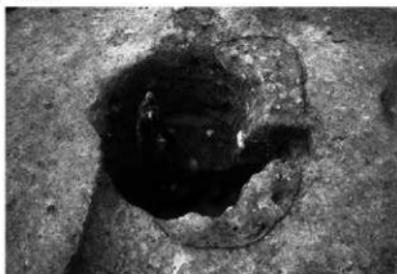
図版 51 III区IV層 (8)



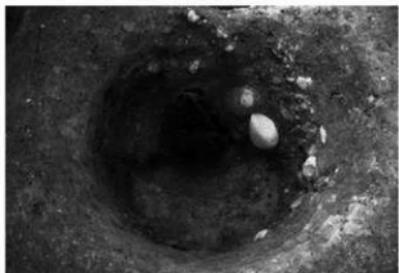
1. SA23 柱列跡全観 (北から)



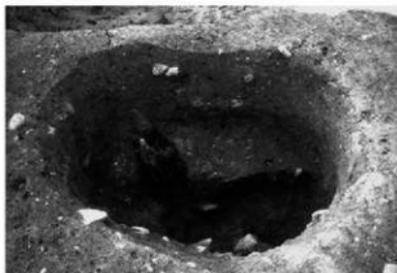
2. SA23 柱列跡 P1 断面 (南から)



3. SA23 柱列跡 P2 断面 (西から)



4. SA23 柱列跡 P3 断面 (東から)

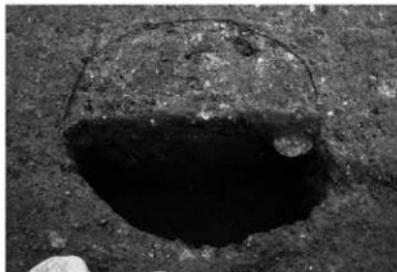


5. SA23 柱列跡 P4 断面 (東から)

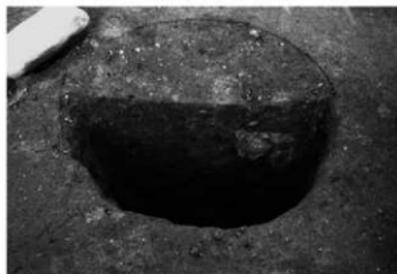
図版 52 III区IV層 (9)



1. SA24 柱列跡全景 (東から)



2. SA24 柱列跡 P1 断面 (南から)



3. SA24 柱列跡 P2 断面 (南から)



4. SA24 柱列跡 P3 断面 (南から)



5. SA24 柱列跡 P6 断面 (東から)



6. SA25 柱列跡全景 (南から)

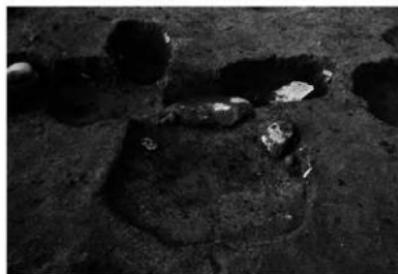
図版 53 III 区 IV 層 (10)



1. SA25 柱列跡 全景 (東から)



2. SA25a 柱列跡 P1 礎板石出土 (西から)



3. SA25a 柱列跡 P2 完掘 (南から)



4. SA25a 柱列跡 P2 完掘 (西から)



5. SA25b 柱列跡 P1 完掘 (北から)



6. SA25b 柱列跡 P3 断面 (北から)



7. SA25b 柱列跡 P5 完掘 (南から)

図版 54 III区IV層 (11)



1. SA25b 柱列跡 P7 完掘 (西から)



2. SA25c 柱列跡 P1 断面 (北から)



3. SA25c 柱列跡 P2 断面 (南から)



4. SA25c 柱列跡 P2 完掘 (北から)



5. SA25c 柱列跡 P3 柱材突出 (東から)



6. SA25c 柱列跡 P4 完掘 (南から)



7. SA25c 柱列跡 P25 断面 (南から)

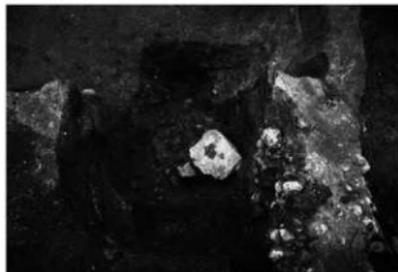


8. SA25c 柱列跡 P6 完掘 (南から)

図版 55 III区IV層 (12)



1. SA26 柱列跡全景 (北から)



2. SA26 柱列跡 P1 完掘 (南から)



3. SA26 柱列跡 P2 完掘 (北から)



4. SA26 柱列跡 P3 断面 (西から)



5. SA26 柱列跡 P4 完掘 (北から)



6. SA26 柱列跡 P5 瓦出土 (北から)



7. SA26 柱列跡 P6 完掘 (南から)



8. SA26 柱列跡 P7 完掘 (南から)

図版 56 III区IV層 (13)



1. SD5・6 溝跡平面 (南西から)



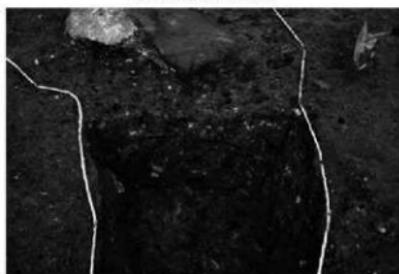
2. SD5 溝跡断面 (南から)



3. SD6 溝跡断面 (西から)



4. SD9 溝跡平面 (西から)



5. SD9 溝跡断面 (西から)



6. SD9 溝跡断面 (南から)



7. SD12 溝跡平面 (南から)



8. SD12 溝跡断面 (南から)

図版 57 III 区IV層 (14)



1. SD12 溝跡掘り方完備 (南から)



2. SD3・4・15 溝跡全景 (東から)



3. SD15 溝跡石組検出 (西から)

図版 58 III区IV層 (15)



1. SD15 清砂完掘 (東から)



2. SD15 清砂断面 (東から)



3. SD22・23 清砂全景 (東から)



4. SD22 清砂完掘 (東から)

図版 59 III区IV層 (16)



1. SD22 溝跡断面 (北から)



2. SD22 溝跡断面 (北から)



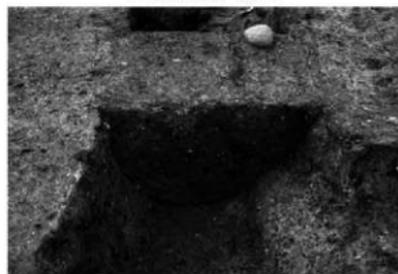
3. SD23 溝跡検出 (西から)



4. D523 溝跡断面 (東から)



5. SD23 溝跡断面 (北から)



6. SD23 溝跡断面 (南から)



7. SD31 溝跡全貌 (南から)

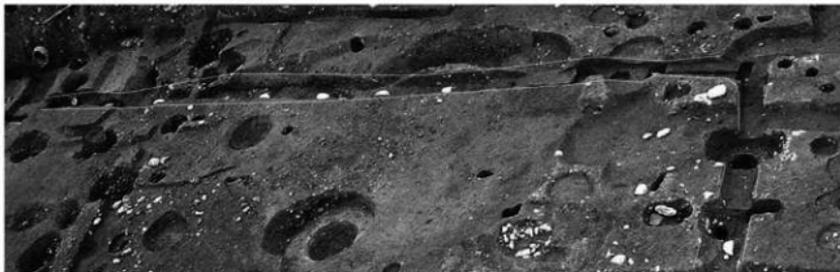
図版 60 III区IV層 (17)



1. SD31 溝跡断面 (北東から)



2. SD32 溝跡断面 (西から)



3. SD32 溝跡全景 (東から)



4. SD32 溝跡断面 (東から)



5. SD32 溝跡断面 (西から)



6. SD38 溝跡断面 (北から)



7. SD38 溝跡断面 (南から)

## 図版 61 III区IV層 (18)



1. SD41・47 溝跡完掘 (北から)



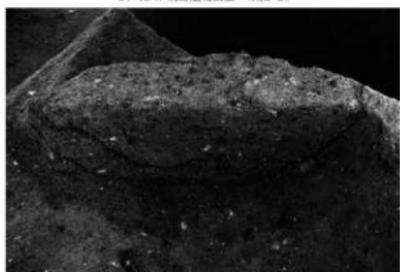
2. SD47 溝跡断面 (東から)



3. SD47 溝跡遺物出土 (南から)



4. SD61 溝跡断面 (南東から)



5. SD61 溝跡断面 (北から)



6. SD61 溝跡断面 (北から)



7. SE1 井戸跡机検出 (東から)



8. SE1 井戸跡断面 (南から)

図版 62 III区IV層 (19)



1. SE1 井戸跡石楯検出 (東から)



2. SE1 井戸跡石楯検出 (東から)



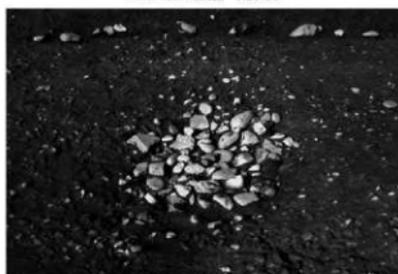
3. SE1 井戸跡断面 (南から)



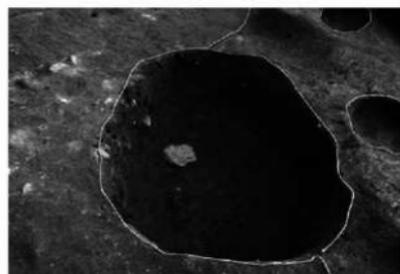
4. SE5 井戸跡断面 (北から)



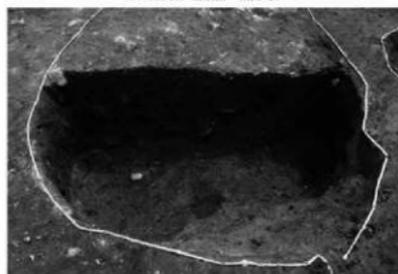
5. SE5 井戸跡断面 (西から)



6. SE5 井戸跡検出 (南から)

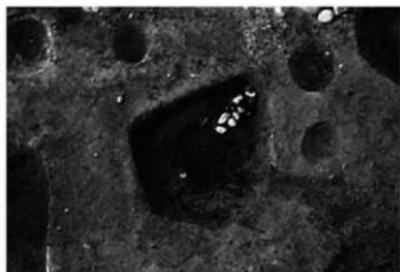


7. SK1 土坑完掘 (北から)



8. SK1 土坑断面 (北から)

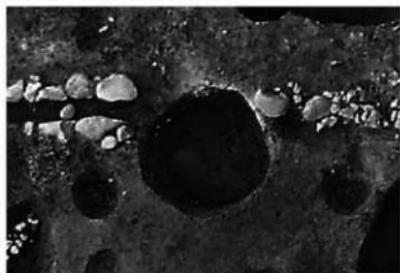
## 図版 63 III区IV層 (20)



1. SK6 土坑完備 (南から)



2. SK6 土坑断面 (南から)



3. SK7 土坑完備 (南から)



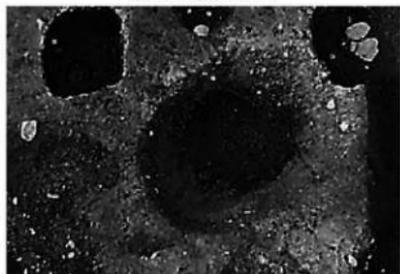
4. SK7 土坑断面 (南から)



5. SK8 土坑完備 (西から)



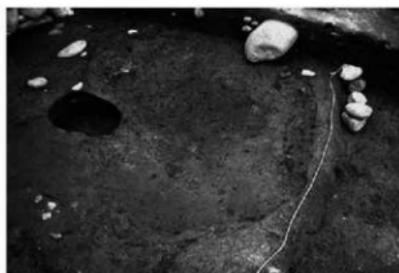
6. SK8 土坑断面 (西から)



7. SK9 土坑完備 (南から)



8. SK9 土坑断面 (西から)



1. SK10 土坑完観 (東から)



2. SK10 土坑断面 (東から)



3. SK16 土坑完観 (南西から)



4. SK16 土坑断面 (南から)



5. SK17 土坑完観 (南から)



6. SK17 土坑断面 (南から)

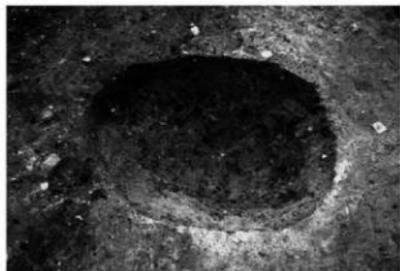


7. SK19 土坑完観 (南から)

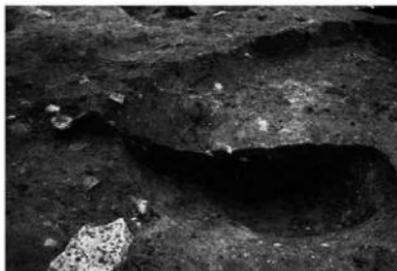


8. SK19 土坑断面 (東から)

図版 65 III 区IV層 (22)



1. SK25土坑完照 (東から)



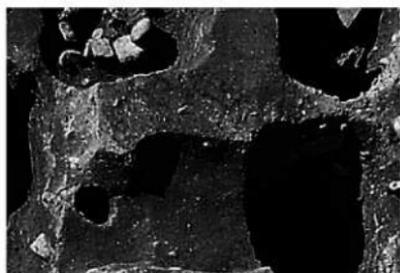
2. SK25土坑断面 (東から)



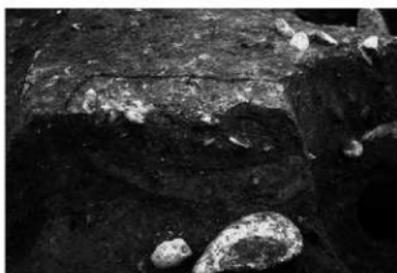
3. SK27土坑完照 (南から)



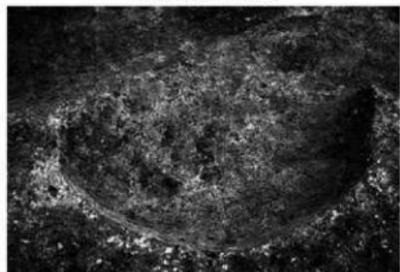
4. SK27土坑断面 (南から)



5. SK28土坑完照 (東から)



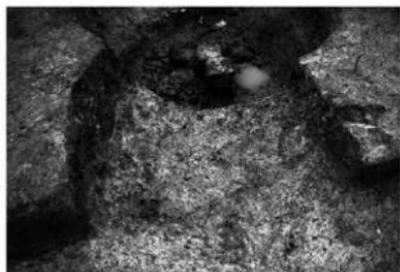
6. SK28土坑断面 (東から)



7. SK31土坑完照 (北から)



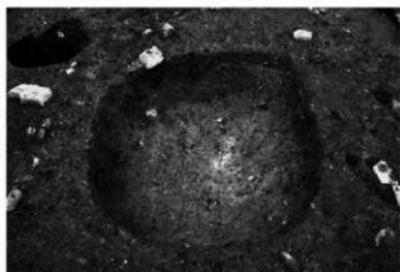
8. SK31土坑断面 (北から)



1. SK32 土坑完照 (南から)



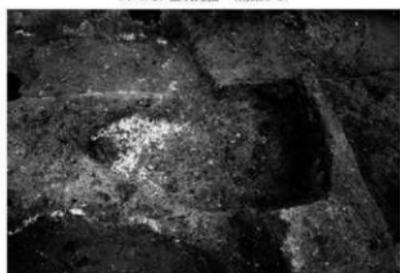
2. SK32 土坑断面 (南から)



3. SK37 土坑完照 (南東から)



4. SK37 土坑断面 (南東から)



5. SK47 土坑完照 (南から)



6. SK47 土坑断面 (西から)

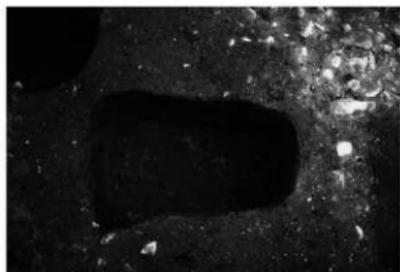


7. SK59 土坑完照 (西から)



8. SK59 土坑断面 (西から)

## 図版 67 III 区IV層 (24)



1. SK69土坑完観 (南から)



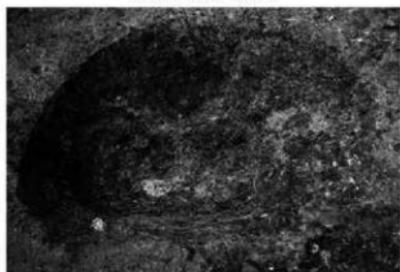
2. SK69土坑断面 (南から)



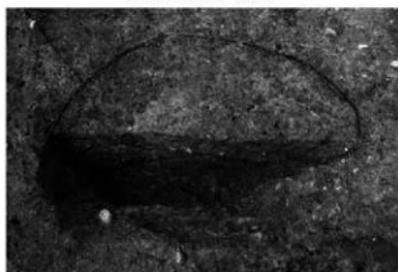
3. SK70土坑完観 (東から)



4. SK70土坑断面 (東から)



5. SK71土坑完観 (南から)



6. SK71土坑断面 (南から)



7. SK72土坑完観 (南から)



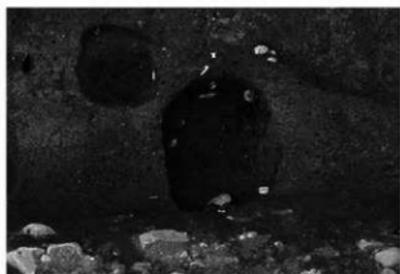
8. SK72土坑断面 (東から)



1. SK73 土坑完照 (東から)



2. SK73 土坑断面 (東から)



3. SK74 土坑完照 (南から)



4. SK74 土坑断面 (東から)



5. SK78 土坑完照 (北から)



6. SK81 土坑完照 (東から)

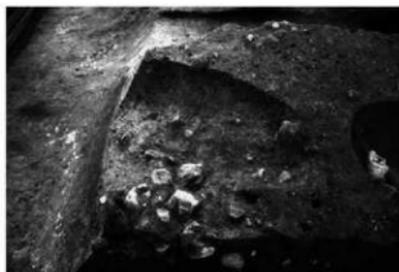


7. SK81 土坑断面 (南から)



8. SK82 土坑断面 (北から)

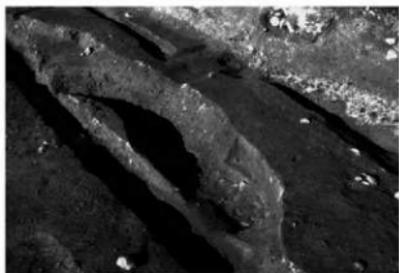
## 図版 69 III区IV層 (26)



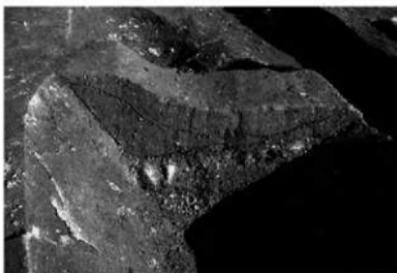
1. SK84土坑完面 (北から)



2. SK84土坑断面 (北から)



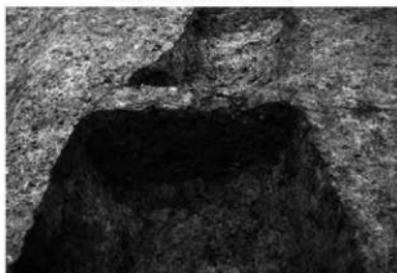
3. SX8性格不明遺構完面 (東から)



4. SX8性格不明遺構断面 (西から)



5. SX20性格不明遺構完面 (東から)



6. SX20性格不明遺構断面 (東から)



7. 5号池断面 (南から)

図版 70 III区IV層 (27)



1. 5号池全景 (南西から)



2. 5号池完掘 (南西から)



3. 5号池構築粘土断面 (北から)



4. 5号池遺物出土 (西から)



5. 5号池遺物出土 (西から)

図版 71 III区IV層 (28)



1. SA8 柱列跡 P1断面 (南から)



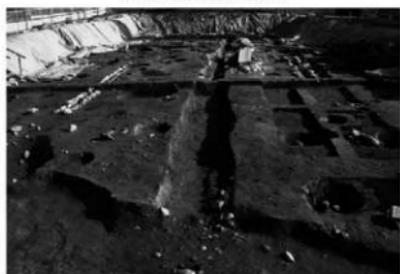
2. SA8 柱列跡 P2断面 (東から)



3. SD3 溝跡石蓋検出 (東から)



4. SD3 溝跡石組検出 (東から)



5. SD3 溝跡完備 (西から)



6. SD3 溝跡断面 (東から)



7. SD3 溝跡断面 (西から)



8. SD3 溝跡断面 (東から)

図版 72 III区III層 (1)



1. SD4溝跡石組検出 (西から)



2. SD4溝跡断面 (東から)



3. SD4溝跡断面 (南から)



4. SD4溝跡・6号池全観 (南から)

図版 73 III区III層 (2)



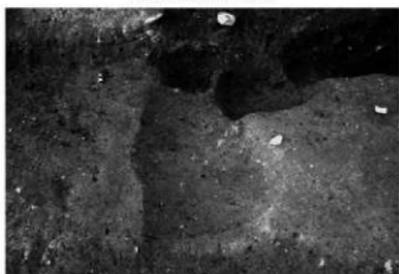
1. SD10 溝跡完観 (東から)



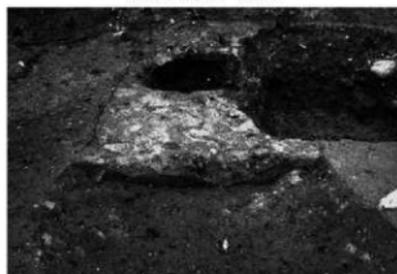
2. SD10 溝跡断面 (東から)



3. SD10 溝跡断面 (東から)



4. SD30 溝跡完観 (南から)



5. SD30 溝跡断面 (南から)



6. SD14 溝跡断面 (南から)



7. SD14 溝跡断面 (北から)

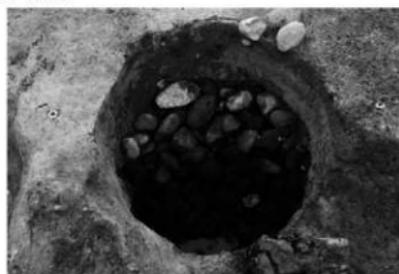
図版 74 III区III層 (3)



1. SD14溝跡石組検出 (西から)



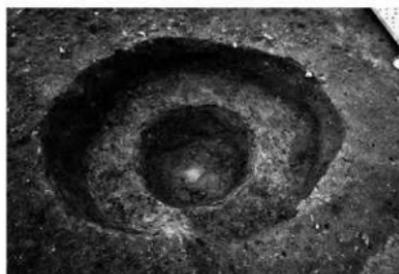
2. SE2井戸跡完掘 (南から)



3. SE2井戸跡断面 (東から)



4. SE2井戸跡破検出 (東から)



5. SE3井戸跡完掘 (南から)

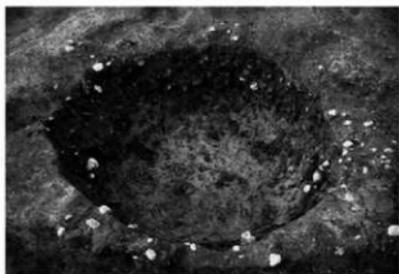
図版 75 III区III層 (4)



1. SE3 井戸跡断面 (南から)



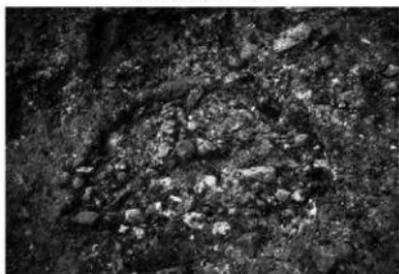
2. SE3 井戸跡石層検出 (南から)



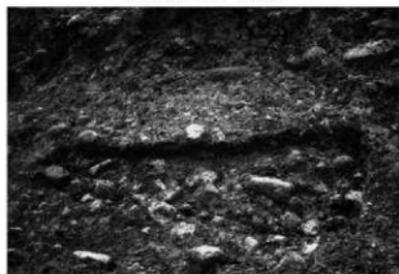
3. SE4 井戸跡完照 (南から)



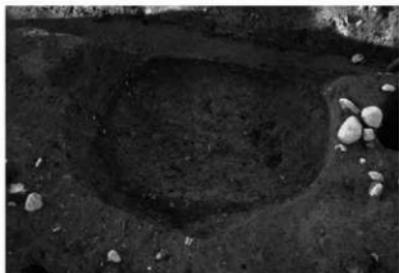
4. SE4 井戸跡断面 (南から)



5. SK33 土坑完照 (東から)



6. SK33 土坑断面 (東から)

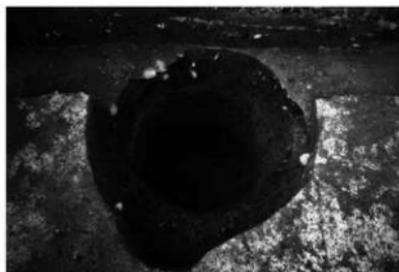


7. SK44 土坑完照 (東から)



8. SK44 土坑断面 (東から)

図版 76 III区III層 (5)



1. SK63 土坑完観 (南から)



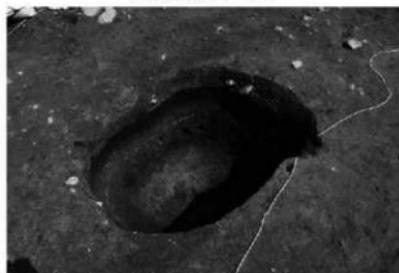
2. SK63 土坑断面 (西から)



3. SK68 土坑完観 (東から)



4. SK68 土坑断面 (南から)



5. P2 完観 (東から)



6. P2 断面 (南から)

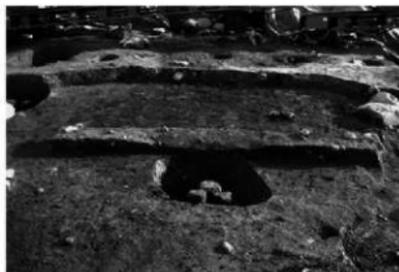


7. SK3 性格不明遺構 (硬化面) 検出 (西から)



8. SK3 性格不明遺構完観 (東から)

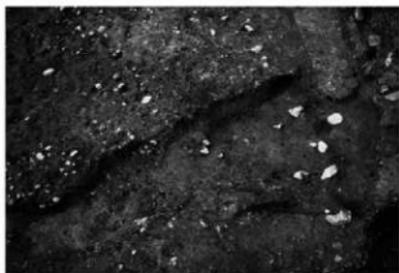
図版 77 III区III層 (6)



1. SX3 性格不明遺構断面 (北から)



2. SX3 性格不明遺構断面 (東から)



3. SX6 性格不明遺構断面 (南から)



4. SX6 性格不明遺構断面 (東から)



5. 4号木桶穴面 (南西から)



6. 4号木桶断面 (東から)



7. 4号木桶調査区南壁断面 (北から)



8. 4号木桶横出 (北から)

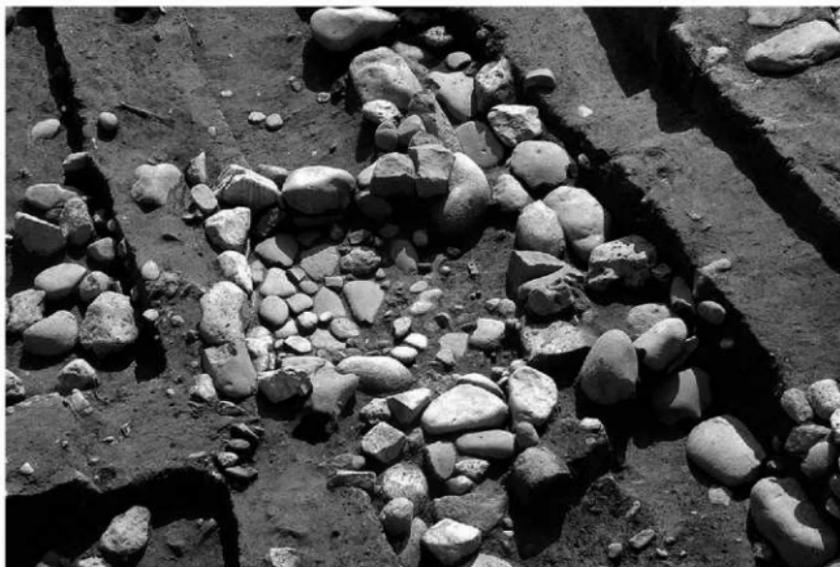
図版 78 III区III層 (7)



1. 4号木構 柵横出 (北から)



2. 4号木構 柵断面 (北東から)



3. 2号柵状遺構横出 (北から)



4. 2号柵状遺構断面 (西から)



5. 2号柵状遺構廻り方完備 (北から)

図版 79 III区III層 (8)



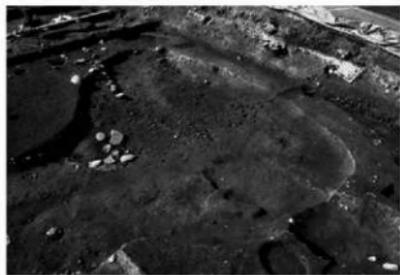
1. 1号池全景 (南東から)



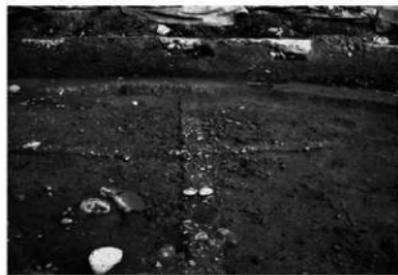
2. 1号池遺物出土 (西から)



3. 1号池断面 (北から)



4. 2号池完掘 (南東から)



5. 2号池断面 (南から)

図版 80 III区III層 (9)



1. 2号池玉石検出（西から）



2. 4号池・2号木構全景（北から）

図版 81 III区III層 (10)



1. 4号池断面 (西から)



2. 4号池玉石検出 (東から)



3. 4号池遺物出土 (埴型土製品) (北から)



4. 4号池遺物出土 (犬型土製品) (東から)



5. 4号池遺物出土 (舟形木製品) (北から)



6. 2号木桶・枡検出 (南から)



7. 2号木桶断面 (西から)



8. 2号木桶 枡断面 (東から)



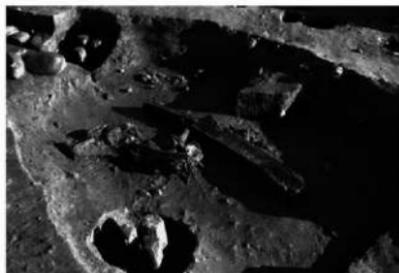
1. 6号池・3号木桶全量 (北から)



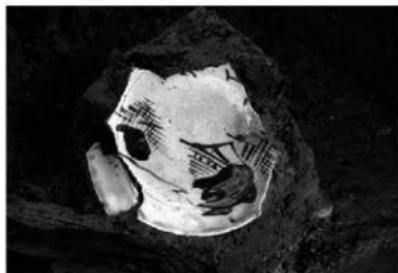
2. 6号池断面 (東から)



3. 6号池断面 (東から)



4. 6号池遺物出土 (北西から)



5. 6号池遺物出土 (北から)

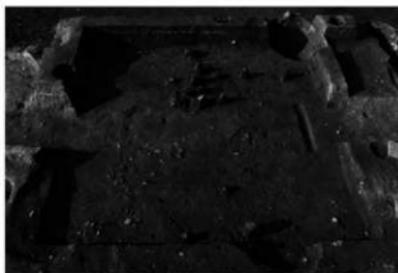
図版 83 Ⅲ区Ⅲ層 (12)



1. 3号木構検出 (北から)



2. 3号木構断面 (南から)



3. 縄文土器出土 (東から)



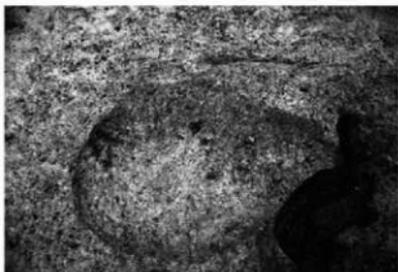
4. 縄文土器出土 (南から)



5. SK89土坑完照 (西から)



6. SK89土坑断面 (西から)



7. SX30性格不明遺構完照 (東から)



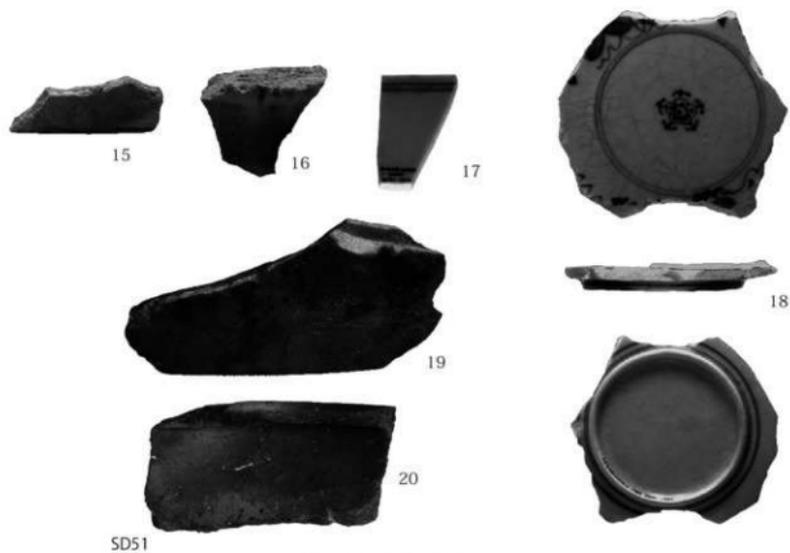
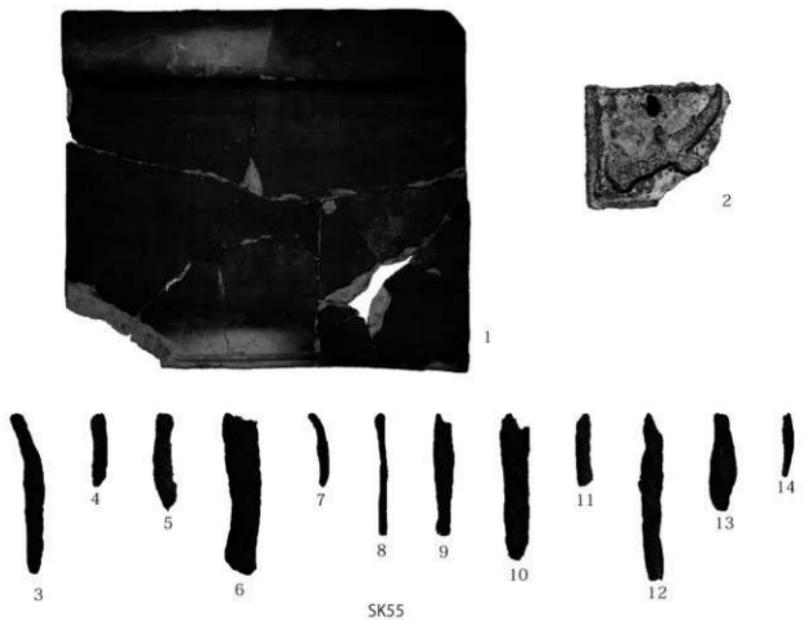
8. SX30性格不明遺構断面 (東から)

図版 84 III区III層 (13)・III区VI層

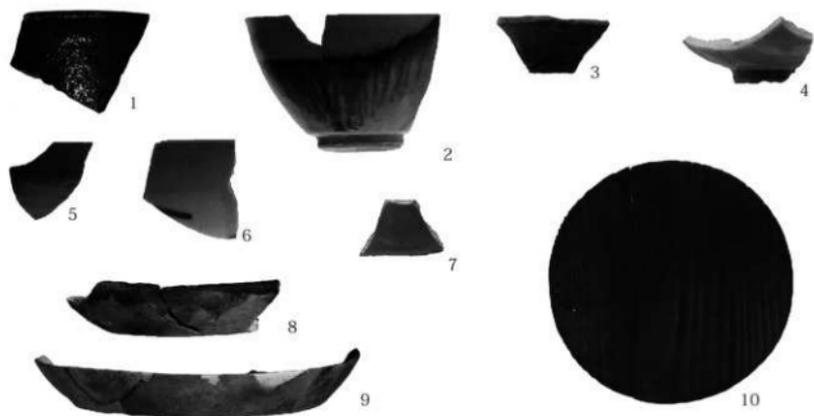


SK55

图版 85 I 区出土遗物



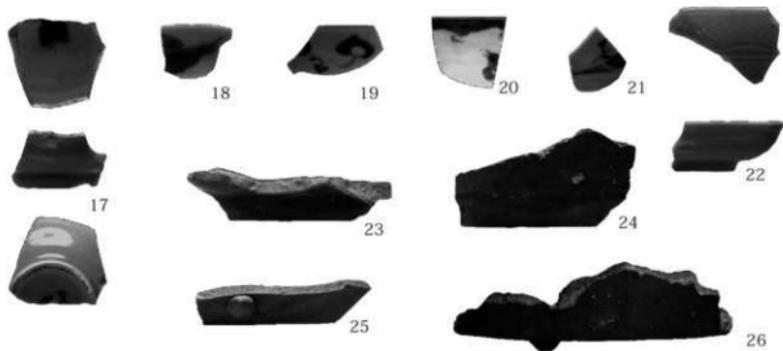
図版 86 I 区出土遺物



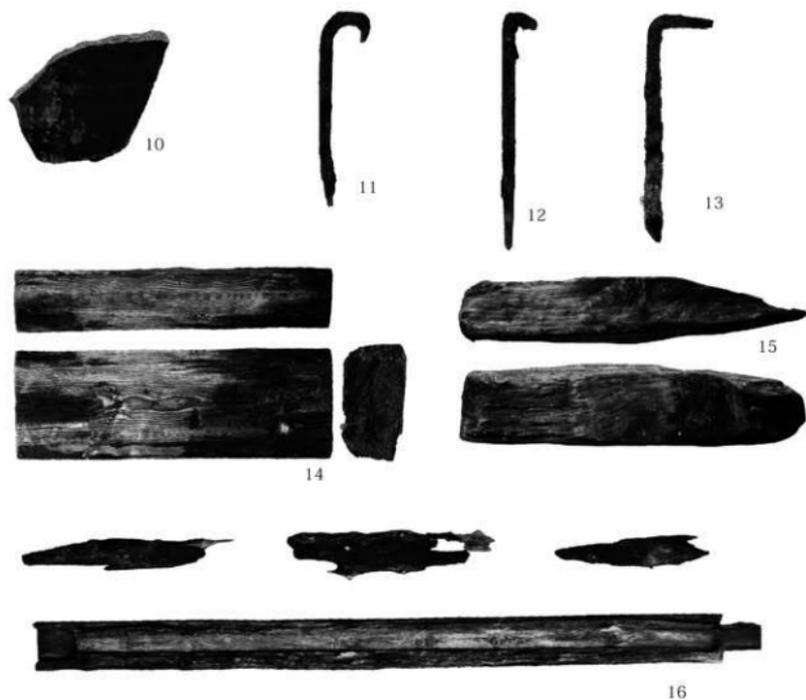
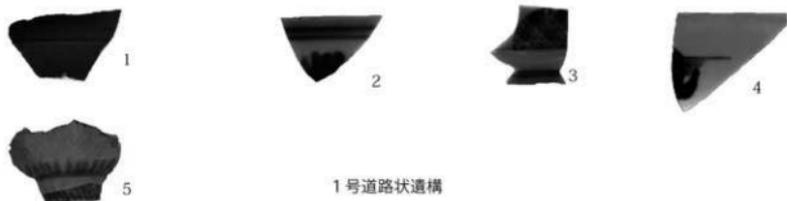
SE6

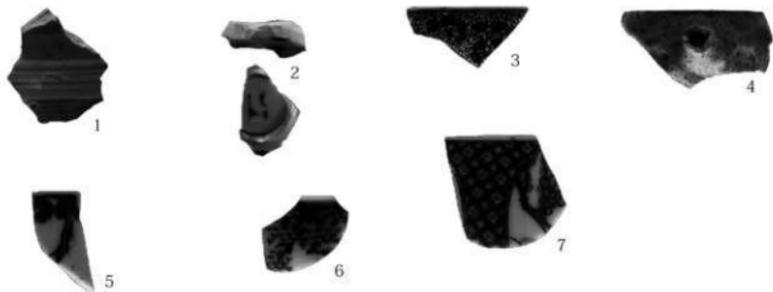


SD43



SD29





2号石埴



1号埋甕



13



14



15



16



17

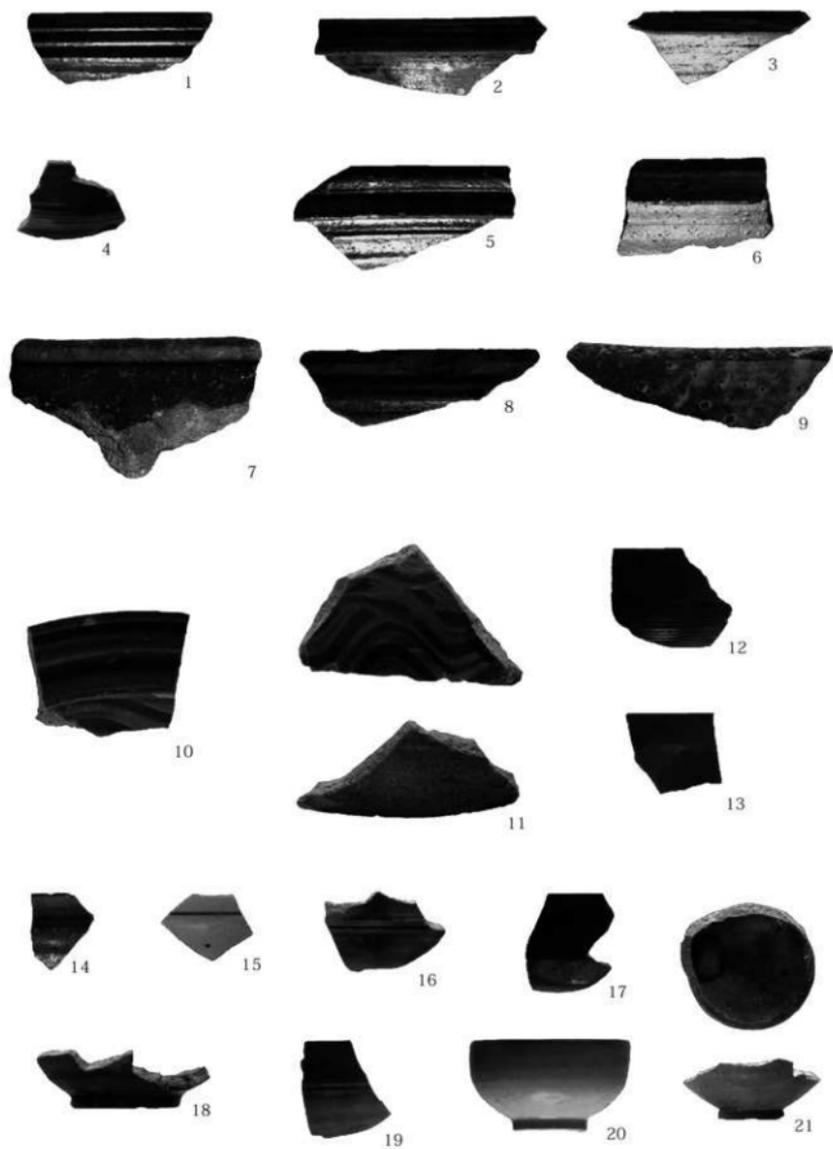
IV層

图版 89 | 区出土遺物



IV層

図版 90 I区出土遺物



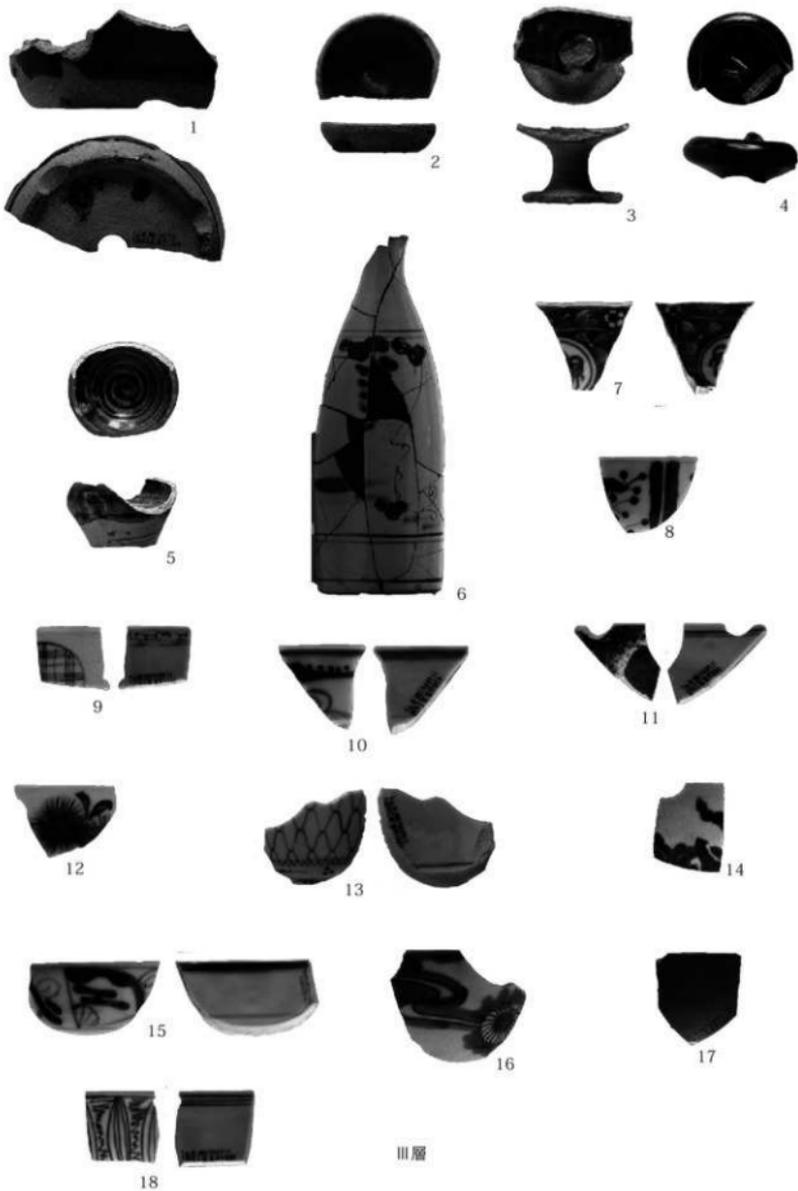
III層

图版 91 I 区出土遗物

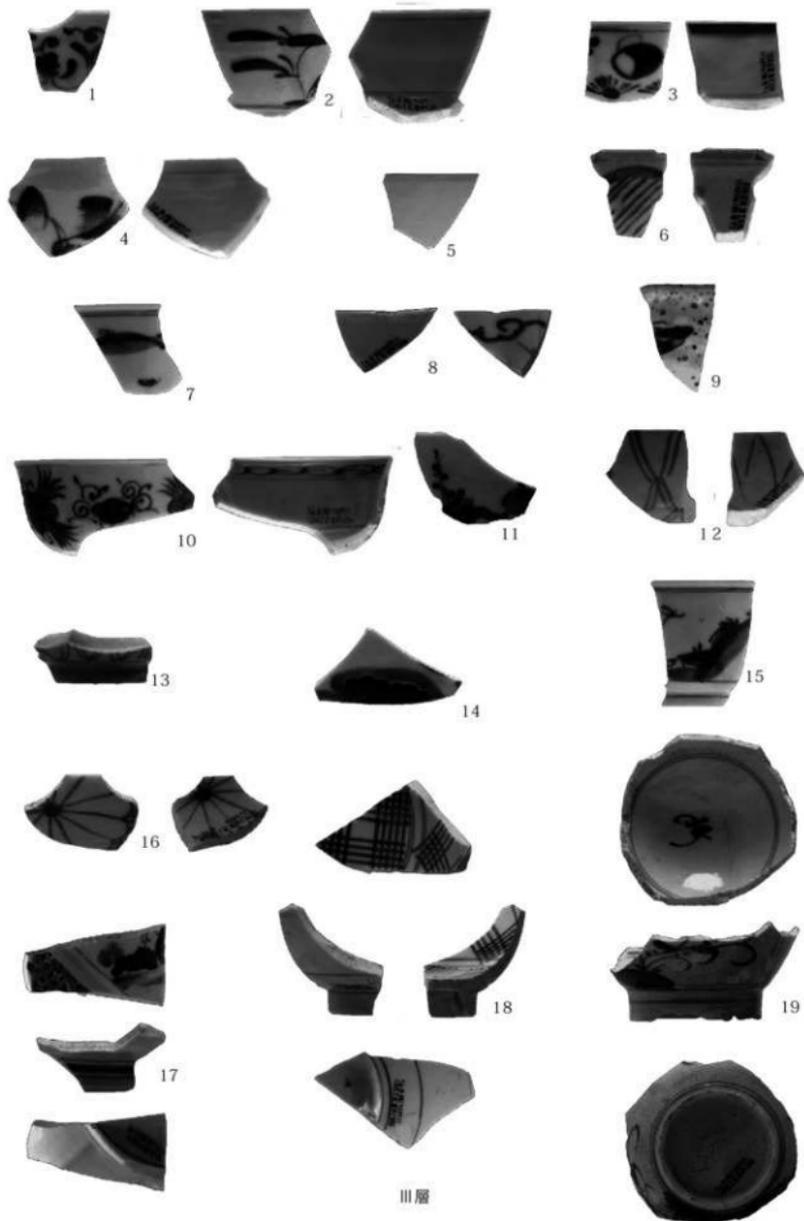


III層

図版 92 I区出土遺物



图版 93 I 区出土遗物



図版 94 I 区出土遺物



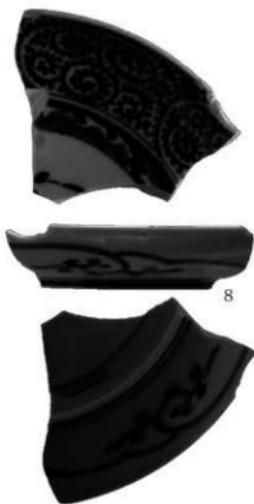
III層

图版 95 I 区出土遗物



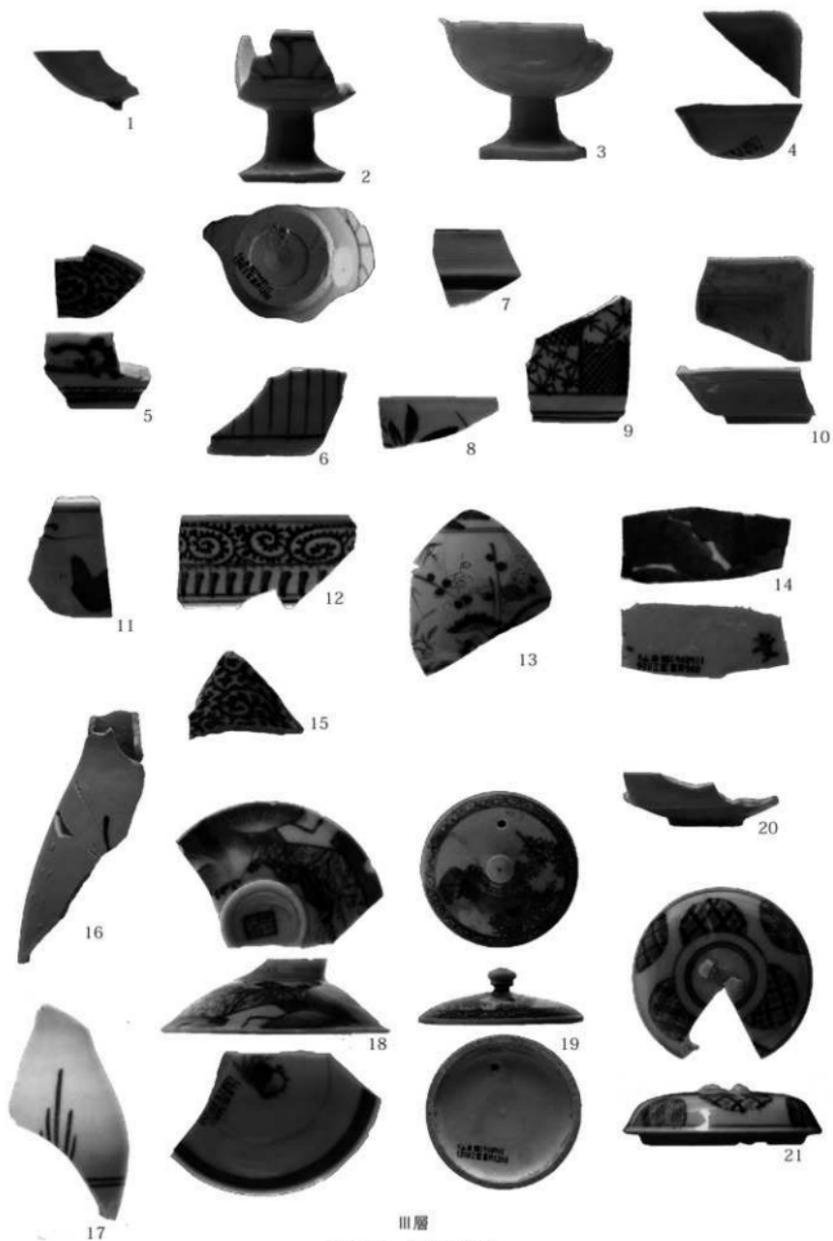
Ⅲ層

図版 96 I 区出土遺物



III层

图版 97 I区出土遗物



Ⅲ層

図版 98 I 区出土遺物



1



4



2



3



5



6



7



8



9



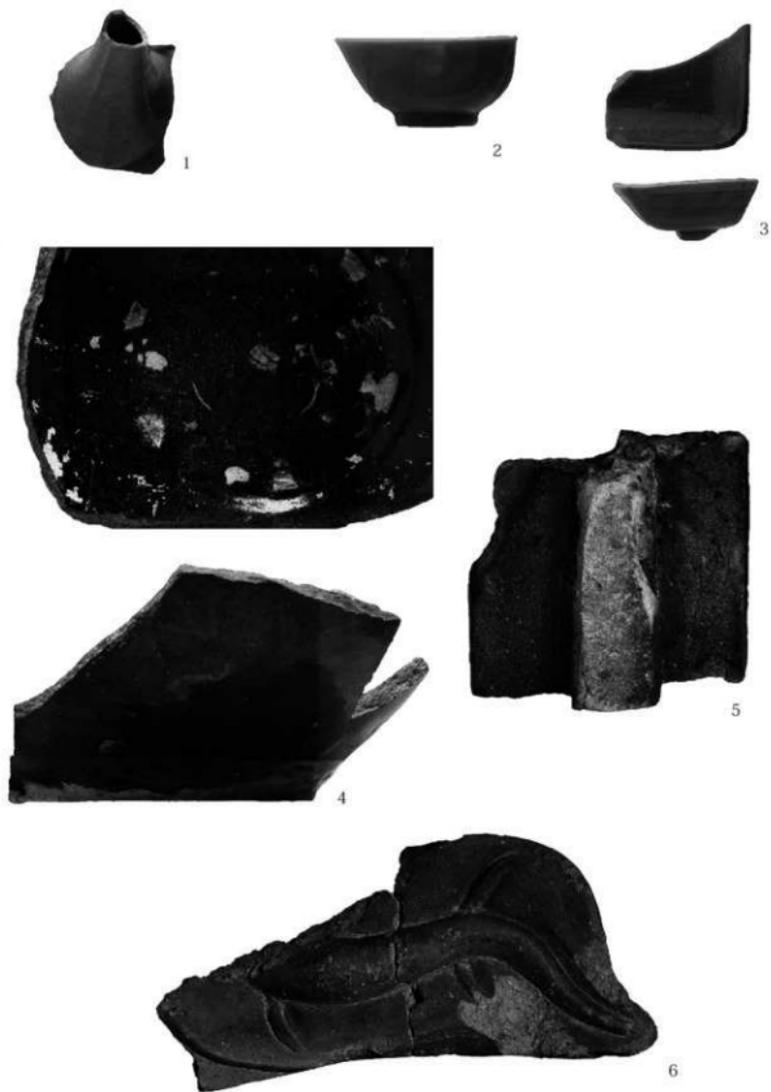
11



10

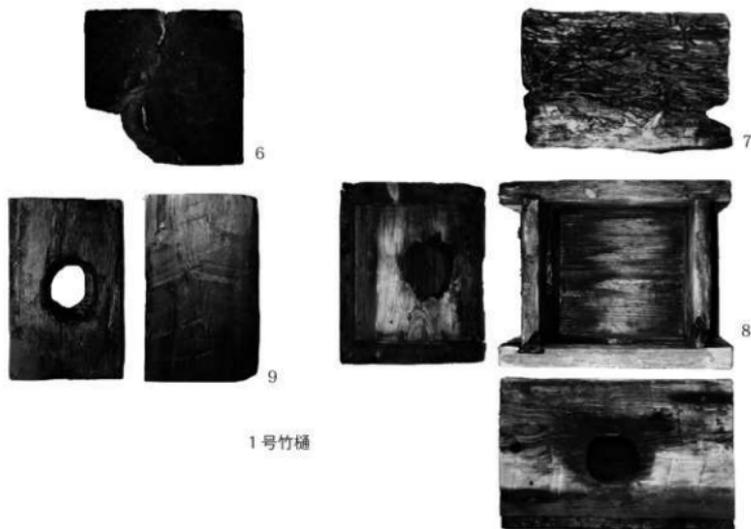
Ⅰ层·Ⅱ层·搅乱

图版 99 Ⅰ区出土遗物



1層・攪乱

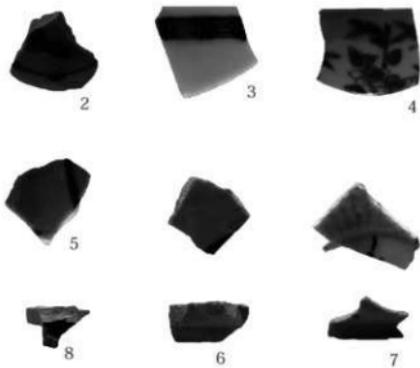
図版 100 Ⅰ区出土遺物



图版 101 II区出土遗物



SX9



14

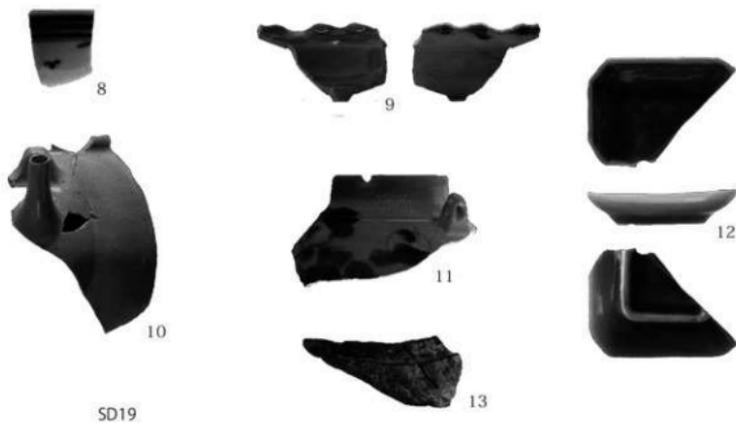
SA1



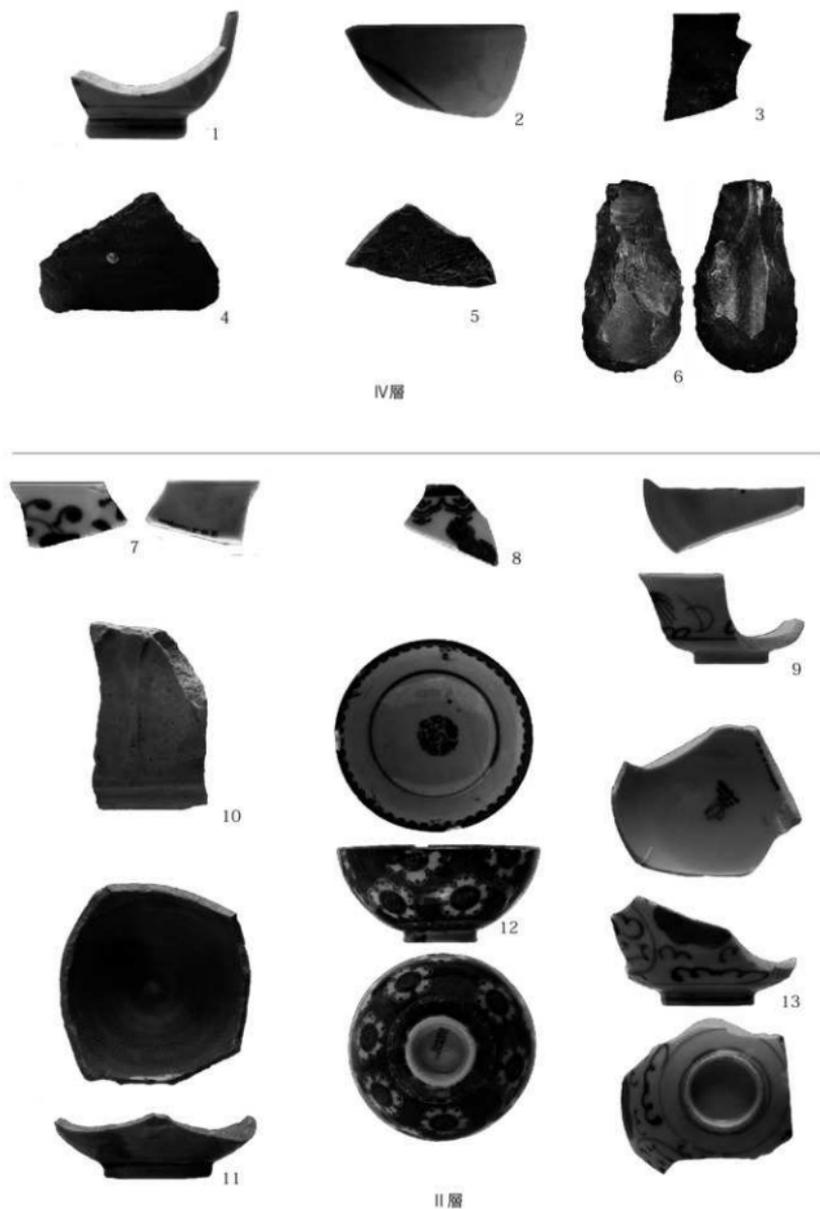
1号枡状遺構



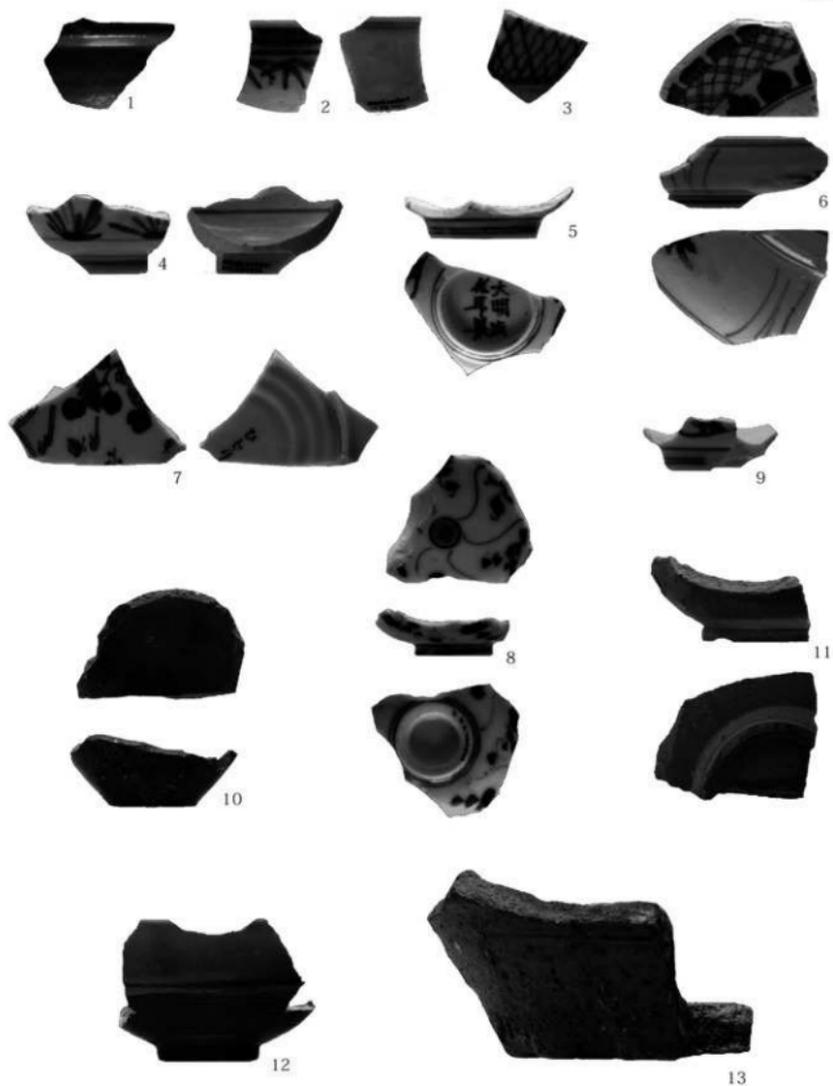
15



1号石垣



図版 104 II区出土遺物



I 層

图版 105 II 区出土遺物



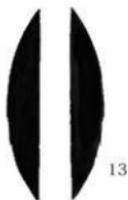
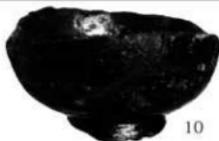
II区I層



SA16



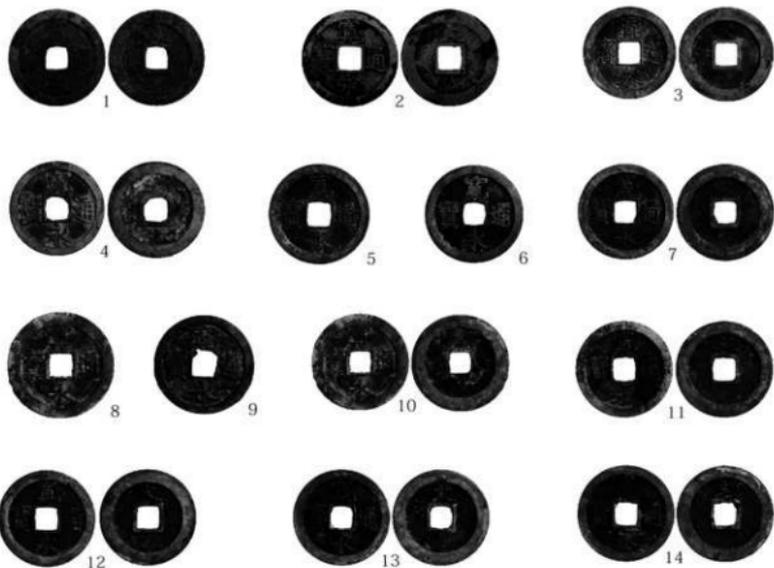
SD24



SX14



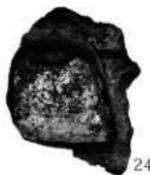
図版 106 II区・III区出土遺物



SX14

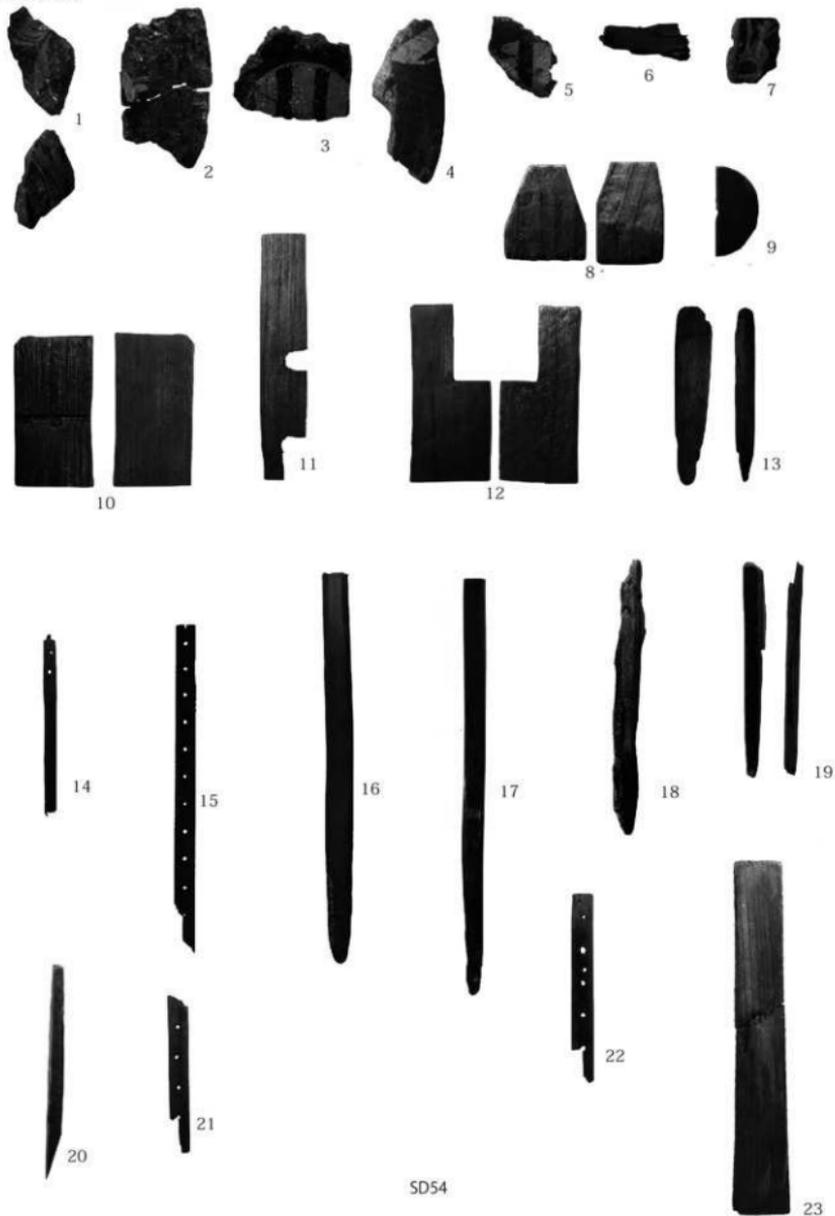


SD49



SD54

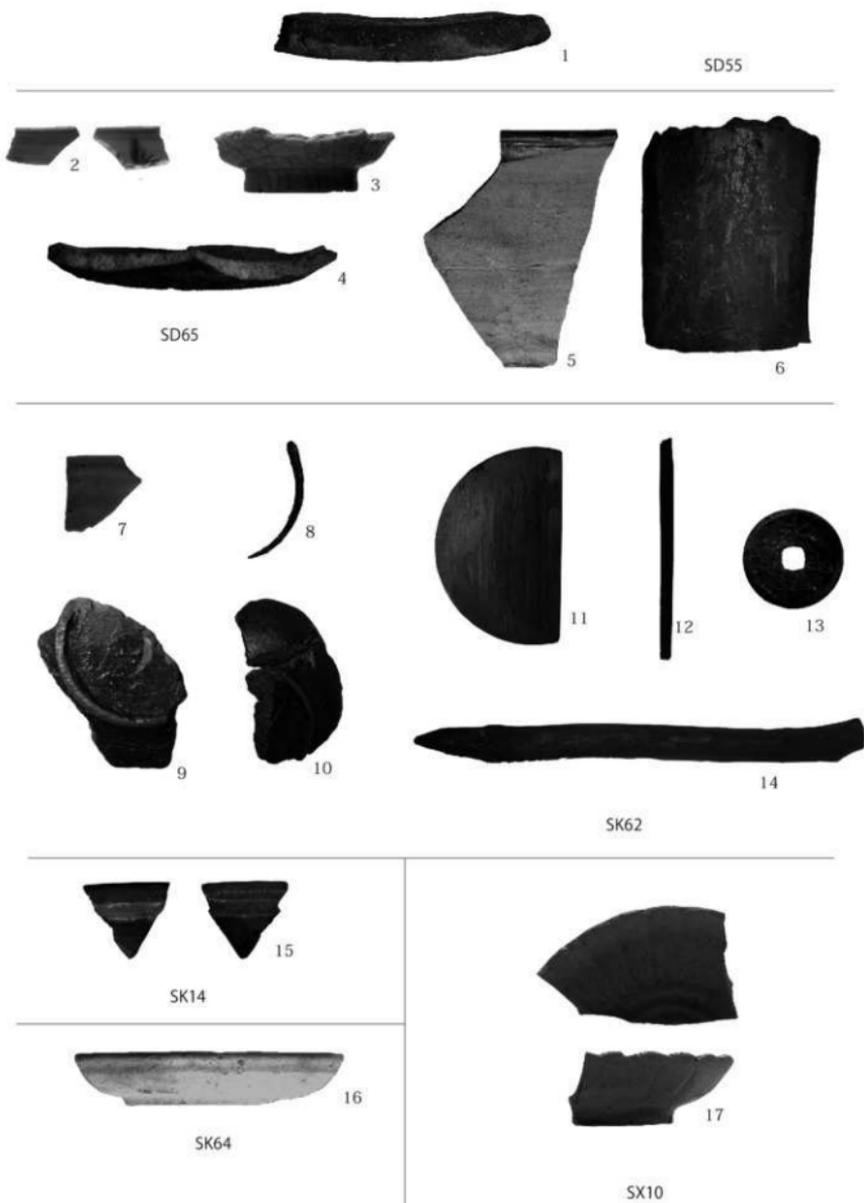
图版 107 Ⅲ区出土遗物



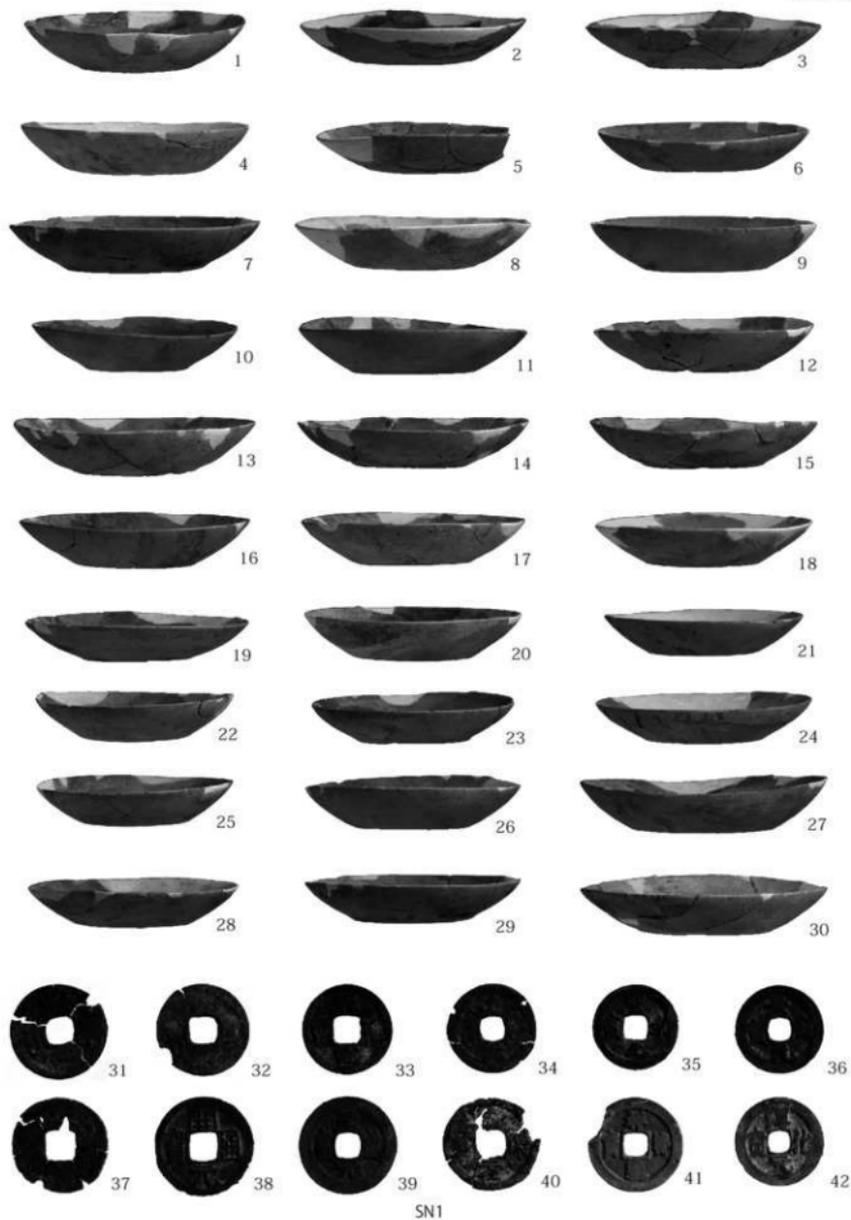


SD54

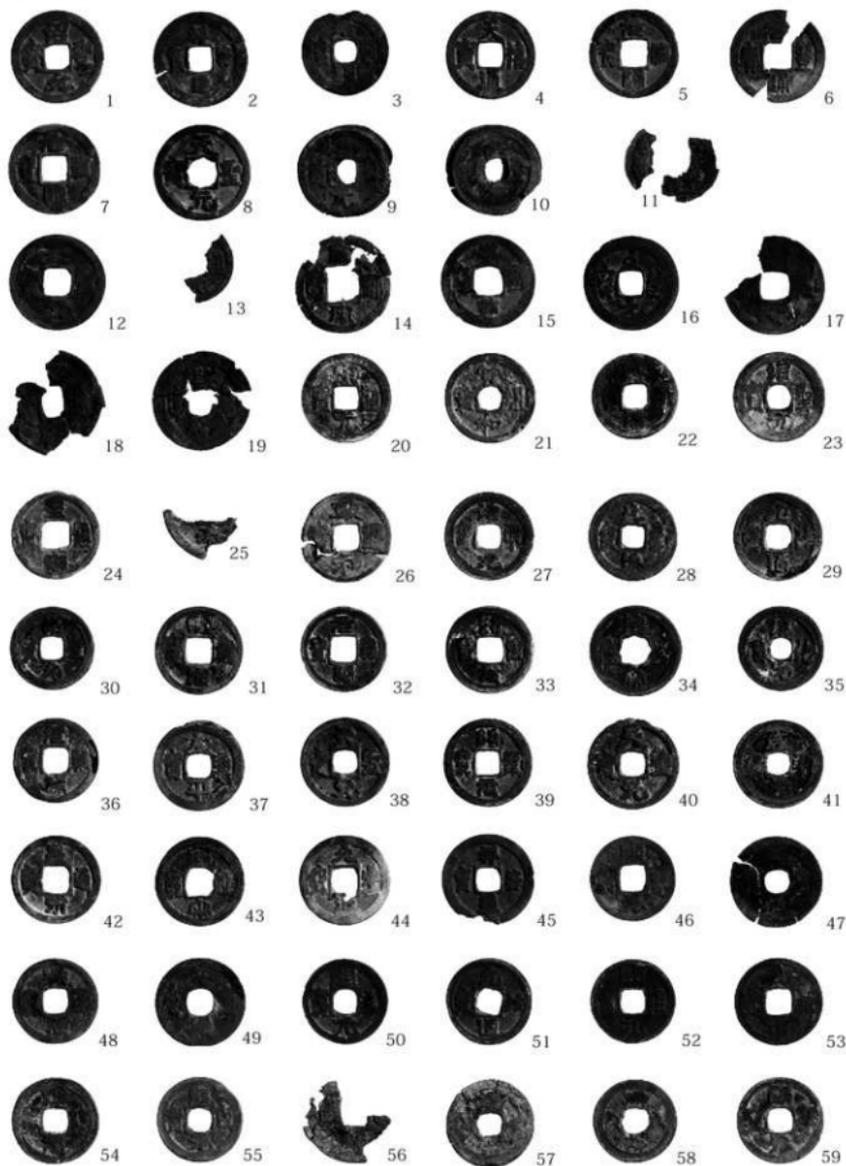
图版 109 Ⅲ区出土遗物



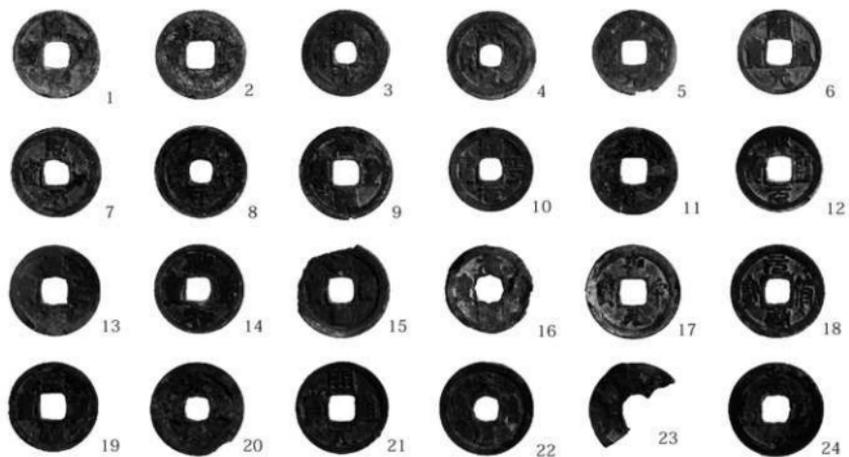
図版 110 III区出土遺物



图版 111 Ⅲ区出土遗物



SN1



SN1



SD12

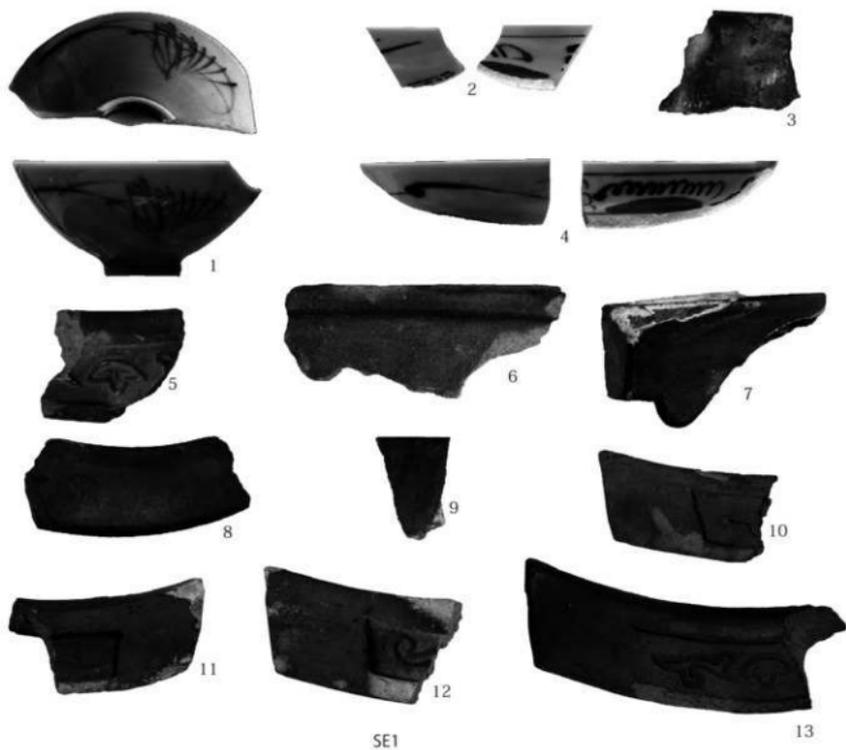


SD23



SD32





SE5



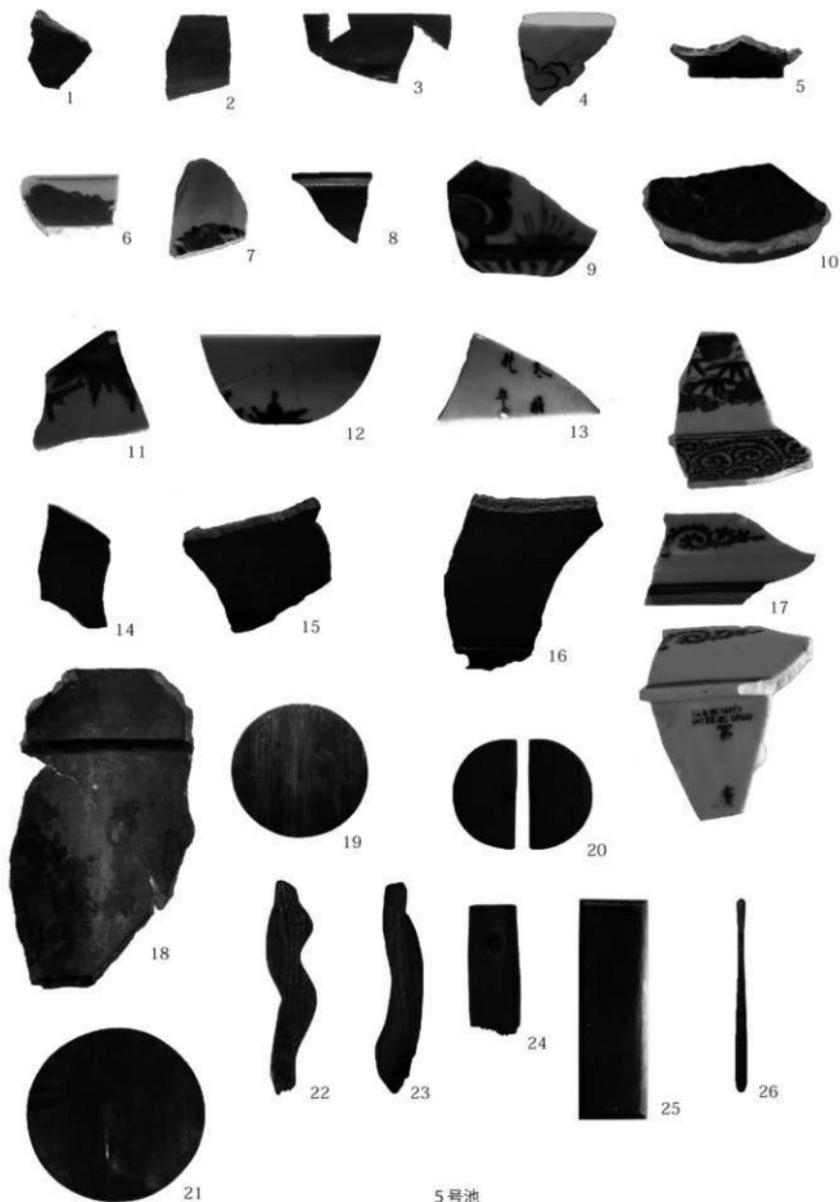
SK19



SK47

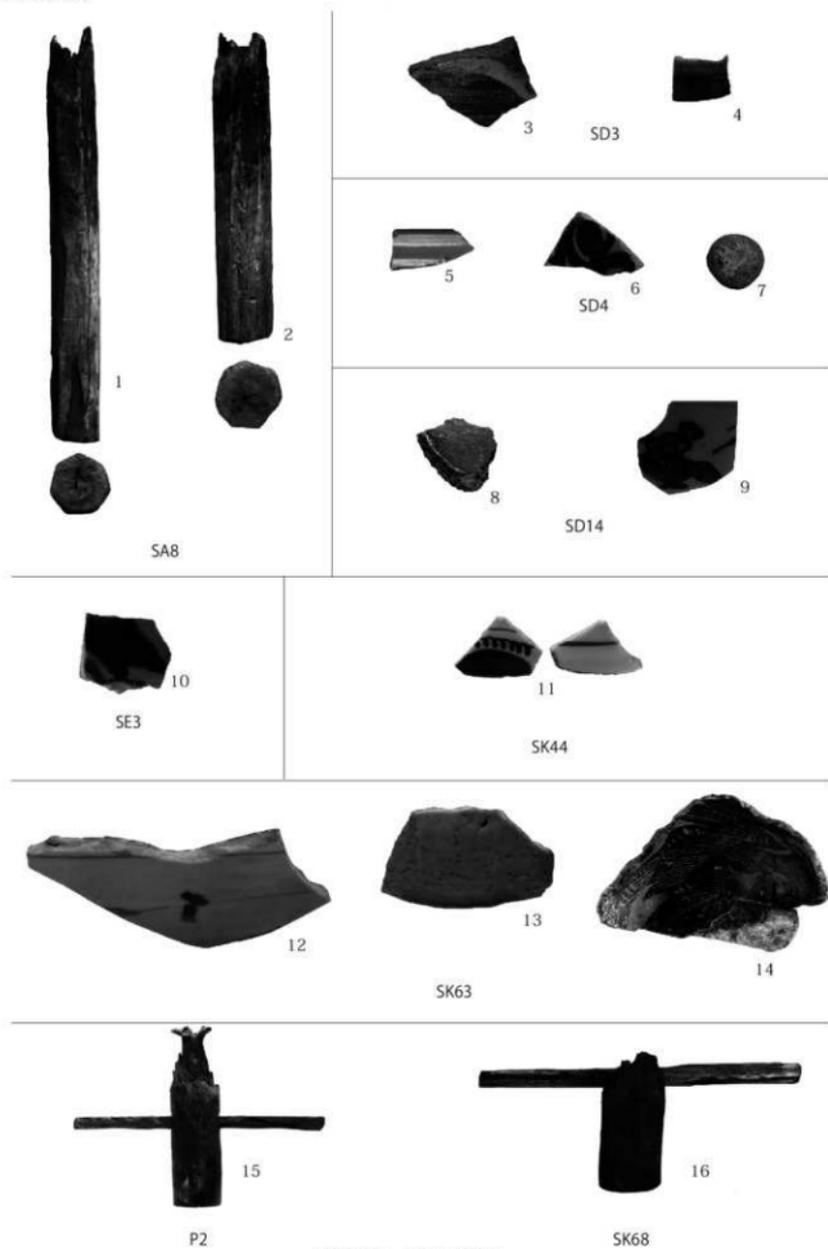
SK78

図版 114 III区出土遺物



5号池

图版 115 III区出土遗物



図版 116 Ⅲ区出土遺物



1



2

SX3



3



4

SX6



5



6

4号木樋



7



8



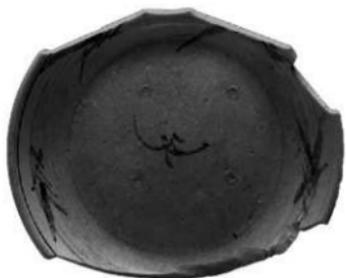
9



2号栞状遺構



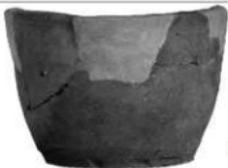
10



11



12



13



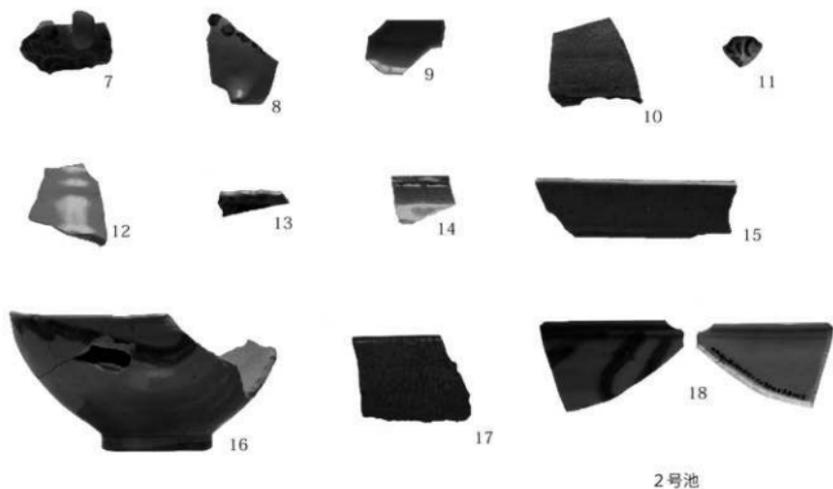
14



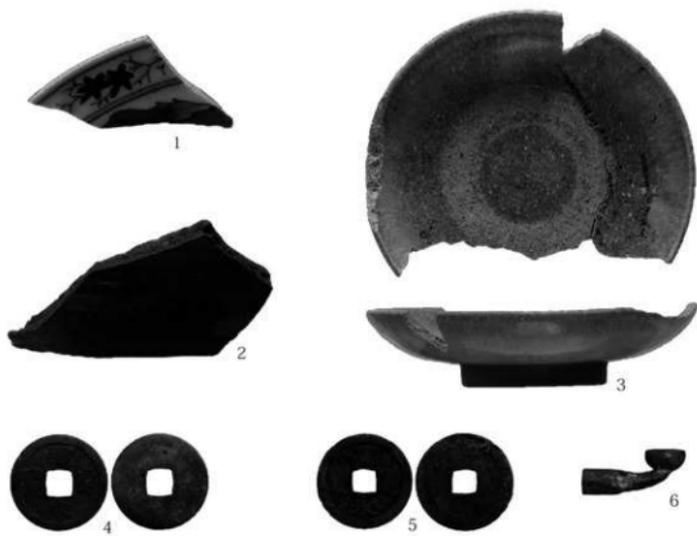
15

1号池

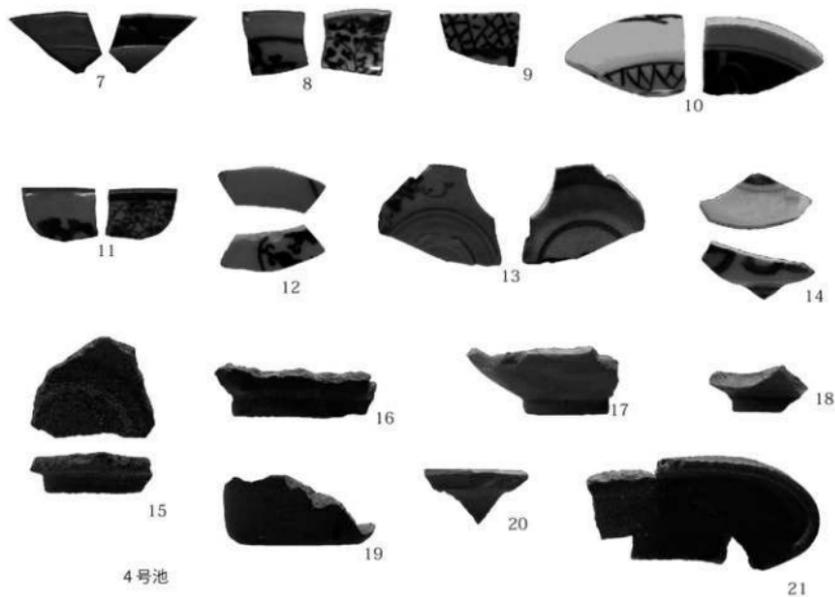
图版 117 III区出土遺物



図版 118 Ⅲ区出土遺物

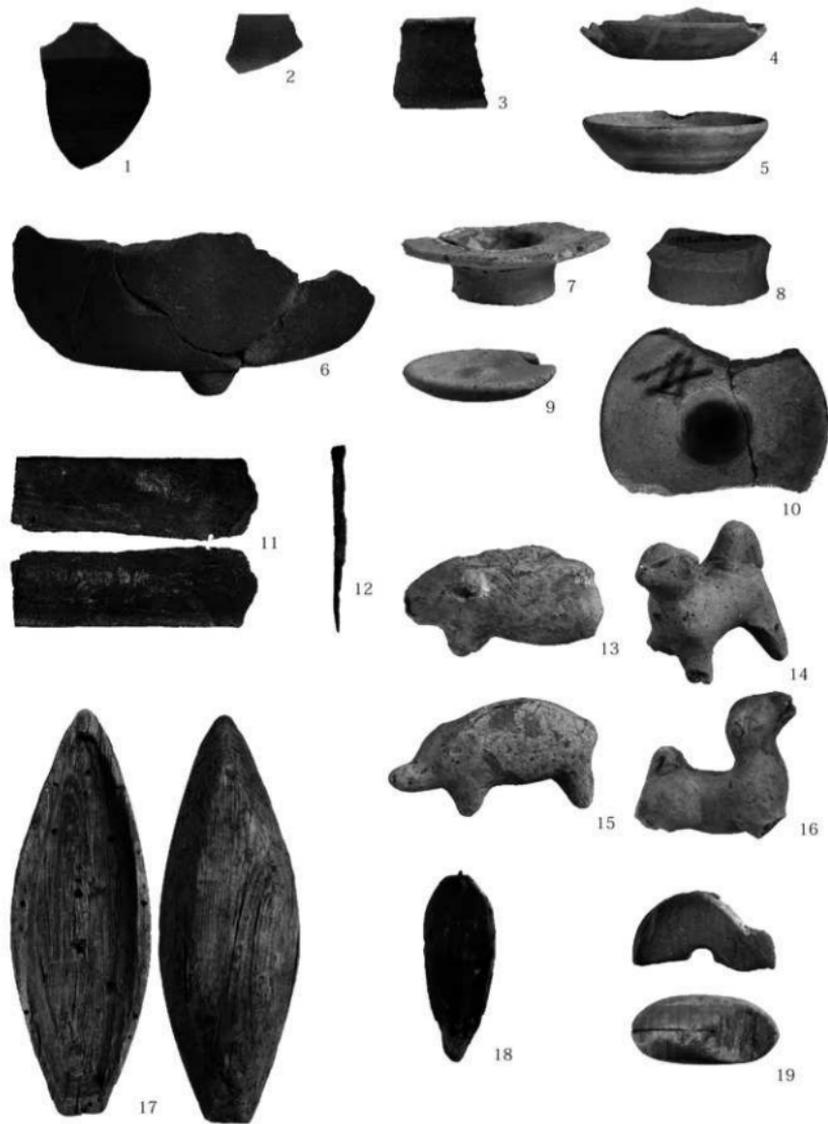


2号池

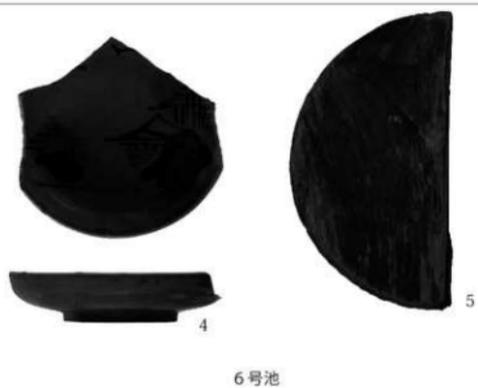


4号池

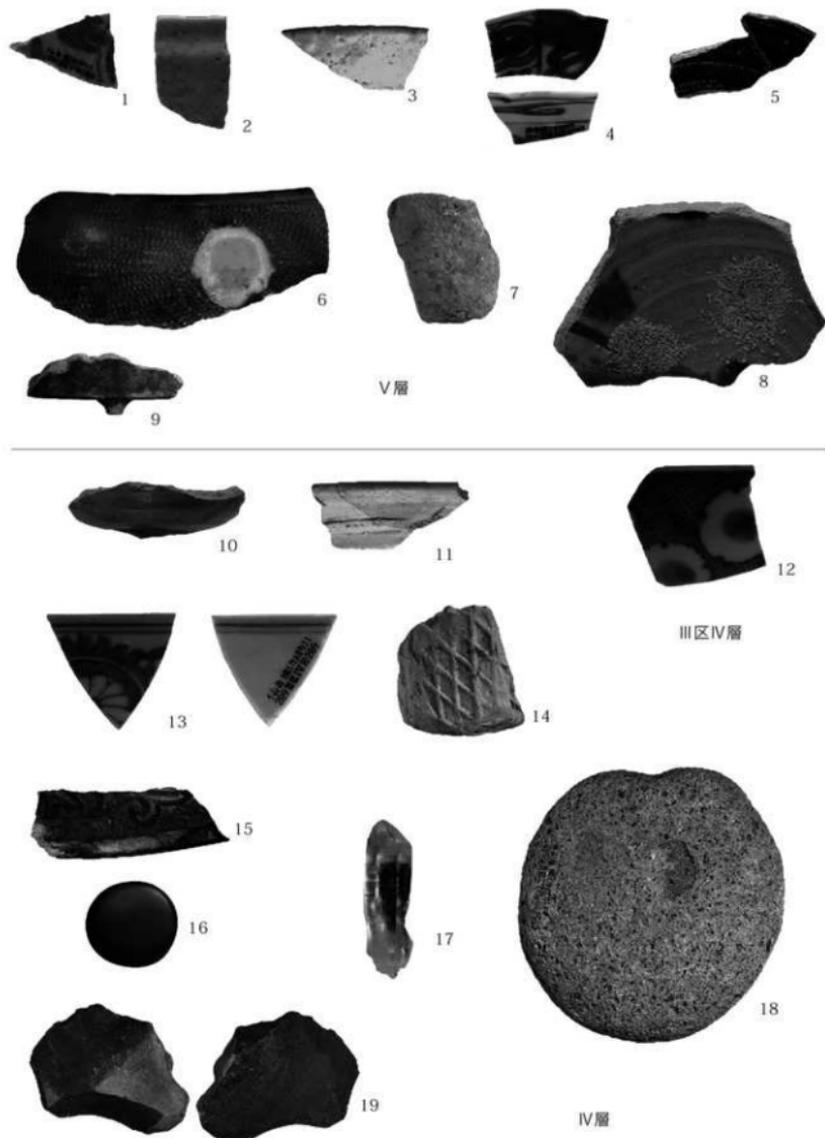
图版 119 III区出土遗物



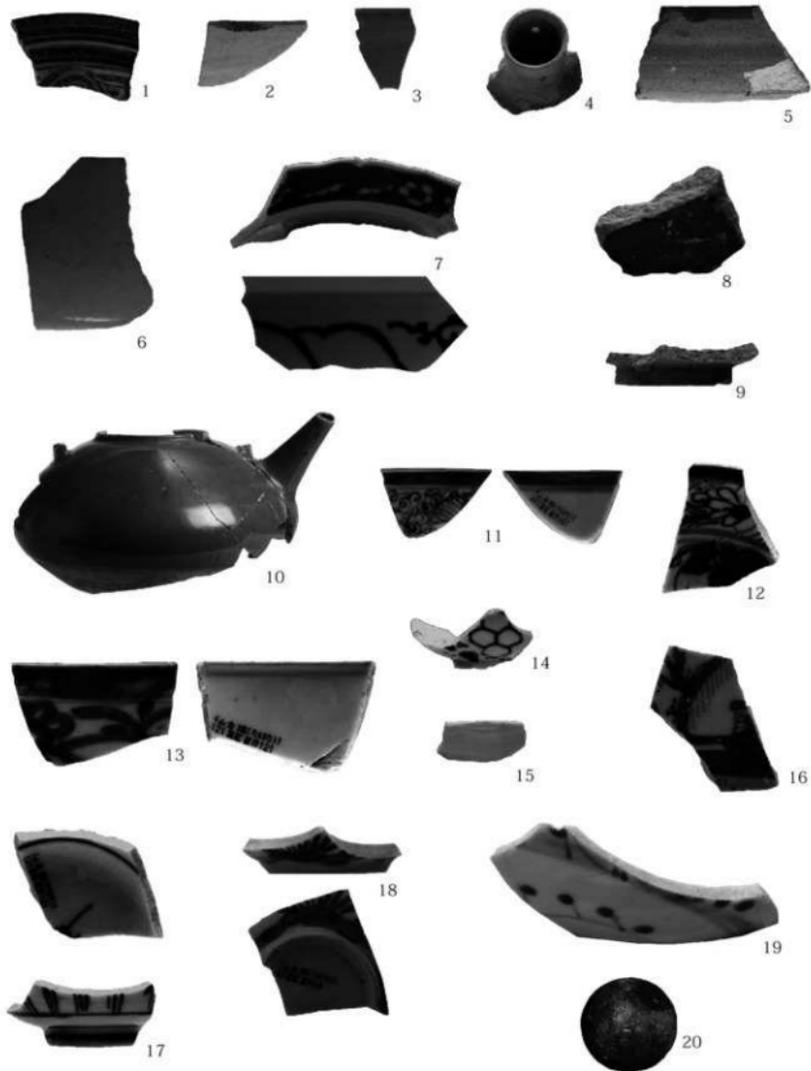
4号池



図版 121 Ⅲ区出土遺物

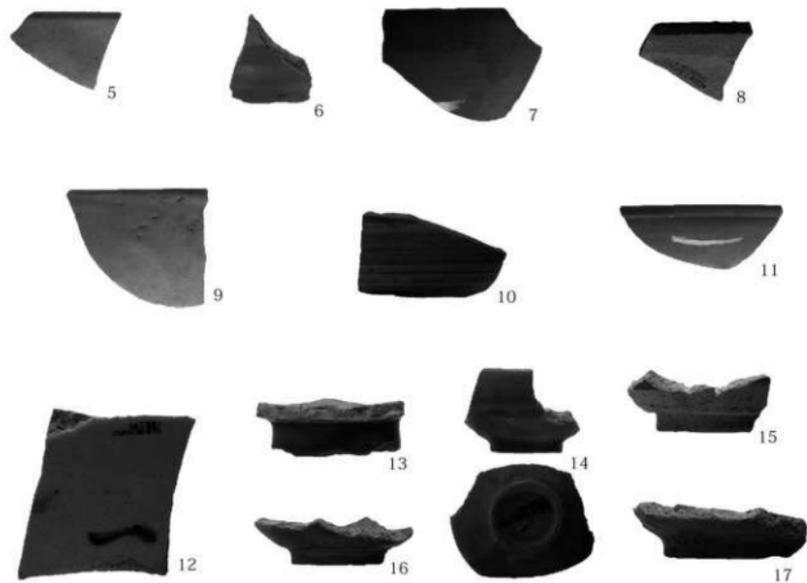
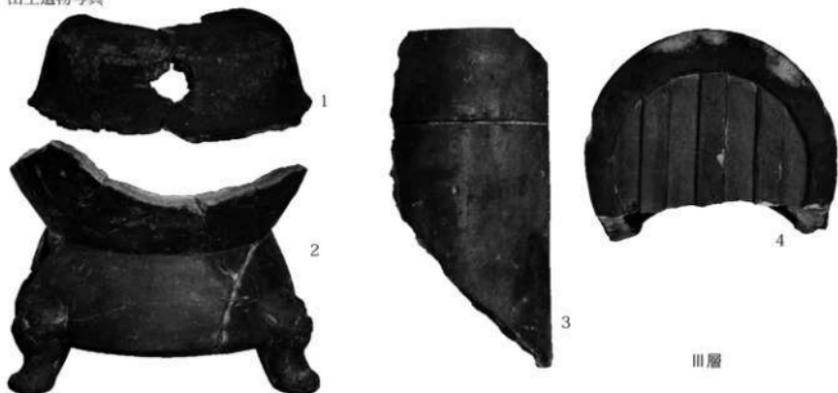


図版 122 III区出土遺物

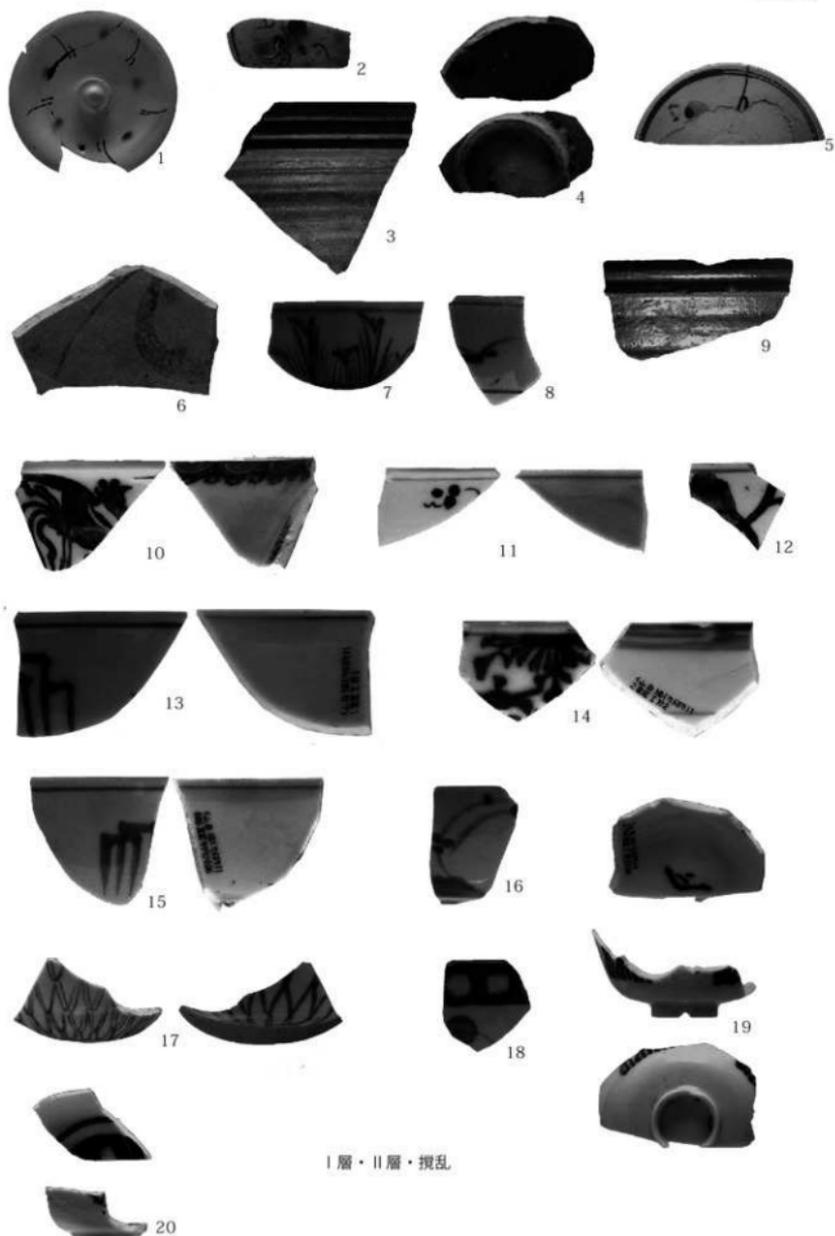


III層

图版 123 III区出土遗物



I層・II層



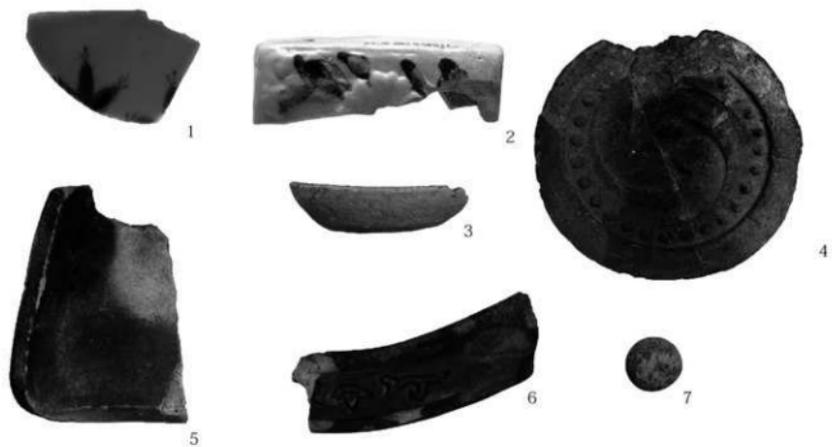
I 层 · II 层 · 搅乱

图版 125 III 区出土遗物



I層・II層・攪乱

図版 126 III区出土遺物



I層・攪乱

報告書抄録

ふりがな	せんだいじょうあと 一せんだいしこうそくてつどうとうざいせんかんけいせいきはくつちようさほうこくしょⅡ一					
書名	仙台城跡 一仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ一					
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書					
シリーズ番	第342集					
編著者名	原河英二・志賀雄一・大久保弥生・土橋尚起・関美男・福井流星					
編集機関	仙台市教育委員会					
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 TEL022(214)8893～8894					
発行年月日	2009年3月					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号			
		4100	1033			
		北緯	東経			
せんだいじょうあと 仙台城跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あわばくかわうちちない 青葉区川内地区内	38° 15' 37"	140° 50' 55"	2006.6.5 ～ 2007.2.26	2000㎡	仙台市高速鉄 道東西線建設 事業に伴う発 掘調査
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
	散布地 武家屋敷	縄文時代 江戸時代	柱列跡 溝跡・井戸跡 土坑 道路状遺構 土手状遺構 池跡・石垣 祭祀遺構 埋裏	縄文土器 石器・陶磁器 瓦 金属製品 木製品 土製品		

仙台市文化財調査報告書 第342集

仙台城跡

—仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ—

2009年3月

発行	仙台市教育委員会 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 文化財課 022(214)8893～8894
印刷	八幡印刷株式会社 本社 福島県いわき市平字田町82-13 TEL 0246(23)1471 工場 福島県いわき市内郷町桜本135-2